



KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

Vol. 58, 2019

Kobe City Hospital Organization

神戸市立病院紀要

令和元年 第58巻

神戸市立医療センター中央市民病院
神戸市立医療センター西市民病院
神戸市立西神戸医療センター
神戸市立神戸アイセンター病院

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

An Annual Review of
Medical Science and Practice

Kobe City Hospital Organization

EDITORIAL BOARD

Yasushi Naito, M.D., Chairman

Takayuki Ishikawa, M.D.

Mutsushi Kawakita, M.D.

Yutaka Furukawa, M.D.

Ichiro Nakamura, M.D.

Hiromi Tomioka, M.D.

Kousaku Matsubara, M.D.

Mitsugu Omasa, M.D.

Noriko Miyamoto, M.D.

巻頭の辞

令和初めての神戸市立病院紀要第58巻が発刊の運びとなりました。まずは、多忙を極めている現場で通常の診療業務に従事しつつ、総説・原著・医療研究報告の論文を投稿して頂いた、中央市民病院の細谷亮院長以下の先生方、あるいは活動報告をお寄せ頂いたスタッフの皆様、さらに編集委員の方々にお礼を申し上げたいと思います。

神戸市民病院機構は、市民の生命と健康を守るという基本理念のもと、平成21年度に中央市民病院・西市民病院の2病院体制で運営を開始し、29年度に西神戸医療センター・神戸アイセンター病院が加わり、現在は4病院体制となっています。

4病院は、それぞれを取り巻く環境や特徴は異なりますが、市民病院として地域住民の期待に応え、良質な医療の提供が求められています。

医療の進化の著しい臨床現場では、「なぜこの治療をするのか」「本当に正しいのか」という議論が日々要求され、ガイドラインに記された過去のエビデンスを受け身で使うという姿勢だけでは通用しない時代となってきました。

若手医師の皆さんは主治医として、コメディカルスタッフは医療チームのメンバーとして、診断や治療に苦慮した稀な疾患、従来との報告とは違う予期しなかった臨床経過を辿った症例、同一の治療を行なっても異なる反応を示した場合等、苦労した臨床場面から何らかのデータを見だし、学会で発表し、論文として投稿し、多くの医療現場で有効に活用してもらいたいという気持ちになられるのは自然だと思います。そして、指導医のリードで臨床研究を行なう際に、症例の経過を筋道を立ててまとめ、関連文献を調べ、結論を導き出す作業を行なう過程で、科学的考察や論理的思考が養われ、職員の皆さんが一段と成長されるのではないのでしょうか。

平成29年度より、院外で発表された研究報告を4病院のスタッフに披露して頂き、知識の共有や理解を図ることを目的に、4病院合同学術研究フォーラムが開催されています。市民病院紀要発刊と共に、神戸市民病院機構の臨床研究のレベルアップに大いに貢献して頂けると期待しております。

最後になりましたが、半世紀を超える神戸市民病院紀要の発刊を続けてこられた多職種スタッフの先輩諸兄の努力に敬意を表し、貴重な財産がこれからも継続されることを願って、巻頭の辞とさせていただきます。

神戸市立西神戸医療センター

院長 竹内 康人

目 次

I. 総 説

- I. 1 当院におけるロボット手術センターの現況
.....中央市民病院 院長 細 谷 亮..... 1

II. 原 著

- II. 1 神戸市立医療センター中央市民病院における家族性腫瘍相談外来の立ち上げについて
ー遺伝性腫瘍に対する診療体制構築の取り組みー
.....中央市民病院 産婦人科 林 信 孝 他..... 9

III. 症例報告

- III. 1 良性多嚢胞性腹膜中皮腫の1例
.....西市民病院 臨床検査技術部 中 彩 乃 他.....21

IV. 医療研究報告

- IV. 1 長崎大学大学院熱帯医学修士コースへの国内留学に関する報告
.....西市民病院 呼吸器内科 藤 井 宏.....27

V. CPC 報告

- V. 1 CPC 報告 (2018年4月～2019年3月) (中央市民病院)33
V. 2 CPC 報告 (2018年4月～2019年3月) (西市民病院)51
V. 3 CPC 報告 (2018年4月～2019年3月) (西神戸医療センター)55

VI. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(1) 笠原ガン治療研究事業

- VI. 1 PD-L1 免疫染色の検体の種類による Nivolumab の奏効率予測の相違について
.....中央市民病院 呼吸器内科 佐 藤 悠 城.....69
VI. 2 移植後早期の微小残存病変と移植後再発の関連に関する検討
.....中央市民病院 血液内科 下 村 良 充.....72
VI. 3 同種造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病における全身ステロイド療法開始前の
末梢血好酸球数と予後の関連に関する検討
.....中央市民病院 血液内科 森 田 真 梨.....72
VI. 4 胸腔鏡下手術における内視鏡用プラスチックバッグ内の腫瘍細胞の有無に関する前向き研究
.....中央市民病院 呼吸器外科 伊 達 直 希.....73
VI. 5 当院における早期子宮体癌に対する腹腔鏡手術および開腹手術の比較検討
.....中央市民病院 産婦人科 林 信 孝 他.....74
VI. 6 多施設共同研究による頭頸部腺様嚢胞癌症例の検討
.....中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 竹 林 慎 治.....79

| | | |
|--------|---|----|
| VI. 7 | 甲状腺微小乳頭癌 pN1b または pM1 症例の検討中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 竹林 慎 治..... | 79 |
| VI. 8 | 頸部リンパ節転移に対する開放生検 －固形癌のリンパ節転移に対する切開生検は予後を悪化させるか？－中央市民病院 頭頸部外科 篠原 尚 吾..... | 80 |
| VI. 9 | 下咽頭 Basaloid squamous cell carcinoma に対し，下咽頭部分切除を行った一症例中央市民病院 頭頸部外科 水野 敬 介..... | 83 |
| VI. 10 | 甲状腺分化癌に対する外照射の治療効果の検討中央市民病院 放射線治療科 小坂 恭 弘 他..... | 83 |
| VI. 11 | Definitive radiation therapy for patients aged \geq 80 years with head and neck squamous cell carcinoma中央市民病院 放射線治療科 小坂 恭 弘 他..... | 84 |
| VI. 12 | 気管挿管を要する悪性気道閉塞に対する放射線治療の有用性中央市民病院 放射線治療科 平岡 伸 也..... | 85 |
| VI. 13 | 日本人進行再発乳癌患者におけるエベロリムス薬物動態解析中央市民病院 薬剤部 平 阜 正 樹..... | 85 |
| VI. 14 | SPECT/CT 画像による去勢抵抗性前立腺がんにおける骨転移の治療効果判定中央市民病院 放射線技術部 清水 敬 二..... | 86 |

(2) 松本アレルギー疾患研究事業

| | | |
|--------|---|----|
| VI. 15 | 特発性好酸球増多症を伴い急性の経過で首下がり呈した 抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎の症例中央市民病院 総合内科 志水 隼 人..... | 89 |
| VI. 16 | 生物学的製剤投与を受けた関節リウマチ患者での Rapid Turnover Protein の検討中央市民病院 総合内科 水野 泰 志..... | 89 |

Ⅶ. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

Ⅷ. 論文発表

| | | |
|------|------------|-----|
| Ⅷ. 1 | 中央市民病院 | 93 |
| Ⅷ. 2 | 西市民病院 | 117 |
| Ⅷ. 3 | 西神戸医療センター | 120 |
| Ⅷ. 4 | 神戸アイセンター病院 | 125 |

Ⅸ. 学会報告

| | | |
|------|------------|-----|
| Ⅸ. 1 | 中央市民病院 | 127 |
| Ⅸ. 2 | 西市民病院 | 194 |
| Ⅸ. 3 | 西神戸医療センター | 205 |
| Ⅸ. 4 | 神戸アイセンター病院 | 220 |

I. 総

説

I. 総説

I. 当院におけるロボット手術センターの現況

細谷 亮

神戸市立医療センター中央市民病院 院長

要旨

当院ではロボット支援手術を安全で質の高い手術に展開すべく、2018年にロボット手術センターを設立した。設立に際しては患者安全面を担保する学会指針を遵守し、外科医の技能向上をはかるとともに、麻酔科医・看護師・臨床工学技士を含む多職種手術チームとして入念に準備した。手術支援ロボットは本体価格も高価で消耗品費や保守費用も高額であるため、ロボット手術センターは診療科を超えて手術技術の向上や情報共有をはかるとともに、健全な経営を行う役割も担っている。ロボット手術センターにおいて手術部、麻酔科と外科系診療科の手術スケジュールリングが適正になされ、手術件数は順調に伸びて2018年度のロボット支援手術は266件に達し、内訳は泌尿器科198件、外科46件、産婦人科22件であった。これらの手術は低侵襲で安全かつ有用性に優れているが、手術コストは高く、経営的側面もロボット手術センターの今後の課題の一つである。

キーワード：ロボット支援手術、低侵襲治療、ロボット手術センター、手術コスト、人工知能

(神戸市立病院紀要 58:1-7, 2019)

Current Status of the Robotic Surgery Center at Our Institution

Ryo Hosotani

Director, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

Abstract

In 2018, the Robotic Surgery Center was established at our institution for developing robot-assisted surgeries to ensure safe and highly efficient procedures. With the establishment of this center, guidelines from the academic association that ensures patient safety were followed; efforts were made to improve the skills of surgeons; and a multi-disciplinary operational team including anesthesiologists, nurses, and clinical engineers was formulated. As the cost of robots supporting surgeries is high and the consumables required and robot maintenance are also costly, the Robotic Surgery Center is responsible for improving surgical techniques, sharing information across various medical departments, and ensuring sound management. The Robotic Surgery Center has been appropriately scheduling surgeries under collaboration among Surgery divisions, Department of Anesthesiology in the Central Operation rooms. The number of surgeries has steadily increased to 266 in the fiscal year 2018, including 198 surgeries in the Department of Urology, 46 in the Department of Surgery, and 22 in the Department of Obstetrics and Gynecology. Although these surgeries were minimally invasive, safe, and highly useful, the associated costs were high. Thus, the financial management is an important issue that this center needs to tackle in the future.

Keywords: robot-assisted surgery, minimally invasive treatment, Robotic Surgery Center, surgical cost, artificial intelligence

(Kobe City Hosp Bull 58:1-7, 2019)

はじめに

ロボット支援手術は泌尿器科手術領域の前立腺全摘術と腎部分切除術に加えて、2018年に新たに12術式が保険適応となった。これを機に、該当する術式におけるロボット支援手術の施行症例数が急速に増加することが予想され、神戸市立医療センター中央市民病院でも、より安全で質の高い手術に展開すべくロボット手術センターを設立した。設立に際しては、患者安全面を担保するための学会指針を遵守し、外科医の技能向上をはかるとともに、麻酔科医・看護師・臨床工学技士を含む多職種手術チームとして入念に準備した。ロボット手術センターがパイプ役となって診療科を超えてスキルの向上や情報共有をはかるとともに、手術支援ロボットは機械購入価格も高価で消耗品費や保守費用も高額であるため、健全な経営を行う役割もロボット手術センターは担っている。

本稿では、当院におけるロボット手術センターの立ち上げ、運営と病院経営的側面について概説し、地域のロボット手術センターを目指すこの2年間の実績や課題を紹介したい。あわせてロボット支援手術の将来についても言及する。

1. ロボット支援手術のコンセプト

ロボット支援手術は、腹腔鏡や胸腔鏡手術で医師がロボットを操作して行う手術である。けっしてロボットが医師の代わりに手術を執刀するわけではない。その開発コンセプトは、いかに手術における低侵襲化、すなわち手術に伴う痛みや発熱、出血などをできるだけ少なくすることを進めるかを念頭にいたものである。

著者は外科医になって42年になるが、20年ぐらい前までは、大きな術創は術野の展開が良好で手術手技が容易であることから、必要にして十分大きな術創をうることに何のためらいもなかったし、そのように先人から教育されてきた。ただし、この考えでは、腹壁に対する破壊が激しく、体に対する侵襲が大きかったわけで、より低侵襲の手術を目指して20年ほど前に内視鏡手術や腹腔鏡手術というものが導入された。低侵襲治療 (minimally invasive therapy) 時代の到来で、著者も1993年に当院で第1例目の腹腔鏡下胆嚢摘出術を執刀している¹⁾。しかし腹腔鏡手術を大腸癌や胃癌などのがんの手術に応用するにつれ、いくつかの技術的な問題が指摘されるに至った。腹腔鏡の2D画像による立体感のなさ、腹腔内操作の鉗子の手振れや関節機能がないことによる可動性制限、助手が腹腔鏡

を操作するため画面のブレなど、より難易度の高いがん手術をより低侵襲で行なう上での技術的困難性がつきまとっていた。

そこで登場したのが内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」(Intuitive Surgical社)で、腹腔鏡手術に大きな革新をもたらした(図1)。その第1は内視鏡のカメラ機能で、正確な3-D画像がえられ、10~15倍までの拡大視効果がある。またダヴィンチは4本の腕を持ち、内視鏡と3本のアームを入れることができ、画像が安定し画面のブレがない「とにかく3Dの緻密な画像でぶれずによく見える」。第2にアームの先端鉗子部分のバリエーションが多く、手首のように曲がる関節があって、医師が直感的に扱える。第3に手振れ防止機能やモーションスケーリング機能があるので、手元を大きくラフに動かしてもロボットの手先は細かく動いてくれる。これらの機能により、従来の腹腔鏡手術や胸腔鏡手術で課題であった点はかなり克服できるようになった。図2に当院外科で実施しているロボット支援による食道癌食道亜全摘術におけるリンパ節郭清操作を示す。なお第4世代のダヴィンチXiでは、カメラの8mm径へのスリム化、ドッキングの簡便化、アームのスリム化と干渉軽減や自動設定などの改良がみられ、当センターでも導入予定である。(2019年9月導入済み)

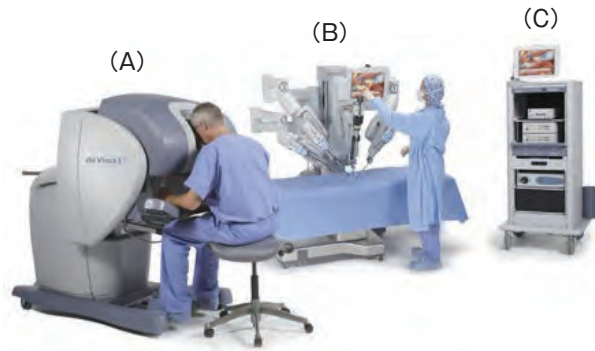


図1 ダヴィンチの機器構成



図1 A) 医師がダヴィンチを操作するための「サージョンコンソール」

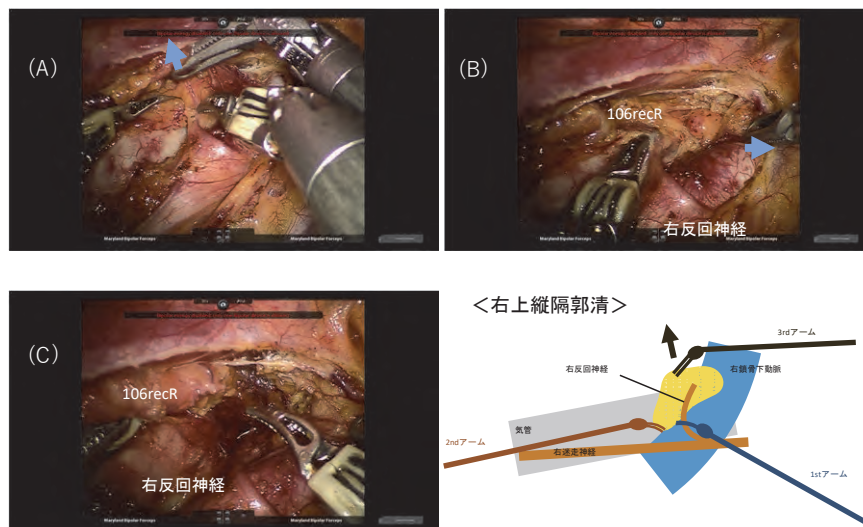


手術台の前に立って実際に手術を行うロボットアームをもった「ペイシャントカート」アームの先に内視鏡や鉗子など手術内容に合わせて細いアーム類をセッティングする

図1 B) 手術台上のロボットアーム (ダヴィンチ Xi)



図1 C) 手術中のダヴィンチ3D映像を最適化する「ビジョンカート」(矢印)



食道癌に対するロボット支援食道亜全摘術における右上縦隔郭清 (106recR) の実際を示す。迷走神経の枝である右反回神経を温存しつつ繊細なリンパ節郭清を実施している (A~C)。画像は高解像度3D画像であり、ロボット鉗子の自由度が高く、どの方向へも曲げることができる多関節鉗子であることもロボット支援手術の大きな特徴の一つである。

図2 ロボット支援手術の実際 (小林裕之外科医長から提供)

II. ロボット手術センターの立ち上げ

表1に2018年度から保険収載されたロボット支援手術の術式を示す。当院でロボット手術センターを立ち上げるに際して、院長、副院長、ロボット手術導入を検討している診療科長、麻酔科部長、看護部長、手術部看護師長、臨床工学部技師長と事務局によるロボット手術センター運営委員会を2017年6月から月1回ペースで開催した。2018年診療報酬改定を見越して、①ロボット1台を複数診療科で効率的に運用する方法、②臨床工学技士の関与、③外科ロボット胃手術1例目の実施検討、④各診療科のロボット手術導入希望調査、⑤導入希望手術のランニングコストの順に検討を進め、半年後の2018年3月に導入術式を決定した。胸部外科は現行の胸腔鏡手術に比したロボット支援手術の優越性を認めがたく、縦隔腫瘍手術と肺切除手術の導入の見送りを決定し、心臓血管外科は20例の胸腔鏡手術症例を経験した後の導入を希望した。

この過程で検討した導入予定手術のランニングコスト推計を表2に示す。手術点数と費用の差は粗利益であって、診療科人件費、麻酔医と手術部看護師の人件費、手術室減価償却費（両者は時間按分）等を加味し

た原価計算ではない。また保険収載要件の施設基準をうるための症例数は、患者自費診療あるいは病院公費負担となるが、公費負担分入院手術費用と外科医の研修費用なども含まれていない。これらは病院経営上も決して無視できない投資となった。2018年時点で泌尿器科の前立腺全摘術と腎部分切除術がすでに導入されていたが、新たなロボット支援手術を適応する際には、本稿に示すようにロボット支援手術がもたらす医学的なメリットとコストを詳細に検討した結果の導入決定であることを強調したい。

一方この委員会での全体検討とコスト分析と並行して、各々の診療科が日本内視鏡学会のロボット支援下内視鏡手術導入に関する指針²⁾にしたがってトレーニングを進めた(表3)。すなわち、Web上でのE-learning、オンサイトトレーニング、ウェットラボでの学習、Certificationの取得、認定見学施設での手術見学(手術チーム全員)と、プロクター招聘下での手術実施である。この指針は患者安全面に最大限に配慮した優れた指針であると思われ、当院でも術者条件と施設条件の両者をクリアすべく準備を進めた。

表1. 2018年4月から新たに保険収載されたロボット支援下内視鏡手術

| | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術 |
| 2 | 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術 |
| 3 | 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除または1肺葉を超えるもの） |
| 4 | 胸腔鏡食道悪性腫瘍手術 |
| 5 | 胸腔鏡下弁形成術 |
| 6 | 腹腔鏡下胃切除術 |
| 7 | 腹腔鏡下噴門側胃切除術 |
| 8 | 腹腔鏡下胃全摘術 |
| 9 | 腹腔鏡下直腸切除・切断術 |
| 10 | 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 |
| 11 | 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体癌に限る） |
| 12 | 腹腔鏡下腔式子宮全摘術 |

表2. ロボット手術センター設立時の代表的手術コスト推計（神戸市立医療センター中央市民病院、2018年2月）
（単位：千円）

| 診療科 | 対象疾患と術式 | Kコード | 手術点数 (円換算) | ロボット 手術加算 | 費用 | | | 粗利益 | |
|------|----------------|----------|---------------|--------------|---------------|-------------|-------------|-------|------|
| | | | | | ダヴィンチ 消耗品費 | その他 消耗品費 | 減価償却 保守費 | | |
| 泌尿器科 | 腎癌腎部分切除術 | K773-5 | 707 | ○ | 199 | 144 | 167 † | 510 | 197 |
| | 前立腺癌全摘術 | K843-4 | 952 | ○ | 232 | 141 | 167 † | 540 | 412 |
| | 膀胱癌膀胱全摘術（尿路変更） | K803-2.2 | 1,207 | × | 513 | 187 | 167 † | 867 | 340 |
| 外科 | 胃癌幽門側胃切除術 | K655-2.2 | 641 | × | 552 * | 78 | 167 † | 797 | -156 |
| | 胃癌胃全摘術 | K657-2.2 | 830 | × | 524 * | 78 | 167 † | 769 | 61 |
| | 直腸癌低位前方切除術 | K740-2.2 | 839 | × | 183 | 432 | 167 † | 782 | 57 |
| | 食道癌亜全摘術（3領域郭清） | K529-2.1 | 1,252 | × | 309 | 589 | 167 † | 1,065 | 187 |
| 産婦人科 | 子宮体癌広汎全摘術 | K879-2 | 702 | × | 229 | 227 | 167 † | 623 | 79 |

* 業者試算で削減対象

† ダヴィンチ導入費用（耐用年数5年）・年間保守費用/年間症例数

表3. ロボット支援下内視鏡手術導入に関する指針（平成30年6月、日本内視鏡外科学会）

| (A) 術者条件 | |
|----------|--|
| 1. | 術者および助手は、da Vinci Surgical System製造販売会社の定めるトレーニングコースを受講し、ロボット支援下内視鏡手術のcertificationを取得していること。 |
| 2. | 各領域（消化器外科、呼吸器外科、泌尿器科、婦人科、小児外科など）の専門医であること。 |
| 3. | 日本内視鏡外科学会もしくは各領域学会の定める、内視鏡手術技術認定取得医であること。 （ただし、ロボット支援下前立腺全摘術、婦人科領域、および呼吸器外科領域はこの限りではない） |
| 4. | 上記のロボット支援下内視鏡手術のcertificationを取得後、1年間の期間を超えてロボット支援下内視鏡手術を行っていない医師は、da Vinci Surgical System製造販売会社が提供しているリトレーニングプログラムに参加してから施行する。 |
| (B) 施設条件 | |
| 1. | 臨床使用前に、術者、助手、手術看護師を含めた医療チームとして、十分な臨床見学を行うこと。 |
| 2. | 臨床使用において第1例目より、当該術式の熟練指導医（学会推奨のプロクター等）を招聘しその指導下に行うこと。何例目まで指導下に施行するかは、各領域学会の指針もしくは、各施設の指針を遵守すること。 |
| 3. | ロボット支援下内視鏡手術は保険収載された術式と、保険未収載の術式が混在する。実施にあたっては、日本内視鏡外科学会主導の事前レジストリー制度に参加する。 |
| 4. | 上記の条件を踏まえた「新しい術式を導入する指針」を、各施設で作成し安全な導入に務めること。 |

（日本内視鏡外科学会ホームページより抜粋）

III. ロボット手術センターの実績

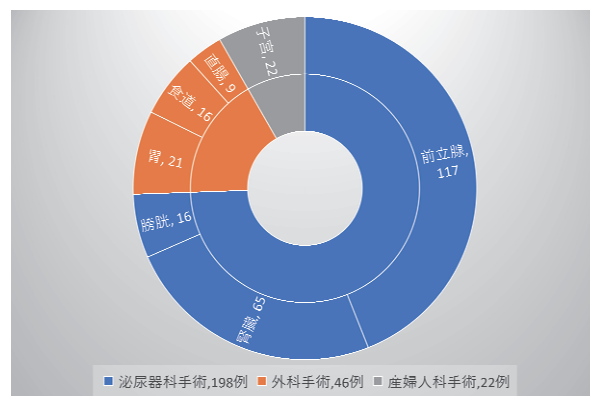
当院におけるロボット支援手術の開始は平成25年度で、泌尿器科の前立腺全摘術であった。それ以後の手術件数の年度別推移を図3に示す。平成29年度まではほぼ泌尿器科単独の件数であるが、平成30年度からはあらたに12術式が保険収載され、ロボット手術センターを設立したこともあり、手術件数は大幅に増加した。（2019年末累計で1001件）年間266件は月平均22.2件に相当し、平日は1台の手術ロボットがフル稼働していることを示している。ロボット手術センターにおいて手術部、麻酔科と3診療科の手術スケジューリングが適正になされていることが順調な手術件数の伸びを支えている。また手術技術の学習曲線が向上したことと、看護部・臨床工学部・PFIの清掃部門・メディカルアシスタント部門などの協力により、1日縦列2件の手術が可能となったこともロボット手術センターの成果である。平成30年度の術式の内訳をみると、

泌尿器科手術198件、外科手術46件、産婦人科手術22件であった。個々の術式をみると、前立腺癌前立腺全摘術が117例で最も多く、ついで腎癌腎部分切除術65例、子宮体癌広汎全摘術22例、胃癌幽門側胃切除術21例、食道癌亜全摘術と膀胱癌膀胱全摘術が16例、直腸癌低位前方切除術9例の順であった（図4）。

令和元年度以降もこの3科の比率に大きな変化はないままで全体の手術件数が増加し、特に外科の手術件数増加が予想されている。また今後保険収載が予想されているロボット支援下腎盂形成術、仙骨腫固定術、良性腎腫瘍手術の3手術についても自費診療料金を設定して手術導入を始めている。これに加えてロボット支援手術導入を見送っていた胸部外科と心臓血管外科が参入してくると、ロボット手術センターの手術スケジューリング機能をもってしても、手術支援ロボット1台では手術枠が飽和してしまう。現在、2台体制の整備を進めているところである。（2019年9月導入済み）



ロボット手術センターを設立した平成30年度から手術件数の大幅な伸びがみられる
図3 神戸市立医療センター中央市民病院におけるロボット支援手術件数



泌尿器科手術が最も多く全体の約4分の3を占め、ついで外科手術、婦人科手術の順である。術式別でも前立腺癌前立腺全摘術が117例で最も多く、ついで腎癌腎部分切除術、子宮体癌広汎全摘術の順である。

図4 ロボット手術センターにおける平成30年度ロボット支援手術266例の内訳

IV. ロボット手術センターの課題

米国では手術操作の難しい内視鏡手術をとびこしてロボット支援手術が普及している。一方本邦では、外科医の内視鏡手術スキルが優れ、患者の体格的にも手術が容易で、内視鏡手術がすでに普及している現状で、ロボット支援手術が今後どこまで普及するかが、第一の課題である。例えば、当院のロボット手術センターでは、ロボット支援下前立腺全摘術が前立腺癌の標準術式となっているが、神経温存の工夫と尿失禁などの術後合併症対策、放射線治療後などの高難度症例への対応などに課題が残されている。また消化器癌領域では、経験を積んで術式の定型化を図る途上であり、手術成績が従来の胸腔鏡手術や腹腔鏡手術と比して真に優れているかの評価も十分とはいえない。婦人科領域の子宮体癌広汎全摘術は順調に症例数を伸ばしているが、子宮頸癌に対しては保険適応の是非に関する議論が行われている最中である。いずれの手術も、術者はロボット独特のメリットを大いに体感しているものの、ロボットならではの技術的問題や悪性疾患に対する治療成績に関しては議論も多いところである。

もう一つの課題はコストにある。表2でも示したように、新たに保険収載された12手術には手術点数に上乘せがなく、現実的には従来の腹腔鏡下手術よりコストが高いままである。先行する泌尿器科手術には一定のロボット手術加算が認められており、後発術式に対しても早期の診療報酬改定が望まれる。そのためには、学会などが主導し症例登録によって手術の透明性を高めるとともに、手術時間・出血量・術後合併症など手術の安全性と、神経温存・リンパ節郭清度など技術的有用性、平均在院日数短縮などの経済性を証明することが重要である。一般的な診療報酬のルールとしては、新規技術に対しては、既存技術と同等程度の有効性及び安全性があるとされたものに対しては診療報酬上の評価も同等とする、とされている。今回の保険適応に際しては、優越性が証明できないままで適応されてきており、保険診療で症例を増やして客観的な評価を行い、ロボット支援手術の優越性を示すエビデンスが確認されれば、再評価（点数の引き上げ等）を行う方向性であろう。どんなに安全性や有用性の優れた手術であろうとも、手術コストの問題解決なしには、その手術の爆発的な普及は望みがたい。この経営的側面は、全国の内視鏡外科医のみならず、我々のロボット手術センターにとっても大きな課題であると思われる。

V. ロボット支援手術の将来

ロボット支援手術におけるいくつかの将来展望を述べたい。

第1は遠隔診療への応用である。手術支援ロボットの開発は、そもそも米国の施設で戦場における遠隔手術を目的に研究が進んだ。その結果、手術専用のロボットが開発され、2001年9月7日に米国ニューヨークと仏ストラスブール間での胆嚢摘出術が実現した。この遠隔手術は1927年に大西洋の単独無着陸飛行に成功したチャールズ・リンドバーグになぞらえて「リンドバーグ手術」と呼ばれた³⁾。しかし数日後に9.11同時多発テロ事件が発生し、この画期的手術の成功はニュースバリューを失い、大陸間横断手術は通信の安全性確保が難しいことから臨床応用には至っていない。ただ最近の通信技術の革新により救急災害時の手術や複数の場所に散らばる専門医によるチーム医療などへの応用に大きな期待が寄せられている。

第2は手術支援ロボットそのものの改良である。現在「ダヴィンチ」(Intuitive Surgical社)がトップシェアを占めているが、2019年の特許切れに伴って、日本を含む欧米の企業の参入が予想されている。そのコンセプトは、コンパクト化、デジタル化、臓器の感触を術者が感じ取る技術を搭載して、臓器の損傷リスクを抑えることなどである。またダヴィンチと競合しない領域である脊椎手術支援ロボットや頭頸部癌に対する口内手術支援ロボットなどの開発も進んでいる。手術支援ロボット市場は黎明期にあり、医療機器メーカーやIT企業、ベンチャーの相次ぐ参入とデジタル技術の進展とともに市場の覇権争いが激化しそうである。病院経営の立場からは、ダヴィンチを高級車とするならば大衆車にも需要はありそうで、前項に述べたように機械購入価格や消耗品費・保守費用も含めた手術コストの問題が大きな要素になるかもしれない。

第3は、AI(人工知能)との連携である。画像が優れ、繊細な鉗子操作が可能な手術支援ロボットは、本質的にAI化にむいていると思われる。しかし腹腔内や胸腔内で行う外科手術の場合は、解剖学的な個体差が大きく、重要な血管走行にしても一様ではない。画像からAIが判断して、剥離操作や縫合操作などを行うにはまだまだ実現に時間がかかりそうである。少なくとも外科医はそう認識している。逆にAIの専門家は、ディープラーニングを使う画像認識精度は各段に向上しており、ある意味ではAIは既に人間を超えているとの認識である⁴⁾。AIを搭載した医療機器は今や社会実装の段階にあり、近い将来には、手術支援ロボッ

トの動かし方に汎用性が生じ「みんな名人」になりうるかもしれない。

おわりに

当院におけるロボット手術センターの現況と運営、特に病院経営的側面について概説した。稿を終えるにあたり、川喜田睦司泌尿器科部長・ロボット手術センター長をはじめとする関係各位の日々の努力に心から感謝する。

文 献

- 1) 細谷 亮, 宮原勅治, 今村正之: 腹腔鏡下胆嚢摘出術－胆道外科, 最近の進歩－. 外科 59: 280-285,1997
- 2) 日本内視鏡外科学会: ロボット支援手術導入に関する指針. 一般社団法人日本内視鏡外科学会, 2018 [http://www.jses.or.jp/pdf/robot_assisted_endoscopic_surgery.pdf]
- 3) 西口完二: Code name 《Lindbergh Operation》－大西洋間ロボット支援遠隔手術. 日本内視鏡外科学会誌 7: 283-286,2002
- 4) 松尾 豊: 生存確率を上げるための知能. 人工知能とは, 人工知能学会 監修, 近代科学社, 東京, 184-195,2016

II. 原

著

Ⅱ. 原 著

Ⅱ. 神戸市立医療センター中央市民病院における 家族性腫瘍相談外来の立ち上げについて

－ 遺伝性腫瘍に対する診療体制構築の取り組み－

林 信孝¹⁾ 吉岡信也¹⁾ 吉田晶子^{2,3)} 平見恭彦³⁾ 安井久晃²⁾ 加藤大典⁴⁾

神戸市立医療センター中央市民病院 ¹⁾産婦人科 ²⁾腫瘍内科

³⁾神戸市立神戸アイセンター病院 眼科

⁴⁾神戸市立医療センター中央市民病院 乳腺外科

要 旨

本邦におけるがんゲノム医療の急速な発展とともに、遺伝診療が注目を集め、医療者および一般市民それぞれからのニーズが増加しているが、遺伝診療における遺伝カウンセリングなどの実施体制の整備は、大学病院やがんセンターなどの大規模病院に留まっている。中央市民病院においても2017年までは遺伝カウンセリングを含めた遺伝診療の実施体制は未整備であったが、産婦人科における遺伝学的検査を含んだ臨床試験の受託を契機に、診療体制の構築を行った。遺伝性乳癌卵巣癌症候群を対象疾患として診療を開始し、悪性腫瘍に対する治療薬でPD-1抗体薬であるペンブロリズマブ（キイトルーダ®）のコンパニオン診断としてMSI検査が導入されたことから、リンチ症候群に対しての遺伝カウンセリングも行っている。保険適応となるがん遺伝子パネル検査などにより、今後二次的所見として遺伝性腫瘍の原因遺伝子が同定される可能性もあることから、対象疾患の拡大が見込まれる。

キーワード：がんゲノム医療、遺伝性腫瘍、遺伝性乳癌卵巣癌症候群、遺伝カウンセリング、リスク低減手術

(神戸市立病院紀要 58：9 - 19, 2019)

Establishment of hereditary tumor counseling office in Kobe City Medical Center General Hospital － Progress status of a new medical service －

Nobutaka Hayashi¹⁾, Shinya Yoshioka¹⁾, Akiko Yoshida^{2, 3)}, Yasuhiko Hirami³⁾, Hisateru Yasui²⁾,
Hironori Kato⁴⁾

¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

²⁾ Department of Medical Oncology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

³⁾ Department of Ophthalmology, Kobe City Eye Hospital, Kobe, Japan

⁴⁾ Department of Breast Surgery, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

Abstract

With rapid progress in the understanding of cancer genomics, the need for cancer genetic services has been increasing from both public populations and medical providers. However, the availability of such referrals is limited at the University hospitals and large cancer centers in Japan. Since October 2017, we have established a hereditary tumor counseling office at the Kobe City Medical Center General Hospital, where genetic counseling for hereditary breast and ovarian cancer and Lynch syndrome is being done. This new establishment was facilitated by the introduction of genetic testing for the *BRCA1/2* gene as a companion diagnostic tool for olaparib and the microsatellite instability test as a companion diagnostic tool for pembrolizumab. The target diseases are expected to expand according to the increase of genetic testing panels in the near future. Great effort must be employed to make genetic counseling easily accessible to patients with hereditary tumors so that they can receive appropriate medical care, such as appropriate surveillance and risk reductive surgery.

Keywords: cancer genomics, hereditary tumors, hereditary breast and ovarian cancer syndrome, genetic counseling, risk reductive surgery

(Kobe City Hosp Bull 58：9 - 19, 2019)

はじめに

本稿執筆中の2019年6月現在、本邦におけるがんゲノム医療は大きな変革期を迎えている。がん遺伝子パネル検査の導入によるがんの遺伝子診断に基づいた治療方針の選択や、治療薬剤の選択においてのコンパニオン診断に遺伝学的検査が導入されるなど、遺伝学的検査が日常診療の中で行われるようになってきている。これらの検査では、治療方針決定に必要な遺伝学的情報が得られるだけでなく、遺伝性乳癌卵巣癌症候群（Hereditary Breast and Ovarian Cancer ; HBOC）やリンチ症候群などの遺伝性腫瘍の原因遺伝子が同定される可能性や遺伝性腫瘍のスクリーニング検査としての側面がある。こうした状況の中で、遺伝性腫瘍に関して個々の症例に応じた適切な情報提供を行い、患者や家族の意思決定支援を行う遺伝カウンセリングの重要性が増してきている。一般市民における、がんゲノム医療や遺伝性腫瘍に対する認知は徐々に進み、遺伝学的情報にもとづいたがん発症者に対する医療の提供のみならず、遺伝学的情報にもとづいたがん発症前の遺伝子変異保持者に対する早期発見のための医療介入が有用と考えられるようになってきている。本邦における遺伝診療体制の整備は大学病院やがんセンターなどの大規模病院に留まっているが、遺伝カウンセリングを含めた遺伝診療体制の整備はがんゲノム医療を実践していくにあたり必要不可欠なものとなっている。このような背景から、地域がん診療連携拠点病院である神戸市立医療センター中央市民病院においても遺伝診療体制の構築が必要と考えられた。当院における「家族性腫瘍相談外来」の立ち上げの経緯、外来の概要、診療実績、体制の整備、対象疾患、今後の課題に関して報告する。

I. 遺伝カウンセリングと「家族性腫瘍相談外来」の開設の経緯

1. 家族性腫瘍における遺伝カウンセリング

家族性腫瘍とは、家系内に同一のがんの発生が累積している状態を指している。遺伝性腫瘍とは、家族性腫瘍とほぼ同義であるが、遺伝的因子（遺伝子の生殖細胞系列の変化）が、がんの発生に決定的あるいは大きな影響を与えている事が明らかな腫瘍を指しており、原因遺伝子が明らかになっている。

遺伝性腫瘍における遺伝カウンセリングの役割として、遺伝性腫瘍に関する適切な情報提供に加え、遺伝性腫瘍の確定診断のための遺伝学的検査の実施、血縁者に対するカウンセリングや遺伝学的検査

の実施、がん発症前の早期発見を目指したサーベイランスやがん発症前の予防的手術などの情報提供、などがある。遺伝性腫瘍の診療を行うにあたっては、遺伝性腫瘍が疑われる患者が遺伝子検査を受けるべきか、検査結果の解釈に対する情報提供、家族の検査が必要か、がんの早期発見や治療法などの医学的問題、検査費用の問題、家族関係・結婚・出産などの諸問題を整理し理解するために、遺伝カウンセリングが必須である。一般診療の中で、既往歴や家族歴といった問診聴取の際に、遺伝性腫瘍を疑うような内容があった際に、これまで当院では近隣の医療機関に遺伝カウンセリングを含め紹介となるケースが多かったが、院内でこのようなカウンセリング体制が整備されていれば、遺伝性腫瘍に対して適切な対応を行う事ができると考えられた。がんゲノム医療の急速な拡大とともに遺伝カウンセリングの提供体制の整備が急務となっていた。

2. 「家族性腫瘍相談外来」の開設の経緯

卵巣がんおよび乳がんに対する新たな治療薬であるPARP阻害剤のオラパリブ（リムパーザ[®]）が本邦で承認となる見込みである事、オラパリブのコンパニオン診断としてHBOCの原因遺伝子であるBRCA1/2遺伝子の遺伝学的検査の導入が見込まれる事から、卵巣がん、乳がん診療を行う医療機関での遺伝診療体制の構築が急務となっており、がん診療拠点病院である当院においても遺伝診療体制の構築が必要と考えられた。このような背景の中で、産婦人科においてBRCA1/2遺伝子の遺伝学的検査が含まれる臨床試験の受託を契機に、2017年5月より家族性腫瘍相談外来の開設準備に着手した。病院幹部、乳腺外科医、腫瘍内科医、産婦人科医、臨床遺伝専門医、事務職員でワーキンググループを立ち上げ、遺伝診療体制の具体的な運用を検討した。

3. 開設準備

2017年6月の当院倫理委員会において、産婦人科の受託研究である「Japan CHARLOTTE：卵巣がんに対する横断研究：BRCA遺伝学検査に関する研究」を申請した。この研究は、わが国の新規診断上皮性卵巣がん、原発性腹膜がん、又は卵管がん症例における生殖細胞系列でのBRCA1/2遺伝子の変異保有率を特定するべく計画された多施設共同研究であった。この臨床研究の倫理委員会での承認を受けて、遺伝カウンセリングの実施体制を病院幹部、腫

瘍内科医師、乳腺外科医師、産婦人科医師、薬剤部、看護部、検査部、医事課、総務課、地域医療推進課で打ち合わせを行い、遺伝カウンセリングに必要な人材の確保、遺伝カウンセリングを含めた自費診療の料金設定や遺伝学的検査の費用設定を検討した。遺伝カウンセリングにおいては、遺伝の専門家としての認定資格を有する臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーの参画が必須であり、臨床遺伝専門医である眼科医師と認定遺伝カウンセラーに上記の検討への参加と診療への協力を要請した。また、臨床試験以外でも *BRCA1/2* 遺伝子の遺伝学的検査を実施する可能性があるため、ファルコバイオシステムズ社と *BRCA1/2* 遺伝子の遺伝学的検査の受託契約を締結し、自費での検査費用の設定を行った。前述の打ち合わせでの検討内容を踏まえ、2017年7月の管理部長会、外来調整会議で自費診療の実施および外来開設の審議・承認を経て、2017年10月に「家族性腫瘍相談外来」開設となった。

II. 「家族性腫瘍相談外来」の概要

1. 「家族性腫瘍相談外来」の概要

「家族性腫瘍相談外来」は、毎週金曜日に半日枠を設け、臨床遺伝専門医1名、認定遺伝カウンセラー1名、診療科担当医で構成されたメンバーで、遺伝カウンセリングを実施している。1症例あたり1時間の枠で遺伝カウンセリングを実施し、1日あたり2から3症例に対応している。遺伝カウンセリングには発端者である患者本人に加え、その配偶者や血縁関係にある子どもなどが同席する場合が多い。遺伝カウンセリングは自費診療で実施し、料金設定は初回のカウンセリングは60分で6,480円、2回目以降30分毎に3,240円としている。対象疾患は当初は新規に診断された初発の卵巣がん症例を対象としていたが、2019年6月時点ではHBOCが疑われる乳がんや卵巣がん患者、乳がん治療におけるオラパリブ（リムパーザ®）のコンパニオン診断（SRL社のBRACAnalysis CDx®）で *BRCA1/2* 遺伝子の変異保持が判明した患者、リンチ症候群が疑われる患者も対象になっている。現在のところ他院からの紹介による遺伝カウンセリングは実施しておらず、院内の担当医からの紹介症例に限り対応している。

2. 「家族性腫瘍相談外来」での診療の流れ

「家族性腫瘍相談外来」へは各診療科の主治医が家族歴や病歴、コンパニオン診断の結果により遺伝

性腫瘍が疑われる場合などに紹介となる。各診療科主治医が「家族性腫瘍相談外来」の予約を取得し、自費での遺伝カウンセリング同意書にもとづき説明し同意が得られた場合に来談となる。

紹介症例に対して、まず「家族性腫瘍相談外来」の来談予定日までに、遺伝カウンセラーによるプレカウンセリングを実施し、本人の病歴や既往歴、家族歴を聴取し、家系図を作成する。来談当日は事前に作成した家系図をもとに、対象疾患に対する遺伝カウンセリングを実施する。カウンセリングの内容は遺伝性腫瘍の特徴、対象疾患の概要、遺伝形式、遺伝学的検査の意義、結果の解釈、血縁者への影響、がん未発症者に対するがん早期発見のためのサーベイランスなどについて説明する。カウンセリングを受け、遺伝学的検査を希望した場合に、自費でHBOCの原因遺伝子である *BRCA1/2* 遺伝子検査やリンチ症候群の原因遺伝子である *MMR* 遺伝子の遺伝学的検査を実施する。検査結果により遺伝子の病的変異を保有している事が判明した場合には再度遺伝カウンセリングを実施し、その後の対応や血縁者への影響などについて再度説明を行う。変異判明者の血縁者に遺伝学的検査の希望があれば、再度その血縁者に対しての遺伝カウンセリングを行った上で、検査を実施している。遺伝カウンセリングの内容や遺伝学的検査の流れは発端者と同様であるが、血縁者はがん未発症者であり、特段の配慮が必要とされる。

3. 対象疾患の拡大と変遷

2017年10月の外来開設当初は産婦人科での臨床試験での対象となる初発卵巣がん患者に限り、遺伝カウンセリングを実施した上で *BRCA1/2* 遺伝子の遺伝学的検査を実施していた。2018年6月からは、再発乳がんにおいてオラパリブのコンパニオン診断として、SRL社の *BRCA1/2* 遺伝子の遺伝学的検査（BRACAnalysis CDx®）が保険承認となり、2017年10月から対象疾患を乳がんにも拡大し診療を継続した。また2018年12月にはペンブロリズマブ（キイトルーダ®）のコンパニオン診断としてMSI検査（マイクロサテライト不安定検査）が保険承認となった。MSI検査は遺伝性腫瘍であるリンチ症候群のスクリーニングとなる検査であり、MSI検査でMSI-High（陽性）の結果となった場合は遺伝カウンセリングを実施した上で、患者の希望があれば、リンチ症候群の原因遺伝子である *MMR* 遺伝子の遺伝学的検査を行う必要がある。2019年6月現在、家族性

腫瘍相談外来ではリンチ症候群の遺伝カウンセリングにも対応を開始している。

4. 実施可能な検査

当院の家族性腫瘍相談外来で実施可能な遺伝学的検査を表1に示す。遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)の原因遺伝子として知られるBRCA1/2遺伝子の遺伝学的検査、リンチ症候群の原因遺伝子であるMMR遺伝子の遺伝学的検査を自費で実施可能である。遺伝学的検査には発端者向けの検査と血縁者向けの検査が存在する。発端者向け検査には、検査依頼から結果報告まで3週間程度の期間を要するHBOCスクリーニング検査、5営業日程度で迅速に結果報告のあるクイックHBOCスクリーニング検査の2種類、血縁者向けとしてあらかじめ発端者の検査で判明している遺伝子の変異部位のみ検査を行うHBOCシングルサイト検査がある。リンチ症候群の原因遺伝子であるMMR遺伝子に関しては、発端者向け検査としてMMRスクリーニング検査、血縁者向け検査はHBOCと同様にMMRシングルサイト検査を実施可能である。

Ⅲ. 対象疾患について

1. 遺伝性腫瘍とは

遺伝的因子が腫瘍発生に強く影響するものを遺伝性腫瘍といい、一般集団に比較してがん発症のリスクが何倍も高い事が知られている。全悪性腫瘍の5～10%存在するとされ、遺伝性腫瘍の多くは遺伝子の生殖細胞変異(germline mutation)が原因とされている。ほとんどの遺伝性腫瘍が常染色体優性遺伝形式で遺伝し、次世代へ遺伝する確率は二分の一である。若年発症、多発がん、両側がんなどが遺伝性腫瘍の特徴として挙げられ、現在までに①がん抑制遺伝子、②がん遺伝子、③DNA修復遺伝子が遺伝性腫瘍の原因遺伝子として判明している。おもな遺伝性腫瘍およびその原因遺伝子、頻度を表2に示す。遺伝性腫瘍の中でも、遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)、リンチ症候群は比較的頻度の高い疾患であり、日常診療でこれらの疾患が疑われる場合は、詳細な家族歴の聴取が必要となる。

2. 遺伝性乳癌卵巣癌症候群(Hereditary Breast and Ovarian Cancer ; HBOC)

表1 当院で実施可能な遺伝学的検査

| 自費診療 | 対象疾患 | 対象遺伝子 | 自費料金(円) |
|-------------------|-----------------------|------------------|---------|
| HBOCスクリーニング | HBOC | BRCA1/2遺伝子 | 235,911 |
| HBOCクイック | HBOC | BRCA1/2遺伝子 | 268,311 |
| HBOCシングルサイト | HBOC | BRCA1/2遺伝子 | 49,503 |
| MMRスクリーニング | リンチ症候群 | MMR遺伝子 | 160,311 |
| MMRシングルサイト | リンチ症候群 | MMR遺伝子 | 49,503 |
| 保険診療 (コンパニオン診断) | 対象疾患 | 対象遺伝子 | 保険点数(点) |
| BRACAnalysis CDx® | 乳癌、卵巣癌 | BRCA1/2遺伝子 | 20,200 |
| MSI検査 | がん化学療法後に増悪した進行・再発の固形癌 | マイクロサテライト不安定性を検査 | 2,100 |

表2 おもな遺伝性腫瘍の原因遺伝子と頻度

| 遺伝性腫瘍の病名 | 原因遺伝子 | 主な腫瘍と罹患しやすい腫瘍 | 有病率 |
|----------------|---------------------------------|--|-----------------|
| リンチ症候群 | MLH1, MLH2, MSH6, PMS2, (EPCAM) | 大腸がん、子宮体がん、卵巣がん、胃がん、小腸がん、腎盂・尿管がん | 1/300-400 |
| 遺伝性乳がん卵巣がん症候群 | BRCA1, BRCA2 | 乳がん、卵巣がん、前立腺がん、膀胱がん | 1/500-1,000 |
| 若年性ポリポージス | BMP1A, SMAD4 | 消化管に過誤腫性ポリプ、乳がん、大腸がんなど | 1/100,000 |
| 家族性大腸腺腫症 | APC | 大腸がん、胃がん、胃底腺ポリポージス、十二指腸がん、テスモイド腫瘍 | 1/17,400 |
| リ・フラウメニ症候群 | TP53 | 骨肉腫、軟部肉腫、乳がん、白血病、脳腫瘍、副腎皮質がんなど | 稀 |
| カウデン症候群 | PTEN | 乳がん、甲状腺がん、子宮内膜がん、消化管の過誤腫、特徴的な粘膜皮膚病変など | 1/200,000 |
| フォン・ヒッペル・リンドウ病 | VHL | 小脳・脊髄・網膜の血管芽腫、腎がん、褐色細胞腫、内耳内リンパ嚢胞腺腫、腎・脾・肝・副腎等の嚢胞・腫瘍など | 1/36,000 |
| 遺伝性網膜芽細胞腫 | RB1 | 網膜芽細胞腫、肉腫 | 1/13,500-25,000 |
| 多発性内分泌腫瘍症Ⅰ型 | MEN1 | 副甲状腺腫、膵消化管神経内分泌系腫瘍、下垂体前葉腺腫、副腎皮質腫瘍、胸腺腫、皮膚結合組織腫瘍など | 1/100,000 |
| 多発性内分泌腫瘍症Ⅱ型 | RET | 甲状腺髄様がん、副甲状腺腫、褐色細胞腫、粘膜神経腫など | 1/30,000 |
| 遺伝性びまん性胃がん | CDH1 | 胃がん(びまん型)、乳腺小葉がん | 不明、稀 |

日本家族性腫瘍学会: 遺伝性腫瘍ハンドブック, 金原出版, 東京, 2019 より改変して引用¹⁾

遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）は、米国の女優の予防的手術施行の報道²⁾ などにより一般市民においても認知されるようになった疾患であり、がん発症前のリスク低減手術を含めた早期からの医療介入が関心を集めている。HBOCはBRCA1/2遺伝子の生殖細胞系列の変異に起因する乳がんおよび卵巣がんをはじめとするがんの易罹患性症候群であり、常染色体優性遺伝形式を示す。BRCA1/2遺伝子はDNAの修復機構に関与するがん抑制遺伝子であり、遺伝子の変異による機能不全は遺伝子不安定性を生じ、最終的に細胞のがん化を引き起こす。日本人の一般集団における頻度は不明であるが、英国および米国（non-Ashkenazi白人）のデータでは300-800人に1人と推定され^{3, 4)}、Ashkenaziユダヤ人では40人に1人と高率である。がん抑制遺伝子であるBRCA1/2遺伝子はそれぞれ17番染色体、13番染色体に存在し、2本鎖DNA切断部位に直接作用して相同組み換え修復に関与している。全乳がんの5%、全卵巣がんの10%程度で検出されると報告されている。当院が研究に参加したJapan CHARLOTTE studyでは、日本人のI-IV期の上皮性卵巣がんを診断した633名の解析から、BRCA1/2遺伝子の変異保有率は14.7%と示され、卵巣がんの組織型別の変異保有率は高異型度漿液がんが28.5%、低異型度漿液がんが20.0%、類内膜がんが6.7%、明細胞がんが2.1%、粘液がんが0%と、漿液がんが変異保有率が高かった⁵⁾。

HBOCにおける乳がんの累積罹患リスクは70歳で、BRCA1遺伝子変異保持者で57%、BRCA2遺伝子変異保持者で40%、卵巣がんの累積罹患リスクは70歳で、BRCA1遺伝子変異保持者で40%、BRCA2遺伝子変異保持者で18%と非常に高率にこれらのが

んに罹患する⁶⁾。BRCA遺伝子変異に関連するがんを表3に示す⁷⁾。乳がん、卵巣がんのほか、2回目の原発乳がん、男性乳がん、前立腺がん、膵臓がんやメラノーマのリスクが上昇するとされ、BRCA1/2のどちらの遺伝子変異かにより、がん発症のリスクが異なる。どのがん腫においても一般集団と比較し、非常に高率にがんを発症するリスクを有しており、男性では前立腺がんの罹患リスクが高く、特にBRCA2遺伝子変異保持者では一般の2～6倍の罹患リスクを有している。膵臓がんに関しても、一般集団と比較して2.4～6倍の罹患リスクを有している。

BRCA1/2遺伝子変異を有する卵巣がんは、通常の卵巣がん症例と比較すると予後がよいとされおり、卵巣がん全体の5年生存率が36%程度であるのに対し、BRCA1遺伝子変異による卵巣がんは44%、BRCA2遺伝子変異の場合は52%とされる⁸⁾。BRCA1/2遺伝子変異を有する場合は、遺伝子の相同組み換え修復異常をきたしているため、DNA合成阻害作用を有するプラチナ製剤が奏功し、変異を持たない場合より予後がよいとされている。

発症者の医学的な管理において、BRCA1/2遺伝学的検査を行う事は、術式の決定支援（乳房切除術式の決定など）に役立ち、また薬剤選択のための参考情報となる。さらに、乳がん、卵巣がんのいずれかの発症を契機にHBOCと診断された場合に他方のがんに対する予防的な処置を講じる事ができる。未発症者に対する医学的管理としては、サーベイランス（早期発見のための定期的な経過観察）、化学予防、リスク低減乳房切除術（risk-reducing mastectomy：RRM）やリスク低減卵巣卵管切除術（risk-reducing salpingo-oophorectomy：RRSO）がある。

表3 BRCA 遺伝子変異に関連するがん

| 癌の種類 | 一般集団の発症リスク | 遺伝子バリエントを有する場合のリスク | |
|------------------|------------|--------------------|-------------|
| | | BRCA1 | BRCA2 |
| 乳がん | 12% | 46-87% | 38-84% |
| 乳がん既発症者の異時性原発乳がん | 5年以内に2% | 10年以内に21.1% | 10年以内に10.8% |
| | | 70歳までに83% | 70歳までに62% |
| 卵巣がん | 1-2% | 39-63% | 16.5-27% |
| 男性乳がん | 0.10% | 1.20% | 8.9% |
| 前立腺がん | 69歳までに6% | 65歳までに8.6% | 65歳までに15% |
| | | | 生涯で20% |
| 膵臓がん | 0.50% | 1-3% | 2-7% |
| 悪性黒色腫 | 1.60% | | リスク上昇あり |

Nancie Petrucelli et al. GeneReviews®, 2016⁷⁾

乳がんの予防として、MRIによるサーベイランス、タモキシフェン内服による化学予防、RRMがあげられる。乳がんのサーベイランスとして、25歳以上のBRCA1/2遺伝子変異を有する女性に対して、1年に1回の乳房造影MRI検査が推奨されている⁹⁾。タモキシフェンの内服に関しては、化学予防を行う十分な根拠が示されておらず、推奨されるに至っていない。未発症者に対するRRMは乳がんの発症リスクを9割以上低下させるが¹⁰⁾、総死亡率の低減効果は示されていない¹¹⁾。乳がん罹患したBRCA変異保有者に対する対側リスク低減乳房切除術(CRRM)は、乳癌発症リスクおよび総死亡率を低下させ、生命予後の改善につながる事が示されており、推奨されている。海外の報告ではBRCA変異保有者の10～40%がRRMを受けているとされている。

卵巣がんの予防として、検診によるサーベイランス、低用量経口避妊薬(OC)や低用量エストロゲン・プロゲステロン配合薬(LEP)内服による化学予防、RRSOがあげられる。経膈超音波検査とCA125測定による卵巣がん検診の有効性が検討されたが、有用性は証明されていない。化学予防に関しては卵巣がん発症リスクの低減する事が示されているが、乳がん発症リスクを軽度増加させるという報告があり、慎重な判断が必要である。HBOCに対する卵巣がん、卵管がんの予防として最も有効な対策はRRSOである¹²⁾。RRSOは卵巣がん、卵管がんの発症率を低減するとともに総死亡率の低減効

果も示されており、ガイドラインにおいても推奨されている⁸⁾。35-40歳で、出産が終了し次第の手術が推奨されており、海外の報告ではBRCA変異保持者の30～70%がRRSOを受けている。しかしながら、RRSOを行っても腹膜がんのリスクは残る(1-4.3%程度)とされており、注意が必要である。

その他のBRCA1/2遺伝子変異に関連するがんに対しての対策として、男性乳がんでは35歳以降の自己触診、BRCA2変異保持者では45歳から前立腺がんのスクリーニングが必要とされている⁸⁾。

3. リンチ症候群(Lynch Syndrome)

リンチ症候群は、大腸がんや子宮内膜がんなど種々のがんを好発する遺伝性腫瘍症候群で、常染色体優性遺伝形式を示す。原因遺伝子は、MLH1、MSH2、MSH6、PMS2の4つのDNAミスマッチ修復遺伝子(MMR遺伝子)が同定されている。またミスマッチ修復遺伝子ではないが、MSH2の上流に隣接するEPCAM遺伝子の変異によりMSH2遺伝子が不活化され、リンチ症候群の原因となる場合がある。リンチ症候群関連がんの70歳での発症リスクを表4に示す¹³⁾。原因遺伝子の種類により発症リスクが異なるが、大腸がん、子宮内膜がんをはじめとして、胃がん、卵巣がんなど様々ながんの発症に関わっている。

リンチ症候群では、病歴や家族歴、腫瘍の病理学的特徴による1次スクリーニングを行い、腫瘍組織を用いた検査により2次スクリーニングを行い、症

表4 リンチ症候群関連がんの生涯(70歳)発症リスク

| がんの部位 | 一般人口での発症率(%) | 原因遺伝子 | | | | | |
|--------|--------------|-----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| | | MLH1とMSH2 | | MSH6 | | PMS2 | |
| | | がん発症率(%) | 年齢(歳) | がん発症率(%) | 年齢(歳) | がん発症率(%) | 年齢(歳) |
| 結腸 | 5.5 | 52~82 | 44~61 | 10~22 | 54 | 15~20 | 61~66 |
| 子宮内膜 | 2.7 | 25~60 | 48~62 | 16~26 | 55 | 15 | 49 |
| 胃 | <1 | 6~13 | 56 | ≦3 | 63 | + | 70~78 |
| 卵巣 | 1.6 | 20~24 | 42.5 | 1 | 46 | NR | NR |
| 胆道系 | <1 | 1~4 | 50~57 | NR | NR | + | NR |
| 尿路系 | <1 | 1~7 | 54~60 | <1 | 65 | + | NR |
| 小腸 | <1 | 3~6 | 47~49 | NR | 54 | + | 59 |
| 脳/中枢神経 | <1 | 1~3 | ~50 | NR | NR | + | 45 |
| 皮脂腺 | <1 | 1~9 | NR | NR | NR | NR | NR |
| 膵臓 | <1 | 1~6 | NR | NR | NR | NR | NR |

Mary B.Daly et al: Genetic/Familial High-Risk Assessment: Breast and Ovarian. NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology (NCCN Guidelines®). Version 1, 2018⁹⁾より改変して引用

表5 アムステルダム基準Ⅱ

| |
|---|
| <p>【アムステルダム基準Ⅱ】 血縁者に3名以上のHNPCC*1関連がん(大腸がん、子宮内臓がん、小腸がん、腎盂・尿管がん)に罹患しており、かつ、以下のすべての条件に合致していること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 罹患者の1名は他の2名の第1度近親者であること 2) 少なくとも継続する2世代にわたり罹患者がいること 3) 罹患者の1名は50歳未満で診断されていること 4) 家族性大腸腺腫症が除外されていること 5) がんが、病理検査により確認されていること <p>*1 HNPCC(遺伝性非ポリポシス大腸がん;hereditary non-polyposis colorectal cancer) リンチ症候群と同義</p> |
|---|

Vasen HF, et al. Gastroenterology, 1999¹⁴⁾

表6 改訂ベセスダ基準

| |
|--|
| <p>【改訂ベセスダ基準】 以下が1つでも当てはまる症例の腫瘍は、MSI検査をするべきである</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 50歳未満で診断された大腸がん ● 年齢に関わらず、大腸がんおよびリンチ症候群関連腫瘍*の同時性・異時性重複がんがある症例 ● 60歳未満で診断され、MSI-Hの病理所見**を呈する大腸がん ● 第1度近親者が1人以上50歳未満でリンチ症候群関連腫瘍と診断されている患者の大腸がん ● 年齢に関わらず、第2度近親以内の血縁者が2人以上リンチ症候群関連腫瘍と診断されている患者の大腸がん <p>*リンチ症候群関連腫瘍：直腸結腸がん、子宮内臓がん、胃がん、卵巣がん、膀胱がん、尿管・腎盂がん、胆道がん、脳腫瘍(通常はTurcot症候群で見られる膠芽腫)、Muir-Torre症候群における皮脂腺腫や角化棘細胞腫、小腸がん **浸潤リンパ球、クローン様リンパ球反応、粘液性/印環細胞がん様分化、あるいは嚢様増殖</p> |
|--|

Umar A, et al. J Natl Cancer Inst, 2004¹⁵⁾

表7 リンチ症候群におけるサーベイランス

| 臓器 | 検査開始年齢 | 検査 | 間隔(年) |
|--------|--------|----------------------------|-------|
| 大腸 | 20~25歳 | 大腸内視鏡検査 | 1~2年 |
| 子宮・卵巣 | 30~35歳 | 婦人科診察、経腔超音波検査、吸引生検、CA125測定 | 1~2年 |
| 胃・十二指腸 | 30~35歳 | 胃・十二指腸内視鏡検査 | 1~2年 |
| 尿路系 | 30~35歳 | 腹部超音波検査、尿検査、尿細胞診 | 1~2年 |

遺伝子医学MOOK別冊 最新遺伝性腫瘍・家族性腫瘍研究と遺伝カウンセリングより引用¹⁷⁾

例の絞り込みを行う。1次スクリーニングとして改訂アムステルダム基準(アムステルダム基準Ⅱ：表5)¹⁴⁾や改訂ベセスダガイドライン(表6)¹⁵⁾を用いる事が多い。2次スクリーニングとして腫瘍組織を用いてMSI検査(マイクロサテライト不安定性検査)またはIHC検査(免疫組織化学的検査)を行う。マイクロサテライトとは、ゲノム中に存在する1~数塩基単位の繰り返し配列で、ヒトゲノムの中に多数存在する。ミスマッチ修復機構が破綻すると、この配列の反復回数が増加を起しやすくなり、この変化をマイクロサテライト不安定性といい、リンチ症候群に起因する腫瘍では、ゲノムの中に存在する多数のマイクロサテライトに不安定性が起こる。このようにマイクロサテライトに高頻度の不安定性が起こる現象をhigh level of microsatellite instability (MSI-H)と呼ぶ。IHC検査では、*MLH1*、*MSH2*、*MSH6*、*PMS2*の4つのMMR遺伝子の産物に対する抗体を用いて、腫瘍組織におけるMMRタンパク発現を検出する。腫瘍細胞でいずれかのタンパク発現が消失している場合、そのタンパクをコードしている遺伝子が原因遺伝子の候補として考えられる。このように、1次スクリーニング、2次スクリーニングで症例を拾い上げ、絞り込みを行い、最

終的な確定診断は、リンチ症候群の原因遺伝子として同定されているMMR遺伝子の遺伝学的検査を行うことになる。

2018年12月より抗PD-1抗体薬であるペンブロリズマブ(キイトルーダ®)の適応が、がん化学療法後に増悪した進行・再発のMSI-Highを有する固形がんに拡大され、そのコンパニオン診断としてMSI検査が導入された。当院でも2019年5月までに87例にコンパニオン診断としてMSI検査を実施しており、MSI-H症例を2例認めている。そのうち1例に対しては、当院家族性腫瘍相談外来で遺伝カウンセリングを実施した。今後もMSI検査の実施件数の増加が見込まれ、MSI-H患者に対する遺伝カウンセリングやリンチ症候群の確定診断検査であるMMR遺伝子検査の実施件数が増加する可能性がある。また未発症の血縁者へのカウンセリングやMMR遺伝子検査、サーベイランス(表7)などを行う体制の整備も求められている。

IV. 診療実績

1. 家族性腫瘍相談外来の遺伝カウンセリング実績

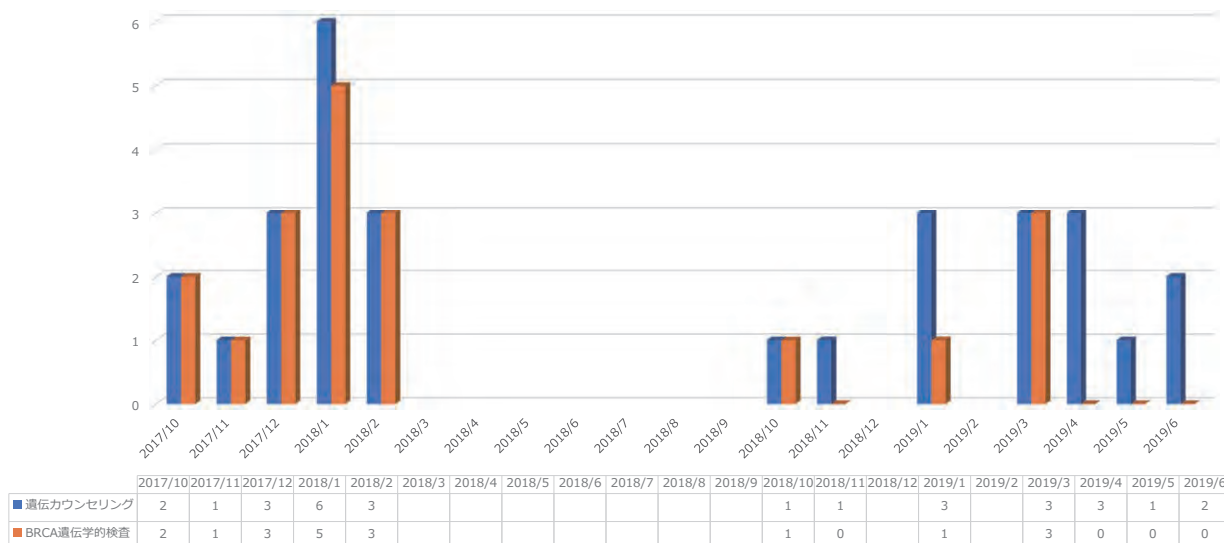
家族性腫瘍相談外来開設からの来談件数の推移を表8に示す。2017年10月の家族性腫瘍相談外来開設から2019年6月までに28件の遺伝カウンセリングを実施し、19件のBRCA1/2遺伝子の遺伝学的検査を実施した。2018年3月までの期間は産婦人科において臨床試験を実施した期間であり、2018年7月のBRCA1/2遺伝学的検査（BRACAnalysis CDx[®]）が再発乳がんに対して保険適用となり、来談件数が増加した。また2018年12月には抗PD-1抗体薬のコンパニオン診断としてMSI検査が導入され、HBOCに加えてリンチ症候群に関する遺伝カウンセリングにも対応している。HBOCやリンチ症候群に加え、がん遺伝子パネル検査の結果で生殖細胞系列の変異が疑われる症例の相談もあり、カウンセリングには至っていないものの、これまで自費診療や臨床試験で行われていたがん遺伝子パネル検査の一部が2019年6月には保険適用となり、実施件数の増加が見込まれている。がん遺伝子パネル検査の実施により、二次的所見として遺伝性腫瘍の原因遺伝子の生殖細胞系列の変異が同定される可能性もあり、遺伝カウンセリングを実施する対象疾患がHBOCやリンチ症候群以外に拡大する可能性が考えられている。

産婦人科での臨床試験の期間は14家系14人の来談者すべてが遺伝学的検査を受けていた。これは患者のHBOCに対する関心に加え、20万円以上の費用を要する遺伝学的検査が患者の費用負担なく行え

ていた事も影響していると考えている。2018年10月以降のカウンセリング症例は当院乳腺外科および産婦人科主治医からの紹介症例であった。病歴や発症年齢、組織型、家族歴などによりHBOCが疑われる症例に対してカウンセリングを実施した。来談件数は8家系11人であり、そのうち5件の遺伝学的検査を実施した。これまで血縁者の遺伝学的検査実施に至った家系が1家系ある。若年女性のトリプルネガティブ乳がんの症例に対して、遺伝カウンセリングを実施し、遺伝学的検査を実施したところ、BRCA1遺伝子において病的変異が判明した。これを契機に、両親および同胞に遺伝カウンセリングを実施し、遺伝学的検査を実施した。このうち父親にBRCA1遺伝子の病的変異が判明し、当院乳腺外科において男性乳がんのサーベイランス、またPSAによる前立腺がんのサーベイランスを開始している。膵臓がんに対するサーベイランスに関しては第一度近親者に膵臓がん罹患者がいないため、現時点では行っていない。患者本人に対しては、卵巣がんのサーベイランスを産婦人科にて開始し、採血にてCA125の測定と経膈超音波検査を半年ごとに実施していく方針である。今後、RRSOについても時期および患者の希望も考慮しながら検討していく必要がある。

リンチ症候群に対する遺伝カウンセリングは1家系1人に実施し、遺伝学的検査には至らなかったが、今後も経過をフォローしていく必要があると考えている。

表8 家族性腫瘍相談が以来の来談件数の推移



2. リスク低減卵巣卵管切除術（RRSO）の実績

卵巣がん、卵管がんの発症率を低減するとともに総死亡率の低減効果も示されているRRSOはHBOCに対する卵巣がん、卵管がんの予防として最も有効な対策であり、ガイドラインにおいても推奨されている。これまでに4名の患者にRRSOを腹腔鏡手術にて実施しており（表9）、いずれの症例も乳がんの診断を契機に遺伝学的検査を受け、*BRCA1/2* 遺伝子の病的変異が判明した患者であった。症例に応じて腹腔鏡下両側付属器切除術、またそれに加えて腹腔鏡下子宮全摘術を追加しており、4例中3例についてはRRSOの際に子宮全摘術を併施した。卵巣癌の発症予防という目的では子宮摘出を必要としないが、乳癌に対する薬物療法による子宮内膜への影響、卵巣欠落症状に対するホルモン補充療法の子宮内膜に対する影響、*BRCA1/2* 遺伝子変異保持者で子宮体癌のリスクが増加するという報告¹⁶⁾もあることから、子宮全摘を同時に行うのがよいという意見があり、今後は同時摘出が標準となる可能性がある。RRSOは自費診療で実施しており、腹腔鏡下両側付属器切除術の場合の入院期間は5日間、費用は70万円程度、両側付属器切除術に加え子宮全摘術を行う場合の入院期間は6日間、費用は120万円程度である。現在までのところ大きな合併症なく実施できており、術後の病理学的検索においても、卵管の上皮内病変や悪性腫瘍が判明した症例は認めていない。

今後もHBOCの認知の拡大やコンパニオン診断の対象症例の増加などにより、未発症*BRCA* 変異

保持者が判明するケースが増え、予防手術実施件数の増加が予測される。高額な手術費用となり患者負担が大きいため、関連学会より厚生労働省に対して予防的手術を保険診療で行えるよう要望書の提出が行われている。また確定申告における医療費控除の適用が予防手術においても可能である事などの周知を行い、少しでも負担を軽減できるよう配慮していく必要がある。

V. 今後の課題と展望

現時点で当院の家族性腫瘍相談外来は、院内の担当医からの紹介となった症例に対してのみ対応しており、院外からの紹介や病院ホームページでの一般市民への公示などは行っていない。しかしながら、コンパニオン診断での遺伝学的検査の増加や遺伝性腫瘍に対する一般市民の意識の高まりから、院外の症例への対応も必要となる可能性があり、この点に関しては今後の検討課題と考えている。また、サーベイランスにおいては、HBOCであれば、前立腺がんや膵臓癌、リンチ症候群においては大腸がん、その他の消化器がん、尿路系がんなど、乳腺外科や産婦人科以外の領域でのサーベイランスも必要とされる。HBOCの対応から開始したため、現在、家族性腫瘍相談外来では乳腺外科、腫瘍内科、産婦人科のみが関わっているが、消化器内科や泌尿器科など他科との連携も必要とされており、院内での認知向上を目指していく必要があると考えている。

我が国におけるがんゲノム医療は大きな変革期を迎えており、治療薬剤の選択においてのコンパニ

表9 当院のRRSO実施症例

| | 乳癌診断 | 乳癌組織型 | 家族歴 | 遺伝子変異 | リスク低減手術 |
|-----|------------------|------------------------------|--------------------------------|--------------|--------------------------|
| 症例1 | 47歳 | 浸潤性乳管癌 ER,PgR,HER2陰性 | 母：乳癌・卵巣癌 叔母：乳癌 | <i>BRCA1</i> | 2012/12(48歳) TLH+LBSO |
| 症例2 | 50歳 | 浸潤性乳管癌 ER,PgR陰性 HER2陽性 | 母：乳癌 43歳発症・49歳原癌死 | <i>BRCA2</i> | 2018/04(51歳) TLH+LBSO |
| 症例3 | 55歳 | 浸潤性乳管癌 ER陽性 PgR,HER2陰性 | 叔母：乳癌・卵巣癌 祖母：膵臓癌 叔父：前立腺癌 | <i>BRCA2</i> | 2018/05(59歳) LBSO |
| 症例4 | 34歳(右) 64歳(左) | 浸潤性乳管癌 ER,PgR,HER2陰性 | 母：卵巣癌、乳癌 | <i>BRCA1</i> | 2019/01(66歳) TLH+LBSO |

TLH：腹腔鏡下子宮全摘術、LBSO：腹腔鏡下両側付属器切除術

オン診断に遺伝学的検査が導入され、OncoGuide™ NCC オンコパネルシステムや FoundationOne® CDx などの、がん遺伝子パネル検査が保険適応になり、遺伝学的検査ががん診療における日常診療で実施されるようになってきている。現在、家族性腫瘍相談外来での来談の契機となる疾患は HBOC やリンチ症候群に限られているが、今後遺伝子パネル検査の二次的所見としてそれ以外の遺伝性腫瘍の原因遺伝子が同定される可能性がある。こうした状況の中で、遺伝性腫瘍に関して個々の症例に応じた適切な情報提供を行い、患者や家族の意思決定支援を行う遺伝カウンセリングを実施し、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院としての役割を果たしていきたいと考えている。

おわりに

一般市民における HBOC や遺伝性腫瘍に対する意識の高まりや、産婦人科において *BRCA1/2* 遺伝学的検査を実施する臨床試験の受託を契機に、神戸市立医療センター中央市民病院において、家族性腫瘍相談外来の立ち上げを行い、遺伝カウンセリング体制や HBOC 診療に関する診療体制の構築、整備を行った。がんゲノム医療の発展とともに、家族性腫瘍相談外来に求められる診療内容はますます拡大しており、今後も情勢に応じて診療内容の拡充を図り、当院通院中のがん患者やその家族、一般市民や近隣医療機関の期待に応えていきたいと考えている。

文 献

- 1) 日本家族性腫瘍学会：遺伝性腫瘍ハンドブック，金原出版，東京，2019
- 2) Angelina Jolie: My Medical Choice. The New York Times, 2013 (<https://www.nytimes.com/2013/05/14/opinion/my-medical-choice.html>)
- 3) American College of Obstetricians and Gynecologists, ACOG Committee on Practice Bulletins-Gynecology, ACOG Committee on Genetics, et al: ACOG Practice Bulletin No.103: Hereditary breast and ovarian cancer syndrome. Obstet Gynecol. 113: 957-966, 2009
- 4) Whittemore AS: Risk of breast cancer in carriers of BRCA gene mutations. N Engl J Med. 337: 788-789, 1997
- 5) Enomoto T, Aoki D, Hattori K, et al: The first Japanese nationwide multicenter study of BRCA mutation testing in ovarian cancer: CHARacterizing the cross-

sectional approach to Ovarian cancer geneTic TEsting of BRCA (CHARLOTTE) . Int J Gynecol Cancer. 29: 1043-1049, 2019

- 6) Antoniou A, Pharoah PD, Narod S, et al: Average risks of breast and ovarian cancer associated with *BRCA1* or *BRCA2* mutations detected in case Series unselected for family history: a combined analysis of 22 studies. Am J Hum Genet. 72: 1117-1130, 2003
- 7) Petrucelli N, Daly MB, Pal T: *BRCA1*- and *BRCA2*-associated hereditary breast and ovarian cancer. GeneReviews. 2016
- 8) Bolton KL, Chenevix-Trench G, Goh C, et al: Association between *BRCA1* and *BRCA2* mutations and survival in women with invasive epithelial ovarian cancer. JAMA. 307: 382-390, 2012
- 9) Daly MB, Pilarski R, Berry M, et al: Genetic/familial high-risk assessment: Breast and Ovarian. NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology (NCCN Guidelines®) . Version 1, 2018
- 10) Rebbeck TR, Friebel T, Lynch HT, et al: Bilateral prophylactic mastectomy reduces breast cancer risk in *BRCA1* and *BRCA2* mutation carriers: the PROSE Study Group. J Clin Oncol. 22: 1055-1062, 2004
- 11) Heemskerk-Gemitsen BA, Menke-Pluijmers MB, Jager A, et al: Substantial breast cancer risk reduction and potential survival benefit after bilateral mastectomy when compared with surveillance in healthy *BRCA1* and *BRCA2* mutation carriers: a prospective analysis. Ann Oncol. 24: 2029-2035, 2013
- 12) Rebbeck TR, Kauff ND, Domchek SM, et al: Meta-analysis of risk reduction estimates associated with risk-reducing salpingo-oophorectomy in *BRCA1* or *BRCA2* mutation carriers. J Natl Cancer Inst. 101: 80-87, 2009
- 13) Provenzale D, Gupta S, Dennis J, et al: Genetic/familial high-risk assessment: Colorectal version 3. NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology (NCCN Guidelines®) , 2017
- 14) Vasen HF, Watson P, Mecklin JP, et al: New clinical criteria for hereditary nonpolyposis colorectal cancer (HNPCC, Lynch syndrome) proposed by the International Collaborative group on HNPCC. Gastroenterology. 116: 1453-1456, 1999
- 15) Umar A, Boland CR, Terdiman JP, et al: Revised Bethesda Guidelines for hereditary nonpolyposis

colorectal cancer (Lynch syndrome) and microsatellite instability. J Natl Cancer Inst. 96: 261-268, 2004

- 16) Laitman Y, Michaelson-Cohen R, Levi E, et al: Uterine cancer in Jewish Israeli *BRCA1/2* mutation carriers. Cancer. 125: 698-703, 2019
- 17) 赤木 究：リンチ症候群. 遺伝子医学MOOK (1349-2527) 別冊 最新遺伝性腫瘍・家族性腫瘍研究と遺伝カウンセリング, 三木義男 編集, メディカルドゥ, 大阪, 66-72, 2016

(受付 2019年7月12日、採択 2019年12月20日)

Ⅲ. 症 例 報 告

Ⅲ. 症例報告

Ⅲ. 良性多嚢胞性腹膜中皮腫の1例

中 彩乃¹⁾ 吉田澄子¹⁾ 下田智晴¹⁾ 中村大輔¹⁾ 弘田大智¹⁾
山下展弘¹⁾ 森島秀司²⁾ 勝山栄治³⁾
神戸市立医療センター西市民病院 ¹⁾臨床検査技術部 ²⁾産婦人科 ³⁾病理診断科

要 旨

良性多嚢胞性腹膜中皮腫 (benign multicystic mesothelioma of the peritoneum : BMMP) は比較的若年～中年女性に好発する非常にまれな疾患である。今回われわれは、下腹部痛を契機に発見された BMMP の1例を経験したので報告する。症例は50歳代、女性。下腹部痛を主訴に来院し、各種画像検査で右下腹腔内に多房性嚢胞性病変を認めた。開腹術にて、大網および右卵巢近くに小型の嚢胞を認めた。腫瘍捺印細胞診では、異型のない細胞をシート状集塊で認めた。切除標本では、異型に乏しい単層上皮の lining がみられた。免疫染色にて腫瘍細胞は calretinin、D2-40 に陽性を示し、BMMP と診断した。

キーワード：良性多嚢胞性腹膜中皮腫、多房性腫瘍、calretinin、D2-40

(神戸市立病院紀要 58 : 21 - 25, 2019)

Benign multicystic mesothelioma of the peritoneum: A case report

Ayano Naka¹⁾, Sumiko Yoshida¹⁾, Chiharu Shimoda¹⁾, Daisuke Nakamura¹⁾, Daichi Hirota¹⁾, Shuji Morishima²⁾, Eiji Katsuyama³⁾

¹⁾ Department of Clinical laboratory, Kobe City Medical Center West Hospital

²⁾ Obstetrics and Gynecology, Kobe City Medical Center West Hospital

³⁾ Department of Pathology, Kobe City Medical Center West Hospital

Abstract

Benign multicystic mesothelioma of the peritoneum (BMMP) is a rare lesion condition that occurs mainly in young to middle-aged women. Here we report a case of BMMP. The patient was a female in her 50's who presented with lower abdominal pain. Magnetic resonance imaging and computed tomography detected a multicystic tumor in the right lower abdomen. Laparotomy revealed small cystic lesions in the omentum and near the right ovary. Stamp cytology of the tumor showed that clustering tumor cells with little atypia formed sheet-like structure. Histopathological examination revealed that the tumor consisted of cysts lined by a single layer of flattened cells, and there were no atypical findings. Immunohistochemically, tumor cells were positive for calretinin and D2-40. According to these findings, the tumor was diagnosed as BMMP.

Key words: benign multicystic mesothelioma of the peritoneum, multilocular tumor, calretinin, D2-40

(Kobe City Hosp Bull 58: 21 - 25, 2019)

はじめに

中皮腫は胸膜を原発とするものがほとんどであり、腹膜原発の頻度は少ない。また、腹膜原発の中皮腫の中でも、良性多嚢胞性腹膜中皮腫 (benign multicystic mesothelioma of the peritoneum : BMMP) は非常にまれな疾患である¹⁾。今回われわれは、下腹部に発生した BMMP の1例を経験したので報告する。

I. 症例

患者：50歳代、女性

主訴：右下腹部痛

既往歴：左鼠径ヘルニア、甲状腺乳頭癌、左乳腺腫瘍、右卵巣嚢腫

家族歴：姉、卵巣癌（詳細不明）

現病歴：1ヶ月ほど前より右下腹部痛が出現し、精査のため当院産婦人科紹介受診となった。来院時の血液検査では特記すべき所見はなかった。腹部超音波検査では、腹腔内正中～右側尾側に嚢胞性病変を認めた (図1A)。卵巣由来の印象だが、原発巣はエコー上、同定困難であった。腹部MRI検査では、腹腔内尾側右方優位に広がる多房性腫瘤を認めた (図1B)。正常卵巣が同定困難であったため、卵巣由来も否定できないが、虫垂や腹膜由来も鑑別にあげられた。腹部CT検査では、膀胱の腹側に多房性嚢胞性病変を認めた。いずれの画像診断においても原発巣の同定は困難であり、開腹術を実施した。大網と膀胱腹膜に癒着する多房性嚢胞性病変を認め、腫瘍、大網、子宮両側付属器切除を行った。

病理所見

1. 肉眼所見：大網表面に小型の嚢胞を多数認めた (図2)。嚢胞の大きさは直径数mmから2-3cmのものまで大小様々であった。嚢胞内には、透明な漿液性物質が充満していた。充実性部分は認めなかった。
2. 細胞所見 (腫瘍捺印標本)：パパニコロウ染色において、類円形核をもち、核中心性を示す中皮様細胞をシート状集塊で認めた。集塊内に重積は目立たず、一部で核小体を認めたが、核形不整やクロマチン増量などの悪性を示唆する所見はみられなかった (図3)。ギムザ染色においても同様の細胞像を認め、胞体は少し厚みがあり、一部で好塩基性を示した。
3. 組織所見：嚢胞壁は線維性結合組織からなり、嚢胞間には浮腫状の間質を認めた。嚢胞内腔は立方状あるいは扁平な中皮様細胞に被覆されており、個々の細胞の異型性は乏しかった (図4)。嚢胞内に充満する漿液性物質はコロイド鉄染色 (+), PAS 染色 (+) を示した。

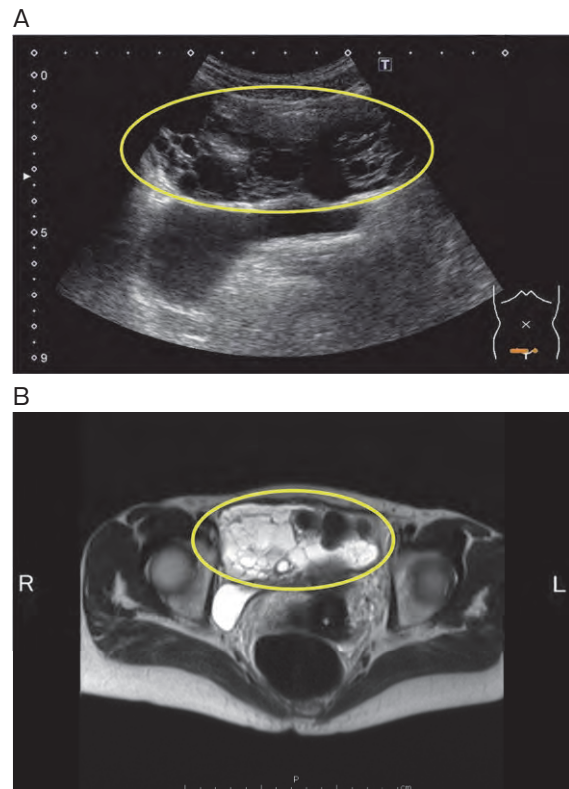


図1 画像検査所見 A) 腹部超音波検査 下腹部正中～右側に嚢胞性病変を認める B) 腹部MRI検査 下腹部右優位に広がる多房性腫瘤を認める



図2 大網表面に小型の嚢胞を多数認める。嚢胞内に漿液性物質が充満している

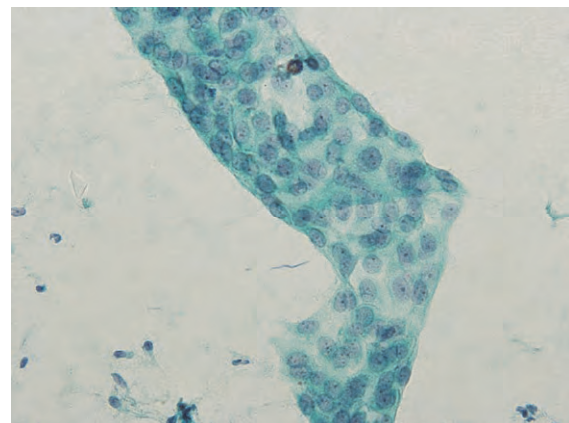


図3 パパニコロウ染色像 異型のない中皮様細胞をシート状集塊で認める。一部に小型核小体がみられる

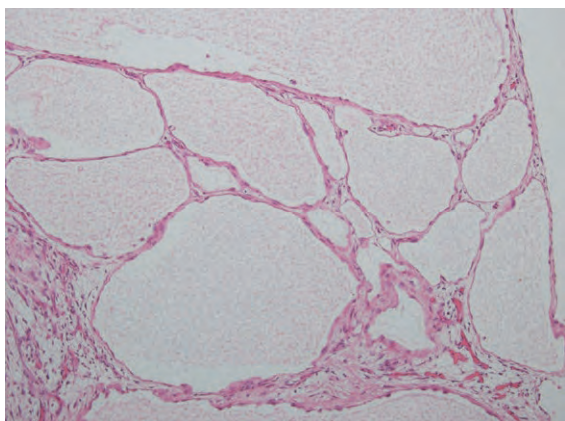
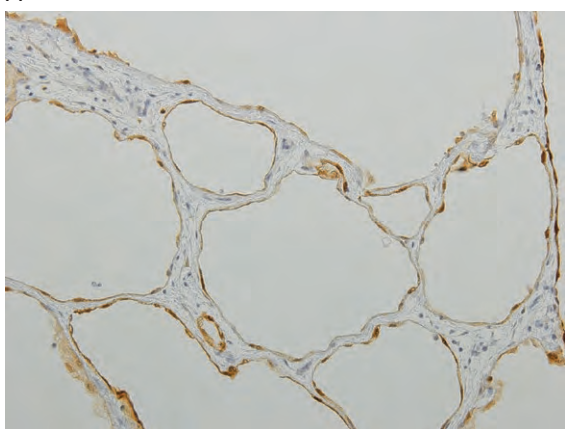


図4 HE染色像
大小多数の嚢胞形成を認める。嚢胞内腔は単層の中皮様細胞に被覆されており、個々の細胞に異型性はみられない

A



B

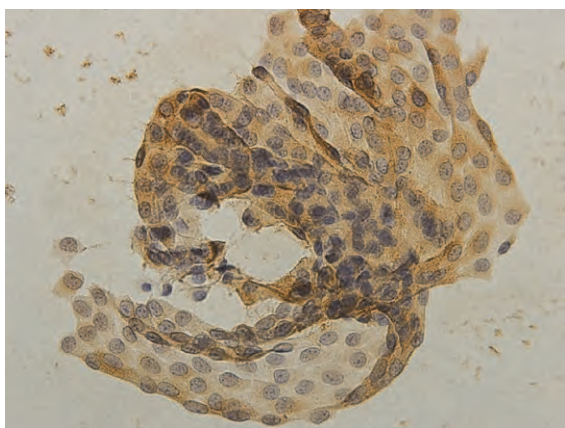


図5 免疫染色像 A) Calretinin 陽性 B) 腫瘍捺印細胞診標本。Calretinin 陽性

4. 免疫染色所見：嚢胞壁を構成する細胞に calretinin(+) (図 5A), D2-40(+) となり、捺印細胞診標本においても中皮様細胞に calretinin(+) となった (図 5B)。

以上の所見から、BMMP と診断した。

術後経過：術後合併症なく退院し、約 10 ヶ月後の時点で腫瘍の再発はみられない。症状再燃もみられず、経過良好である。

II. 考察

中皮腫の多くは胸膜原発であり、腹膜原発のものは全体の約 4 分の 1 にすぎない。さらに腹膜中皮腫は、びまん性悪性型がほとんどを占め、中年男性に多いことが知られている¹⁾。中皮腫の中でも BMMP は非常にまれな疾患で、1979 年に Mennemeyer と Smith によって初めて報告された²⁾。

BMMP は比較的若年～中年に多く発生し、男女比では圧倒的に女性に多いといわれている³⁾。発生部位としては、骨盤内や大網表面に好発することが報告されている⁴⁾。臨床症状は、腹痛や腫瘍触知で、疾患を特定するような特異的の症状はみられない⁵⁾。治療法は確立されていないが、外科的切除が基本であり、比較的生命予後は良いとされている^{6,7)}。その一方で、約半数に再発をみるため、長期経過観察が重要である⁴⁾。

発生機序は不明だが、反応性と腫瘍性の 2 つの説が提唱されている。反応性説では、BMMP において開腹術、子宮内膜症、骨盤内炎症の既往のある症例が多く、組織学的にも炎症所見を認めることから、慢性刺激が発生に関与すると考えられている³⁾。一方、腫瘍性説では、緩徐に増大し、多くの症例で再発を認め、悪性転化例もみられること、嚢胞性とびまん性組織の混在例があることなどから、腫瘍性疾患であると考えられている⁸⁾。一般的に中皮腫の病因としてアスベストとの関連が報告されているが、BMMP ではアスベストとの関連は否定的である^{5,8)}。

画像診断では、特徴的な所見がないため、ほかの嚢胞性疾患との鑑別が難しく、BMMP の診断には病理組織診断が必要不可欠である。

病理組織学的に、BMMP は大小多数の嚢胞より成っており、内部には漿液性物質が充満している。嚢胞は 1 層の中皮様細胞からなり、個々の細胞に異型性は認めないのが特徴である^{9,10)}。嚢胞間には炎症細胞を認め、一部で扁平上皮化生細胞を認める症例も報告されている¹¹⁾。本症例では、中皮細胞に被覆された多数の嚢胞をみる、典型的な所見がみられたが、扁平上皮化生細胞の存在は確認されなかった。

組織所見に対し、細胞所見の報告はきわめて少ない。

山田ら¹⁾、山口ら¹²⁾、Assayら¹¹⁾は、BMMPの腹腔洗浄液において、単調な異型のないシート状中皮細胞を認めた。細胞所見においても、扁平上皮化生細胞を認めることがあり、診断の一助になるのではないかと考えられている。また、DevaneyらによってFNA検体の細胞所見も報告されており、腹腔内洗浄液同様に、異型のない中皮細胞集塊を認めるとされたが、小型の核小体を持つという新たな所見が報告された¹⁰⁾。

これまで捺印標本の細胞像について言及している報告はないが、本症例では、捺印標本の細胞像について検討できた。本症例の捺印標本の細胞像もこれまでの報告に類似しており、異型のない中皮様細胞をシート状集塊で認めた。扁平上皮化生細胞は認めなかったが、小型の核小体が確認できた。ギムザ染色像についての報告は少ないが、本症例では好塩基性で少し厚い胞体を有する中皮様細胞が確認できた。パパニコロウ染色、ギムザ染色ともに、典型的な中皮細胞の細胞像が確認された。

また、BMMPの診断においては、いくつかの特殊染色、免疫染色が有用であるといわれている。嚢胞内腔を被覆する細胞はcalretinin, cytokeratin, vimentin, MNF116などで陽性となることが報告されている^{10,13)}。特に、calretinin(+)を示すことで、中皮由来であることを確認することが診断において重要である。本症例では、calretinin(+)に加えて中皮系マーカーであるD2-40(+)も確認でき、中皮由来の細胞であると考えられた。また、嚢胞内に充満した漿液性物質はコロイド鉄染色(+), PAS染色(-)であることが報告されている^{5,6)}。本症例もこれまでの報告と同様にコロイド鉄染色(+), PAS染色(-)が確認された。

前述したように、BMMPは画像診断での鑑別が難しく、病理組織診断における鑑別が重要である。鑑別を要する良性疾患としては、嚢胞性リンパ管腫、卵管内膜症、子宮内膜症、後腹膜を含むミュラー嚢胞、嚢胞性腺腫様腫瘍、嚢胞性中腎管遺残などが挙げられる。また、悪性疾患で鑑別を要するものは、悪性中皮腫や腹膜を含む漿液性腫瘍などがある^{7,12)}。この中でも嚢胞性リンパ管腫は、臨床的にも組織学的にも最も鑑別が難しく、問題となる¹⁰⁾。臨床的には、BMMPが女性に多いのに対し、嚢胞性リンパ管腫は約3/4が男性に発生し、50%以上は5歳未満の子供に発生する。さらに、BMMPは約半数で再発するのに対し、嚢胞性リンパ管腫での再発は少ないとされている¹³⁾。BMMPの細胞像は、異型のない中皮様細胞をシート状集塊で認め、時に扁平上皮化生細胞をみることが特徴である。それに対して嚢胞性リンパ管腫では、多数の小型リンパ球と、それに混在して大型リンパ球を認める。大型リンパ球は、リンパ濾胞の胚中心由来と考えられ、リン

パ装置の形成を示唆する重要な所見であり、BMMPとの鑑別において有用な所見である¹⁴⁾。組織学的所見としては、前者では、嚢胞内腔が一層の扁平もしくは立方状の中皮細胞で覆われており、免疫染色にて上皮系マーカーのcytokeratinや中皮細胞系マーカーのcalretininが陽性を示す。一方、後者では、嚢胞を覆う細胞は中皮細胞ではなく内皮細胞であるため、血管内皮系マーカーのFactor VIIIやCD31などが陽性を示す⁴⁾。本症例でも中皮細胞系マーカーのcalretinin, D2-40陽性を確認したことにより、BMMPの確定診断につながった。BMMPは、時に他の嚢胞性疾患との鑑別が困難であるが、免疫染色を活用することで正確な診断を行うことができると考えられる。

III. 結語

今回、下腹部痛を契機に発見されたBMMPの1例を経験した。非常にまれな疾患であるが、臨床所見も考慮して、腹部の多房性腫瘍においては、鑑別にあげる必要があると考える。

文 献

- 1) 山内直子, 鹿島健司, 宇於崎宏, 他: 多嚢胞性腹膜中皮腫の1例. J Jpn Soc Clin Cytol 38: 619-620, 1999
- 2) Mennemeyer R, Smith M: Multicystic, peritoneal mesothelioma. A report with electron microscopy of a case mimicking intra-abdominal cystic hygroma (Lymphangioma). Cancer 44: 692-698, 1979
- 3) Ross MJ, Welch WR, Scully RE: Multilocular peritoneal inclusion cysts (So-called cystic mesotheliomas). Cancer 64: 1336-1346, 1989
- 4) 影山優美子, 坂本裕彦, 古賀 聡, 他: 腹部手術後に発生した良性多嚢胞性腹膜中皮腫の2例. 日臨外会誌 78: 836-841, 2017
- 5) Katsube Y, Mukai K, Silverberg SG: Cystic mesothelioma of the peritoneum. A report of five cases and review of the literature. Cancer 50: 1615-1622, 1982
- 6) Villaschi S, Autelitano F, Santeusano G, et al: Cystic mesothelioma of the peritoneum. A report of three cases. Am J Clin Pathol 94: 758-761, 1990
- 7) Safioleas MC, Constantinou K, Michael S, et al: Benign multicystic peritoneal mesothelioma: A case report and review of the literature. World J Gastroenterol 12: 5739-5742, 2006
- 8) Weiss SW, Tavassoli FA: Multicystic mesothelioma. An analysis of pathologic findings and biologic behavior in 37 cases. Am J Surg Pathol 12: 737-746, 1988

- 9) Moore JH, Crum CP, Chandler JG, et al: Benign cystic mesothelioma. *Cancer* 45: 2395-2399, 1980
- 10) Devaney K, Kragel PJ, Devaney EJ: Fine-needle aspiration cytology of multicystic mesothelioma. *Diagn Cytopathol* 8: 68-72, 1992
- 11) Assaly M, Bongiovanni M, Kummar N, et al: Cytology of benign multicystic peritoneal mesothelioma in peritoneal washings. *Cytopathology* 19: 224-228, 2008
- 12) 山口直則, 濱田新七, 岸本光夫, 他: ダグラス窩に認められた両性多嚢胞性中皮腫の1例. *J. Jpn. Soc. Cytol* 49: 221-222, 2010
- 13) 竹本圭宏, 藤岡顕太郎: 鼠径部に発生した良性多嚢胞性腹膜中皮腫の1例. *日臨外会誌* 70: 2521-2524, 2009
- 14) 佐藤隆夫, 今野元博, 窪田昭男, 他: 組織学的に嚢胞状リンパ管腫と診断された腸間膜嚢腫の1例. *J Jpn Soc Clin Cytol* 32: 557-561, 1993

(受付 2019年8月12日、採択 2019年12月20日)

IV. 医 療 研 究 報 告

IV. 医療研究報告

IV. 1 長崎大学大学院熱帯医学修士コースへの国内留学に関する報告

藤井 宏^{1,2)}

¹⁾神戸市立医療センター西市民病院 呼吸器内科

²⁾長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科

要 旨

私は2012年10月から1年間長崎大学大学院熱帯医学修士コースで学び、無事修了できた。本稿では、長崎大学での生活、修士論文の内容、そして既報のベトナムの乳幼児の肺炎球菌の薬剤耐性に関する研究の内容について紹介する。

キーワード：熱帯医学修士過程、長崎大学、肺炎球菌、薬剤耐性、ベトナム

(神戸市立病院紀要 58:27 - 32, 2019)

A report on studying Master's course in Tropical Medicine at the Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki University

Hiroshi Fujii^{1) 2)}

¹⁾ Department of Respiratory Medicine, Kobe City Medical Center West Hospital, Kobe, Japan

²⁾ Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki University, Nagasaki, Japan

Abstract

I have successfully completed one-year Master's course in Tropical Medicine, which I started in October 2012, at the Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki University. Here, I report my experiences during the Master's course that include a life at Nagasaki University, the master's thesis, and our research paper on a high rate of antimicrobial resistance of *Streptococcus pneumoniae* among Vietnamese infants.

Key words: Master's course in Tropical Medicine, Nagasaki University, *Streptococcus pneumoniae*, antimicrobial resistance, Vietnam

(Kobe City Hosp Bull 58: 27 - 32, 2019)

はじめに

私は市民病院機構のご好意で2012年10月から1年間長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（長崎大学熱帯医学研究所（図1））に国内留学させていただいた。その後半年間の長崎大学病院での勤務と、4年間の大学院生活を経て、2018年4月から西市民病院呼吸器内科に復帰しているが、いまだ博士課程に在籍し研究も半ばである身で、このような報告をすべきか迷っていた。ようやく2019年3月に研究内容の一部を発表できたので、大学の紹介を兼ねて報告したい。



図1 長崎大学熱帯医学研究所

I 長崎大学大学院熱帯医学修士（MTM）について

私が長崎大学で学んだのは、熱帯医学を学びたい医師のための1年間の過程で、2年以上の臨床経験を有する医師を対象としている。学生数は少人数で、講義などはすべて英語で行われる。海外からの留学生が多く、自分が学んだときの人数構成は、留学生5名（マリ2名、ベニン1名、ベトナム1名、アフガニスタン1名）、日本人3名であった（図2）。ほとんどの科目で試験が課されたが、講義はビデオ収録され、復習や試験勉強のため、閲覧することが可能で、英語が聞き取れず、内容の理解があやふやなときなど、たいへん重宝した。



図2 MTMの授業風景

コースの内容について予備知識がほとんどないまま、病院における感染制御に少しでも役に立てばと、熱帯感染症に関する知識の習得のみを念頭に入学してみると、テーマを決めて研究を行い、修士論文にまとめなければいけないことをあとで知ることとなった。他の学生はすでに数か月かけて指導教官とやりとりをし、研究の準備がはじまっていたが、私の場合、入学が決まったのが入学のたった2週間前で、時間が非常に限られていた。コーディネーターの佐藤光助教に、「自分は感染制御活動を通じて抗菌薬耐性に興味がある」と伝え、臨床感染症学分野（熱研内科）の有吉紅也教授にお世話になることとなった。

II 修士課程のはじめの2か月（2012年10～11月中旬）

この時期は、疫学・統計、免疫学、研究倫理など、研究を行う基礎となる科目の講義にあてられた。グループ討論・発表では、外国人との共同作業となるので、少しずつ異なる背景・文化をもつ人とのコミュニケーションの方法を学んでいくことができる。学外でクラスメートとの飲み会もあったが、店の選択や食事内容は、ムスリムのクラスメートに配慮したものとなった。

III 研究期間（2012年11月下旬～2013年3月）

所属した教室は、ベトナム中部に位置するニャチャン市にフィールドを持ち、小児感染症のサーベイランスが続けられている。研究テーマを決める準備期間が自分にはほとんどなかったが、有吉教授から「ベトナムの健康な子どもから分離された肺炎球菌の薬剤感受性を調べたら、カルバペネムを含め、非常に耐性率が高かったので、これをテーマにしてみてもいい」と言っていた。時間は限られていたが、MTM出身でネパール人のBhim Gopal Dhoubhadelさん（当時は博士課程の大学院生、現在は助教）の多大なる支援・助言のもと研究計画書をまとめ、12月中旬に教授の了解を得ることができた。肺炎球菌のベータラクタム薬耐性は、抗菌薬の結合部位であるペニシリン結合蛋白（PBP）遺伝子の変異で起こることから、PBPの塩基配列を決定することが目的の1つとなった（図3）。細菌培養のための培地の作成、肺炎球菌の培養、DNA抽出、DNAシーケンスなど、はじめてのことばかりだったが、渡邊貴和雄助手、ベトナム人大学院生のMinh Nhat Leさん、MTMの先輩で大学院生の島崎貴治さんらに教えていただきながら、実験をすすめることができた。

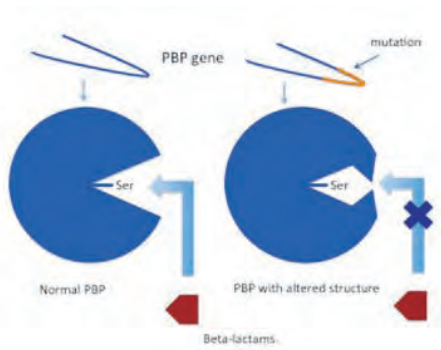


図3 肺炎球菌におけるペーラクタム薬耐性のメカニズム

3月上旬に1週間ほどであったが、研究のフィールドであるベトナムを訪問する機会を与えられた。首都のハノイでは、ベトナム国立衛生疫学研究所 (NIHE)、バックマイ病院 (図4)、またカインホア省ニャチャン市では、カインホア総合病院、パスツール研究所 (図5)、カインホア保健省オフィスなどを訪れた (図6)。



図4 ハノイのバックマイ病院にて



図5 ニャチャン市にあるパスツール研究所にて



図6 重症患者の診療にあたるベトナム人スタッフ

ベトナムでは入院患者に設備が追いつかず、1つのベッドを複数の小児入院患者で共用している光景が当たり前にもみられた。病院食は提供されず、家族が持参したものを喫食しているとのこと。身寄りのない患者には、スタッフなどの寄付で購入して与えるとのことであった。町の薬局に行き、処方箋なしに抗菌薬を購入できるか試してみたが、問題なく購入できた。

IV 臨床熱帯医学の講義期間 (2013年4月～6月)

とくに学びたかった臨床の内容が行われるのがこの時期である (図7)。

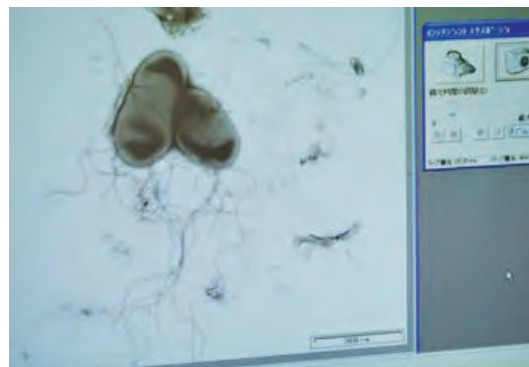


図7 電子顕微鏡の実習風景

臨床医である自分にとって、テレビ会議システム（図8）を利用してベトナム・バックマイ病院もしくはフィリピン・サンラザロ病院の医師に症例提示していただき、鑑別診断をあげて進めていく症例検討の時間が、もっとも興味深いものであった。ロンドン大学ロビン・ベイラー教授のスライド写真による臨床クイズもおもしろい講義の一つだった。講義期間のあと、約1週間の準備期間を経て、学科試験が行われた。卒業のためには、原虫学、寄生虫学（蠕虫）、細菌学、ウイルス学、臨床医学のすべての学科に合格する必要があったが、幸い再試験なくパスすることができた。



図8 テレビ会議システムによる症例検討

V 修士論文の作成そして発表（2013年7～9月）

試験が終わり、約1か月で修士論文を書き上げなければならなかった。論文のタイトルは、”Genetic analysis of beta-lactams-resistant *Streptococcus pneumoniae* colonized among healthy children in central Vietnam” になった。そして、(a) 検討した10株のベータラクタム薬低感受性株すべてで、PBPに既知の変異が見られた、(b) とくにカルバペネム薬に耐性傾向のある血清型19Fの肺炎球菌株では、PBP-2BのC末端側に特有の変異の集積がみられ、(c) これまでの報告によると、その集積は耐性緑色連鎖球菌 (*S. mitis*) から遺伝子の水平伝播で獲得されたものであろうと結論した。

耐性株の遺伝型については、まだその内容を論文化できていないことから、修士論文の内容の提示はこれだけにとどめたい。一方、研究を行うきっかけとなった薬剤耐性の状況については論文化できたので、後ほど第7節で述べたいと思う。

VI 修士課程が終わって

すぐに西市民病院に復帰することも考えたが、諸事情でそのまま長崎に残ることとなった。約半年間、長崎大学病院の熱研内科（感染症内科）に医員として勤務した。感染制御部に所属したわけではなかったが、院内の感染予防キャンペーンに参加したり、渡航外来で渡航前ワクチン接種を行ったりした。2014年4月から博士課程（医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学）に進学した（図9）。



図9 長崎大学病院にて

VII ベトナムの乳幼児から分離した肺炎球菌の血清型分布と薬剤耐性¹⁾

執筆者の一人として、データの解析や論文の作成に関わった研究の内容について、ここに紹介する。

1 背景

肺炎球菌は、上気道感染症から髄膜炎・菌血症など重症の感染症まで、さまざまな感染症の原因となる重要な病原細菌の1つであり、世界中で年間およそ40万人の乳幼児が肺炎球菌感染症で亡くなっている。その8割がアフリカ、東南アジアの子どもたちであり、低所得国の子どもたちに対しては先進国の援助で肺炎球菌ワクチンの接種が実施されている。一方、ベトナムは中所得国であるため、現時点では肺炎球菌ワクチンの定期接種化が実施されていない。

ベトナムにおいて肺炎球菌のペニシリン耐性やマクロライド耐性がきわめて高率であることは、いくつかの先行研究で明らかにされているが、それらは国勢調査のデータに基づいて無作為に研究対象者を拾い上げる地域ベースの研究ではなかった。地域ベース研究で、ベトナムの5歳以下の乳幼児の鼻咽頭に定着する肺炎球菌の血清型分布と薬剤感受性率のパターンを明らかにすることを目的として本研究

を行なった。

2 研究方法

本研究は、2008年4月から2009年3月にかけて、ベトナム中部に位置するニャチャン市で実施された。ニャチャン市における唯一の小児入院施設であるカインホア総合病院に急性呼吸器感染症で入院した乳幼児の鼻咽頭スワブ検体を採取した。一方、ニャチャン市の16地区のうち2地区に住む乳幼児で、1か月以内に抗菌薬治療を受けていない健康な乳幼児からも、鼻咽頭スワブ検体を採取した。こうして収集したスワブ検体から肺炎球菌分離を試み、薬剤感受性、血清型分布を検討した。

3 結果

健康小児331名、急性呼吸器感染症患児552名から、鼻咽頭スワブを採取した。肺炎球菌は、健康小児の28.7%、急性呼吸器感染症患児の36.6%から分離された。背景因子のうち、6か月以上1歳未満の児（1歳以上と比較）と保育所通いの2つの項目が有意に肺炎球菌分離と関連した。分離された肺炎球菌（ $n=295$ ）の非感受性率（I+R）は、ペニシリンが18.0%、第3世代セフェム薬であるセフォタキシムが25.8%、カルバペネム薬のメロペネムが75.6%であった。この3剤にすべて低感受性である肺炎球菌の検出は、血清型19F（オッズ比4.23）、保育所通いの子ども（オッズ比2.56）で有意に高率であったが、先行する抗菌薬使用とは関連を認めなかった。3剤すべてに低感受性である肺炎球菌株のおよそ9割が、現在日本で接種されている13価結合型ワクチンに含まれる血清型を示しており、13価結合型ワクチンの接種により、薬剤耐性化肺炎球菌感染症を減らすことができる可能性がある。

4 結論と本研究の意義

広域抗菌薬に感受性の低下した肺炎球菌がベトナムの一部市中で蔓延していることが確認された。抗菌薬の過剰使用が、耐性化の原因となった可能性がある。しかしながら、肺炎球菌は呼吸器病原体であることから、その株が感受性であろうとなかろうと、飛沫を通じて健康な子どもにも伝播し定着する。したがって、本研究で低感受性株の検出が抗菌薬の使用歴に無関係であったことは、全く矛盾する結果ではないと考えている。低感受性株の検出が保育所通いに関連していたことは、子ども同士の接触が保育所では濃厚なためと予想される。

個人レベル・地域レベルの抗菌薬曝露が非感受性肺炎球菌株検出のリスク因子であるという報告は、

数多存在しているが、抗菌薬処方規制が肺炎球菌の非感受性株減少をもたらすという明確な証拠は（少なくとも抗菌薬規制単独では）乏しいようである²⁾。これは、それを証明するための研究手法の難しさに起因するのかもしれない。耐性菌対策では、家畜動物における抗菌薬乱用対策も含めた包括的で全世界的な取り組みが必要とされている。

抗菌薬の選択圧は耐性菌の生き残りに有利とされ、逆に抗菌薬適正使用下では、適応に払う犠牲（フィットネス・コスト）のため耐性菌に不利になり、感受性菌に置き換わっていく。しかしながら、結合型ワクチン未導入状態では、莢膜血清型分布の経時的変化は大きいものではなく、今回の研究では遺伝子レベルでPBP変異のない肺炎球菌株（ペニシリン感受性株）は2.4%にすぎず、そのすべてが少数派の血清型（23A, 29, 34ほか）であった。さらに、医療資源の限られる途上国では検査が十分にできず重症化する疾患と特段の治療なしに自然治癒する疾患との鑑別が必ずしも容易ではないという現実も、抗菌薬過剰使用の要因となっている³⁾。したがって、ベトナムにおける肺炎球菌の薬剤感受性率の回復には、肺炎球菌ワクチンの導入を待たねばならないであろうと推測する。

VIII 現在の長崎大学と今後

熱帯医学修士過程は、現在熱帯医学・グローバルヘルス研究科の専攻課程となり、この分野で世界をリードしているロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（LSHTM）との連携で、より高度な内容となっている。博士後期課程についても、グローバルヘルスの世界で活躍できる人材の育成のため、長崎大学-LSHTM国際連携グローバルヘルス専攻が設置され、国際共同研究の中で、両大学院の教官による指導が行われている。また長崎大学では、エボラ出血熱などの高リスク病原体による感染症から社会を守るといった目的から、バイオセーフティーレベル4（BSL-4）施設の設置が決まり、現在工事が行われている。

IX 最後に

進学にあたって市民病院機構から多大なるご支援を賜りましたことを深く感謝しております。また突然の進学となり、富岡部長をはじめ、呼吸器内科のスタッフ、当時の石原院長にはたいへんご迷惑をおかけしました。

文 献

- 1) Nguyen HAT, Fujii H, Vu HTT, et al: An alarmingly high nasal carriage rate of *Streptococcus pneumoniae* serotype 19F non-susceptible to multiple beta-lactam antimicrobials among Vietnamese children. BMC Infect Dis 19:241, 2019
- 2) Guillemot D, Varon E, Bernède C, et al: Reduction of antibiotic use in the community reduces the rate of colonization with penicillin G-nonsusceptible *Streptococcus pneumoniae*. Clin Infect Dis 41:930-938, 2005
- 3) Do NTT, Ta NTD, Tran NTH, et al: Point-of-care C-reactive protein testing to reduce inappropriate use of antibiotics for non-severe acute respiratory infections in Vietnamese primary health care: a randomised controlled trial. Lancet Glob Health 4:e633-e641, 2016

(受付 2019年8月12日、採択 2019年12月20日)

V. C P C 報 告

V. CPC 報告

V. 1 CPC 報告(2018年4月～2019年3月) (中央市民病院)

第1回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ：胃癌化学療法中に四肢脱力と呂律障害、視力低下で発症した癌性髄膜炎の1例

2. 診療科、主治医・受持医：腫瘍内科 石井淳子、緒方貴次、佐竹悠良、安井久晃

3. CPC開催日：2018年4月18日

4. 発表者：臨床側（緒方貴次、前川和輝）
病理側（毛利太郎）

5. 患者：67歳、女性

6. 臨床診断：胃癌 stage IV

7. 剖検診断：1. 胃癌（幽門部 8.3x7.6cm 大3型；StageIV, por>sig）（化学療法後状態）
2. 両側誤嚥性肺炎（グラム陽性球菌）（右：765g, 左：401g）

8. 臨床情報：

1) 現病歴

X-8か月 左乳房腫瘍を主訴に前医受診。

X-7か月 乳腺原発の悪性腫瘍が疑われたため、化学療法先行の方針でパクリタキセル療法を開始した。左乳房腫瘍は増大傾向にあり、頭皮に多発する腫瘍と左頸部リンパ節の腫大も認めるようになった。化学療法開始前の血液検査で貧血の進行を認め、上部消化管内視鏡検査の結果、胃体部に Borrmann 分類 3 型 (por) を指摘され、精査加療目的で当院腫瘍内科に紹介。

X-6か月 胃癌 Stage IV の診断で、S-1/オキサリプラチン併用 (SOX) 療法を開始した。治療経過評価目的 CT では、X-4か月の CT と比較して漿膜外進展を伴う胃壁の肥厚性腫瘍は軽度縮小、左鎖骨上窩リンパ節転移・肝転移・後腹膜転移はいずれも縮小した。3コース後 PR と判断された。

X-7日 四肢脱力と歩行時のふらつき、呂律障害を自覚するようになった。

X日 四肢脱力と呂律障害を主訴に当院救急外来を受診し、精査目的で入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

特記事項なし

3) 診察所見

身長 157cm、体重 52.7kg、BMI 21.4、血圧 138/80 mmHg、脈拍 80 / 分・整、呼吸数 16 / 分、体温 36.7°C

4) 主な検査データ

血算：

WBC $13.2 \times 10^3 / \mu\text{L}$, Hb 12.3 g/dL, MCV 89 fL, Plt $20.7 \times 10^4 / \mu\text{L}$, PT-INR 1.07, D-dimer 8.30 $\mu\text{g/mL}$
生化学：

TP 5.3 g/dL, Alb 2.3 g/dL, Glob 3.0 g/dL, T-Bil 1.5 mg/dL, AST 77 U/L, ALT 45 U/L, LD 783 U/L, CK 927 U/L, Amy 50 U/L, BUN 21.2 mg/dL, Cre 0.39 mg/dL, Na 140 mEq/L, K 3.9 mEq/L, Ca 8.3 mg/dL, Glu 118 mg/dL, CRP 2.90 mg/dL

腫瘍マーカー：

（入院6か月前）CEA 0.9 ng/mL, CA19-9 2.3 U/mL, CA125 50.7 U/mL

（入院4日前）CEA 2.5 ng/mL, CA19-9 7.1 U/mL, CA125 224.7 U/mL

髄液：（第2病日，L3/4より穿刺）

淡黄色透明，日光微塵 (+)，初圧 350 mmH₂O，終圧 120 mmH₂O

蛋白 155 mg/dL, Glu 38 mg/dL, Cl 117 mEq/L, 細胞数 80 / μL , 単核球 79 / μL , 多核球 1 / μL , RBC 5 / μL , sIL-2R 74 U/mL, IgG 27.7 mg/dL, Alb 103 mg/dL, オリゴ陰性, MBP <31.3 pg/mL, CMV <100 copy/mL, EBV <100 copy/mL, HSV <100 copy/mL, VZV-DNA <100 copy/mL, ADA 4.0 U/L, 単核球の一部に腫瘍細胞様あり

5) 画像診断所見

胸部レントゲン（第1病日）：両肺野に異常所見を認めず

頭部 MRI（第1病日）：

DWI, 異常所見なし FLAIR, 脳幹周囲や小脳溝に高信号域あり。右中心前回も髄膜がやや肥厚 T2*, 異常所見なし MRA, 主幹動脈の描出良好
造影 MRI（第2病日）：

小脳の表面，視神経周囲（特に左），内耳道，三叉神経などの enhancement は癌性髄膜炎を反映した所見

全脊椎 MRI (第 2 病日) :

主として馬尾に enhancement が見られ癌性髄膜炎を反映した所見。L1 には骨転移あり。腹水貯留 (+)、癌性腹膜炎の可能性あり。

6) 経過・治療

左優位の筋力低下、視力低下、構音障害が出現し、左舌萎縮、挺舌で左に偏奇、左横隔膜挙上も認められた。癌性髄膜炎が疑われ、第 2 病日に髄液検査および頭部/全脊椎造影 MRI が施行された。髄液の細胞診では腺癌が認められた。頭部/全脊椎造影 MRI の所見と合わせて胃癌からの癌性髄膜炎が最も疑わしいと考えられた。患者は積極的な延命治療は希望されず、緩和治療のみを施行する方針となった。入院後、急速に病状は進行して傾眠傾向となった。その後誤嚥性肺炎によると考えられる発熱が持続し、第 12 病日に死亡に至った。

7) 手術所見

なし。

8) 症例の問題点 (剖検で解明したかった事項)

- (1) 視力低下は癌性髄膜炎によるものか?
- (2) 呼吸困難、誤嚥の原因は延髄など脳幹への腫瘍細胞の播種が原因か? 癌性リンパ管症に伴う呼吸困難出現の可能性は?
- (3) 発熱の原因は誤嚥性肺炎でよいか?

9. 剖 検 情 報 :

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

- (1) 胃癌 (幽門部 8.3x7.6cm 大 3 型 ; Stage IV, por>sig) (化学療法後状態)
遠隔転移 : 肝、乳房、膵臓 (膵頭部)、左室壁、左副腎、右腸骨、大脳、中脳、橋、小脳
リンパ節転移 : 膵頭部リンパ節
- (2) 両側誤嚥性肺炎 (グラム陽性球菌) (右 : 765g, 左 : 401g)

<副病変>

- (1) ショック肝 (1030g)
- (2) 多発子宮漿膜下筋腫
- (3) 消化管粘膜出血 (上行結腸、直腸 ; 軽度)
- (4) 大動脈粥状硬化症 (軽度)

2) 担当病理医 : 毛利太郎

3) 病理医からのコメント

栄養状態不良な女性。肉眼所見では、胃癌の多発転移と肺炎が確認された。胃癌は幽門部を主座とし、肝、髄液、膵頭部、左室壁、左副腎、付属

リンパ節に転移していた。子宮体部や卵巣にも転移が疑われた。両側肺には楔状の白色調の病変が見られた。誤嚥性肺炎を第一に疑ったが、胃癌の肺転移や癌性リンパ管症を伴っている可能性も否定できなかった。

組織学的には、胃原発の腺癌 (por>sig) を認め、多臓器転移、多発リンパ節転移が観察された。遠隔転移は肝、乳房、膵頭部、左室壁、左副腎、右腸骨、髄液、脳らにみられ、リンパ節転移は付属リンパ節に加えて、膵頭部リンパ節への転移が認められた。髄液中に充満した腺癌が脳表にわずかに浸潤している像も見られた。髄液中には印環細胞癌の成分がやや多く見られた。両側肺の肺胞腔には好中球とフィブリンが充満する細菌性肺炎が広範に拡がり、臨床的に誤嚥を繰り返していたことから、誤嚥性肺炎として矛盾しない所見と考えられた。肺胞内には細菌塊が観察され、グラム陽性球菌であった。肝臓では部分的に肝細胞の脱落が観察され、ショック肝の所見であった。その他、多発子宮漿膜下筋腫、消化管粘膜出血、大動脈粥状硬化症が認められた。

10. 考 察

両側誤嚥性肺炎が死への直接の転帰になった症例である。癌性リンパ管症の所見はみられなかった。胃癌は中枢神経系にも転移しており、視力低下も含めた多彩な神経症状の原因は腫瘍の転移と推察される。評価した範囲では延髄 (嚥下中枢) への腫瘍浸潤像はみられず、誤嚥と胃癌脳転移の関連ははっきりしない。経過中にみられた発熱は誤嚥性肺炎による。

11. 参 考 文 献

- 1) 高橋遍他 : 胃癌術後 2 年目に視力低下にて発症した髄膜癌腫症の 1 例, 日消外会誌 42:154, 2009

【症例 2】

1. 症 例 テ ー マ : AML 治療中に血球減少が遷延し発熱、酸素化が悪化し死亡に至った 55 歳男性の 1 例
2. 診療科、主治医・受持医 : 血液内科 藪下知宏、田中 淳、米谷 昇、平本展大、石川隆之
3. CPC 開催日 : 2018 年 4 月 18 日
4. 発 表 者 : 臨床側 (田中 淳、西浦直紀)

病理側 (山下大祐)

5. 患者 : 55 歳、男性
6. 臨床診断 : 急性骨髄性白血病、肺アスペルギルス症
7. 剖検診断 : 急性骨髄性白血病、アスペルギルス肺炎、粟粒結核
8. 臨床情報 :
- 1) 現病歴
- 以前から職場検診で貧血指摘されており、入院 8 か月前に近医受診。溶血性貧血と判断されるも、精査はされなかった。入院 4 か月前にめまい、筋肉疲労などの症状を自覚、入院 1 か月前に近医での採血で汎血球減少、芽球を指摘され、入院加療を勧められる。自宅近傍の当院での精査加療を希望し、紹介受診となった。
- 2) 既往歴・家族歴など
- 特記事項なし
- 3) 診察所見
- 体温 36.8℃、心拍数 77/min、血圧 136/88mmHg、眼瞼結膜蒼白、心音 : 収縮期雑音あり、呼吸音 : 清
- 4) 主な検査データ
- 血算 :
- WBC 1230/μL, RBC 17.6 万 / μL Hb 6.7g/dL, Ht 19.7%, MCV, 112fL, MCHC 34.0%, PLT 8.6/μL, Blast 21.0%, Promyelo 0.0%, Myelo 0.0%, Meta 0.0%, Band 0.02%, Seg 7.0%, Lymph 64.0%, Mono 0.5%, Eos 7.5%, Baso 0.0%, 総好中球 84/μl
- 生化学 :
- TP 6.9g/dL, ALB 3.7g/dL, GLOB 3.2g/dL, T-BIL 0.3mg/dL, D-BIL 0.1mg/dL, AST 11U/L, ALT 8U/L, LDH 322U/L, ALP 309U/L, γ-GTP 22U/L, CK 84U/L, BUN 11.8mg/dL, Cre 0.65mg/dL, UA 3.9mg/dL, Na 138mEq/L, 4.2mEq/L, Ca 8.9mg/dL, Glu 84mg/dL, CRP 3.13mg/dL, IgG 396mg/dL, IgA 135mg/dL, IgM 68mg/dL, HbA1c 5.5%
- 蛋白分画 :
- ALB 56.9%, α -1 4.6%, α -2 9.2%, B 11.1%, γ 18.2%
- HBs-Ag (-), Hbs-Ab(+), HCV-Ab(-), RPR(-), TP (-), HIV-AB(-), HBc-Ab(+)
- β -D<6.0mg/dL, アスペル AG(-)
- 凝固 :
- PT-INR 0.95, APTT 28.9 秒, Fib 592mg/dL, PIC 1.1 μg/mL, TAT 1.2ng/mL

骨髄 :

低形成髄、核の腫大伴う異形細胞, MPO+, 一部で CD34+

染色体 :

46,XY,+1,der(1;7)(q10;p10)[19]/45,idem,-17,-17,+mar[1], FISH p53(-)

遺伝子 :

WT-1(+;4967), IDH1+, CEBPA+

5) 画像診断所見

胸部 CT :

両肺下葉有意に結節影あり, 右肺 S6 縦隔側, 左肺上葉縦隔側に浸潤影あり, 肺気腫あり

6) 経過・治療

骨髄異形成症候群に関連した変化を有する急性骨髄性白血病 (AML with MDS-related changes [MRC]) と診断され、入院後 3 日目に寛解導入として IDR-AraC 開始された。寛解導入後に血球の立ち上がりが悪く、好中球数低値の状態が遷延した。10 日目に発熱が出現し、抗生剤開始。19 日目に発熱再燃し、左側胸部痛出現したため、抗生剤変更。20 日目に肺多発結節影が出現、深在性真菌症として抗真菌薬投与。23 日目にアスペルギルス抗原陽性となり、アムホテリシン開始。その後呼吸不全が進行し、55 日目に死亡した。

7) 手術所見

なし。

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

(1) 血球が回復しなかった原因

経過中に何度か骨髄穿刺再検しているが、芽球増加は同定できなかった。血球増加しなかったのは AML 再燃なのか? 背景の MDS による影響なのか?

(2) 呼吸不全の原因

9. 剖検情報 :

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

- (1) 急性骨髄性白血病 (寛解療法中)
- (2) アスペルギルス肺炎
- (3) 粟粒結核

<副病変>

- (1) 胸腹水貯留 (左胸水 :600ml, 右胸水 :400ml, 腹水 :1800ml)
- (2) 諸臓器うっ血および重量増加
- (3) Gastrointestinal stromal tumor (胃)

2) 担当病理医 : 山下大祐

3) 病理医からのコメント

死亡2ヶ月前にAML with MRC と診断され、寛解導入療法が開始された症例。死亡1ヶ月前のCT検査で肺多発結節が指摘された。アスペルギルス抗原陽性と合わせてアスペルギルス肺炎と診断、抗真菌剤の投与を開始。血球回復を待っていたが回復せず、全身状態が悪化。呼吸循環不全にて死亡。

肉眼的に両肺は含気が顕著に低下し、特に右肺では血管内に血栓も認め、呼吸不全の原因と考えた。下葉に結節が散見し、周囲リンパ節は著明に腫大。脾臓にも粒状結節が散見された。組織学的に肺ではアスペルギルスをグロコット染色で確認した。真菌の血管への侵襲は顕著で、血栓に多数の菌塊を認めた。骨髄では線維化を背景にFactor VIII陽性の異型細胞が増生しており、腫瘍の残存と考えた。腫瘍細胞は少数ながら肝類洞および脾臓に認めた。全身のリンパ節は腫大し、肝臓や脾臓に乾酪壊死が散見。一致して抗酸染色で赤染する抗酸菌を多数認め、粟粒結核と考えた。腫瘍径は肝臓、脾臓で1-2mm、リンパ節で数mmと小さく、死亡1-2週間前後での発症と考えた。

10. 考 察

骨髄では高度の線維化を背景に芽球が残存しており、このため血球が回復しなかったと考えられる。肺のアスペルギルス肺炎ならびに粟粒結核症は化学療法による日和見感染の結果である。悪性腫瘍では結核発症のリスクが高まるとされており、特に血液系悪性腫瘍は固形癌と比較すると結核発症・再燃のリスクが高い。また、化学療法そのものも結核発症のリスクとなりうるものであり、これらを背景に、本症例では粟粒結核が発症したと考えられる。AML with MRC は放射線や化学療法の治療歴がなく、1) MDS, MDS/MPN からAMLに移行したものの 2) MDSに関連する遺伝子異常を持つAML、3) 多系統の異形成を持つAML のうち少なくとも1項目以上を満たすものを指す。本症例は2) を満たしており、芽球増加がみられなかった点については、化学治療による影響が考えられ、芽球増殖が抑制されていたと推察する。

11. 参 考 文 献

- 1) Kaplan MH, et al: Tuberculosis complicating neoplastic disease. A review of 201 cases. Cancer 33: 850-858, 1974.
- 2) Libshitz HI, et al: Tuberculosis in cancer patients :

an update. J Thorac Imaging 12: 41-46, 1997.

- 3) De La Rosa GR, et al: Mycobacterium tuberculosis at a comprehensive cancer centre: active disease in patients with underlying malignancy during 1990-2000. Clin Microbiol Infect 10: 749-752, 2004
- 4) Kamboj M, et al: The risk of tuberculosis in patients with cancer. Clin Infect Dis 42: 1592-1595, 2006.
- 5) Brunning RD, et al: "Myelodysplastic syndromes/ neoplasms, overview," WHO Classification of Tumours of Haematopoietic and Lymphoid Tissues, 88-93, International Agency for Research on Cancer, Lyon, 2008.

第2回中央市民病院CPC報告

1. 症 例 テ ー マ : HIV/AIDS 患者における呼吸不全が進行し、死に至った1例
2. 診療科、主治医・受持医 : 腫瘍内科 石井淳子、緒方貴次、佐竹悠良、安井久晃
3. CPC 開催日 : 2018年6月13日
4. 発 表 者 : 臨床側 (志水隼人、馬淵彰悟) 病理側 (山下大祐)
5. 患 者 : 62歳、男性
6. 臨 床 診 断 : 後天性免疫不全症候群
7. 剖 検 診 断 : 1. 後天性免疫不全症候群
1-A. ニューモシスチス肺炎
1-B. Cytomegalovirus 感染
8. 臨 床 情 報 :
 - 1) 現病歴
X-4週間頃 胸部不快感を自覚し、同時期から食思不振が出現した。
X-5日 症状は増悪傾向にあり、前医を受診。胸部CTで両側すりガラス陰影があり、急性間質性肺炎の疑いでメチルプレドニゾン (mPSL) 500mg/日を3日間投与された。
X-1日 プレドニゾン (PSL) 60mg/日へと減量され、HIV他各種スクリーニング検査を施行された。
X日 ELISA法でHIV抗体陽性であり、ニューモシスチス肺炎 (PCP) が疑われ、ST合剤12錠分3による治療が開始された。同日精査加療目的で当院転送、入院加療開始となった。
 - 2) 既往歴・家族歴など
特記事項なし。

3) 診察所見

身長：170cm, 体重 63.8kg (最高は 84kg), GCS E3V4M6 血圧 120/82mmHg, 脈拍 106bpm, 呼吸数 30-36回/分, SpO2 91% (酸素 10L 投与下 リザーバーマスク), 体温 37.3°C

頭頸部：頬粘膜・舌縁に白苔附着

胸部所見：

- ・心臓：心音減弱, 過剰心音無し
- ・肺野：両側下肺で呼吸音減弱, 中肺野で気管支音増強, 右中肺野～両側背面下部で late inspiratory crackles
- ・リンパ節：鼠径リンパ節を両側小指大に触知 圧痛無し, 可動性あり

4) 主な検査データ

血算：

WBC $11.5 \times 10^3 / \mu\text{L}$, RBC $514 \times 10^4 / \mu\text{L}$, Hb 15.2g/dL, Ht 44.7%, MCV 87fL, Plt $27.4 \times 10^4 / \mu\text{L}$

生化学：

Na 132 mEq/L, K 4.5 mEq/L, Ca 8.5 mg/dL, TP 6.9 g/dL, Alb 2.3 g/dL, T-Bil 0.9 mg/dL, AST 26 U/L, ALT 24U/L, LDH 418 U/L, BUN 17.5 mg/dL, Cre 0.54 mg/dL, Amy 76 U/L, CK 17 U/L, Glu 188 mg/dL, CRP 6.11 mg/dL, β -D 223.8 pg/mL

尿：

混濁 (-), 比重 1.018, 尿糖 (-), 蛋白 (±), 潜血 (-), WBC(-), ウロビリノーゲン (1+), 亜硝酸塩 (-)

感染症：

血液培養：陰性, 尿培養：陰性, 痰培養：S aureus 1+, T-SPOT 陰性, トキソプラズマ IgG (-), クリプトコッカス血清抗原 (-), HBV:HBcAb 陽性, HBV-DNA 定量 -

HIV 関連検査

HIV-ab (+), HIV-1: WB, GP 160 (+), 110/120(+), P68/66 (+), P55 (+), P52/51 (+),

GP41 (+), P40 (-), P34/31 (+), P24/25 (+), P18/17 (-), HIV-2 : WB, GP140 (-),

GP105 (+), P68 (-), P56 (-), GP36 (-), P34 (-), P26 (-), P16 (-),

HIV-RNA 定量 55,000, CD4 69/ μL ,

5) 画像診断所見

[胸部 X 線写真両側] 中下肺野に左右対称性のスリガラス陰影

[胸部 CT] 両側全肺野 (下肺優位) にスリガラス陰影

6) 経過・治療

ELISA 法陽性、CD4 の値から HIV/AIDS の状態にあると判断した。ニューモシスチス肺炎と判断し ST 合剤及びプレドニゾドンで治療開始した。第 5 病日にかけて呼吸状態は悪化したが、第 7 病日には改善した。この時点まででトキソプラズマ、クリプトコッカス、サイトメガロウイルス網膜症の検索を行い、全て陰性であった。第 11 病日に呼吸状態が急速に悪化、気管挿管となる。そのまま不穏となり心停止、10 分で心拍再開となった。直後の心電図で I, aVL, V2 ~ 6 で ST 上昇を認めため緊急冠動脈造影を施行したところ、#7 の完全閉塞を認めしたが、側副血行路は十分に発達しており、過去の ECG で陰性 T 波が認められていたため今回 CPA の原因では無いと判断された。ECG の ST 上昇は蘇生後の頻脈で酸素状態が増大した結果の Type 2 MI と判断された。全身 CT では新規所見は認めなかったが、以後意識状態が改善せず、第 13 病日には酸素化再度悪化。ニューモシスチス肺炎に伴う ARDS と考えられた。その後も呼吸状態が進行し、第 24 病日に永眠となった。

7) 手術所見

なし。

8) 症例の問題点 (剖検で解明したかった事項)

- (1) ニューモシスチス肺炎の標準治療に不応であったが、他の感染症あるいは間質性肺炎の所見はあるか?
- (2) ニューモシスチス肺炎、口腔カンジダ症以外の日和見感染症は存在したか?
- (3) 第 12 病日以降原因不明の意識障害が遷延していたが、中枢神経病変を示唆する所見はあるか?

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

(1)1. 後天性免疫不全症候群

1-A. ニューモシスチス肺炎 (右 1115g、左 835g)

1-A-a. びまん性肺胞障害

1-A-b. 肺胞出血

1-B. Cytomegalovirus 感染

1-B-a. Cytomegalovirus 肺炎 (治療後)

<副病変>

(1) 多発微小脳出血 (1507g)

- (2) ショック肝、肝脂肪変性 (1314g)
- (3) 陳旧性心筋梗塞 (409g)
- (4) 粥状動脈硬化 (軽度)

2) 担当病理医：山下大祐

3) 病理医からのコメント

両側肺は肺重量の増加を認め、含気が著明に低下していた。組織学的には、両側の全ての肺葉にて、肥厚した肺胞隔壁と肺胞腔内の泡沫状の好酸性物の貯留がみられた。Grocott 染色にて帽子状の *Pneumocystis jirovecii* の円形の菌体を無数に認めた。ニューモシスチス肺炎の像で、治療介入されているが菌体は無数に残存していた。ニューモシスチス肺炎による肺組織の変化として肺胞壁の肥厚など間質変化を認めた。他、両側上葉優位にフィブリン膜の形成を認め、びまん性肺胞障害の所見であった。肺胞出血も散見された。両側下葉に肺水腫を認めた。免疫染色にて Cytomegalovirus 陽性細胞がガンシクロビル投与後としては比較的多数肺胞に認められ、Cytomegalovirus 肺炎も合併していたと考えられた。肺には Grocott 染色でその他真菌等は認められなかった。好中球浸潤にも乏しく、細菌性肺炎を疑う所見は認められなかった。

肝臓には、右葉優位に肝細胞索の菲薄化、壊死、うっ血、肝脂肪変性が不規則に認められ、生前の低循環によるショック肝の所見であった。心臓には、左室壁の 40% 程度に線維化が認められた。線維化に挟まれた領域には心筋細胞の核腫大、核の大小不同を認め、陳旧性心筋梗塞の所見であった。脳には、5mm 大の比較的新規の脳出血の他、微小な脳出血が多数認められた。多発脳出血が意識障害に関与した可能性は考えられる。HIV 脳症を考える血管周囲のリンパ球浸潤や多核巨細胞は認められなかった。他、明らかな真菌感染は認められなかった。

他に明らかな日和見感染を示す所見は認められなかった。免疫組織化学的に網羅的に諸臓器を検索したが、HSV、トレポネマ、HBs は陰性であった。

10. 考 察

ニューモシスチス肺炎は HIV 関連のもの (HIV-PCP) と、膠原病や移植後、血液・悪性腫瘍に合併するもの (non-HIV-PCP) に大別できる。一般的に HIV-PCP は緩徐な経過をとるのに対し、non-HIV-PCP は急激な臨床転帰を迎ることが多い。本症例は HIV 陽性例であり、悪性腫瘍や自己免疫性疾患の

合併がなく移植後状態でないにもかかわらず、急激な転帰を辿った点は通常とは異なる。ニューモシスチス肺炎以外の日和見感染症として cytomegalovirus 肺炎の合併が認められたが、主たる病変はニューモシスチス肺炎であり、CMV 肺炎が死因の可能性は考えにくい。脳には微小な脳出血が多数認められた。日和見感染症との関連は低いと考えられたが、原因ははっきりしない。HIV 脳症は認められなかった。

11. 参 考 文 献

- 1) Tasaka S, et al: Comparison of clinical and radiological features of pneumocystis pneumonia between malignancy cases and acquired immunodeficiency syndrome cases: a multicenter study *Inter Med* 49: 273-281, 2010.
- 2) Sepkowitz KA: Opportunistic infections in patients with and patients without acquired immunodeficiency syndrome. *Clin Infect Dis* 34: 1098-1107, 2002.
- 3) Kovacs JA, et al: *Pneumocystis carinii* pneumonia: a comparison between patients with the acquired immunodeficiency syndrome and patients with other immunodeficiencies. *Ann Intern Med* 100: 663-671, 1984.
- 4) Sepkowitz KA, et al: *Pneumocystis carinii* pneumonia among patients without AIDS at a cancer hospital. *JAMA* 267: 832-837, 1992.

第 3 回中央市民病院 CPC 報告

【症例 1】

1. 症 例 テ ー マ：治療抵抗性の心不全 / 肝不全により死亡した 75 歳女性の 1 例
2. 診療科、主治医・受持医：循環器内科 堀田 怜、
金 基泰、
古川 裕
3. CPC 開催日：2018 年 6 月 13 日
4. 発 表 者：臨床側 (吉田壮志)
病理側 (山下大祐)
5. 患 者：75 歳、女性
6. 臨 床 診 断：多発性骨髄腫
7. 剖 検 診 断：1. 多発性骨髄腫
2. 全身性アミロイドーシス
8. 臨 床 情 報：
 - 1) 現病歴
X-5 か月頃 労作時呼吸困難を自覚していた。
X-2 か月 症状増悪し、うっ血性心不全として

近医に入院し、利尿薬など加療を行われた後、自宅退院した。

X-3日 全身倦怠感と腹部膨満を主訴に前医を受診し、AKI・肝機能障害や上室性頻脈があり入院を勧められたが、本人の帰宅希望が強く帰宅された。

X-1日 前医フォローで再診したところ腎機能・肝機能増悪があり、前医入院となった。

入院当日 腎機能増悪があり当院転送となった。

2) 既往歴・家族歴など

高血圧、子宮筋腫

3) 診察所見

身長：152cm，体重 56.7kg (前医退院時は 48.7kg)

Vital signs：

(来院時) GCS E4V5M6 血圧 96/61mmHg，脈拍 142bpm，呼吸数 30 回 / 分，SpO2 93% (酸素 2L 投与下 nasal canula)，体温 36.3℃

頭頸部：眼瞼結膜蒼白-，眼球結膜黄染+，頸静脈怒張-

胸部所見：

・心臓：心音聴取できず

・肺野：両側 crackles

腹部：膨満・軟・圧痛無し。血管雑音-

四肢：下腿浮腫+，末梢冷感+，橈骨 / 足背動脈触知微弱

4) 主な検査データ

血算：

WBC 6300 / μ L, RBC 312×10^4 / μ L, Hb 9.0 g/dL, Ht 26.3 %, MCV 84 fL, PLT 7.2×10^4 / μ L

生化学：

NT-proBNP 13875.0 pg/mL, ALB 2.9 g/dL, T-BIL 5.2 mg/dL, D-BIL 3.8 mg/dL, AST 1186 U/L, ALT 1126 U/L, LD 831 U/L, ALP 989 U/L, γ -GTP 204 U/L, CK124 U/L, CK-MB12 .5 IU/L, AMY 190 U/L, BUN 63.9 mg/dL, Cre 3.41 mg/dL, Na 133 mEq/L, K 4.8 mEq/L, Ca 7.1 mg/dL, CRP 4.32 mg/dL, TroP1 1.116 ng/mL

5) 画像診断所見

[CXR] CPA dull, 軽度心拡大

[胸腹部造影 CT] 両側肺底部に胸水貯留+圧排性無気肺。皮下浮腫・腸間膜浮腫著明、心嚢水軽度貯留、腹水貯留、IVC 緊満

[ECG] HR145bpm, narrow QRS tachycardia

[CAG] #6. 50%

[心エコー]

Cardial effusion+

Diffuse hypokinesis(thickening+), asynergy-

Dd/Ds:38/28mm, EF:55%

E/A:0.8/-m/s, DcT:214ms, E/e' :24, LVOT VTI

8.64cm, TAPSE:10mm

severe TR, moderate MR, AR-

6) 経過・治療

頻脈心房細動に対して電氣的除細動を施行し HR50 台に。強心薬・昇圧薬でもショック離脱できず、挿管管理、tPM/IABP/VA-ECMO 導入。第 6 病日の検査結果で尿中 BJP 陽性が判明。心アミロイドーシス (AL 型) が疑われ、家族に IC した結果 DNAR の方針に。腎不全、心不全が進行し、第 10 病日、死亡退院となる。

7) 手術所見

なし。

8) 症例の問題点 (剖検で解明したかった事項)

(1) 治療抵抗性の心不全の原因は心アミロイドーシスでよいか?

(2) 肝不全の原因

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

(1) 多発性骨髄腫(骨髄内)(鎖の軽鎖制限あり)

全身性アミロイドーシス (肝臓、脾臓、心筋、食道、胃、大腸、左右副腎、膵、胆嚢、舌)

全身諸臓器黄疽 (肝のアミロイド沈着に伴う胆汁排泄障害)

心原性ショック (心アミロイドーシス)

消化管粘膜うっ血、一部出血 (食道、胃、小腸、大腸)

閉塞性膵炎 (小範囲)

<副病変>

(1) 胸水貯留 (左胸水 :250ml, 右胸水 :200ml)

(2) 諸臓器うっ血および重量増加

(3) 両側腺腫様甲状腺腫

(4) 大動脈粥状硬化症 (軽度)

2) 担当病理医：山下大祐

3) 病理医からのコメント

肉眼的には全身諸臓器の黄染と肝臓硬化、脾梗塞、心筋変性が観察された。多発性骨髄腫が疑われていたが、明らかな腫瘤は確認されなかった。その他に消化管粘膜出血などが観察された。

組織学的には、肝臓、脾臓、心筋、消化管、副腎をはじめとする全身諸臓器にアミロイドの広範な沈着が観察された。肝臓では、正常の肝実質の大半はアミロイドで置換されており、胆汁うっ滞も伴っていた。Congo Red 染色と DFS 染色陽性であり偏光性を有していることから、アミロイドと診断された。各消化管（食道、胃、小腸、大腸）の粘膜あるいは粘膜下層にはアミロイド沈着が観察され、粘膜出血やうっ血の原因と考えられた。脾臓では部分的に閉塞性脾炎の所見が観察された。骨髄では、所々で形質細胞が密に集簇しており、免疫染色ではλ鎖優位の軽鎖制限が見られ、多発性骨髄腫の所見であった。以上より、AL-λ型のアミロイドーシスと診断された。その他、両側の腺腫様甲状腺腫、軽度の大動脈粥状硬化症が確認された。

既往の慢性両心不全があるところに、心アミロイドーシスの進行が加わって心臓の拡張障害、ポンプ機能低下、不整脈が生じ、最終的に心原性ショックに至ったと考えられる。肝不全は高度のアミロイド沈着の他、心アミロイドーシスに伴う右心不全も関与していると考えられる。

10. 考 察

AL型アミロイドーシスはトランスサイレチンアミロイドーシスとともに心臓アミロイドーシスの主たる要因であり、心筋組織への広範なアミロイド沈着により心不全をきたす。アミロイドが刺激伝導系に沈着することで不整脈もきたすことがあるが、多くは心不全症状を呈する。本症例では広範なALアミロイド沈着により、難治性心不全の病態を呈したと考えられる。

11. 参 考 文 献

1) Dubrey SW, Cha K, Anderson J, et al : The clinical features of immunoglobulin light-chain(AL)amyloidosis with heart involvement. QJM 1998 ; 91 : 141-157

【症例2】

1. 症例テーマ：ゲフィチニブで原発巣の縮小が得られたにも関わらず、急激な血圧低下を来して死亡に至ったEGFR変異陽性肺腺癌の1例
2. 診療科、主治医・受持医：呼吸器内科 森 令法、斎藤伴樹、伊達直希、坂之上一朗、富井啓介

3. CPC開催日：2018年6月13日

4. 発表者：臨床側（森 令法、曾根久智）
病理側（毛利太郎、出田健人）

5. 患者：67歳、男性

6. 臨床診断：肺腺癌（T3N0M1c、Stage IV B）
Trousseau 症候群
転移性脳腫瘍
肺塞栓症の疑い

7. 剖検診断：1.肺腺癌
2.多発性血栓症

8. 臨床情報：

1) 現病歴

X-1ヶ月 歩行障害、右手巧緻障害、文字が汚いなどの症状が出現した。

X-4日 近医で頭部MRIを撮像され多発脳腫瘍を指摘され、当院紹介受診予定であった。

X-2日 部屋の中でふらついていて転倒し前医に救急搬送された。頭部CTにて複数箇所広範な脳浮腫を認め、濃グリセリン注とバクテムが開始された。

X日 当院脳外科に転院搬送。胸部CTで右上肺野腫瘍が認められ呼吸器内科に転科となった。

2) 既往歴・家族歴など

2型糖尿病

3) 診察所見

身長183cm 体重66kg 意識やや混濁 GCS13 E3V4M6 体温：36.5℃ 血圧：134/78 mmHg 脈拍：55/分（整）呼吸数：16/分 SpO2:96%（室内気）

身体所見

瞳孔径：3mm/3mm、直接対光反射両側やや鈍
注意障害あるが構音障害なし
右上肢麻痺、下肢対麻痺を認めた

4) 主な検査データ

血算：

WBC $7.2 \times 10^3 / \mu\text{L}$, Hb 14.6 g/dL, MCV 88 fL, Plt $35.4 \times 10^4 / \mu\text{L}$,

生化学：

TP 7.5 g/dL, Alb 4.1 g/dL, Glob 3.4 g/dL, T-Bil 0.6 mg/dL, AST 48 U/L, ALT 64 U/L, LD 194 U/L, CK 291 U/L, Amy 62 U/L, BUN 12.2 mg/dL, Cre 0.95 mg/dL, Na 136 mEq/L, K 3.9 mEq/L, Ca 9.3 mg/dL, Glu 144 mg/dL, CRP 0.36 mg/dL

凝固：

PT-INR 1.09, APTT 23.1 sec, D-dimer 0.88 μ g/ml

腫瘍マーカー：

CEA 5.2 ng/mL, CA19-9 13.9 U/mL, SCC 0.9 ng/mL,

CYFRA 1.6 ng/mL, NSE 11.9 ng/mL, Pro-GRP 30.7

pg/mL

5) 画像診断所見

[CXR] 右上肺野に浸潤影あり

[胸部腹部造影 CT] 右肺上葉腫瘤あり。背景に肺気腫。

胸水や有意な縦隔肺門リンパ節腫大認めない。

腹部に転移を疑う所見なし

[頭部 MRI]

右前頭葉皮質に点状 DWI 高信号域あり。

右尾状核含めて右 MCA 領域に DWI 高信号域あり

6) 経過・治療

入院後、再度撮影した頭部 MRI で多発脳梗塞を認め、Trousseau 症候群と診断され、 Na^+ リン持続点滴を開始した。血管超音波検査で右内頸動脈に閉塞が認められた。入院 5 日目には脳腫瘍に対する全脳照射開始 (30Gy/10Fr)。肺病変については気管支鏡検査を施行し、肺腺癌と診断された。入院 17 日目に左下肢の脱力が出現し、頭部 MRI で右尾状核に新規脳梗塞を認めた (症状との関連は不明)。入院 23 日目、肺腺癌に対し Gefitinib 開始、 Na^+ リン持続点滴再開。入院 38 日目に一過性の意識レベル低下あり、入院 40 日目には左半身の麻痺に引き続いて意識レベル低下。その後、呼吸状態悪化・血圧低下し心肺停止となった。蘇生行為は行わず、死亡確認した。

7) 手術所見

なし。

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

(1) EGFR 遺伝子変異 (+) の肺腺癌に対しゲフィチニブは奏効していたのか?

(2) 急激な血圧低下の原因および死因は何か?

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

(1) 肺腺癌 (右肺上葉、腺癌、pT2bN0, cM1(脳), EGFR 陽性, ゲフィニチブ治療後)

1-A. 多発血栓症 (慢性、急性いずれも含む)

1-A-a. 肺動脈血栓 (左肺上葉枝起始部、両側肺末梢)

1-A-b. 器質化血栓 (右内頸動脈、左腎)

1-A-c. 脳梗塞 (臨床)

(2) 膀胱癌 (治療後)

<副病変>

(1) 腎類上皮肉芽腫

(2) 肺うっ血 (右 328g, 左 307g)

(3) 肝うっ血 脂肪肝 (1671g)

(4) 回腸 Gastrointestinal stromal tumor (GIST)

2) 担当病理医：毛利太郎

3) 病理医からのコメント

栄養状態良好な大柄の 67 歳男性。両側肺ともに重量増加は軽度で、含気は良好であった。右肺上葉に組織学的には中心に弾性線維瘢痕を伴い、乳頭状増生主体の腺癌を認めた (size:4.5x2.0cm,pT2b)。腫瘍は中心に線維化がみられるものの、概ね viable であった。肺動脈には、肉眼的に左上葉枝の中核側に 3mm 程度の血栓の付着を認め、その他両側肺末梢の動脈内に微小な血栓が認められた。右内頸動脈には画像で指摘された血栓を認め、組織学的には器質化を伴っていた。血栓付着部にはグラム陽性球菌とグラム陰性桿菌の小集塊が被包化されていた。胃内腔粘膜に点状出血、潰瘍瘢痕を認めた。バウヒン弁から 10cm ほど口側の回腸の漿膜面に 0.4cm の結節を認め、免疫染色では c-kit 陽性で Gastrointestinal stromal tumor (GIST) であった。空腸・回腸・下行結腸に粘膜発赤を認めた。腸管に壊死は認めなかった。肝臓には 20% 程度の脂肪化とうっ血を認めた。左腎内に 3mm 大の器質化血栓を認めた。右腎に focal な 6mm 大の類上皮肉芽腫を認めたが、Grocott 染色、抗酸菌染色、グラム染色で細菌や真菌は認めなかった。

右肺腺癌 (pT2bN0, cM1) に腫瘍による Trousseau 症候群を合併した症例である。剖検時に疑われた他臓器の血栓は組織学的には確認できなかった。肺動脈枝の新旧の多発微小血栓から循環不全を生じ、血圧低下を来したと推測する。

10. 考察

Trousseau 症候群は悪性腫瘍に関連した血液凝固亢進により脳卒中症状を呈する病態である。本症例では中枢神経系の病理学的評価ができなかったが、一連の神経症状は悪性腫瘍に関連した脳梗塞に起因すると考えられる。Trousseau 症候群の原因となる悪性腫瘍の多くは固形腫瘍であり、特に乳癌や子宮癌などの婦人科系腫瘍が多く、他に消化器癌、肺癌、

腎臓癌などが知られている。発症は女性に多い傾向にあり、多くは多発性脳梗塞を呈する。Trousseau 症候群発症のメカニズムは完全には解明されていないが、腫瘍細胞から産生される様々なサイトカインに加え、腫瘍細胞が凝固カスケードを活性化する組織因子、腫瘍プロコアグラント、第 V 因子受容体などの細胞性プロコアグラントや線溶蛋白、線溶インヒビターおよびそれらの受容体を発現し、血小板や内皮細胞などとの相互作用を惹起して血栓を形成すると考えられている。悪性腫瘍にみられる血栓症の原因は、Trousseau 症候群に代表される血液凝固亢進のほか、非細菌性血栓性心内膜炎、アテローム血栓症などがある。剖検例 3,426 例の検討では、256 例に脳梗塞が認められ、原因は血管内凝固 15.2%、非細菌性血栓性心内膜炎 16.4%、アテローム血栓症 28.5% という報告がある。本症例は複数の動脈に血栓形成が確認されており、肺腺癌を背景とする Trousseau 症候群と診断できる。

11. 参考文献

- 1) Adess M, et al: Thromboembolism in cancer patients: pathogenesis and treatment. *Thromb Haemost* 12: 254-266, 2006.
- 2) Khorana AA: Malignancy, thrombosis and Trousseau: The case for an eponym. *J Thromb Haemost* 1: 2463-2465, 2003.
- 3) Falanga A, Rickles FR: Pathophysiology of the thrombophilic state in the cancer patient. *Semin Thromb Hemost* 25: 173-182, 1999.

第 4 回中央市民病院 CPC 報告

1. 症例テーマ：MTX 関連リンパ増殖性疾患に対して化学療法中に血球貪食症候群で死亡したと考えられる 1 例
2. 診療科、主治医・受持医：血液内科 森田真梨、岡山裕介、三村直哉、小野祐一郎、石川隆之
3. CPC 開催日：2018 年 10 月 17 日
4. 発表者：臨床側（森田真梨、乾 涼磨）
病理側（山下大祐、前田広太郎）
5. 患者：58 歳、男性
6. 臨床診断：MTX 関連リンパ増殖性疾患
7. 剖検診断：1. MTX 関連リンパ増殖性疾患
2. 血球貪食症候群

3. ショック後状態

8. 臨床情報：

1) 現病歴

X-7 日頃、咽頭痛が出現し、40°C の発熱があったがジクロフェナクを内服しながら仕事を続けていた。X-4 日、近医受診し、咽頭の発赤、腫脹を指摘され、ジクロフェナク、トラネキサム酸、トスフロキサシン、PL 顆粒を処方された。X-1 日、39°C の発熱は持続し、鼻出血・歯肉出血を伴った。傾眠となり独歩不可となった。X 日、前医を受診し、血液検査で WBC 300/ μ L, RBC 346 万/ μ L, Hb 11.3g/dL, PLT 3000/ μ L と 2 系統の血球減少を認め、肝機能障害、腎機能障害なども伴っていたため精査加療目的に当院に転送となった。

2) 既往歴・家族歴など

脳動静脈奇形、症候性てんかん、関節リウマチ

3) 診察所見

身長 183cm, 65kg, BP106/60mmHg, HR 130bpm (整), SpO₂ 100%(RA), RR 16/min, BT 38.3°C

・一般身体所見

GCS: E3V4M6 (名前○、場所×、年齢×、時×)

口腔内：粘膜出血あり、咽頭発赤あり、扁桃腫大なし

頸部：前頸部、後頸部のリンパ節腫脹、圧痛あり、弾性軟、可動性良好

胸部：呼吸音 clear, no crackles

心音 regular, no murmur

腹部：平坦、軟、圧痛なし

背部：CVA Td-/-

四肢：関節に熱感、腫脹、圧痛なし

4) 主な検査データ

血算：

WBC 4000/ μ L (Band 3.0%, Seg 83.0%, Lymph 13.0%, Mono 0.0%, Eos 1.0%, Baso 0.0%), RBC 337 万/ μ L, Hb 12.0g/dL, MCV 35.6fL, Plt 0.5 万/ μ L

生化学：

TP 5.6g/dL, Alb 2.5g/dL, T-Bil 1.9mg/dL, D-Bil 1.5mg/dL, AST 362U/L, ALT 206U/L, LD 1064U/L, ALP 368U/L, γ -GT 152U/L, アミラーゼ 169U/L, BUN 78.2mg/dL, Cre 3.1mg/dL, Na 138mEq/L, K 5.0 mEq/L, Cl 109 mEq/L, Ca 8.2 mg/L, Glu 94mg/dL, CRP 18.8mg/dL

凝固：

PT-INR 0.89, APTT 26.8 秒, Fib 290mg/dL, D-dimer 13.5 μ g/dL

尿：
色調 黄色、混濁 (1+)、ブドウ糖 (-)、タンパク質 (1+)、潜血 (±)、白血球 (-)、ケトン対 (±)、亜硝酸塩 (-)

5) 画像診断所見

[胸部 X線写真両側] 心拡大なし、肺野に浸潤影なし、両側 CP angle sharp

[頭部 CT] 右前頭葉 AVM 開頭術後、頭蓋内に出血を認めず

[胸部 CT]

両側頸部、縦隔、腋窩、腹腔、鼠径部に腫大したリンパ節多数認めた

肺野に気腫性変化を認めるが、浸潤影は認めず
肝脾腫なし

6) 経過・治療

来院時より発熱、好中球減少を認め、FNとして PIPC/TAZ での治療を開始した。CT で全身のリンパ節腫大を認めたため、リンパ腫や MTX 関連リンパ増殖性疾患などが疑われた。血球減少、肝機能障害については MTX の副作用、リンパ腫の腫瘍浸潤、血球貪食症候群などが疑われたため、診断目的に腋窩リンパ節針生検と骨髄生検を施行した。Day2 の朝より血圧が低く、ショック状態であった。Septic shock の可能性もあったため、抗菌薬を MEPM+VCM に変更し、抗真菌薬も追加した。補液・ノルアドレナリンの持続投与で血圧を維持できたが、補液に伴い酸素化は悪化し、E-ICU に入室となった。酸素化は徐々に悪化し、day4 に挿管人工呼吸器管理となった。

骨髄血、リンパ節検体 FCM では CD20+ の異常 B 細胞のクローン増殖を認めた (PCR で IgH, IgL 再構成 +, TCR 再構成 -) ため、day4 からリツキシマブによる加療を開始した。しかし、全身状態は改善することなく経過したため、血球貪食症候群の要素もあつと考え、day7 にエトポシドを追加したが、治療に反応することなく、day11 に死亡した。

7) 手術所見

なし。

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

(1) 2 系統の血球減少、肝機能障害の原因として、臨床的にはリンパ腫の浸潤、血球貪食症候群、薬剤性 (MTX) などが考えられたが、病理学的原因は何か。

(2) 腎機能障害の原因として、臨床的にはリンパ

腫の浸潤、薬剤性 (MTX)、ショックなどが考えられたが、病理学的原因は何か。

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

MTX 関連リンパ増殖性疾患 (MTX 休薬、ステロイド、リツキシマブ投与後)

浸潤臓器: リンパ節、両側副腎、腎臓、脾臓

<副病変>

(1) 血球貪食症候群

1-1. 腎皮質点状出血

1-2. 低細胞髄 + 浮腫

(2) ショック後状態

2-1. 小葉中心性肝細胞壊死, 肝腫大, 黄色軽度混濁腹水 (1550ml), 全身黄疸

2-2. 腎髄質うっ血

(3) 大動脈粥状硬化 軽度

(4) 慢性胆嚢炎

2) 担当病理医: 山下大祐

3) 病理医からのコメント

関節リウマチにて1年以上前からメトトレキサート、プレドニンを内服。死亡より約2週間前から発熱、倦怠感、咽頭痛を自覚し近医を受診。肝障害、腎障害、汎血球減少を認め、当院紹介。MTX 関連リンパ増殖性疾患を疑い加療開始。9 日前にショックバイタル、意識障害のため CCU にて管理。加療を行ったが、肝不全が進行して死亡した。

EBER 陽性細胞の浸潤をリンパ節、脾臓、副腎、腎臓で確認した。ショックバイタル後の肝不全については、ショック肝によるものと考えられるが、入院前の肝不全については、腫瘍の浸潤に伴うものであった可能性を考える。腎不全については、腫瘍の浸潤と出血を伴い続発したものと考えられる。汎血球減少の主な原因はリンパ増殖性疾患に伴う血球貪食症候群によるものと考えられる。

10. 考察

メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患 (methotrexate-associated lymphoproliferative disorders :MTX-LPD) は、メトトレキサート投与中の患者に発生するリンパ増殖性疾患である。現在の WHO 分類では「その他の医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患 other iatrogenic immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorders」に分類され、HIV 感染や臓器移植後の LPD などと同様に免疫不全に起因

する病態と考えられている。本症例は関節リウマチが背景にあり、メトトレキサート内服歴やEBER陽性のリンパ増殖性疾患であることから、メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患と診断された。

11. 参考文献

- 1) A Gaulard P, Swerdlow SH, Harris NL, et al: Other iatrogenic immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorders. WHO Classification of Tumours of Haematopoietic and Lymphoid Tissues, Swerdlow SH, Campo, E, Harris, NL, et al (eds). IARC Press: pp 462-464, 2017

第5回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ：低Na血症の経過中に意識障害が進行し死亡した1例
2. 診療科、主治医・受持医：総合内科 井本寛東、志水隼人、上月友寛
3. CPC開催日：2018年12月19日
4. 発表者：臨床側（井本寛東、安藤徳晃）
病理側（毛利太郎、岡嶋良典）
5. 患者：75歳、女性
6. 臨床診断：細菌性髄膜炎疑い
7. 剖検診断：1. 敗血症
 - 1-1. 感染性心内膜炎
 - 1-2. 多発性脳梗塞
 - 1-3. 播種性血管内凝固症候群2. 血球貪食症候群
 2. 大動脈粥状硬化症
 3. 胆管過誤腫

8. 臨床情報：

1) 現病歴

X-4年 RAに対し、頸椎前方除圧固定術を他院で施行された。その後、腰椎の高度変形性関節症に伴う神経因性膀胱を合併し、排尿障害のためバルーン留置となっていた。反復する尿路感染のため腎機能低下が進行していた。

X-2年 低Na血症と意識障害を認め、下垂体と副腎機能精査の結果、ACTH分泌不全と診断され、コートリルが導入された。

X-1ヵ月 頸部痛を発症し、リハビリ目的で前医に入院した採決結果で低Na血症 (Na 122mEq/l) であり、生食500ml+Na製剤を開始した。

X-2日前 前医を退院したが、入院前日の昼から

倦怠感と呼吸苦が出現した。当日に反応がなく救急要請となった。

2) 既往歴・家族歴など

- | | |
|------|---|
| 51歳 | 下壁梗塞でPCI |
| 60歳頃 | 変形性膝関節症で両側TKA |
| 71歳 | RA、神経因性膀胱、腎盂腎炎 頸椎前方除圧固定術、排尿障害でバルーン留置 |
| 72歳 | ACTH分泌低下でハイドロコルチゾン開始 気管支喘息、高血圧 |

3) 診察所見

身長：未測定 体重64kg

A: いびき様呼吸あり→挿管・人工呼吸器管理

B: RR36, SpO2 97%(10L/min), 努力様呼吸

C: BP 127/60 HR 60, 冷汗なし

D: GCS E1V1M4

E: 来院前体温 38.9度→来院時 36度

瞳孔 2mm/2mm 対光反射 +/-

眼瞼結膜 溢血点なし 眼球結膜 黄染なし

頸部 リンパ節腫脹なし 頸静脈圧上昇なし

呼吸音 wheeze なし、心音 不整 雑音なし

腹部 軽度膨満 軟 蠕動音聴取

下腿浮腫あり 四肢は弛緩している

皮膚 褥瘡なし 紫斑なし 皮疹なし

4) 主な検査データ

血算：

WBC 8900/ μ L RBC 264 \times 10⁴/ μ L Hb 8.6/dL MCV 100fL PLT 5.1 \times 10⁴/ μ L

生化学：

TP 5.4g/dl Alb 3.1g/dL T-bil 0.6mg/dL AST 143U/L
ALT 129U/L LD 502U/L ALP 271U/L γ -GTP 99U/L
CK 853U/L CK-MB 14.7U/L AMY 97U/L BUN 56.9mg/dL
Cre 2.81mg/dL Na 133mEq/L K 5.6mEq/L Cl 106mEq/L
Ca 7.5mg/dL Glu 144mg/dL CRP 17.18mg/dl

PT-INR1.07 D-dimer19.36 μ g/mL

尿：

混濁 2+ 比重 1.019 PH 7.0 糖 - 蛋白質 2+ 潜血 1+
白血球 3+ ケトン体 - ビリルビン -

5) 画像診断所見

・ベッドサイド心エコー

asynergy(+) inf-base:hypokinesis

Dd/Ds : 37/26mm、IVS/PW : 13/13mm、LAd : 33mm、Ao : 27mm、EF : 55%

E/A : 1.51/0.6m/s、DcT : 186ms LVOT-TVI : 16cm、TAPSE : cm

AR(-)、mild MR、moderate TR(TRPG : 36mmHg)、AS(AVp=m/s, mPG : mmHg, AVA(2D) : 1.06cm²) IVC : 17/14mm

頭部 CT: 右篩骨洞に副鼻腔炎あり。

胸腹部 CT: 両側胸水あり。両側肺野すりガラス状濃度上昇あり。気管支壁肥厚あり。胆石あり。腎萎縮あり。多発腎嚢胞あり。下位胸椎～腰椎に圧迫骨折あり。

6) 経過・治療

髄液検査を行うため側臥位とし、20分程度で心肺停止となった。CPRを30分行い自己心拍再開するも、心肺停止時は高K血症(K 7.5mEq/l)であった。その後も心拍再開、心停止を繰り返し、循環動態が不安定であり究明困難と判断し蘇生を中止、死亡となった。

7) 手術所見

なし。

8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- (1) 意識障害 / 四肢麻痺の原因
- (2) 心停止の原因

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

(1) 敗血症

- 1-1. 感染性心内膜炎(起病菌: Methicillin-resistant Staphylococcus aureus)
 - 1-1-1. 大動脈弁 / 僧帽弁疣贅
- 1-2. 多発脳梗塞(全脳: 945g)
- 1-3. 播種性血管内凝固症候群・出血傾向
 - 1-3-1. 硬膜下血腫(少量)
 - 1-3-2. 両側肺出血(右: 191g, 左: 159g)
 - 1-3-3. 大腸粘膜内出血
- 1-4. 両腎多発膿瘍(右: 177g, 左: 298g)
- 1-5. 急性脾炎

<副病変>

(1) 動脈硬化症

- 1-1. 陳旧性心筋梗塞
- 1-2. 大動脈粥状硬化(高度)

(2) 胆管過誤腫

2) 担当病理医: 毛利太郎

3) 病理医からのコメント

栄養状態良好な75歳女性。肉眼像の段階では両腎や肝臓には膿瘍を疑う結節が見られ、敗血症

の可能性が第一に考えられた。全脳には微小点状出血の可能性が示唆されたが、浸透圧脱髄症候群、ウェルニッケ脳症、髄膜炎の所見は得られなかった。

組織学的には、敗血症の所見が観察された。肉眼像で明らかな疣贅は確認されなかったが、大動脈弁、僧帽弁のいずれにおいても、疣贅が認められ、グラム染色でグラム陽性球菌が確認された。感染性心内膜炎の所見と考える。脳には多発脳梗塞像が見られ、一部に菌塊による塞栓が認められた。両腎に多発の膿瘍も確認され、また脾臓には好中球の浸潤を伴う急性脾炎の所見があり、敗血症に起因する所見である。腎や肺に微小血栓は観察されなかったものの、硬膜下血腫に加えて両側肺と腸管には出血が見られ、播種性血管内凝固症候群の存在を示唆する所見と考える。その他に動脈硬化症および胆管過誤腫の所見が認められたが、死因とは無関係と考えられた。

10. 考察

病理所見からは、敗血症性ショックが直接の死因と考える。組織学的には、大動脈弁と僧帽弁に疣贅が確認され、感染性心内膜炎の所見を認めた。グラム染色では、グラム陽性球菌が確認され、生前に血液培養で検出されたMRSAに合致する所見である。敗血症に付随する所見として、敗血症性多発脳梗塞、両腎膿瘍、出血傾向を認めており、死の転帰につながったと考えられる。グラム染色では弁尖と大脳で、viableなグラム陽性球菌が確認された。浸透圧脱髄症候群、ウェルニッケ脳症、髄膜炎も含め、その他に死因に直結する所見は指摘できなかった。

意識障害を来した原因は敗血症に起因する多発脳梗塞と考えられた。

【症例2】

1. 症例テーマ: 頸部腫瘍に伴う気道狭窄で窒息し死亡したと考えられる1例
2. 診療科、主治医・受持医: 耳鼻咽喉科 池永直、竹林慎治、篠原尚吾
3. CPC開催日: 2018年12月19日
4. 発表者: 臨床側(池永直、上田智也) 病理側(山下大祐、酒井大輝)
5. 患者: 83歳、女性
6. 臨床診断: 甲状腺癌疑い
7. 剖検診断: 1. 二重癌

- 1-1. 甲状腺癌
- 1-2. 胃癌
- 2. 右肺過分葉
- 3. 胆嚢コレステロールポリリープ

8. 臨床情報：

1) 現病歴

X-50年ほど前から頸部腫瘍の自覚はあったが、医療機関を受診せず放置していた。

X年に入り頸部腫瘍は増大傾向であった。

X年Y-23日頃から徐々にADLが低下し、朝起き上がれなくなってきた。

Y-15日頃から排泄もその場ですており、食事は1日1回程度長男の買う弁当を食べていた。

Y-3日から経口摂取困難で、飲水もできなくなった。

Y日、救急要請し当院ERに搬送された。

2) 既往歴・家族歴など

病院受診歴なく、特に指摘されていない

3) 診察所見

身長 160cm, 体重 40.4kg, BMI 17.5

BP120/64mmHg, HR 92bpm(整), SpO2 98%(RA), RR 18/min, BT 37.1°C

GCS: E4V4M6(普段と変わりなし)

口腔不衛生、齲歯多数あり。乾燥している。頸部右側優位に腫大する径約15cm程度の巨大な腫瘍を認める。肺音 Crackle は聴取するが、狭窄音はなし。左足関節以遠に発赤熱感あるが、圧痛はなし。下腿浮腫なし。仙骨部に褥瘡あり。

4) 主な検査データ

血算：

WBC $59.3 \times 10^3/\mu\text{L}$ (Seg 87.5%, Lymph 5.0%, Meta 0.5%, Band 3.5%, Mono 2.0%, Eos 1.0%, Baso 0.5%), Hb 10.3g/dL, PLT $52.1 \times 10^4/\mu\text{L}$,

生化学：

TP 7.3g/dL, ALB 2.1g/dL, T-BIL 0.7mg/dL, AST 12U/L, ALT 16U/L, LD 179U/L, ALP 505U/L, γ -GT 32U/L, BUN 55.8mg/dL, Cre 0.67mg/dL, Na 140mEq/L, K 4.6mEq/L, Ca 8.7mg/dL, 血清 -GLU 225mg/dL, CRP 20.37mg/dL, TSH $4.76 \mu\text{U/mL}$, FT3 1.03pg/mL, FT4 1.00ng/dL, TPO-Ab <9 IU/mL, TgAb <10 IU/mL, サイロク'ロフ'リン 120.0 ng/mL, PROBNP 393.0pg/mL, NGSP 8.2%, CEA 0.9 ng/mL, sIL-2R 3100U/mL

凝固：

PT-INR 1.15, APTT 32.5秒, Dダイマー $3.38 \mu\text{g/mL}$

尿：

5) 画像診断所見

・胸部 Xp

気管の偏位あり、心拡大なし、左中肺野と右中下肺野に浸潤影あり、右 CP angle dull

・頭部単純 CT

頭蓋内に明らかな占拠性病変なし。

・頸部胸腹部造影 CT

頸部右側にて長径 15 cm の内部不均一な巨大腫瘍を認め、周囲臓器・組織や骨(頸椎・胸骨)への広範な浸潤あり。甲状腺右葉を中心に扇状に増大しているように思われ、性状や後述の通り meta が多発していることから甲状腺原発の undifferentiated carcinoma 疑い。

頸椎浸潤により C6 レベルの脊柱管狭窄あり。左側への気道の圧排あり。右内頸静脈は閉塞しており、左鎖骨下動脈も狭窄あり。両側頸部・縦隔に多発する腫大リンパ節あり。

両肺に meta を疑う結節が多発しており、右には carcinomatous pleuritis を疑う胸膜結節や被包化胸水あり。左下葉にて肺炎を疑う浸潤影、右肺上下葉にて閉塞性無気肺と思われる浸潤影あり。肝内に多発する小さな LDA あり。両側上顎洞の骨肥厚を伴う粘膜肥厚・粘液貯留、左腎嚢胞あり。

・甲状腺細胞診

Cellular atypia, suspicious for malignancy

多量の壊死様物を背景に濃染不整形核を有する異型細胞を少数認めます。一部でオレンジ好性の細胞質を持つ異型細胞も認めますが、N/C 比の増大や、核腫大は目立ちません。やや広い胞体が見られ、リンパ腫よりは癌・肉腫を疑う細胞を疑います。悪性の可能性を疑う細胞像ですが、当標本では断定困難です。

6) 経過・治療

FNA では悪性を疑う所見であったが、ご本人は侵襲的な検査や治療を希望されず、緩和医療を行う方針となった。入院時に炎症反応上昇と肺野に浸潤影を認めていたが、発熱や酸素化不良なく、抗菌薬なしで経過観察とした。第6病日に Af tachycardia の状態となりアミオダロンが開始となった。洞調律に復帰したが、第9病日に喀痰増加と酸素化悪化を認め、胸部 X 線を撮像すると巨大な腫瘍が右気管支を圧排しており、右肺全体が無気肺になっていた。徐々に酸素化が悪化し、そのまま永眠された。

7) 手術所見

なし。

8) 症例の問題点（剖検で解明したかった事項）

(1) 頸部腫瘍に関して50年前から認めており、臨床的には甲状腺乳頭癌の未分化転化が考えられたが、病理学的にはどうであったか。

(2) sIL-2R 高値、白血球高値であったが、リンパ腫を疑う所見はあったか。

9. 剖 検 情 報 :

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

(1) 二重癌

1-1. 甲状腺癌 (pT4bN0M1、pStage IV C) 転移巣：肝臓、両側肺、右胸壁、横隔膜

1-1-1. 気管・食道圧迫

1-1-2. 誤嚥性肺炎（喉頭・気管内異物、両側肺うっ血）

1-1-3. 癌性胸膜炎（右胸水貯留 1800ml、血性）

1-2. 胃癌（偶発癌、pT1aN0M0、pStage I A）

<副病変>

(1) 右肺過分葉

(2) 胆嚢コレステロールポリープ

(3) 左腎嚢胞（単発）

(4) 大動脈粥状硬化症

2) 担当病理医：山下大祐

3) 病理医からのコメント

数十年前から甲状腺腫瘍の指摘を受けていたが、その後病院受診せずに放置されていた。死亡より約1ヶ月前から朝起きられなくなり、徐々にADLが低下。終日布団で過ごすようになった。約10日前から経口摂取ができなくなり、8日前に当院へ救急搬送された。末期の甲状腺癌、特に未分化癌が疑われ、best supportive careの方針となった。右肺は閉塞性完全無気肺となり、次第に酸素化が悪化、死亡した。

甲状腺には高・低分化癌を背景とする未分化癌が占拠していた。腫瘍は頭側では喉頭領域へ、尾側では総頸動脈の領域まで広がっており、水平方向には甲状腺右葉から右総頸動脈周囲まで浸潤していた。また横隔膜、肝臓、左右肺への遠隔転移を認めた。

巨大腫瘍が気管を圧迫し、窒息による低酸素血症が直接死因であり、食道圧迫による誤嚥、癌性胸膜炎によると思われる大量の胸水貯留も寄与し

たと考えられる。

10. 考 察

甲状腺癌は一般的に予後良好な悪性腫瘍であり、最も頻度の高い乳頭癌はリンパ節転移が高率であるにもかかわらず、患者生命予後は良好である。その中で甲状腺未分化癌は60歳以上の高齢者に発生し、予後不良である。通常は発見されてからの平均生存期間は1年以内で、3年以上の生存は稀である。WHOの病理学的定義によれば、甲状腺未分化癌は「一部もしくは全体が未分化な腫瘍細胞からなる極めて悪性度の高い甲状腺腫瘍」とされており、肉腫成分があっても癌成分があれば未分化癌に分類される。本症例の大半は肉腫様成分であったが、一部に明確に癌と確定できる成分があり、最終的に甲状腺未分化癌とした。

11. 参 考 文 献

Lloyd RV, Osamura R, Kleppel G, Rosai J: WHO classification of tumors of endocrine organs. 100-106, 2017

第6回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ：後腹膜気腫を併発した重症膵炎により多臓器不全を来し死亡した1例

2. 診療科、主治医・受持医：外科 熊田有希子、
近藤正人、
貝原 聡

3. CPC開催日：2019年2月20日

4. 発表者：臨床側（近藤正人、嶋田有里）
病理側（山下大祐、前田広太郎）

5. 患者：84歳、女性

6. 臨床診断：重症膵炎

7. 剖検診断：1. 急性膵炎

2. 腔水症

3. 消化管粘膜出血

4. 動脈硬化症

8. 臨床情報：

1) 現病歴

X-2日に息子が電話すると普段通りの様子だった。X日21時30分に電話すると、心窩部の痛みを訴え、息づかいが荒かった。22時に息子が自宅に行くと床に倒れており、呼びかけに対して反応が悪かったため、救急要請、緊急入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

高血圧、脂質異常症、軽度認知症、心疾患（詳細不明）

3) 診察所見

Vital signs : GCS E3V5M6 14 点 , BT 36.7 °C ,BP 90/35mmHg,HR 110/min(regular),RR 43/min,SpO2 100%(リザーバースマスク 10L)

皮膚 : 四肢、体感にチアノーゼ著明。

腹部 : 平坦、軟、全体に圧痛あり、筋性防御なし

4) 主な検査データ

血算 :

WBC $3.4 \times 10^3 / \mu\text{L}$, RBC $542 \times 10^4 / \mu\text{L}$, Hb 16.9 g/dL, Ht 52.9 % , MCV 98 fl, PLT $24.6 \times 10^4 / \mu\text{L}$

生化学 :

Na 144 mEq/L, K 3.2 mEq/L, Ca 9.4 mg/dL, TP 6.7 g/dL, Alb 3.9 g/dL, T-Bil 0.6 mg/dL, AST 156 U/L, ALT 119 U/L, LD 450 U/L, CK 198 U/L, CK-MB 30.3 U/L, アミラーゼ 2084 U/L, リパ ーゼ 2436 U/L, BUN 22.5 mg/dL, Cre 1.92 mg/dL, Glu 338 mg/dL, CRP 5.69 mg/dL, トロポニン 0.239 ng/mL

5) 画像診断所見

【心電図】HR 119、洞性頻脈、左脚前枝ブロック

【腹部造影 CT】膵体部、膵尾部周囲に Air あり。十二指腸水平脚周囲に Air あり。膵臓周囲の脂肪織の濃度上昇あり。腹水あり。

6) 経過・治療

来院時、SBP 80 ~ 90mmHg 台のショック状態、頻呼吸著明であった。静脈ガスで著明な高乳酸血症とアシドーシスあり、急速輸液を開始した。ショックの原因検索のために造影 CT を施行したところ、後腹膜に気腫を認めた。気腫の原因として膵炎などもあるが、消化管穿孔の可能性を否定できなかった。MEPM 2g 投与開始の上、外科と相談し、手術となった。手術を施行したが、手術中も大量補液とカテコラミンで血圧維持している状態で徐々にアシドーシスの進行あり、それ以上の手術介入は困難と判断し閉腹とした。術後 ICU 管理を行うもショック状態から離脱できず、入院 2 日目の 9 時 4 分に死亡確認した。

7) 手術所見

開腹時、淡血性やや混濁した漿液性の腹水を多量に認めたが無臭。大網や腹膜、消化管漿膜は軽度発赤調で腹膜炎の所見であった。小腸間膜根部に黒色まだら状の壊死所見を認め、これを開放す

ると鹼化した腸間膜脂肪織を認めた。Treitz 靱帯を開放し左右から IVC まで十二指腸背側を授動し観察するも腸液の漏出や腸管の壊死所見は認めなかった。ICG を行うも明らかな腸管壊死の所見は認めなかった。胆嚢は色調不良であったが ICG では血流を認めた。大腸の色調は問題なかったが、下行結腸外背側の後腹膜と腸間膜の間の層には air が入り混んでおり、後腹膜脂肪織は色調が悪く壊死が疑われ、術前よりも病状が進行していると考えられた。手術中も大量補液とカテコラミンで血圧維持している状態で徐々にアシドーシスの進行あり、それ以上の手術介入は困難と判断し閉腹とした。

8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

- (1) 今回の診断は急性重症膵炎で矛盾しないか？
- (2) 急性膵炎が起きた原因は何か？
- (3) 培養から E.coli が検出されているが、感染経路はどのようなものであったか？

9. 剖検情報 :

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

- (1) 急性膵炎

<副病変>

- (1) 腔水症
- (2) 消化管粘膜出血
- (3) 動脈硬化症
- (4) 膵 IPMN

2) 担当病理医 : 山下大祐

3) 病理医からのコメント

80 歳代女性の、来院の時点で急性膵炎と後腹膜気腫を認めていた症例。腹痛・呼吸苦により自宅に倒れている所を発見された。受診時に著明な代謝性アシドーシス (pH6.8、Lac25) あり、来院時撮像の CT にて、膵体部近傍後腹膜の air を認めた。原因検索のため緊急手術となったが、明らかな消化管穿孔は認めなかった。

剖検では腹腔内容に食物残渣は見られず、便臭やガス壊疽を示唆する特有の悪臭もしなかった。十二指腸球部を中心に消化管の検索を行ったが、ミクロの検討を含めて穿孔部は同定できなかった。急性膵炎の広がり、手術時と比して膵周囲の炎症が更に増悪しており、胃大弯側、十二指腸、横行～下行結腸間膜に拡がっていた。膵には膿瘍が形成され、同部位でのみ桿菌を認めた。培養検査で E. coli が検出され、形態像と一致すると考

えた。上記より、急性膵炎の増悪の結果、多臓器不全となり死亡したと考える。本症例における急性膵炎と感染の因果関係を明らかにできなかった。

10. 考 察

2015年に改訂された急性膵炎診療ガイドラインでは、急性膵炎は間質性浮腫性膵炎(interstitial edematous pancreatitis)と壊死性膵炎(necrotizing pancreatitis)に分けられる。間質性浮腫性膵炎は壊死を伴わず間質の浮腫を呈する急性膵炎であり、腹部CTでは膵臓は腫大するものの、造影CTでは造影不良域を伴わない膵炎であり、膵周囲に液体貯留を認めることもある。壊死性膵炎は膵臓実質もしくは周囲組織が壊死に陥ったものであり、造影CTで明らかな造影不良域を認める。本症例は壊死・膿瘍を伴っており、急性壊死性膵炎に分類される。急性膵炎の原因は胆石・飲酒・薬剤・高脂血症・HIV感染等が知られているが、本症例はいずれにも該当せず、原因の特定には至らなかった。

11. 参 考 文 献

急性膵炎診療ガイドライン2015. 急性膵炎診療ガイドライン2015改訂出版委員会

【症例2】

1. 症 例 テ ー マ：汎血球減少を含む多臓器不全により死亡した1例

2. 診療科、主治医・受持医：血液内科 森 拓人、
吉崎亜衣沙、
西久保雅司、
林 克磨、
石川隆之

3. CPC 開催日：2019年2月20日

4. 発 表 者：臨床側(森 拓人、滋野 稜)
病理側(吉田 誠、廣部圭祐)

5. 患 者：74歳、男性

6. 臨 床 診 断：溶血性貧血

7. 剖 検 診 断：1. 前立腺癌(Gleason score:4+5=9)
2. 大動脈粥状硬化

8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

2018年3月上旬から腰痛が出現し、03/15に前医を受診した。肝胆道系酵素、貧血、血小板減少を認めた。上部内視鏡、各種画像検査で胃がんの再発所見はなかったが、腰椎MRIで骨透亮像を認めたことから造血器腫瘍精査のため2018/03/19

紹介受診した

2) 既往歴・家族歴など

2006年胃がん(Stage III B, 幽門側胃切除・TS1/DTX療法後)

3) 診察所見

体温38.8度, 血圧78/54mmHg, 脈拍数116bpm(整), SpO2 98%(1L), Glasgow coma scale E4V5M6. 眼球結膜、皮膚に黄染認める。それ以外に特記すべきものなし。

4) 主な検査データ

血算：

WBC 12200 / μ L (Blast 0.0 %, Promyelo. 0.5 %, Myelo. 3.0 %, Meta. 6.5 %, Band. 14.0 %, Seg. 59.5 %, Lymph. 12.5 %, Mono. 4.0 %, Eos. 0.0 %, Baso. 0.0 %, Ebl. 30 /100WBC), RBC $183 \times 10^4 / \mu$ L, Hb 5.8 g/dL, Ht 17.0 %, Plt 2.5万 / μ L, RET 91 %, 破碎赤血球有り, Haptoglobin 感度以下

生化学：

TP 5.8 g/dL, Alb 2.6 g/dL, T-Bil 3.5 mg/dL, D-Bil 1.4 mg/dL, AST 142 U/L, ALT 111 U/L, LD 1739 U/L, ALP 1227 U/L, γ -GT 106 U/L, BUN 32.6 mg/dL, Cre 0.64 mg/dL, Na 135 mEq/L, K 4.1 mEq/L, CRP 36.47 mg/dL
CEA 14.0 ng/mL, PSA 4.63ng/mL, sIL2R 1507U/L

5) 画像診断所見

胸腹部造影CT：両側胸水あり、肺野浸潤影なし、肝胆道系に明らかな異常所見なし、前立腺に腫瘍性病変なし

前医単純MRI(腰椎)：腰椎仙椎にT1WI, T2WIで低信号あり

入院中造影MRI(全脊椎)：全脊椎でT1,T2で低信号領域多数あり

6) 経過・治療

#1. 貧血、血小板減少

#1-1. 末梢血幼弱白血球・赤芽球

末梢血に幼弱白血球・赤芽球が出現しており骨髓生検を施行したところ造血細胞の壊死を認めた。骨髓壊死の原因の多くは悪性腫瘍であり、入院期間中に腫瘍性病変の検索をした。既往に胃癌があり再発が疑われたが前医施行の上部内視鏡検査や画像所見では癌の再発を疑う所見は認めなかった。CEA高値も認めていたため下部内視鏡検査も施行したが良性ポリープを認めるのみで悪性腫瘍は認めなかった。PSA高値を認めていたが、CTでは前立腺では明らかな腫瘍性病変は認めな

かった。また、入院時より肝機能障害をみとめており、肝生検を施行したが、髄外造血の所見を認めるのみであった。以上から、臨床所見から骨髓壊死をきたす悪性腫瘍を同定することはできなかった。

#1-2. 溶血性貧血, 破碎赤血球出現

直接・間接クームス陰性, PNH血球陰性, ADAMS13 活性あり, インヒビターなく, 血管内での破碎による二次性 TMA (Thrombotic microangiopathy) が疑われた。入院経過中に発症した突発性難聴に対して PSL を使用した際に、一時的に貧血の改善がみられたが、PSL 中止後に再度貧血は進行し、輸血も頻回に必要となった。免疫学的機序も考慮され mPSL も投与したが改善えられず貧血は進行し、死亡の一因となった。

#2. 肝胆道系酵素上昇

間接 Bil 優位の Bil 上昇を認めていたが、肝胆道系酵素の上昇を認めていた。腫瘍性病変の検索目的に肝生検を施行したが、髄外造血の所見を認めるのみで悪性所見は認めなかった。

7) 手術所見

なし

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- (1) 悪性腫瘍の所見を認めるか?
- (2) TMA を示唆するような病理所見があるか?

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

前立腺癌 (Gleason score:4+5=9)

遠隔転移

(骨髓、腸腰筋、副腎、両側肺、気管・肺門部リンパ節、脾臓、肝臓、心筋) + 脊椎

骨髓壊死

全身黄疸

腸管壊死

肝機能障害

<副病変>

大動脈粥状硬化

【偶発病変】

右腎嚢胞

腺腫様甲状腺腫

2) 担当病理医: 吉田 誠、原 重雄

3) 病理医からのコメント

12年前に胃癌 stage III B に対し幽門側胃切除をし、術後化学療法で再発なく経過していた。その後腰

痛、肝胆道系酵素上昇、貧血、血小板減少があり、腰椎 MRI で骨透亮像を認め造血器腫瘍疑いとして精査目的に当院紹介となった (死亡 34 日前)。骨髓壊死があり悪性腫瘍検索が行われたが、下部消化管内視鏡や肝生検では特定されなかった。ステロイドを投与開始 (死亡 15 日前) するも血球減少が進行し、最終的に VT 波形となり心停止した。

剖検で前立腺に原発と考えられる腺癌を認めた。転移臓器は骨髓、腸腰筋、副腎、両肺、気管・肺門部リンパ節、脾臓、肝臓、心筋であった。脊椎は全体的に線維化、壊死に伴い脆く、骨髓は引けない状態であった。組織では、PSA が陰性の低分化成分を認めた。壊死や線維増生、腫瘍塞栓が観察され、前立腺癌の転移による骨髓壊死と考えた。骨髓壊死の進行に伴い造血能が障害され、多臓器不全に至ったことが直接死因と考えた。

10. 考察

固形悪性腫瘍では時に骨髓に広範な転移巣を形成することがあり、一般に骨髓癌腫症と呼ばれる。骨髓癌腫症を呈しやすい悪性腫瘍の代表例は乳癌、前立腺癌、胃癌などであり、多くの原発巣は進行癌の状態であるが、蝕知不能の微小な乳癌から骨髓癌腫症に至った例も報告されている。前立腺癌は一般的に骨転移を来しやすいが、前立腺癌による播種性骨髓癌腫症の報告例は本邦で 20 例と以外に少なく、実際には報告例以上に存在している可能性もある。他悪性腫瘍に比較すると、前立腺癌による骨髓癌腫症の予後は比較的良いことが指摘されており、治療に対する初期反応が良好なことが多い。本症例は極めて広範囲な骨髓癌腫症の状態であり、髄外造血も呈していたことから治療困難であったと考えられる。

11. 参考文献

- 1) 門谷弥生, 他: 非蝕知乳癌が原発巣と考えられた骨髓癌腫症の 1 例. 京府医大誌 119-117, 2010
- 2) 藤森雅博, 他: 抗男性ホルモン療法にて貧血の著明な改善を得た前立腺癌による骨髓癌腫症. 泌尿器外科, 15 771-774, 2002
- 3) 原武讓二, 堀江昭夫: 骨髓癌腫症の臨床病理学的検討. 癌の臨床, 31 168-178, 1985

V. CPC 報告

V. 2 CPC 報告(2018年4月～2019年3月) (西市民病院)

第1回西市民病院CPC報告

1. 症例テーマ：急性肝不全を来した1例
2. 診療科、主治医・担当医：内科 星、多山
3. CPC開催日：2018年4月24日
4. 発表者：臨床側(多山)
病理側(勝山)
5. 患者：60才台、男性
6. 臨床診断：急性肝不全
7. 剖検診断：肝癌術後状態
8. 剖検情報：
 - 1) 剖検診断と剖検所見
 - (1) 肝癌術後状態(肝細胞癌、門脈内腫瘍塞栓を伴う、1180g)
 - 1-1. 慢性肝炎
 - 1-1-1. 脾腫(170g)
 - 1-2. 肝不全
 - 1-2-1. 腹水(600ml、黄色)
 - 1-2-2. 胸水(左：150、右：150ml)
 - 2) 肺うっ血水腫(左：600、右：700g)

*肝表面はやや粗造です。剖面にて、3ヶ所ほど腫瘍性病変を認めました。1ヶ所は門脈内と考えられます。組織所見では壊死が著しく詳細の判定が困難でした。周囲肝組織では偽小葉構造もみましたが、偽小葉構造が明かではない部分もあり、また肉眼所見からも慢性肝炎相当と考えます。*横行結腸、下行結腸は拡張し、正常軟便を多くみましたが、器質的な閉塞所見はありません。*胃も拡張し、食物残渣を多くみましたが、器質的な病変は認められません。*食道上部にも同様の食物残渣を少量みましたが、気管、気管支などの気道内には認められません。*出血性病変は認められません。*両上腕を検索しましたが、ワクチン接種痕は確認できませんでした。
 - 2) 担当病理医：勝山

第2回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・担当医：内科 星、加藤
2. CPC開催日：2018年5月29日
3. 発表者：臨床側(加藤)
病理側(勝山)

4. 患者：70才台、男性
5. 臨床診断：胃癌
6. 剖検診断：胃癌
7. 剖検情報：
 - 1) 剖検診断と剖検所見
 - (1) 胃癌(胃前庭部、Borr IV型、低分化型腺癌)
 - 1-1. 同転移
 - 1-1-1. 肝(2100g、直径3cm以下多数)
 - 1-1-2. 癌性腹膜炎
 - 1-1-2-1. 腹水(400ml)
 - 1-1-3. 顕微鏡的
 - 1-1-3-1. 肺
 - 1-1-3-2. 膵
 - 1-1-3-3. 脾臓
 - 1-1-3-4. 腎
 - 1-1-3-5. 心
 - (2) 水腎症カテーテル挿入術状態(左：150、右：200g)
 - (3) 肺うっ血水腫(左：800、右：1000g)
 - (4) 粥状動脈硬化
 - 1-1. 右冠動脈ステント挿入術後状態
 - 1-2. 大動脈(軽度～中等度)

*胃前庭部にBorr IV型 Adenocarcinomaをみ、内腔は狭窄します。*食道内、気道内に異物は認められませんでした。*肺の組織にて誤嚥を疑う異物型炎症性所見をみました。*腸管膜などの漿膜面は白色化し、やや粗造で、硬く触知します。癌性腹膜炎の所見です。*腎盂の拡張はありませんでした。粘膜面もきれいであり、また腎の組織所見では炎症性細胞浸潤はみず、腎盂腎炎の所見は認められません。*肺、膵、脾臓、腎、心などで顕微鏡的な転移を認めます。
 - 2) 担当病理医：勝山

第3回西市民病院CPC報告

1. 症例テーマ：術後もイレウス、腹水が持続した腸管関連T細胞リンパ腫の1例
2. 診療科、主治医・担当医：内科 安村、下園
外科 新田
3. CPC開催日：2018年7月30日
4. 発表者：臨床側(下園)

病理側（勝山）

5. 患者：60才台、女性
6. 臨床診断：悪性リンパ腫
7. 剖検診断：重複癌
8. 剖検情報：

1) 剖検診断と剖検所見

(1) 重複癌

1-1. 小腸原発悪性リンパ腫術後状態

1-1-1. 同浸潤

1-1-1-1. 小腸（穿孔を伴う）

1-1-1-1-1. 腹膜炎

1-1-1-1-1-1. 腹水（1300ml）

1-1-1-2. 大腸

1-1-1-3. 胃

1-1-1-4. 肝

1-1-1-5. 膵

1-1-1-6. 骨髄

1-1-2. 大腸癌内視鏡切除後状態（再発なし）

(2) 肺うっ血水腫（左：350、右：350g）

(3) 大動脈粥状硬化症（中等度）

*腸管は既往の手術に伴う癒着が広範囲にみられましたが、大部分用手的に剥離可能でした。
*下部消化管内容は血性ではなく、大腸内には黄色軟便を認めました。
*小腸から大腸にかけて浅い潰瘍形成が多発します。漿膜面からも赤色調に認められます。その部分の組織所見では漿膜側を中心にリンパ腫細胞の浸潤をみます。その他胃、肝、膵にも腫瘍形成はありませんが、組織所見でリンパ腫細胞の浸潤をみます。
*腹水は黄色でやや濁り、骨盤腔内では更に濁ります。その細菌培養で、Klebsiella pneumoniae (3+), Pseudomonas aeruginosa (2+), Enterococcus faecalis (2+) を認めました。

2) 担当病理医：勝山

第4回西市民病院CPC報告

1. 症例テーマ：原因不明の腹腔内出血によりCPAとなった1例
2. 診療科、主治医・担当医：内科 瀧口、佐藤
3. CPC開催日：2018年10月30日
4. 発表者：臨床側（佐藤）
病理側（勝山）
5. 患者：70才台、男性
6. 臨床診断：急性大動脈解離の疑い
7. 剖検診断：胃癌術後状態

8. 剖検情報：

1) 剖検診断と剖検所見

(1) 胃癌術後状態（Bill-II法再建、再発なし）

(2) 腹腔内出血（400ml）

1-1. 大動脈粥状硬化症（高度）

1-2. 求心性心肥大（400g、手拳の1.2倍大、左心厚：2.5cm）

(3) 肺うっ血水腫（左：500、右：650g）

1-1. 肺胞内出血

1-2. 骨髄塞栓症（いずれも心肺蘇生による）

(4) 膜性腎炎（左：150、右：150g）

(5) 肝褐色変性（850g）

*腹腔内には純血性の腹水400mlみられたが、後腹膜、胸腔には出血はなかった。
*大動脈には高度の粥状硬化症を認めたが、動脈瘤はなく、解離もみとめなかった。
*腹腔内の小動脈からの出血と考えられるが、出血源は同定できなかった。
*肺動脈血栓、気道内異物もみなかった。
*肺うっ血が目立ち、悪い状態がある程度続いていた可能性が考えられる。
*求心性心肥大をみるが、冠動脈硬化は軽度で、有意の狭窄はなかった。
*心筋梗塞もなし

2) 担当病理医：勝山

第5回西市民病院CPC報告

1. 症例テーマ：化学療法が奏功しなかった上行結腸癌の1例
2. 診療科、主治医・担当医：内科 星・李
3. CPC開催日：2018年11月27日
4. 発表者：臨床側（李）
病理側（勝山）
5. 患者：70才台、男性
6. 臨床診断：上行結腸癌
7. 剖検診断：上行結腸癌
8. 剖検情報：

1) 剖検診断と剖検所見

(1) 大腸癌（上行結腸原発、低分化型腺癌）

1-1. 同転移

1-1-1. 骨（L1）

1-1-2. 肝（1000g、直径1cm以下複数の転移巣）

1-1-3. 肺（左：420、右：430g、直径2mm以下無数の転移巣）

1-1-4. 癌性腹膜炎（腸管漿膜面の播種性転移）

1-1-4-1. 腹水（1100ml）

- 1-2. 人工肛門増設術後状態
- 1-3. 右腰部膿瘍形成ドレーン挿入術後状態
- (2) 大動脈粥状硬化症 (中等度)
 - 1-1. 良性腎硬化症 (左: 150、右: 150g)
- (3) 肺うっ血水腫
- (4) 腔水症

- 1-1. 胸水 (左: 810、右: 790ml)
- 1-2. 心嚢水 (10ml)
 - * 上行結腸に主病変があり、腹膜に癒着します。
 - * 腸管漿膜面を主体とした漿膜に白色の小さな浅い隆起性病変が無数にみられ、播種です。肺胸膜面を中心に同様の転移巣をみます。* 骨も白色に変化し腫瘍の転移をみます。* リンパ節の腫大は認められません。* 胃内容はほとんどなく、下部消化管内容は黄色軟便でした。

2) 担当病理医: 勝山

第6回西市民病院CPC報告

1. 症例テーマ: 食道癌浸潤による消化管穿孔に続発する腹膜炎を伴った剖検症例
2. 診療科、主治医・担当医: 内科 星、北尾
3. CPC開催日: 2019年1月28日
4. 発表者: 臨床側 (北尾)
病理側 (勝山)
5. 患者: 60才台、男性
6. 臨床診断: 食道癌
7. 剖検診断: 食道癌
8. 剖検情報:
 - 1) 剖検診断と剖検所見
 - (1) 食道癌化学放射線治療後状態 (扁平上皮癌)
 - 1-1. 同転移
 - 1-1-1. 肺 (左: 500、右: 700g)
 - 1-1-2. 肝 (1200g)
 - 1-1-3. 腎 (左: 150、右: 200g)
 - 1-1-4. 腹部大動脈周囲リンパ節
 - 1-2. 胃瘻増設術後状態
 - (2) 穿孔性腹膜炎
 - 1-1. 腹水 (800ml)
 - (3) 腔水症
 - 1-1. 左胸水 (1600ml)
 - * 食道原発部位にはもはや腫瘍は認められませんでした。種々の臓器に転移病変をみます。* 回盲部から10cmほど口側で穿孔を認めますが、その部位に腫瘍は認められません。* 腹水は黄色濁で、糞臭がありました。腹水の細

胞培養で、E. coli (2+)、E. faecium (2+) を認めました。* 胃には黒色液状内容物のみ、胃壁は暗赤色から黒色の変性し浮腫をみます。胃内容物の細菌培養で、E. coli (少数)、E. faecalis (+)、E. faecium (少数) 認めました。

2) 担当病理医: 勝山

第7回西市民病院CPC報告

1. 症例テーマ: 原発不明腹膜播種による癌性腹膜炎をきたした1例
2. 診療科、主治医・担当医: 内科 星、遠藤
3. CPC開催日: 2019年2月22日
4. 発表者: 臨床側 (遠藤)
病理側 (勝山)
5. 患者: 82才台、女性
6. 臨床診断: 癌性腹膜炎
7. 剖検診断: 胆管細胞癌
8. 剖検情報:
 - 1) 剖検診断と剖検所見
 - (1) 肝癌 (胆管細胞癌、1100g)
 - 1-1. 同転移
 - 1-1-1. 腹部大動脈周囲リンパ節
 - 1-1-2. 臍頭部
 - 1-1-3. 横隔膜
 - 1-1-4. 肺 (顕微鏡的)
 - 1-2. 癌性腹膜炎 (黄色濁腹水: 3000ml)
 - 1-3. 黄疸
 - (2) 肺うっ血水腫 (左: 400、右: 600g)
 - (3) 動脈硬化症
 - 1-1. 冠動脈 (左右とも約50%の狭窄)
 - 1-2. 大動脈 (中等度~高度)
 - (4) 死後変性著明 (死後65時間)
 - * 肝右葉に直径9cm程の白色腫瘍を認めます。その組織所見では粘液産生の目立つAdenocarcinomaの所見を認めます。わずかにperineural invasionを認め、胆管、膵管系のAdenocarcinomaの特徴をみます。肝腫瘍が最も大きく原発と考えます。* 腹膜面には横隔膜および大腸漿膜面に転移をみます。* 死後変性著明で、腹腔内、胃壁内にガス産生を認めました。

2) 担当病理医: 勝山

第8回西市民病院CPC報告

1. 症例テーマ: 消化管穿孔を来したTAFRO症候群の1例

2. 診療科、主治医・担当医：内科 渡辺、穂積、
金井、瀧口、
西垣

3. CPC 開催日：2019年3月36日

4. 発表者：臨床側（西垣）
病理側（勝山）

5. 患者：69才台、男性

6. 臨床診断：TAFRO 症候群

7. 剖検診断：TAFRO 症候群

8. 剖検情報：

1) 剖検診断と剖検所見

(1) 「TAFRO 症候群」

1-1. 腔水症

1-1-1. 腹水（3500ml、血性）

1-1-1-1. 腹膜炎

1-1-2. 胸水（左：1900、右：600ml、血性）

1-1-3. 出血傾向

1-1-3-1. 皮膚

1-1-3-2. 消化管漿膜面

(2) 肺うっ血水腫および下葉無気肺（左：420、右：
500 g）

(3) 大動脈粥状硬化症（軽度）

* 消化管漿膜面に出血がみられ、また fibrin の析出もあり、穿孔が疑われますが、もはや穿孔部位の確定は困難でした。* 下部消化管内容は血性ではなく、潰瘍形成もみません。* 骨髄は赤色調が減じ、やや白色に見えます。組織ではむしろやや細胞密度は高く、各系列の造血細胞の混在をみます。軽度の線維化は否定できませんが、目だった線維化はありません。* リンパ節腫大はありません。肺門部リンパ節の組織所見ではリンパ節の構築は保たれ、キャスルマン様の所見はみられません。* 腎皮質は保たれます。

2) 担当病理医：勝山

V. CPC 報告

V. 3 CPC 報告(2018年4月～2019年3月) (西神戸医療センター)

第1回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テーマ：剖検により多形型横紋筋肉腫と診断された原発不明癌の1例
2. 診療科、主治医：免疫血液内科 田中康博、
田川涼葉
3. CPC開催日：2018年5月21日
4. 発 表 者：田川涼葉
5. 患 者：76歳、女性
6. 臨 床 診 断：原発不明癌（多発性肺、骨転移）
7. 剖 検 診 断：左鎖骨部原発の多形型横紋筋肉腫
8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

関節リウマチのため当院免疫内科通院中。エタネルセプト 50mg/week 内服にて関節痛は軽減傾向であったが、CRP/MMP-3は陽性のまま経過していた。来院2ヶ月前より左肩痛出現し、近医整形外科にて溶骨性変化を伴う左鎖骨部骨幹部骨折との診断、CTで両肺に多発結節影を認めた。同時期より呼吸困難出現したため、エタネルセプトは中止した。PET-CTにて原発巣特定できず、原発不明癌として生検部位を検討していた。来院3日前より全身倦怠感、食思不振が出現し、当日朝より38℃の発熱認められたため当院救急搬送、緊急入院となった。

2) 既往歴・家族歴など

関節リウマチ、66歳：肝細胞がん、71歳：心筋梗塞、76歳：带状疱疹

3) 診療所見

意識 JCS I -1, 体温 38.2℃, 血圧 198/69 mmHg, 心拍数 90 回 / 分, SpO₂ : 100% (2L). 瞳孔径 : 4.0 mm 大、左右差なし、共同偏視なし。対光反射 : 両側 (+)。左頸部腫脹 (+)。呼吸音 : 右呼吸音の減弱あり。心音 : 頻脈、収縮期雑音あり。上肢 : 左手の脱力あるが MMT(R/L) : (4,5)

4) 主な検査データ

WBC 3700/μl, RBC 320 万 / μl, Hb 10.6 g/dl, Ht 33.0%, Plt 2.7 万 / μl, PT-INR 1.0, APTT- 秒 34.2 秒, Fib 112 mg/dl, D-*kt* イ⁻ 21.23 μg/ml, CRP 2.1 mg/dl, TP 7.4 g/dl, Alb 3.4 g/dl, T-Bil 0.7 mg/dl, AST 23 IU/l, ALT 10 IU/l, γ-GTP 41 IU/l, ALP 411 IU/l, LDH 355 IU/l, CK 79 IU/l, AMY 49 IU/l, UA 5.1 mg/dl,

BUN 32 mg/dl, Cre 1.72 mg/dl, Na 140 mEq/l, K 3.5 mEq/l, Ca 8.2 mg/dl, HbA1c 6.0%, CEA 6.2 ng/ml, CYFRA 12.3 ng/ml, SCC 1.4, pro-GRP 91.4 pg/ml

5) 画像診断所見

[胸部 X-P] 肺門部、両上肺野に多発腫瘤影。

[胸腹部 CT] 左鎖骨上窩にリンパ節腫大。両側肺野に複数の 2cm 以下の結節。左肺尖部に増大傾向の病変。左鎖骨に骨溶解像を伴った腫瘤。

[PET-CT] 静脈～右房腫瘍栓、多発リンパ節転移、肺転移、骨転移の疑い。右後頭葉に軽度高濃度を示す mass あり、出血や脳転移の疑い。

[頭部 CT] 右側頭葉から頭頂葉領域に出血と思われる高吸収域がみられ、周囲の脳実質には浮腫性変化あり。脳室内穿破も認められる。

6) 経過・治療

来院時 DIC、脳出血を発症しており生検による確定診断は不可。ニカルジピンで血圧コントロールを行いながら BSC との方針で当院免疫血液内科に入院した。輸液・嘔気に対してステロイド投与行っていたが入院後7日目に死亡した。

7) 手術所見

施行せず。

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

原発巣の同定、診断

9. 剖 検 情 報 :

1) 剖検診断と病理所見

左鎖骨部原発の多形型横紋筋肉腫、肺転移による呼吸不全、血管内進展による肺動脈への腫瘍塞栓、右脳出血

2) 担当病理医：橋本公夫

3) 病理医からのコメント

本例は左鎖骨部に原発した多形型横紋筋肉腫の症例で、血管内に伸展し、肺動脈に多数の腫瘍塞栓を形成していた。腫瘍は他の場所に拡がり認められず、検索した臓器に死因となる病変は認められず、臨床的に脳出血がみられており、最終死因は脳出血と考えられた。

10. 考 察

横紋筋肉腫は、未分化間葉系細胞から発生する悪性腫瘍と定義される。15歳以上での発症は全体の約20%を占めており、20歳以上での発症は稀である^{1,2)}。

現在 WHO 分類では胎児型、胞巣型、多形型、紡錘形・硬化型に分けられており、本症例は多形型に当てはまる。この病型は 60 歳から 70 歳台に好発し、男性に多いとされている。診断には組織学的診断が必要となる。本邦では多形型横紋筋肉腫では好酸性細胞質、横紋筋芽細胞が特徴的な組織像として認められ、マーカーは Desmin, MSA, Myogenin である³⁾。また、紡錘形細胞型 RMS (25 例)、多形型 RMS (16 例) および混合型 (16 例) の 57 症例を検討した研究では、すべての症例が Desmin および Myogenin に対して陽性であることを示した⁴⁾。成人多形型横紋筋肉腫 38 症例を検討した研究では、少なくとも 1 つの骨格筋特異マーカーを有する骨格筋分化を示した。さらに、全ての症例は、非特異的筋マーカーに対していずれかの陽性を示した⁵⁾。治療に関しては、未だ確立された方法がない。小児においては局所腫瘍制御を最大とするために手術または放射線治療を行い、全身化学療法と併用する集学的治療が行われている。遠隔転移を有する患者は高リスクグループに分類され、標準的全身療法は三剤併用 VAC (シクロホスファミドまたはイホスファミド、ダクチノマイシン、ビンクリスチン) とされている⁶⁾。1995 年から 2014 年に、三次肉腫センター (英国、スイス、ドイツ) にて多形型横紋筋肉腫と診断された 45 人の成人患者の治療の特徴および結果を分析した研究において、限局性であったのは 45 症例中 32 症例であり、集学的治療施行されたが、再発率は 53.8% (限局性 4 例および遠隔再発 10 例) であった。また限局性 32 例と転移性 13 症例の患者の生存率中央値はそれぞれ 12.8 ヶ月および 7.1 ヶ月であった。第一選択化学療法を受けた患者は合計で 14 名 (31.1%) であり、結果は多剤型の部分寛解 1 例と症状安定の 6 例であり化学療法に対する反応は乏しかった。無増悪生存期間の中央値は 2.3 ヶ月であった⁷⁾。以上より多形型横紋筋肉腫は、再発率が高く、標準化学療法に対する反応性も乏しく、予後が全体的に悪い腫瘍だと考えられる。

本症例は DIC、脳出血を合併したため生前確定診断には至らなかったが、病理解剖により左鎖骨部原発の多形型横紋筋肉腫であると診断された。多形型横紋筋肉腫は治療法が確立されておらず、極めて予後が悪い疾患である。

11. 参考文献:

1) Parham DM. Pathologic classification of rhabdomyosarcomas and correlations with molecular studies. *Mod Pathol* 14:506-14, 2001

- 2) 渡辺温子, 細野亜古, 河本博, ほか: 当院にて 7 年間に経験した思春期・若年成人発症横紋筋肉腫 20 例. *小児がん* 45: 249-255, 2008
- 3) National cancer center Japan (2011) 「軟部多形性腫瘍の病理診断」 https://cir.ncc.go.jp/pathology/01/soft_tissue_pleomorphic_tumor.html,
- 4) Stoc N: Adult-type Rhabdomyosarcoma: Analysis of 57 Cases With Clinicopathologic Description, Identification of 3 Morphologic Patterns and Prognosis *Am J Surg Pathol* 33:1850-1859, 2009
- 5) Furlong MA: Pleomorphic Rhabdomyosarcoma in Adults: A Clinico-pathologic Study of 38 Cases with Emphasis on Morphologic Variants and Recent Skeletal Muscle-Specific Markers, *Modern Pathology* 14:595-603, 2001
- 6) 米国国立がん研究所 (2018) 「小児横紋筋肉腫の治療 (PDQ*)」
- 7) Noujaim J: Adult Pleomorphic Rhabdomyosarcoma: A Multicentre Retrospective Study. *ANTICANCER RESEARCH*. 35:6213-6218, 2015
- 8) Parham DM, Barr FG: Rhabdomyosarcoma. <https://www.iarc.fr/en/publications/pdfs-online/pat-gen/bb5/bb5-chap6.pdf>,

第 2 回西神戸医療センター CPC 報告

1. 症例テーマ: 急速な胸水貯留を認めた慢性骨髄性白血病の 1 例
2. 診療科・担当医: 免疫血液内科 田中康博、宮崎純志
3. CPC 開催日: 2018 年 6 月 18 日
4. 発表者: 宮崎純志
5. 患者: 83 歳女性
6. 臨床診断: 慢性骨髄性白血病 (慢性期)
7. 剖検診断: 慢性骨髄性白血病 (急性転化期)
8. 臨床情報:

1) 現病歴

入院 4 日前より倦怠感を自覚し歩行できなくなっていた。入院前日にかかりつけ医を受診し、既往である心不全の増悪と判断され利尿剤を追加された。その後も症状の改善がみられず、施設職員のすすめで当院救急外来を受診し同日入院となった。

2) 既往歴

高血圧、糖尿病、Alzheimer 型認知症、慢性腎不全、脳梗塞、メニエール病、左突発性難聴、白内障

3) 診療所見

眼瞼結膜：蒼白。心音：不整、no murmur. 呼吸音：両側 crackles(+). 腹部：軟、自発痛、圧痛無し。四肢：両下肢に pitting edema.

4) 主な検査データ

血液検査：WBC 76200/ μ l, RBC 334 万/ μ l, Hb 8.4/dl, Plt 242.2 万/ μ l, LDH 539IU/l, NAP-S 96, NAP-R 32%, V-B12 >1500 pg/ml

染色体検査 (G バンド法)：染色体構成 (核型) 46, XX, t(9;22) (q34;q11.2)

染色体検査 (FISH 法)：9;22 転座による BCR/ABL 陽性細胞を認める。

5) 画像所見

胸部レントゲン：心拡大あり。両側胸水貯留あり。

6) 入院後経過

胸水に対してフロセミド (20mg \times 2/day) で加療を開始した。入院 2 日目には血球数コントロール目的でヒドロキシカルバミド (2000mg/day) の投与を開始した。入院 3 日目に胸水貯留の急激な増加を認めたため、胸水穿刺を試みたが、認知症による従命困難や体位保持困難のため少量しか排液が得られなかった。入院 4 日目に呼吸状態が悪化し、永眠された。

7) 手術所見

施行せず。

8) 症例の問題点

急速に貯留した胸水の原因が不明であること。

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見

病理診断：

慢性骨髄性白血病；t(9;22)(q34;q11.2).

浸潤；骨髓、肺、胸膜、肝臓、脾臓。

病理所見：

皮膚：貧血様で一部出血が見られた。黄疸なし。

肺：胸腔内には右 700mL の黄褐色、左 900mL の血性胸水貯留が認められ、左胸腔内には凝血塊が見られた。胸膜の癒着は軽度。気管内に泡沫状の内容が見られたが、閉塞物は見られず。左右肺は上葉優位に腫大が認められ、両肺に強いうっ血が見られた。断面で限局性の病変は認めず。組織学的には肺胞壁の線維性肥厚や肺組織の改築は認められず、肺胞壁毛細血管内や、間質に血液細胞の浸潤が認められる。これらの細胞の多くは MPO (+) である。胸膜にも浸潤が見られるとともに、軽度のリンパ管の拡張が認められる。出血は軽度。

炎症所見は認めず、上皮性腫瘍性病変も認めず。

心臓：心嚢液は約 16ml で、黄褐色調。大動脈や冠動脈に動脈硬化性変化が見られ、冠動脈起始部で軽度の狭窄が見られる。断面では心筋の広い範囲の脱落は見られないが、組織学的に心筋の脱落と線維化が見られており、特に左室内膜下に優位である。白血病細胞の浸潤は見られない。

食道：下部に高度の逆流性食道炎の所見。胃や小腸ではカタル性変化が高度。組織学的には白血病細胞の浸潤は見られない。下行結腸から S 状結腸にかけて多発する憩室が見られ、内腔の軽度の狭窄が見られる。

肝臓：軽度の腫大が見られるが、限局性の変化は見られない。組織学的に類洞優位で門脈域にも白血病細胞の浸潤が見られる。Zone 3 優位でうっ血が見られており、肝細胞索の萎縮が見られる。肝細胞に脂肪浸潤は認められない。

脾臓：肉眼的に小葉構造は明瞭で出血や脂肪壊死は認められない。組織学的にも白血病細胞の浸潤は見られない。

脾臓：軽度の腫大が見られており、限局性の病変は見られないが、組織学的には広範な赤脾髄への浸潤が見られる。

腎臓：多発性の嚢胞形成。組織学的には慢性腎盂腎炎と考えられる炎症細胞浸潤と尿細管の萎縮がみられる。糖尿病性変化は糸球体には見られない。

骨髓：骨梁間に多数の造血細胞が見られる。赤芽球系は少数で、大部分は後骨髓球や骨髓球、前骨髓芽球や芽球。骨髓巨核球は少数である。

2) 担当病理医：橋本公夫

10. 考 察

慢性骨髄性白血病では稀な現象として骨髓に先んじて髓外で急性転化を来す、髓外急性転化を引き起こすことがある。骨髓検査では慢性期の像を呈す一方で、髓外臓器で芽球の浸潤を認める。一般的にはリンパ節や骨などに発現するケースが多いとされている。

本症例では末梢血や骨髓の細胞像からは慢性期の所見が得られた一方で、胸膜や肺など複数臓器への浸潤が見られ、髓外急性転化を引き起こしていたと考えられる。臨床的には慢性期と考えられていたが、病理解剖により病期分類としては急性転化期の基準に当てはまることが判明した。過去の症例報告などを参照するに、今回の症例は胸膜に髓外急性転化を認めた稀な症例であったと考えられる。

11. 参考文献：

- 1) 造血器腫瘍診療ガイドライン（日本血液学会）
- 2) Chronic Myeloid Leukemia with Extramedullary Blast Crisis: Two Unusual Sites with Review of Literature. Indian J Hematol Blood Transfus 32(Suppl 1):89-95,2016

第3回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：EPOCH療法開始後に壊死性腸炎をきたしたびまん性大細胞性リンパ腫の1例
2. 診療科、主治医・受持医：
免疫血液内科 橋本朗子、
免疫血液内科 三浦敦美
3. CPC開催日：2018年7月2日
4. 発表者：臨床側（三浦敦美）
病理側（橋本公夫）
5. 患者：46歳、男性
6. 臨床診断：びまん性大細胞性リンパ腫、糞便性イレウス、壊死性腸炎
7. 剖検診断：びまん性大細胞性リンパ腫、糞便性イレウス、壊死性腸炎
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴
X年10月22日より仰臥位で両側側背部痛を認めた。左鎖骨上窩リンパ節腫大が出現したため11月18日に前医でCTが施行された。多発リンパ節腫脹を認めたため11月20日に当科紹介受診し、精査加療目的に12月13日当科入院となった。
 - 2) 既往歴
なし。
 - 3) 診療所見
体温 36.4℃、血圧 104/58mmHg、脈拍 95/min、SpO2 98%
頸部リンパ節腫脹、圧痛なし。腹部平坦、軟、圧痛なし。
 - 4) 主な検査データ
【血液検査】WBC 5400/ μ l(STAB 9.0%, SEG 58.0%, LYMPH 15.0%, MONO 14.0%, EOS 2.0%, BASO 1.0%, ATYLYMP 1.0%), RBC 386万/ μ l, Hb 10.7 g/dl, Ht 34.3%, Plt 13.8万/ μ l, CRP 5.9 mg/dl, T-Bil 0.6 mg/dl, AST 23 IU/l, ALT 24 IU/l, ALP 286 IU/l, LDH 305 IU/l, BUN 23 mg/dl, Cr 0.87 mg/dl, eGFR 75.3 ml/分/1.73, Na 143 mEq/l, K 4.1 mEq/l, β -2-MG 3.7 mg/l, IgG 1245 mg/dl, IgA 303 mg/dl,

IgM 24 mg/dl, sIL-2R 11700 U/ml

【骨髄検査】有核細胞数：29500/mm³、巨核球数：0/mm³、観察できる範囲では正形成性骨髄である。明らかなリンパ腫細胞の浸潤は認めない。

【骨髄FCM】CD11c+, CD16+, CD5-, CD19-, CD20-, κ -, λ -

【骨髄Gバンド分染法】46XY, inv(9)(p12q13)[20]

【リンパ節生検】免疫組織学的には増生する細胞はCD20(+), CD79a(+), CD10(0), CD5(+), CD30(-), bcl-2(+), bcl-6(+), cyclin D1(-), SOX11(-), CD3(-), EBER(-)である。

【リンパ節FCM】CD5+, CD19+, CD20±, κ <<
 λ

【リンパ節Gバンド分染法】11細胞に異常あり。

5) 画像診断所見

[PET] 左胸鎖乳突筋と前斜角筋の間、横隔膜脚後部から大動脈周囲から右総腸骨動脈領域や腸間膜、傍食道領域リンパ節に高集積腫瘍を認める。

6) 経過・治療

上記検査所見からびまん性大細胞性B細胞リンパ腫と診断し、20日よりEPOCH療法(VP16 90mg/day:day1-4, VCR 0.7mg/day:day1-4, ADR 17mg/day:day1-4, CY 1300mg/day:day5)を開始した。また、腹痛に対して14日～19日にPSL 30mg内服を行い、疼痛は軽減していた。腹痛に対しナルラピド*1mg、オプソ内服液*5mg、MSコンチン*10mg 2T/2を処方。24日頃より便秘傾向強くなり、26日より腹痛が増悪した。造影CTでは腸管内の閉塞など異常所見認めなかった。その後も腹痛改善なく、28日にレントゲン、単純CT施行したところ腸管の著明な拡張を認めたため、プロスタルモン*点滴を開始し、絶食、補液の方針とした。29日4時頃に意識レベルが低下しているのを発見され、その後心肺停止状態となった。CPRを開始したが自己心拍再開見られず、5時33分に永眠された。

7) 手術所見

なし。

8) 症例の問題点

化学療法による骨髄抑制が来ていたが、それによる感染症のイベントや腸管内圧の上昇で急激な心肺停止に至るのか。

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

腹腔内に 150ml の血性腹水。盲腸から横行結腸左側にかけて拡張と漿膜面に出血が見られ、内腔には便様内容が充満。上行結腸に腸管の拡張と菲薄化を認めていたが、色調の変化なし。最も病変の強い横行結腸近位部では、腸管の拡張と色調の変化を認めた。組織学的には、最も病変の強かった横行結腸は、血管浮腫が目立ち筋層までの組織の脱落を認め、強い壊死性変化を認めた。また、上行結腸、S 状結腸の筋層は保たれていたが、粘膜層の脱落を認めた。

リンパ節は、腫瘍細胞の遺残はあったが、生検時に比べて核形不正や巨核化が目立っており、一定の治療効果がうかがわれた。

肝臓や脾臓、骨髄には腫瘍細胞の浸潤は確認されなかった。

以上の所見から本例は糞便性イレウスを契機に壊死性腸炎となり死亡したと考えられた。

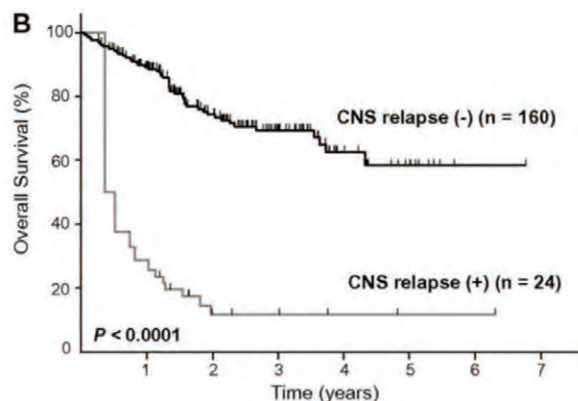
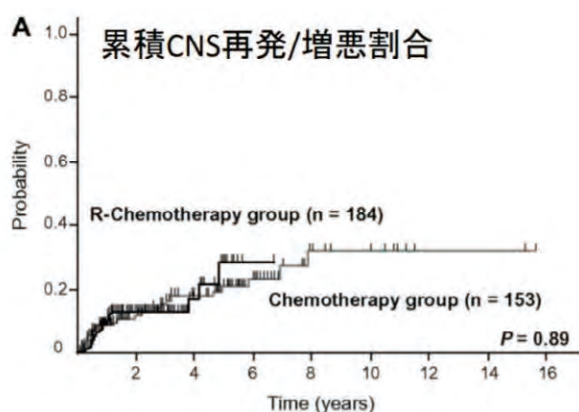
2) 担当病理医: 橋本公夫

3) 病理医からのコメント

壊死性腸炎に矛盾しない病理所見である。

10. 考察

びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫のうち、本症例のような CD5 陽性のものは約 10% であり中枢神経系の再発が多いといわれている。A の図が中枢神経系の再発、増悪割合だが、リツキサンの併用でも割合は変わりなく、中枢神経系の再発をした場合、B の図のようにきわめて予後は不良となる。



現在中枢神経系の再発予防を目指す治療が開発されているところであり、dose-adjusted(DA)-EPOCH-R 療法と high-dose(HD)-MTX 療法を組み合わせた治療法の第 II 相試験、PEARL5 が進行中である。本症例でも、これと同様の治療法を行った。

本症例で死に至ってしまった原因だが、まずビンクリスチン、麻薬の使用により、便秘になりやすい状態であったと考えられる。便秘により腸内細菌が増加し、化学療法により白血球が減少傾向であったため、bacterial translocation、敗血症性ショックが生じたと考えられる。また、腸管内圧が上がることで腸管が虚血状態となり、急激に循環不全が生じたと考えられる。

今回の病態の中心となった壊死型虚血性大腸炎は、動脈硬化性疾患による血管側因子と腸管内圧の上昇や腸内細菌などの腸管側因子が要因となり、腸管壊死に進展したものである。虚血性大腸炎のうち約 10% は壊死型で、腸管壊死による bacterial translocation が発生し、容易にエンドトキシン血症に移行、敗血症性ショック、DIC、MOF に至るため、死亡率は 30-60% と予後不良である。その原因として、基礎疾患を有する高齢者が多いため腹膜刺激症状が乏しいことも多く、早期診断が困難であることが一因である。壊死型の診断をした時点で、早期に緊急手術で壊死粘膜を完全に含めた広範囲の腸管切除をする必要がある。

本症例は、腹痛が増悪してから 2 日で急速に容態が悪化し、死に至った。腸管の血流を繰り返し評価し、外科的治療も考慮する必要があったと考えられる。

11. 参考文献:

- 1) 厚生労働省: びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の新規難治性病型に対する治療研究. 2014
- 2) Miyazaki K, Yamaguchi M, Suzuki R, et al: CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma: a retrospective

study in 337 patients treated by chemotherapy with or without rituximab. Ann Oncol 22(7):1601-1607,2011

- 3) 上田健太郎, 岩崎安博, 山添真志, 他: 壊死型虚血性大腸炎に対する早期診断と予後因子の検討. 日救急医学会誌 24: 141-148, 2013

第4回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ: 感染性腸炎より敗血症を来した骨髄異形成症候群の1例
2. 診療科、主治医: 免疫血液内科 橋本朗子、秋山智幹
3. CPC開催日: 2018年9月3日
4. 発表者: 臨床側: 秋山智幹、橋本朗子
病理側: 勝冨浩紀
5. 患者: 80歳、男性
6. 臨床診断: 骨髄異形成症候群、敗血症性ショック、感染性腸炎
7. 病理診断: 骨髄異形成症候群、敗血症性ショック、感染性腸炎
8. 臨床情報:
 - 1) 現病歴
201X年3月に汎血球減少を認め、免疫血液内科紹介となり、骨髄異形成症候群(MDS)の診断で治療を開始された。また発熱性好中球減少症(FN)にて2度入院歴があり、抗生剤の内服を継続していた。9月26日に自宅で動けなくなっているところを発見され救急搬送された。
 - 2) 既往歴
高血圧、直腸癌術後、転移性肝癌術後
 - 3) 診療所見
BT39.7°C, BP177/60mmHg, HR129bpm, SpO2:84%, RR30回/分
末梢冷感あり。悪寒戦慄あり。項部硬直なし。眼瞼結膜: 蒼白。心雑音なし。呼吸音: 清。腹部: 平坦、軟、圧痛なし。
 - 4) 検査データ
血液検査: WBC 200/ μ l, 好中球数 22/ μ l, RBC 91万/ μ l, Hb 2.6 g/dl, Ht 7.7%, Plt 0.2万/ μ l, PT-INR 1.3, APPT-秒 31.9秒, D-ダイマー 3.43 μ g/ml, CRP 59.1 mg/dl, Alb 3.0 g/dl, T-Bil 1.7 mg/dl, AST 74 IU/l, ALT 45 IU/l, LDH 217 IU/l, CK 2888 IU/l, BUN 48 mg/dl, Cr 2.19 mg/dl, eGFR 23.4 ml/分/1.73, Na 147 mEq/l, K 3.2 mEq/l
血液培養: 大腸菌検出。喀痰培養: 大腸菌検出。
 - 5) 画像所見

[単純CT] 回盲部に高度の浮腫性腸管壁肥厚と脂肪織濃度上昇を認める。左上肺野にすりガラス影を認める。

- 6) 経過・治療
発熱性好中球減少症(FN)の診断でCFPM 1gの点滴静注を施行した。来院後より血圧が徐々に低下し血圧66/36mmHgまで低下したためノルアドレナリン持続投与を開始した。重症度を考慮しMEPM 1.5g/dayの投与を開始した。Day2よりMCFG 150mg/day、mPSL 500mg/day、G-CSF製剤の投与を開始し、血圧安定したためノルアドレナリンの投与を終了した。day3に腹痛が出現し、反跳痛・筋性防御などの腹膜刺激症状を認めた。全身状態・意識状態改善傾向であったが、day6に酸素需要が増加し、呼吸状態悪化し呼吸停止となり永眠された。
- 7) 手術所見
なし。
- 8) 症例の問題点
CT上の腸管浮腫、脂肪織濃度上昇が感染性腸炎・腹膜炎によるものであったか。また、突然の呼吸停止の原因は何であったか。
9. 剖検情報:
 - 1) 剖検診断と病理所見
剖検診断
骨髄異形成症候群、敗血症性ショック、感染性腸炎
病理所見
肺: 左右胸腔内に胸水貯留なし。含気が全体的に軽度ながら認められる。気道内に閉塞物なし。肺の断面では感染症や腫瘍浸潤を疑う所見はないが、左肺上葉の一部で10mm程度の結節が認められる。Micro像では軽度鬱血水腫、肺胞壁の繊維性肥厚を認めた。左上葉の一部にグラム陰性の菌塊が認められ、細菌感染と判断される。好中球の集簇は認めなかった。
食道: 異常を認めず。
胃: 大弯に出血ないし点状出血痕を認めるが、陥凹性病変や隆起性病変は認められず。病理組織学的には胃に出血を伴うびらんを認める。
腸: 十二指腸、小腸に異常なし。回盲部から上行結腸にかけて出血を伴う腫瘍性病変が認められる。横行結腸から直腸に異常は見られず。病理組織学的には回盲部から上行結腸では明らかな腫瘍性病変を認めず、出血びらんによる変性

と細菌感染を示唆する菌塊を認めた。菌塊はグラム陰性菌であり、菌塊周囲には好中球の集簇巣は認めなかった。

骨髄：低形成性骨髄で、正常の分葉核球を含め骨髄球系、巨核球はほとんど認められず、赤芽球系細胞も減少していた。

2) 担当病理医：勝嶋浩紀

3) 病理医からのコメント

回盲部・肺に好中球の集簇のない菌塊を認めるが、低形成骨髄であり、著明な免疫機能低下により好中球の集簇できなかったと考えられる。呼吸停止に関して原因は明らかではないが、循環不全に伴う呼吸停止の可能性が考えられた。

10. 考 察

肺の画像所見も軽度であり、回盲部の画像所見や血液培養から大腸菌が検出されていることから、感染性腸炎より敗血症性ショック・多臓器不全に至ったと考えられた。今回の症例は感染性腸炎を契機とした敗血症・発熱性好中球減少症であるが、好中球減少症時の腸炎である好中球減少症性腸炎での状態であったと考えられる。好中球減少症性腸炎(Neutropenic Enterocolitis: NE)は免疫能低下例、特に好中球減少時に発症する、盲腸を好発部位とした重篤な腸管の炎症性疾患である。ガイドラインや定義などは明らかなものはないが①好中球減少②発熱③腹痛④腸管壁の肥厚で診断することが多い。基礎疾患は白血病など悪性腫瘍における化学療法後、反復性好中球減少症、再生不良性貧血などがあり、最近ではAIDSでの報告もみられる。NEの病因は明らかではないが、化学療法による消化管上皮の破壊、抗生物質投与による常在菌叢の変化があげられている。今回の症例ではFNに対して抗菌薬を長期間投与していたことがNEを引き起こした原因の1つと考えられる。好発部位は多くの場合に盲腸に病変をもち、上行結腸または回腸末端に病変を伴うこともある。盲腸に好発する原因として1)消化管運動が減退し、内容物が停滞すること2)血流に乏しいことが挙げられる。典型的な症状は発熱と右下腹部痛であるが、腹部膨満、嘔気・嘔吐、下痢(時に血便)を伴うこともある。画像所見ではCT検査、超音波検査での腸管壁の肥厚が主な所見である。治療はNEに対するガイドラインはないためFNのガイドラインを参考とする。FNのガイドラインではセフェピム、メロペネム、タゾバクタム・ピペラシリンの単剤経静脈的な投与であるが、NEの高い死亡率を

考慮し嫌気性菌などのカバーをするためアミノグリコシドやニューキノロンの併用を初期治療より考慮しても良い。穿孔合併例や持続出血、高度狭窄時は手術を検討する。

11. 参 考 文 献：

- 1) 内藤淑子, 佐藤栄一, 猪狩洋介, 他：急性白血病の治療中に好中球減少症性腸炎を発症した2例. 福岡大医紀 40:173-179, 2013
- 2) 三谷眞己, 桑原義之, 川村弘之, 他：再生不良性貧血の経過中に発症したneutropenic enterocolitisの1例. 日消外会誌 29:2180-2184, 1996
- 3) Davila ML: Neutropenic enterocolitis: current issues in diagnosis and management. Curr Infect Dis Rep 9:116-120,2007

第5回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：CD7陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液内科
田中康博
3. CPC開催日：2018年10月15日
4. 発表者：臨床側 伊藤宗桂
病理側 橋本公夫
5. 患者：85歳、男性
6. 臨床診断：非ホジキンリンパ腫
7. 剖検診断：びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴
X-1年1月にEBV陽性びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫と診断された。3月からR-THP-COP療法を計6コース施行し、8月に治療を終了し、寛解状態と診断された。しかし12月に単純CTにて耳下腺や縦隔リンパ節腫脹を認めたため、再燃と診断され、ETP内服治療を開始した。ETP内服治療の効果は乏しく、X年4月20日に嚥下困難を認めたため入院した。入院後は補液やデキサメタゾンで治療を開始するも徐々に全身状態の増悪を認めた。
4月23日に呼吸不全を来し、呼吸状態の改善なく4月24日に死亡。
 - 2) 既往歴
特記事項なし。
 - 3) 診療所見
両側眼瞼結膜蒼白。両耳下腺リンパ節腫脹あり。

呼吸音 清。心音 整・雑音なし。腹部平坦・軟、肝臓・脾臓触知せず。四肢浮腫なし。全身に皮疹なし。

4) 主な検査データ

血液検査：WBC 23,700/ μ l, (NEUT 40.0%, LYMPH 39.0%, MONO 18.0%, BASO 1.0%), RBC 224万/ μ l, Hb 7.3 g/dl, Ht 22.3%, Plt 17.0万/ μ l, CRP 14.5 mg/dl, TP 5.5g/dl, Alb 2.9 g/dl, AST 25 IU/l, ALT 14 IU/l, ALP 219 IU/l, LDH 515 IU/l, CK 109 IU/l, BUN 18 mg/dl, Cr 1.07 mg/dl, Na 121 mEq/l, K 3.8 mEq/l, Ca 8.5 mg/dl, 血清 β 2-MG 4.9 mg/l

5) 画像診断所見

胸部レントゲン：著明な左胸水及び左中・下肺野の透過性低下を認める。

6) 経過・治療

入院後は補液やデキサメタゾンで治療を開始し、食事摂取量はやや増加した。4月23日に突然の呼吸不全を認め、呼吸状態の改善なく、4月24日に死亡。

7) 手術所見

なし。

8) 症例の問題点

本症例では一度寛解状態と診断されてから4ヶ月後に再発し、再発後の治療効果も比較的良好であったが、突然呼吸不全を発症し死亡に至った。リンパ腫の全身への拡がりや急性呼吸不全の原因精査目的に病理解剖を行う方針となった。

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見：

剖検診断：びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫浸潤：左胸腔全体（壁側胸膜）、左肺（肺門部、実質、臓側胸膜）、心嚢膜、横隔膜、精巣、リンパ腫（気管分岐部、左肺門部、大動脈周囲）。

死因：左胸腔内のリンパ節浸潤が原因による呼吸不全。

病理所見：

肺：右肺は上葉にわずかに含気を認めるのみで、右気管支内には泡沫状成分を認める。左肺は虚脱しており、含気は認められない。左肺門部および肺実質に腫瘍を認めるが、気管支や大血管への浸潤は認められない。左肺は組織学的には肉眼的に認められた範囲と同様の範囲で腫瘍浸潤を認めた。また、壁側胸膜、心外膜、横隔膜に浸潤、胸膜側から肺実質内への浸潤も認めている。

脾臓：軽度の腫大が認められ、組織学的にはうっ血が認められる。

腎臓：左腎には腎嚢胞と悪性所見を示さないオンコサイトーマを認める。膀胱や副腎には腫瘍の浸潤を認めないが、精巣への浸潤を認める。

骨髄：正形成性を示しており、腫瘍の浸潤は明らかでない。

腫瘍細胞は中型から大型の歪な核を有する異型リンパ球様細胞で、びまん性の浸潤が広く認められる。免疫組織学的にCD20(+), CD79a(+), CD7(+), CD3(+), CD5(-), CD10(-), bcl-2(+), bcl-6(+), Ki67陽性率は90%以上で、CD21陽性となるfollicular dendritic cellは認められない。

まとめとして、リンパ腫の拡がり具合としては左肺、左胸腔全体、心膜、横隔膜、精巣、気管分岐部・左肺門部・大動脈周囲リンパ節まで拡がりを認めた。また急激な呼吸状態の悪化の原因としては左胸腔内への広範囲なリンパ節浸潤が考えられた。

2) 担当病理医：勝寫浩紀

3) 病理医からのコメント

本症例では左胸腔内を主座として広い範囲でリンパ腫の浸潤が認められた。免疫組織学的にはdiffuse large B-cell lymphoma (CD20+, CD7+)と診断した。左胸腔内に多量の胸水貯留を認めるとともに、左肺はリンパ腫浸潤を伴い虚脱状態であった。右肺にはうっ血水腫と気管支肺炎が認められた。

10. 考 察

悪性リンパ腫において腫瘍細胞表面に発現している細胞マーカーを調べることで、予後や治療反応性のある程度把握できる場合がある。本症例はT細胞抗原であるCD7が陽性となった比較的稀なびまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLBCL)であったこと、またEBV陽性DLBCLであり比較的新しい疾患概念に該当していたことから、その二点に関して考察したい。

まずCD7陽性に関して考察する。B細胞リンパ腫であるDLBCLは、B細胞マーカーであるCD20, CD19, PAX-5を発現する¹⁾。CD10, Bcl-6, Bcl-2, CD30, MUM-1も同時に発現することがあり、その場合はT細胞によく発現するCD5も陽性になることが多い¹⁾。CD5以外のT細胞抗原であるCD2, CD3, CD7を発現することは比較的稀である¹⁾。文献によってばらつきはあるものの、CD7陽性のB細胞由来非ホジキンリンパ腫は4～19%である^{2),3),4)}。しかし、CD7陽性の臨床的意義は明らかとなっていない。B細胞性非ホジキンリンパ腫にお

けるリンパ節外病変の診断に関連しているとの報告もある²⁾。

次にEBV陽性に関して考察する。老人性EBV陽性のDLBCLという疾患概念が存在し、2008年WHO分類改定時に新たな疾患概念として記載された。免疫能が低下した際のEBVの再活性化によって引き起こされるB細胞増殖、もしくはB細胞リンパ腫の疾患概念である⁵⁾。リンパ腫の中で高齢になるほどEBV陽性の割合は増加し、通常のDLBCLと比較して予後不良である⁵⁾。

本症例では85歳の高齢者に発症し、一旦寛解状態になってから比較的早期に再発し死亡した予後不良な症例であったと考える。

11. 参考文献

- 1) Betts EV, Rashidi HH: CD7 Positive Diffuse Large B-cell Lymphoma Arising in a Background of Follicular Lymphoma: A Case Report and Review of the Literature
- 2) Suzuki Y, Yoshida T et al.: Incidence and Clinical Significance of Aberrant T-cell Marker Expression on Diffuse Large B-cell Lymphoma Cells. *Acta Haematol* 130: 230-237, 2013
- 3) Carulli G et al.: Aberrant expression of CD8 in B-cell non-Hodgkin lymphoma: multicenter study of 951 bone marrow samples with lymphomatous infiltration. *Am J Clin Pathol* 132:186-190, 2009
- 4) Inaba et al.: Expression of T cell associated antigens in B cell non-Hodgkin's lymphoma. *Br J Haematol* 109:592-599, 2000
- 5) 福田哲也: 高齢者悪性リンパ腫の発生機序. *日老医誌* 47: 276-280, 2010

第6回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ: 形質細胞性白血病の1例
2. 診療科、主治医・受持医: 免疫血液内科
田中康博
3. CPC開催日: 2018年11月5日
4. 発表者: 臨床側 重安奈央子
病理側 橋本公夫
5. 患者: 70歳代、男性
6. 臨床診断: 形質細胞性白血病、慢性腎臓病、
両側胸水貯留。
7. 剖検診断: 形質細胞性白血病、腎淡明細胞癌、
甲状腺癌
8. 臨床情報:

1) 現病歴

X-23年発症の関節リウマチ+CKDのため前医f u中、X-2年1月無症状だが末梢血中に異常細胞が出現したため当院免疫血液内科紹介となった。精査によりPlasma cell lymphoma(以下PCL)と診断し、BD療法でVGPRの効果をえた。その後数回肺炎を併発した。X-1年12月よりCKDに対して透析導入となった。X年2月腰椎圧迫骨折のため近医入院中、3月大動脈解離Stanford Aを併発し他院で手術した。その間当科の治療が中止となりPCLが悪化したため同年6月よりVRd療法へ変更した。治療再開後は奏功したが、血球減少の副作用が出現した。9月前医に肺炎で入院後、再度治療中断となり10月当科へ転院となった。

2) 既往歴

関節リウマチ、慢性腎不全、ニューモシスチス肺炎、レジオネラ肺炎、胸部大動脈解離Stanford A型、腰椎L1圧迫骨折

3) 診療所見

体温:36.9℃, 脈拍:83回/min, SpO₂95%(HOT 1L/min)

眼瞼結膜:貧血(+). 心音:雑音(-). 呼吸音:右肺coarse crackles(+). 腹部:平坦軟、肝・脾:触知せず。両肘関節、右第3指PIP関節に腫脹(+). 第1指MP関節に変形(+). 両下腿:浮腫なし。皮膚:発赤なし。体表リンパ節腫大なし。

4) 主な検査データ

[血液検査] WBC 31400/ μ l (Stab 1%, Seg 13%, Lym 4%, Mono 2%, Other 78%), RBC 235万/ μ l, Hb 9.2 g/dl, Ht 28.0%, Plt 4.8万/ μ l, PT-INR 1.0, APTT-秒 28.9秒, Fib 420 mg/dl, D- γ - γ 8.09 μ g/ml, CRP 5.5 mg/dl, TP 6.4g/dl, Alb 2.8 g/dl, T-Bil 0.5 mg/dl, AST 28 IU/l, ALT 22 IU/l, ALP 314 IU/l, LDH 473 IU/l, AMY 74 IU/l, UA 6.4 mg/dl, BUN 38 mg/dl, Cr 4.51 mg/dl, eGFR 10.8 ml/min/1.73, Na 141mEq/l, K 5.4 mEq/l, Cl 101 mEq/l, Ca 9.1 mg/dl, IP 5.8 mg/dl, IgG 266 mg/dl, IgA 1263 mg/dl, IgM 17 mg/dl, B-D グルカン 31 pg/ml, IEP: IgA- κ protein(+), h-ANP 252 pg/ml

[フローサイトメトリー] 形質細胞性のマーカーが陽性。 κ / λ 比は高値。

[右肺胸水] 色調: clear, 比重 1.026, pH 7.58, Glu 143 mg/dL, protein 3.3 g/dL, LDH 189 U/L, ADA 13.6 U/L, CA19-9 1.0 U/mL, CYFRA 12.1 ng/mL. cytology 疑陽性: 形質細胞を多数認める。上皮性

の悪性細胞は認められない。

5) 画像診断所見

[胸部 Xp] 両側に胸水貯留

[胸部 CT] 両側胸水貯留を認めるが、明らかな浸潤影を認めない

6) 経過・治療

入院後の精査でPCL悪化と判断した。Day8よりRd (ReV 5mg/body 非透析日内服 + Dex 20mg/body) 療法を開始した。同日右胸水穿刺を施行したが、胸膜浸潤は否定的であった。胸水排液後、酸素需要は改善したが、WBC/異常細胞は増加傾向であった。Day13朝よりSpO2低下し急速に呼吸状態が悪化した。呼吸状態は改善せず家族に見守られて同日夕刻永眠となった。

7) 手術所見

手術なし。

8) 症例の問題点

① PCL ② CKD(透析中) ③胸水貯留

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

剖検診断: 形質細胞性白血病

浸潤: 骨髄 (L1 圧迫骨折)、胸膜、横隔膜、心膜、肺 (血管内)、心臓 (血管内)、食道 (血管内、周囲)、脾臓、腎臓

病理所見:

[主病変]

形質細胞性白血病。浸潤: 骨髄 (L1 圧迫骨折)、胸膜、横隔膜、心膜、肺 (血管内)、心臓 (血管内)、食道 (血管内、周囲)、脾臓、腎臓。
透析腎に見られた腎明細胞癌; 6mm 腎乳頭腫; 2mm.

甲状腺癌: 右葉下極乳頭癌; 7mm.

[関連病変]

胸水貯留; 右 1000ml、左 252ml 腹水; 少量。
両肺うっ血水腫、無気肺。

2) 担当病理医: 病理科 橋本公夫

3) 病理医からのコメント

死因はPCL浸潤による胸膜炎からの胸水貯留、うっ血水腫、無気肺による呼吸不全と考えた。

10. 考察

形質細胞性白血病は、50～55歳に好発し、男性にやや多く、無力症、骨痛を初発症状として訴えることが多い。頻度はPrimary PCL: 50～70%, Secondary PCL: 30～50%である。病型としてはBence Jones 蛋白型が多く、診断基準はInternational

Myeloma Working Group (IMWG) に規定されている。骨病変は少なく、髄外病変が多いことが特徴である。Durie & Salmon 分類では進行例が多く予後不良と言われている。腫瘍細胞のアポトーシスと免疫逃避を阻害する接着因子、ケモカイン受容体、表面抗原の異常に起因する。PCLの予後は悪く、生存率の中間値は6～11か月。診断から1年後には28%の患者が死に至ると報告されている。

若年に対する最善の治療は、高用量の化学療法と自家幹細胞・同種移植であり、確定診断後ただちに開始すべきである。末梢血中の白血化した形質細胞のパーセンテージは、病気の進行度の真の指標ではない。末梢血の形質細胞数が約27%になると生命を脅かす劇症な病態になる。転移性形質細胞浸潤と高蛋白質血症は多臓器不全を招き死に至る可能性が高い。原因検索、早期診断、効果的な治療のためにさらなる研究が必要である。

11. 参考文献

- 1) Chauhan S: Plasma cell leukemia. J Family Med Prim Care. 7(2):461-465, 2018
- 2) Musto P, Simeon V, Todoerti, Neri A: Primary plasma cell leukemia: Identity card 2016. Curr Treat Options Oncol. 17:19, 2016
- 3) Musto P: Novel agents for the treatment of primary plasma-cell leukemia: Lights and shadows. Acta Haematol. 135:110-112, 2016
- 4) 血液専門医テキスト, 南江堂

第7回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ: CD陰性で再発した濾胞性リンパ腫の1例
2. 診療科、主治医・受持医: 免疫血液内科
田中康博、白川千種
3. CPC開催日: 2018年10月30日
4. 発表者: 白川千種
5. 患者: 81歳 男性
6. 臨床診断: CD陰性濾胞性リンパ腫
7. 剖検診断: CD陰性B細胞性濾胞性リンパ腫の再燃
8. 臨床情報:
 - 1) 現病歴
X年2月に濾胞性リンパ腫(臨床病期IV A期, follicular lymphoma international prognostic index; high risk)と診断された。同年4月19日よりBR療法(トリオキサソ、リツキサソ)を開始し、7

月の造影 CT では PR 以上の効果判定だった。BR 療法を 6 コース施行し、10 月 4 日から rituximab 単剤の維持療法へ変更した。同日の血液検査にて肝胆道系酵素の上昇を認め、悪化傾向だったが、無症状であった。10 月 11 日の rituximab 投与で治療は完遂するも、同日の CT にて脾頭部腫瘍および全身性リンパ節腫脹を認め、同時期から腹部膨満と体幹部に多発性皮下腫瘍が出現した。精査目的に 10 月 18 日に当院消化器内科へ入院となり、上部消化管内視鏡にて胃に多発性隆起病変を認めたため、10 月 21 日に血液内科へ転科となった。

2) 既往歴

特記事項なし。

3) 診療所見

体温 36.8 °C , 血圧 110/62 mmHg, SpO2 95% (room air).

眼球結膜：貧血なし。表在リンパ節は触知せず。心音整、明らかな心雑音は聴取せず。呼吸音：両下肺野で呼吸音減弱。腹部：平坦軟、明らかな肝脾腫は触知せず。波動あり。下腿浮腫あり。皮膚：体幹部に褐色調の丘疹を多数認める。

4) 画像診断所見

[上部消化管内視鏡検査] 隆起性の腫瘍性病変を多数認めた。

[EUS-FNA] 脾頭部に 2cm の腫瘍性病変、主脾管の拡張を認め、複数の分枝型 IPMN を認めた。

[腹部単純 CT] 脾頭部に 2cm の腫瘍性病変。腹部傍大動脈付近・後腹膜・骨盤底に軟部構造や索状影を認めた。

5) 経過・治療

X 年 2 月から BR 療法を開始し、3 コース終了後には、肝脾腫・胸水貯留は消失し、リンパ節腫大も縮小して、部分寛解と効果判定した。その後も治療を継続して、BR 療法は合計 6 コースで終了として、10 月はじめリツキシマブ単剤で計 2 回投与した。しかし、同時期から LDH が上昇し、CT 検査で腹水貯留と全身性リンパ節腫大の増大を認め、再発の診断に至り入院となった。THP-COP 療法を開始し、肝胆道系酵素の減少を認めたが、LDH は改善せず、倦怠感などの全身症状も改善しなかった。第 7 病日の朝から 39 度台の発熱が出現し、酸素飽和度、意識レベル低下を認め、同日死亡となった。

6) 手術所見

手術は施行していない。

7) 症例の問題点

リンパ腫の広がりの評価。急激な呼吸状態の悪化の原因の検索。

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見：

剖検診断

CD20 陰性 B 細胞性濾胞性リンパ腫

病理所見

主病変は CD20 陰性 B 細胞性濾胞性リンパ腫で、後腹膜全体（後腹膜リンパ腫、膀胱を含む）腸間膜消化管（胃から直腸）、心、肺、脾、副腎、脾、気管分岐部リンパ節、精巣、骨髄に浸潤を認めた。免疫組織化学的には CD20 陰性の follicular lymphoma の transformation として矛盾しないと考えられた。死因は全身のリンパ腫浸潤が原因による循環不全と考えられた。

2) 担当病理医：勝郷浩紀、橋本公夫

10. 考 察

濾胞性リンパ腫（follicular lymphoma：FL）は代表的な低悪性度 B 細胞リンパ腫であり、非ホジキンリンパ腫に占める頻度は 7～15% である。緩徐進行するタイプのリンパ腫なので、リツキシマブ登場以前でも生存期間中央値は 7～10 年と長い。rituximab 登場後に予後はさらに改善している。濾胞性リンパ腫の予後は、FLIPI2 と呼ばれるリツキサンがでてきた後に作られた濾胞性リンパ腫の予後のスコアでは、年齢、骨髄浸潤、Hb、最大リンパ節径、 $\beta 2$ ミクログロブリンの値で層別化することとなっている。低リスク、中間リスク、高リスクに分類されて、3 年間の無増悪生存率はそれぞれ 91%、69%、51% である。濾胞性リンパ腫は、他のリンパ腫に比べて抗がん剤が効きにくい。がん細胞の中の増殖に関わる分子だけを標的とした分子標的薬のリツキシマブを併用することにより治療成績が改善した。進行期の一般的な治療は、リツキシマブと化学療法の併用療法である。また、症状や検査値異常が顕著でなければ、病状が進行したときに適切な化学療法を開始することを前提として、無治療で経過観察することも治療の選択肢の 1 つとなっている。

11. 参 考 文 献

- 1) Lymphoma Study Group of Japanese Pathologists: The World Health Organization classification of malignant lymphomas in Japan: Incidence of recently recognized entities. Pathol Int. 50 (9)

696-702, 2000

- 2) Izumo T, et al: Practical Utility of the revised European-American classification of lymphoid neoplasms for Japanese non-Hodgkin's lymphomas. Jpn J Cancer Res. 91 (3) 351-360, 2000
- 3) WHO 分類 2016 年, 難病情報センター

第 8 回西神戸医療センター CPC 報告

1. 症 例 テ ー マ: 膵頭部癌術後より原因不明の難治性腹水をきたした 1 例
2. 診療科、主治医・受持医: 消化器外科 岩崎純治、原田崇史
3. CPC 開催日: 2018 年 11 月 26 日
4. 発 表 者: 臨床側 (原田崇史)
病理側 (橋本公夫)
5. 患 者: 79 歳 男性
6. 臨 床 診 断: 膵頭部癌術後、多発肝転移
7. 剖 検 診 断: 膵頭部癌 (頭部、中分化型管状腺癌) 術後再発
8. 臨 床 情 報:

1) 現病歴

近医で糖尿病の通院治療を受けていたが、X 年 3 月から血糖コントロールが不良になった。

X 年 3 月 24 日の血液検査にて腫瘍マーカー高値を指摘され、腹部 CT 撮影目的で 3 月 30 日に当院放射線科紹介となった。4 月 7 日に施行した腹部 CT にて膵癌を疑われたため、精査・加療目的に消化器内科を受診。4 月 26 日に ERCP を行い、4 月 27 日に精査目的で入院となった。

2) 既往歴

脊髄損傷、大腸癌手術後、C 型肝炎、2 型糖尿病

3) 診療所見

眼球結膜: 黄染なし。腹部: 平坦軟、圧痛なし。鼓音。腸蠕動音良好。両下肢の疼痛・痺れ (+)、感覚障害 (-)。排尿障害 (+)、排便障害 (-)。

4) 主な検査データ

[血液検査] WBC 3800 / μ l, RBC 418 万 / μ l, Hb 12.7 g/dl, Ht 38.4 %, Plt 14.8 万 / μ l, 血糖 266 mg/dl, CRP 0.0 mg/dl, TP 6.5 g/dl, Alb 3.3 g/dl, T-Bil 0.5 mg/dl, ChE 200 IU/l, AST 43 IU/l, ALT 55 IU/l, LDH 186 IU/l, CK 119 IU/l, AMY 154 IU/l, T-Chol 124 mg/dl, BUN 20 mg/dl, Cr 0.61 mg/dl, eGFR 95.4 ml/分 /1.73, Na 137 mEq/l, K 4.5 mEq/l, Cl 105 mEq/l, PT-INR 0.9, APTT- 秒 29.9 秒, APTT-% 93.5 %, HB s 抗原 (-), HCV 抗体 (+), HCV 抗体 (C.O.I)

71.8 C.O, RPR (-), TPHA (-), CEA 2.4 ng/ml, CA19-9 77.4 U/ml

5) 画像診療所見

[腹部造影 CT] 膵: 膵頭部左端に約 11mm 大の腫瘤性病変と、その上流である膵体尾部の主膵管拡張あり。その腫瘤性病変は上腸間膜静脈上端の腹側に接しており、浸潤を否定できず。主な動脈には明らかな浸潤なし。周囲に有意なリンパ節腫大なし。

[MRI] 膵体尾部で主膵管の拡張あり、分枝膵管の拡張と思われる小嚢胞性病変も散在。膵頭部領域にも嚢胞性病変を認め、これより頭部では膵管の走行が判然としなくなるものの、膵頭部領域に充実性腫瘍を疑う SOL は指摘しがたい。

[ERC] 膵管口近傍で変形あり、膵頭部に 10mm 程度にわたり MPD の狭窄と、その尾側膵管の拡張を認める。膵管擦過、膵液細胞診: 核胞体比上昇、クロマチンの増量した異形上皮細胞の小集塊を認める。

6) 経過・治療

膵頭部癌 (T3 cN0 cM0) cStage II A と診断し、血糖コントロールが得られ次第、当院消化器外科に転科し外科手術を施行する方針となった。X 年 5 月 15 日に、膵頭部癌に対して亜全胃温存膵頭十二指腸切除術を行った。術後、膵管空腸吻合部に留置したドレーンからは 400ml ~ 900ml/日の排液が認められていた。発熱は認めなかったが、術後 7 日目の血液検査で炎症反応高値を認め、ドレーンからの逆行性感染が疑われたため抜去した。CT では腹水の量は術前と比較して変化はなかった。術後 40 日目までの間、腹水培養で *Corynebacterium species* と *Klebsiella oxytoca* の陽性を認めており、CT で腹水の増悪を認めた。術後 50 日目に腹水ドレナージを施行したところ、血圧低下、意識障害をきたしたため集中治療室に移動したが、バイタルは早期に安定したため術後 52 日目に一般病棟に帰室した。その後、腹水培養で細菌が認められることは無く、腹水細胞診で異形細胞も認められていなかった。腹水に改善を認めなかったため、計 9 回の CART を施行した。術後 67 日目の CT で肝臓に多発転移を認め、次第に増大・増悪傾向にあった。術後 148 日目に吐血を認め、術後 150 日目の X 年 10 月 12 日の午前 7 時ごろ、橈骨動脈の触知が困難になり、7 時 43 分に死亡を確認した。

7) 手術所見

20XX年5月15日に膵頭部癌に対して亜全胃温存膵頭十二指腸切除術を行った。腫瘍は門脈に癒着しており、剥離困難であったため門脈合併切除も行った。術中に傍大動脈リンパ節を迅速病理に提出したが陰性だった。

8) 症例の問題点

術後大量腹水の続いた原因、胆管炎以外の感染、局所再発の有無、転移再発巣の浸潤程度、腹膜播種の有無などを問題点として、腹部に限定した病理解剖が行われた。

9. 剖 検 情 報 :

1) 剖検診断と病理所見

主病変

膵頭部癌(頭部、中分化型管状腺癌)、術後再発。浸潤転移;局所(膵体部十二指腸吻合部、空腸脚、横行結腸、肝門部)、癌性腹膜炎(腹水3,000ml)、肝臓、腹壁皮膚(右下腹部)、リンパ節(腹部大動脈周囲)。

関連病変

肝組織壊死

副病変

粥状動脈硬化症(大動脈)、脾うっ血、小腸うっ血性カタル、前立腺結節性過形成、貧血、皮膚出血(両前腕)。

2) 担当病理医:橋本公夫

3) 病理医からのコメント

胆管は腫瘍の浸潤により、狭窄が高度に見られたが、解剖時には炎症所見は見られなかった。他の感染源も見られなかった。術後の大量腹水の原因は特定できなかったが、局所再発が比較的早期から見られていた可能性が考えられた。

10. 考 察

[胆管炎以外の炎症の有無]

慢性的な炎症反応の上昇と、腹水および血液培養から細菌が検出されたことから感染巣の存在が疑われた。胆管は腫瘍の浸潤により狭窄が高度に見られたが、解剖時には炎症所見は見られず、他の感染源も見られなかった。上腹部を中心に腫瘍の腹膜播種が認められたことから、癌性腹膜炎を引き起こしていた可能性は否定できない。

[コントロール不良の腹水]

膵癌術後には拡大郭清によるリンパ漏、低栄養、放射線療法によるリンパ管閉塞、癌性腹膜炎などさま

ざまな要因で難治性腹水を生じうる。通常は利尿剤、アルブミン投与でコントロール可能であるが、治療困難例においては著しくQOLが低下し、入退院を繰り返すことになる。

本症例では術後30日ごろから大量の腹水を認めた。術後7日目のCTでは腹水の増悪は認めておらず、腹水は血性でも乳糜でもないことから術中の血管損傷やリンパ管損傷は否定的であり、低たんぱく血症は手術前から存在していたため、術後の腹水増悪の原因としては考えにくい。

上記をまとめると、

- ・腹水は淡黄色であり、乳糜ではないためリンパ漏は否定的。
 - ・術前より低アルブミン血症を認めており、アルブミン製剤を投与していたが腹水コントロールは出来ていない。
 - ・病理解剖の結果、上腹部に腹膜転移が認められた。
 - ・腫瘍は肝門部に浸潤を認めていた。
- 以上から、術後早期からの局所再発の可能性、もしくは門脈浸潤により門脈閉塞をきたしていた可能性が考えられた。

11. 参 考 文 献

- 1) 膵癌取り扱い規約(第7版)
- 2) 膵癌診療ガイドライン2016

第9回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テーマ: 脊髄障害を合併した急性白血病
2. 診療科、主治医: 免疫血液内科 田中康博、
徳原里佳
3. CPC 開催日: 2018年12月10日
4. 発 表 者: 臨床側(徳原里佳)
病理側(橋本公夫)
5. 患 者: 73歳、男性
6. 臨 床 診 断: 急性骨髄性白血病
7. 剖 検 診 断: 急性骨髄性白血病
; 腫瘍形成性白血病

8. 臨 床 情 報 :

1) 現病歴

X-1年6月頃より倦怠感を自覚していた。7月27日に前医を受診し急性骨髄性白血病(AML)と診断され、加療目的に当院免疫血液内科を紹介受診。化学療法にてCRとなっていたがX年4月17日の血液検査にて末梢血に芽球を認め、4月27日の骨髄検査にてAML再発と診断され治療目的に5月10日に入院となった。

2) 既往歴

甲状腺機能低下症 (27 才)、脳梗塞 (67 才、71 才)、糖尿病 (72 才)

3) 身体所見:

眼瞼結膜蒼白。体表に明らかなリンパ節腫脹なし。
心音: 整。呼吸音: 清。右半身の感覚障害、右下肢の運動障害あり (MMT2: 杖歩行何とか可能。入院後 MMT1 程度)。膀胱直腸障害あり。

4) 検査所見

WBC 2500/ μ l (好中球 38.0%, リンパ球 30.0%, 単球 1.0%, 芽球 30.0%)、RBC 372 万/ μ l, Hb 13.1 g/dl, Ht 36.4 %, Pt 2.8 万/ μ l, PT-INR 1.0, APTT- 秒 28 秒, Fib 270 mg/dl, D-dimer 0.53 μ g/ml, CRP 0.1 mg/dl, TP 6.6 g/dl, Alb 4.3 g/dl, T-Bil 1.1 mg/dl, AST 26 IU/l, ALT 32 IU/l, ALP 320 IU/l, LDH 172 IU/l, CK 41 IU/l, AMY 33 IU/l, UA 3.9 mg/dl, BUN 14 mg/dl, Cre 0.66 mg/dl, Na 142 mEq/l, K 3.7 mEq/l, Ca 8.7 mg/dl

5) 画像検査

[MRI] C6/Th5 の脊髄内に腫瘍性病変あり

6) 経過・治療

脊髄病変に対して放射線治療 (IFRT) を施行し、C6 の病変は消失したが、Th5 の病変は残存し右足の不完全麻痺が残存した。AML 再燃に対して 5/16 にゲムツズマブオゾガマイシン 15mg を投与するも 6/22 の骨髄検査では PR の効果で輸血依存性であった。今後の治療は困難であるため対症療法を行っていたが、7月中旬より不穏状態・右手の脱力などが出現し頭部 MRI で右側頭葉に腫瘍が出現した。7/20 頃より再度発熱が出現・持続し同時期より芽球が増加傾向となった。7/22 永眠された。

7) 手術所見

手術なし。

8) 症例の問題点

脊髄内腫瘍が AML の骨髄肉腫かどうか。

9. 剖 検 情 報:

1) 剖検診断と病理所見

主病変: 急性骨髄性白血病; 腫瘍形成性白血病
浸潤: 骨髄、肺、胸膜、心臓、肝臓、脾臓、腎臓、副腎、膀胱、尿道、皮膚、脊髄、くも膜下腔
副病変: 左肺大葉性肺炎(上葉舌区主体)、両肺うっ血水腫、右腎盂腎炎、胆嚢炎、限局性腹膜炎(癒着大網部)

死因: 急性骨髄性白血病(腫瘍形成性白血病)の

全身広範囲の浸潤を背景とした、左肺上葉大葉性肺炎による呼吸不全

2) 担当病理医: 橋本公夫

3) 病理医からのコメント

症例は腫瘍形成性白血病の所見で、肺や胸膜とともに肝臓や脾臓、腎臓に浸潤が見られた。最終死因は白血病細胞の肺への浸潤、左大葉性肺炎による呼吸不全と考えられた。

10. 考 察

脊髄障害は白血病の合併症として稀である (Williamら; 1864 例中 13 例 0.7%)。男女比は 27:10 で男性に多く、年齢は 3~70 歳であった。平均 20.1 歳で若年者に多い。白血病の病型では AML 17 例、ALL 13 例、CML 4 例、ATL 1 例、AUL 1 例で、AML が最多である。

脊髄障害による初発症状は疼痛が最多であり、次いで下肢麻痺、膀胱直腸障害である。白血病診断時より本症状が出現するまでの期間は初診時が 43% と最多であるが、3 年以上経過してからみられる例もある。本症例では AML と診断されてから 10 か月後に感覚障害と運動障害を認めた。

病変部位としては胸髄が最多である。本症例では MRI で C6 と Th5 に病変を指摘されていた。

治療としては放射線治療、化学療法、椎弓切除術などが施行される。本症例では IFRT を施行し、腫瘍の縮小を認めた。IFRT 後では膀胱直腸障害も改善し、下肢筋力 MMT 2~3 程度に改善し、杖歩行可能となった。

11. 参 考 文 献

- 1) 白血病と脊髄障害 - 脊髄横断症状を呈した自験例 3 例と文献的考察. 臨床血液 29: 845-850, 1988

VI. 医学振興事業等研究費 補助による事業報告

VI. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(1) 笠原ガン治療研究事業

VI. 1 PD-L1 免疫染色の検体の種類による Nivolumab の奏効率予測の相違について

中央市民病院 呼吸器内科 佐藤悠城

【背景】

PD-L1 の免疫組織染色 (IHC) は免疫チェックポイント阻害薬の治療効果を予測するバイオマーカーである。(Hirsch et al. J Thorac Oncol. 2017.)

根治的手術を施行された肺癌患者の約半数が再発するが、実臨床においては再発臓器の再生検が困難な症例があり、手術材料で PD-L1 発現評価を行うことがある。しかし、手術検体の PD-L1 IHC により再発時の Nivolumab の治療効果予測が可能かは、これまでに検討されていない。

このため我々は根治的手術検体の PD-L1 と再発時の Nivolumab の治療効果について、後ろ向きに検討を行った。

【方法】

2016年1月から2018年9月までに当院で2次治療以降に Nivolumab 投与を開始した進行期非小細胞肺癌患者のうち、組織検体の PD-L1 評価が可能であり、評価可能病変を有する 78 例を対象とし、レトロスペ

クティブに検討を行った。ただし根治的手術後の再発であるが再発時に再生検され、再発時の新鮮な検体で PD-L1 を評価された患者は解析対象から除外した。PD-L1 の評価は、22C3 (Dako) を用い、Cut off は臨床で使用されている 1%, 50% を採用した。(Herbst et al. Lancet. 2016.)

治療効果は RECIST による Response rate (RR)、Disease control rate (DCR)、Progression free survival (PFS) を、治療効果予測として RR との相関を ROC 曲線下 AUC (Area under curve) で検討した。Phillips et al. (Appl Immunohistochem Mol Morphol. 2015.)

統計解析は、t 検定と Fisher 検定、Kaplan-Meier 法を用いて検討した。

【結果】

対象患者 78 例のうち術後再発は 24 例であった。このうち PD-L1 を再生検を行って評価した患者 6 例は除外し、18 例を根治手術検体群とした (Figure 1)。

根治的術後検体はそれ以外の検体と比較すると検体採取から染色までの期間が長く、Nivolumab は早期 line で投与される傾向があった (Table 1)。

両群で年齢、性別、喫煙歴、組織型、PS、病期、遺伝子変異には差がなかった。

Figure 1. Study Flowchart

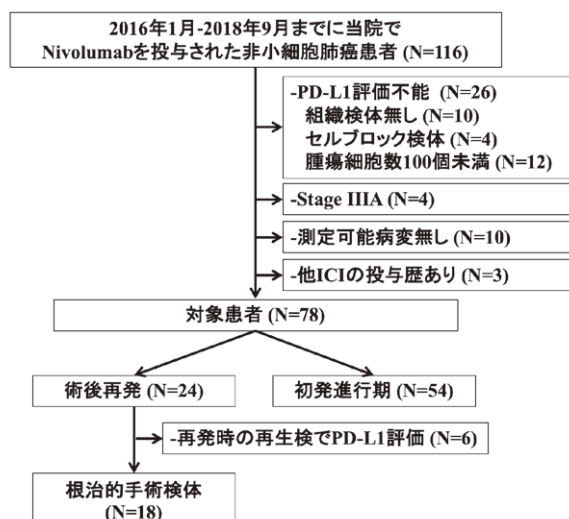


Table 1.

| 患者背景 | 合計 (%) (N=78) | 根治的手術検体 (N=18) | それ以外の検体 (N=60) | P |
|-----------------------------|------------------|-------------------|-------------------|--------|
| 年齢 Mean (SD) | 67.4 (9.8) | 66.0 (10.3) | 67.9 (9.7) | 0.49 |
| 性別 | | | | 0.56 |
| 男性 | 55 (71) | 14 (78) | 41 (68) | |
| 女性 | 23 (29) | 4 (22) | 19 (32) | |
| 喫煙歴 | | | | 0.057 |
| Never | 19 (24) | 1 (6) | 18 (30) | |
| Current or former | 59 (76) | 17 (94) | 42 (70) | |
| 組織型 | | | | 0.78* |
| 腺癌 | 54 (69) | 12 (67) | 42 (70) | |
| 扁平上皮癌 | 20 (26) | 5 (28) | 15 (25) | |
| その他 | 4 (5) | 1 (6) | 3 (5) | |
| ECOG PS | | | | 0.44 |
| 0 or 1 | 68 (87) | 17 (94) | 51 (85) | |
| 2 | 10 (13) | 1 (6) | 9 (15) | |
| 病期 | | | | 0.55 |
| IIIB | 3 (4) | 1 (6) | 2 (3) | |
| IV | 75 (96) | 17 (94) | 58 (97) | |
| 遺伝子変異 | | | | 1.00 |
| EGFR or ALK 陽性 | 15 (19) | 3 (17) | 12 (20) | |
| 変異なし or 未解析 | 63 (81) | 15 (83) | 48 (80) | |
| 投与ライン | | | | 0.03 |
| 2nd | 38 (49) | 13 (72) | 25 (42) | |
| 3rd line 以降 | 40 (51) | 5 (28) | 35 (58) | |
| 検体採取-染色迄の期間 Median (IQR) | 327 (137-823) | 814 (491-1283) | 347 (50-590) | 0.0003 |

* 腺癌と非腺癌との比較

根治手術検体群のPD-L1発現の分布と治療効果は全体と比較して差はなかった (Table 2)。両群のPD-L1 TPS と治療効果の関係を Table 3 に、PFS を Figure 2

に示す (A: 根治的切除検体 B: それ以外の検体)。根治的手術検体による治療効果の層別は不良であった。

Table2.

| 患者背景 | 合計 (%) (N=78) | 根治的手術検体 (N=18) | それ以外の検体 (N=60) |
|---------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| 臓器 | | | |
| 肺 | 61 (78) | 18 (100) | 43 (72) |
| リンパ節 | 11 (14) | 0 (0) | 11 (18) |
| 骨 | 2 (3) | 0 (0) | 2 (3) |
| 腎臓 | 2 (3) | 0 (0) | 2 (3) |
| 肝臓 | 1 (1) | 0 (0) | 1 (2) |
| 脳 | 1 (1) | 0 (0) | 1 (2) |
| 採取方法 | | | |
| Small biopsy | 52 (67) | 0 (0) | 52 (87) |
| 術後検体 | 26 (33) | 18 (100) | 8 (13) |
| PD-L1 発現 (%) | | | |
| <1% | 32 (41) | 7 (39) | 25 (42) |
| 1-49% | 26 (33) | 7 (39) | 19 (32) |
| ≥50% | 20 (26) | 4 (22) | 16 (27) |
| 治療効果 | | | |
| PR/SD/PD/NE | 19/16/41/2 | 3/6/9/0 | 16/10/32/2 |
| RR (%) * | 25 | 17 | 28 |
| DCR (%) * | 46 | 50 | 45 |

*NE 症例を除く

Table3.

| PD-L1 IHC (%) | <1 | 1-49 | ≥50 |
|----------------|-----|------|-----|
| 根治的手術検体 | | | |
| RR (%) | 14 | 14 | 25 |
| DCR (%) | 57 | 42 | 50 |
| PFS (月) | 4.0 | 2.5 | 2.1 |
| それ以外の検体 | | | |
| RR (%) * | 8 | 26 | 64 |
| DCR (%) * | 24 | 47 | 79 |
| PFS (月) | 1.6 | 2.5 | 6.8 |

*NE 症例を除く

Figure2-a

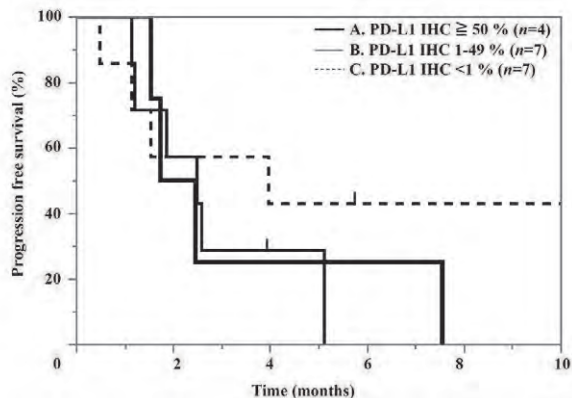
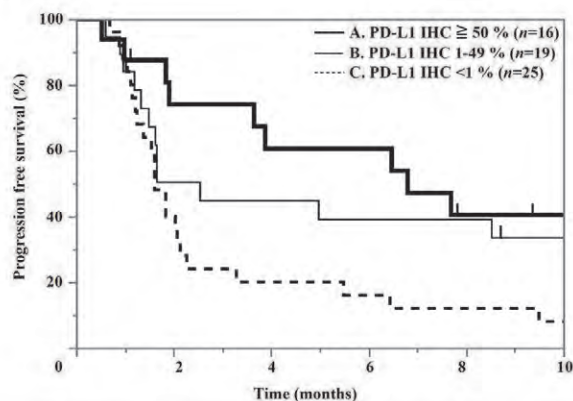


Figure2-b



PD-L1 発現率と Nivolumab の奏効について、ROC 曲線の AUC を比較したところ、根治的手術検体では AUC: 0.58 であり、それ以外の検体では AUC: 0.79 であった (Figure 3)。術後再発であっても、再発時の新鮮検体で PD-L1 を評価した症例 (N=6) は AUC: 0.90 であり、少数例だが PD-L1 発現率と Nivolumab の治療効果は良好に相関した (Figure 4)。

Figure3-a

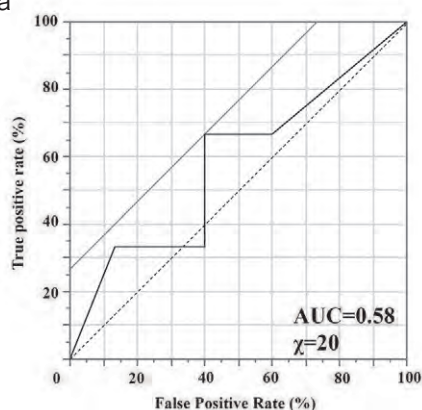


Figure3-b

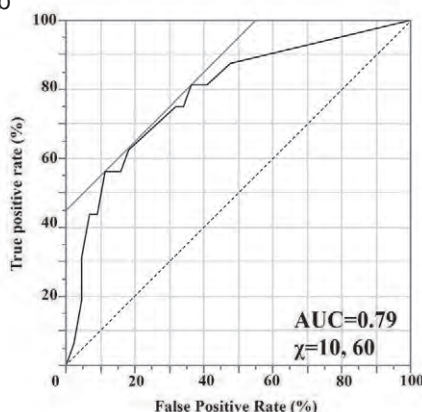
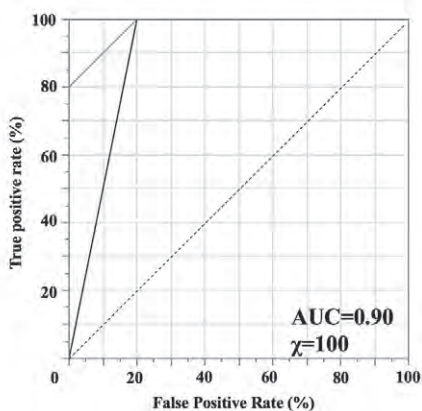


Figure4

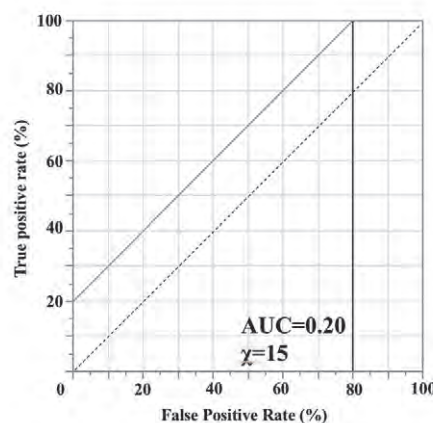


術後再発であっても、再発時の新鮮検体で PD-L1 を評価した症例について、原発と再発時の組織検体の PD-L1 発現率を比較した (Table 5)。再発時は初発時との PD-L1 の発現率にばらつきが認められ、原発の PD-L1 では AUC=20 と治療効果予測は不良であった (Figure 5)。

Table5.

| 患者番号 | 原発 PD-L1 | 再発時 PD-L1 |
|------|----------|-----------|
| 1 | 100 | 15 |
| 2 | 30 | 10 |
| 3 | 20 | 90 |
| 4 | 1 | 5 |
| 5 | 10 | 5 |
| 6 | 15 | 5 |

Figure5.



【結果のまとめ】

ROC 下曲線 AUC で検討すると、術後再発検体における PD-L1 発現と Nivolumab の治療奏効との相関は弱かった。

PFS においても、術後再発検体は Nivolumab の治療効果の層別が不良であった。

術後再発でも再発時の検体で PD-L1 を評価した症例では、PD-L1 発現率と治療効果の相関性は良好であった。

【考察と結論】

根治的手術検体での PD-L1 評価は Nivolumab の治療効果予測に有効ではなかった。原発巣と再発巣では PD-L1 の発現が異なることが原因として考えられる。術後再発症例では PD-L1 評価は手術検体では不十分な可能性が高く、可能であれば再発した時点での新鮮な組織を再採取して評価するほうが望ましい可能性が示唆された。

VI. 2 移植後早期の微小残存病変と移植後再発の関連に関する検討

中央市民病院 血液内科 下村良充

【概要】

同種造血幹細胞移植は急性骨髄性白血病において治療を目指せる治療のひとつであるが、移植後再発は依然として問題である。再発の要因として、非寛解、高リスク染色体異常の存在などいくつかの報告がなされている。様々な時期の微小残存病変 (minimal residual disease, MRD) も再発率に影響を与えるとされているが、移植後早期の検討はあまりされていない。さらに当院では白血病特異抗原を組み合わせた独自のパネルを用い6色フローサイトメトリーを用いMRDの測定を行っている。従来4色フローサイトメトリーを用いた報告が多いためより高感度にMRDを検出できる可能性がある。一方で、近年免疫抑制薬の減量やアザシチジンなどの移植後の予防治療が行われるようになってきている。一定の効果は認めるものの、有害事象もあり、適切な患者群への適応が望まれる。

そこで、今回我々は、急性骨髄性白血病の同種造血幹細胞移植において、移植後早期のMRDが移植治療後に与える影響について後方視的に検討した。

【対象及び方法】

主要評価項目は2年の累積再発率とした。副次評価項目は2年生存率、2年無再発生存率、3年非再発死亡率とした。MRDは移植後28日目付近で計測したものを後方視的に収集し、 $>0.1\%$ (conventional MRD positive)、 $0.01-0.1\%$ (high sensitive MRD positive)、 $<0.01\%$ (MRD negative)の3群に分けた。

【結果】

MRD陽性はMRD陰性と比較し再発率が高かった(図A)。また3群に分けて検討を行ったところMRDの量に伴い再発率が上昇した(図B)。また再発に関与する因子(年齢、性別、染色体異常、移植前の病期、前処置)を共変量として多変量解析を行ったが同様の結果であった(表)。

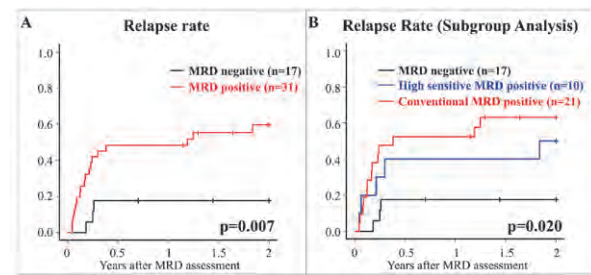
【考察、結論】

このような結果から移植後早期のMRDはその後の再発に関連することが示された。

以上内容は現在論文準備中である。

【報告等】

2017 ASH annual meeting



図

表

| Parameter | 多変量解析 | |
|--|-------------------|---------|
| | HR (95%CI) | p-value |
| MRD positive (≥ 0.01) vs MRD negative (< 0.01) | 4.31 (1.53-12.15) | 0.006 |
| Sub-group | | |
| High sensitive MRD positive (≥ 0.01 and < 0.1) vs MRD negative (< 0.01) | 3.90 (1.06-14.32) | 0.040 |
| Conventional MRD positive (≥ 0.1) vs MRD negative (< 0.01) | 4.46 (1.54-12.93) | 0.006 |

VI. 3 同種造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病における全身ステロイド療法開始前の末梢血好酸球数と予後の関連に関する検討

中央市民病院 血液内科 森田真梨

【概要】

急性移植片対宿主病 (acute graft versus host disease, aGVHD) は同種造血幹細胞移植 (以下、同種移植) の主な合併症である。Grade II以上のaGVHDではステロイド全身投与による一次治療が行われる。ステロイド抵抗性aGVHDの予後は不良である。治療開始前にハイリスク症例が予測できれば、一次治療の強化や二次治療の早期開始が可能となり、aGVHD患者の予後が改善する可能性がある。しかし、現在のところ、臨床で使用されているaGVHDの予後予測マーカーはほとんどない。末梢血好酸球増加は、aGVHD発症のリスク因子であるという報告がある一方、同種移植後の予後良好因子であるという報告もある。これらより、末梢血好酸球はaGVHD発症後の予後と関連性があることが示唆される。本研究では、ステロイド全身投与を要したaGVHD患者を対象に、ステロイド治療開始時の末梢血好酸球の予後関連性を検討した。

【対象及び方法】

同種移植を受けた造血器腫瘍患者のうち、aGVHD

に対してステロイド全身投与を受けた患者を対象とした。末梢血好酸球数の測定は、ステロイド開始当日または前日に採取された血液を用い、目視によるカウントを行った。主要評価項目は1年全生存率 (overall survival, OS) とした。副次評価項目は1年無増悪生存率 (progression free survival, PFS)、1年非再発死亡率 (non relapse mortality, NRM) とした。いずれもステロイド開始日を起始点として算出した。OS、PFSはKaplan Meier法を用いて、NRMはGray法を用いて解析を行った。OSに患者背景が及ぼす影響について、Cox比例ハザードモデルを用いて多変量解析を行った。多変量解析の共変数には年齢、aGVHDのGrade、末梢血好酸球数を組み込んだ。

【結果】

63人の患者が本研究の対象となった。ROC曲線により末梢血好酸球数 $133/\text{mm}^3$ をカットオフ値として、末梢血好酸球(peripheral blood eosinophils, PB-Eo)が $133/\text{mm}^3$ より多い群(PB-Eo高値群)と $133/\text{mm}^3$ 以下の群(PB-Eo低値群)に分けた。PB-Eo低値群では、同種移植後30日以内にステロイド治療を開始している患者の割合が高かった(54.5% vs 10.0%, $p<0.001$)。その他の患者背景に差はなかった。1年OSはPB-Eo低値群で65%、PB-Eo高値群で93%であった($p=0.008$)。1年PFSはPB-Eo低値群で59%、PB-Eo高値群で90%であった($p=0.006$)。1年NRMはPB-Eo低値群で22%、PB-Eo高値群で3%であった($p=0.035$)。多変量解析では、PB-Eo低値は独立したリスク因子であった(HR, 4.70; 95%信頼区間, 1.01-21.97; $p=0.049$)。

【考察・結論】

本研究により全身ステロイド開始前の末梢血好酸球数低値($<133/\text{mm}^3$)が、aGVHD発症後の生存率の独立したリスク因子であることが示された。末梢血好酸球数という簡便なマーカーにより、aGVHD患者の予後予測が可能となり、aGVHD治療の改善に役立つ可能性がある。

【報告】

American Society of Hematology Annal Meeting 2017
ポスター発表

VI. 4 胸腔鏡下手術における内視鏡用プラスチックバッグ内の腫瘍細胞の有無に関する前向き研究

中央市民病院 呼吸器外科 伊達 直希

【背景】

近年、肺癌に対する手術方式として胸腔鏡下手術が広く普及しており、当院でも肺癌手術の大多数を胸腔鏡下手術で行なっている。胸腔鏡下手術は開胸手術と比較して低侵襲であり、疼痛の軽減、術後合併症発生率の低下、在院期間の短縮などの優位性がある。しかしながら、最小限の皮膚切開で行うが故に、切除した肺を胸腔内から摘出する際に強い圧力がかかり、腫瘍損傷や腫瘍細胞の流出を引き起こす可能性がある。腫瘍細胞の胸腔内への散布を防ぐため、内視鏡用プラスチックバッグが使用されているが、実際にプラスチックバッグ内の腫瘍細胞の有無に関して詳細に検討した報告は少なく、当科で前向き研究を行った。

【対象および方法】

2018年1月より2018年9月までの間に、原発性肺癌に対して当院で胸腔鏡下区域切除術、肺葉切除術、または肺摘除術を施行した92人の患者を対象とした。切除肺の摘出時に使用した内視鏡用プラスチックバッグを生理食塩水30mlで洗浄し、これを回収し細胞診へと提出した。また、すべての症例で開胸時および閉胸前の胸腔内洗浄細胞診を施行した1例の患者で術中に胸膜播種病変を認め、9例の患者で胸腔内洗浄細胞診が陽性となった。これらの患者を除外し、最終的に82例の患者を統計的に解析した。

【結果】

内視鏡用プラスチックバッグ洗浄細胞診は20例(24.4%)で陽性となった。腫瘍径は全体径と浸潤径はともにプラスチックバッグ洗浄細胞診陽性群で有意に大きかった。また、リンパ節転移がプラスチックバッグ内洗浄細胞診陽性群でより高頻度にみられた。(Table 1)。

【結論】

腫瘍径とリンパ節転移が切除肺摘出時の腫瘍圧迫による腫瘍細胞流出の危険因子と考えられた。内視鏡用プラスチックバッグは腫瘍の播種を防ぐ上で必要不可欠な用具である。

Talbe1 Patient's characteristics

| Factor | BLC negative (62) | BLC positive (20) | p-value |
|--------------------|-------------------|-------------------|---------|
| Tumor size (mm) | | | |
| total size | 17.9 (±8.5) | 29.2(±11.5) | <0.001 |
| invasive size | 13.1 (±9.3) | 23.4 (±10.9) | <0.001 |
| pN | | | |
| 0 | 58 | 14 | 0.016 |
| 1-2 | 4 | 6 | |
| Surgical procedure | | | 0.239 |
| segmentectomy | 12 | 1 | |
| lobectomy or more | 50 | 19 | |
| Pleural invasion | | | 1 |
| - | 59 | 19 | |
| + | 3 | 1 | |

BLC: bag lavage cytology

上記内容を32nd European Association For Cardio-Thoracic Surgery Annual Meetingで発表した。現在、より詳細な検討のため追加研究を施行中である。

VI. 5 当院における早期子宮体癌に対する腹腔鏡手術および開腹手術の比較検討

中央市民病院 産婦人科

林 信孝, 崎山明香, 松林 彩, 小山瑠梨子,

大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉,

吉岡信也

Nobutaka Hayashi, Asuka Sakiyama, Aya Matsubayashi, Ruriko

Oyama, Noriko Otake, Hiroyuki Tomita, Kazuhiko Uematsu,

Takuya Aoki, Shinya Yoshioka

【要旨】

子宮体癌に対する腹腔鏡下手術は急速に増加しており、有用性および安全性の報告は多数存在する。当院でも急速に症例数が増加している腹腔鏡下子宮体癌手術において、治療成績や周術期合併症、再発症例などについて後方視的に検討を行った。腹腔鏡手術と開腹手術との比較において、出血量の減少、術後在院日数の短縮が認められ、合併症の発生に差は認めず、安全に手術を行う事ができていた。腹腔鏡手術では観察期間が短いため、再発症例や長期予後に関しては今後も症例を積み重ねて検討していく必要がある。

【緒言】

2014年4月に子宮体癌に対する腹腔鏡下手術が保険収載され、腹腔鏡下子宮体癌手術は急速に増加傾向にある。本邦での腹腔鏡下子宮体癌手術の有用性・安全性についてはこれまでの報告で示されているが、長期予後や再発形式などについての報告は少ない。当院では保険収載前の2011年より自費診療として子宮体癌に対する腹腔鏡下手術を行い、その数は年々増加傾向にある。当院での術前診断IA期の子宮体癌に対する腹腔鏡下手術および開腹手術について、治療成績、合併症、術前診断の精度、再発形式について後方視的に比較検討を行った。

【対象と方法】

2011年1月から2016年12月までの期間に、神戸市立医療センター中央市民病院産婦人科において、子宮体癌IA期相当(日産婦2011, FIGO2008), 類内膜腺癌のGrade1/2と術前診断し、基本術式である単純子宮全摘術+両側付属器切除術、およびそれに加えて骨盤内リンパ節郭清術を施行した145例を対象とした。これらの症例について、手術時間、出血量、BMI、術後在院日数、摘出リンパ節個数、術前診断の精度、術後合併症、再発形式について比較検討を行った。

当院における腹腔鏡下子宮体癌手術は、術前の画像診断において筋層浸潤が1/2未満の進行期分類IA期相当で、病変が子宮に限局し、組織学的診断において類内膜腺癌のGrade1もしくは2と診断され、子宮を細切せずに体外に回収できる症例を対象としてい

る。術前の進行期は、内診、経膈超音波検査、MRI、CT、PET-CT 検査などを行い、筋層浸潤の程度、病変の拡がり、リンパ節転移や遠隔転移の有無を評価し決定している。また術中迅速腹水細胞診検査、術中迅速病理組織診断検査を行い、術中腹水細胞診陽性の場合は大網切除の追加、術中迅速病理診断にて摘出子宮の評価を行い、組織型、悪性度、筋層浸潤の程度を評価し、類内膜腺癌 Grade1/2 で筋層浸潤を認めないものは、単純子宮全摘術、両側付属器切除術、類内膜腺癌 Grade1/2 で筋層浸潤が 1/2 未満のものは骨盤内リンパ節郭清術の追加、類内膜腺癌 Grade1/2 で筋層浸潤が 1/2 以上のものもしくは類内膜腺癌 Grade3/ 特殊組織型の診断されたものに関しては、開腹手術に移行し、骨盤内および傍大動脈リンパ節郭清術を行う方針としている (図 1)。

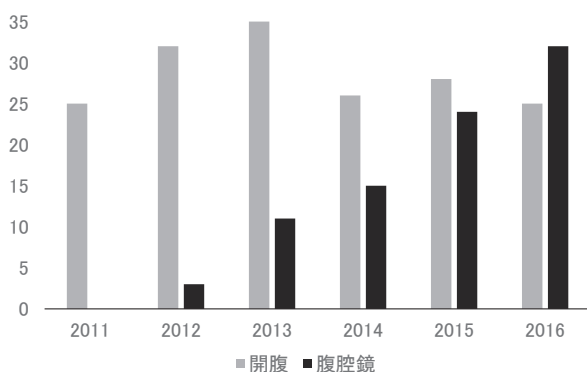
【結果】

当院での全子宮体癌に対する手術件数の推移を示す (表 1)。2011 年 1 月から 2016 年 12 月までの期間に、82 件の腹腔鏡下子宮体癌手術を行っており、腹腔鏡下子宮体癌手術は年々増加傾向にあり、近年は開腹手術の件数を上回るようになってきている。

| 病期 | 筋層浸潤 | 類内膜腺癌 G1/G2 | 類内膜腺癌 G3/特殊組織型 |
|-------|--------|--|--|
| I A 期 | なし | 単純子宮全摘術 両側付属器切除術 | |
| | 1/2 未満 | 単純子宮全摘術 両側付属器切除術 骨盤内リンパ節郭清術 | 単純子宮全摘術 両側付属器切除術 骨盤内リンパ節郭清術 傍大動脈リンパ節郭清術 |
| I B 期 | 1/2 以上 | 単純子宮全摘術 両側付属器切除術 骨盤内リンパ節郭清術 傍大動脈リンパ節郭清術 | |

図 1. 術式の選択

表 1. 当院での全子宮体癌に対する手術の推移



今回の対象症例 145 例のうち、開腹手術は 69 例、腹腔鏡手術は 76 例であった。開腹手術群および腹腔鏡手術群で患者背景に関して比較した(表 2)。年齢、BMI に関して両群間で差を認めず、観察期間は開腹手術群で有意に長く、術後在院日数は腹腔鏡手術群で有意に短縮していた。術前診断における進行期と手術進行期の一致率の検討においては、開腹手術群で 70%、腹腔鏡手術群で 82%と腹腔鏡手術群で術前診断の正診率が高かった。手術成績を表 3 に示す。リンパ節郭清を伴わない群での比較においては、手術時間は両群間に差を認めず、出血量は腹腔鏡群で少なく、術後在院日数は腹腔鏡手術群で 4.6 日と開腹手術群の 7.8 日と比較し 3.2 日の短縮を認めた。リンパ節郭清を伴う群での比較においては、手術時間は腹腔鏡手術群で長く、出血量は腹腔鏡手術群で少なく、術後在院

日数は腹腔鏡手術群で 5.5 日と短縮を認め、摘出リンパ節個数は腹腔鏡手術群でやや少ない傾向を示した。合併症に関しては、両群ともに 3 例ずつ認め、合併症発生率は開腹手術群で 4.3%、腹腔鏡手術群で 3.9%であり、有意差を認めなかった。合併症の内訳は開腹手術群でリンパ嚢胞 2 例、右尿管狭窄 1 例、腹腔鏡手術群では臍ヘルニア、小腸穿孔、右大腿知覚鈍麻がそれぞれ 1 例ずつであった。再発症例を表 4 に示す。再発形式および部位は、開腹手術群では左肺門部リンパ節再発、癌性腹膜炎再発、腹腔鏡群ではポートサイト再発、陰断端再発、リンパ節再発と腹膜播種再発を認めた症例がそれぞれ 1 例ずつあった。

表 2. 患者背景

| | 開腹手術 69 例 | 腹腔鏡手術 76 例 | |
|--------------|------------|------------|--------|
| 患者背景 | | | |
| 年齢(歳) | 56.7 ±11.9 | 57.5 ±11.7 | N.S. |
| BMI | 24.3 ±4.6 | 24.9 ±6.5 | N.S. |
| 観察期間(月) | 41.8 ±15.8 | 23.4 ±13.4 | p<0.01 |
| 術後在院日数(日) | 7.5 ±2.0 | 5.2 ±1.8 | p<0.01 |
| 術式 | | | |
| 単純子宮全摘術 | 17 例 | 26 例 | |
| 両側付属器切除術 | | | |
| 単純子宮全摘術 | 52 例 | 50 例 | |
| 両側付属器切除術 | | | |
| 骨盤内リンパ節廓清術 | | | |
| 手術進行期 | | | |
| I A 期 | 49 | 62 | |
| I B 期 | 7 | 4 | |
| II 期 | 8 | 8 | |
| III A 期 | 1 | 1 | |
| III B 期 | 1 | 0 | |
| III C1 期 | 3 | 1 | |
| 術前診断の正診率 | 70% | 82% | N.S. |
| 腹水細胞診 | | | |
| 陽性 | 15 | 34 | |
| 陰性 | 53 | 40 | |

表 3. 手術成績

| | 開腹手術 | 腹腔鏡手術 | p 値 |
|---------------------------|--------------|-------------|---------|
| リンパ節郭清を行わなかった群での比較 | | | |
| | 開腹 17 例 | 腹腔鏡 26 例 | |
| 手術時間(min) | 187.8 ±48.3 | 205.8 ±71.2 | NS |
| 出血量(mL) | 241(20-660) | 0(0-600) | p<0.01 |
| 術後在院日数(日) | 7.8 ±2.6 | 4.6 ±1.1 | p<0.01 |
| リンパ節郭清を行った群での比較 | | | |
| | 開腹 52 例 | 腹腔鏡 50 例 | |
| 手術時間(min) | 279.8 ±46.9 | 323.7 ±62.2 | p<0.01 |
| 出血量(mL) | 416(15-1825) | 12(0-641) | p<0.01 |
| 術後在院日数(日) | 7.4 ±1.7 | 5.5 ±2.0 | p<0.01 |
| 摘出リンパ節個数(個) | 26.3 ±10.1 | 22.2 ±7.9 | p=0.028 |
| 合併症 | 3 例 | 3 例 | NS |
| 再発症例 | 2 例 | 3 例 | NS |

表 4. 再発症例

| 術式 | 組織型 | 腹水細胞診 | 再発リスク | 術後治療 | 再発部位 | 無増悪期間 (月) | 再発治療法 | 観察期間 (月) | 予後 |
|-----------|-------------------------|-------|-------|-------|---------------------------|--------------|------------|-------------|------|
| | 病期 | | | | | | | | |
| 開腹 | 類内膜腺癌 G1 | 陰性 | 低リスク | なし | 左肺門部リンパ節 | 30 | 手術 | 4 | 生死不明 |
| | I A 期,pT1aN0Mx | | | | | | | | |
| TAHBSOPEN | 類内膜腺癌 G2 | 陽性 | 高リスク | TC 療法 | 癌性腹膜炎 | 17 | 化学療法 | 11 | NED |
| | III C1 期,pT2N1Mx,ly0,v0 | | | | | | | | |
| TLHBSOPEN | 類内膜腺癌 G1 | 陰性 | 低リスク | なし | ポートサイト再発 | 18 | 手術 | 19 | NED |
| | I A 期,pT1aN0Mx,ly0,v0 | | | | | | | | |
| 腹腔鏡 | 類内膜腺癌 G1 | 陰性 | 低リスク | なし | 陰断端 | 14 | 手術 CCRT | 12 | NED |
| | I A 期,pT1aN0Mx,ly0,v0 | | | | | | | | |
| TLHBSO | 類内膜腺癌 G2 | 陽性 | 低リスク | なし | 腹膜播種、骨盤内リンパ節 両側肺門部リンパ節 | 11 | 手術 化学療法 | 11 | NED |
| | I A 期,pT1aNxMx,ly0,v0 | | | | | | | | |

TAH:腹式単純子宮全摘術 TLH:腹腔鏡下単純子宮全摘術 BSO:両側付属器切除術 PEN:骨盤内リンパ節廓清術

【考察】

本邦での子宮体癌罹患患者数は年々増加傾向にあり、2014年4月に保険適用となって以降、腹腔鏡下子宮体癌手術は増加している。LAP2studyを代表とする多施設共同研究で手術成績などが報告されており¹⁾²⁾³⁾、海外からの報告に加え本邦からの報告も増加傾向にある⁴⁾⁵⁾⁶⁾。これらの報告では、出血量の減少と術後在院日数の短縮が示されている。当院における今回の検討では、リンパ節郭清の有無に関わらず、開腹手術群と比較して腹腔鏡手術群で有意な出血量の減少および術後在院日数の短縮を認め、これまでの報告と同様の結果となった。手術時間に関しては、リンパ節郭清を伴わない群では差を認めなかったが、リンパ節郭清を伴う群での検討では、開腹手術群に比べて腹腔鏡手術群で手術時間を要していた。これまでの報告においても、腹腔鏡手術群での手術時間の延長が報告されており、同様の結果となった。摘出リンパ節個数に関しては、2014年4月の保険適用前の腹腔鏡下手術を含んだ検討においては摘出リンパ節個数が開腹手術群と比較して腹腔鏡手術群でやや少ない結果であったが、保険適用後での症例での検討では両群間で差を認めなかった。過去の海外からの文献報告と比較しても、当院での腹腔鏡手術群での摘出個数は保険適用前を含んでも同等の結果であり、これらの報告と同等の手術水準は満たしていたと考える²⁾³⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾。当院では腹腔鏡下子宮体癌手術を開始する以前より、良性疾患に対しての腹腔鏡下子宮全摘術を行っており、腹腔鏡下子宮全摘術の手技は成熟していたが、リンパ節郭清においては手技の確立に至っておらず、また複数の術者がいるため、手術時間の延長や摘出リンパ節個数の差が生じていたのではないかと考えられた。

術前診断との病期の一一致率は開腹手術群で70%、腹腔鏡手術群で82%と、腹腔鏡手術群で正診率が高い傾向を示したが、有意差は認めなかった。術前にI A期相当と診断していても、術後に手術進行期分類がI B期にアップステージされた症例は開腹群で7例、腹腔鏡群で4例、II期は開腹群および腹腔鏡群で8例ずつあった。子宮体癌では、ダイナミックMRIにおいて、造影直後から濃染する正常筋層に比べ腫瘍での増強効果が不良であり、正常な内膜や筋層との境界が明瞭となるため、筋層浸潤の深さが評価しやすいとされている¹⁰⁾。T2強調画像のみでの筋層浸潤の評価の正診率が78%であったのに対し、ダイナミック造影を加えることで92%まで向上したとの報告もみられる¹¹⁾。頸部間質浸潤の画像評価に関しては、筋層浸

潤と比較して報告が少ないが、正診率は86-97%とされている¹²⁾。当院でも術前診断の正診率向上を目的とし、ダイナミックMRI検査を用いている。

周術期合併症に関しては、尿管損傷、腸管損傷、血管損傷に関して、過去の比較試験では有意差は認めないと報告されており、今回の当院での検討においても同様の結果となった。術後合併症に関しては、LAP2study³⁾において術後イレウスの発症が腹腔鏡下手術で有意に少なかったと報告され、腹腔鏡下手術の優位性が示されていた。今回の当院での検討においては合併症の発生に開腹群と腹腔鏡群で有意差を認めず、また腹腔鏡手術群において開腹手術への移行を要する術中合併症は認めていなかった。

再発症例は開腹手術群で2例、腹腔鏡手術群で3例認めた。腹腔鏡手術群での再発症例はすべて術後再発リスク分類が低リスクの症例であり、ポートサイト再発1例、腔断端再発1例、腹膜播種と骨盤内リンパ節転移再発を認めた1例であった。

ポートサイト再発を来した症例では、子宮摘出後の骨盤内リンパ節郭清に際して追加留置したトロッカー挿入部の皮下に、術後18ヶ月で再発腫瘍を認めた。このポートは摘出リンパ節回収などには使用していない操作鉗子挿入用の5mmトロッカーであった。当院では手術開始時に外子宮口を縫合閉鎖、腹水細胞診のための腹水採取を行った後に卵管のシーリングを行い、腫瘍細胞の漏出防止のisolationを行っていたが、経腔的に子宮を回収する際には特に回収バッグなどは用いていなかった。手術動画を後方視的に検討すると、子宮腔部の切離を行う際に子宮頸部に腹腔内で使用していた鉗子が触れており、手術前に腔内に漏出していた腫瘍組織が腔から腹腔内に迷入したり、鉗子などに付着したりする事によって、鉗子の出し入れやポート抜去の際にポート挿入部に腫瘍組織が付着し、のちに再発を来した可能性が考えられる。ポートサイト再発のリスクとしては、組織型、進行期、腹水細胞診陽性例、癌性腹膜炎などがあげられ、子宮体癌のポートサイト再発のリスクは0.33%と報告されている¹³⁾。ポートサイト再発の原因は、腹腔鏡手術操作による腫瘍細胞の腹腔内遊離や腹壁へのimplantation、気腹時の二酸化炭素ガスによるimplantationの誘発など諸説報告がある¹⁴⁾。この症例を受けて、当院では子宮回収時の腹腔内への腫瘍組織迷入を防止する目的に回収バッグを使用するように、手術手順の変更を行った。

また、腹膜播種再発を来した症例では、類内膜腺癌Grade2、筋層浸潤1/2未満でありI A期と診断してお

り、術中の腹水細胞診が陽性だった以外は特にリスクは認めておらず術後再発リスク分類は低リスクと判断し、術後補助化学療法は未施行であった。しかしながら、摘出標本の病理学的評価により一部明細胞癌に分化した部分が含まれており、潜在的な高リスク症例であった可能性が考えられた。腹腔内細胞診陽性例に対しての対応については議論があり、高リスク症例(筋層浸潤 1/2 以上, G3/ 特殊組織型, 脈管侵襲陽性, 子宮外進展)では独立した予後不良因子となるが¹⁵⁾¹⁶⁾, 低リスク症例においては予後不良因子とならないとの報告が多い¹⁷⁾¹⁸⁾。ただ低リスク症例であっても、大網転移やリンパ節転移などの子宮外進展の有無を検索し、正確な手術進行期を決定するための手術を考慮すべきと考えられる。

【結語】

当院における子宮体癌に対する腹腔鏡下手術は開腹手術の比較し、出血量の減少、および術後在院日数の短縮が認められ、それぞれの群で同等の手術成績を認め、手術手技の成熟も得られていると考えられた。今回の検討では腹腔鏡群の観察期間が短いため、再発症例や長期予後に関しては今後も症例を積み重ねて検討していく必要がある。

【参考文献】

- 1) Galaal K, et al: Laparoscopy versus laparotomy for the management of early stage endometrial cancer. *Cochrane Database Syst Rev* 2012: 9
- 2) Walker JL, Piedmonte MR, Spirtos NM, et al: Laparoscopy Compared With Laparotomy for Comprehensive Surgical Staging of Uterine Cancer: Gynecologic Oncology Group Study LAP2. *J Clin Oncol.*, 27(32): 5331-5336, 2009.
- 3) Walker JL, Piedmonte MR, Spirtos NM, et al : Recurrence and survival after random assignment to laparoscopy versus laparotomy for comprehensive surgical staging of uterine cancer: Gynecologic Oncology Group LAP2 Study. *J Clin Oncol.*, 30(7): 695-700, 2012.
- 4) 野崎綾子, 小田切哲二, 勘野真紀: 早期子宮体癌に対する腹腔鏡下手術の周術期経過と長期予後について. *日本産科婦人科内視鏡学会雑誌*, 31 : 120-125, 2015.
- 5) 秋山 登, 田中浩彦, 徳山智和: 当院における保険収載後の腹腔鏡下子宮体癌手術. *日本産科婦人科内視鏡学会雑誌*, 32 : 135-141, 2016.
- 6) 吉田光紗, 梅村康太, 植草良輔: 子宮体癌に対する腹腔鏡下手術の導入. *日本産科婦人科内視鏡学会雑誌*, 32 : 190-196, 2016.
- 7) Tozzi R, Malur S, Koehler C, et al : Laparoscopy versus laparotomy in endometrial cancer: first analysis of survival of a randomized prospective study. *J Minim Invasive Gynecol.*, 12(2): 130-136, 2005.
- 8) Malzoni M, Tinelli R, Cosentino F, et al: Total laparoscopic hysterectomy versus abdominal hysterectomy with lymphadenectomy for early-stage endometrial cancer: a prospective randomized study. *Gynecol Oncol.*, 112(1): 126-133, 2009.
- 9) Zullo F, Palomba S, Falbo A, et al: Laparoscopic surgery vs laparotomy for early stage endometrial cancer: long-term data of a randomized controlled trial: *Am J Obstet Gynecol.*, 200(3): 296.e1-9, 2009.
- 10) Yamashita Y, Harada M, Sawada T, et al: Normal uterus and FIGO stage I endometrial carcinoma: dynamic gadolinium-enhanced MR imaging. *Radiology.*, 186(2): 495-501, 1993.
- 11) Sala E, Crawford R, Senior E, et al: Added value of dynamic contrast-enhanced magnetic resonance imaging in predicting advanced stage disease in patients with endometrial carcinoma. *Int J Gynecol Cancer.*, 19(1): 141-146, 2009.
- 12) 田中優美子: 産婦人科の画像診断, 金原出版, 東京, 195, 2014.
- 13) Martínez A1, Querleu D, Leblanc E, et al: Low incidence of port-site metastases after laparoscopic staging of uterine cancer. *Gynecol Oncol.* 118(2): 145-150, 2010.
- 14) Ramirez PT, Wolf JK, Levenback C, et al: Laparoscopic port-site metastases: etiology and prevention. *Gynecol Oncol.* 91(1): 179-189, 2003.
- 15) Santala M, Talvensaaari-Mattila A, Kauppila A, et al: Peritoneal cytology and preoperative serum CA 125 level are important prognostic indicators of overall survival in advanced endometrial cancer. *Anticancer Res.* 23: 3097-3103, 2003.
- 16) Takeshima N, Nishida H, Tabata T, et al: Positive peritoneal cytology in endometrial cancer: enhancement of other prognostic indicators. *Gynecol Oncol.* 82: 470-473, 2001.
- 17) Gu M, Shi W, Barakat RR, et al: Peritoneal washings

in endometrial carcinoma. A study of 298 patients with histopathologic correlation. Acta Cytol. 44: 783-789, 2000.

- 18) Saga Y, Imai M, Jobo, et al: Is peritoneal cytology a prognostic factor of endometrial cancer confined to the uterus? : Gynecol Oncol.103: 277-280, 2006.

VI. 6 多施設共同研究による頭頸部腺様嚢胞癌症例の検討

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 竹林慎治

【論文発表】

Takebayashi S, Shinohara S, Tamaki H, et al: Adenoid cystic carcinoma of the head and neck: a retrospective multicenter study. Acta Oto-Laryngologica. 138(1):73-79, 2018

【目的】

頭頸部腺様嚢胞癌は、頭頸部領域の悪性腫瘍の中の約1%で、希少癌である。診断に難渋することがしばしばあり、緩徐に進行することが比較的多いが、局所再発、遠隔転移を高頻度に認め、効果がある化学療法は確立されておらず、長期予後は必ずしも良好ではない。一般的に手術可能であれば手術加療が第一選択で、放射線治療を併用した方がよいと考えられているが、一施設での検討は症例数が少なく、症例に偏りがあるため、十分なエビデンスはない。そこで、京都大学を中心とする関連病院群で連携し、多くの症例を集めて新たな知見を与えることを目的とした。

【方法】

京都大学関連病院 12 施設で腫瘍グループを作り、各病院でそれぞれ倫理委員会の了承を得て後方視的に2006年から2015年の10年間分のカルテ検索を施行した。12施設中11施設に頭頸部腺様嚢胞癌の治療歴があり、その中から11施設で診断または一次治療を施行した103例を抽出した。検討項目は、性別、年齢、病期期間、原発部位、TNM/Stage分類、治療方法について生存率を検討した。生存率はKaplan-Meier法で計算し、統計学的検討は、単変量解析をLog rank検定、多変量解析をCox比例ハザードモデル検定で施行し、 $p < 0.05$ を有意差ありとした。

【結果】

全症例での粗生存率に対して、単変量解析では、原

発部位、Stage分類、手術治療の有無、60Gy以上の放射線治療の有無で有意差を認め、多変量解析では、原発部位、Stage分類、60Gy以上の放射線治療の有無で有意差を認めた。舌下腺、Stage IVが予後不良因子であり、60 Gy以上の放射線治療が予後を改善させた。

さらに、遠隔転移を認めず、1次治療として手術治療を施行した症例に対して、粗生存率、局所制御率、遠隔転移率について検討した。Stage分類、切除断端、60Gy以上の術後放射線治療の有無で多変量解析を施行すると、粗生存率では、60Gy以上の術後放射線治療で有意差を認め、局所制御率でも60Gy以上の術後放射線治療で有意差を認め、遠隔転移率は、切除断端で有意差を認めた。切除断端陽性症例は、遠隔転移を生じやすく、60Gy以上の放射線治療は、予後を改善させ、局所再発を予防する効果を認めた。

【まとめ】

頭頸部腺様嚢胞癌に対して60Gy以上の放射線治療が効果的である。

VI. 7 甲状腺微小乳頭癌 pN1b または pM1 症例の検討

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 竹林慎治

【論文発表】

甲状腺微小乳頭癌 pN1b または pM1 症例の検討。耳鼻咽喉科臨床学会会誌 111 (11) : 781-785, 2018
Cases of pN1b and pM1 Papillary Microcarcinoma of the Thyroid. International Journal of Practical Otolaryngology. 1 (1) : 6-9, 2018

【学会発表】

第50回日本甲状腺外科学会学術集会、福島市、2017.10.26-27

【目的】

甲状腺乳頭癌は、悪性腫瘍の中では比較的予後良好な疾患である。解剖時にも甲状腺微小癌の合併を認めることもしばしばあり、無治療でも直接死因になるには限らない。また、検査機器の発展により、微小癌の発見が増加し、甲状腺癌の数が増加傾向にある。甲状腺微小乳頭癌で経過観察を選択した場合、統計学的には、増大傾向が生じてから手術を選択しても粗生存率に関しては有意差がでない報告がある。甲状腺乳頭癌

は、予後が良好であるため、生存だけでなく、QOLも治療方針の決定には重要な因子であると思われる。微小乳頭癌であっても高率に転移をすることが知られており、QOLに影響を与える遠隔転移症例をときおり経験する。微小乳頭癌を安全に経過観察するためには、甲状腺だけではなく、転移も精査する必要があるが、転移の精査はかなりの労力を有する。そこで、遠隔転移症例が、予想可能かどうか検討することにした。

【方法】

当院で2007年1月1日から2017年4月30日に期間に甲状腺腫瘍として手術治療を行った症例を後方視的にカルテ検索し、甲状腺微小乳頭癌症例を抽出した。微小癌を遠隔転移が生じた群(N1bまたはM1)12例と遠隔転移のない群(N0,N1aかつM0)53例の2群にわけて比較し、統計学的検討を施行した。検討項目は、性別、年齢、主訴、腫瘍の部位、エコーの性状、周囲浸潤、腺内多発、転帰について検討した。2群間の統計学的解析は、カイ二乗検定を施行し、 $p<0.05$ を有意差ありとした。当院倫理委員会の了承をえた。

【結果】

2群間の統計学的有意差は、性別でのみあり、男性に遠隔転移例が多かった。術前画像検査から転移の有無を予想することは困難であった。

【まとめ】

甲状腺微小乳頭癌を経過観察する場合、転移の予測をすることは困難と思われた。男性にはより積極的な検査、治療が望ましいと思われた。

VI. 8 頸部リンパ節転移に対する開放生検

—固形癌のリンパ節転移に対する切開生検は予後を悪化させるか?—

中央市民病院 頭頸部外科 篠原尚吾

【業績の報告学会・論文】

第42回日本頭頸部癌学会，東京，2018.6.14-15

第6回アジア頭頸部癌学会，ソウル，韓国，2019.3.27-30

【業績の論文】

Japanese Journal of Clinical Oncology, 2018, 1-6 doi: 10.1093/jjco/hyy056

【著者・演者】

篠原尚吾，竹林慎治，菊地正弘，原田博之，道田哲彦，

林一樹，山本亮介，齋田浩二，水野敬介，藤原敬三，内藤泰
神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

【諸言】

転移性頸部リンパ節に対して開放生検を施行すること(violating the neck)は、患者の生命予後を悪化させることが1950年代にMartinらによって示され、それ以降一塊切除(en-block dissection)が頸部リンパ節の切除に対する基本概念となり、そのような考えをもとに頸部郭清術という術式が発展してきた。そのため、我々耳鼻咽喉科・頭頸部外科医は転移性頸部リンパ節が疑わしいリンパ節腫脹の対しては、通常原発巣の探索(内視鏡)、画像診断や穿刺吸引細胞診で組織型を推定することを先行することになっている。しかしながら、悪性リンパ腫の診断に際しては、標本を通常の病理検査以外にフローサイトメトリーや遺伝子検査等に提出するので、ある程度の組織量が求められる。頸部リンパ節腫脹に対し、悪性リンパ腫を疑う場合や、穿刺吸引細胞診などの初期の検査で診断が確定しなかった場合にやむを得なく開放生検を行うが、その場合もリンパ節の被膜を破綻させずに切除する「切開生検」が望ましいと考えられる。しかしながら、頸部リンパ節が大きい場合や周辺臓器に強く癒着する場合など、切開生検が不可能な場合は、リンパ節の被膜に切開を入れ、リンパ節の一部の組織のみを切除する「切開生検」をやむを得ずに行う。今回我々はこのように「切開生検」を、悪性リンパ腫ではなく固形癌の転移巣に施行してしまった場合、果たして本当に生命予後に悪影響を及ぼすのかを、後方視的に検討した。

【対象と方法】

対象は2005年から2015年までの間に当科にて診断目的で頸部リンパ節の生検術を施行した524例で、そのうち悪性腫瘍の転移リンパ節(造血系悪性腫瘍を除く)64例に対し予後の検討を行った。検討項目は、①原発巣別に頸部のどのあたりに転移リンパ節に対して切除術を施行したかを、AAO-HNSの頸部リンパ節のレベル分類を用いて示した。②生検が必要であった理由(初診時原発不明、再発リンパ節かどうかの確認、ステージング中に発見され遠隔転移かどうかの確認、肺腫瘍頸部転移例疑いで、頸部から肺腫瘍の病理型を特定した場合等)、③切開生検を施行した症例と切開生検を施行した症例の全生存率、疾患特異的生存率の差異の3つである。

【結果】

① 固形癌の転移リンパ節は左のレベル5（左鎖骨上窩—外側頸部）、左レベル4（左下内頸リンパ節）、右レベル4（右下内頸リンパ節）の順に多く、横隔膜以下の原発巣からの転移はすべて左レベル4—5に局在していることが判った。② 初診時原発不明33例、再発リンパ節かどうかの確認16例、ステージング中に発見され遠隔転移かどうかの確認7例、肺腫瘍頸部転移例疑いで、頸部から肺腫瘍の病理型を特定した場合8例であった。③ 全転移性悪性腫瘍を対象とした場合、予想を裏切り、切開生検施行例（31例）の方が、全生存率も疾患特異的生存率も切除生検施行例（33例）より良い結果となったが、有意差はなかった。

【考察】

1950年代の頸部郭清創成期より現在まで信じられてきた、「切開生検は予後を悪くするので避けるべき」という教義は、化学療法や放射線療法など、当時存在しなかった治療 modality の出現により、すでに真実ではなくなった可能性が示された。外科系は技術を伝えるという、多分に経験的な学問であるため、治療の進歩に伴い既存の教義は再検討されるべきであると考えられる。本研究はその点で意義が高いものとする。

【追記】

発表予定のポスターを次ページに示します。



Prognostic impact of incisional or excisional biopsy of cervical lymph node metastases of solid tumors

Shogo Shinohara, Shinji Takebayashi, Masahiro Kikuchi, Tetsuhiko Michida, Kazuki Hayashi, Ryouzuke Yamamoto, Koji Saida, Keisuke Mizuno, Keizo Fujiwara, Yasushi Naito

Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

Conclusions

A carefully targeted physical examination and performing a fine needle aspiration (FNA) are essential to establish a diagnosis for the etiology of an unknown neck mass. In performing an open biopsy, the excisional biopsy is theoretically preferable than the incisional biopsy because the latter may increase the risk of cancer cell seeding, which would worsen a patient's survival. We retrospectively reviewed the patients with metastatic solid tumors who received open biopsy and examined survival difference between the patients with excisional biopsy and those with incisional biopsy. We concluded that the effect of an incisional biopsy on patients' survival was no worse than that of an excisional biopsy in all metastatic tumors (Figure 1), HNSCC group (Figure 2) or lung cancer group (Figure 3).

Presenters have no conflict of interest to disclose

Backgrounds

In the 1950s, Martin and Romieu observed that removal of a neck node for diagnostic purposes lessened the chance of survival. Several reports have since demonstrated an obvious adverse effect of violating the neck before definitive surgery and therefore a systemic approach to anatomical "en block" removal of neck metastases was developed. Consequently, head and neck surgeons carefully searched for a primary lesion in patients with a neck mass of unknown etiology, and, if needed, less invasive pathological examinations, such as FNA, were initially considered. However, sampling a certain amount of tumor from a head and neck lesion is beneficial in order to make a pathological diagnosis of a malignant lymphoma or metastatic tumor that has spread from other organs. In performing an open biopsy of a neck lymph node, some investigators were concerned that incisional biopsies may increase the risk of cancer cell seeding, which would worsen a patient's survival, and strongly recommended excisional biopsy. The aim of this study was to investigate the impact of an incisional biopsy compared with an excisional biopsy of cervical lymph node metastases of solid tumors on patients' survival.

Materials and Methods

Between 2005 and 2015, we undertook 524 open biopsies of cervical lymph nodes for diagnostic purposes. The final pathological results are shown in Table 1. Of these cases, 64 patients with a metastatic solid tumor histologically confirmed by cervical open biopsy were enrolled in this study. Primary organs that were proven clinically are shown in Table 2. Eleven cases of carcinomas with an unknown primary (CUP) were found; that is, primary lesions were not identified in any examinations. In this study, patients with squamous cell carcinoma with an unknown primary were classified as part of the head and neck squamous cell carcinoma (HNSCC) group.

Two different modes of biopsy generated two groups; excisional and incisional, and the survival analyses were estimated between the patients who received these 2 biopsy modes in 3 categories of the patients groups (all solid tumors, HNSCC group and lung cancer group).

Result 1

Among the 64 patients with metastatic solid tumor, 49% received an incisional biopsy (31/64) and 51% received an excisional biopsy (33/64). Table 3 shows the association between the mode of biopsy and clinical features. Any of the clinical covariates differed significantly between the groups. Table 4 shows the association between the mode of biopsy and clinical features in the HNSCC group. Only the anesthesia method demonstrated significant difference between groups; General anesthesia was more chosen in an excisional biopsy. Interestingly, 8 out of 17 patients had p16 positive tumors. Table 5 shows the association between the mode of biopsy and clinical features in the lung cancer.

Result 2

The median time to death or last follow-up of all solid tumors was 406 days. The patients in incisional biopsy group showed better survival in terms of OS and DSS, although the differences were not significant (Figure 1). The median time to death or last follow-up of HNSCC was 1300 days. The patients in incisional biopsy group showed better survival in terms of OS and DSS, although the differences were not significant (Figure 2). The median time to death or last follow-up of lung cancer was 373 days. The patients in both group showed similar survival curves in the patients with lung cancer (Figure 3).

Discussions

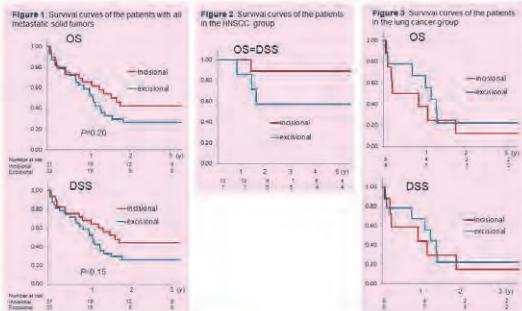
We had expected worse prognosis for the patients who received an incisional biopsy than those with an excisional biopsy, because incisional biopsies might increase the risk of cancer cell seeding and dissemination¹⁾. In addition, the surgeon might select an incisional biopsy for patients with a larger, and/or fixed neck mass, with a more advanced condition of metastasis. However, the patients with solid tumors who received an incisional biopsy demonstrated rather better prognosis but not significant, than those who received an excisional biopsy in this study. We presumed the reason that the existence of neck metastases, which is defined as distant metastasis unless the primary site existed in a head and neck lesion or lung, just had a much larger influence on the patients' survival than the mode of the biopsy.

In cases with HNSCC, it was unexpected that an incisional biopsy had no adverse influence on patients' survival because it is a long time axiom of head and neck surgery that an incisional biopsy of lymph nodes with HNSCC which disrupt lymphatic membrane will "violate" the neck and predispose to loco-regional and distant recurrence and result in a worse prognosis. We raised two reasons to explain the fact that the patients with an incisional biopsy had quite favorable prognoses than expected. Initially, radiotherapy and/or chemotherapy underwent to 88% of after the open biopsy. Ellis et al analyzed 508 patients with HNSCC and positive neck nodes who had been treated with radiotherapy and proved an open biopsy had no detrimental effect on loco-regional control, distant metastasis and disease specific survival²⁾. Secondly, there were a large proportion of human papillomavirus (HPV)-related SCC in our series of HNSCC cases. Zenga et al reported that an open biopsy to HPV-related SCC had no adverse effect on patients' favorable overall, disease specific or disease free survival using their series of 45 HPV-positive oropharyngeal SCC³⁾.

The content of this poster has been published in Japanese Journal of Clinical Oncology (doi: 10.1083/jco/hy056)

References

- McQuirt WF, McCabe BF. Significance of node biopsy before definitive treatment of cervical metastatic carcinoma. *Laryngoscope* 1978; 88:594-597.
- Ellis ER, Mandelstam WM, Rao PV, McCarty PJ, Parsons JT, Stricker SP, Cassisi NJ, Milson RR. Incisional or excisional neck node biopsy before definitive radiotherapy, alone or followed by neck dissection. *Head Neck* 1991; 13:177-183.
- Zenga J, Graboyes EM, Haughey BH, Panvello RC, Mehrad M, Lewis JS, Jr., Thorstad WL, Nussenbaum B, Rich JT. Definitive Surgical Therapy after Open Neck Biopsy for HPV-Related Oropharyngeal Cancer. *Otolaryngol Head Neck Surg* 2016; 154:657-666.



| Hematologic malignancy | 318 |
|---|-----|
| Malignant lymphoma | 315 |
| Leukemia | 3 |
| Metastatic solid tumor | 64 |
| HNSCC | 17 |
| Lung cancer | 17 |
| Others | 30 |
| Infectious/granulomatous lymphadenitis | 31 |
| Tuberculosis | 31 |
| Toxoplasma | 3 |
| Noninfectious/granulomatous lymphadenitis | 15 |
| Sarcoidosis | 10 |
| Unknown | 5 |
| Infectious lymphadenitis | 13 |
| Other causes | 25 |
| Kawasaki disease | 14 |
| lyG4-related disease | 7 |
| Castleman disease | 3 |
| Rosal-Dorfman disease | 1 |
| Reactive lymphadenitis | 55 |
| Total | 524 |

Table 1. Histological results of 524 cervical lymph node biopsies between 2005 and 2015

| | incisional | excisional | p-value |
|------------------------|------------|------------|---------|
| Total | 31 | 33 | |
| Gender | | | |
| Male | 21 | 18 | 0.28 |
| Female | 10 | 15 | |
| Age | 63 (36-76) | 66 (47-86) | 0.22 |
| Primary site | | | |
| HNSCC | 10 | 7 | |
| Lung | 8 | 9 | |
| CUP | 3 | 3 | |
| Upper GI | 1 | 2 | |
| Lower GI | 1 | 2 | |
| Other | 11 | 8 | |
| Gyne | 3 | 3 | |
| Uro | 1 | 1 | |
| Others | 3 | 1 | |
| Anesthesia | | | 0.09 |
| General | 2 | 7 | |
| Local | 29 | 26 | |
| Previous treatment | | | |
| Yes | 5 | 7 | 0.47 |
| No | 26 | 26 | |
| Treatment after biopsy | | | |
| Systemic treatment | 27 | 25 | 0.25 |
| Supportive care only | 4 | 8 | |

Table 3. Relationship between mode of biopsy, clinical covariates, and post-treatments of 64 patients with all metastatic solid tumors

| | incisional | excisional | p-value |
|------------------------|------------|------------|---------|
| Total | 8 | 9 | |
| Gender | | | |
| Male | 7 | 3 | 0.02 |
| Female | 1 | 6 | |
| Age | 66 (47-75) | 71 (38-86) | 0.77 |
| Anesthesia | | | N/A |
| General | 0 | 0 | |
| Local | 0 | 9 | |
| Previous treatment | | | 0.45 |
| Yes | 2 | 1 | |
| No | 6 | 8 | |
| Pathology | | | N/A |
| Adenocarcinoma | 3 | 0 | |
| Small cell carcinoma | 1 | 2 | |
| SCC | 2 | 0 | |
| Large cell carcinoma | 0 | 1 | |
| Stage | | | 0.71 |
| IIB | 2 | 3 | |
| IV | 6 | 6 | |
| Treatment after biopsy | | | 0.85 |
| Chemotherapy | 6 | 7 | |
| Untreated (BSC) | 2 | 2 | |

Table 5. Relationship between mode of biopsy, clinical covariates, and post-treatments of 17 patients with lung cancers

| Head and Neck SCC | 17 |
|------------------------------|----|
| Oropharynx | 6 |
| CUP | 5 |
| Nasopharynx | 1 |
| Maxilla | 1 |
| Hypopharynx | 1 |
| Larynx | 1 |
| Lung (non SCC) | 17 |
| CUP (non SCC) | 6 |
| Adenocarcinoma | 4 |
| Mucoselipoid carcinoma | 2 |
| Upper gastrointestinal | 3 |
| Esophagus | 2 |
| Stomach | 1 |
| Lower gastrointestinal | 3 |
| Colon | 3 |
| Hepatobiliary and pancreatic | 4 |
| Pancreas | 1 |
| Liver | 1 |
| Gynecology | 6 |
| Cervix | 2 |
| Uterine body | 2 |
| Ovary | 2 |
| Urology | 4 |
| Kidney | 2 |
| Ureter | 1 |
| Others | 2 |
| Breast | 1 |
| Thyroid | 1 |
| Sarcoma | 2 |
| Olfactory neuroblastoma | 1 |
| Angiosarcoma | 1 |
| Total | 64 |

Table 2. Primary organs of cervical lymph node metastases of solid tumors

| | incisional | excisional | p-value |
|------------------------|------------|------------|---------|
| Total | 10 | 7 | |
| Gender | | | |
| Male | 7 | 5 | 0.95 |
| Female | 3 | 2 | |
| Age | 61 (35-76) | 60 (49-75) | 0.88 |
| Primary site | | | |
| Oropharynx | 5 | 3 | |
| CUP | 3 | 2 | |
| Nasopharynx | 1 | 0 | N/A |
| Maxilla | 0 | 1 | |
| Hypopharynx | 1 | 0 | |
| Larynx | 0 | 1 | |
| Anesthesia | | | <0.01 |
| General | 1 | 5 | |
| Local | 9 | 2 | |
| Previous treatment | | | 0.22 |
| Yes | 0 | 1 | |
| No | 10 | 6 | |
| T stage | | | 0.22 |
| T0-T2 | 10 | 6 | |
| T3-T4 | 0 | 1 | |
| N stage | | | 0.11 |
| N1-N2a | 2 | 4 | |
| N2b-N3 | 8 | 3 | |
| M stage | | | 0.89 |
| M0 | 9 | 7 | |
| M1 | 1 | 0 | |
| p16 IHC staining | | | 0.78 |
| positive | 6 | 2 | |
| negative | 2 | 1 | |
| N/A | 2 | 2 | |
| Treatment after biopsy | | | 0.79 |
| Neck dissection | 7 | 2 | |
| Radiation | 9 | 8 | |
| Chemotherapy | 9 | 6 | |

Table 4. Relationship between mode of biopsy, clinical covariates, p16 status, and post-treatments of 17 patients with head and neck squamous cell carcinoma

Contact

Shogo Shinohara M.D., Ph.D.
Department of Head and Neck Surgery,
Kobe City Medical Center General Hospital
Email: shinohara@kcho.jp
trynnawshinoh@gmail.com



VI. 9 下咽頭 Basaloid squamous cell carcinoma に対し、下咽頭部分切除を行った一症例

中央市民病院 頭頸部外科 水野敬介

Basaloid squamous cell carcinoma(BSCC) は、腺様嚢胞癌に類似する基底細胞様部分と通常の扁平上皮癌の部分からなる2形態が混在した組織像を有する、比較的稀な腫瘍であり、頭頸部扁平上皮癌の2%程度である。扁平上皮がん(SCC)に比べてT1症例が少なく、リンパ節転移、遠隔転移を有している可能性が高いとされ、従来SCCに比べて非常に予後不良であると考えられてきた。進行例も多く、手術、術後科学放射線療法が選択されることが多かった組織型である。しかし、近年のStage, 治療方法, 原発部位を揃えたcase control studyにおいて、BSCCの予後は必ずしもSCCに比べて不良ではなく、原発部位に依存していることが明らかとなった。そこで、各種論文を調べ、SCCと比べた時のBSCCの特徴について考察し、今回T1のBSCCに対して、喉頭温存下咽頭部分切除、選択的頸部郭清、術後放射線療法といった治療選択をしたが、それが妥当であったのかどうか検討した。BSCCについての英文論文を中心に和文論文も検索。WHOの規約とも照合し、BSCCとSCCを比べたときの特徴について考察した。特徴の考察項目としては、原発部位、リンパ節転移、遠隔転移の頻度、予後を中心とした。SEER date baseを用いて、頭頸部癌においてBSCC 1083例とSCC 66929例を調べた論文からは、BSCCはSCCと比べて中咽頭に明らかに多く発生し、口腔、喉頭への発生は少ないこと、かねてから指摘されていたように、T1,Stage IはBSCCで有意に少なく、リンパ節転移と遠隔転移が多いことを確認した。また、原発巣毎にDSSを描いたものを参照すると、喉頭癌では従来考えられてきたようにBSCCは予後が悪い結果となっていたが、口腔癌、下咽頭癌ではDSSに有意差はなく、中咽頭癌ではBSCCの方が予後は良いという結果が報告されていた。今回の症例はStage I, p16(+)の症例であり、放射線単独での治療を考慮されたが、早期下咽頭BSCCの報告が非常にまれであり、現時点で治療法が定まっていないことから、今回は喉頭を温存した下咽頭部分切除+術後放射線療法を選択。今後、同様の症例を担当する場合には、術後放射線療法を行わなくても良い可能性もあることが示唆された。以上の内容を第42回頭頸部癌学会で発表した。BSCCは稀な腫瘍であり、聴衆からの質問も多く活発な意見を交わすことができた。経口的切除もひとつの

選択肢ではないかとの指摘もあり、今後同様なBSCCの症例に遭遇した時の判断材料のひとつとしたい。

VI. 10 甲状腺分化癌に対する外照射の治療効果の 検討

中央市民病院 放射線治療科 小坂恭弘, 小久保雅樹
頭頸部外科 篠原尚吾, 菊地正弘, 竹林慎治,
道田哲彦

【目的】

甲状腺分化癌は外照射に抵抗性とされる。外照射は、甲状腺腫瘍ガイドラインでは、「手術や放射性ヨード内用療法の非適応例や、これらの治療後の追加治療として行われる」といった記載にとどまる。最近では、手術や内用療法の非適応例でレンバチニブが使用可能となり、実際使用されることが増加している。こういった状況のため、実臨床で外照射を依頼されても、その適応についての判断に難渋することがある。今回、外照射の適応となる病態を探索すべく、外照射による治療効果に関して検討を行った。

【方法】

対象は2011年7月から2017年11月に当院で外照射を行った甲状腺分化癌(未分化転化したものを除く)で、画像上腫瘍が同定可能な12例とした。照射部位数は28部位。性別で分けると男性4例11部位、女性8例17部位であり、全例照射時に45歳以上であった。組織型は乳頭癌7例13部位、濾胞癌4例13部位、低分化癌1例2部位であった。照射部位は全例転移巣であり、骨、リンパ節、脳、肺がそれぞれ6例15部位、4例5部位、3例5部位、3例3部位であった。根治照射はルビエールリンパ節転移に対して照射を行った1例のみであり、残りは姑息照射であった。線量分割は1回線量が2-10Gy(中央値3Gy)、総線量が8-70Gy(中央値39Gy)であった。

【結果】

部位毎の観察期間は0.8-66.3か月(中央値12.6か月)。照射後に131I内服治療を行ったのが2例5部位、レンバチニブ治療を行ったのが1例3部位存在した。照射による腫瘍縮小効果はRECISTに準じるとPR10部位、SD14部位であり、1部位は一旦PDとなるもその後縮小に転じるいわゆるpseudoprogressionであった。残り3部位は照射後に画像評価されず腫瘍縮小効果は不明であるが、うち2部位では明らかな疼痛緩和

効果が得られた。症状改善は、照射前に症状のあった12部位中8部位でえられた。131I内用療法や分子標的薬で制御困難であったり、使用が躊躇される転移巣（骨転移、脳転移）や症状（血痰）のある症例でも外照射は可能であった。最終観察日までに照射部位が再増悪したと判定されたのは3例6部位であり、大部分は縮小ないしは維持していた。

【結論】

甲状腺分化癌は外照射では腫瘍縮小にいたる割合は少ないものの、中には著効する症例もあり、かつ腫瘍縮小とはいかないまでも維持する割合は高い。また症状改善に至る症例が多く、一定の効果があると考えられた。

VI. 11 Definitive radiation therapy for patients aged ≥ 80 years with head and neck squamous cell carcinoma

Kosaka Y, Kokubo M, Imagumbai T, Ogura K, Hattori T, Hiraoka S, Shinohara S, Takebayashi S
Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

Aims/Objectives:

The number of elderly patients suffered from malignancy including head and neck squamous cell carcinoma (HNSCC) is increasing. Average life expectancy for Japan is somewhat long, so a certain type of elderly patients has a potential to get benefit from treatment of cancer. The objective of this study is to examine the feasibility of radiation therapy for patients aged ≥ 80 years with HNSCC.

Materials/Methods:

From June 2006 to July 2017, 47 patients aged ≥ 80 years with HNSCC were treated by definitive radiation therapy with or without concurrent chemotherapy. The median age was 83 years with a range between 80 and 95. Thirty two patients were male and 15 were female. The grade of performance status was 0-1, 2, and 3 in 42, 4, and 1 patient, respectively. There were no patients with performance status 4. The score of Charlson comorbidity index was 0, 1-2 and ≥ 3 in 22, 18 and 7 patients, respectively. The primary sites of HNSCC were larynx (n = 18), oral cavity (n = 12), hypopharynx (n = 8), oropharynx (n = 4), nasopharynx (n = 3), and others (n = 2). Usual

prophylactic irradiation fields were used for 14 patients, although irradiation fields limited to clinically involved sites were used for 33 patients because of advanced age, comorbidities, and/or early stage laryngeal cancer. The majority was treated with conventional radiation technique, although IMRT technique was used for 5 patients. Conventional fractionation was used for 39 patients and altered fractionation was used for 8 patients. Concurrent chemotherapy was used for 8 patients. Data for outcomes were collected and analyzed retrospectively. Toxicities were evaluated according to CTCAE v4.0.

Results:

Thirty nine patients completed the planned therapy without interruptions, and 2 patients did with brief interruptions because of severe back pain or subarachnoid hemorrhage, respectively, but the other six patients could not because of pneumonia (n = 2), disease progression (n = 2), and severe mucositis (n = 1). Median prescribed radiation dose was 66 Gy. There was no treatment-related death. Grade 3 hematological toxicities, dermatitis, mucositis, aspiration, and cognitive impairment occurred in 4, 2, 9, 1, and 2 patients, respectively. Grade 4 acute adverse effects were not observed except for neutropenia and aspiration with 1 patient each. Grade 3 and 4 acute adverse effects were significantly observed in patients treated by concurrent chemotherapy (P=0.0086) and by prophylactic irradiation fields (P=0.036). Median duration of observation was 31.0 months with a range between 2.6 months and 97.7 months. The 2-year overall survival and cause-specific survival were 71.0% and 79.9%, respectively. At the final follow-up evaluation, 14 patients continued to be disease-free, 5 patients had no evidence of disease after salvage surgery, 5 patients were alive with disease, 9 patients died of disease, 13 patients died of another disease, and 1 patient died of old age. Age was not a significant prognostic factor for survival in this age group.

Conclusion:

Although elderly patients sometimes discontinue the planned therapy, it seems that definitive radiation therapy with or without chemotherapy for patients aged ≥ 80 years with HNSCC is feasible.

VI. 12 気管挿管を要する悪性気道閉塞に対する放射線治療の有用性

中央市民病院 放射線治療科 平岡伸也

気道狭窄による呼吸困難を契機に肺癌と診断され、気管内挿管及び人工呼吸器管理を必要とした3例に放射線治療を施行した。年齢は67-84歳、性別は男2、女1、組織型は全て扁平上皮癌であり、全例縦隔リンパ節転移に伴う気管閉塞を合併していた。3例とも遠隔転移は認めなかった。直ちにICUへ緊急入院となり、気管内挿管施行後に人工呼吸器を装着した。入院後1-7日後に緊急照射を開始した。線量処方 $20-25\text{ Gy}/5\text{ fr.}$ にて、気道狭窄部を中心とする照射野を設定した。

3例中1例は治療中に全身状態が悪化し照射期間中に亡くなった。2例は治療を完遂し、治療開始後1-2週間で腫瘍の縮小を認め抜管に至り退院となった。

気道閉塞を伴う悪性腫瘍に対し放射線治療は選択肢となる。しかしながら他科、多職種の協力が必要不可欠であり、治療自体に危険を伴うことから放射線治療適応外となる病院が大多数と考えられる。実際に人工呼吸器管理下での放射線治療に関する報告数は少なく、確固たるエビデンスも存在していない。Alexanderらの報告によると抜管達成率は27%、自宅退院達成率は23%であった。²⁾この報告は肺癌に加え悪性リンパ腫等の他疾患を含めた26症例での検討であった。一方本報告では症例数が少ないながらも、肺癌のみで抜管達成率及び自宅退院達成率が共に67%と良好な成績を認めた。死亡症例では挿管から放射線治療開始まで4日を要したが、抜管及び退院を達成した症例は挿管当日に放射線治療を開始している。従って可能な限り早期に放射線治療を開始する方が良好な結果が得られる可能性が示唆された。また放射線治療による人工呼吸器の故障が懸念されたが、特に異常を認めなかった。

腫瘍による気管支閉塞のため人工呼吸器管理を余儀なくされた肺癌患者に対して緊急照射を行うことで、人工呼吸器の離脱や社会復帰を達成しうる。

VI. 13 日本人進行再発乳癌患者におけるエベロリムス薬物動態解析

中央市民病院 薬剤部 平島正樹

【目的】

エベロリムスは進行再発乳癌治療におけるキードラッグのうちの一つである。しかし乳癌患者における

エベロリムスの使用は、臓器移植時に比べ、口内炎や間質性肺炎などの副作用発現頻度が高いことが知られている。

エベロリムスが結節性硬化症に伴う上衣下巨細胞性星細胞腫 (SEGA) で使用される場合、その投与量は推奨される血中トラフ濃度 (5-15ng/mL) をもとに調節される。しかし乳がん患者におけるエベロリムスの薬物動態 (PK) に関する情報は限られている。

我々はエベロリムスのPKと副作用の関係について報告してきた (図1)。今回、エベロリムスのPKと治療効果の関係について新たな知見を得たので報告する。

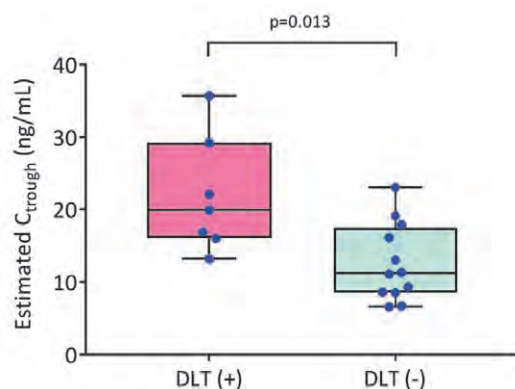


図1. 推定トラフ濃度と治療忍容性

【方法】

神戸市立医療センター中央市民病院で2015年11月から2017年8月にエベロリムスが投与され、同意が得られた16名を対象とした。エベロリムス服用前と、服用1,4,8時間後の全血2mLを採取した。エベロリムスは1日1回10mgの服用とし、エベロリムスに関連すると思われる副作用が発現した場合に減量可能とした。初回の減量は1日1回5mgとし、2回目の減量は5mgの隔日もしくは1日1回2.5mg服用とした。

エベロリムス血中濃度は validated latex-enhanced turbidimetric immunoassay により測定した。PKパラメーターの推定は、ベイジアン法を用いた MW/Pharm (Mediware) を用いて行った。

【結果】

患者の背景を表1に示す。エベロリムスの開始用量は10mgが10名、5mgが6名であった。10mg開始の患者のうち4名に、また5mg開始のうち4名に減量が必要であった。

表 1. 患者背景

| | | |
|--|------------------------|------------------|
| Age, years | Median (range) | 66 (42-85) |
| Body weight, kg | Median (range) | 52.9 (39.0-67.8) |
| Number of metastatic sites, n (%) | 1 | 8 (50.0) |
| | 2 | 4 (25.0) |
| | ≥3 | 4 (25.0) |
| ECOG performance status, n (%) | 0 | 16 (100) |
| Number of previous chemotherapy lines in advanced setting, n (%) | 1 | 2 (12.5) |
| | 2 | 3 (18.8) |
| | 3 | 5 (31.3) |
| | ≥4 | 6 (37.5) |
| Everolimus initial dose, n (%) | 10mg/day | 10 (62.5) |
| | 5mg/day | 6 (37.5) |
| Everolimus dose at PK study, n (%) | 10mg/day | 6 (37.5) |
| | 5mg/day | 6 (37.5) |
| | 5mg/2days or 2.5mg/day | 4 (25.0) |

推定したPKパラメーターを表2に示す。クリアランスやトラフ濃度の最小値と最大値は3倍から5倍の差が見られた。

表 2. 推定 PK パラメーター

| Bayesian estimated PK parameters | | Bayesian estimated parameters at PK study | | |
|----------------------------------|--------------|---|-------------------------------|-------------------------------|
| CL (L/h) | V1 (L) | C _{trough} (ng/mL) | AUC ₀₋₂₄ (ng·h/mL) | AUC ₀₋₄₈ (ng·h/mL) |
| 8.9 | 75.2 | 12.1 | 617 | 740 |
| (4.4-16.2) | (39.0-125.5) | (6.6-33.8) | (348-1441) | (622-1132) |

評価可能であった患者14名における増悪生存期間(PFS)のKaplan-Meier曲線を図2に示す。PFSの中央値は13.0ヶ月であった。

PFSが8.5ヶ月以上の患者とそれ未満の患者のエベロリムストラフ濃度を図3に示す。両群において有意な差は認められなかった。

【考察】

今回の調査では半数の患者においてエベロリムス投与量の減量が必要であった。しかし、ホルモン受容体陽性乳癌患者を対象としたエベロリムス+エキセメスタン併用療法の有用性を検討した国際第Ⅲ相試験(BOLERO-2)の日本人サブグループ解析のPFS中央値が8.5ヶ月であったことを考えると、良好なPFSであったと考えられた。

またPFSが8.5ヶ月以上の患者とそれより短い患者において、エベロリムスのトラフ濃度に違いが認められなかったことから、トラフ濃度が6.6ng/mL以上あ

れば、血中濃度の上昇はPFSの延長に影響しない可能性が示唆された。

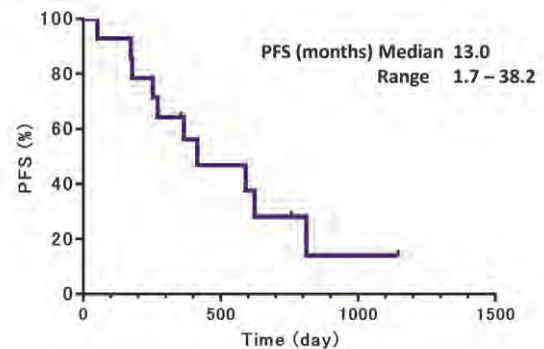


図 2. 増悪生存期間のKaplan-Meier 曲線

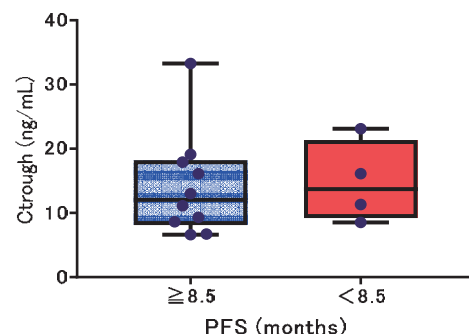


図 3. PFS 8.5 ヶ月以上と未満の患者の推定トラフ濃度

日本臨床腫瘍学会 2018 (神戸) にて発表

VI. 14 SPECT/CT 画像による去勢抵抗性前立腺がんにおける骨転移の治療効果判定

中央市民病院 放射線技術部 清水敬二

【背景】

近年、前立腺癌の治療シーケンスにおいて、アピラテロン、エンザルタミドなどの去勢抵抗性前立腺癌(Castration resistant prostate cancer; CRPC)に対する新規アンドロゲン(Androgen Receptor; AR)標的薬、カバジタキセル、骨転移のあるCRPCに対する塩化ラジウム(Ra-223)注射液(商品名: Xofigo)などが使用可能となった。最近承認されたXofigoは海外第Ⅲ相臨床試験(ALSYMPCA Study)で骨転移のあるCRPC例において、全生存期間を延長することが報告されている。国内におけるRa-223の臨床効果は、55 kBq/kgを4週間隔で6回投与することで得られている。

このことから、骨転移の確認後、可能な限り早期から6回投与の機会を喪失することなく投与することが望まれているが、その為には骨シンチグラフィにおけ

的確な骨転移のモニタリングが必須である。また長期にわたる前立腺癌の治療では、その中止時期も課題の一つである。進行性前立腺癌国際コンセンサス会議で発表された泌尿器科医師を対象としたアンケートでは、CRPC例における治療の中止時期について、1) PSAの上昇、2) 画像検査上での進展、3) 症状の進展、4) 1～3のうち2項目に該当した時、5) 1～3の全項目に該当した時、のうち8割以上の医師が4)の2項目に該当したときと回答しており、中止時期についても画像検査による評価が参考にされている。また、近年ではSPECT装置にCT装置が付随した、SPECT/CT装置が開発され、当院でも導入されている。この装置では、CT画像による吸収補正画像が取得でき、SPECT画像の集積度合いを定量的に評価することが可能となった。

【目的】

去勢抵抗性前立腺癌においてRa-223内用療法を投与した場合の治療効果予測と予後予測について検討する。

【対象】

当院において、骨転移を有し、Ra-223内用療法を行ったCRPC患者16名(70±9歳)を対象とした。

【方法】

予後予測因子として、Ra-223による内用療法を行う前に、Tc-99m(MDP)による全身骨シンチ検査を行い、得られた骨シンチ画像を自動定量解析ソフトにてBone Scan Index(BSI)を算出し、画像の視覚的スコアとしてExtent of disease(EOD) grading scaleも算出。また採血データとして、prostate-specific antigen(PSA)とalkaline phosphatase(ALP)との関係を調べた。その他に、化学療法(ドセタキセル、カバジタキセル)、骨修飾薬(ランマーク、ゾメタ)、アンドロゲン受容体シグナル阻害薬(アピラテロン、エンザルタミド)による治療歴も調べ、これらの因子について多変量解析を用いてRa-223内用療法開始後の全生存予測因子を検討した。

【結果】

観察期間は1から3年、16例中、死亡例は5例(31.2%)、Ra-223投与後BSIは6例(37.5%)、PSAは3例(18.5%)、ALPは8例(50%)、値が下がった。

単変量、多変量解析の結果、統計的にRa-223内用療法の治療効果に影響を与える因子は見られなかった

が、骨転移が早期であれば、Ra-223による治療効果が期待できる印象がある。

【考察】

今回、症例を16例としたが、もう少し症例を増やしてデータを蓄積し、フォローアップ期間も長くなれば、統計的にも治療効果や予後予測に影響を及ぼす因子が見いだせそうである。

【結論】

CRPCと診断されRa-223内用療法を行った症例にたいして、投与開始前後のBSI,PSA,ALP等の関係から、治療効果予測や予後予測に使用できるか可能性を検討した。

上記の研究成果を第58回日本核医学会学術総会にて口述発表を行った。

VI. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(2) 松本アレルギー疾患研究事業

IV. 15 特発性好酸球増多症を伴い急性の経過で首下がり呈した抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎の症例

中央市民病院 総合内科 志水隼人

【発表学会】

第62回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2018.4.26-28

【はじめに】

抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎は2012年に提唱された新規の疾患単位で、慢性経過で傍脊柱筋を侵し筋萎縮に伴い前傾姿勢を呈することがある。前傾姿勢を呈した症例報告は3例あり、いずれも筋萎縮を伴っていた。我々は筋萎縮を伴わずに急性の経過で首下がりを呈した抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎の症例を経験した。

【症例】

60歳男性。糖尿病腎症で9年前から血液透析を受けている。2週間前の定期透析時に高CK血症(2,245 IU/L)と好酸球増多症(9,025/ μ L)を認め当科を紹介受診した。自覚症状はなく、筋力低下や心筋障害などの所見もなく経過観察とした。好酸球増多症の原因は同定できず特発性好酸球増多症と考えた。第21病日頃から全身倦怠感と後頭部痛を自覚し、首下がりが出現した。頸部MRIおよびPET-CTで頸部伸筋群の異常を認めたため、第42病日に左傍脊柱筋の生検を施行し、免疫介在性壊死性ミオパチーの組織所見を認めた。抗SRP抗体と抗HMGCR抗体は陰性、抗ミトコンドリア抗体陽性で、抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎と診断した。原発性胆汁性胆管炎を示唆する所見はなかった。プレドニゾロン60mg/日の治療により高CK血症と好酸球増多症は改善し、首下がりも見られなくなった。プレドニゾロンの漸減中止後も、症状の再燃は見られていない。

【考察】

抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎は、通常は慢性の経過で筋萎縮を伴う疾患である。他の特発性炎症性筋疾患では頸部伸筋群よりも屈筋群がより強く侵されるの

に対し、抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎では頸部伸筋群が有意に侵されるため首下がりや前傾姿勢を認めることがある。これまで抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎で首下がりや前傾姿勢を呈した症例報告は、いずれも慢性経過で筋萎縮を伴っていた。本症例は急性経過で筋萎縮を伴わずに首下がりを呈した稀な症例であり、急性経過の首下がりを呈する患者でも抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎の症状である可能性を考慮する必要があると考えられた。

IV. 16 生物学的製剤投与を受けた関節リウマチ患者でのRapid Turnover Proteinの検討

中央市民病院 総合内科 水野泰志

関節リウマチ(RA)患者では炎症性サイトカイン亢進や活動性の低下、薬剤による胃腸障害により栄養不良状態に陥るリスクが高いと報告されている。栄養評価のために血清タンパク質としてはアルブミン(ALB)が利用されることも多いが、集中治療領域やがん患者においてRapid Turnover Protein(RTP)の測定がより有効であると報告がいくつかある。生物学的製剤の導入が必要となるような活動性の高いRA患者でのRTPの検討はこれまで十分になされていない。このたび我々は生物学的製剤投与前のRA患者においてRTPを用いて生化学的に栄養評価をし、生物学的製剤投与後にRTPが改善するかを検討した。

症例は29例(男性10例、女性19例)、平均年齢60.7 \pm 17.4歳、平均罹病期間93 \pm 141.6ヶ月。MTX使用17例(平均投与量12.1 \pm 6.41mg/w)、PSL使用20例(平均投与量6.11 \pm 4.22mg/day)、BMI21.2 \pm 2.67。導入した生物学的製剤はABT6例、ADA1例、CZP5例、GLM1例、ETA2例、IFX3例、TCZ11例であった。

生物学的製剤投与前はALB3.54 \pm 0.48mg/dl、トランスサイレチン(TTR)19.7 \pm 5.45mg/dl、トランスフェリン(Tf)208.4 \pm 43.0mg/dl、レチノール結合蛋白(RBP)2.64 \pm 0.90mg/dlで基準値以下もしくは基準下限値付近を示した。またALBはCRPと負の相関を示した(ρ = -0.65)が、RTPではTTRが弱い負の相関を示すのみ(ρ = -0.39)で、TfとRBPは相関を示さなかった。生物学的製剤投与2-4週後にALBは(3.54 \pm 0.48 vs 3.74 \pm 0.49mg/dl, p < 0.05)と上昇し、TTR(19.7 \pm 5.45 vs

24.4 ± 6.06 mg/dl, $p < 0.05$), Tf (208.4 ± 43.0 vs 229.6 ± 42.2 mg/dl, $p < 0.05$), RBP (2.64 ± 0.90 vs 3.19 ± 1.17 mg/dl, $p < 0.05$) のいずれの RTP も有意に上昇した。

生物学的製剤投与後に平均値で ALB は 5.6%、TTR は 23.8%、Tf は 10.2%、RBP は 20.7% 増加した。また、ALB は 62.1%、TTR は 86.2%、RBP は 72.4%、Tf は 75.9% の患者で上昇がみられた。このように生物学的製剤投与により ALB と RTP はともに上昇したが、RTP 上昇の方が顕著であると思われた。RA 患者では投与前値が基準値内であっても潜在的な栄養不良リスクにあり、RA の治療介入により栄養状態も改善が得られる可能性が示唆された。また生物学的製剤投与前の CRP と RTP は有意な負の相関を示さず、CRP 上昇のない患者でも RTP は低値である可能性が示された。

**Ⅶ. 病 院 別 診 療 科 別
論文発表及び学会報告数**

Ⅶ. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

(2018.4.1～2019.3.31)

| | 中央市民病院 | 論文発表 | 学会報告 |
|----|--------------|------|-------|
| 1 | 循環器内科 | 43 | 104 |
| 2 | 糖尿病・内分泌内科 | 8 | 48 |
| 3 | 腎臓内科 | 0 | 16 |
| 4 | 脳神経内科 | 21 | 56 |
| 5 | 消化器内科 | 7 | 84 |
| 6 | 呼吸器内科 | 26 | 38 |
| 7 | 血液内科 | 22 | 44 |
| 8 | 腫瘍内科 | 12 | 26 |
| 9 | 緩和ケア内科 | 0 | 0 |
| 10 | 感染症科 | 8 | 22 |
| 11 | 精神・神経科 | 3 | 7 |
| 12 | 小児科・新生児科 | 18 | 39 |
| 13 | 皮膚科 | 2 | 13 |
| 14 | 外科・移植外科 | 8 | 60 |
| 15 | 乳腺外科 | 3 | 5 |
| 16 | 心臓血管外科 | 2 | 16 |
| 17 | 呼吸器外科 | 3 | 7 |
| 18 | 脳神経外科 | 32 | 108 |
| 19 | 整形外科 | 6 | 34 |
| 20 | 形成外科 | 0 | 2 |
| 21 | 産婦人科 | 8 | 37 |
| 22 | 泌尿器科 | 11 | 57 |
| 23 | 耳鼻咽喉科 | 15 | 39 |
| 24 | 頭頸部外科 | 7 | 23 |
| 25 | 麻酔科 | 25 | 36 |
| 26 | 歯科・歯科口腔外科 | 11 | 36 |
| 27 | 病理診断科 | 26 | 39 |
| 28 | 放射線診断科 | 3 | 11 |
| 29 | 放射線治療科 | 4 | 22 |
| 30 | 救急科 | 21 | 53 |
| 31 | 総合内科 | 10 | 39 |
| 32 | 看護部 | 1 | 50 |
| 33 | 薬剤部 | 29 | 88 |
| 34 | 臨床検査技術部 | 0 | 18 |
| 35 | 放射線技術部 | 4 | 21 |
| 36 | リハビリテーション技術部 | 8 | 31 |
| 37 | 臨床工学技術部 | 0 | 13 |
| 38 | 栄養管理部 | 2 | 3 |
| 39 | 臨床研究推進センター | 0 | 5 |
| | 合計数 | 409 | 1,350 |

| | 西市民病院 | 論文発表 | 学会報告 |
|--|---------------------|------|------|
| | 循環器内科 | 0 | 0 |
| | 糖尿病・内分泌内科 | 0 | 23 |
| | 腎臓内科 | 1 | 4 |
| | 脳神経内科 | 0 | 2 |
| | 消化器内科 | 4 | 4 |
| | 呼吸器内科 | 18 | 46 |
| | リウマチ・膠原病内科 | 0 | 1 |
| | 臨床腫瘍科 | 0 | 0 |
| | 精神・神経科 | 0 | 0 |
| | 小児科 | 2 | 11 |
| | 皮膚科 | 2 | 10 |
| | 外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科 | 4 | 19 |
| | 整形外科 | 2 | 12 |
| | リハビリテーション科 | 0 | 0 |
| | 産婦人科 | 0 | 0 |
| | 泌尿器科 | 2 | 6 |
| | 眼科 | 0 | 0 |
| | 耳鼻咽喉科 | 0 | 0 |
| | 麻酔科 | 0 | 0 |
| | 歯科口腔外科 | 1 | 7 |
| | 病理診断科 | 0 | 2 |
| | 放射線科 | 0 | 0 |
| | 救急総合診療部 | 0 | 0 |
| | 総合内科 | 1 | 6 |
| | 看護部 | 6 | 9 |
| | 薬剤部 | 1 | 17 |
| | 臨床検査技術部 | 0 | 11 |
| | 放射線技術部 | 0 | 4 |
| | リハビリテーション技術部 | 5 | 4 |
| | 臨床工学室 | 0 | 4 |
| | 栄養管理室 | 0 | 4 |
| | 合計数 | 49 | 206 |

※神戸市立病院紀要第58巻(令和元年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

| | 西神戸医療センター | 論文発表 | 学会報告 |
|----|--------------|------|------|
| 1 | 循環器内科 | 0 | 4 |
| 2 | 内分泌・糖尿内科 | 0 | 7 |
| 3 | 腎臓内科 | 0 | 5 |
| 4 | 脳神経内科 | 2 | 5 |
| 5 | 消化器内科 | 0 | 12 |
| 6 | 呼吸器内科 | 0 | 9 |
| 7 | 免疫血液内科 | 2 | 4 |
| 8 | 緩和ケア内科 | 0 | 2 |
| 9 | 精神・神経科 | 3 | 7 |
| 10 | 小児科 | 10 | 19 |
| 11 | 皮膚科 | 8 | 2 |
| 12 | 外科・消化器外科 | 0 | 23 |
| 13 | 乳腺外科 | 0 | 13 |
| 14 | 呼吸器外科 | 21 | 11 |
| 15 | 脳神経外科 | 5 | 20 |
| 16 | 整形外科 | 0 | 4 |
| 17 | 形成外科 | 0 | 11 |
| 18 | 産婦人科 | 0 | 13 |
| 19 | 泌尿器科 | 4 | 26 |
| 20 | 眼科 | 0 | 5 |
| 21 | 耳鼻いんこう科 | 3 | 16 |
| 22 | リハビリテーション科 | 0 | 0 |
| 23 | 麻酔科 | 0 | 0 |
| 24 | 歯科口腔外科 | 0 | 6 |
| 25 | 病理診断科 | 5 | 0 |
| 26 | 放射線診断科 | 0 | 4 |
| 27 | 放射線治療科 | 0 | 0 |
| 28 | 看護部 | 0 | 8 |
| 29 | 薬剤部 | 0 | 8 |
| 30 | 臨床検査技術部 | 6 | 11 |
| 31 | 放射線技術部 | 0 | 3 |
| 32 | リハビリテーション技術部 | 6 | 9 |
| 33 | 臨床工学室 | 2 | 12 |
| 34 | 栄養管理室 | 0 | 3 |
| 35 | 感染防止対策室 | 0 | 1 |
| | 合計数 | 77 | 283 |

| 神戸アイセンター病院 | 論文発表 | 学会報告 |
|------------|------|------|
| 診療部 | 16 | 78 |
| 看護部 | 0 | 0 |
| 薬剤部 | 0 | 0 |
| 視能訓練士室 | 0 | 0 |
| 栄養管理科 | 0 | 0 |
| | 合計数 | 16 |
| | | 78 |

※神戸市立病院紀要第58巻(令和元年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

VIII. 論 文 発 表

Ⅷ. 論文発表

Ⅷ. 1 中央市民病院

Ⅷ. 1. 1 循環器内科

1. 北井 豪：【プレジジョンメディシンの現状と未来】コンピューターの進化とヘルスケアシステムへの応用. *The Lipid* 29：197-202, 2018
2. 北井 豪：【循環器診療のギモン、百戦錬磨のエキスパートが教えます！病棟でのエビデンスに基づいた診断・治療・管理】（第1章）ER・急性期病棟におけるギモン 診断編 ERにおける心エコーの minimum essential を教えてください. *レジデントノート* 20：670-676, 2018
3. 古川 裕：循環器領域の新しい診断・治療デバイス. *兵庫県医師会医学雑誌* 60：41-44, 2018
4. 北井 豪：【評価に難渋！心エコーで考える次のアクション】重症 TR 薬物治療か、手術かを分けるものは何？心エコー 19：790-797, 2018
5. 古川 裕：【何を見るべき？どうすべき？に自信がもてる！循環器の薬と薬物療法の鉄則】（II章）循環器疾患薬物療法の鉄則 慢性心不全 処方決定の実際. *調剤と情報* 24：2005-2008, 2018
6. 古川 裕：【何を見るべき？どうすべき？に自信がもてる！循環器の薬と薬物療法の鉄則】（II章）循環器疾患薬物療法の鉄則 慢性心不全 病態と治療. *調剤と情報* 24：1990-1996, 2018
7. 辻坂勇太, 北井 豪：【クリティカル・ケアを極めるー一歩進んだ総合内科医を目指して】内科クリティカル・ケア 知っておくべき知識・技術をまとめる 重症にはこれを武器に立ち向かう モニタリング. *Medicina* 55：1628-1631, 2018
8. 太田光彦：三尖弁輪縫縮術後に急速に進行した三尖弁狭窄の1例. *心エコー* 19：1137-1141, 2018
9. 河野裕之, 北井 豪：【弁膜症治療に活かす心エコー】三尖弁逆流の治療方針と治療. *心エコー* 19：1106-1113, 2018
10. 古川 裕：【急性冠症候群ー病態・診断・治療の最新知見ー】急性冠症候群の診断 問診と身体所見. *日本臨床* 76：2115-2120, 2018
11. 辻坂勇太, 加地修一郎：【治療方針の決定と治療に活かす心エコー】大動脈疾患の治療方針と治療. *心エコー* 19：1184-1191, 2018
12. 河野裕之, 北井 豪：【心不全】（Part 3）ICU, 病棟での心不全管理（Case 6）Wet and Cold をどう脱するか？ Nohria-Stevenson の分類での評価と治療のポイント. *Hospitalist* 6：975-984, 2018
13. 河野裕之, 加地修一郎：【弁膜症治療はこう変わる！心エコーの読み方から手術適応の見極めまで】識る Marfan 症候群と大動脈二尖弁における大動脈拡大の共通点と相違点. *Heart View* 23：62-67, 2019
14. 辻坂勇太, 北井 豪：【弁膜症治療はこう変わる！心エコーの読み方から手術適応の見極めまで】治す 連合弁膜症の手術適応. *Heart View* 23：91-97, 2019
15. 舛本慧子, 加地修一郎：【動脈・静脈疾患 動脈・静脈疾患の最近の進歩】実地医家が知っておくべき最新の知見 腹部大動脈瘤の内科的管理、手術適応. *Medical Practice* 36：387-391, 2019
16. Krittanawong C, Tunhasiriwet A, Wang Z, Zhang H, Prokop LJ, Chirapongsathorn S, Sun T, Kitai T, Tang WHW: Meta-Analysis Comparing Frequency of Overweight Versus Normal Weight in Patients With New-Onset Heart Failure. *Am J Cardiol.* 121: 836-843, 2018
17. Yamaguchi T, Kitai T, Miyamoto T, Kagiya N, Okumura T, Kida K, Oishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Yamaguchi J, Iwai T, Hijikata S, Masuda R, Miyazaki R, Hara N, Nagata Y, Nozato T, Matsue Y: Effect of Optimizing Guideline-Directed Medical Therapy Before Discharge on Mortality and Heart Failure Readmission in Patients Hospitalized with Heart Failure with Reduced Ejection Fraction. *Am J Cardiol.* 121: 969-974, 2018
18. Natsuaki M, Morimoto T, Yamaji K, Watanabe H, Yoshikawa Y, Shiomi H, Nakagawa Y, Furukawa Y, Kadota K, Ando K, Akasaka T, Hanaoka KI, Kozuma K, Tanabe K, Morino Y, Muramatsu T, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort 2, RESET, and NEXT trial investigators: Prediction of Thrombotic and Bleeding Events After Percutaneous Coronary Intervention: CREDO-Kyoto Thrombotic and Bleeding Risk Scores. *J Am Heart Assoc.* 7: pii: e008708, 2018

19. Taniguchi T, Morimoto T, Shiomi H, Ando K, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Kato T, Ishii K, Nagao K, Nakagawa Y, Toyofuku M, Saito N, Minatoya K, Kimura T; CURRENT AS Registry Investigators: Sudden Death in Patients With Severe Aortic Stenosis: Observations From the CURRENT AS Registry. *J Am Heart Assoc.* 7: pii: e008397, 2018
20. Toyota T, Morimoto T, Shiomi H, Yamaji K, Ando K, Ono K, Shizuta S, Saito N, Kato T, Kaji S, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Horie M, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2 Investigators: Single-session versus staged procedures for elective multivessel percutaneous coronary intervention. *Heart.* 104: 936-944, 2018
21. Nakatsuma K, Shiomi H, Morimoto T, Watanabe H, Nakagawa Y, Furukawa Y, Kadota K, Ando K, Ono K, Shizuta S, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2 investigators: Influence of a History of Cancer on Long-Term Cardiovascular Outcomes after Coronary Stent Implantation (an Observation from Coronary Revascularization Demonstrating Outcome Study-Kyoto Registry Cohort-2) . *Eur Heart J Qual Care Clin Outcomes.* 4: 200-207, 2018
22. Nakao YM, Miyamoto Y, Higashi M, Noguchi T, Ohishi M, Kubota I, Tsutsui H, Kawasaki T, Furukawa Y, Yoshimura M, Morita H, Nishimura K, Kada A, Goto Y, Okamura T, Tei C, Tomoike H, Naito H, Yasuda S: Sex differences in impact of coronary artery calcification to predict coronary artery disease. *Heart.* 104: 1118-1124, 2018
23. Minamino-Muta E, Kato T, Morimoto T, Taniguchi T, Nakatsuma K, Kimura Y, Inoko M, Shirai S, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Miyake M, Izumi C, Mitsuoka H, Hirano Y, Sasa T, Nagao K, Inada T, Nishikawa R, Takeuchi Y, Yamagami S, Yamane K, Su K, Komasa A, Ishii K, Yamashita Y, Kato Y, Takabayashi K, Saito N, Minatoya K, Kimura Y; CURRENT AS Registry Investigators: Malignant disease as a comorbidity in patients with severe aortic stenosis clinical presentation, outcomes, and management. *Eur Heart J Qual Care Clin Outcomes.* 4: 180-188, 2018
24. Kitai T, Matsue Y: Finding a Balance Between Quality and Quantity of Data in Acute Heart Failure. *JACC Heart Fail.* 6: 615-616, 2018
25. Kanamori N, Taniguchi T, Morimoto T, Shiomi H, Ando K, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Miyake M, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y, Matsuda S, Nagao K, Inada T, Mabuchi H, Takeuchi Y, Yamane K, Toyofuku M, Ishii M, Minamino-Muta E, Kato T, Inoko M, Ikeda T, Komasa A, Ishii K, Hotta K, Higashitani N, Kato Y, Inuzuka Y, Maeda C, Jinnai T, Morikami Y, Saito N, Minatoya K, Aoyama T, Kimura T; CURRENT AS registry Investigators: Asymptomatic versus Symptomatic Patients with Severe Aortic Stenosis. *Sci Rep.* 8: 10080, 2018
26. Kitai T, Tang WHW, Xanthopoulos A, Murai R, Yamane T, Kim K, Oishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Kida K, Okumura T, Kaji S, Furukawa Y, Matsue Y: Impact of early treatment with intravenous and blood pressure reduction in acute heart failure. *Open Heart.* 5: e000845, 2018
27. Sonoda K, Ohno S, Ozawa J, Hayano M, Hattori T, Kobori A, Yahata M, Aburadani I, Watanabe S, Matsumoto Y, Makiyama T, Horie M: Copy number variations of SCN5A in Brugada syndrome. *Heart Rhythm.* 15: 1179-1188, 2018
28. Watanabe H, Ozasa N, Morimoto T, Shiomi H, Bingyuan B, Suwa S, Nakagawa Y, Izumi C, Kadota K, Ikeguchi S, Hibi K, Furukawa Y, Kaji S, Suzuki T, Akao M, Inada T, Hayashi Y, Nanasato M, Okutsu M, Kametani R, Sone T, Sugimura Y, Kawai K, Abe M, Kaneko H, Nakamura S, Kimura T; CAPITAL-RCT investigators: Long-term use of carvedilol in patients with ST-segment elevation myocardial infarction treated with primary percutaneous coronary intervention. *PLoS One.* 13: e0199347, 2018
29. Watanabe H, Morimoto T, Shiomi H, Yamaji K, Shizuta S, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Sakata R, Hanyu M, Nishiwaki N, Komiya T, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG registry cohort-2 investigators: Documented coronary atherothrombosis as the cause of death in post-discharge patients after coronary revascularization. *Cardiovasc Revasc Med.* 19: 597-606, 2018
30. Watanabe H, Morimoto T, Shiomi H, Kawaji T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Kimura T; CREDO-Kyoto AMI investigators: Chronic total occlusion in non-infarct-related artery is associated with increased short-and long-term mortality in patients with ST-segment elevation acute myocardial infarction complicated by cardiogenic shock (from the CREDO-Kyoto AMI registry) . *Catheter Cardiovasc Interv.* 92: 455-463, 2018
31. Miyake M, Izumi C, Taniguchi T, Morimoto T, Amano M, Nishimura S, Kitai T, Kato T, Kadota K, Ando K, Furukawa Y, Inada T, Inoko M, Ishii K, Sakaguchi G, Yamazaki F, Koyama T, Komiya T, Yamanaka K, Nishiwaki N, Kanemitsu N, Saga T, Ogawa T, Nakayama S, Tsuneyoshi H, Iwakura A, Shiraga K, Hanyu M, Ohno N, Fukumoto A, Yamada T, Nishizawa J, Esaki J, Minatoya K, Nakagawa Y, Kimura T; CURRENT AS Registry Investigators: Early Surgery vs. Surgery After Watchful Waiting for Asymptomatic Severe Aortic Stenosis. *Circ J.* 82: 2663-2671, 2018

32. Shiraishi Y, Kohsaka S, Sato N, Takano T, Kitai T, Yoshikawa T, Matue Y: 9-Year Trend in the Management of Acute Heart Failure in Japan: A Report From the National Consortium of Acute Heart Failure Registries. *J Am Heart Assoc.* 7: e008687, 2018
33. Yaku H, Ozasa N, Morimoto T, Inuzuka Y, Tamaki Y, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Taniguchi R, Iguchi M, Kato M, Takahashi M, Jinnai T, Ikeda T, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Su K, Kawato M, Sasaki K, Toyofuku M, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Shizuta S, Ono K, Sato Y, Kuwahara K, Kato T, Kimura T; KCHF Study Investigators: Demographics management. And In-Hospital Outcome of Hospitalized Acute Heart Failure Syndrome Patients in Contemporary Real Clinical Practice in Japan-Observations From Prospective, Multicenter Kyoto Congestive Heart Failure (KCHF) Registry. *Circ J.* 82: 2811-2819, 2018
34. Kawaji T, Shiomi H, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Mizoguchi T, Abe M, Takahashi M, Kimura T; CREDO-Kyoto AMI investigators: Long-term clinical outcomes in patients with ST-segment elevation acute myocardial infarction complicated by cardiogenic shock due to acute pump failure. *Eur Heart J Acute Cardiovasc Care.* 7: 743-754, 2018
35. Kondo T, Okumura T, Matsue Y, Shiraishi A, Kagiya N, Yamaguchi T, Kuroda S, Kida K, Mizuno A, Oishi S, Inuzuka Y, Akiyama E, Matsukawa R, Kato K, Suzuki S, Naruke T, Yoshioka K, Miyoshi T, Baba Y, Yamamoto M, Murai K, Mizutani K, Yoshida K, Kitai T, Murohara T: Specialty-Related Differences in the Acute-Phase Treatment and Prognosis in Patients With Acute Heart Failure -Insights From REALITY-AHF. *Circ J.* 83: 174-181, 2018
36. Watanabe H, Morimoto T, Shiomi H, Yoshikawa Y, Kato T, Saito N, Shizuta S, Ono K, Yamaji K, Ando K, Kaji S, Furukawa Y, Akao M, Ishikawa T, Tamura T, Yamamoto Y, Muramatsu T, Suwa S, Nakagawa Y, Kadota K, Takatsu Y, Nishikawa H, Hiasa Y, Hayashi Y, Miyazaki S, Kimura T: Mortality impact of post-discharge myocardial infarction size after percutaneous coronary intervention: a patient-level pooled analysis from the 4 large-scale Japanese studies. *Cardiovasc Interv Ther.* 34: 47-58, 2019
37. Kuroda S, Damman K, Ter Maaten JM, Voors AA, Okumura T, Kida K, Oishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Kitai T, Yoshida K, Matsumura A, Matue Y: Very Early Diuretic Response After Admission for Acute Heart Failure. *J Card Fail.* 25: 12-19, 2019
38. Matsumura-Nakano Y, Shizuta S, Komasa A, Morimoto T, Masuda H, Shiomi H, Goto K, Nakai K, Ogawa H, Kobori A, Kono Y, Kaitani K, Suwa S, Aoyama T, Takahashi M, Sasaki Y, Onishi Y, Mano T, Matsuda M, Motooka M, Tomita H, Inoko M, Wakeyama T, Hagiwara N, Tanabe K, Akao M, Miyauchi K, Yajima J, Hanaoka K, Morino Y, Ando K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Nakao K, Kozuma K, Kadota K, Kimura K, Kawai K, Ueno T, Okumura K, Kimura T; OAC-ALONE Study Investigators: Open-Label Randomized Trial Comparing Oral Anticoagulation With and Without Single Antiplatelet Therapy in Patients With Atrial Fibrillation and Stable Coronary Artery Disease Beyond 1 Year After Coronary Stent Implantation. *Circulation.* 139: 604-616, 2019
39. Kaji S: Acute medical management of aortic dissection. *Gen Thorac Cardiovasc Surg.* 67: 203-207, 2019
40. Nagao K, Taniguchi T, Morimoto T, Shiomi H, Ando K, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Miyake M, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y, Matsuda S, Inada T, Murakami T, Takeuchi Y, Yamane K, Toyofuku M, Ishii M, Minamino-Muta E, Kato T, Inoko M, Ikeda T, Komasa A, Ishii K, Hotta K, Higashitani N, Kato Y, Inuzuka Y, Maeda C, Jinnai T, Morikami Y, Saito N, Minatoya K, Kimura T; CURRENT AS Registry Investigators: Anemia in Patients with Severe Aortic Stenosis. *Sci Rep.* 9: 1924, 2019
41. Kanamori N, Taniguchi T, Morimoto T, Watanabe H, Shiomi H, Ando K, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Miyake M, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y, Matsuda S, Nagao K, Inada T, Mabuchi H, Takeuchi Y, Yamane K, Toyofuku M, Ishii M, Minamino-Muta E, Kato T, Inoko M, Ikeda T, Komasa A, Ishii K, Hotta K, Higashitani N, Kato Y, Inuzuka Y, Maeda C, Jinnai T, Morikami Y, Saito N, Minatoya K, Aoyama T, Kimura T; CURRENT AS Registry Investigators: Prognostic Impact of Aortic Valve Area in Conservatively Managed Patients With Asymptomatic Severe Aortic Stenosis With Preserved Ejection Fraction. *J Am Heart Assoc.* 8: e010198, 2019
42. Xanthopoulos A, Starling RC, Kitai T, Triposkiadis F: Heart Failure and Liver Disease: Cardiohepatic Interactions. *JACC Heart Fail.* 7: 87-97, 2019

43. Amano M, Izumi C, Taniguchi T, Morimoto T, Miyake M, Nishimura S, Kitai T, Kato T, Kadota K, Ando K, Furukawa Y, Inada T, Inoko M, Ishii K, Sakaguchi G, Yamazaki F, Koyama T, Komiya T, Yamanaka K, Nishiwaki N, Kanemitsu N, Saga T, Ogawa T, Nakayama S, Tsuneyoshi H, Iwakura A, Shiraga K, Hanyu M, Ohno N, Fukumoto A, Yamada T, Nishizawa J, Esaki J, Minatoya K, Nakagawa Y, Kimura T: Impact of concomitant tricuspid regurgitation on long-term outcomes in severe aortic stenosis. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging*. 20: 353-360, 2019

VIII. 1. 2 糖尿病・内分泌内科

1. Namba M, Iwakura T, Nishimura R, Akazawa K, Matsuhisa M, Atsumi Y, Satoh J, Yamauchi T: The current status of treatment-related severe hypoglycemia in Japanese patients with diabetes mellitus: A report from the committee on a survey of severe hypoglycemia in the Japan Diabetes Society. *Journal of Diabetes Investigation*. 9: 642-656, 2018
2. Miyamoto T, Iwakura T, Matsuoka N, Iwamoto M, Takenaka M, Akamatsu Y, Moritani T: Impact of Prolonged Neuromuscular Electrical Stimulation on Metabolic profile and cognition-related blood parameters in Type 2 Diabetes: A Randomized Controlled Cross-over Trial. *Diabetes Research and Clinical Practice*. 142: 37-45, 2018
3. 山本伊都香, 新村里美, 竹中麻理子, 岩本昌子, 岩倉敏夫: 在宅静脈栄養の周期的投与による適正な栄養補給に難渋した一例. *日本病態栄養学会誌* 21: 453-459, 2018
4. Fujimoto K, Iwakura T, Aburaya M, Matsuoka N: Twice-daily insulin degludec/insulin aspart effectively improved morning and evening glucose levels and quality of life in patients previously treated with premixed insulin: an observational study. *Diabetol Metab Syndr*.doi: 10.1186/s13098-018-0366-x, 2018
5. Fujimoto K, Shibayama Y, Yamaguchi E, Honjo S, Hamasaki A, Hamamoto Y: Glucose excursions and hypoglycemia in patients with type 2 diabetes treated with mitiglinide/voglibose versus glimepiride: A randomized cross-over trial. *Journal of Diabetes*. 10: 675-682, 2018
6. Namba M, Iwakura T, Nishimura R, Akazawa K, Matsuhisa M, Atsumi Y, Satoh J, Yamauchi T: The current status of treatment - related severe hypoglycemia in Japanese patients with diabetes mellitus. *Diabetol Int*. 9: 84-99, 2018
7. Kawai S, Ariyasu H, Uraki S, Takeshima K, Morita S, Inaba H, Iwakura H, Doi A, Ohashi T, Kawago M, Matsuoka N, Okamura S, Tsujii S, Akamizu T: Imbalanced Expression of IGF2 and PCSK4 is Associated with Overproduction of Big IGF2 in SFT with NICTH: A Pilot Study. *J Clin Endo Metab*. 103: 2728-2734, 2018
8. 砂田拓郎, 羽間悠祐, 池内涼介, 船田 哲, 増田憲彦, 吉川武志, 吉田 徹, 清川岳彦, 籾谷雄二, 小松弥郷: 性腺機能低下症候群治療中に認めた前立腺癌の1例. *泌尿紀要* 64: 501-504, 2018

VIII. 1. 3 脳神経内科

1. 石井淳子, 幸原伸夫: 部位によるしびれ感とその対応: 下肢「圧迫性(絞扼性)ニューロパチー」. *CLINICAL NEUROSCIENCE* 36: 487-490, 2018
2. 川本未知, 村上良子, 木下タロウ, 幸原伸夫: IGT 変異による atypical PNH の1例. *PNH 症例集: 発作性夜間ヘモグロビン尿症, クリエイトアール*, 50-53, 2018
3. 吉村 元, 松本理器: てんかんの新規治療薬. *Annual Review 神経* 2018, 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原 聡, 塩川芳昭 編集, 中外医薬社, 東京, 306-316, 2018
4. Misawa S, Kuwabara S, Sato Y, Yamaguchi N, Nagashima K, Katayama K, Sekiguchi Y, Iwai Y, Amino H, Suishi T, Yokota T, Nishida Y, Kanouchi T, Kohara N, Kawamoto M, Ishii J, Kuwahara M, Suzuki H, Hirata K, Kokubun N, Masuda R, Kaneko J, Yabe I, Sasaki H, Kaida KI, Takazaki H, Suzuki N, Suzuki S, Nodera H, Matsui N, Tsuji S, Koike H, Yamasaki R, Kusunoki S; Japanese Eculizumab Trial for GBS (JET-GBS) : Safety and efficacy of eculizumab in Guillain-Barre syndrome: a multicentre, double-blind, randomised phase 2 trial. *THE LANCET Neurology*. 17: 519-529, 2018
5. Sekiguchi K, Kohara N, Baba M, Komori T, Naito Y, Imai T, Satoh J, Yamaguchi Y, Hamatani T; Ranirestat Group: Aldose reductase inhibitor ranirestat significantly improves nerve conduction velocity in diabetic polyneuropathy: a randomized double-blind placebo-controlled study in Japan. *Journal of Diabetes Investigation*. 10: 466-474, 2018
6. Shimizu H, Nishino I, Ueda T, Kohara N, Nishioka H: Anti-mitochondrial antibody-associated myositis with eosinophilia and dropped head. *eNeurologicalSci*. 11: 15-16, 2018

7. Ishii J, Shishido-Hara Y, Kawamoto M, Fujiwara S, Imai Y, Nakamichi K, Kohara N: A Punctate Magnetic Resonance Imaging Pattern in a Patient with Systemic Lupus Erythematosus is an Early Sign of Progressive Multifocal Leukoencephalopathy: A Clinicopathological Study. *Internal Medicine*. 57: 2727-2734, 2018
8. Ueda J, Yoshimura H, Kohara N: Pyrexia-associated Relapse in Chronic Inflammatory Demyelinating Polyradiculoneuropathy: A Case Report. *Internal Medicine*. 57: 2723-2726, 2018
9. Todo K, Sakai N, Kono T, Hoshi T, Imamura H, Adachi H, Yamagami H, Kohara N: Alberta Stroke Program Early CT Score-Time Predicts Outcome after Endovascular Therapy in Patients with Acute Ischemic Stroke: A Retrospective Single-Center Study. *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 27: 1041-1046, 2018
10. Murase S, Gon Y, Watanabe A, Todo K, Kohara N, Mochizuki H, Sakaguchi M: Isolated cortical vasogenic edema and hyperintense vessel signs maybe early features of reversible cerebral vasoconstriction syndrome: Case reports. *Cephalalgia*. 38: 1207-1210, 2018
11. Ueda J, Kawamoto M, Kohara N: Post-hyperventilation Apnea with Spindle Activity on Electroencephalogram: A Case Report. *Internal Medicine*. 57: 3659-3662, 2018
12. 谷岡洸介, 人見健文, 佐藤和明, 音成秀一郎, 塚田剛史, 藤井大樹, 井上岳司, 吉村 元, 小林勝哉, 下竹昭寛, 松本理器, 高橋良輔, 池田昭夫: てんかん病診連携システムから見えるてんかん診療のニーズ~大学病院でてんかん専門外来でのサンプル調査~. *てんかん研究* 35: 684-692, 2018
13. Ueda J, Yoshimura H, Shimizu K, Hino M, Kohara N: Response to the letter to the editor of Nicolas Nicastro et al. *Neurological Sciences*. 39: 189-190, 2018
14. Yoshioka M, Morisada N, Toyoshima D, Yoshimura H, Nishio H, Iijima K, Takeshima Y, Uehara T, Kosaki K: Novel BICD2 mutation in a Japanese family with autosomal dominant lower extremity-predominant spinal muscular atrophy-2. *Brain & Development*. 40: 343-347, 2018
15. Yoshimura H, Matsumoto R, Ueda H, Ariyoshi K, Ikeda A, Takahashi R, Kohara N: Status epilepticus in the elderly: Comparison with younger adults in a comprehensive community hospital. *Seizure*. 61: 23-29, 2018
16. Togo M, Hitomi T, Murai T, Yoshimura H, Matsuhashi M, Matsumoto R, Kawamoto M, Kohara N, Takahashi R, Ikeda A: Short "infraslow" activity (SISA) with burst suppression in acute anoxic encephalopathy: A rare, specific ominous sign with acute posthypoxic myoclonus or acute symptomatic seizures. *Journal of Clinical Neurophysiology*. 35: 496-503, 2018
17. Ueda J, Yoshimura H, Kohara N: Pyrexia-associated relapse in chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy. *Internal Medicina*. 57: 2723-2726, 2018
18. 幸原伸夫: 神経伝導検査の基本原則. *Peripheral Nerve 末梢神経* 29: 208-212, 2018
19. 川本未知, 石井淳子, 吉村 元, 藤原 悟, 幸原伸夫: 造血幹細胞移植とギランバレー症候群. *Peripheral Nerve 末梢神経* 29: 232-234, 2018
20. 川本未知, 幸原伸夫, 和泉唯信, 岡 伸幸: 神経核内封入体病における末梢神経障害. *神経内科* 89: 463-472, 2018
21. 川本未知, 幸原伸夫:【一デキる内科医の一神経内科コンサルト】外来からのコンサルト, 末梢神経障害(ニューロパチー). *Medicina* 55: 294-298, 2018

VIII. 1. 4 消化器内科

1. Toyonaga H, Taniguchi Y, Inokuma T: Traumatic bile duct neuroma diagnosed by boring biopsy with cholangioscopy. *Gastrointestinal Endoscopy*. 87: 1361-1362, 2018
2. 猪熊哲朗: 消化器がん・大腸がん・膵臓がん. *神戸市医師会だより 健康と笑顔*, 2018
3. 杉之下与志樹: C型肝炎疾病啓発 (Dr版). *C型肝炎疾病啓発 QLife Dr版*, 2018
4. 杉之下与志樹: C型肝炎疾病啓発 (患者版). *C型肝炎疾病啓発 QLife 患者版*, 2018
5. 杉之下与志樹: 知っていますか? ウイルス性肝炎. *QLife*, 2018
6. 鄭 浩柄: C型肝炎放っておいていませんか? *QLife*, 2018
7. 森田周子, 猪熊哲朗: 消化器領域で行われる X線透視の基礎知識や検査の留意点. *消化器看護* 23: 67-73, 2018

VIII. 1. 5 呼吸器内科

1. 富井啓介：間質性肺炎・肺線維症に対する酸素療法. 間質性肺炎・肺線維症と類縁疾患, 三嶋理晃, 吾妻安良太 編集, 中山書店, 東京, 159-163, 2018
2. 富井啓介：喫煙関連間質性肺炎. 間質性肺炎・肺線維症と類縁疾患, 三嶋理晃, 吾妻安良太 編集, 中山書店, 東京, 209-213, 2018
3. 富井啓介：非侵襲的呼吸管理の実践講座－酸素療法からハイフロー, NIV まで症例で学ぶ－. 呼吸器ジャーナル, 2019
4. 富井啓介：非侵襲的呼吸管理の実践講座－非侵襲的呼吸管理法の発展と今後の展開 非侵襲的呼吸管理はどこまで広がるのか? 呼吸器ジャーナル 67: 6-12, 2019
5. 立川 良：在宅酸素療法. 今日の治療指針 2019, 福井次矢, 高木 誠, 小室一成 編集, 医学書院, 東京, 280-281, 2019
6. 立川 良：非侵襲的呼吸管理の実践講座－コードステータス決定 いろいろやってどのようなコードステータスにするのか? 呼吸器ジャーナル 67: 132-138, 2019
7. Nagata K, Kikuchi T, Horie T, Shiraki A, Kitajima T, Kadowaki T, Tokioka F, Chohnabayashi N, Watanabe A, Sato S, Tomii K: Domiciliary High-Flow Nasal Cannula Oxygen Therapy for Stable Hypercapnic COPD Patients: A Multicenter, Randomized Crossover Trial. *Annals of the American Thoracic Society*. 15: 432-439, 2018
8. Fujimoto D, Yoshioka H, Kataoka Y, Morimoto T, Kim YH, Tomii K, Ishida T, Hirabayashi M, Hara S, Ishitoko M, Fukuda Y, Hwang MH, Sakai N, Fukui M, Nakaji H, Morita M, Mio T, Yasuda T, Sugita T, Hirai T: Efficacy and safety of nivolumab in previously treated patients with nonsmall cell lung cancer: A multicenter retrospective cohort study. *Lung Cancer*. 119: 14-20, 2018
9. Hirabayashi R, Fujimoto D, Satsuma Y, Hirabatake M, Tomii K: Successful oral desensitization with osimertinib following osimertinib-induced fever and hepatotoxicity: a case report. *Investigational New Drugs*. 36: 952-954, 2018
10. Fujimoto D, Sato Y, Morimoto T, Uehara K, Ito M, Otsuka K, Nagata K, Sakanoue I, Hamakawa H, Nakagawa A, Takahashi Y, Imai Y, Tomii K: Programmed Cell Death Ligand 1 Expression in Non-Small-cell Lung Cancer Patients with Interstitial Lung Disease: A Matched Case-control Study. *Clin Lung Cancer*. 19: e667-e673, 2018
11. Ito J, Nagata K, Sato S, Shiraki A, Nishimura N, Izumi S, Tachikawa R, Morimoto T, Tomii K: The clinical practice of high-flow nasal cannula oxygen therapy in adults: A Japanese cross-sectional multicenter survey. *Respiratory Investigation*. 56: 249-257, 2018
12. Atagi S, Mizusawa J, Ishikura S, Takahashi T, Okamoto H, Tanaka H, Goto K, Nakagawa K, Harada M, Takeda Y, Nogami N, Fujita Y, Kasai T, Kishi K, Sawa T, Takeda K, Tomii K, Satouchi M, Seto T, Ohe Y: Chemoradiotherapy in Elderly Patients With Non-Small-Cell Lung Cancer: Long-Term Follow-Up of a Randomized Trial. *Clinical Lung Cancer*. 19: e619-e627, 2018
13. Ogawa K, Ito J, Fujimoto D, Morita M, Yoshizumi Y, Ariyoshi K, Tomii K, Katakami N: Exacerbation of autoimmune hemolytic anemia induced by the first dose of programmed death-1 inhibitor pembrolizumab: a case report. *Invest New Drugs*. 36: 509-512, 2018
14. Kawachi H, Fujimoto D, Morimoto T, Ito M, Teraoka S, Sato Y, Nagata K, Nakagawa A, Otsuka K, Tomii K: Clinical Characteristics and Prognosis of Patients with Advanced Non-Small-cell Lung Cancer Who Are Ineligible for Clinical Trials. *Clinical Lung Cancer*. 19: e721-e734, 2018
15. Hamakawa H, Takahashi Y, Sakanoue I, Saito T, Date N, Tomii K, Katakami N, Imaginbai T, Kokubo M: Salvage Pulmonary Operations Following Stereotactic Body Radiotherapy for Small Primary and Metastatic Lung Tumors: Evaluation of the Operative Procedures. *Technol Cancer Res Treat*. doi: 10.1177/1533033818807431. 2018
16. Fujimoto D, Yoshioka H, Kataoka Y, Morimoto T, Hata T, Kim YH, Tomii K, Ishida T, Hirabayashi M, Hara S, Ishitoko M, Fukuda Y, Hwang MH, Sakai N, Fukui M, Nakaji H, Morita M, Mio T, Yasuda T, Sugita T, Hirai T: Pseudoprogression in Previously Treated Patients with Non-Small Cell Lung Cancer Who Received Nivolumab Monotherapy. *J Thorac Oncol*. 14: 468-474, 2018
17. Fujimoto D, Yamashita D, Fukuoka J, Kitamura Y, Hosoya K, Kawachi H, Sato Y, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa R, Date N, Sakanoue I, Hamakawa H, Takahashi Y, Tomii K: Comparison of PD-L1 Assays in Non-small Cell Lung Cancer: 22C3 pharmDx and SP263. *Anticancer Res*. 38: 6891-6895, 2018

18. Arasada RR, Shilo K, Yamada T, Zhang J, Yano S, Ghanem R, Wang W, Takeuchi S, Fukuda K, Katakami N, Tomii K, Ogushi F, Nishioka Y, Talabere T, Misra S, Duan W, Fadda P, Rahman MA, Nana-Sinkam P, Evans J, Amann J, Tchekneva EE, Dikov MM, Carbone DP: Notch3-dependent β -catenin signaling mediates EGFR TKI drug persistence in EGFR mutant NSCLC. *Nat Commun.* 9: 3198, 2018
19. Akamatsu H, Koh Y, Ozawa Y, Fujimoto D, Hata A, Katakami N, Tomii K, Shimokawa T, Yamamoto N: Osimertinib With Ramucirumab in EGFR-mutated, T790M-positive Patients with Progression During EGFR-TKI Therapy: Phase Ib Study. *Clinical Lung Cancer* 19: e871-e874, 2018
20. 富井啓介：第3の人工呼吸：ハイフローセラピー（高流量鼻カニューラ酸素療法）. *医学の歩み* 268：867-868, 2019
21. Matsumoto T, Tanizawa K, Tachikawa R, Murase K, Minami T, Inouchi M, Handa T, Oga T, Hirai T, Chin K: Associations of obstructive sleep apnea with truncal skeletal muscle mass and density. *Scientific Reports.* 25: 6550, 2018
22. Matsumoto T, Murase K, Tabara Y, Gozal D, Smith D, Minami T, Tachikawa R, Tanizawa K, Oga T, Nagashima S, Wakamura T, Komenami N, Setoh K, Kawaguchi T, Tsutsumi T, Takahashi Y, Nakayama T, Hirai T, Matsuda F, Chin K: Impact of sleep characteristics and obesity on diabetes and hypertension across genders and menopausal status: the Nagahama study. *Sleep.* 41 doi: 10.1093/sleep/zsy071. 2018
23. Kawachi H, Fujimoto D, Yamashita D, Fukuoka J, Kitamura Y, Hosoya K, Sato Y, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa R, Date N, Sakanoue I, Hamakawa H, Takahashi Y, Tomii K: Association Between Formalin Fixation Time and Programmed Cell Death Ligand 1 Expression in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer. *Anticancer Res.* 39: 2561-2567, 2019
24. Kogo M, Otsuka K, Morimoto T, Nagata K, Nakagawa A, Tomii K: Pulmonary artery enlargement predicts poor outcome during acute exacerbations of fibrotic interstitial lung disease. *Respirology.* doi: 10.1111/resp.13504. Epub Mar 13, 2019
25. Watanabe S, Yoshioka H, Sakai H, Hotta K, Takenoyama M, Yamada K, Sugawara S, Takiguchi Y, Hosomi Y, Tomii K, Niho S, Yamamoto N, Nishio M, Ohe Y, Kato T, Takahashi T, Kamada A, Suzukawa K, Omori Y, Enatsu S, Nakagawa K, Tamura T: Necitumumab plus gemcitabine and cisplatin versus gemcitabine and T cisplatin alone as first-line treatment for stage IV squamous non-small cell lung cancer: A phase 1b and randomized, open-label, multicenter, phase 2 trial in Japan. *Lung Cancer.* 129: 55-62, 2019
26. Kumagai S, Arita M, Koyama T, Kumazawa T, Inoue D, Nakagawa A, Kaji Y, Furuta K, Fukui M, Tomii K, Taguchi Y, Tomioka H, Ishida T: Prognostic significance of crazy paving ground glass opacities in non-HIV Pneumocystis jirovecii pneumonia: an observational cohort study. *BMC Pulm Med.* 19: 47, 2019

VIII. 1. 6 血液内科

1. Yabushita T, Hiramoto N, Ono Y, Yoshioka S, Karakawa S, Kobayashi M, Ishikawa T: Adult-onset primary cyclic autoimmune neutropenia: a case report. *Transfusion.* 58: 884-890, 2018
2. Itonaga H, Aoki K, Aoki J, Ishikawa T, Ishiyama K, Uchida N, Sakura T, Ohashi K, Kurokawa M, Ozawa Y, Matsuoka KI, Nakamura Y, Kimura F, Iwato K, Nawa Y, Hirokawa M, Kato K, Ichinohe T, Atsuta Y, Miyazaki Y: Prognostic Impact of Donor Source on Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation Outcomes in Adults with Chronic Myelomonocytic Leukemia: A Nationwide Retrospective Analysis in Japan. *Biol Blood Marrow Transplant.* 24: 840-848, 2018
3. Shimomura Y, Hara M, Katoh D, Hashimoto H, Ishikawa T: Enlarged spleen is associated with low neutrophil and platelet engraftment rates and poor survival after allogeneic stem cell transplantation in patients with acute myeloid leukemia and myelodysplastic syndrome. *Ann Hematol.* 97: 1049-1056, 2018
4. Matsuda A, Kawabata H, Tohyama K, Maeda T, Araseki K, Hata T, Suzuki T, Kayano H, Shimbo K, Usuki K, Chiba S, Ishikawa T, Arima N, Nohgawa M, Ohta A, Miyazaki Y, Nakao S, Ozawa K, Arai S, Kurokawa M, Mitani K, Takaori-Kondo A; Japanese National Research Group on Idiopathic Bone Marrow Failure Syndromes: Interobserver concordance of assessments of dysplasia and blast counts for the diagnosis of patients with cytopenia: From the Japanese central review study. *Leuk Res.* 74: 137-143, 2018

5. Ohmachi K, Ando K, Kinoshita T, Kumagai K, Hatake K, Ishikawa T, Teshima T, Kato K, Izutsu K, Ueda E, Nakai K, Kuriki H, Tobinai K: Safety, tolerability and pharmacokinetics of shorter duration of infusion of obinutuzumab in Japanese patients with B-cell non-Hodgkin lymphoma: final results of the phase II GATS study. *Jpn J Clin Oncol.* 48: 736-742, 2018
6. Yabushita T, Ueno K, Yoshioka S, Ishikawa T: Auer-rod-like Inclusions in the Mature Neutrophils of a T-acute Lymphoblastic Leukemia Patient. *Intern Med.* 57: 3057-3058, 2018
7. Okada A, Kariya M, Irie K, Okada Y, Hiramoto N, Hashimoto H, Kajioka R, Maruyama C, Kasai H, Hamori M, Nishimura A, Shibata N, Fukushima K, Sugioka N: Population Pharmacokinetics of Vancomycin in Patients Undergoing Allogeneic Hematopoietic Stem-Cell Transplantation. *J Clin Pharmacol.* 58: 1140-1149, 2018
8. Yabushita T, Satake H, Maruoka H, Morita M, Katoh D, Shimomura Y, Yoshioka S, Morimoto T, Ishikawa T: Expression of multiple leukemic stem cell markers is associated with poor prognosis in de novo acute myeloid leukemia. *Leuk Lymphoma.* 59: 2144-2151, 2018
9. Matsuo H, Yoshida K, Fukumura K, Nakatani K, Noguchi Y, Takasaki S, Noura M, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Okada A, Nannya Y, Takeda J, Ueno H, Shiba N, Yamato G, Handa H, Ono Y, Hiramoto N, Ishikawa T, Usuki K, Ishiyama K, Miyawaki S, Itonaga H, Miyazaki Y, Kawamura M, Yamaguchi H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Tawa A, Hayashi Y, Mano H, Miyano S, Kamikubo Y, Ogawa S, Adachi S: Recurrent CCND3 mutations in MLL-rearranged acute myeloid leukemia. *Blood Adv.* 2: 2879-2889, 2018
10. Ochi Y, Hiramoto N, Yoshizato T, Ono Y, Takeda J, Shiozawa Y, Yoshida K, Kakiuchi N, Shiraishi Y, Tanaka H, Chiba K, Kazuma Y, Tabata S, Yonetani N, Uehara K, Yamashita D, Imai Y, Nagafuji K, Yamakawa M, Miyano S, Takaori-Kondo A, Ogawa S, Ishikawa T: Clonally related diffuse large B-cell lymphoma and interdigitating dendritic cell sarcoma sharing MYC translocation. *Haematologica.* 103: e553-e556, 2018
11. Matsue K, Kumagai K, Sugiura I, Ishikawa T, Igarashi T, Sato T, Uchiyama M, Miyamoto T, Ono T, Ueda Y, Kiguchi T, Sunaga Y, Sasaki T, Suzuki K: Plerixafor for mobilization and collection of haematopoietic stem cells for autologous transplantation in Japanese patients with non-Hodgkin lymphoma: a randomized phase 2 study. *Int J Hematol.* 108: 524-534, 2018
12. Ohmachi K, Tobinai K, Kinoshita T, Ishikawa T, Hatake K, Ichikawa S, Ohmine K, Kamitsuji Y, Choi I, Chou T, Tsukasaki K, Kumagai K, Taniwaki M, Uchida T, Kikukawa Y, Kubo K, Mihara K, Tsukamoto N, Izutsu K, Yoshida I, Ishida F, Usui N, Iida S, Murayama T, Ueda E, Kuriki H, Ando K: Efficacy and safety of obinutuzumab in patients with previously untreated follicular lymphoma: a subgroup analysis of patients enrolled in Japan in the randomized phase III GALLIUM trial. *Int J Hematol.* 108: 499-509, 2018
13. Kato H, Fujita H, Akiyama N, Kimura SI, Hiramoto N, Hosono N, Takahashi T, Shigeno K, Minamiguchi H, Miyatake J, Handa H, Kanda Y, Yoshida M, Miyawaki S, Ohtake S, Naoe T, Kiyoi H, Matsumura I, Miyazaki Y; Japan Adult Leukemia Study Group: Infectious complications in adults undergoing intensive chemotherapy for acute myeloid leukemia in 2001-2005 using the Japan Adult Leukemia Study Group AML201 protocols. *Support Care Cancer.* 26: 4187-4198, 2018
14. Okada A, Kariya M, Irie K, Okada Y, Hiramoto N, Hashimoto H, Kajioka R, Maruyama C, Kasai H, Hamori M, Nishimura A, Shibata N, Fukushima K, Sugioka N: Population Pharmacokinetics of Vancomycin in Patients Undergoing Allogeneic Hematopoietic Stem-Cell Transplantation. *J Clin Pharmacol.* 58: 1140-1149, 2018
15. Shimomura Y, Sakai S, Ueda H, Fujikura K, Imai Y, Ishikawa T: Encapsulating peritoneal sclerosis in a patient after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: a case report. *BMC Gastroenterol.* 19: 12, 2019
16. Ono Y, Yoshioka S, Inoue K, Yoshida M, Maruoka H, Ishikawa T: Stochastic model based on preharvest peripheral CD34-positive cell count and collection efficiency predicting processed blood volume in peripheral hematopoietic stem cell apheresis. *Transfusion.* 59: 671-680, 2019
17. Yabushita T, Yoshioka S, Furumiya T, Nakamura M, Yamashita D, Imai Y, Ishikawa T: The impact of early diagnosis on the prognosis of extranodal NK/T-cell lymphoma with massive lung involvement: a case report. *BMC Pulm Med.* 19: 48, 2019
18. Konuma T, Shimomura Y, Ozawa Y, Ueda Y, Uchida N, Onizuka M, Akiyama M, Mori T, Nakamae H, Ohno Y, Shiratori S, Onishi Y, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Ishiyama K; Adult Myelodysplastic Syndrome Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation: Induction chemotherapy followed by allogeneic HCT versus upfront allogeneic HCT for advanced myelodysplastic syndrome: A propensity score matched analysis. *Hematol Oncol.* 37: 85-95, 2019

19. Wakamatsu M, Terakura S, Ohashi K, Fukuda T, Ozawa Y, Kanamori H, Sawa M, Uchida N, Ota S, Matsushita A, Kanda Y, Nakamae H, Ichinohe T, Kato K, Murata M, Atsuta Y, Teshima T; GVHD Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation: Impacts of thymoglobulin in patients with acute leukemia in remission undergoing allogeneic HSCT from different donors. *Blood Advances*. 3: 105-115, 2019
20. 森田（藤田）真梨, 藪下知宏, 下村良充, 小野祐一郎, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: 初回寛解導入療法にて完全寛解に至らなかった急性骨髄性白血病に対する MEC 療法の治療成績. *臨床血液* 59: 858-864, 2018
21. 石川隆之: 骨髄異形成症候群の薬物治療の動向. *日本医事新報* 4914: 34-39, 2018
22. 石川隆之: 医学と医療の最前線: 骨髄異形成症候群に対する新規治療の展望. *日本内科学会雑誌* 107: 1566-1572, 2018

VIII. 1. 7 腫瘍内科

1. 緒方美里, 松本光史: 4. 各領域における後期高齢者がん薬物治療の実際 3) 乳腺科領域. *臨床腫瘍プラクティス* 14: 275-282, 2018
2. 安井久晃: 原発不明がん診療ガイドライン. 改訂第2版, 日本臨床腫瘍学会 編集, 南江堂, 東京, 2018
3. 安井久晃: がん薬物療法における職業性曝露対策ガイドライン 2019年版. 日本がん看護学会, 日本臨床腫瘍薬学会, 日本臨床腫瘍学会 編集, 金原出版, 東京, 2019
4. Satake H, Sagawa T, Fujikawa K, Hatachi Y, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Tsuji A: Phase Ib study of irinotecan and ramucirumab for advanced gastric cancer previously treated with fluoropyrimidine with/without platinum and taxane. *Cancer Chemother Pharmacol*. 82: 839-845, 2018
5. Ogata M, Hatachi Y, Ogata T, Satake H, Imai Y, Yasui H: Effectiveness of Crizotinib for Inflammatory Myofibroblastic Tumor with ALK mutation: A Case Report. *Intern Med*. 58: 1029-1032, 2019
6. Kikawa Y, Hatachi Y, Rumpold G, Tokiwa M, Takebe S, Ogata T, Satake H, Kato H, Tsuji A, Yasui H, Holzner B: Evaluation of health-related quality of life via the Computer-Based Health Evaluation System (CHES) for Japanese metastatic breast cancer patients: a single-center pilot study. *Breast Cancer*. 26: 255-259, 2019
7. Ogata T, Satake H, Ogata M, Hatachi Y, Inoue K, Hamada M, Yasui H: Neutrophil-to-lymphocyte ratio as a predictive or prognostic factor for gastric cancer treated with nivolumab: a multicenter retrospective study. *Oncotarget*. 9: 34520-34527, 2018
8. Ogata T, Kikawa Y, Ogata M, Satake H, Hatachi Y, Yasui H: Acute Liver Failure with Diffuse Liver Metastasis from Breast Cancer, Not Detected by Computed Tomography: 2 Case Reports. *Case Rep Oncol*. 11: 699-704, 2018
9. Ogata T, Satake H, Ogata M, Hatachi Y, Maruoka H, Yamashita D, Hashida H, Hamada M, Yasui H: Safety and effectiveness of FOLFOXIRI plus molecular target drug therapy for metastatic colorectal cancer: A multicenter retrospective study. *Oncotarget*. 10: 1070-1084, 2019
10. Ogata T, Shimomura Y, Yamashita D, Imai Y, Ishikawa T: Substantial improvement in immune thrombocytopenic purpura associated with T-cell/histiocyte-rich B-cell lymphoma treated with chemotherapy: A case report. *Mol Clin Oncol*. 10: 441-445, 2019
11. Kotake T, Satake H, Okita Y, Hatachi Y, Hamada M, Omiya M, Yasui H, Hashida T, Kaihara S, Inokuma T, Tsuji A: Prevalence and risk factors of hepatitis B virus reactivation in patients with solid tumors with resolved HBV infection. *Asia Pac J Clin Oncol*. 15: 63-68, 2019
12. Nishina T, Azuma M, Nishikawa K, Gotoh M, Bando H, Sugimoto N, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Mitome T, Kageyama H, Hyodo I: Early tumor shrinkage and depth of response in patients with advanced gastric cancer: a retrospective analysis of a randomized phase III study of first-line S-1 plus oxaliplatin vs. S-1 plus cisplatin. *Gastric Cancer*. 22: 138-146, 2019

VIII. 1. 8 感染症科

1. Mizuno Y, Imoto H, Takahashi N, Ichikawa C, Nishioka H: Pleuritis and Pericarditis Following Silicone Breast Implants as Part of Autoimmune Syndrome Induced by Adjuvants. *Journal of Clinical Rheumatology*. 24: 404-406, 2018
2. Shimizu H, Nishino I, Ueda T, Kohara N, Nishioka H: Anti-mitochondrial antibody-associated myositis with eosinophilia and dropped head. *eNeurologicalSci* 11: 15-16, 2018

3. Shindo T, Nishioka H: Infectious endocarditis with jump rope-like vegetations. *Infection*. 47: 139-140, 2019
4. Nishioka H, Yoshizaki A, Imai Y, Higashibeppu N: Starvation-induced Liver Enzyme Elevation after Initiation of Feeding. *Internal Medicine*. 58: 749-753, 2019
5. Doi A, Morimoto T, Iwata K: Shorter duration of antibiotic treatment for acute bacteraemic cholangitis with successful biliary drainage: a retrospective cohort study. *Clinical Microbiology and Infection*. 24: 1184-1189, 2018
6. Shindo T, Masuda Y, Imai Y, Nagano T, Nishioka H: Case Report: Acute Generalized Exanthematous Pustulosis Caused by Praziquantel. *American Journal of Tropical Medicine and Hygiene*. 100: 700-702, 2019
7. 土井朝子：季節性インフルエンザの診断、治療と予防. *KANSEN JOURNAL* 67, 2018
8. 進藤達哉, 栗林真悠, 伊藤次郎, 土井朝子, 瀬尾龍太郎：港島 ICU × ICT カンファレンス CRBSI. *Intensivist* 10 : 1028-1034, 2018

VIII. 1. 9 精神・神経科

1. 大谷恭平, 大音三枝子, 鶴谷 茂, 鎌田里紗, 花房由美子, 高橋年道, 宮井宏之, 福島春子, 松石邦隆：せん妄に対する抗精神病薬療法の位置づけ. *臨床精神薬理* 21 : 1541-1552, 2018
2. Okamoto T, Yamamoto Y, Sakai K, Matsuyama K, Hashimoto T, Hayashi A: Factors influencing confabulation in Japanese patients with Alzheimer's disease. *Psychogeriatrics*. 18: 276-282, 2018
3. 山本泰司：鑑別診断に用いられる脳イメージング. *認知症の最新医療* 8, 2018

VIII. 1. 10 小児科・新生児科

1. 山下裕加, 菅原勝美, 田中裕也, 鶴田 悟, 山川 勝, 長野 徹：エトレチナート早期投与により良好な中長期予後が得られた道化師様魚鱗癬の1例. *日本小児皮膚科学会雑誌* 37 : 81-86, 2018
2. 青田千恵, 山川 勝, 宮越千智, 鶴田 悟：遺伝性不整脈合併母体の妊娠出産. *日本小児循環器学会雑誌* 34 : 155-159, 2018
3. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟：急速皮下免疫療法の現状と今後の展望 (ダニ). *日本小児アレルギー学会誌* 32 : 47-54, 2018
4. 櫻井明弓, 田中裕也, 松本涼子, 丸山浩枝, 田中真咲, 中西寛子：患児の治療への参加を目的とした患児用パスの作成. *日本クリニカルパス学会誌* 20 : 113-118, 2018
5. 青田千恵, 宮越千智, 山川 勝, 鶴田 悟：川崎病の病歴を欠く冠動脈瘤・陳旧性心筋梗塞の1例. *Prog. Med* 38 : 723-726, 2018
6. 岡藤郁夫：都道府県アレルギー疾患医療拠点病院が牽引する地域での食物アレルギー栄養食事指導の未来予想図. *日本小児臨床アレルギー学会誌* 17 : 38-41, 2019
7. 岡藤郁夫：Wolman 病（乳児期発症急速進行性 LAL-D）は診断困難かつ予後不良であるが治療可能な疾患である. *日本マス・スクリーニング学会誌* 28 : 224, 2018
8. Miyakoshi C, Yamamoto Y, Yamakawa M, Fukuhara S: Heart Rate, Responsiveness to Intravenous Immunoglobulin, and Coronary Artery Aneurysms in Kawasaki Disease. *The Journal of Pediatrics*. 200: 160-165, 2018
9. 伊藤 環, 岡藤郁夫：【赤ちゃんとお母さんのためのアレルギー読本】－喘息－予防 植木鉢が喘息によくないと聞きましたが、どうしてですか. *周産期医学* 48 : 383, 2018
10. 伊藤 環, 岡藤郁夫：【赤ちゃんとお母さんのためのアレルギー読本】－喘息－予防 布団掃除専用の掃除機を購入するべきですか. *周産期医学* 48 : 384, 2018
11. 伊藤 環, 岡藤郁夫：【赤ちゃんとお母さんのためのアレルギー読本】－喘息－予防 子どもがぬいぐるみを可愛がっています. 医師は捨てなさいと言いますが、どうすればよいですか. *周産期医学* 48 : 385, 2018
12. 伊藤 環, 岡藤郁夫：【赤ちゃんとお母さんのためのアレルギー読本】－喘息－予防 空気洗浄機と自走式の掃除機でダニの管理はできますか. *周産期医学* 48 : 386, 2018
13. 伊藤 環, 岡藤郁夫：【赤ちゃんとお母さんのためのアレルギー読本】－喘息－予防 今度リフォームをしようと考えています. 床材は何がお勧めですか. *周産期医学* 48 : 387, 2018
14. 海老澤元宏, 伊藤浩明, 藤澤隆夫：監修, 食物アレルギーハンドブック 2018, 協和企画, 東京, 2018
15. Fukunaga N, Miyakoshi C, Sakata R, Koyama T: Impact of valve type on outcomes after redo mitral valve replacement in patients aged 50 to 69years. *Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery*. 27: 322-327, 2018

16. Miyakoshi C, Yamamoto Y, Mishima H, Shirai C, Morioka I, Fukuhara S: Childcare Environment and Japanese Children Who Are Overweight in Early Childhood. *Child Obesity*. 14: 197-206, 2018
17. Fukuzawa H, Urushihara N, Miyakoshi C, Kawahara I, Isono K, Samejima Y, Miura S, Uemura K, Morita K, Nakao M, Yokoi A, Fukumoto K, Yamoto M, Maeda K: Clinical features and risk factors of bile duct perforation associated with pediatric congenital biliary dilatation. *Pediatr Surg Int*. 34: 1079-1086, 2018
18. Takagi S, Hirami Y, Takahashi M, Fujihara M, Mandai M, Miyakoshi C, Tomita G, Kurimoto Y: Optical coherence tomography angiography in patients with retinitis pigmentosa who have normal visual acuity. *Acta Ophthalmol*. 96: e636-e642, 2018

VIII. 1. 11 皮膚科

1. 増田泰之, 中村文香, 鷺見真由子, 小坂博志, 小川真希子, 長野 徹: 皮膚原発腺様嚢胞癌の2例. *臨床皮膚科* 72: 799-804, 2018
2. 増田泰之, 古岡慶子, 谷川絢乃, 小坂博志, 長野 徹: Epithelioid angiosarcoma の組織像を呈した Stewart-Treves 症候群の1例. *Skin Cancer* 33: 154-157, 2018

VIII. 1. 12 外科・移植外科

1. 増井秀行, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 瘍形成性虫垂炎を併発した盲腸癌に対して腹腔鏡手術を施行した1例. *外科* 81: 155-161, 2019
2. 熊田有希子, 貝原 聡, 細谷 亮: 妊婦の虫垂炎に対する腹腔鏡下虫垂切除術. *手術* 72: 1241-1247, 2018
3. Kotake T, Satake H, Okita Y, Hatachi Y, Hamada M, Omiya M, Yasui H, Hashida T, Kaihara S, Inokuma T, Tsuji A: Prevalence and risk factors of hepatitis B virus reactivation in patients with solid tumors with resolved HBV infection. *Asia Pac J Clin Oncol*. 15: 63-68, 2018
4. Kobayashi H, Kondo M, Mizumoto M, Hashida H, Kaihara S, Hosotani R: Technique and surgical outcomes of mesenterization and intra-operative neural monitoring to reduce recurrent laryngeal nerve paralysis after thoracoscopic esophagectomy: A cohort study. *Int J Surg*. 56: 301-306, 2018
5. Iwamura S, Hashida H, Yoh T, Kitano S, Mizumoto M, Kitamura K, Kondo M, Kobayashi H, Kaihara S, Hosotani R: Laparoscopic appendectomy during the third trimester: Case presentation and literature review. *Asian J Endosc Surg*. 11: 413-416, 2018
6. Ogata T, Satake H, Ogata M, Hatachi Y, Maruoka H, Yamashita D, Hashida H, Hamada M, Yasui H: Safety and effectiveness of FOLFOXIRI plus molecular target drug therapy for metastatic colorectal cancer: A multicenter retrospective study. *Oncotarget*. 10: 1070-1084, 2019
7. Muro K, Itabashi M, Hashida H, Masuishi T, Bando H, Denda T, Yamanaka T, Ohashi Y, Sugihara K: Observational study of first-line chemotherapy including cetuximab in patients with metastatic colorectal cancer: CORAL trial. *Jpn J Clin Oncol*. 49: 339-346, 2019
8. Kusumoto T, Ishiguro M, Nakatani E, Yoshida M, Inoue T, Nakamoto Y, Shiomi A, Takagane A, Sunami E, Shinozaki H, Takii Y, Maeda A, Ojima H, Hashida H, Mukaiya M, Yokoyama T, Nakamura M, Munemoto Y, Sugihara K: Updated 5-year survival and exploratory T x N subset analyses of ACTS-CC trial: a randomised controlled trial of S-1 versus tegafur-uracil/leucovorin as adjuvant chemotherapy for stage III colon cancer. *ESMO Open*. 3: e000428, 2018

VIII. 1. 13 乳腺外科

1. Kikawa Y, Hatachi Y, Rumpold G, Tokiwa M, Takebe S, Ogata T, Satake H, Kato H, Tsuji A, Yasui H, Holzner B: Evaluation of health-related quality of life via the Computer-Based Health Evaluation System (CHES) for Japanese metastatic breast cancer patients: a single-center pilot study. *Breast Cancer*. 26: 255-259, 2019
2. Kikawa Y, Kotake T, Kajiwara Y, Hashimoto K, Yamashiro H, Ohtani S, Takao S, Toi M: Clinical Predictive Factors for the Efficacy of Everolimus in Patients with Hormone Receptor-Positive, HER2-Negative Advanced Breast Cancer: A Multicenter Retrospective Cohort Study in Japan. *Breast Cancer: Basic and Clinical Research*. 13: 1-8, 2019
3. 木川雄一郎: 薬物療法の実践 (S-1 / Vinorelbine). 乳がん薬物療法ハンドブック, 佐治重衡 編, 南江堂, 東京, 2019

VIII. 1. 14 心臓血管外科

1. 吉田一史, 長澤 淳, 小山忠明: 頸動脈ステント留置後に上行大動脈置換術を実施し救命した左総頸動脈急性閉塞合併 Stanford A 型急性大動脈解離の 1 例. 胸部外科 47 : 622-625, 2018
2. Koizumi S, Nagasawa A, Koyama T: Total aortic arch replacement using frozen elephant trunk with J Graft Open Stent Graft for distal aortic arch aneurysm. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 66 : 91-94, 2018

VIII. 1. 15 呼吸器外科

1. Fujimoto D, Sato Y, Morimoto T, Uehara K, Ito M, Otsuka K, Nagata K, Sakanoue I, Hamakawa H, Nakagawa A, Takahashi Y, Imai Y, Tomii K: Programmed Cell Death Ligand 1 Expression in Non-Small-cell Lung Cancer Patients with Interstitial Lung Disease: A Matched Case-control Study. Clin Lung Cancer. 19: e667-e673, 2018
2. Hamakawa H, Takahashi Y, Sakanoue I, Saito T, Date N, Tomii K, Katakami N, Imaginbai T, Kokubo M: Salvage Pulmonary Operations Following Stereotactic Body Radiotherapy for Small Primary and Metastatic Lung Tumors: Evaluation of the Operative Procedures. Technol Cancer Res Treat. doi: 10.1177/1533033818807431, 2018
3. Fujimoto D, Yamashita D, Fukuoka J, Kitamura Y, Hosoya K, Kawachi H, Sato Y, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa R, Date N, Sakanoue I, Hamakawa H, Takahashi Y, Tomii K: Comparison of PD-L1 Assays in Non-small Cell Lung Cancer: 22C3 pharmDx and SP263. Anticancer Res. 38: 6891-6895, 2018

VIII. 1. 16 脳神経外科

1. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 尾原信行, 河野智之, 藤原 悟, 村上康隆, 坂井信幸: CAS フェースト施設における治療方針の変遷と治療成績. 日本血管内治療学会誌 19 : 7-12, 2018
2. 舟越勇介, 波多野武人, 坂 真人, 安藤充重, 千原英夫, 徳永敬介, 橋川拓郎, 鎌田貴彦, 東 英司, 永田 泉: 選択的経動脈的 indocyanine green 撮影が血行動態の評価に有用であった頸部 dural arteriovenous fistula の 1 例. 脳神経外科ジャーナル 27 : 402-407, 2018
3. 舟越勇介, 波多野武人, 安藤充重, 千原英夫, 瀧田 亘, 徳永敬介, 橋川拓郎, 鎌田貴彦, 東 英司, 永田 泉: 大動脈弓近傍の動脈狭窄病変に対するステント留置術のアプローチ法の検討. 脳神経外科速報 28 : 498-505, 2018
4. Beppu M, Mineharu Y, Imamura H, Adachi H, Sakai C, Tani S, Arimura K, Tokunaga S, Sakai N: Postoperative int-stent protrusion is an important predictor of perioperative ischemic complications after carotid artery stenting. Journal of Neuroradiology. 45: 357-361, 2018
5. Funakoshi Y, Hatano T, Saka M, Ando M, Chihara H, Takita W, Tokunaga K, Hashikawa T, Kamata T, Higashi E, Nagata I: Dural and Pial Arteriovenous Fistulas Connected to the Same Drainer in the Middle Cranial Fossa: A Case Report. World Neurosurgery. 118: 47-52, 2018
6. Tani S, Imamura H, Asai K, Shimizu K, Adachi H, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Kawabata S, Matsui Y, Sasaki N, Akiyama R, Horiuchi K, Sakai C, Sakai N: Comparison of practical methods in clinical sites for estimating cerebral blood flow during balloon test occlusion. J Neurosurg. doi: 10.3171/2018.5.JNS18858, 2018
7. Imamura H, Sakai N, Satow T, Iihara K; JR-NET investigators: Endovascular Treatment for Vasospasm after Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage Based on Data of JR-NET3. Neurologia medico-chirurgica. 58: 495-502, 2018
8. Kawabata S, Tani S, Imamura H, Adachi H, Sakai N: Postoperative Subdural Air Collection Is a Risk Factor for Chronic Subdural Hematoma after Surgical Clipping of Cerebral Aneurysms. Neurol Med Chir (Tokyo) . 58: 247-253, 2018
9. Kawabata S, Imamura H, Suzuki K, Tani S, Adachi H, Sakai N: Delayed ischemic stroke due to stent marker band occlusion after stent-assisted coiling. J NeuroIntervent Surg 10: e20, 2018
10. Koyanagi M, Ishii A, Imamura H, Satow T, Yoshida K, Hasegawa H, Kikuchi T, Takenobu Y, Ando M, Takahashi JC, Nakahara I, Sakai N, Miyamoto S: Long-term outcomes of coil embolization of unruptured intracranial aneurysms. J Neurosurg. 129: 1492-1498, 2018
11. Kuriyama T, Sakai N, Beppu M, Sakai C, Imamura H, Masago K, Katakami N, Isoda N: Quantitative Analysis of Conebeam CT for Delineating Stents in Stent-Assisted Coil Embolization. AJNR Am J Neuroradiol. 39: 488-493, 2018

12. Kuriyama T, Sakai N, Beppu M, Sakai C, Imamura H, Kojima I, Masago K, Katakami N: Optimal dilution of contrast medium for quantitating parenchymal blood volume using a flat-panel detector. *J Int Med Res.* 46: 464-474, 2018
13. Kurogi R, Nishimura K, Nakai M, Kada A, Kamitani S, Nakagawara J, Toyoda K, Ogasawara K, Ono J, Shiokawa Y, Aruga T, Miyachi S, Nagata I, Matsuda S, Yoshimura S, Okuchi K, Suzuki A, Nakamura F, Onozuka D, Ido K, Kurogi A, Mukae N, Nishimura A, Arimura K, Kitazono T, Hagihara A, Iihara K; J-ASPECT Study Collaborators: Comparing intracerebral hemorrhages associated with direct oral anticoagulants or warfarin. *Neurology.* 90: e1143-1149, 2018
14. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K, Ohara N, Kono T, Fujiwara S, Kaneko N, Tateshima S: First-in-man experience of the Versi Retriever in acute ischemic stroke. *J NeuroIntervent Surg.* 11: 296-299, 2018
15. Sakai N, Ota S, Matsumoto Y, Kondo R, Satow T, Kubo M, Tsumoto T, Enomoto Y, Kataoka T, Imamura H, Todo K, Hayakawa M, Yamagami H, Toyoda K, Ito Y, Sugiu K, Matsumaru Y, Yoshimura S ; RIVER JAPAN Investigators: Efficacy and Safety of REVIVE SE Thrombectomy Device for Acute Ischemic Stroke: River JAPAN (Reperfuse Ischemic Vessels with Endovascular Recanalization Device in Japan) . *Neurol Med Chir (Tokyo)* . 58: 164-172, 2018
16. Shimizu K, Imamura H, Tani S, Sakai N: Improvement in venous-phase delay after superficial temporal artery to middle cerebral artery bypass. *J Clin Neurosci.* 47: 143-145, 2018
17. Todo K, Sakai N, Kono T, Hoshi T, Imamura H, Adachi H, Yamagami H, Kohara N: Alberta Stroke Program Early CT Score-Time Score Predicts Outcome after Endovascular Therapy in Patients with Acute Ischemic Stroke: A Retrospective Single-Center Study. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 27: 1041-1046, 2018
18. Togo M, Kono T, Hoshi T, Imamura H, Todo K, Adachi H, Kawamoto M, Imai Y, Sakai N, Kohara N: Successful endovascular therapy for multiple intracranial arterial stenosis associated with medically intractable giant cell arteritis. *J Neurol Sci.* 384: 104-106, 2018
19. Toyoda K, Koga M, Yamamoto H, Foster L, Palesch YY, Wang Y, Sakai N, Hara T, Hsu CY, Itabashi R, Sato S, Fukuda M, Steiner T, Yoon BW, Hanley DF, Qureshi AI; ATACH-2 Trial Investigators: Clinical outcomes depending on acute blood pressure after cerebral hemorrhage. *Ann Neurol.* 85: 105-113, 2019
20. Yoshimura S, Sakai N, Uchida K, Yamagami H, Ezura M, Okada Y, Kitagawa K, Kimura K, Sasaki M, Tanahashi N, Toyoda K, Furui E, Matsumaru Y, Minematsu K, Morimoto T: Endovascular Therapy in Ischemic Stroke With Acute Large-Vessel Occlusion: Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-Acute Embolism Japan Registry 2. *J Am Heart Assoc.* pii: e008796. doi: 10.1161/JAHA.118.008796, 2018
21. Pierot L, Jayaraman MV, Szikora I, Hirsch JA, Baxter B, Miyachi S, Mahadevan J, Chong W, Mitchell PJ, Coulthard A, Rowley HA, Sanelli PC, Tampieri D, Brouwer PA, Fiehler J, Kocer N, Vilela P, Rovira A, Fischer U, Caso V, van der Worp B, Sakai N, Matsumaru Y, Yoshimura SI, Anxionnat R, Desal H, Biscoito L, Pumar JM, Diaz O, Fraser JF, Linfante I, Liebeskind DS, Nogueira RG, Hacke W, Brainin M, Yan B, Soderman M, Taylor A, Pongpech S, Karel T; Asian-Australian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (AAFITN), Australian and New Zealand Society of Neuroradiology (ANZSNR), American Society of Neuroradiology (ASNR), Canadian Society of Neuroradiology (CSNR), European Society of Minimally Invasive Neurological Therapy (ESMINT), European Society of Neuroradiology (ESNR), European Stroke Organization (ESO), Japanese Society for NeuroEndovascular Therapy (JSNET), The French Society of Neuroradiology (SFNR) Ibero-Latin American Society of Diagnostic and Therapeutic Neuroradiology (SILAN), Society of NeuroInterventional Surgery (SNIS), Society of Vascular and Interventional Neurology (SVIN), World Stroke Organization (WSO), World Federation of Interventional Neuroradiology (WFITN) : Standards of practice in acute ischemic stroke intervention : international recommendations. *J Neurointerv Surg.* 10: 1211-1126, 2018

22. Pierot L, Jayaraman MV, Szikora I, Hirsch JA, Baxter B, Miyachi S, Mahadevan J, Chong W, Mitchell PJ, Coulthard A, Rowley HA, Sanelli PC, Tampieri D, Brouwer PA, Fiehler J, Kocer N, Vilela P, Rovira A, Fischer U, Caso V, van der Worp B, Sakai N, Matsumaru Y, Yoshimura SI, Anxionnat R, Desal H, Biscoito L, Pumar JM, Diaz O, Fraser JF, Linfante I, Liebeskind DS, Nogueira RG, Hacke W, Brainin M, Yan B, Soderman M, Taylor A, Pongpech S, Karel T; Asian-Australian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (AAFITN) , Australian and New Zealand Society of Neuroradiology (ANZSNR) , American Society of Neuroradiology (ASNR) , Canadian Society of Neuroradiology (CSNR) , European Society of Minimally Invasive Neurological Therapy (ESMINT) , European Society of Neuroradiology (ESNR) , European Stroke Organization (ESO) , Japanese Society for NeuroEndovascular Therapy (JSNET) , The French Society of Neuroradiology (SFNR) Ibero-Latin American Society of Diagnostic and Therapeutic Neuroradiology (SILAN) , Society of NeuroInterventional Surgery (SNIS) , Society of Vascular and Interventional Neurology (SVIN) , World Stroke Organization (WSO) , World Federation of Interventional Neuroradiology (WFITN) : Standards of practice in acute ischemic stroke intervention : international recommendations. *AJNR*. 39: E112-117, 2018
23. 今村博敏, 坂井信幸 : IC paraclinoid の血管内治療. 臨床脳血管解剖テキスト 11-23, 2018
24. 今村博敏, 坂井信幸 : 脳梗塞の治療 (機械的血栓回収療法). *ISLS ガイドブック 2018* : 95-100, 2018
25. 今村博敏, 坂井信幸 : 急性期血栓回収療法 up-to-date. *脳神経外科速報* 28 : 882-888, 2018
26. 坂井信幸, 江面正幸, 松丸祐司, 宮地 茂, 吉村紳一 (編集) : アクセスの全て~脳血管内治療ブラッシュアップセミナー 2017 ~. *脳血管内治療の進歩 2017*, 2018
27. Pierot L, Jayaraman MV, Szikora I, Hirsch JA, Baxter B, Miyachi S, Mahadevan J, Chong W, Mitchell PJ, Coulthard A, Rowley HA, Sanelli PC, Tampieri D, Brouwer PA, Fiehler J, Kocer N, Vilela P, Rovira A, Fischer U, Caso V, van der Worp B, Sakai N, Matsumaru Y, Yoshimura SI, Anxionnat R, Desal H, Biscoito L, Pumar JM, Diaz O, Fraser JF, Linfante I, Liebeskind DS, Nogueira RG, Hacke W, Brainin M, Yan B, Soderman M, Taylor A, Pongpech S, Karel T; Asian-Australian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (AAFITN) , Australian and New Zealand Society of Neuroradiology (ANZSNR) , American Society of Neuroradiology (ASNR) , Canadian Society of Neuroradiology (CSNR) , European Society of Minimally Invasive Neurological Therapy (ESMINT) , European Society of Neuroradiology (ESNR) , European Stroke Organization (ESO) , Japanese Society for NeuroEndovascular Therapy (JSNET) , The French Society of Neuroradiology (SFNR) Ibero-Latin American Society of Diagnostic and Therapeutic Neuroradiology (SILAN) , Society of NeuroInterventional Surgery (SNIS) , Society of Vascular and Interventional Neurology (SVIN) , World Stroke Organization (WSO) , World Federation of Interventional Neuroradiology (WFITN) : Standards of practice in acute ischemic stroke intervention : international recommendations. *Interv Neuroradiol*. 25: 31-37, 2019
28. Pierot L, Jayaraman MV, Szikora I, Hirsch JA, Baxter B, Miyachi S, Mahadevan J, Chong W, Mitchell PJ, Coulthard A, Rowley HA, Sanelli PC, Tampieri D, Brouwer PA, Fiehler J, Kocer N, Vilela P, Rovira A, Fischer U, Caso V, van der Worp B, Sakai N, Matsumaru Y, Yoshimura SI, Anxionnat R, Desal H, Biscoito L, Pumar JM, Diaz O, Fraser JF, Linfante I, Liebeskind DS, Nogueira RG, Hacke W, Brainin M, Yan B, Soderman M, Taylor A, Pongpech S, Karel T; Asian-Australian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (AAFITN) , Australian and New Zealand Society of Neuroradiology (ANZSNR) , American Society of Neuroradiology (ASNR) , Canadian Society of Neuroradiology (CSNR) , European Society of Minimally Invasive Neurological Therapy (ESMINT) , European Society of Neuroradiology (ESNR) , European Stroke Organization (ESO) , Japanese Society for NeuroEndovascular Therapy (JSNET) , The French Society of Neuroradiology (SFNR) Ibero-Latin American Society of Diagnostic and Therapeutic Neuroradiology (SILAN) , Society of NeuroInterventional Surgery (SNIS) , Society of Vascular and Interventional Neurology (SVIN) , World Stroke Organization (WSO) , World Federation of Interventional Neuroradiology (WFITN) : Standards of practice in acute ischemic stroke intervention : international recommendations. *Can J Neurol Sci*. 20: 1-6, 2019
29. 今村博敏, 坂井信幸 : 頸動脈ステント留置術 (CAS). *ブレインナーシング* 35 : 17-20, 2019
30. 今井啓輔, 山上 宏, 白川 学, 中川一郎, 中澤拓也, 八子理恵, 吉村紳一, 今村博敏, 高木俊範, 坂井信幸 : 神戸宣言, その後 : 急性期脳梗塞に対する血管内治療の普及の取り組み 各地方の取り組み 近畿地方. *脳血管内治療* 4 : 28-36, 2019
31. 今村博敏, 坂井信幸 : 急性期血栓回収術. *ブレインナーシング* 35 : 21-24, 2019

32. 尾原信行, 藤原 悟, 幸原伸夫, 坂井信幸: 院内発症脳卒中への迅速対応: RRS (院内救急対応システム) の応用. 分子脳血管病 18: 58-60, 2019

VIII. 1. 17 整形外科

1. Azukizawa M, Ito H, Hamamoto Y, Fujii T, Morita Y, Okahata A, Tomizawa T, Furu M, Nishitani K, Kuriyama S, Nakamura S, Yoshitomi H, Nakatani T, Tsuboyama T, Hamaguchi M, Matsuda S, Yasuda T: The effects of well-rounded exercise program on systemic biomarkers related for cartilage metabolism. *Cartilage* 2018 Apr 1:1947603518767998. doi: 10.1177/1947603518767998.
2. Ueyama M, Takamura D, Nakajima R, Harada J, Iwata K, Maekawa T, Iwaki K, Yasuda T: Alterations in deep tissue temperature around the knee after total knee arthroplasty: its association with knee motion recovery in the early phase. *Physical Therapy Research*. 21: 1-8, 2018
3. 末吉達也, 太田悟司, 安田 義: 脛骨髄内釘の膝蓋上および膝蓋下アプローチの比較. *骨折* 40: 554-557, 2018
4. 高岡佑輔, 安田 義: 足関節に生じた色素性絨毛性滑膜炎. *中部整災誌* 61: 1019-1020, 2018
5. 小西宏樹, 安田 義, 大西英次郎, 藤田俊史, 太田悟司, 末吉達也: セメント型人工股関節の術後 17 年目にステム折損をきたした 1 例. *中部整災誌* 61: 985-986, 2018
6. 榎田崇一郎, 藤田俊史, 安田 義: 小児上腕骨内上顆骨折に非観血的整復不能な橈骨頭前方脱臼を合併した 1 例. *中部整災誌* 61: 303-304, 2018

VIII. 1. 18 産婦人科

1. Shintaku M, Rai Y, Yoshioka S, Okabe H: Adenoid basal carcinoma of the uterine cervix: a case report with an immunohistochemical and ultrastructural study. *Int J Clin Exp Pathol*. 11: 1758-1762, 2018
2. Maeda Y, Oyama R, Maeda H, Imai Y, Yoshioka S: Choriocarcinoma with multiple lung metastases from complete hydatidiform mole with coexistent fetus during pregnancy. *J Obstet Gynaecol Res*. 44: 1476-1481, 2018
3. Yamamoto K, Ozaki A, Nomura S, Senoo Y, Yoshida I, Maeda Y, Ohnishi M, Tanimoto T, Kami M: Bibliometric Study of Obstetrics Articles Published in the Journal of the American Medical Association, 1997-2016. *Cureus*. 10: e3448, 2018
4. 前田裕斗, 中北 麦, 王 紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 腰椎穿刺後頭痛に引き続いて発症し, 診断に苦慮した可逆性後白質脳症候群 (PRES) の 1 例. *産婦人科の進歩* 70: 311-316, 2018
5. 林 信孝, 崎山明香, 松林 彩, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院における早期子宮体癌に対する腹腔鏡手術および開腹手術の比較検討. *産婦人科の実際* 67: 909-914, 2018
6. 星野達二, 衣田隆俊, 森 龍雄, 小野吉行, 吉岡信也: トキソプラズマ抗体検査 IgG と IgM についての検討. *明和医学誌* 5: 18-21, 2018
7. 星野達二, 森 龍雄, 衣田隆俊, 吉岡信也: 胎児心拍陽性 (FHB-positive) の帝王切開癒痕部妊娠 (CSP) の画像所見について. *明和医学誌* 5: 92-95, 2018
8. 大竹紀子, 吉岡信也, 山添紗恵子, 松林 彩, 崎山明香, 林 信孝, 小山瑠梨子, 富田裕之, 青木卓哉: I 期の粘液性卵巣癌の術式と術後治療の検討. *産婦人科の実際* 68: 109-115, 2019

VIII. 1. 19 泌尿器科

1. 川喜田睦司: 膀胱憩室の手術. *Urologic Surgery Next No.1 腹腔鏡手術*, 荒井陽一 編集, メジカルビュー社, 東京, 183-190, 2018
2. 川喜田睦司: 特集: 大静脈進展した腎癌の手術 2018: 私はこうしている 腹腔鏡下「完全一塊」根治的腎・下大静脈内腫瘍血栓摘除術. *泌尿器外科* 31: 381-385, 2018
3. 川喜田睦司: 特集: 匠の伝承—手術を極めたいあなたへ 腹腔鏡下腎摘除術への想い. *臨床泌尿器科* 72: 687-691, 2018
4. 川喜田睦司: ロボット手術センター. 神戸市立医療センター中央市民病院しおかぜ通信 43: 1-2, 2019
5. 川喜田睦司: III—その他の内分泌疾患を含めて— V. 男性性機能 精巣腫瘍・精巣炎 精巣腫瘍(胚細胞腫瘍、Leydig 細胞腫、Sertoli 細胞腫). 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ No3 内分泌症候群, 第 3 版, 日本臨床社, 東京, 83-93, 2019
6. 川喜田睦司: 第 84 回西宮地域医療連携セミナー ロボット支援手術の現状と将来. *西宮市医師会医学雑誌* 24: 63-66, 2019

7. 鈴木良輔, 鈴木一生, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: ロボット支援前立腺全摘除術後早期のCTによるリンパ嚢腫の評価. 泌尿器科紀要 64: 261-264, 2018
8. 土肥洋一郎, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 久保田聖史, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 無阻血・無縫合ロボット支援腎部分切除術の初期経験. 泌尿器科紀要 64: 323-327, 2018
9. 松岡崇志, 川喜田睦司: 腹腔鏡下腎部分切除術における、ALA (5-1 アミノレブリン酸) による光線力学的診断の有用性の検討. 兵庫県泌尿器科医学会報 14: 57-58, 2018
10. Tohi Y, Fujimoto K, Suzuki R, Suzuki I, Kubota M, Kawakita M: Fulminant type 1 diabetes mellitus induced by pembrolizumab in a patient with urothelial carcinoma: A case report. Urol Case Rep. 24: 100849. doi: 10.1016/j.eucr.2019.100849.
11. Tohi Y, Makita N, Suzuki I, Suzuki R, Kubota M, Sugino Y, Inoue K, Kawakita M: En bloc laparoscopic radical nephrectomy with inferior vena cava thrombectomy: A single-institution experience. Int J Urol. 26: 363-368, 2019

VIII. 1. 20 耳鼻咽喉科

1. 林 泰之, 竹林慎治, 谷上由城, 中平真衣, 木村俊哉, 山田光一郎, 暁久美子, 本多啓吾, 池田浩己, 三浦誠: 緊急気管切開術を要した急性喉頭炎の5例. 耳鼻臨床 111: 249-255, 2018
2. 内藤 泰: わかりやすい感覚器疾患 [V 感覚器疾患の治療] 聴覚・平衡覚 /6 中枢聴覚・前庭疾患. 日本医師会雑誌 147: 275-276, 2018
3. 山崎朋子, 内藤 泰: 特集 人工内耳, 人工内耳の適応と術前の準備. Rehabilitation Engineering 33: 126-129, 2018
4. 前川圭子, 城本 修: 喉頭ストロボスコーピーによる声帯振動評価学習教材の開発. 音声言語医学 60: 16-22, 2019
5. Kada S, Hamaguchi K, Ito J, Omori K, Nakagawa T: Bone marrow stromal cells accelerate hearing recovery via regeneration or maintenance of cochlear fibrocytes in mouse spiral ligaments. Anat Rec (Hoboken) . 2019 Jan 11[Epub ahead of print]
6. 内藤 泰: 手術のための画像診断. 耳鼻咽喉・頭頸部手術アトラス上巻, 岸本誠司, 村上信五, 春名眞一 編, 第2版, 医学書院, 東京, 12-21, 2018
7. 篠原尚吾: 急性扁桃炎. 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針, 大森孝一, 藤枝重治, 小島博己, 猪原秀典 編, 第4版, 医学書院, 東京, 355-356, 2018
8. 前川圭子: 言語発達. 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針, 大森孝一, 藤枝重治, 小島博己, 猪原秀典 編, 第4版, 医学書院, 東京, 648-649, 2018
9. 内藤 泰: 錐体部真珠腫. 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針, 大森孝一, 藤枝重治, 小島博己, 猪原秀典 編, 第4版, 医学書院, 東京, 190-192, 2018
10. 内藤 泰: 第8脳神経. 「イラスト」めまいの検査, 一般社団法人日本めまい平衡医学会 編, 第3版, 診断と治療社, 東京, 92-93, 2018
11. 山崎朋子, 内藤 泰: 聴覚検査 中枢性聴覚検査. JOHNS 34: 867-870, 2018
12. 内藤 泰: 第63回日本聴覚医学会開催にあたって. FITTING 31: 1, 2018
13. 内藤 泰: 「人工内耳」は、聴こえを取り戻す有力な治療選択肢です. 週刊朝日 MOOK 「よく聞こえない」ときの耳の本 28-31, 2018
14. 内藤 泰: 第63回日本聴覚医学会・学術講演会. FITTING 32: 3, 2019
15. Kada S, Hamaguchi K, Ito J, Omori K, Nakagawa T: Bone marrow stromal cells accelerate hearing recovery via regeneration or maintenance of cochlear fibrocytes in mouse spiral ligaments. Anat Rec (Hoboken) . 2019 Jan 11[Epub ahead of print]

VIII. 1. 21 頭頸部外科

1. Shinohara S, Takebayashi S, Kikuchi M, Michida T, Hayashi K, Yamamoto R, Saida K, Mizuno K, Fujiwara K, Naito Y: Prognostic impact of incisional or excisional biopsy of cervical lymph node metastases of solid tumors. Jpn J Clin Oncol. 48: 529-534, 2018
2. Hayashi K, Kikuchi M, Imai Y, Yamashita D, Hino M, Ito K, Shimizu K, Harada H, Shinohara S: Clinical Value of Fused PET/MRI for Surgical Planning in Patients with Oral/Oropharyngeal Carcinoma. The Laryngoscope. 2019 Mar 21. doi: 10.1002/lary.27911. [Epub ahead of print]

3. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 竹林慎治, 原田博之:放射線治療後に外耳道真珠腫が生じた3症例. 頭頸部癌 44:62-65, 2018
4. 山田光一郎, 本多啓吾, 田中信三, 玉木久信, 児嶋 剛, 篠原尚吾, 竹林慎治, 前田俊樹, 安里 亮, 楯谷一郎, 北村守正, 水田匡信, 木谷芳晴, 牛呂幸司, 市丸和之, 隈部洋平, 大森孝一:耳下腺癌と顎下腺癌の比較:多施設共同による後方視的研究. 頭頸部癌 44:39-45, 2018
5. 水野敬介, 菊地正弘, 齋田浩二, 山本亮介, 林 一樹, 道田哲彦, 竹林慎治, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰:骨破壊を伴う嚢胞を形成した上顎洞血瘤腫例. 耳鼻臨床 111:477-482, 2018
6. 篠原尚吾, 竹林慎治, 菊地正弘, 道田哲彦, 林 一樹, 山本亮介, 今井幸弘, 上原慶一郎, 宇佐美悠:HPV陽性中咽頭癌に対する低侵襲治療の展望-p16陽性/p53陰性をバイオマーカーとした導入化学療法-. 頭頸部癌 43:403-408, 2018
7. 竹林慎治, 篠原尚吾, 水野敬介, 齋田浩二, 林 一樹, 山本亮介, 道田哲彦, 菊地正弘, 藤原敬三, 内藤 泰:甲状腺微小乳頭癌 pN1b または M1 症例の検討. 耳鼻臨床 111:781-785, 2018

VIII. 1. 22 麻酔科

1. 東別府直紀, 讚井將満, 祖父江和哉, Heyland Daren K:本邦ICUでのエネルギー充足率と転帰への影響. 日本集中治療医学会雑誌 26:25-27, 2019
2. 柚木一馬, 酒井哲郎:麻酔科専門医更新制度の改善点を探る-日本とアメリカの比較から-. 麻酔 67:1322-1326, 2018
3. Yunoki K, Miyawaki I, Yamazaki K, Mima H: Extracorporeal Membrane Oxygenation-Assisted Airway Management for Difficult Airways. Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia. 32: 2721-2725, 2018
4. 谷 大輔, 植田浩司, 武田勇毅, 美馬裕之:開心術の経食道心エコーに関連した消化管損傷の3症例. Cardiovascular Anesthesia 22:113-117, 2018
5. 甲斐沼篤, 小泉滋樹, 植田浩司, 川上大裕, 美馬裕之:開心術後の Stenotrophomonas Maltophilia. 感染症臨床麻酔 42:575-579, 2018
6. 伊藤次郎, 東別府直紀:【栄養療法 まずはこちら! 医師として知っておきたい基本事項を総整理、「食事どうしますか?」に自信をもって答えられる!】静脈栄養 (PN:TPN, PPN) コトはじめ その適応と有効な活用方法 (解説/特集) レジデントノート 20:2049-2062, 2018
7. 東別府直紀:【ICU 重症患者の栄養管理-チームの一員として知っておくべきこと】重症患者における経腸栄養の適応と実際 (解説/特集). 臨床栄養 132:552-557, 2018
8. 下菌崇宏:【内科医のための「ちょいあて」エコー-POCUS のススメ】超音波による ABCD 生理学的アプローチ B:肺エコー (胸水, 横隔膜) (解説/特集). medicina 55:1937-1942, 2018
9. 下菌崇宏:【Point-of-Care 超音波 -basic から advanced skill まで-】アドバンス編 心原性肺水腫と ARDS (解説/特集) 救急・集中治療 31:135-142, 2019
10. 伊藤次郎, 東別府直紀:CO₂ が上昇している COPD 患者における栄養療法. INTENSIVIST 11:503-510, 2019
11. 伊藤次郎, 東別府直紀:静脈栄養 (PN:TPN, PPN) コトはじめ~その適応と有効な活用方法. レジデントノート 20:2049-2062, 2018
12. 川上大裕:【血液ガスを各科でフレンドリーに使いこなす! 得られた値をどう読むか? 病態を掴みとるためのコツをベストティーチャーが教えます!】循環器内科的血ガス (解説/特集). レジデントノート 20:922-930, 2018
13. 川上大裕【誰もここまで教えてくれなかった なるほど人工呼吸管理】(5章) 挿管人工呼吸管理を行う疾患・病態 肺炎 (解説/特集). 呼吸器ケア 2018年冬季増刊:192-200, 2018
14. 田口聡久:Theme 5 ARDS の管理はどうすればいい? 呼吸器ケア 16:1054-1057, 2018
15. 東別府直紀:栄養療法. 集中治療医学会専門医標準テキスト, 日本集中治療医学会教育委員会 編集, 第3版, 真興交易医書出版部, 東京, 2019
16. 小谷穰治, 東別府直紀 (編集):日本集中治療医学会日本版重症患者の栄養管理ガイドライン作成委員会, 日本版重症患者の栄養療法ガイドライン:総論 2016 & 病態別 2017:(J-CCNTG):ダイジェスト版. 真興交易医書出版部, 東京, 2018

17. 下藪崇宏：Ⅲ. 救急・集中治療，予防的薬物療法．薬剤師のための救急・集中治療領域標準テキスト，日本病院薬剤師会，予防的薬物療法 監修，改訂第2版，へるす出版，東京，2018
18. 下藪崇宏：胸水，肺エコーのABC，鈴木昭広 編集，第1版，日本医事新報社，東京，2018
19. 下藪崇宏：水電解質異常．集中治療看護師のための臨床実践テキスト：疾患・病態編，日本集中治療医学会看護テキスト作成ワーキンググループ 編集，真興交易医書出版部，東京，2018
20. 下藪崇宏：輸血関連有害事象．集中治療看護師のための臨床実践テキスト：疾患・病態編，日本集中治療医学会看護テキスト作成ワーキンググループ 編集，真興交易医書出版部，東京，2018
21. 下藪崇宏：栄養療法の実際．集中治療，ここだけの話，田中竜馬 編集，医学書院，東京，2018
22. 伊藤次郎：循環器．開講！神戸中央市民 ER+ICU スクール：ER 医+ ICU 医の頭の中をのぞいてみよう，神戸市立医療センター中央市民病院 救命救急センター 編著，第1版，メディカ出版，大阪，2018
23. 川上大裕：消化管・肝胆膵．開講！神戸中央市民 ER+ICU スクール：ER 医+ ICU 医の頭の中をのぞいてみよう，神戸市立医療センター中央市民病院 救命救急センター 編著，第1版，メディカ出版，大阪，2018
24. 田口聡久：血液・凝固．開講！神戸中央市民 ER+ICU スクール：ER 医+ ICU 医の頭の中をのぞいてみよう，神戸市立医療センター中央市民病院 救命救急センター 編著，第1版，メディカ出版，大阪，2018
25. 川上大裕：気管挿管．FCCS プロバイダーマニュアル，藤谷茂樹，安宅一晃 監訳，第3版，MEDSI，東京，2018

VIII. 1. 23 歯科口腔外科

1. Yamamoto S, Takegawa H, Taniike N, Takenobu T: Actinomycotic Osteomyelitis of the Mandible Diagnosed Using Matrix Assisted Laser Desorption Ionization-Time of Flight Mass Spectrometry: A Case Report. J Oral Maxillofac Surg. 76: 2122-2130, 2018
2. Yamamoto S, Maeda K, Kouchi I, Hirai Y, Taniike N, Yamashita D, Imai Y, Takenobu T: Development of antiresorptive agent-related osteonecrosis of the jaw after dental implant removal: a case report. J Oral Implantol. 44: 359-364, 2018
3. Yamamoto S, Maeda K, Kouchi I, Hirai Y, Taniike N, Takenobu T: Calcium pyrophosphate dihydrate deposition disease of the temporomandibular joint with acute attack: A report of two cases. J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 30: 554-558, 2018
4. 前田圭吾，平井雄三，高地いづみ，山本信祐，谷池直樹，竹信俊彦：活動性出血を伴う下顎骨骨折に対して緊急手術を要した爆傷の1例．日本口腔顎顔面外傷学会誌 17：64-68，2018
5. 山本信祐，平井雄三，谷池直樹，竹信俊彦：インプラント除去症例における骨吸収抑制薬に関する臨床的検討．日本顎顔面インプラント学会誌 17：79-84，2018
6. 高地いづみ，山本信祐，前田圭吾，平井雄三，谷池直樹，竹信俊彦：ナビゲーションシステムが有用であった頬骨上顎骨複合体骨折を伴う顔面多発骨折の1例．日本口腔外科学会誌 64：58-62，2018
7. 山本信祐，平井真哉，前田康弘，山田剛也：金属片をX線透視下に除去した上顎骨穿通性外傷の1例．日口外傷誌 17: 7-11, 2018
8. 山本信祐，竹信俊彦，前田圭吾，高地いづみ，平井雄三，谷池直樹：下顎骨の骨延長が有用であった顔面多発骨折後変形治癒の1例．日口外傷誌 17：12-17，2018
9. 上原京憲，竹信俊彦，谷池直樹，宇佐美悠，平井雄三，山本信祐：小児の下顎枝部に生じた放線菌性下顎骨骨髓炎の1例．日本口腔外科学会誌 64：159-164，2018
10. 倉本恵里子，平島正樹，中浴伸二，安藤基純，池末裕明，平井雄三，土井朝子，橋田 亨：歯科領域における日帰り手術後の経口抗菌薬適正使用に向けた取り組みとその効果．医療薬学 44：422-428，2018
11. 竹信俊彦：前医の輸石の治療．兵庫県歯科医師会会報「すわやま」，2018

VIII. 1. 24 病理診断科

1. Fujimoto D, Yamashita D, Fukuoka J, Kitamura Y, Hosoya K, Kawachi H, Sato Y, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa R, Date N, Sakanoue I, Hamakawa H, Takahashi Y, Tomii K: Comparison of PD-L1 Assays in Non-small Cell Lung Cancer: 22C3 pharmDx and SP263. Anticancer Res. 38: 6891-6895, 2018

2. Ochi Y, Hiramoto N, Yoshizato T, Ono Y, Takeda J, Shiozawa Y, Yoshida K, Kakiuchi N, Shiraishi Y, Tanaka H, Chiba K, Kazuma Y, Tabata S, Yonetani N, Uehara K, Yamashita D, Imai Y, Nagafuji K, Yamakawa M, Miyano S, Takaori-Kondo A, Ogawa S, Ishikawa T: Clonally related diffuse large B-cell lymphoma and interdigitating dendritic cell sarcoma sharing MYC translocation. *Haematologica*. 103: e553-e556, 2018
3. Yamamoto S, Maeda K, Kouchi I, Hirai Y, Taniike N, Yamashita D, Imai Y, Takenobu T: Development of Antiresorptive Agent-Related Osteonecrosis of the Jaw After Dental Implant Removal: A Case Report. *J Oral Implantol*. 44: 359-364, 2018
4. Ohara Y, Kato S, Yamashita D, Satou A, Shimoyama Y, Hamaie C, Sato M, Ban N, Yamamoto K, Yamada T, Kawai H, Ohshima K, Nakamura S, Toyokuni S: An autopsy case report: Differences in radiological images correlate with histology in Erdheim-Chester disease. *Pathol Int*. 68: 374-381, 2018
5. Bando T, Ueno Y, Shinoda N, Imai Y, Ichikawa K, Kuramoto Y, Kuroyama T, Shimo D, Mikami K, Hori S, Matsumoto M, Hirai O: Therapeutic strategy for pineal parenchymal tumor of intermediate differentiation (PPTID) : case report of PPTID with malignant transformation to pineocytoma with leptomeningeal dissemination 6 years after surgery. *J Neurosurg Jul*. 1:1-7, 2018
6. Yokode M, Ikeda E, Matsui Y, Iwamura S, Mikami S, Kobayashi H, Imai Y, Kaihara S, Yamashita Y: Fistula Formation Secondary to Mucinous Appendiceal Adenocarcinoma May Be Related to a Favorable Prognosis: A Case Report and Literature Review. *Intern Med*. 57: 2945-2949, 2018
7. Maeda Y, Oyama R, Maeda H, Imai Y, Yoshioka S: Choriocarcinoma with multiple lung metastases from complete hydatidiform mole with coexistent fetus during pregnancy. *J Obstet Gynaecol Res*. 44: 1476-1481, 2018
8. Fujimoto D, Sato Y, Morimoto T, Uehara K, Ito M, Otsuka K, Nagata K, Sakanoue I, Hamakawa H, Nakagawa A, Takahashi Y, Imai Y, Tomii K: Programmed Cell Death Ligand 1 Expression in Non-Small-cell Lung Cancer Patients With Interstitial Lung Disease: A Matched Case-control Study. *Clin Lung Cancer*. 19: e667-e673, 2018
9. Ishii J, Shishido-Hara Y, Kawamoto M, Fujiwara S, Imai Y, Nakamichi K, Kohara N: A Punctate Magnetic Resonance Imaging Pattern in a Patient with Systemic Lupus Erythematosus Is an Early Sign of Progressive Multifocal Leukoencephalopathy: A Clinicopathological Study. *Intern Med*. 57: 2727-2734, 2018
10. Toyonaga H, Taniguchi Y, Inokuma T, Imai Y: Traumatic bile duct neuroma diagnosed by boring biopsy with cholangioscopy. *Gastrointest Endosc*. 87: 1361-1362, 2018
11. Hyogo Y, Kiyota N, Otsuki N, Goto S, Imamura Y, Chayahara N, Toyoda M, Nibu KI, Hyodo T, Hara S, Masuoka H, Kasahara T, Ito Y, Miya A, Hirokawa M, Miyauchi A, Minami H: Thrombotic Microangiopathy with Severe Proteinuria Induced by Lenvatinib for Radioactive Iodine-Refractory Papillary Thyroid Carcinoma. *Case Rep Oncol*. 11: 735-741, 2018.
12. Ogata T, Shimomura Y, Yamashita D, Imai Y, Ishikawa T: Substantial improvement in immune thrombocytopenic purpura associated with T-cell/histiocyte-rich B-cell lymphoma treated with chemotherapy: A case report. *Mol Clin Oncol*. 10: 441-445, 2019.
13. Ogata T, Satake H, Ogata M, Hatachi Y, Maruoka H, Yamashita D, Hashida H, Hamada M, Yasui H: Safety and effectiveness of FOLFOXIRI plus molecular target drug therapy for metastatic colorectal cancer: A multicenter retrospective study. *Oncotarget*. 10: 1070-1084, 2019
14. Yabushita T, Yoshioka S, Furumiya T, Nakamura M, Yamashita D, Imai Y, Ishikawa T: The impact of early diagnosis on the prognosis of extranodal NK/T-cell lymphoma with massive lung involvement: a case report. *BMC Pulm Med*. 19: 48, 2019
15. Kitamoto H, Yamashita D, Inokuma T: A rare tumor disseminated to the gastrointestinal tract after treatment for HIV-associated lymphoproliferative disease. *Gastroenterology*. 156: 2136-2138, 2019
16. Uehara K, Kawakami F, Hirose T, Morita H, Kudo E, Yasuda M, Märkl B, Zen Y, Itoh T, Imai Y: Clinicopathological analysis of clinically occult extrapulmonary lymphangioliomyomatosis in intra-pelvic and para-aortic lymph nodes associated with pelvic malignant tumors: A study of nine patients. *Pathol Int*. 69: 29-36, 2019
17. Shindo T, Masuda Y, Imai Y, Nagano T, Nishioka H: Case Report: Acute Generalized Exanthematous Pustulosis Caused by Praziquantel. *Am J Trop Med Hyg*. 100: 700-702, 2019
18. Shimomura Y, Sakai S, Ueda H, Fujikura K, Imai Y, Ishikawa T: Encapsulating peritoneal sclerosis in a patient after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: a case report. *BMC Gastroenterol*. 19: 12, 2019

19. Ogata M, Hatachi Y, Ogata T, Satake H, Imai Y, Yasui H: Effectiveness of Crizotinib for Inflammatory Myofibroblastic Tumor with ALK mutation. *Intern Med.* 58: 1029-1032, 2019
20. Nishioka H, Yoshizaki A, Imai Y, Higashibeppu N: Starvation-induced Liver Enzyme Elevation after Initiation of Feeding. *Intern Med.* 58: 749-753, 2019
21. Hyodo T, Saito K, Kono K, Nishi S, Itoh T, Hara S: A case of membranous nephropathy characterized by atypical distribution of phospholipase A2 receptor. *Clin Nephrol.* 91: 114-119, 2019
22. Hara S, Tsuji T, Fukasawa Y, Hisano S, Morito S, Hyodo T, Goto S, Nishi S, Yoshimoto A, Itoh T: Clinicopathological characteristics of thrombospondin type 1 domain-containing 7A-associated membranous nephropathy. *Virchows Arch.* 2019 Mar 14. doi: 10.1007/s00428-019-02558-0. [Epub ahead of print] PMID: 30868298
23. Hayashi K, Kikuchi M, Imai Y, Yamashita D, Hino M, Ito K, Shimizu K, Harada H, Shinohara S: Clinical Value of Fused PET/MRI for Surgical Planning in Patients with Oral/Oropharyngeal Carcinoma. *Laryngoscope.* 2019 Mar 21. doi: 10.1002/lary.27911
24. Satou A, Tabata T, Miyoshi H, Kohno K, Suzuki Y, Yamashita D, Shimada K, Kawasaki T, Sato Y, Yoshino T, Ohshima K, Takahara T, Tsuzuki T, Nakamura S: Methotrexate-associated lymphoproliferative disorders of T-cell phenotype: clinicopathological analysis of 28 cases. *Mod Pathol.* doi: 10.1038/s41379-019-0264-2
25. 天羽竜子, 山本威久, 木島衣理, 櫻井美帆子, 山田知絵子, 東 純史, 溝口好美, 中道伊津子, 井上 豊, 北岡太一, 窪田拓生, 植田初江, 原 重雄, 下辻常介: 腎組織の IgG サブクラス染色を行った薬剤性間質性腎炎の 1 例. *日本小児腎臓病学会雑誌* 31: 160-166, 2018
26. 宮迫貴正, 内藤隆之, 倉脇 壮, 小田川誠治, 清水優佳, 小川貴彦, 串田吉生, 原 重雄, 土井盛博, 正木崇生: ニボルマブによる非小細胞肺癌治療中に急性尿細管間質性腎炎をきたした 1 例. *日本腎臓学会誌* 60: 156-164, 2018

VIII. 1. 25 放射線診断科

1. Yoshimura H, Matsumoto R, Ueda H, Ariyoshi K, Ikeda A, Takahashi R, Kohara N: Status epilepticus in the elderly: Comparison with younger adults in a comprehensive community hospital. *Seizure.* 61: 23-29, 2018
2. 稲垣真裕, 上田浩之: 救急 IVR 手技詳説 - with WEB 動画 - 急性上腸間膜動脈塞栓症. *臨床放射線 増刊号:* 1478-1481, 2018
3. Shimomura Y, Sakai S, Ueda H, Fujikura K, Imai Y, Ishikawa T: Encapsulating peritoneal sclerosis in a patient after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: a case report. *BMC Gastroenterol.* 19: 12, 2019

VIII. 1. 26 放射線治療科

1. Inoue T, Kimura T, Kuriyama K, Yoshitake T, Iiduka Y, Inaba K, Kokubo M, Karasawa K, Kozuka T, Tanaka K, Ito Y, Shirato H: Stereotactic body radiotherapy to treat small lung lesions clinically diagnosed as primary lung cancer by radiological examination: a prospective observational study. *Lung Cancer.* 122: 107-112, 2018
2. Hamakawa H, Takahashi Y, Sakanoue I, Saito T, Date N, Tomii K, Katakami N, Imagunbai T, Kokubo M: Salvage Pulmonary Operations Following Stereotactic Body Radiotherapy for Small Primary and Metastatic Lung Tumors: Evaluation of the Operative Procedures. *Technology in Cancer Research & Treatment.* doi: 10.1177/1533033818807431, 2018
3. Onishi H, Marino K, Yamashita H, Terahara A, Onimaru R, Kokubo M, Shioyama Y, Kozuka T, Matsuo Y, Ariga T, Hiraoka M: Case series of 23 patients who developed fatal radiation pneumonitis after stereotactic body radiotherapy for lung cancer. *Technology in Cancer Research and Treatment.* doi: 10.1177/1533033818801323, 2018
4. Onimaru R, Onishi H, Ogawa G, Hiraoka M, Ishikura S, Karasawa K, Matsuo Y, Kokubo M, Shioyama Y, Matsushita H, Ito Y, Shirato H: Final report of survival and late toxicities in the Phase I study of stereotactic body radiation therapy for peripheral T2N0M0 non-small cell lung cancer (JCOG0702). *Jpn J Clin Oncol.* 48: 1076-1082, 2018

VIII. 1. 27 救急科

1. Matsuoka Y, Ikenoue T, Hata N, Taguri M, Itaya T, Ariyoshi K, Fukuhara S, Yamamoto Y: Hospitals' extracorporeal cardiopulmonary resuscitation capabilities and outcomes in out-of-hospital cardiac arrest: A population-based study. *Resuscitation.* 136: 85-92, 2019

2. Ohira J, Yoshimura H, Morimoto T, Ariyoshid K, Kohara N: Factors associated with the duration of the postictal state after a generalized convulsion. *Seizure*. 65: 101-105, 2019
3. 前田幹広, 有吉孝一(監修):おしゃべりガイドLINE 日本版・集中治療室における成人重症患者に対する痛み・不穏・せん妄管理のための臨床ガイドライン. *Emergency Care* 31: 449-454, 2018
4. 水 大介:超カンタン!! ERとICUを読み解く(第23回) インフルエンザを読み解く. *Emergency Care* 31: 461-463, 2018
5. 野浪 豪:5 肺. 救急・プライマリケアに必要なポイントオブケア超音波, 瀬良 誠 編著, 日本医事新報社, 東京, 56-68, 2018
6. 中田一弥, 有吉孝一(監修):おしゃべりガイドLINE 急性腹症ガイドライン2015. *Emergency Care* 31: 551-559, 2018
7. 水 大介:超カンタン!! ERとICUを読み解く(第24回) 酸素療法を読み解く. *Emergency Care* 31: 560-563, 2018
8. 中田一弥, 有吉孝一(監修):おしゃべりガイドLINE 急性腹症ガイドライン2015<その2>. *Emergency Care* 31: 653-662, 2018
9. 水 大介:超カンタン!! ERとICUを読み解く(第25回) PACSを読み解く. *Emergency Care* 31: 664-667, 2018
10. 有吉孝一:おしゃべりガイドLINE 熱中症診療ガイドライン2015. *Emergency Care* 31: 751-757, 2018
11. 水 大介:超カンタン!! ERとICUを読み解く(第26回) 心房細動を読み解く. *Emergency Care* 31: 758-761, 2018
12. 水 大介:超カンタン!! ERとICUを読み解く(第27回) ICUでの院内感染を読み解く. *Emergency Care* 31: 844-847, 2018
13. 水 大介:超カンタン!! ERとICUを読み解く(第28回) 電解質を読み解く. *Emergency Care* 31: 944-949, 2018
14. 安藤基純, 有吉孝一, 臼井聖尊, 斎藤 剛, 藤田友嗣, 堀 寧, 三瀬雅史, 山口浩明, 芳澤朋大:カルシウム拮抗剤の分析. *中毒研究* 31: 302-307, 2018
15. 水 大介:超カンタン!! ERとICUを読み解く(第29回) 家族支援を読み解く. *Emergency Care* 31: 1034-1036, 2018
16. 水 大介:超カンタン!! ERとICUを読み解く(第30回) RRSを読み解く. *Emergency Care* 31: 1145-1147, 2018
17. 有吉孝一, 柳井真知:躓く前に跳べ! 救急的人生相談(第1回) 職場にいる攻撃的な人とどう付き合うか? エマログ 32: 138-139, 2019
18. 水 大介:別冊 救急重要ワードブック. エマログ 32: 1-17, 2019
19. 有吉孝一, 木下裕規:神戸市立医療センター中央市民病院救急専門医養成プログラム. *救急医学* 43: 96-97, 2019
20. 有吉孝一, 柳井真知:躓く前に跳べ! 救急的人生相談(第2回) キャリアアップ・スキルアップしたいけれど……. エマログ 32: 281-283, 2019
21. 有吉孝一:咬まれた! 一人でも慌てない「こんなときどうする?」の処方箋 85. *Medicina* 56: 536-442, 2019

VIII. 1. 28 総合内科

1. Mizuno Y, Imoto H, Takahashi N, Ichikawa C, Nishioka H: Pleuritis and Pericarditis Following Silicone Breast Implants as Part of Autoimmune Syndrome Induced by Adjuvants. *Journal of Clinical Rheumatology*. 24: 404-406, 2018
2. Shimizu H, Nishino I, Ueda T, Kohara N, Nishioka H: Anti-mitochondrial antibody-associated myositis with eosinophilia and dropped head. *eNeurologicalSci*. 11: 15-16, 2018
3. Shindo T, Nishioka H: Infectious endocarditis with jump rope-like vegetations. *Infection*. 47: 139-140, 2019
4. Nishioka H, Yoshizaki A, Imai Y, Higashibeppu N: Starvation-induced Liver Enzyme Elevation after Initiation of Feeding. *Internal Medicine*. 58: 749-753, 2019
5. Doi A, Morimoto T, Iwata K: Shorter duration of antibiotic treatment for acute bacteraemic cholangitis with successful biliary drainage: a retrospective cohort study. *Clinical Microbiology and Infection*. 24: 1184-1189, 2018

6. Shindo T, Masuda Y, Imai Y, Nagano T, Nishioka H: Case Report: Acute Generalized Exanthematous Pustulosis Caused by Praziquantel. *American Journal of Tropical Medicine and Hygiene*. 100: 700-702, 2019
7. 西久保雅司：感染症カンファレンス実況中継. *J-IDEO* 2 : 365-377, 2018
8. 進藤達哉：リレー連載：集まれ！！グラ染野郎. *J-IDEO* 2 : 836-837, 2018
9. 土井朝子：季節性インフルエンザの診断、治療と予防. *KANSEN JOURNAL*, 2018
10. 進藤達哉, 栗林真悠, 伊藤次郎, 土井朝子, 瀬尾龍太郎：港島 ICU × ICT カンファレンス CRBSI. *Intensivist* 10 : 1028-1034, 2018

VIII. 1. 29 看護部

1. 大田育美：CPAに関わった一般病棟看護師がBLS訓練を受けたことによる心理的影響. 第49回日本看護学会論文集 看護管理 49 : 19-22, 2019

VIII. 1. 30 薬剤部

1. Takase T, Ikesue H, Tohi M, Ueta H, Mima H, Koyama T, Hashida T: Interaction between warfarin and short-term intravenous amiodarone in intensive care unit patients after cardiac surgery. *J Pharm Health Care Sci*. 4: 13, 2018
2. Yamamoto H, Ikesue H, Ikemura M, Miura R, Fujita K, Chung H, Suginoishi Y, Inokuma T, Hashida T: Evaluation of pharmaceutical intervention in direct-acting antiviral agents for hepatitis C virus infected patients in an ambulatory setting: a retrospective analysis. *J Pharm Health Care Sci*. 4: 17, 2018
3. Ikesue H, Nagano T, Hashida T: A case of acute kidney injury associated with dabrafenib and trametinib treatment for metastatic melanoma. *Ann Pharmacother*. 52: 1051-1052, 2018
4. Irie K, Shobu S, Hiratsuji S, Yamasaki Y, Nanjo S, Kokan C, Hata A, Kaji R, Masago K, Fujita S, Okada Y, Katakami N, Fukushima S: Development and validation of a method for gefitinib quantification in dried blood spots using liquid chromatography-tandem mass spectrometry: Application to finger-prick clinical blood samples of patients with non-small cell lung cancer. *J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci*. 1087-1088, 2018
5. Irie K, Okada A, Yamasaki Y, Kokan C, Hata A, Kaji R, Fukushima K, Sugioka N, Okada Y, Katakami N, Fukushima S: An LC-MS/MS method for absolute quantification of nivolumab in human plasma: application to clinical therapeutic drug monitoring. *Ther Drug Monit*. 40: 716-724, 2018
6. Okada A, Kariya M, Irie K, Okada Y, Hiramoto N, Hashimoto H, Kajioka R, Maruyama C, Kasai H, Hamori M, Nishimura A, Shibata N, Fukushima K, Sugioka N: Population pharmacokinetics of vancomycin in patients undergoing allogeneic hematopoietic stem-cell transplantation. *J Clin Pharmacol*. 58: 1140-1149, 2018
7. Masago K, Irie K, Fujita S, Imamichi F, Okada Y, Katakami N, Fukushima S, Yatabe Y: Relationship between paronychia and drug concentrations of epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitors. *Oncology*. 95: 251-256, 2018
8. Oshima E, Mibu M, Kubota M, Hashida T: Use of supplements by Japanese cancer patients receiving outpatient cancer chemotherapy. *J Altern Complement Med*. 24: 1003-1006, 2018
9. Torii H, Shimizu R, Tanizaki Y, Omiya Y, Yamamoto M, Kamiike S, Yasuda D, Hiraoka Y, Hashida T, Kume N: Effects of ramelteon and other sleep-promoting drugs on serum low-density lipoprotein and non-high-density lipoprotein cholesterol: A retrospective comparative pilot study. *Biol Pharm Bull*. 41: 1778-1790, 2018
10. Fujimoto K, Iwakura T, Aburaya M, Matsuoka N: Twice-daily insulin degludec/insulin aspart effectively improved morning and evening glucose levels and quality of life in patients previously treated with premixed insulin: an observational study. *Diabetology & Metabolic Syndrome*. 10: 64, 2018
11. Kotake T, Satake H, Okita Y, Hatachi Y, Hamada M, Omiya M, Yasui H, Hashida T, Kaihara S, Inokuma T, Tsuji A: Prevalence and risk factors of hepatitis B virus reactivation in patients with solid tumors with resolved HBV infection. *Asia Pac J Clin Oncol*. 15: 63-68, 2018
12. Hirabayashi R, Fujimoto D, Satsuma Y, Hirabatake M, Tomii K: Successful oral desensitization with osimertinib following osimertinib-induced fever and hepatotoxicity: a case report. *Invest New Drugs*. 36: 952-954, 2018
13. Maeda A, Irie K, Ando H, Hasegawa A, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Tajika M, Aoki M, Inaguma K, Kajita M, Fujimura A, Fukushima S: Associations among regorafenib concentrations, severe adverse reactions, and ABCG2 and OATP1B1 polymorphisms. *Cancer Chemother Pharmacol*. 83: 107-113, 2019

14. Irie K, Okada A, Masuda Y, Fukushima K, Sugioka N, Okuda C, Hata A, Kaji R, Okada Y, Katakami N, Fukushima S: Assessment of exposure risk of irinotecan and its active metabolite, SN-38, through perspiration during chemotherapy. *J Oncol Pharm Pract.* 25: 865-868, 2019
15. 倉本恵里子, 平島正樹, 中浴伸二, 安藤基純, 池末裕明, 平井雄三, 土井朝子, 橋田 亨: 歯科領域における日帰り手術後の経口抗菌薬適正使用に向けた取り組みとその効果. *医療薬学* 44: 422-428, 2018
16. 高瀬友貴, 池末裕明, 片岡美咲, 尾山将樹, 三沖大介, 藤井尚子, 奥貞 智, 室井延之, 橋田 亨: 院外処方せんの疑義照会に薬剤師が回答する院内プロトコールの導入とその効果. *医療薬学* 45: 82-87, 2019
17. 中川幸紀, 三木育子, 高瀬尚武, 田中智也, 三浦紋佳, 濱口常男, 高尾雄二郎, 勝谷 誠, 三井康裕, 室井延之: 直接作用型抗ウイルス薬 (Direct acting antivirals: DAAs) の副作用発現状況ならびに危険因子に関する検討. *日病薬雑誌* 55: 177-182, 2019
18. 橋田 亨: 医療現場で活躍する実力派薬剤師の養成は最初の一步が肝心. *薬学教育* 2: 113-116, 2018
19. 池末裕明: 入院から周術期, 退院後までをつなぐ薬物療法マネジメント. *HosPha* 29: 4-8, 2019
20. 池末裕明: 癌治療補助薬. *医薬ジャーナル増刊号. 新薬展望* 2019 55: S1: 169-172, 2019
21. 室井延之, 樋本繭子, 高瀬尚武: チュータ制度の導入による新人教育制度の構築～前年度の反省点を生かして～. 薬剤部門における階層別人材育成の理論と実践, 赤瀬朋秀 編集, 薬ゼミファームブック, 埼玉, 66-67, 2018
22. 室井延之: 医薬品副作用の影響要因. 環境因子-栄養状態・食事・嗜好品・ポリファーマシー. 医薬品副作用アセスメント, 日本医薬品安全性学会 監修, 南山堂, 東京, 40-43, 2019
23. 室井延之: 医薬品副作用の影響要因. 全身障害アセスメント. シーン2 オキサリプラチン(白金製剤)によるショックが疑われた! 医薬品副作用アセスメント, 日本医薬品安全性学会 監修, 南山堂, 東京, 86-89, 2019
24. 室井延之: 医薬品副作用の影響要因. 全身障害アセスメント. シーン4 インフリキシマブ (抗体医薬) によるショックが疑われた! 医薬品副作用アセスメント, 日本医薬品安全性学会 監修, 南山堂, 東京, 95-98, 2019
25. 室井延之: 医薬品副作用の影響要因. 血液・造血器障害アセスメント. シーン2 フルオロウラシル (抗がん薬) による顆粒球減少が疑われた! 医薬品副作用アセスメント, 日本医薬品安全性学会 監修, 南山堂, 東京, 153-156, 2019
26. 池末裕明: 処方箋に基づく医薬品の調製. (3) ケミカルハザード. 薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2019 年版, 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 監修, じほう, 東京, 82-85, 2019
27. 池末裕明, 橋田 亨: 抗悪性腫瘍薬. 治療薬ハンドブック 2019, 高久史磨 監修, じほう, 東京, 1008-1108, 2019
28. 平島正樹: 静脈血栓塞栓症. 臨床腫瘍薬学, 臨床腫瘍薬学会 編集, じほう, 東京, 657-663, 2019
29. 池末裕明: 免疫関連有害事象 (irAE). 臨床腫瘍薬学, 臨床腫瘍薬学会 編集, じほう, 東京, 769-776, 2019

VIII. 1. 31 放射線技術部

1. Yamashita M, Takahashi R, Kokubo M, Takayama K, Tanabe H, Sueoka M, Ishii M, Tachibana H: A feasibility study of independent verification of dose calculation for Vero4DRT using a Clarkson-based algorithm. *Medical Dosimetry.* 44: 20-25, 2019
2. Takahashi R, Kamima T, Itano M, Yamazaki T, Ishibashi S, Higuchi Y, Shimizu H, Yamamoto T, Yamashita M, Baba H, Sugawara Y, Sato A, Nishiyama S, Kawai D, Miyaoka S, Tachibana H: A multi-institutional study of secondary check of treatment planning using Clarkson-based dose calculation for three-dimensional radiotherapy. *Physica Medica.* 49: 19-27, 2018
3. Tachibana H, Uchida Y, Miyakawa R, Yamashita M, Sato A, Kito S, Maruyama D, Noda S, Kojima T, Fukuma H, Shirata R, Okamoto H, Nakamura M, Takada Y, Nagata H, Hayashi N, Takahashi R, Kawai D, Itano M: Multi-institutional comparison of secondary check of treatment planning using computer-based independent dose calculation for non-C-arm linear accelerators. *Physica Medica.* 56: 58-65, 2018
4. Hayashi K, Kikuchi M, Imai Y, Yamashita D, Hino M, Ito K, Shimizu K, Harada H, Shinohara S: Clinical Value of Fused PET/MRI for Surgical Planning in Patients with Oral/Oropharyngeal Carcinoma. *The Laryngoscope*, 2019 Mar 21. doi: 10.1002/lary.27911.

VIII. 1. 32 リハビリテーション技術部

1. Shinoda T, Nishihara H, Shimogai T, Ito T, Takimoto R, Seo R, Kanai M, Izawa KP, Iwata K: Relationship between Ventilator-associated Events and Timing of Rehabilitation in Subjects with Emergency Tracheal Intubation at Early Mobilization Facility. *Int. J. Environ. Res. Public Health*. 15: pii: E2892. doi: 10.3390/ijerph15122892, 2018
2. 下雅意崇亨：全てのセラピストに薦めたいリスク管理の「指南書」．＜理学療法 NAVI＞ここに注目！実践、リスク管理読本 書評，高橋哲也 編，医学書院，東京，2018
3. 下雅意崇亨：早期離床・運動への理解とリハビリテーションを受ける患者の看護．集中治療看護師のための臨床実践テキスト（療養状況と看護編），真興交易（株）医書出版部，東京，168-179，2018
4. 門 浄彦，岩田健太郎：ICU での早期リハビリテーションの Cost effectiveness. *ICU と CCU* 42：181-188, 2018
5. 高橋哲也，岩田健太郎：世界の生涯学習制度にみる生涯学習の課題と展望．*理学療法ジャーナル* 52：1001-1007，2018
6. 岩田健太郎：ERにおける脳卒中診療体制とは．急性期の脳卒中理学療法，手塚純一，甲田宗嗣，斉藤秀之 編集，三輪書店，東京，26-34，2018
7. Nagata M, Ohji G, Iwata K: Inadequate Postoperative Energy Intake Relative to Total Energy Requirements Diminishes Acute Phase Functional Recovery from Hip Fracture. *Int J Clin Pharmacol Ther*. 57: 264-269, 2019
8. Kato M, Saitoh M, Kawamura T, Iwata K, Sakurada K, Okamura D, Tahara M, Yuguchi S, Kamisaka K, Oura K, Mori Y, Morisawa T, Takahashi T: Postoperative atrial fibrillation is associated with delayed early rehabilitation after heart valve surgery: a multicenter study. *Phys Ther Res*. 22: 1-8, 2019

VIII. 1. 33 栄養管理部

1. 山本伊都香，新村里美，竹中麻理子，岩本昌子，岩倉敏夫：在宅静脈栄養の周期的投与による適正な栄養補給に難渋した一例．*日本病態栄養学会誌* 21：453-459，2018
2. Miyamoto M, Iwakura T, Matsuoka N, Iwamoto M, Takenaka M, Akamatsu Y, Moritani T: Impact of prolonged neuromuscular electrical stimulation on metabolic profile and cognition-related blood parameters in type 2 diabetes: A randomized controlled cross-over trial. *Diabetes Res Clin Pract*. 142: 37-45, 2018

VIII. 2 西市民病院

VIII. 2. 1 腎臓内科

1. 瀧口梨愛：透析患者へのカルニチン補充は必要か？ 質疑応答. 週刊日本医事新報 4950：62-63, 2019

VIII. 2. 2 消化器内科

1. Yokode M, Ikeda E, Matsui Y, Iwamura S, Mikami S, Kobayashi H, Imai Y, Kaihara S, Yamashita Y: Fistula formation secondary to mucinous appendiceal adenocarcinoma may be related to a favorable prognosis; A case report and literature review. *Inter Med.* 57: 2945-2949, 2018
2. Yokode M, Akita M, Fujiwara K, Kim MJ, Morinaga Y, Yoshikawa S, Terada T, Matsukiyo H, Tajiri T, Abe-Suzuki S, Itoh T, Hong SM, Zen Y: High-grade PanIN presenting with localized stricture of main pancreatic duct: A clinicopathological and molecular study of 10 cases suggests a clue for the early detection of pancreatic cancer: *Histopathology.* 73: 247-258, 2018
3. 横出正隆, 塩見英之, 板井良輔, 三上 栄, 山下幸政, 中野遼太, 江崎 健, 増田充弘, 全 陽: 超音波内視鏡下エラストグラフィおよび造影ハーモニック超音波内視鏡検査が診断の一助となった2型自己免疫性膵炎の1例. *日本消化器病学会雑誌* 115: 563-572, 2018
4. 三上 栄, 山下幸政: 【腸管感染症—最新的话题を含めて】 蟻虫症. *胃と腸* 53: 485-488, 2018

VIII. 2. 3 呼吸器内科

1. 富岡洋海：特発性間質性肺炎の治療の基本的な考え方. *呼吸臨床* 2: e00042, 2018
2. 富岡洋海：日常生活の管理. 呼吸器疾患 診断治療アプローチ 間質性肺炎・肺線維症と類縁疾患. 三嶋理晃 総編集, 吾妻安良太 専門編集, 中山書店, 東京, 134-139, 2018
3. 富岡洋海：間質性肺炎・肺線維症のトピックス 治療の目標と管理. *呼吸器内科* 34: 259-266, 2018
4. 富岡洋海, 佐藤公昭, 長井苑子：サルコイドーシス患者会「サルコイドーシス友の会」に参加して. *日サ会誌* 38: 93-95, 2018
5. 吉積悠子, 富岡洋海, 勝山栄治, 河端美則：気胸を契機に診断されたサルコイドーシスの1例. *日サ会誌* 38: 71-74, 2018
6. 古田健二郎, 和田学政, 富岡洋海, 石本学司, 田中詳二, 荒木雄穂, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 金子正博：市中病院内科外来における項目別初回吸入指導結果の検討. *日呼吸誌* 7: 135-141, 2018
7. 古田健二郎, 富岡洋海：炎症性腸疾患、ウイルス性肝炎治療における薬剤性肺障害. *最新医学* 73: 948-954, 2018
8. 古田健二郎, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 豆鞆伸昭, 山下修司, 木田陽子, 金子正博, 富岡洋海, 勝山栄治, 河端美則：ImmunoCAP® Specific IgG による鳥特異抗体陽性慢性間質性肺炎症例の臨床的検討. 第92回間質性肺疾患研究会討議録 113-118, 2018
9. 西尾智尋, 小西弘起, 王 康治, 富岡洋海：心外膜病変を伴い、肺癌との鑑別が困難であった胸部アクチノマイコーシスの1例. *日呼吸誌* 7: 255-258, 2018
10. Yamazoe M, Tomioka H, Yamashita S, Egami K, Oh K: Mycoplasma hominis empyema following caesarean section. *Respirol Case Rep.* 6: e00367, 2018
11. Yamazoe M, Tomioka H, Yamashita S, Furuta K, Kaneko M: Significance of blood cultures in nursing home-acquired pneumonia. *J Infect Chemother.* 24: 272-277, 2018
12. Yamazoe M, Tomioka H: Acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis: a 10-year singlecentre retrospective study. *BMJ Open Resp Res* 5: e000342, 2018
13. Kamada T, Kaneko M, Tomioka H: Comparison of respiratory system impedance in asthma and COPD: A prospective observational study. *Respirology.* 23: 478-484, 2018
14. Fujimoto D, Yoshioka H, Kataoka Y, Morimoto T, Kim YH, Tomii K, Ishida T, Hirabayashi M, Hara S, Ishitoko M, Fukuda Y, Hwang MH, Sakai N, Fukui M, Nakaji H, Morita M, Mio T, Yasuda T, Sugita T, Hirai T: Efficacy and safety of nivolumab in previously treated patients with non-small cell lung cancer: A multicenter retrospective cohort study. *Lung Cancer.* 119: 14-20, 2018

15. Nakatsuka Y, Handa T, Kokosi M, Tanizawa K, Puglisi S, Jacob J, Sokai A, Ikezoe K, Kanatani KT, Kubo T, Tomioka H, Taguchi Y, Nagai S, Chin K, Mishima M, Wells AU, Hirai T: The clinical significance of body weight loss in idiopathic pulmonary fibrosis patients. *Respiration*. 96: 338-347, 2018
16. Misu S, Kaneko M, Sakai H, Oki Y, Fujimoto Y, Ishikawa A, Ono R: Exercise-Induced Oxygen Desaturation as a Predictive Factor for Longitudinal Decline in 6-Minute Walk Distance in Subjects With COPD. *Respir Care*. 64: 145-52, 2019
17. Nguyen HAT, Fujii H, Vu HTT, Parry CM, Dang AD, Ariyoshi K, Yoshida LM: An alarmingly high nasal carriage rate of *Streptococcus pneumoniae* serotype 19F non-susceptible to multiple beta-lactam antimicrobials among Vietnamese children. *BMC Infectious Diseases*. 19: 241, 2019
18. Yamazoe M, Tomioka H, Kamada T, Kaneko M, Katsuyama E: Simultaneous presence of lung adenocarcinoma and malignant pleural mesothelioma: A case report. *Respiratory Medicine Case Reports*. 26: 45-49, 2019

VIII. 2. 4 小児科

1. 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 渡木綾子, 大路貴子, 竹崎裕子, 赤沢尚美: 神戸市内3区における食物アレルギー児に対する地域連携の取り組み. *小児科* 59: 949-954, 2018
2. 江口純治, 松本和徳, 光田好寛, 安島英裕, 田中由起子, 西山将広: 受診後早期に診断に至った発作性運動誘発性ジスキネジアの1例. *神戸市立病院紀要* 57: 7-11, 2018

VIII. 2. 5 皮膚科

1. 木村恭子, 小倉香奈子, 有吉綾香, 中村 敬: 乳児疥癬 フェノトリン投与により改善を認めた症例. *皮膚病診療* 40: 1247-1250, 2018
2. 小倉香奈子: 甲殻類アレルギー. 年代別食物アレルギーのすべて, 海老澤元宏 編, 改定2版, 南山堂, 東京, 212-213, 2018

VIII. 2. 6 外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科

1. 村上哲平, 松井優悟, 山本満雄: 術前に診断し得た超高齢者の Press-Through package (PTP) による小腸穿孔に対して腹腔鏡下手術を施行した1例. *日本救急医学会雑誌* 37: 29-33, 2017
2. 村上哲平, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 田中英治, 山本満雄: 腹直筋壊死・腹水貯留に至った大腿静脈穿刺中心静脈カテーテル迷入の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 78: 1640-1646, 2017
3. 村上哲平, 多山 葵, 松井優悟, 石田 叡, 堀田健太, 山田真規: 腹腔鏡下十二指腸空腸吻合を施行した膵癌局所再発による悪性狭窄の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 79: 2270-2275, 2018
4. 堀田健太, 松井優悟, 石田 叡, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平: 右鼠径ヘルニア術後 (mesh plug 法) の再発閉鎖孔ヘルニアに対して最終的に mesh sheet を使用した腹腔鏡下修復術を施行した1例. *日本内視鏡外科学会雑誌* 23: 937-942, 2018

VIII. 2. 7 整形外科

1. 小林雅典, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 山根逸郎, 高岡佑輔: 大腿骨近位部ステム周囲骨折に対してプレート固定を行った11例の検討. *中部整災誌* 61: 1135-1136, 2018
2. 藤原弘之: 化膿性仙腸関節炎の1例. *日本骨・関節感染症学会雑誌* 31: 77-81, 2018

VIII. 2. 8 泌尿器科

1. Tsushima T, Miura T, Hachiya T, Nakamura I, Yamato T, Kishida T, Tanaka Y, Irie S, Meguro N, Kawahara T, Nakajima N: Treatment Recommendation for Urological Symptoms in Cancer Patients: Clinical Guidelines from the Japanese Society for Palliative Medicine. *JOURNAL OF PALLIATIVE MEDICINE*. 22: 154-161, 2019
2. Okamura Y, Hinata N, Terakawa T, Furukawa J, Harada K, Nakano Y, Nakamura I, Inoue T, Ogawa T, Fujisawa M: External validation of nomogram for prediction of progression-free survival and liver toxicity in patients with advanced renal cell carcinoma treated with pazopanib. *Int J Clin Oncol (Published Online)* , 2019

VIII. 2. 9 歯科口腔外科

1. 河合峰雄：麻酔を味方に一日帰り麻酔下歯科治療の勧め－. 歯界月報 805：32, 2018

VIII. 2. 10 総合内科

1. 西尾智尋, 小西弘起, 王 康治, 富岡洋海：心外膜病変を伴い、肺癌との鑑別が困難であった胸部アクトノマイコーシスの1例. 日呼吸誌 7：255-258, 2018

VIII. 2. 11 看護部

1. 荒木敬雄：新人ナースのあなたを協力バックアップ！救急看護スタートアップ基礎編 看護のここをおさえよう！Emergency Care 31：346-349, 2018
2. 荒木敬雄：呼吸管理の疑問を解決しよう！腹臥位療法の効果は？Nursing Care⁺－エビデンスと臨床知－. 1：462-468, 2018
3. 大路貴子：外来化学療法を受ける患者からの電話相談のポイント. 継続看護を担う体質強化 外来看護 23：46-50, 2018
4. 大路貴子：特集. 高齢者がん薬物療法の実際, Seminar2, 2. 高齢者における副作用 皮疹, 皮膚障害(手足症候群を除く) マネジメントと看護. Geriatric Medicine 56：867-872, 2018
5. 大路貴子：どんな副作用がいつ出るのか. はじめてのがん化学療法看護, 辻 晃仁 編, 第1版, メディカ出版, 大阪, 46-47, 2018
6. 田中由紀子, 松本和徳, 満田好寛, 渡木綾子, 大路貴子, 竹崎裕子, 赤沢尚美：神戸市内3区における食物アレルギー児に対する地域連携の取り組み. 小児科 59：949-954, 2018

VIII. 2. 12 薬剤部

1. Tomioka H, Wada T, Yamazoe M, Yoshizumi Y, Nishio C, Ishimoto G: Ten-year experience of smoking cessation in a single center in Japan. Respiratory Investigation, <https://doi.org/10.1016/j.resinv.2019.01.007>, 2019

VIII. 2. 13 リハビリテーション技術部

1. Inoue T, Misu S, Tanaka T, Sakamoto H, Iwata K, Chuman Y, Ono R: Inadequate postoperative energy intake relative to total energy requirements diminishes acute phase functional recovery from hip fracture. Arch Phys Med Rehabil. 100: 32-38, 2019
2. Misu S, Kaneko M, Sakai H, Oki Y, Fujimoto Y, Ishikawa A, Ono R: Exercise-induced oxygen desaturation as a predictive factor for decline in 6-min walk distance in patients with chronic obstructive pulmonary disease. Respir Care. 64: 145-152, 2019
3. Inoue T, Misu S, Tanaka T, Kakehi T, Ono R: Acute phase nutritional screening tool associated with functional outcomes of hip fracture patients: A longitudinal study to compare MNA-SF, MUST, NRS-2002 and GNRI. Clin Nutr. 38: 220-226, 2019
4. Isa T, Ueda Y, Nakamura R, Misu S, Ono R: Relationship between the intention-behavior gap and self-efficacy for physical activity during childhood. J Child Health Care. 23: 79-86, 2019
5. 沖侑一郎, 玉木 彰, 藤本由香里, 山田莞爾, 三谷有司, 岩田優助, 山口卓巳, 山本暁生, 金子弘美, 大平峰子, 石川 朗：慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者における教育入院後の疲労感改善が与える効果についての検討. 理学療法兵庫 24：39-41, 2018

VIII. 3 西神戸医療センター

VIII. 3. 1 脳神経内科

1. Shirakawa C, Yanagihara C, Takano S, Ishio Y, A Mikawa: Endogenous endophthalmitis following staphylococcus aureus meningitis. *Rinsho Shinkeigaku (Clin Neurol)* . 59: 185-189, 2019
2. 服部託夢, 大賀隆正, 服部芽久美, 廣居直子, 碓永真理, 金沢 翼, 前田 悟, 高野 真, 湊小太郎: ベッドポジショニング用姿勢保持クッションの開発. *北陸大学紀要* 44: 43-51, 2018

VIII. 3. 2 免疫血液内科

1. Inui Y, Yakushijin K, Okamura A, Tanaka Y, Shinzato I, Nomura T, Ichikawa H, Mizutani Y, Kitao A, Kurata K, Kakiuchi S, Miyata Y, Sanada Y, Kitagawa K, Uryu K, Kawamoto S, Yamamoto K, Matsuoka H, Murayama T, Ito M, Minami H: Human herpesvirus 6 encephalitis in patients administered mycophenolate mofetil as prophylaxis for graft-versus-host disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Transpl Infect Dis*. 21: e13024, 2019
2. Okuni M, Yakushijin K, Uehara K, Ichikawa H, Suto H, Hashimoto A, Tanaka Y, Shinzato I, Sakai R, Mizutani Y, Nagao S, Kurata K, Kakiuchi S, Miyata Y, Inui Y, Saito Y, Kawamoto S, Yamamoto K, Ito M, Matsuoka H, Minami H: Successful Bridging Chemotherapy with Gemcitabine, Carboplatin, and Dexamethasone before Unrelated Stem Cell Transplantation for Hepatosplenic T-cell Lymphoma. *Intern Med*. 58: 707-712, 2019

VIII. 3. 3 精神・神経科

1. 高宮静男: 摂食障害における学校との連携. *精神科治療学* 33: 1463-1468, 2018
2. 清家かおる, 中里道子, 花澤 寿, 石川慎一, 河邊憲太郎, 堀内史枝, 高宮静男: 学校における摂食障害の児童/生徒の早期発見と支援のためのアンケート調査に関する研究—四県の養護教諭を対象にした質問紙調査より—. *児童青年精神医学とその近接領域* 59: 461-473, 2018
3. 佐藤真紀, 太田陽花, 菊池由貴, 北村葉子, 高宮静男: 管理栄養士としてできる早期対応と予防の試み. *子どもの心とからだ* 27: 491-493, 2019

VIII. 3. 4 小児科

1. Kawasaki Y, Matsubara K, Takahashi H, Morita M, Ohnishi M, Hori M, Isome K, Iwata A, Nigami H, Ikemachi M, Yamamoto G, Ohkusu K: Invasive meningococcal disease due to ciprofloxacin-resistant *Neisseria meningitidis* sequence type 4821: The first case in Japan. *J Infect Chemother*. 24: 305-308, 2018
2. 田中俊光, 笠井正志, 伊藤雄介, 田坂佳資: 腹部症状を伴わず有熱性けいれんで発症した *Campylobacter jejuni* 菌血症の1歳女児例と文献的考察. *小児感染免疫* 30: 45-49, 2018
3. 松原康策: 新生児・乳児のB群レンサ球菌感染症の現状. *チャイルドヘルス* 21: 363-365, 2018
4. 松原康策: B群溶血性レンサ球菌感染症. *小児疾患診断治療基準* 50: 376-377, 2018
5. Tamura A, Uemura S, Matsubara K, Kozuki E, Tanaka T, Nino N, Yokoi T, Saito A, Ishida T, Hasegawa D, Umeki I, Niihori T, Nakazawa Y, Koike K, Aoki Y, Kosaka Y: Co-occurrence of hypertrophic cardiomyopathy and juvenile myelomonocytic leukemia in a neonate with Noonan syndrome, leading to premature death. *Clin Case Rep*. 6: 1202-1207, 2018
6. Hiejima E, Shibata H, Yasumi T, Shimodera S, Hori M, Izawa K, Kawai T, Matsuoka M, Kojima Y, Ohara A, Nishikomori R, Ohara O, Heike T: Characterization of a large UNC13D gene duplication in a patient with familial hemophagocytic lymphohistiocytosis type 3. *Clin Immunol*. 191: 63-66, 2018
7. 松原康策, 森岡一朗: 新生児における感染症. *小児感染症の専門医を目指そう! 小児科診療* 81: 1177-1183, 2018
8. 脇本寛子, 矢野久子, 大城 誠, 田中太平, 松原康策, 鈴木千鶴子, 佐藤 剛, 今峰浩貴, 垣田博樹, 後藤盾信, 杉浦時雄, 加藤文典, 齋藤伸治, 村松幹司, 鈴木 悟: 早発型・遅発型B群レンサ球菌感染症の発症状況—多施設共同研究2007年~2016年—. *日本周産期・新生児医学会雑誌* 54: 118-124, 2018
9. 金 伽耶, 濱平陽史: インフリキシマブの投与を要したエルシニア感染症が関与した川崎病の2例. *兵庫県小児科会報* 70: 12-17, 2018
10. 山口善道: 先天性胆道拡張症. *画像診断* 38: A174-A181, 2018

VIII. 3. 5 皮膚科

1. 藤井翔太郎, 鷺尾 健, 正木太朗, 金丸聰淳: フルニエ壊疽 (その評価・治療に関する検討). 皮膚病診療 40: 999-1002, 2018
2. 鷺尾 健, 藤井翔太郎, 橋本朗子, 新里偉咲, 橋本公夫, 正木太朗: 手指壊疽を免れたクリオグロブリン血症 (B 細胞リンパ腫の早期治療により手指の冷感が改善した症例). 皮膚病診療 40: 1103-1106, 2018
3. Washio K, Yamamoto G, Ikemachi M, Fujii S, Ohnuma K, Masaki T: Rhabdomyolysis due to bacteremia from *Enterobacter cowanii* caused by a rose thorn prick. *The Journal of Dermatology*. 45: e313-e314, 2018
4. Washio K, Masaki T, Fujii S, Hatakeyama M, Oda Y, Fukunaga A, Natsuaki M: Anaphylaxis caused by a centipede bite: A "true" type-I allergic reaction. *Allergology International*. 67: 419-420, 2018
5. Masaki T, Nakano E, Okamura K, Ono R, Sugasawa K, Lee MH, Suzuki T, Nishigori C: A case of xeroderma pigmentosum complementation group C with diverse clinical features. *British Journal of Dermatology*. 178: 1451-1452, 2018
6. Wang Y, Masaki T, Khan SG, Tamura D, Kuschal C, Rogers M, DiGiovanna JJ, Kraemer KH: Four-dimensional, dynamic mosaicism is a hallmark of normal human skin that permits mapping of the organization and patterning of human epidermis during terminal differentiation. *PLoS One*. 13: e0198011, 2018
7. Masaki T, Tsujimoto M, Kitazawa R, Nakano E, Funasaka Y, Ichihashi M, Kitazawa S, Kakita A, Kanda F, Nishigori C: Autopsy findings and clinical features of a mild-type xeroderma pigmentosum complementation group A siblings: 40 years of follow-up. *JAAD Case Reports*. 5: 205-208, 2019
8. Fujii S, Washio K, Masaki T: Case report of chronic actinic dermatitis accompanied by ultraviolet A photosensitivity in a Chrysanthemum farmer. *The Journal of Dermatology*. doi: 10.1111/1346-8138.14818.2019

VIII. 3. 6 呼吸器外科

1. Nagata S, Ishihara M, Omasa M, Nakanishi T, Motoyama H: Multifocal Thymic Cysts with Cholesterol Granuloma. *Respirology Case Reports*. 6: e00361, 2018
2. Takahagi A, Omasa M, Chen-Yoshikawa TF, Hamaji M, Yoshizawa A, Sozu T, Sonobe M, Date H: Anterior mediastinal tissue volume is correlated with anti acetylcholine receptor antibody level in myasthenia gravis. *The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery*. 155: 2738-2744, 2018
3. Hamaji M, Sozu T, Machida R, Omasa M, Menju T, Aoyama A, Sato T, Chen-Yoshikawa TF, Sonobe M, Date H: Second malignancy versus recurrence after complete resection of thymoma. *Asian Cardiovasc Thorac Ann*. 26: 290-295, 2018
4. Hamaji M, Kawaguchi A, Omasa M, Nakagawa T, Sumitomo R, Huang CL, Fujinaga T, Ikeda M, Shoji T, Katakura H, Motoyama H, Menju T, Aoyama A, Sato T, Chen-Yoshikawa TF, Sonobe M, Date H: Low incidence of and mortality from a second malignancy after resection of thymic carcinoma. *Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery*. 28: 375-379, 2018
5. Miyata R, Hamaji M, Omasa M, Nakagawa T, Sumitomo R, Huang CL, Ikeda M, Fujinaga T, Shoji T, Katakura H, Motoyama H, Nakajima D, Ohsumi A, Menju T, Aoyama A, Chen-Yoshikawa TF, Sato T, Sonobe M, Date H: Survival outcomes after minimally invasive thymectomy for early stage thymic carcinoma. *Surgery Today*. 49: 357-360, 2018
6. Muranishi Y, Sonobe M, Hamaji M, Kawaguchi A, Hijiya K, Motoyama H, Menju T, Aoyama A, Chen-Yoshikawa TF, Sato T, Date H: Surgery for metachronous second primary lung cancer versus surgery for primary lung cancer: a propensity score-matched comparison of postoperative complications and survival outcomes. *Interact Cardiovasc Thorac Surg*. 26: 631-637, 2018
7. Sato T, Yutaka Y, Ueda Y, Hamaji M, Motoyama H, Menju T, Aoyama A, Chen-Yoshikawa TF, Sonobe M, Date H: Diagnostic yield of electromagnetic navigational bronchoscopy: results of initial 35 cases in a Japanese institute. *J Thorac Dis*. 10: S1615-S1619, 2018
8. Miyata R, Chen-Yoshikawa TF, Hamaji M, Gochi F, Motoyama H, Menju T, Aoyama A, Sato T, Sonobe M, Date H: Successful conservative management of an anastomotic airway dehiscence at the left main bronchus following bilateral cadaveric lung transplantation. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. 66: 368-371, 2018
9. Sonobe M, Hamaji M, Motoyama H, Menju T, Aoyama A, Chen-Yoshikawa TF, Sato T, Date H: Adjuvant vinorelbine and cisplatin after complete resection of stage II and III non-small cell lung cancer: long-term follow-up of our study of Japanese patients. *Surg Today*. 48: 687-694, 2018

10. Tanizawa K, Handa T, Kubo T, Chen-Yoshikawa TF, Aoyama A, Motoyama H, Hijiya K, Yoshizawa A, Oshima Y, Ikezoe K, Tokuda S, Nakatsuka Y, Murase Y, Nagai S, Muro S, Oga T, Chin K, Hirai T, Date H: Clinical significance of radiological pleuroparenchymal fibroelastosis pattern in interstitial lung disease patients registered for lung transplantation: a retrospective cohort study. *Respir Res.* 19: 162, 2018
11. Kayawake H, Chen-Yoshikawa TF, Aoyama A, Motoyama H, Hamaji M, Hijiya K, Date H: Surgical management of bronchial stumps in lobar lung transplantation. *J Thorac Cardiovasc Surg.* 156: 451-460, 2018
12. Kayawake H, Chen-Yoshikawa TF, Motoyama H, Hamaji M, Nakajima D, Aoyama A, Date H: Gastrointestinal complications after lung transplantation in Japanese patients. *Surg Today.* 48: 883-890, 2018
13. Miyoshi R, Chen-Yoshikawa TF, Hamaji M, Kawaguchi A, Kayawake H, Hijiya K, Motoyama H, Aoyama A, Date H: Effect of early tracheostomy on clinical outcomes in critically ill lung transplant recipients. *Gen Thorac Cardiovasc Surg.* 66: 529-536, 2018
14. Takahagi A, Chen-Yoshikawa TF, Saito M, Okabe R, Gochi F, Yamagishi H, Hamaji M, Motoyama H, Nakajima D, Ohsumi A, Aoyama A, Sonobe M, Date H: Native upper lobe-sparing living-donor lobar lung transplantation maximizes respiratory function of the donor graft. *J Heart Lung Transplant.* 38: 66-72. 2018
15. Hamaji M, Motoyama H, Menju T, Chen-Yoshikawa TF, Sonobe M, Kim YH, Date H: Thoracoscopic rebiopsy to detect the T790M mutation after postoperative recurrence. *Interact Cardiovasc Thorac Surg.* 27: 606-608, 2018
16. Saito M, Chen-Yoshikawa TF, Nakamoto Y, Kayawake H, Tokuno J, Ueda S, Yamagishi H, Gochi F, Okabe R, Takahagi A, Hamaji M, Motoyama H, Aoyama A, Date H: Unilateral Chronic Lung Allograft Dysfunction Assessed by Biphase Computed Tomographic Volumetry in Bilateral Living-donor Lobar Lung Transplantation. *Transplant Direct.* 4: e398, 2018
17. Miyahara S, Chen-Yoshikawa TF, Motoyama H, Nakajima D, Hamaji M, Aoyama A, Date H: Impact of flat chest on cadaveric lung transplantation: postoperative pulmonary function and survival. *Eur J Cardiothorac Surg* 55: 316-322, 2019
18. Kayawake H, Motoyama H, Date H: Variant scimitar syndrome with intralobar pulmonary sequestration containing adenocarcinoma. *Gen Thorac Cardiovasc Surg.* epub ahead of print, 2019
19. Hijiya K, Chen-Yoshikawa TF, Motoyama H, Ohsumi A, Nakajima D, Sakamoto J, Aoyama A, Date H: Long agonal period deteriorates cardiac death donor lung function in a rat EVLP model. *Gen Thorac Cardiovasc Surg.* epub ahead of print, 2019
20. Takahagi A, Shindo T, Chen-Yoshikawa TF, Yoshizawa A, Gochi F, Miyamoto E, Saito M, Tanaka S, Motoyama H, Aoyama A, Takaori-Kondo A, Date H: Trametinib Attenuates Delayed Rejection and Preserves Thymic Function in Rat Lung Transplantation. *Am J Respir Cell Mol Biol.* epub ahead of print, 2019
21. 大政 貢：肺癌診療ガイドライン 2018 年版作成委員（日本肺癌学会編）：肺癌診療ガイドライン 2018 年版，金原出版，東京，2018

VIII. 3. 7 脳神経外科

1. Yamamoto Y, Hosoda K, Imahori T, Tanaka J, Matsuo K, Nakai T, Irino Y, Shinohara M, Sato N, Sasayama T, Tanaka K, Nagashima H, Kohta M, Kohmura E: Pentose phosphate pathway activation via HSP27 phosphorylation by ATM kinase: A putative endogenous antioxidant defense mechanism during cerebral ischemia-reperfusion. *Brain Res.* 1687: 82-94, 2018.
2. Kohta M, Fujita A, Tanaka J, Sasayama T, Hosoda K, Kohmura E: Novel Segmentation of Placed Coils in the Treatment of Cavernous Sinus Dural Arteriovenous Fistulas Provides a Reliable Predictor of the Long-Term Outcome in Abducens Nerve Palsy. *World Neurosurg.* 113: e38-e44, 2018
3. Imahori T, Okamura Y, Sakata J, Shose H, Yokote A, Matsushima K, Matsui D, Kobayashi M, Hosoda K, Tanaka K, Fujita A, Kohmura E: Stent expansion and in-stent thrombus sign in the trevo stent retriever predict recanalization and possible etiology during mechanical thrombectomy: A case series of 50 patients with acute middle cerebral artery occlusion. *World Neurosurg.* pii: S1878-8750 (18) 32910-3, 2018
4. Kimura H, Hayashi K, Taniguchi M, Hosoda K, Fujita A, Seta T, Tomiyama A, Kohmura E: Detection of hemodynamic characteristics before growth in growing cerebral aneurysms by analyzing time-of-flight magnetic resonance angiography images alone: Preliminary results. *World Neurosurg.* 122: e1439-e1448, 2019

5. 垣内優芳, 西原賢在: 子宮体癌患者の肥満, 身体機能および歩行能力に対する理学療法と多職種連携の効果: 症例報告. 理学療法兵庫 24: 29-33, 2018

VIII. 3. 8 泌尿器科

1. 小河孝輔, 清水洋祐, 土橋一成, 木田和貴, 金丸聰淳, 石原美佐, 橋本公夫, 伊藤哲之: 膀胱 Inflammatory myofibroblastic tumor (IMT) の2例. 泌尿器科紀要 64: 445-450, 2018
2. 木田和貴, 清水洋祐, 小河孝輔, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 遠隔転移を来たした筋層非浸潤性膀胱癌の2例. 泌尿器科紀要 64: 271-275, 2018
3. Kida K, Shimizu Y, Ogawa K, Emura M, Kanamaru S, Ito N: A case of rapidly progressing prostate cancer diagnosed 20 months after holmium laser enucleation of the prostate. International Cancer Conference Journal. 7: 81-83, 2018
4. 清水洋祐, 小河孝輔, 木田和貴, 土橋一成, 金丸聰淳, 石原美佐, 橋本公夫, 伊藤哲之: 前立腺全摘除術における前立腺前脂肪組織内リンパ節転移に関する検討. 泌尿器科紀要 64: 359-363, 2018

VIII. 3. 9 耳鼻いんこう科

1. 甲藤麻衣, 雲井一夫: 喉頭結核の臨床的特徴と問題点. 日本気管食道学会会報 70: 1-8, 2019
2. Kojima Y, Otsuki N, Kubo M, Kitamoto J, Takata E, Saito H, Kosaka K, Morishita N, Uehara N, Shirakawa T, Nibu K: Adenovirus-mediated transfer of HPV 16 E6/E7 antisense RNA combined with cisplatin inhibits cellular growth and induces apoptosis in HPV-positive head and neck cancer cells. Cancer Gene Ther. 25: 274-283, 2018
3. Hara M, Otsuki N, Yanagisawa S, Kokan N, Fujio H, Shinomiya H, Morita N, Hara S, Inagaki H, Nibu K: A case of nasopharyngeal clear cell carcinoma diagnosed by molecular analysis. ACTA OTO-LARYNGOLOGICA CASE REPORTS. 3: 34-38, 2018

VIII. 3. 10 病理診断科

1. 前田紘奈, 石原美佐, 勝 浩紀, 佐原裕美子, 南口早智子, 橋本公夫: 子宮体部に発生した mesonephric-like adenocarcinoma の1例. 診断病理 35: 176-184, 2018
2. Nagata S, Ishihara M, Omasa M, Nakanishi T, Motoyama H: Multifocal thymic cysts with cholesterol granuloma. Respiriol Case Rep 6: e00361. Doi: 10.1002/rcr2.361. eCollection, 2018
3. Tanaka Y, Ishihara M, Miyoshi H, Hashimoto A, Shinzato I, Ohshima K: Spontaneous regression of diffuse large B-cell lymphoma in the small intestine with multiple lymphadenopathy. J Clin Exp Hematop. 59: 17-21, 2019
4. 小河孝輔, 清水洋祐, 土橋一成, 木田和貴, 金丸聰淳, 石原美佐, 橋本公夫, 伊藤哲之: 膀胱 Inflammatory myofibroblastic tumor (IMT) の2例. 泌尿器科紀要 64: 445-450, 2018
5. 清水洋祐, 小河孝輔, 木田和貴, 土橋一成, 金丸聰淳, 石原美佐, 橋本公夫, 伊藤哲之: 前立腺全摘除術における前立腺前脂肪組織内リンパ節転移に関する検討. 泌尿器科紀要 64: 359-363, 2018

VIII. 3. 11 臨床検査技術部

1. 竹川啓史: 「多剤耐性緑膿菌」ICTのための耐性菌対策お助けブック. INFECTION CONTROL 326: 223-228, 2019
2. 川井順一: 「異常Q波」から何を考えるか. Medical Technology 46: 865-875, 2018
3. 川井順一: IIルーチン検査の進め方 4 報告書の作成. 心エコーハンドブック基礎と撮り方, 竹中 克, 戸出浩之 編集, 金芳堂, 京都, 77-99, 2018
4. 川井順一: IIルーチン検査の進め方 1 依頼目的. 心エコーハンドブック基礎と撮り方, 竹中 克, 戸出浩之 編集, 金芳堂, 京都, 60-67, 2018
5. 川井順一: エキスパートが教える 心・血管エコー計測のノウハウ (1章) 心エコー 6. 左室流入血流と僧帽弁狭窄. 検査と技術 47: 260-279, 2018
6. 川井順一: エキスパートが教える 心・血管エコー計測のノウハウ (1章) 心エコー 10. 僧帽弁逆流. 検査と技術 47: 316-337, 2018

VIII. 3. 12 リハビリテーション技術部

1. 垣内優芳：理学療法士の視点と Q & A. 病院と在宅をつなぐ 脳神経内科の摂食嚥下障害－病態理解と専門職の視点－. 野崎園子 編著, 第 1 版, 全日本病院出版会, 東京, 134-135, 2018
2. Inoue T, Misu S, Tanaka T, Sakamoto H, Iwata K, Chuman Y, Ono R: Inadequate Postoperative Energy Intake Relative to Total Energy Requirements Diminishes Acute Phase Functional Recovery from Hip Fracture. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation. 100: 32-38, 2019
3. Inoue T, Misu S, Tanaka T, Kakehi T, Ono R: Acute phase nutritional screening tool associated with functional outcomes of hip fracture patients: A longitudinal study to compare MNA-SF, MUST, NRS-2002 and GNRI. Clinical Nutrition. 38: 220-226, 2019
4. 垣内優芳, 森 明子, 井上達朗, 秋永美津江: 透析関連低血圧に対する運動療法の可能性－症例報告. PT ジャーナル 52 : 473-477, 2018
5. 垣内優芳, 西原賢在: 子宮体癌患者の肥満, 身体機能および歩行能力に対する理学療法と多職種連携の効果. 理学療法兵庫 24 : 29-33, 2018
6. 垣内優芳：臨床実習サブノート どうする？情報収集・評価・プログラム立案 複雑な病態や社会的背景の症例 4 キーパーソンも高齢のパーキンソン病患者. PT ジャーナル 52 : 673-678, 2018

VIII. 3. 13 臨床工学室

1. 藤井清孝, 大野ゆう子, 丁 憲勇, 木戸倫子：医療機器運用全体 availability 評価に関する研究－臨床工学技士による問い合わせ（オンコール）対応からのアプローチ. 医療機器学 88 : 620-627, 2018
2. Fujii K, Ohno Y, Kido M, Ishida K, Hieyong J: Effect of Wandering Sensing Systems on Wireless Medical Telemetry Systems. 医療情報学 38: 321-336, 2019

VIII. 4 神戸アイセンター病院

VIII. 4. 1 診療部

1. Maeda A, Yoshida A, Kawai K, Arai Y, Akiba R, Inaba A, Takagi S, Fujiki R, Hiramami Y, Kurimoto Y, Ohara O, Takahashi M: Development of a molecular diagnostic test for Retinitis Pigmentosa in the Japanese population. *Jpn J Ophthalmol.* 62: 451-457, 2018
2. Takagi S, Mandai M, Hiramami Y, Sugita S, Takahashi M, Kurimoto Y: Frequencies of human leukocyte antigen alleles and haplotypes among Japanese patients with age-related macular degeneration. *Jpn J Ophthalmol.* 62: 568-575, 2018
3. Miyamoto N, Mandai M, Oishi A, Nakai S, Honda S, Hirashima T, Oh H, Matsumoto Y, Uenishi M, Kurimoto Y: Long-term results of photodynamic therapy or ranibizumab for polypoidal choroidal vasculopathy in LAPTOP study. *Br J Ophthalmol.* doi: 10.1136/bjophthalmol-2018-312419. Epub 2018 Aug 4. [Epub ahead of print]
4. Yoshitake S, Murakami T, Uji A, Fujimoto M, Dodo Y, Suzuma K, Tsujikawa A: Granular lesions of short-wavelength and near-infrared autofluorescence in diabetic macular oedema. *Eye (Lond)* . 2018 Oct 31. doi: 10.1038/s41433-018-0256-3. [Epub ahead of print]
5. Yoshitake S, Murakami T, Suzuma K, Yoshitake T, Uji A, Morooka S, Dodo Y, Fujimoto M, Shan Y, Fort PE, Ito S, Tsujikawa A, Yoshimura N: Anti-fumarase antibody promotes the dropout of photoreceptor inner and outer segments in diabetic macular oedema. *Diabetologia.* 2018 Nov 28. doi: 10.1007/s00125-018-4773-1. [Epub ahead of print]
6. Yoshimizu S, Hirose F, Takagi S, Fujihara M, Kurimoto Y: Comparison of pretreatment measurements of anterior segment parameters in eyes with acute and chronic primary angle closure. *Jpn J Ophthalmol.* 63: 151-157, 2019
7. Yoshitake T, Murakami T, Yoshitake S, Suzuma K, Dodo Y, Fujimoto M, Tsujikawa A: Anti-fumarase antibody as a predictor of functional efficacy of anti-VEGF therapy for diabetic macular edema. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 60: 787-794, 2019
8. Yoshitake T, Murakami T, Yoshitake S, Suzuma K, Dodo Y, Fujimoto M, Ito S, Tsujikawa A: Anti-Hexokinase 1 Antibody as a Novel Serum Biomarker of a Subgroup of Diabetic Macular Edema. *Sci Rep.* 9: 4806, 2019
9. 平見恭彦, 高橋政代: 再生医療の未来予想図. *あたらしい眼科* 35: 463-468, 2018
10. 栗本康夫: 再生医療とロービジョンケア. *新しい眼科* 35: 617-623, 2018
11. 吉水 聡, 宮本紀子, 栗本康夫: 裂孔原性網膜剥離と鑑別を要した転移性脈絡膜腫瘍による滲出性網膜剥離の1例. *臨床眼科* 72: 977-981, 2018
12. 山本庄吾, 高木誠二, 平見恭彦, 藤原雅史, 山本 翠, 高橋政代, 栗本康夫: 若年者の色素性傍静脈網脈絡膜萎縮の1例. *眼科臨床紀要* 11: 614-620, 2018
13. 栗本康夫: ぶどう膜炎・前房・硝子体2) 狭隅角/浅前房. 主訴と所見からみた眼科 common disease. *眼科* 60: 1131-1136, 2018
14. 栗本康夫: 原発閉塞隅角病 (PACD) の新しい展開. *日本の眼科* 29: 1660-1664, 2018.
15. 松崎光博: Ex-PRESS 併用濾過手術における術中光干涉断層計. *新しい眼科* 36: 323-327, 2019
16. 栗本康夫: 網膜の再生医療. *神戸市立病院紀要* 57: 1-6, 2018

IX. 学 会 報 告

IX. 学 会 報 告

IX. 1 中央市民病院

IX. 1.1 循環器内科

1. 北井 豪：アメリカ留学事情 トランプ政権から学ぶ Alternative Facts とは. 第 35 回小倉ライブ, 北九州, 2018.5.11-12
2. 河野裕之：ロータブレード stall からの離脱. 第 35 回小倉ライブ, 北九州, 2018.5.11-12
3. 安積佑太：石灰化病変に留置された拡張不良ステントに対し、ロータブレードを施行した一例. 第 35 回小倉ライブ, 北九州, 2018.5.11-12
4. 紺田利子, 谷 知子, 角田敏明, 菅沼直生子, 野村菜美子, 大畑淳子, 太田光彦, 北井 豪, 加地修一郎, 古川 裕: 僧帽弁両尖逸脱における僧帽弁逆流と Mitral Annular Disjunction との関連性について. 日本超音波医学会第 91 回学術集会, 神戸, 2018.6.8-10
5. 堀田 怜, 太田光彦, 紺田利子, 角田敏明, 藤井洋子, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 谷 知子, 古川 裕: 経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI) 後に経食道心エコー図で血栓弁を診断し得た 2 症例. 日本超音波医学会第 91 回学術集会, 神戸, 2018.6.8-10
6. 河野裕之, 北井 豪, 太田光彦, 野本奈津美, 堀 香菜, 紺田利子, 角田敏明, 谷 知子, 古川 裕, 小山 忠明: 大動脈弁置換術・三尖弁輪縮術後早期にパンヌス形成による弁機能不全を認めた症例. 日本超音波医学会第 91 回学術集会, 神戸, 2018.6.8-10
7. 松本 譲, 太田光彦, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 角田敏明, 紺田利子, 谷 知子, 小山忠明, 古川 裕: 腫瘍と血栓の鑑別が困難であった多発左房内腫瘍の一例. 日本超音波医学会第 91 回学術集会, 神戸, 2018.6.8-10
8. 堀田 怜: TAVI 弁留置後に左主幹部に高度狭窄を来した 1 例. 第 8 回豊橋ライブデモンストレーション, 豊橋, 2018.6.21-23
9. 辻坂勇太, 金 基泰: 妊娠中に大動脈解離を合併した Marfan 症候群の一例. 第 125 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2018.6.23
10. 佐々木康博: 循環器内科からみた抗血栓療法. 第 24 回日本血管内治療学会学術総会 ランチョンセミナー, 神戸, 2018.7.5-6
11. 江原夏彦: 大動脈弁狭窄症を合併した左内頸動脈高度狭窄症の 1 例. 第 24 回日本血管内治療学会学術総会, 神戸, 2018.7.5-6
12. 堀田 怜, 江原夏彦, 太田光彦, 金 基泰, 山根崇史, 北井 豪, 木下 慎, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕: 左室内閉塞を有する高度大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的大動脈弁置換 (TAVI) を施行した 3 例. 第 9 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会 JTVT2018, 大阪, 2018.7.8
13. 吉田一史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 太田光彦, 金 基泰, 江原夏彦, 小山 忠明: 当院で実施した経大動脈アプローチでの TAVI 症例の検討. 第 9 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会 JTVT2018, 大阪, 2018.7.8
14. 谷口智彦, 森本 剛, 北井 豪, 川瀬裕一, 泉 知里, 金森範夫, 村田耕一郎, 白井伸一, 安藤献児, 木村 剛: 重症大動脈弁狭窄症における突然死の予測因子～CURRENT AS レジストリからの知見. 第 9 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会 JTVT2018, 大阪, 2018.7.8
15. Kobori A: Expanding the World by “Surface” – Keys to Maximizing the Potential of Cryoballoon. The 65th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society, Tokyo, 2018.7.11-14
16. Sasaki Y: Feasibility of Left Atrial Roof Liner Ablation Using Cryo-balloon in Addition to Atrial Pulmonary Vein Isolation. The 65th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society, Tokyo, 2018.7.11-14
17. Kono H, Kobori A, Sasaki Y, Matsumoto Y, Ishizu K, Azumi Y, Horita R, Tsujisaka Y, Ota M, Kim K, Kitai T, Yamane T, Kinoshita M, Ehara N, Kaji S, Furukawa Y: Characteristics of the Luminal Esophageal Temperature during Pulmonary Vein Isolation Using Hot and Cryo Balloon. The 65th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society, Tokyo, 2018.7.11-14
18. Yoshizawa T, Shizuta S, Komasa A, Sasaki Y, Kobori A, Furukawa Y, Kimura T: The Long-term Clinical Outcomes of 2nd Generation Cryoballoon Ablation for Paroxysmal Atrial Fibrillation: A Report from Two High-volume Centers. The 65th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society, Tokyo, 2018.7.11-14

19. Matsumoto Y, Sasaki Y, Kobori A, Kono H, Tsujisaka Y, Azumi Y, Horita R, Ishizu K, Ota M, Kim K, Kitai T, Yamane T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Assessment of Adenosine Triphosphate Test and Necessity of Additional Gap Ablation after Cryoballoon Pulmonary Vein Isolation. The 65th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society, Tokyo, 2018.7.11-14
20. 中村悟士, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 高岡順子, 小原幹也, 坂地一朗, 古川 裕: カテーテル検査室における心内心電図への電気ノイズの影響と対策. 第 65 回日本不整脈心電学会学術大会, 東京, 2018.7.11-14
21. 田中雄己, 小堀敦志, 佐々木康博, 小原幹也, 高岡順子, 中村悟士, 中農陽介, 山城悠葵, 杉澤朋弥, 坂地一朗, 松本 讓, 古川 裕: 心房細動へのカテーテルアブレーション治療後に再発した心房頻拍の興奮回路同定に Ripple mapping が有効であった 1 例. 第 65 回日本不整脈心電学会学術大会, 東京, 2018.7.11-14
22. 北井 豪: 画像所見を心臓リハビリテーションに活かす. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
23. 島田和典, 代田浩之, 福岡長知, 朔啓二郎, 長山雅俊, 横山美帆, 牛島明子, 坂田泰彦, 松本泰治, 古川 裕, 西崎真里, 中西道郎, 安達 仁, 加藤宏司, 井澤英夫, 折口秀樹, 上月正博, 下川宏明, 野原隆司, 湊口信也, 磯 良崇, 藤本幹雄, 小林 平, 東條美奈子, 阿古潤哉, 明石嘉浩, 安齋 均, 甲斐久史, 百村伸一, 後藤葉一: 日本心臓リハビリテーション学会レジストリー: 中間報告と今後の展望. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 大会特別シンポジウム, 横浜, 2018.7.14-15
24. 宇佐美俊輔, 小笹寧子, 横松孝史, 古川 裕, 山根崇史, 北井 豪, 谷口良司, 山田武彦, 大石醒悟, 佐藤真治, 鮑 炳元, 杉山裕章, 土井孝浩, 静田 聡, 上嶋健治, 木村 剛: デバイス植込み後患者の変時性不全と運動耐容能・予後との関連—多施設共同レジストリ解析. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
25. 岩田健太郎, 井澤和夫, 石川 朗, 門 浄彦, 下雅意崇亨, 西原浩真, 仲村直子, 金 基泰, 山根崇史, 北井 豪, 古川 裕: 心不全患者における運動誘発性高血圧の発現頻度および心不全再入院に与える影響. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
26. 水谷和郎, 民田浩一, 高橋恭子, 山根光量, 大石醒悟, 辻井由紀, 熊尾良子, 山根崇史, 松石邦隆, 仲村直子, 竹原 歩, 庵地雄太, 平田健一, 伊藤博人: 兵庫サイコカーディオロジー研究会の展望—地域のメンタルケアへの貢献はできたか—. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
27. 大塚遼平, 椿 淳裕, 小柳圭一, 高橋祐介, 原田惇平, 帆苺美咲, 下雅意崇亨, 北井 豪, 山根崇史, 古川 裕, 岩田健太郎: 心臓血管外科手術患者において術前の運動機能が術後せん妄発症に与える影響. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
28. 西原浩真, 下雅意崇亨, 高橋祐介, 中垣美憂, 山根崇史, 北井 豪, 岩田健太郎: 当院 CCU より早期リハビリテーション介入となった PCPS 装着患者 5 例の検討. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
29. 中田歩美香, 下雅意崇亨, 岩田健太郎, 山根崇史, 北井 豪, 古川 裕: チアノーゼ性成人先天性心疾患患者に心肺運動負荷試験を施行した一例. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
30. 下出 優, 下雅意崇亨, 大塚脩斗, 山根崇史, 北井 豪, 古川 裕, 岩田健太郎: 心不全を呈した超高齢者の認知機能について. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
31. 横山公子, 下雅意崇亨, 北井 豪, 古川 裕, 岩田健太郎: 心臓外科手術後に ARDS 発症し長期人工呼吸器管理となったが歩行再獲得に至った症例. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
32. 中嶋璃奈, 下雅意崇亨, 岩田健太郎, 北井 豪, 山根崇史, 古川 裕: 心拍応答機能付きデバイス植込み患者の運動様式について検討した 1 例. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
33. 帆苺美咲, 椿 淳裕, 原田惇平, 高橋祐介, 小柳圭一, 大塚遼平, 北井 豪, 山根崇史, 古川 裕, 岩田健太郎: 重症循環器内科患者における歩行自立者のせん妄の発症に関する検討. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
34. 堀田 怜, 江原夏彦, 河野裕之, 辻坂勇太, 安積佑太, 石津賢一, 松本 讓, 太田光彦, 金 基泰, 北井 豪, 山根崇史, 木下 慎, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕: 静脈麻酔下での経カテーテル的大動脈弁置換の安全性と有用性. 第 27 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2018, 神戸, 2018.8.2-4

35. 辻坂勇太, 江原夏彦, 金 基泰, 山根崇史, 北井 豪, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: 経カテーテル的留置大動脈生体弁における弁尖血栓症の可能性. 第 27 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2018, 神戸, 2018.8.2-4
36. 河野裕之, 江原夏彦, 加地修一郎, 木下 慎, 北井 豪, 金 基泰, 太田光彦, 安積佑太, 堀田 怜, 石津賢一, 松本 譲, 辻坂勇太, 古川 裕, 小山忠明: Pro Glide を用いた穿刺と外科的切開による経大腿動脈経カテーテル大動脈弁留置術の比較. 第 27 回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2018, 神戸, 2018.8.2-4
37. 太田光彦: 第 11 回ストラクチャークラブジャパン近畿・中四国支部会学術講演会, 岡山, 2018.8.18
38. Kim K, Yamashita Y, Morimoo T, Amano H, Takase T, Hiramori S, Kobayashi Y, Oi M, Tada T, Murata K, Tsuyuki Y, Sakamoto J, Saga S, Furukawa Y, Kimura T: COMMAND VTE Registry Investigators: Risk factors for bleeding in patients with venous thromboembolism during long-term anticoagulation therapy: From the COMMAND VTE Registry. European Society of Cardiology (ESC2018), Munich, Germany, 2018.8.25-29
39. Tanaka N, Inoue K, Shizuta S, Tanaka K, Kobori A, Kaitani K, Morimoto T, Morishima I, Satomi K, Yamaji H, Nakazawa Y, Kusano K, Iwakura K, Fujii K, Kimura T: Kansai Plus Atrial Fibrillation ablation (KPAF): Subgroup analysis on gender differences in the efficacy of atrial fibrillation ablation: insights from the large scale multicenter registry. European Society of Cardiology (ESC2018), Munich, Germany, 2018.8.25-29
40. Ota M, Kitai T, Horita R, Azumi Y, Matsumoto Y, Ishizu K, Sasaki Y, Kim K, Yamane T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: A detailed assessment of geometric height of normal aortic cusps by 3-dimensional transesophageal echocardiography: implications for aortic valve repair surgery. European Society of Cardiology (ESC2018), Munich, Germany, 2018.8.25-29
41. Azumi Y, Tani T, Ishibashi K, Konda T, Sumida T, Sasaki Y, Ota M, Kim K, Kitai T, Yamane T, Konori A, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Impact of left atrial enlargement on very long-term outcomes in patients with hypertrophic cardiomyopathy. European Society of Cardiology (ESC2018), Munich, Germany, 2018.8.25-29
42. Matsumoto Y, Kobori A, Sasaki Y, Furukawa Y: Assessment of adenosine triphosphate test and necessity of additional gap ablation after cryoballoon pulmonary vein isolation. European Society of Cardiology (ESC2018), Munich, Germany, 2018.8.25-29
43. Kai H, Niiyama H, Rikitake-Iwamoto Y, Harada H, Katoh A, Furukawa Y, Kimura T: CREDO-Kyoto Cohort-1 Investigators: Effects of low blood pressure on cardiovascular events in diabetic patients with coronary artery disease after revascularization- The CREDO-Kyoto cohort-1. European Society of Cardiology (ESC2018), Munich, Germany, 2018.8.25-29
44. Nagano M, Ota M, Kitai T, Konda T, Sasaki Y, Kobori A, Kaji S, Furukawa Y: Long-term serial changes in left atrial volume and function after catheter ablation for atrial fibrillation. European Society of Cardiology (ESC2018), Munich, Germany, 2018.8.25-29
45. 舛本慧子, 太田光彦, 金 基泰, 山根崇史, 北井 豪, 江原夏彦, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕: 僧帽弁置換術後に経カテーテル的大動脈弁置換術を施行した一例. 第 66 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018.9.7-9
46. 辻坂勇太, 舛本慧子, 安積佑太, 堀田 怜, 太田光彦, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 古川 裕: 経カテーテル大動脈弁置換術後血栓弁が疑われた 4 症例. 第 66 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018.9.7-9
47. 太田光彦: ケースに学ぶ 8 右心昨日指標の計測法と臨床例. 第 66 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018.9.7-9
48. 太田光彦: ケースに学ぶ 17 塞栓症診療に経食道心エコーを活かす. 第 66 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018.9.7-9
49. 太田光彦: ケースに学ぶ 26 拡張不全の鑑別診断～心筋疾患を疑う前に見極めるべき疾患とは? 第 66 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018.9.7-9
50. 北井 豪: ケースに学ぶ 4 トルバプタンの止め時、続け時～用量、投与期間を考える～. 第 66 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018.9.7-9
51. 北井 豪: ケースに学ぶ 18 循環器診療における漢方処方例. 第 66 回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018.9.7-9

52. Kono H, Ehara N, Horita R, Kim K, Ota M, Kitai T, Yamane T, Kinoshita M, Kaji S, Koyama T, Furukawa Y: Comparison of percutaneous approach vs. surgical cutdown in Japanese patients undergoing transfemoral TAVI. PCR London Valves 2018, London, 2018.9.9-11
53. 堀田 怜, 太田光彦, 安積佑太, 金 基泰, 北井 豪, 山根崇史, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕: Minimal-Contrast TAVI の 2 症例. ストラクチャークラブジャパンライブデモンストレーション 2018, 岡山, 2018.9.28-29
54. 安積佑太, 谷 知子, 石橋健太, 太田光彦, 金 基泰, 山根崇史, 北井 豪, 加地修一郎, 古川 裕: 肥大型心筋症患者における発作性心房細動と心臓突然死の関係性. Impact of paroxysmal atrial fibrillation on sudden cardiac death in patients with hypertrophic cardiomyopathy. 第 22 回日本心不全学会学術集会, 東京, 2018.10.11-13
55. 堀田 怜, 北井 豪, 辻坂勇太, 安積佑太, 太田光彦, 金 基泰, 山根崇史, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕: 周産期心筋症が疑われたマルファン症候群の一例. A Case with Marfan Syndrome Mimicking Peripartum Cardiomyopathy. 第 22 回日本心不全学会学術集会, 東京, 2018.10.11-13
56. 仲村直子, 佐藤千賀, 山根崇史, 北井 豪, 古川 裕: 3 次救急を担う総合病院における心不全緩和ケアの実態調査～終末期のモルヒネ剤使用に焦点を当てて～. 第 22 回日本心不全学会学術集会, 東京, 2018.10.11-13
57. 舛本慧子, 江原夏彦, 安積佑太, 金 基泰, 太田光彦, 山根崇史, 北井 豪, 木下 慎, 加地修一郎, 古川裕, 堀内一史, 今村博敏, 坂井信幸: 経カテーテルの大動脈弁置換術施行後に準緊急的に頸動脈ステント留置術を施行した一例. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 大阪, 2018.10.13
58. 河野裕之, 江原夏彦, 金 基泰, 堀田 怜, 三好悠太郎, 舛本慧子, 辻坂勇太, 安積佑太, 佐々木康博, 太田光彦, 山根崇史, 北井 豪, 木下 慎, 加地修一郎, 小堀敦志, 小山忠明, 古川 裕: 経大腿経カテーテル大動脈弁置換術における穿刺法の安全性、有用性についての検討. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会, 大阪, 2018.10.13
59. 辻坂勇太, 太田光彦, 北井 豪, 安積佑太, 中原千裕, 紺田利子, 菅沼直生子, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕: 次元経食道心エコー図にて僧帽弁瘤の穿孔を描出し得た肺炎球菌性感染性心内膜炎の一例. 日本超音波医学会第 45 回関西地方会, 神戸, 2018.10.20
60. 舛本慧子, 太田光彦, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕: 経食道心エコー図にて一尖弁様のカラードブラ像を呈した大動脈弁狭窄症の 2 症例. 日本超音波医学会第 45 回関西地方会, 神戸, 2018.10.20
61. 三好悠太郎, 太田光彦, 堀 香菜, 紺田利子, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕: 左房壁の変性が疑われた僧帽弁位感染性心内膜炎の一例. 日本超音波医学会第 45 回関西地方会, 神戸, 2018.10.20
62. 菅沼直生子, 太田光彦, 北井 豪, 紺田利子, 上野菜美子, 長澤 淳, 加地修一郎, 谷 知子, 小山忠明, 古川 裕: 開心術後に心尖部に限局する echo free space を認めた一例. 日本超音波医学会第 45 回関西地方会, 神戸, 2018.10.20
63. 安積佑太, 加地修一郎, 北井 豪, 古川 裕: 急性 B 型大動脈解離例における抗血栓療法の予後への影響. 第 59 回日本脈管学会総会, 広島, 2018.10.25-28
64. 河野裕之: ホットバルーンアブレーションにおける左上肺静脈への至適通電温度とバルーン径の検討. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2018, 沖縄, 2018.11.9-11
65. 佐々木康博: HOT-balloon ablation における食道冷却方法の検討. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2018, 沖縄, 2018.11.9-11
66. Azumi Y, Kaji S, Sasaki Y, Ota M, Kim K, Yamane T, Kitai T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y: Impact of Anticoagulant Therapy on Clinical Outcomes in Patients with Type B Aortic Dissection. Sessions of the American Heart Association 2018, Chicago, IL, 2018.11.10-12
67. Tsujisaka Y, Kim K, Kaji S, Sasaki Y, Ota M, Kitai T, Yamane T, Atsushi K, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y: Mechanism of Improvement of Atrial Functional Mitral Regurgitation After Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: Three-Dimensional Analysis with Multislice Computed Tomography. Sessions of the American Heart Association 2018, Chicago, IL, 2018.11.10-12

68. Kitai T, Ota M, Horita R, Kim K, Yamane T, Kinoshita M, Kaji S, Ehara N, Koyama T, Furukawa Y: Impact of Small Aortic Annulus Area on Prosthetic Valve Hemodynamics After Surgical versus Transcatheter Aortic Valve Replacement in Patients with Severe Aortic Stenosis. Sessions of the American Heart Association 2018, Chicago, IL, 2018.11.10-12
69. Horita R, Ota M, Kitai T, Sasaki Y, Kim K, Yamane T, Kobori A, Kinoshita M, Kaji S, Ehara N, Koyama T, Furukawa Y: Comparison of Hemodynamic Performance of Self-Expandable and Balloon-Expandable Valve in Relation to Aortic Annulus Area in Patients Underwent Transcatheter Aortic Valve Replacement. Sessions of the American Heart Association 2018, Chicago, IL, 2018.11.10-12
70. Nishimoto Y, Yamashita Y, Morimoto T, Saga S, Amano H, Takase T, Hiramori S, Kim K, Oi M, Shiomi H, Kato T, Makiyama T, Ono K, Sato Y, Kimura T: Comparison of Clinical Characteristics and Outcomes of Venous Thromboembolism in Out-Of-Hospital and In-Hospital Onset: From the Command VTE Registry. Sessions of the American Heart Association 2018, Chicago, IL, 2018.11.10-12
71. 三好悠太郎：心嚢水貯留と心嚢内腫瘍を契機に発見された悪性リンパ腫の一例。第126回日本循環器学会近畿地方会，大阪，2018.11.24
72. 江原夏彦：心原性ショックを伴ったAS合併ACS症例。第4回PAC18，東京，2018.11.30-12.1
73. Horita R, Ota M, Sasaki Y, Kim K, Yamane T, Kitai T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Koyama T, Furukawa Y: Early hemodynamic performance of transcatheter versus surgical aortic valves in patients with small aortic annulus. EuroEcho-Imaging 2018, Milan, Italy, 2018.12.5-8
74. Masumoto A: TAVI in a patient with mechanical mitral prosthesis: interaction between the transcatheter valve and mitral prosthesis. PCR Tokyo Valves 2019, Tokyo, 2019.2.15-17
75. Horita R: MVR後におけるTAVIは人工弁干渉のリスクとなり得るか？PCR Tokyo Valves 2019, Tokyo, 2019.2.15-17
76. 下雅意崇亨，岩田健太郎，大塚脩斗，中嶋瑠奈，蔵谷鷹大，北井 豪，古川 裕：心不全に対する急性期病院での運動療法介入と再入院予防を目指した在宅リハとの連携理学療法プログラムについて。日本心臓リハビリテーション学会第4回近畿地方会，京都，2019.2.24
77. 佐々木慎，下雅意崇亨，荒川皓輔，若田恭介，岩田健太郎，北井 豪，古川 裕：不安・うつ傾向を呈した開心術後患者への外来心リハを導入することで身体機能とうつ傾向が改善した1症例。日本心臓リハビリテーション学会第4回近畿地方会，京都，2019.2.24
78. 井上裕美子，中田歩美香，下雅意崇亨，岩田健太郎，北井 豪，古川 裕：症候性の重症大動脈弁狭窄症患者に対し、厳格な運動負荷管理での運動療法により身体機能が改善できた症例。日本心臓リハビリテーション学会第4回近畿地方会，京都，2019.2.24
79. Kitai T, Yaku H, Kato T, Morimoto T, Ozasa N, Yamamoto E, Tamaki Y, Inuzuka Y, Nagao K, Furukawa Y, Kimura T: Mode of Death in Heart Failure With Preserved, Mid-Range Versus Reduced Ejection Fraction: Insights From KCHF Registry. ACC.19, 68th Annual Scientific Session & Expo, New Orleans, LA, 2019.3.16-18
80. Kono H, Kitai T, Kim K, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: The Predictive Value of Hemoconcentration and Hemoglobin Level During the Treatment of Acute Decompensated Heart Failure. ACC.19, 68th Annual Scientific Session & Expo, New Orleans, LA, 2019.3.16-18
81. Kono H, Kitai T, Kim K, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Fractional Excretion of Sodium After the Treatment of Acute Decompensated Heart Failure Predicts the Prognosis. ACC.19, 68th Annual Scientific Session & Expo, New Orleans, LA, 2019.3.16-18
82. Kobori A: Efficacy of high- power ablation based on ablation index on pulmonary vein isolation for atrial fibrillation. EHRA2019, Lisbon, Portugal, 2019.3.17-19
83. Sasaki Y, Kobori A: Effectiveness of dragging laser ablation for pulmonary vein isolation. EHRA2019, Lisbon, Portugal, 2019.3.17-19
84. Kaji S, Furukawa Y : How to Avoid Life-threatening Complications in Patients with Acute Aortic Syndrome: Importance of Aortic Team. The 83rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, 2019.3.29-31
85. Kaji S, Furukawa Y : Therapeutic Strategy of Type B Aortic Dissection. The 83rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, 2019.3.29-31

86. 井上耕一, 田中宣暁, 小堀敦志, 貝谷和昭, 森本 剛, 黒飛俊哉, 森島逸郎, 松井由美恵, 山地博介, 中澤優子, 草野研吾, 木村 剛, 静田 聡, 内藤滋人: Catheter Ablation Outcome and Heart Failure Hospitalization in Atrial Fibrillation Patients: Insights from the Kansai Plus Atrial Fibrillation (KPAF) Registry. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31
87. 竹治泰明, 谷口智彦, 森本 剛, 齋藤成達, 安藤献児, 白井伸一, 坂口元一, 新井善雄, 福 康志, 川瀬裕一, 小宮達彦, 江原夏彦, 北井 豪, 小山忠明, 渡邊 真, 渡部宏俊, 塩見紘樹, 牟田恵里, 松田真太郎, 夜久英憲, 芳川裕亮, 山崎和裕, 川東正英, 坂本和久, 田村俊寛, 三宅 誠, 阪口仁寿, 村田耕一郎, 中井真尚, 金森範夫, 泉 知里, 三岡仁和, 加藤雅史, 平野 豊, 稲田 司, 長央和也, 馬淵 博, 竹内泰代, 山根啓一郎, 田村 崇, 豊福 守, 石井 充, 猪子森明, 池田智之, 石井克尚, 堀田幸造, 陣内俊和, 東谷暢也, 加藤義紘, 犬塚康孝, 守上裕子, 湊谷謙司, 木村 剛, 高山守正: Transcatheter Aortic Valve Implantation versus Conservative Management in Patients with Severe Aortic Stenosis: A Propensity-score Matched Historical Comparison. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31
88. 竹治泰明, 谷口智彦, 森本 剛, 齋藤成達, 安藤献児, 白井伸一, 坂口元一, 新井善雄, 福 康志, 川瀬裕一, 小宮達彦, 江原夏彦, 北井 豪, 小山忠明, 渡邊 真, 渡部宏俊, 塩見紘樹, 牟田恵里, 松田真太郎, 夜久英憲, 芳川裕亮, 山崎和裕, 川東正英, 坂本和久, 田村俊寛, 三宅 誠, 阪口仁寿, 村田耕一郎, 中井真尚, 金森範夫, 泉 知里, 三岡仁和, 加藤雅史, 平野 豊, 稲田 司, 長央和也, 馬淵 博, 竹内泰代, 山根啓一郎, 田村 崇, 豊福 守, 石井 充, 猪子森明, 池田智之, 石井克尚, 堀田幸造, 陣内俊和, 東谷暢也, 加藤義紘, 犬塚康孝, 守上裕子, 湊谷謙司, 木村 剛, 田中秀和: Transcatheter Aortic Valve Implantation versus Surgical Aortic Valve Replacement in Patients with Severe Aortic Stenosis: A Propensity-score Matched Historical Comparison. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31
89. Kim K, Yamashita Y, Morimoto T, Amano H, Takase T, Hiramori S, Ohi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Furukawa Y, Kimura T: Risk Factors for Major Bleeding during Prolonged Anticoagulation Therapy in Patients with Venous Thromboembolism: From the COMMAND VTE Registry. The 83rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, 2019.3.29-31
90. Kato T, Yaku H, Morimoto T, Ozasa N, Inuzuka Y, Tamaki Y, Kitai T, Yoshikawa Y, Yamamoto E, Inoko M, Kawase Y, Nagao K, Kimura T: Prognostic Impact of High Controlling Nutritional Status (CONUT) Scores in Acute Decompensated Heart Failure. The 83rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, 2019.3.29-31
91. Watanabe H, Morimoto T, Shiomi H, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Kimura T: PCI Using Sirolimus-eluting Stents Only versus CABG in Patients with Multi-vessel Coronary Artery Disease (From the CREDO-Kyoto PCI/CABG registry/cohort-2). The 83rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, 2019.3.29-31
92. 甲斐久史, 新山 寛, 古川 裕, 木村 剛, 加藤宏司: Impact of Low Blood Pressure on Cardiovascular Death in Diabetic Patients with Coronary Artery Disease: The CREDO-Kyoto Cohort-1. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31
93. 吉澤尚志, 静田 聡, 小正晃裕, 佐々木康博, 小堀敦志, 古川 裕, 伊勢田高寛, 森田純次, 廣島謙一, 安藤献児, 木村 剛: A Multicenter Registry of Catheter Ablation for Atrial Fibrillation with the Second Generation Cryoballoon: From the BREAK-AF Study. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31
94. 小堀敦志, 佐々木康博, 豊田俊彬, 太田光彦, 金 基泰, 北井 豪, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: Impact of High-power Ablation Based on Ablation Index on Pulmonary Vein Isolation for Atrial Fibrillation. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31
95. 加地修一郎, 木下 慎, 江原夏彦, 小堀敦志, 北井 豪, 金 基泰, 太田光彦, 佐々木康博, 豊田俊彬, 古川 裕: Development and Validation of a Deep Learning System for Identifying Hypertrophic Cardiomyopathy in Cardiac Magnetic Resonance Images. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31
96. Matsuda Y, Masuda M, Kakita K, Sasaki Y, Miyamoto K, Noda T, Kusano K, Tanaka K, Inoue K, Kobori A: The Initial Experiences of Laser Balloon Pulmonary Vein Isolation: From Kansai Laser Balloon Ablation Registry. The 83rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, 2019.3.29-31
97. Sasaki Y, Kobori A, Furukawa Y: Effectiveness of Direct Visualization of Ring Electrode Location Using Endoscopic Laser Balloon Ablation System for Pulmonary Vein Isolation. The 83rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, 2019.3.29-31

98. Tsujisaka Y, Kim K, Kaji S, Toyota T, Sasaki Y, Ota M, Kitai T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y: Mechanism of Improvement of Atrial Functional Mitral Regurgitation after Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: Three-Dimensional Analysis with Multislice Computed Tomography. The 83rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, 2019.3.29-31
99. Ota M, Kitai T, Sasaki Y, Kobori A, Kaji S, Furukawa Y: Geometric Height of Aortic Valve Cusps Assessed by 3-dimensional Transesophageal Echocardiography in Patients with or without Significant Aortic Regurgitation. The 83rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama, 2019.3.29-31
100. 森田純次, 廣島謙一, 伊勢田高寛, 安藤献児, 静田 聡, 吉澤尚志, 小正晃裕, 古川 裕, 小堀敦志, 佐々木康博, 木村 剛: Regular Atrial Tachycardias after 2nd Generation Cryoballoon Ablation: Multicenter BREAK-AF Registry. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31
101. 森田純次, 廣島謙一, 伊勢田高寛, 安藤献児, 静田 聡, 吉澤尚志, 小正晃裕, 古川 裕, 小堀敦志, 佐々木康博, 木村 剛: Low Body Mass Index and Recurrence of Atrial Fibrillation after Cryoballoon Ablation: Multicenter BREAK-AF Registry2. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31
102. 山本絵里香, 加藤貴雄, 夜久英憲, 森本 剛, 芳川裕亮, 小笹寧子, 犬塚康孝, 田巻庸道, 長央和也, 北井 豪, 川瀬裕一, 木村 剛: Gender Difference in Patients Hospitalized for Acute Decompensated Heart Failure in Japan. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31
103. 高岡循子, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 中村悟士, 古川 裕, 坂地一朗: 3 タイプのバルーンアブレーションによる肺静脈隔離面積の比較. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31
104. 中農陽介, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中村悟士, 高岡循子, 坂地一朗, 古川 裕: Ablation Index ガイドアブレーションの肺静脈隔離術への効果検討. 第 83 回日本循環器学会総会学術集会, 横浜, 2019.3.29-31

IX. 1.2 糖尿病・内分泌内科

1. 松岡直樹: 糖尿病診療とメトホルミン. 第 38 回神戸市中央区内科医会学術講演会, 神戸, 2018.4.21
2. 伯田琢郎, 籀谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 新村里美, 能登理央, 岩倉敏夫, 石原 隆, 竹林慎治, 篠原尚吾, 今井幸弘, 松岡直樹: I-131 の集積を認め甲状腺癌縦隔リンパ節転移と鑑別を要した胸腺嚢胞の 1 例. 第 91 回日本内分泌学会学術総会, 宮崎, 2018.4.26
3. 籀谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 篠原尚吾, 日野 恵, 松岡直樹: 分化型甲状腺癌術後 RAI adjuvant 治療の適応についての検討. 第 91 回日本内分泌学会学術総会, 宮崎, 2018.4.26
4. 藤本寛太, 籀谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 能登理央, 新村里美, 岩倉敏夫, 松岡直樹: 甲状腺癌患者への I-131 投与時における尿中ヨード量の検討～rhTSH 法と休薬法の違い. 第 91 回日本内分泌学会学術総会, 宮崎, 2018.4.27
5. 岩倉敏夫: 迫りくる低血糖～重症低血糖を回避するためにすべきこと～. 糖尿病治療最適化セミナー, 徳島, 2018.5.11
6. 籀谷雄二: 甲状腺ホルモンが多すぎると? 少なすぎると? 市民健康講座知ってほしい甲状腺のこと, 神戸, 2018.5.19
7. 表 孝徳, 黒瀬 健, 田中永昭, 矢部大介, 浜本芳之, 黒江 彰, 岩倉敏夫, 高橋信雄, 鈴木春彦, 笈田耕治, 北野則和, 金森 晃, 久保田章, 安田浩一朗, 横山宏樹, 清野 裕, eGFR Study Group: eGFR Study 3years 最終報告: alogliptin の腎機能別用量における長期の有効性と安全性の検討. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018.5.25
8. 西村治男, 加藤純子, 大歳健太郎, 松岡直樹, 岸谷 譲, 長山浩士, 仲 元司, 山藤知宏, 奥田譲治, 馬屋原豊, 馬場泰人, 武 誠司, 澤木 明, 新谷光世, HARUKA-Study グループ: SGLT2 阻害薬はより早期介入で HbA1c を低下させやすい～イプラグリフロジンの多施設前向臨床研究 (HARUKA-Study) サブ解析より～. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018.5.26
9. 辻本貴江, 木田尊洋, 奥貞 智, 池末裕明, 松岡直樹, 橋田 亨: 2 型糖尿病患者における教育入院後の体重変化に基づく HbA1c の追跡調査. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018.5.26
10. 岩倉敏夫: 重症低血糖のリスクを考慮した適切な糖尿病治療プラン～高齢者および腎機能低下症例での適正使用～. 最適な糖尿病治療を考える会, 大阪, 2018.6.2

11. 藤本寛太：当院における甲状腺疾患治療の現状と取り組み. 神戸 糖尿病・内分泌 連携セミナー, 神戸, 2018.6.7
12. 岩倉敏夫：重症低血糖を防ぐためにすべきこと～実臨床における現状とその対策～. シュアポストライブ配信講演会, 神戸, 2018.6.13
13. 伯田琢郎, 岩倉敏夫：血糖コントロールと糖尿病性合併症. 糖尿病性網膜症の予防・治療を考える～内科・眼科連携の会～, 神戸, 2018.6.21
14. 岩倉敏夫：重症低血糖を回避する～実臨床における現状とその対策～. Diabetes Symposium in Osaka 2018 ～日本人の糖尿病治療を再考する～, 大阪, 2018.6.28
15. 岩倉敏夫：重症低血糖のリスクを考慮した適切な糖尿病治療プラン～高齢者および腎機能低下症例での適正使用～. 腎機能低下患者の糖尿病治療を考える会 in 笠間, 笠間, 2018.7.5
16. 岩倉敏夫：糖尿病治療薬の光と影～重症低血糖リスク回避の必要性～. 糖尿病と肝疾患を考える会, 浦和, 2018.8.23
17. 岩倉敏夫：重症低血糖を防ぐためにすべきこと～安全かつ良質な糖尿病治療を目指して～. 兵庫県保険医協会神戸支部研究会, 神戸, 2018.9.1
18. 永山貴恵, 簀谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：チアマゾール長期内服後に無顆粒球症を発症したバセドウ病の1例. 第110回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2018.9.8
19. 伯田琢郎, 簀谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：TSH抑制療法中に高Ca血症を認めた術後甲状腺癌の1例. 第110回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2018.9.8
20. 藤本寛太, 簀谷雄二, 伯田琢郎, 岩倉敏夫, 松岡直樹：高カルシウムクリーゼをきたした短腸症候群の1例. 第95回京都内分泌同好会, 京都, 2018.9.15
21. 岩倉敏夫：迫りくる低血糖～重症低血糖を回避するためにすべきこと～. 低血糖予防を考慮した糖尿病治療研究会, 東京, 2018.9.18
22. 岩倉敏夫：重症低血糖を回避する高齢者糖尿病の個別化した治療選択～安全かつ良質な医療の提供を目指して～. 高齢化を見据えた糖尿病治療戦略とは, 神戸, 2018.9.20
23. 藤本寛太：急性期病院における糖尿病診療の紹介. Diabetes & Incretin Seminar in 神戸, 神戸, 2018.9.20
24. 永山貴恵, 簀谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：チアマゾール長期内服後に無顆粒球症を発症したバセドウ病の1例. 第221回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.9.22
25. 岩倉敏夫：複雑化する糖尿病薬物療法～薬剤選択のコツと落とし穴～. 生活習慣病 Frontier セミナー in 明石, 明石, 2018.10.4
26. 藤本寛太, 簀谷雄二, 伯田琢郎, 岩倉敏夫, 松岡直樹：高カルシウムクリーゼをきたした短腸症候群の1例. 第19回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 大津, 2018.10.13
27. 松岡直樹, 岩倉敏夫, 簀谷雄二, 藤本寛太, 伯田琢郎, 大久保万理江：高血糖にもかかわらず尿糖の少ない1例. 第55回日本糖尿病学会近畿地方会, 神戸, 2018.10.27
28. 伯田琢郎, 岩倉敏夫, 大久保万理江, 藤本寛太, 簀谷雄二, 松岡直樹：急性症候性発作をきたした1型糖尿病性ケトアシドーシスの1例. 第55回日本糖尿病学会近畿地方会, 神戸, 2018.10.27
29. 磯村 望, 高津絵梨香, 斉藤二葉, 岩倉敏夫：SGLT2阻害薬による2型糖尿病患者の食行動の変化と治療効果についての検討. 第55回日本糖尿病学会近畿地方会, 神戸, 2018.10.27
30. 伯田琢郎, 簀谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：倦怠感原因検索で低カルチゾール血症を認めた11例の臨床像. 第28回臨床内分泌代謝 Update, 福岡, 2018.11.2
31. 岩倉敏夫：迫りくる低血糖～今、求められる重症低血糖のリスクマネジメント～. 美波セミナー in 甲賀, 甲賀, 2018.11.17
32. 岩倉敏夫：今、求められる治療継続を見据えた2型糖尿病の治療戦略とは. 第133回糖尿病教育学習研究会 第172回 IIDES 糖尿病研究会 第107回 CDE 兵庫県連合会研究会, 神戸, 2018.11.24
33. 伯田琢郎, 簀谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹：TSH抑制療法中に高Ca血症を認めた術後甲状腺癌の1例. 第61回日本甲状腺学会学術集会, 川越, 2018.11.24
34. 岩倉敏夫：迫りくる低血糖～重症低血糖を回避するためにすべきこと～. 糖尿病よろづ相談セミナー, 姫路, 2018.11.30

35. Fujimoto K, Hataya Y, Okubo M, Hakata T, Matsuoka N: The influence of levothyroxine on 24-h urine iodine excretion in thyroid cancer patients taking radioactive iodine therapy with recombinant human TSH. 18th International Congress of Endocrinology, Cape Town, South Africa, 2018.12.2
36. 岩倉敏夫：重症低血糖を回避する高齢者糖尿病の個別化した治療選択。 実地診療で役立つ！糖尿病治療 update ～超高齢社会の糖尿病治療戦略，つくば，2018.12.15
37. 岩倉敏夫，松岡 孝，横手幸太郎：第1回どうする？重症低血糖を回避したい！ エキスパートに聞く！ ちょっと聞きたい糖尿病診療，神戸，2018.12.18
38. 岩倉敏夫：重症低血糖を防ぐためにすべきこと～実臨床における現状とその対策～。 実地診療で役立つ！糖尿病治療 update，千葉，2019.1.12
39. 籾谷雄二，大久保万理江，伯田琢郎，藤本寛太，岩倉敏夫，松岡直樹，茨木まどか，増井秀行，水本素子：高カルシウム血症クリーゼをきたした短腸症候群の一例。 第22回日本病態栄養学会年次学術集会，横浜，2019.1.13
40. 山本 大，伯田琢郎，大久保万理江，藤本寛太，籾谷雄二，岩倉敏夫，松岡直樹：急性症候性発作をきたした1型糖尿病性ケトアシドーシスの1例。 第13回糖尿病臨床フォーラム，大阪，2019.1.26
41. 伯田琢郎，籾谷雄二，大久保万理江，藤本寛太，岩倉敏夫，石原 隆，松岡直樹：初回手術33年後に肺転移が出現した甲状腺乳頭癌の1例。 第41回京都甲状腺研究会，京都，2019.2.9
42. 籾谷雄二，大久保万理江，伯田琢郎，藤本寛太，岩倉敏夫，石原 隆，松岡直樹：初回手術33年後に肺転移が出現した甲状腺乳頭癌の1例。 第111回神戸甲状腺研究会，神戸，2019.2.9
43. 藤本寛太，籾谷雄二，伯田琢郎，岩倉敏夫，松岡直樹：著明な低リン低カルシウム血症をきたした前立腺癌患者の1例。 第96回京都内分泌同好会，京都，2019.2.16
44. 岩倉敏夫：重症低血糖を防ぐためにすべきこと～安全かつ良質な糖尿病治療を目指して～。 ランタス XR Webinar ～今、夜間低血糖を深く考える～，東京，2019.2.19
45. 松岡直樹：糖尿病治療の薬剤選択～メトホルミン治療を踏まえて～。 神戸メディカルサークル，神戸，2019.2.21
46. 松岡直樹：糖尿病治療の薬剤選択～メトホルミン治療を踏まえて～。 医療コミュニティ懇話会，神戸，2019.3.7
47. 岩倉敏夫：糖尿病性ケトアシドーシスと低P血症。 糖尿病・内分泌 Special Seminar，神戸，2019.3.14
48. 松岡直樹：糖尿病治療の薬剤選択～メトホルミン治療を踏まえて～。 神戸東播臨床連携研究会，神戸，2019.3.15

IX. 1.3 腎臓内科

1. 吉本明弘：多発性嚢胞腎の治療と病診連携。 兵庫区医師会学術講演会，神戸，2018.5.18
2. 中村和史，澤村直彦，能登理央，塩田文彦，田路佳範，原 重雄，吉本明弘：full-house nephropathy を呈した造血幹細胞移植後の1例。 第12回神戸膠原病腎臓カンファレンス，神戸，2018.5.24
3. 塩田文彦，澤村直彦，中村和史，能登理央，田路佳範，吉本明弘：当科におけるSGLT-2阻害剤の使用経験と蛋白尿の推移の検討。 第27回神戸・透析と情報懇話会，神戸，2018.5.12
4. 澤村直彦，塩田文彦，中村和史，能登理央，田路佳範，古川 裕，原 重雄，吉本明弘：腎機能の緩徐な増悪後にFabry病と診断した1例。 第18回京阪神Nephrology Conference，京都，2018.5.31
5. 中村和史，澤村直彦，能登理央，塩田文彦，田路佳範，原 重雄，吉本明弘：腫瘍性形質細胞の腎間質浸潤を認め、化学療法が奏功したMGRSの1例。 第63回日本透析医学会学術集会・総会，神戸，2018.6.29-7.1
6. 釜江直也，中村 聡，原園 裕，井上和久，坂地一朗，植田浩司，美馬裕之，吉本明弘：維持透析患者の開心術後CRRTにおいて膜材質が回路寿命に及ぼす影響の検討。 第63回日本透析医学会学術集会・総会，神戸，2018.6.29-7.1
7. 吉本明弘：慢性腎臓病の管理。 神戸腎疾患セミナー，神戸，2018.7.18
8. 吉本明弘：腎性貧血診断へのアプローチと治療。 高齢者の貧血を考える会，神戸，2018.9.8
9. 吉本明弘：PGNMIDの診断と治療、病理像と治療戦略。 第48回日本腎臓学会西部学術大会，徳島，2018.9.28-29
10. 吉本明弘：慢性腎不全の治療選択肢ー糖尿病性腎臓病 最近の話題ー。 豊岡医師会講演会，豊岡，2018.10.13

11. 吉本明弘：CKD-MBD 治療の現状. CKD-MBD シンポジウム 2108, 神戸, 2018.11.13
12. 田路佳範：当院における ESA 製剤の使用状況. 神戸バスキュラーアクセスセミナー, 神戸, 2018.11.29
13. 塩田文彦, 澤村直彦, 能登理央, 塩田文彦, 田路佳範, 吉本明弘：幹細胞研究と再生医療について—腎発生を中心に—. 第 13 回神戸膠原病腎臓カンファレンス, 神戸, 2018.12.6
14. 吉本明弘：ADPKD の病態と治療について. ADPKD セミナー, 神戸, 2019.1.26
15. 中村和史：full-house nephropathy を呈した造血幹細胞移植後の 1 例. 第 5 回京都腎疾患フォーラム, 京都, 2019.1.26
16. Kamae N, Ueta H, Shiota F, Nakamura S, Harazono Y, Nakazono H, Inoue K, Sakaji I, Mima H, Yoshimoto A: Cellulose triacetate membranes have a longer circuit life than polysulfone membranes in CRRT after cardiac surgery, 39th Annual Dialysis Conference, Dallas, 2019.3.16-19

IX. 1.4 脳神経内科

1. 藤原 悟, 川本未知, 十河正弥, 乾 涼磨, 石井淳子, 吉村 元, 幸原伸夫：短期間の絶食を契機に重篤なケトアシドーシスを呈した運動ニューロン疾患 3 例の検討. 第 59 回日本神経学会, 札幌, 2018.5.23
2. 川本未知, 田村亮太, 瀬川翔太, 三村直哉, 大平純一郎, 藤原 悟, 村上泰隆, 石井淳子, 河野智之, 吉村元, 尾原信行, 幸原伸夫：脳出血、脳梗塞、てんかん発作発症時の活動状況について：連続 8887 例の検討. 第 59 回日本神経学会, 札幌, 2018.5.24
3. 三村直哉, 藤原 悟, 瀬川翔太, 田村亮太, 大平純一郎, 上田 潤, 村上泰隆, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫：HSV 脳炎治療後に遅発性白質病変をきたした 4 症例の検討. 第 59 回日本神経学会, 札幌, 2018.5.25
4. 尾原信行, 今村博敏, 河野智之, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 梶浦晋司, 福田竜丸, 重安将志, 瀬川翔太, 田村亮太, 秋山 亮, 堀内一史, 大平純一郎, 三村直哉, 佐々木夏一, 松井雄一, 村上泰隆, 藤原 悟, 舟越勇介, 鈴木啓太, 石井淳子, 大村佳大, 春原 匡, 吉村 元, 足立秀光, 谷 正一, 川本未知, 坂井信幸, 幸原伸夫：神経内科医 二刀流のススメ. 第 59 回日本神経学会, 札幌, 2018.5.25
5. Ohira J, Yoshimura H, Tamura R, Segawa S, Mimura N, Fujiwara S, Murakami Y, Ishii J, Kono T, Ohara N, Kawamoto M, Kohara N: Changes in clinical features of sporadic amyotrophic lateral sclerosis in two decades. 第 59 回日本神経学会, 札幌, 2018.5.26
6. 尾原信行：脳卒中にならないために. 第 12 回兵庫県脳卒中市民公開講座ストップ！脳卒中, 神戸, 2018.5.27
7. 田村亮太, 尾原信行, 村上泰隆, 佐々木一朗, 藤原 悟, 河野智之, 今村博敏, 川本未知, 坂井信幸, 幸原伸夫：静脈グラフトによる頸動脈再建術 10 年後に急性内頸動脈閉塞を発症した若年女性例. 第 37 回日本脳神経超音波学会, 神戸, 2018.6.9
8. 三村直哉, 河野智之, 尾原信行, 加藤大典, 川本未知, 幸原伸夫：乳がん腫瘍細胞によると考えられた多発脳塞栓症を経頭蓋ドブラで評価できた 1 例. 第 37 回日本脳神経超音波学会, 神戸, 2018.6.9
9. 瀬川翔太, 吉村 元, 田村亮太, 川本未知, 幸原伸夫：ピリドスチグミン、3,4-ジアミノピリジンが著効した腫瘍非合併 Lambert-Eaton 症候群の一例. 日本内科学会近畿支部主催 第 220 回近畿地方会, 大阪, 2018.6.16
10. 尾原信行, 村上泰隆, 藤原 悟, 河野智之, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 梶浦晋司, 福田竜丸, 重安将志, 瀬川翔太, 田村亮太, 秋山 亮, 堀内一史, 大平純一郎, 三村直哉, 佐々木夏一, 松井雄一, 舟越勇介, 鈴木啓太, 石井淳子, 大村佳大, 春原 匡, 吉村 元, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 川本未知, 坂井信幸, 幸原伸夫：緊急血栓回収術の最新の話と再発予防のための脂質管理. 第 21 回連脈会, 大阪, 2018.6.22
11. 三村直哉, 吉村 元, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 田村亮太, 瀬川翔太, 大平純一郎, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 川本未知, 幸原伸夫：肝性脳症による三相波に対するベンゾジアゼピンの効果. 第 55 回亀山正邦記念神経懇話会 (KSK), 大阪, 2018.6.30
12. 尾原信行, 今村博敏, 河野智之, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 梶浦晋司, 福田竜丸, 瀬川翔太, 田村亮太, 秋山亮, 堀内一史, 大平純一郎, 三村直哉, 佐々木夏一, 松井雄一, 村上泰隆, 藤原 悟, 舟越勇介, 鈴木啓太, 石井淳子, 大村佳大, 春原 匡, 吉村 元, 足立秀光, 谷 正一, 川本未知, 幸原伸夫, 坂井信幸：急性期脳梗塞診療のパラダイムシフト. 第 24 回日本血管内治療学会学術集会, 神戸, 2018.7.5

13. 大平純一郎：神経内科に強くなろう！～苦手意識からの脱却～. 救急オープンセミナー, 神戸, 2018.7.11
14. 田村亮太, 川本未知, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 瀬川翔太, 大平純一郎, 三村直哉, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 幸原伸夫：急性辺縁系脳炎と自律神経障害を呈した抗 PCA-2 陽性脳炎を契機に肺小細胞癌発見に至った一例. 日本神経学会第 111 回近畿地方会, 大阪, 2018.7.21
15. Kohara N, Kawamoto M, Yamamoto H: Acute onset radial nerve palsy with a unique sonographic image of nerve torsion showing hourglass-like appearance. 3rd International Clinical Neurophysiology Conference of Iowa, Iowa, USA, 2018.7.21
16. 三村直哉：てんかんに慣れよう！救急オープンセミナー, 神戸, 2018.8.1
17. 川本未知：パーキンソン病患者のトラブルシューティング. 兵庫県病院薬剤師会東西支部会, 神戸, 2018.8.30
18. 川本未知：末梢血幹細胞移植とギラン・バレー症候群. 第 29 回日本末梢神経学会学術集会, 下関, 2018.9.8
19. 村上泰隆, 川本未知, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 田村亮太, 瀬川翔太, 大平純一郎, 三村直哉, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 幸原伸夫：T 細胞性リンパ芽球性リンパ腫の化学療法中に突発する意識障害と右心不全を呈した 51 歳女性. 第 76 回兵庫神経内科研究会, 神戸, 2018.9.14
20. 石井淳子, 水野泰志, 園 諭美, 今井幸弘, 幸原伸夫：眼窩下神経腫大・大腿神経肥厚を認め経過中に側頭動脈閉塞をきたした IgG4 関連疾患の 1 例. 第 30 回日本神経免疫学会, 郡山, 2018.9.20
21. 尾原信行, 今村博敏, 河野智之, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 梶浦晋司, 福田竜丸, 重安将志, 瀬川翔太, 田村亮太, 秋山 亮, 堀内一史, 大平純一郎, 三村直哉, 佐々木夏一, 松井雄一, 村上泰隆, 藤原 悟, 舟越勇介, 石井淳子, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 吉村 元, 足立秀光, 谷 正一, 川本未知, 幸原伸夫, 坂井信幸：脳梗塞その後～脳心連携の重要性～. 心房細動患者を地域でまもる～わがまちの医療連携～, 神戸, 2018.9.27
22. 田村亮太, 尾原信行, 村上泰隆, 藤原 悟, 河野智之, 今村博敏, 幸原伸夫, 坂井信幸：頸動脈小体腫瘍摘出術 10 年後に急性内頸動脈閉塞を発症した若年女性例. NET-I 2018, 福岡, 2018.9.29
23. 川本未知, 幸原伸夫, 山本博史, 松下隆文, 佐々木一朗：橈骨神経麻痺症例の超音波・MRfusion 画像と術中所見の対比. 日本超音波医学会第 45 回関西地方会, 神戸, 2018.10.20
24. Ohira J, Yoshimura H, Morimoto T, Ariyoshi K, Mimura N, Fujiwara S, Ishii J, Kono T, Ohara N, Kawamoto M, Kohara N: Factors associated with the duration of the postictal state after a generalized tonic-clonic seizure. The 52nd congress of the Japan Epilepsy Society, Yokohama, 2018.10.25
25. 尾原信行：急性期脳梗塞診療～神戸の取組み～. 脳血管内治療講演会 熊本赤十字病院, 熊本, 2018.10.26
26. 川本未知：ソリリス治療時のリスク管理. MG Expert Meeting in 神戸, 神戸, 2018.10.26
27. 石井淳子, 田村亮太, 大平純一郎, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 瀬川翔太, 三村直哉, 村上泰隆, 藤原 悟, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫：Bickerstaff 脳幹脳炎における神経伝導検査異常. 第 48 回日本臨床神経生理学会, 東京, 2018.11.8
28. 三村直哉, 吉村 元, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 田村亮太, 瀬川翔太, 大平純一郎, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 川本未知, 幸原伸夫：肝性脳症による三相波に対するベンゾジアゼピンの効果. 第 48 回日本臨床神経生理学会, 東京, 2018.11.9
29. 川本未知, 田村亮太, 瀬川翔太, 三村直哉, 大平純一郎, 藤原 悟, 村上泰隆, 石井淳子, 河野智之, 吉村 元, 尾原信行, 幸原伸夫：球症状のみを呈する ALS 患者の筋電図の特徴. 第 48 回日本臨床神経生理学会, 東京, 2018.11.9
30. Ohara N, Yamagami H, Sakai N: Acute Endovascular Treatment for Large Vessel Occlusion due to Intracranial Atherosclerosis. COLLATERAL2018, L.A, USA, 2018.11.9
31. 吉村 元, 松本理器, 池田昭夫, 幸原伸夫：高齢者の意識障害の脳波. 第 48 回日本臨床神経生理学会, 東京, 2018.11.9
32. 川本未知：ソリリスに関する安全性. Advisory Board Meeting, 東京, 2018.11.10
33. 尾原信行：神戸広域脳卒中地域連携協議会. 兵庫県脳卒中ネットワーク連絡協議会, 神戸, 2018.11.10
34. 尾原信行：知ってほしい！不整脈と脳梗塞の深い関係～脳梗塞の予防と治療の最前線～. 姫路市市民公開講座「知っていますか？心臓からの脳梗塞」, 姫路, 2018.11.11
35. Ohara N, Yamagami H, Sakai N: New Techniques for Intracranial Stenosis. SVIN2018 (脳神経血管内治療学会年次集会), SAN DIEGO, USA, 2018.11.16

36. 河野智之, 今村博敏, 藤原 悟, 村上泰隆, 舟越勇介, 大村佳大, 春原 匡, 尾原信行, 足立秀光, 幸原伸夫, 坂井信幸: 機械的血栓回収術前の t-PA 投与が治療成績に与える影響. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会, 仙台, 2018.11.22
37. 尾原信行, 今村博敏, 河野智之, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 梶浦晋司, 福田竜丸, 重安将志, 瀬川翔太, 田村亮太, 秋山 亮, 堀内一史, 大平純一郎, 三村直哉, 佐々木夏一, 松井雄一, 村上泰隆, 藤原 悟, 舟越勇介, 石井淳子, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 吉村 元, 足立秀光, 谷 正一, 川本未知, 幸原伸夫, 坂井信幸: 急性期血栓回収治療の予後規定因子. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会, 仙台, 2018.11.23
38. 村上泰隆, 尾原信行, 藤原 悟, 大村佳大, 福光 龍, 河野智之, 今村博敏, 足立秀光, 坂井信幸, 幸原伸夫: 症候性頭蓋内動脈狭窄は内科的治療のみで十分か. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会, 仙台, 2018.11.23
39. 尾原信行, 今村博敏, 河野智之, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 梶浦晋司, 福田竜丸, 重安将志, 瀬川翔太, 田村亮太, 秋山 亮, 堀内一史, 大平純一郎, 三村直哉, 佐々木夏一, 松井雄一, 村上泰隆, 藤原 悟, 舟越勇介, 石井淳子, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 吉村 元, 足立秀光, 谷 正一, 川本未知, 幸原伸夫, 坂井信幸: 発症から再開通までの時間短縮への取り組み. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会, 仙台, 2018.11.24
40. 吉村 元, 松本理器, 池田昭夫, 幸原伸夫: てんかん重積状態の診断と治療. 第 36 回日本神経治療学会, 東京, 2018.11.24
41. 吉村 元, 松本理器, 池田昭夫, 幸原伸夫: 高齢者のてんかん重積状態. 第 36 回日本神経治療学会, 東京, 2018.11.24
42. 尾原信行: 脳卒中治療における血圧管理の重要性. 多臓器連携高血圧セミナー 2018, 神戸, 2018.11.29
43. 川本未知: パーキンソン病治療の問題点. 神経疾患の地域連携を考える会, 神戸, 2018.12.6
44. 村上泰隆, 川本未知, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 田村亮太, 瀬川翔太, 大平純一郎, 三村直哉, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 幸原伸夫: T 細胞性リンパ芽球性リンパ腫の化学療法中に突発する意識障害と右心不全を呈した 51 歳女性. 第 112 回日本神経学会近畿地方会, 千里, 2018.12.8
45. 瀬川翔太, 藤原 悟, 河野智之, 西久保雅司, 井本寛東, 村上泰隆, 石井淳子, 吉村 元, 尾原信行, 川本未知, 幸原伸夫: 不全型 Behcet 病の経過中に脳主幹動脈閉塞を繰り返した一例. 第 112 回日本神経学会近畿地方会, 千里, 2018.12.8
46. 大平純一郎, 吉村 元, 森本 剛, 有吉孝一, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 田村亮太, 瀬川翔太, 三村直哉, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 河野智之, 川本未知, 幸原伸夫: 全般強直間代発作 (GTCS) 後の postictal state 持続時間とそれに関連する因子の検討. 第 56 回亀山正邦記念神経懇話会 (KSK), 大阪, 2018.12.15
47. 尾原信行: 当院における塞栓源不明脳梗塞診断. Stop the Secondary Stroke - 脳梗塞再発予防の AF 診断に関する検討会 -, 東京, 2019.1.26
48. 川本未知: パーキンソン病薬物療法の基本. 兵庫地区薬剤師会研修会, 2019.2.23
49. 木村正夢嶺, 藤原 悟, 田中 淳, 大村佳大, 山下大祐, 日野田卓也, 石川隆之, 坂井信幸, 原 重雄, 川本未知, 幸原伸夫: 多発脳出血を契機に診断に至った血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例. 第 113 回日本神経学会近畿地方会, 千里, 2019.3.17
50. 尾原信行, 今村博敏, 河野智之, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 梶浦晋司, 福田竜丸, 重安将志, 瀬川翔太, 田村亮太, 秋山 亮, 堀内一史, 大平純一郎, 三村直哉, 佐々木夏一, 松井雄一, 村上泰隆, 藤原 悟, 舟越勇介, 石井淳子, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 吉村 元, 足立秀光, 谷 正一, 川本未知, 幸原伸夫, 坂井信幸: 血栓回収療法の予後規定因子. STROKE2019, 横浜, 2019.3.21
51. 尾原信行, 今村博敏, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 梶浦晋司, 福田竜丸, 重安将志, 瀬川翔太, 田村亮太, 秋山 亮, 堀内一史, 大平純一郎, 三村直哉, 佐々木夏一, 松井雄一, 村上泰隆, 藤原 悟, 舟越勇介, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 河野智之, 足立秀光, 谷 正一, 幸原伸夫, 坂井信幸: リアルワールドが示す TREVO Xp ProVue Retriever の実力. STROKE2019, 横浜, 2019.3.21
52. 大平純一郎, 尾原信行, 黒田健仁, 木村正夢嶺, 田村亮太, 瀬川翔太, 三村直哉, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 河野智之, 吉村 元, 川本未知, 坂井信幸, 幸原伸夫: 延髄外側梗塞における初回頭脳 MRI-DWI の検討. STROKE2019, 横浜, 2019.3.22
53. 河野智之, 今村博敏, 大平純一郎, 三村直哉, 藤原 悟, 村上泰隆, 舟越勇介, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 尾原信行, 足立秀光, 坂井信幸, 幸原伸夫: 機械的血栓回収術で非完全再開通例に対する術前 t-PA 投与効果の検討. STROKE2019, 横浜, 2019.3.22

54. 藤原 悟, 尾原信行, 村上泰隆, 河野智之, 秋山 亮, 今村博敏, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一, 坂井信幸, 幸原伸夫:院内急変対応システム (Rapid Response System) を活用した院内発症脳梗塞対応. STROKE2019, 横浜, 2019.3.22
55. 木村正夢嶺, 藤原 悟, 太田光彦, 河野智之, 尾原信行, 今村博敏, 足立秀光, 坂井信幸, 幸原伸夫:急性期脳梗塞患者の心房細動検出における Left atrial emptying fraction (LAEF) の有用性. STROKE2019, 横浜, 2019.3.23
56. 村上泰隆, 尾原信行, 藤原 悟, 大村佳大, 福光 龍, 河野智之, 今村博敏, 足立秀光, 坂井信幸, 幸原伸夫:症候性頭蓋内動脈狭窄内科的治療の限界. STROKE2019, 横浜, 2019.3.23

IX. 1.5 消化器内科

1. 谷口洋平, 和田将弥, 猪熊哲朗:当院における TS1 膵癌の検討. 第 104 回日本消化器病学会総会, 東京, 2018.4.20
2. 谷口洋平, 和田将弥, 猪熊哲朗:悪性胆道狭窄に対する Metallic stent 胆管内留置法の検討. 第 95 回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2018.5.10
3. 井上貴裕, 森田周子, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗:中・下咽頭表在癌における局所切除術の治療成績. 第 95 回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2018.5.10
4. 大久保佑樹, 福島政司, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗:メッケル憩室診断におけるバルーン内視鏡の有用性. 第 95 回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2018.5.10
5. 井上聡子, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗:小腸および大腸狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術. 第 95 回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2018.5.10
6. 文原大貴, 谷口洋平, 猪熊哲朗:当院における自己免疫性膵炎に対しての EUS-FNA による病理診断能について. 第 95 回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2018.5.11
7. 福島政司, 井上聡子, 猪熊哲朗:当院における消化管出血に対する緊急バルーン内視鏡の現状. 第 95 回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2018.5.11
8. 猪熊哲朗:GERD 診療 up to date ~ボノプラザンの位置付けを考える~. タケキャブ錠発売 3 周年記念講演会, 神戸, 2018.5.17
9. 和田将弥, 谷口洋平, 猪熊哲朗, 今輩倍敏行:膵癌動体追尾強度変調放射線治療のための金マーカー留置方法としての EUS 下留置術の有用性. 日本消化器内視鏡学会第 100 回近畿支部例会, 大阪, 2018.5.26
10. 占野尚人, 福島政司, 森田周子, 猪熊哲朗:胃 ESD における抗血栓薬の取り扱い. 日本消化器内視鏡学会第 100 回近畿支部例会, 大阪, 2018.5.26
11. 井上貴裕, 占野尚人, 福島政司, 猪熊哲朗:けん引クリップを用いた大腸 ESD の治療成績, および ESD 初学者における同クリップの使用経験. 日本消化器内視鏡学会第 100 回近畿支部例会, 大阪, 2018.5.26
12. 上野由香里, 占野尚人, 池田結香, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 貝原 聡:当院で経験した乳癌胃転移 4 症例の検討. 日本消化器内視鏡学会第 100 回近畿支部例会, 大阪, 2018.5.26
13. 豊永啓翔, 井上聡子, 猪熊哲朗:Cronkhite Canada 症候群の胃病変における発症前後の所見. 日本消化器内視鏡学会第 100 回近畿支部例会, 大阪, 2018.5.26
14. 池田結香, 井上聡子, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗:当院で経験した虚血性小腸炎 3 症例の検討. 日本消化器内視鏡学会第 100 回近畿支部例会, 大阪, 2018.5.26
15. 大久保佑樹, 福島政司, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗:バルーン内視鏡で止血し得た小腸多発 inflammatory CAP polyp の一例. 日本消化器内視鏡学会第 100 回近畿支部例会, 大阪, 2018.5.26
16. 文原大貴, 谷口洋平, 大久保佑樹, 青山直樹, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗:乳頭部出血に対して fully covered metallic stent 留置後に仮性動脈瘤破裂を合併して一例. 日本消化器内視鏡学会第 100 回近畿支部例会, 大阪, 2018.5.26

17. 青山直樹, 谷口洋平, 大久保佑樹, 文原大貴, 豊永啓翔, 奥村 圭, 畑森裕之, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 著明な主膵管拡張をきたし、膵管鏡が診断に有用であった膵管癒合不全の1例. 日本消化器内視鏡学会第100回近畿支部例会, 大阪, 2018.5.26
18. Taniguchi Y: Intraductal vs. transpapillary fully covered self-expandable metal stent placement for malignant biliary stricture. DDW2018, Washington, DC, 2018.6.2-5
19. 森田周子, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院における食道癌化学放射線療法後遺症例の検討. 第53回兵庫県内視鏡治療談話会, 神戸, 2018.6.13
20. 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 福島政司, 和田将弥, 猪熊哲朗: 核酸アナログ投与中のHBs抗原およびコア関連抗原低値例に対してPeg-INF α 2aによるsequential therapyを行った2症例. 第54回日本肝臓学会総会, 大阪, 2018.6.14
21. 杉之下与志樹, 鄭 浩柄, 福島政司, 和田将弥, 猪熊哲朗: C型肝炎ウイルス(HCV)抗体陽性症例に対する当院の取り組み. 第54回日本肝臓学会総会, 大阪, 2018.6.14
22. 杉之下与志樹: 最新のC型肝炎治療と残されたメタボ時代の肝疾患(NASHなど). 灘区医師会生涯教育・学術講演会, 神戸, 2018.6.19
23. 杉之下与志樹: C型肝炎治療に伴うフォローアップの重要性. 第2回肝硬変講演会, 神戸, 2018.6.20
24. 文原大貴: DAA治療後に発症した自己免疫性肝炎について. 第33回東神戸消化器疾患セミナー, 神戸, 2018.6.21
25. 文原大貴: 当院でのトルバプタン使用経験からの考察. 神戸消化器懇話会, 神戸, 2018.7.5
26. 鄭 浩柄: 当院におけるC型肝炎に対するDAA治療成績とSVR後発癌. 兵庫肝疾患Expert Meeting, 神戸, 2018.8.4
27. 森田周子: 内視鏡による外科的治療. 第1回内視鏡関連指定講習会, 東京, 2018.8.4
28. 井上聡子: IBD患者の妊娠・出産. 第8回IBD Research Seminar, 大阪, 2018.9.1
29. 占野尚人: 残胃縫合線上ESD. 第17回兵庫胃がん治療研究会, 神戸, 2018.9.21
30. 井上貴裕, 占野尚人, 福島政司, 猪熊哲朗: 初学者における大腸ESDの治療成績についての検討. 日本消化器病学会近畿支部第109回例会, 大阪, 2018.9.29
31. 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院におけるC型肝炎に対するDAA治療後発癌例に関する検討. 日本消化器病学会近畿支部第109回例会, 大阪, 2018.9.29
32. 谷口洋平, 和田将弥, 猪熊哲朗: 悪性胆道狭窄に対する術前full covered metallic stentの使用について. 日本消化器病学会近畿支部第109回例会, 大阪, 2018.9.29
33. 文原大貴, 杉之下与志樹, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: ソラフェニブ、レゴラフェニブ不応性の肝細胞癌に対してレンバチニブが有効であった一例. 日本消化器病学会近畿支部第109回例会, 大阪, 2018.9.29
34. 上野由香里, 井上聡子, 池田結香, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 原 重雄: ダブルバルーン内視鏡で診断したオルメサルタン関連スプルー様腸疾患の一例. 日本消化器病学会近畿支部第109回例会, 大阪, 2018.9.29
35. 豊永啓翔, 井上聡子, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 繰り返し専攻をきたしたtrisomy8陽性骨髄異形成症候群併発腸管パーチェット病の1例. 日本消化器病学会近畿支部第109回例会, 大阪, 2018.9.29
36. 池田結香, 鄭 浩柄, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院における過去8年間の急性E型肝炎に関する検討. 日本消化器病学会近畿支部第109回例会, 大阪, 2018.9.29
37. 大久保佑樹, 福島政司, 池田結香, 上野由香里, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 山下大祐: 小腸癌術後に腹膜転移により小腸穿孔を来した一例. 日本消化器病学会近畿支部第109回例会, 大阪, 2018.9.29

38. 青山直樹, 谷口洋平, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 豊永啓翔, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 原 重雄: 肺腺癌治療中にEUS-FNA で診断しえた転移性脾腫瘍の1例. 日本消化器病学会近畿支部第109回例会, 大阪, 2018.9.29
39. 鄭 浩柄: C型慢性肝炎・肝癌に対する内服治療の現状と課題. 神戸市北区薬剤師会第201回研修会, 神戸, 2018.10.4
40. 杉之下与志樹: 超音波の未来を切り拓く. 日本超音波医学会第45回関西地方学術集会, 神戸, 2018.10.20
41. 鄭 浩柄: 超音波の未来を切り拓く. 日本超音波医学会第45回関西地方学術集会, 神戸, 2018.10.20
42. Okubo Y, Fukushima M, Inokuma T, Imai Y: Usefulness of double-balloon enteroscopy for diagnosis of Meckel's diverticulum. UEG2018, Vienna, 2018.10.20-24
43. Toyonaga H, Taniguchi Y, Wada M, Inokuma T: Preoperative biliary drainage using plastic stents versus self-expandable metal stents for perampullary cancer. UEG2018, Vienna, 2018.10.20-24
44. 井上貴裕: 症例検討 大腸. 神戸若手消化器ミーティング, 神戸, 2018.10.26
45. 池田結香, 井上聡子, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院で経験した虚血性小腸炎の検討. 第41回京大消化器内科関連病院症例検討会, 京都, 2018.10.27
46. 青山直樹, 谷口洋平, 大久保佑樹, 文原大貴, 豊永啓翔, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 当院における脾神経内分泌腫瘍(PNET)50例の画像所見についての検討. JDDW2018, 神戸, 2018.11.3
47. 和田将弥, 谷口洋平, 猪熊哲朗: 当院における脾周囲液体貯留に対する超音波内視鏡下水嚢胞ドレナージ術(EUS-CD)の工夫. 第101回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
48. 占野尚人, 福島政司, 森田周子, 猪熊哲朗: 残胃癌のESD一縫合線上の切除一. 第101回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
49. 井上貴裕, 森田周子, 福島政司, 占野尚人, 猪熊哲朗: 当院における咽頭癌早期診断への内視鏡的アプローチ. 第101回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
50. 青山直樹, 福島政司, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 原 重雄: 繰り返す腸閉塞をきっかけに診断された非特異性多発性小腸潰瘍の1例. 第101回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
51. 文原大貴, 福島政司, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 原 重雄: 小腸NETの2例. 第101回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
52. 池田結香, 福島政司, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 当院で経験した肺癌小腸転移の4例. 第101回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
53. 上野由香里, 森田周子, 池田結香, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 胃粘膜に炭酸ラントンの沈着を認めた透析患者の一例. 第101回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
54. 大久保佑樹, 福島政司, 池田結香, 上野由香里, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 山下大祐: 小腸癌診断におけるダブルバルーン内視鏡の有用性. 第101回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
55. 上田智也, 井上聡子, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 乳癌術後21年経過して、胃・十二指腸・大腸に多発転移をきたした1例. 第101回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
56. 豊永啓翔, 谷口洋平, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 十二指腸閉塞を来した脾悪性リンパ腫の1例. 第101回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
57. 井上貴裕, 森田周子, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 化学放射線療法後の遺残再発食道表在癌2症例の検討. 第54回兵庫県内視鏡治療談話会, 神戸, 2018.11.15

58. 杉之下与志樹：当院における肝炎ウイルス陽性者の拾い上げシステムについて．マヴィレット配合錠発売1周年記念講演会，神戸，2018.11.22
59. 鄭 浩柄：当院におけるB型肝炎に対する核酸アナログ投与例における検討．第3回西神戸消化器疾患講演会，神戸，2018.11.22
60. 占野尚人：症例検討．第363回兵庫県消化管研究会，神戸，2018.11.22
61. 森田周子：内視鏡で見つける中下咽頭表在癌．第363回兵庫県消化管研究会，神戸，2018.11.22
62. 井上貴裕：症例提示 食道．第363回兵庫県消化管研究会，神戸，2018.11.22
63. 杉之下与志樹：C型肝炎の治療戦略と地域連携について．第2回北阪神肝疾患地域連携フォーラム，神戸，2018.11.29
64. Fukushima M: Investigation of cases of obscure gastrointestinal bleeding and small bowel bleeding that led to rebleeding. Gastro2018, Bangkok, 2018.12.5-8
65. 杉之下与志樹：C型肝炎の治療戦略と地域連携について．G-Station WEB 講演会，神戸，2018.12.5
66. 文原大貴：レゴラフェニブ不応例に対するレンパチニブの使用経験．第26回西神戸消化器疾患セミナー，神戸，2018.12.6
67. 占野尚人：内視鏡治療と薬物療法．みなとじま消化器薬剤師セミナー，神戸，2019.1.25
68. 占野尚人：Cold Polypectomy の基礎知識と実際．Cold Polypectomy の基礎知識と実際，神戸，2019.2.6
69. 井上貴裕：当院における cold snare polypectomy ～症例提示を中心に～．Cold Polypectomy の基礎知識と実際，神戸，2019.2.6
70. 井上聡子：Young Investigator Session 6 小腸・大腸3．日本消化器病学会近畿支部第110回例会，京都，2019.2.23
71. 福島政司，井上聡子，猪熊哲朗：当院で経験したオルメサルタン関連スプルー様腸疾患の検討．日本消化器病学会近畿支部第110回例会，京都，2019.2.23
72. 谷口洋平，和田将弥，猪熊哲朗：当院における腓神経内分泌腫瘍（PNET）の診療の現況．日本消化器病学会近畿支部第110回例会，京都，2019.2.23
73. 鄭 浩柄，杉之下与志樹，福島政司，猪熊哲朗：当院における進行肝細胞癌に対するレゴラフェニブ投与例の検討．日本消化器病学会近畿支部第110回例会，京都，2019.2.23
74. 豊永啓翔，福島政司，池田結香，上野由香里，大久保佑樹，文原大貴，青山直樹，井上貴裕，谷口洋平，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗，中村桃子：咽頭、食道、大腸に multiple lymphomatous polyposis を呈したマントル細胞リンパ腫の1例．日本消化器病学会近畿支部第110回例会，京都，2019.2.23
75. 大久保佑樹，谷口洋平，池田結香，上野由香里，文原大貴，青山直樹，豊永啓翔，井上貴裕，谷口洋平，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗：悪性幽門狭窄の診断に超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）が有用であった一例．日本消化器病学会近畿支部第110回例会，京都，2019.2.23
76. 上野由香里，福島政司，池田結香，文原大貴，大久保佑樹，青山直樹，豊永啓翔，井上貴裕，谷口洋平，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗：小腸悪性リンパ腫の診断におけるダブルバルーン内視鏡検査の有用性．日本消化器病学会近畿支部第110回例会，京都，2019.2.23
77. 青山直樹，福島政司，池田結香，上野由香里，大久保佑樹，文原大貴，豊永啓翔，井上貴裕，谷口洋平，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗，稲垣真裕：IVRによって治療しえた回腸動静脈奇形の1例．日本消化器病学会近畿支部第110回例会，京都，2019.2.23
78. 池田結香，杉之下与志樹，上野由香里，大久保佑樹，文原大貴，青山直樹，豊永啓翔，井上貴裕，谷口洋平，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，鄭 浩柄，杉之下与志樹，猪熊哲朗：生体肝移植後の高度黄疸を伴ったC型肝炎再発に対してSOF/LDVが奏功した1症例．日本消化器病学会近畿支部第110回例会，京都，2019.2.23
79. 文原大貴，鄭 浩柄，池田結香，上野由香里，大久保佑樹，青山直樹，豊永啓翔，井上貴裕，谷口洋平，福島政司，和田将弥，占野尚人，森田周子，井上聡子，杉之下与志樹，猪熊哲朗：当院における難治性腹水に対するトルバプタン治療効果に関する考察．日本消化器病学会近畿支部第110回例会，京都，2019.2.23

80. 平井達基, 谷口洋平, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗: 胆管内乳頭状腫瘍の一切除例. 日本消化器病学会近畿支部第 110 回例会, 京都, 2019.2.23
81. 猪熊哲朗: 酸分泌抑制薬の歴史. タケキャブ錠発売 4 周年記念講演会, 神戸, 2019.3.27
82. 森田周子: 当院における緊急内視鏡を施行した消化管出血症例の検討. タケキャブ錠発売 4 周年記念講演会, 神戸, 2019.3.27
83. 鄭 浩柄: 使用経験に基づいた、TKI による進行肝癌治療法選択に関する考察. Lenvatinib Users' Meeting in Kobe, 神戸, 2019.3.29
84. 森田周子: 胃内視鏡診断. 神戸市胃内視鏡検診精度管理講習会, 神戸, 2019.3.30

IX. 1.6 呼吸器内科

1. 藤本大智, 森本 剛, 細谷和貴, 森 令法, 河内勇人, 平林亮介, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: 軽度特発性間質性肺炎合併非小細胞肺癌に対するニボルマブ治療の前向きパイロット試験における長期フォローアップデータ. 第 58 回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018.4.27
2. 古郷摩利子, 藤本大智, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 永田一真, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 今井幸弘, 富井啓介: Cobas での EGFR 変異検出における dissection の有効性について. 第 58 回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018.4.27
3. 河内勇人, 藤本大智, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 今井幸弘, 富井啓介: 組織検体の経年変化による PD-L1 発現低下と治療効果予測への影響. 第 58 回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018.4.28
4. 細谷和貴, 藤本大智, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 富井啓介: 間質性肺炎合併非小細胞肺癌に対する carboplatin+paclitaxel ± bevacizumab 療法の有効性と安全性の検討. 第 58 回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018.4.29
5. 河内勇人, 古郷摩利子, 大塚浩二郎, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 簗智幸政, 今井幸弘, 原 重雄, 富井啓介: Alectinib 導入後に神経内分泌癌への形質転換と考えられた ALK 陽性肺腺癌の一例. 第 108 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2018.6.30
6. 細谷和貴, 永田一真, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 立川 良, 中川 淳, 大塚浩二郎, 簗智幸政, 富井啓介: 投与中止後も再燃を繰り返す、nivolumab による薬剤性肺障害の一例. 第 108 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2018.6.30
7. 河内勇人, 古郷摩利子, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 簗智幸政, 今井幸弘, 原 重雄, 富井啓介: ボリコナゾールでの治療にも関わらず結節から空洞化, 気胸, 胸膜炎へと進展したアスペルギルス症の一例. 第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会・第 121 回日本結核病学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
8. 細谷和貴, 立川 良, 大塚浩二郎, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 伊藤宗洋, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 簗智幸政, 富井啓介: HTLV-1 キャリアに発症した、血清 (1 → 3) - β -D- グルカン低値のニューモシスチス肺炎の一例. 第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
9. 大崎 恵, 細谷和貴, 永田一真, 松梨敦史, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 藤本大智, 立川 良, 中川 淳, 簗智幸政, 伊達直希, 瀬川翔太, 高橋 豊, 幸原伸夫, 富井啓介: 胸腔鏡下膿胸腔搔爬術後の胸腔洗浄中に多発脳空気塞栓症を発症した一例. 第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
10. 松梨敦史, 古郷摩利子, 大崎 恵, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 簗智幸政, 富井啓介: 同居人に同時期に発症した反復する夏型過敏性肺臓炎の 1 例. 第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
11. 森 令法, 立川 良, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 簗智幸政, 服部優一, 稲垣真裕, 上田浩之, 伊藤 亨, 富井啓介: 経カテーテル的動脈塞栓術が奏功した chronic expanding hematoma の 1 例. 第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会・第 121 回日本結核病学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
12. 藤本大智, 細谷和貴, 河内勇人, 森 令法, 平林亮介, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: ニボルマブ投与患者における血球を用いた Inflammatory Index は信頼性があるのか? 第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7

13. 立川 良, 陳 和夫: CPAP 治療前後の睡眠時間の变化と病態の多様性. 日本睡眠学会 第 43 回定期学術集会, 札幌, 2018.7.12
14. 古郷摩利子: 肺癌患者の呼吸不全 どのような呼吸管理をする!? 第 40 回日本呼吸療法医学会学術集会, 東京, 2018.8.4
15. Hirabayashi R, Takahashi Y, Nagata K, Morimoto T, Wakata K, Kawachi H, Mori R, Ito M, Kogo M, Fujimoto D, Nakagawa A, Tachikawa R, Otsuka K, Tomii K: Efficacy of four-meter gait speed (4MGS) for stable interstitial pneumonia patient: a prospective observational study. Europe Respiratory Society annual congress 2018, Paris, France, 2018.9.17
16. Mori R, Kogo M, Hosoya K, Kawachi H, Hirabayashi R, Ito M, Fujimoto D, Nagata K, Tachikawa R, Nakagawa A, Otsuka K, Tomii K: Different characteristics and outcomes of acute exacerbation: comparison between interstitial pneumonia with autoimmune features and lone idiopathic interstitial pneumonia. European Respiratory Society, Paris, France, 2018.9.17
17. Kogo M, Satsuma Y, Kusuda K, Ikeshue H, Mori R, Fujimoto D, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa R, Otsuka K, Tomii K: Team support with pharmacists improved tolerability of antifibrotic agents for pulmonary fibrosis. European Respiratory Society International Congress 2018, Paris, France, 2018.9.17
18. Hosoya K, Fujimoto D, Tamiya A, Yokoyama T, Hirano K, Kominami R, Tomii K, Suzuki H, Uchida J, Morita M, Kanazu M, Makio T, Tamiya M: Association between Early Immune-Related Adverse Events and Clinical Outcome in Patients with Programmed Death Ligand 1-Positive Non-Small Cell Lung Cancer Treated with First-Line Pembrolizumab. ESMO (European Society of Medical Oncology) Congress 2018, Munich, Germany, 2018.10.20
19. 富井啓介: 在宅ハイフローセラピー. 第 28 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2018.11.9
20. 富井啓介: COPD の睡眠呼吸障害に対するハイフローと NPPV 療法. 第 28 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2018.11.9
21. 永田一真: 慢性呼吸不全に対する高流量鼻カニューラ酸素療法. 第 28 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2018.11.9
22. 永田一真: モニタリングを用いて HFNC の在宅適用を探る. 第 28 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 幕張, 2018.11.10
23. Sato Y, Fujimoto D, Hosoya K, Kawachi H, Hamakawa H, Takahashi Y, Kokubo M, Hara S, Tomii K: Efficacy of local therapy for patients with oligometastatic non-small cell lung cancer. ESMO Asia 2018, Singapore, 2018.11.24
24. 藤本大智, 細谷和貴, 河内勇人, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 浜川博司, 伊達直希, 高橋 豊, 山下大裕, 今井幸弘, 北村由香, 福岡順也, 富井啓介: 22C3 抗体と SP263 抗体を用いた PD-L1 発現の比較. 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.29
25. 河内勇人, 藤本大智, 大崎 恵, 松梨淳史, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 佐藤悠城, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 簗智幸政, 富井啓介: Nivolumab 療法を行った進行期非小細胞肺癌に対する early tumor shrinkage と長期治療奏効との相関についての検討. 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.29
26. 細谷和貴, 藤本大智, 河内勇人, 佐藤悠城, 大崎 恵, 松梨敦史, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介, 小久保雅樹: III 期非小細胞肺癌における, PACIFIC 試験適格患者と非適格患者の検討. 第 59 回日本肺癌学会, 東京, 2018.11.29
27. 藤本大智, 森本 剛, 片岡裕貴, 富井啓介, 吉岡弘鎮, 畑 妙, 金永 学, 石田 直, 平林正孝, 原 聡志, 石床 学, 福田 泰, 黄 文禧, 酒井直樹, 福井基成, 中治仁志, 森田充紀, 三尾直士, 安田武洋, 杉田孝和, 平井豊博: ニボルマブ投与患者における Pseudoprogression の多施設後向きコホート研究. 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.30
28. 藤本大智, 田宮基裕, 谷口善彦, 鈴木秀和, 松本啓孝, 横山俊秀, 森田充紀, 小南亮太, 金津正樹, 内田純二, 牧尾健史: PD-L1 強陽性進行期非小細胞肺癌における 1st-line ペムブロリズマブ治療効果と早期 irAE の関連. 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.30
29. 河内勇人, 藤本大智, 大崎 恵, 松梨淳史, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 簗智幸政, 競 晴香, 田中年恵, 中西真也, 富井啓介: 非小細胞肺癌に対する Nivolumab の治療効果と早期免疫間有害事象との相関についての前向き観察研究. 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.30

30. 佐藤悠城, 藤本大智, 原 重雄, 高橋 豊, 細谷和貴, 河内勇人, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: PD-L1 による Nivolumab の治療効果予測として根治的手術検体は使用できるのか? 肺癌学会 総会 2018, 東京, 2018.11.30
31. Kogo M, Nakagawa A, Matsunashi A, Osaki M, Hosoya K, Kawachi H, Hirabayashi R, Mori R, Fujimoto D, Nagata K, Tachikawa R, Tomii K: Prognosis of patient with bronchiectasis after hospitalized exacerbation. Asian Pasific Society of Respiriology, Taipei, Taiwan, 2018.12.1
32. 河内勇人, 中川 淳, 吉田 誠, 山下大祐, 青山晃博, 大崎 恵, 松梨敦史, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 立川 良, 原 重雄, 高橋 豊, 富井啓介: 他科連携により術中迅速診断が可能であった硬化性肺胞上皮腫の一例. 第 92 回日本呼吸器学会近畿地方会・第 122 回日本結核病学会近畿地方会, 奈良, 2018.12.8
33. 平林亮介, 中川 淳, 藤本大智, 大崎 恵, 松梨敦史, 細谷和貴, 河内勇人, 森 令法, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 永田一真, 立川 良, 竹川啓史, 富井啓介: M. fortuitum と M. mageritense による共感染を呈した非結核性抗酸菌による胸膜炎の一例. 日本呼吸器学会・日本結核抗酸菌学会近畿地方会, 奈良, 2018.12.8
34. 永田一真: 呼吸不全に対する高流量鼻カニューラ酸素療法 (HFNC) ~急性期から慢性期まで~. 第 92 回日本呼吸器学会近畿地方会・第 122 回日本結核病学会近畿地方会, 奈良, 2018.12.8
35. 細谷和貴, 立川 良, 大崎 恵, 松梨敦史, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介: 縦隔原発絨毛癌の脳転移により, 急激な経過で死亡した若年男性の一例. 第 92 回日本呼吸器学会近畿地方会, 奈良, 2018.12.8
36. 大崎 恵: 急性呼吸不全を呈したメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の一例. 第 92 回日本呼吸器学会近畿地方会, 奈良, 2018.12.8
37. 松梨敦史, 古郷摩利子, 中川 淳, 大崎 恵, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 立川 良, 富井啓介: 胸郭変形による急性 2 型呼吸不全を契機に診断された腭神経内分泌腫瘍に伴う Cushing 症候群の一例. 第 92 回日本呼吸器学会近畿地方会, 奈良, 2018.12.8
38. 松梨敦史, 立川 良, 中川 淳, 大崎 恵, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 原 重雄, 岡田秀明, 富井啓介: Durvalumab 投与後に全身性の免疫関連有害事象を発症し, 急性呼吸不全で死亡した一例. 第 109 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2019.2.23

IX. 1.7 血液内科

1. 森田真梨: ダサチニブとプレドニゾロンにより寛解導入を行った Ph 陽性 ALL の治療成績. 神戸造血幹細胞移植勉強会, 神戸, 2018.4.13
2. 中村桃子, 吉岡 聡, 加藤まどか, 森 拓人, 田中 淳, 森田真梨, 藪下知宏, 藤本亜弓, 下村良充, 小野祐一郎, 平本展大, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之: A comparison of BD vs CyBorD vs VRD in newly diagnosed multiple myeloma who are candidates for autologous stem cell transplantation. 第 43 回日本骨髄腫学会, 千葉, 2018.5.12
3. 石川隆之: 当院における悪性リンパ腫の治療戦略. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会. 神戸, 2018.5.17
4. 田中 淳, 藪下知宏, 加藤まどか, 平本展大, 米谷 昇, 石川隆之, 山下大祐, 今井幸弘: T 細胞と B 細胞の composite lymphoma の一例. 第 109 回近畿血液学地方会, 神戸, 2018.6.9
5. 中村桃子, 吉岡 聡, 藤本亜弓, 下村良充, 平本展大, 石川隆之: 化学療法中に腫瘍随伴性天疱瘡をきたした末梢性 T 細胞性リンパ腫の一例. 第 109 回近畿血液学地方会, 神戸, 2018.6.9
6. 森 拓人, 小野祐一郎, 石川隆之, 山下大祐, 今井幸弘: Waldenstrom マクログロブリン血症の治療後成熟 NK/T 細胞性リンパ腫を発症した剖検の一例. 第 109 回近畿血液学地方会, 神戸, 2018.6.9
7. Sueoka K, Yabushita T, Maruoka H, Shimomura Y, Ono Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Hashimoto H, Ishikawa T: The high expression of CD38 is associated with poor prognosis in de novo diffuse large B cell lymphoma. 23th CONGRESS of European Hematology Association, Stockholm, Sweden, 2018.6.15
8. 森 拓人, 小野祐一郎, 丸岡隼人, 加藤まどか, 田中 淳, 森田真梨, 中村桃子, 井本寛東, 下村良充, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: TP53 変異陽性骨髄系悪性腫瘍の臨床的特徴と予後. 第 13 回 Meet the Hematologist, 京都, 2018.7.7

9. 田中 淳, 下村良充, 加藤まどか, 森 拓人, 井本寛東, 中村桃子, 森田真梨, 小野祐一郎, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之: 移植後 ALL に対する 2nd CBT 後の BKV 膀胱炎に難渋した 1 例. 第 4 回 KSCTG 研究会, 大阪, 2018.8.11
10. 吉岡 聡: 発売後 1 年, 再発難治例に対する Daratumumab 投与について考える. ダラザレックス発売 1 周年記念講演会, 神戸, 2018.9.6
11. 石川隆之: 低リスク MDS の診断・治療高齢者貧血を考える. 神戸, 2018.9.8
12. 石川隆之: DLBCL 治療成績改善に向けて. Lymphoma Symposium in Kobe, 神戸, 2018.9.13
13. 松下章子: 多発性骨髄腫, 悪性リンパ腫 治療の最前線. 平成 30 年度第 5 回地域連携セミナー, 神戸, 2018.9.27
14. 福原規子, 永井宏和, 丸山 大, 北野俊行, 石川隆之, 柴山裕彦, 崔 日承, 畠 清彦, 内田俊樹, 錦織桃子, 木下朝博, 松野吉宏, 西川智章, 飛内賢正: 日本人再発難治性 MCL 患者に対する Ibrutinib の第 II 相試験: 最終解析結果. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.12
15. 竹田淳恵, 千葉健一, 白石友一, 塩沢裕介, 牧島秀樹, 吉里哲一, 永田安伸, 半下石明, 石山 謙, 鶴見 寿, 宮崎泰司, 平本展大, 石川隆之, 高折晃史, 片岡圭亮, 眞田 昌, 田中洋子, 臼杵憲佑, 宮脇修一, 宮野 悟, 昆 彩奈, 南谷泰仁, 吉田健一, 小川誠司: ゲノム解析よりみた赤白血病. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.12
16. 進藤岳郎, 板村英和, 吉岡 聡, 石川隆之, 木村晋也: CD4T 細胞における ERK1/2 のリン酸化は同種造血幹細胞移植後の急性 GVHD と関連する. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.12
17. 和泉清隆, 諫田淳也, 近藤忠一, 浅越康助, 有馬靖佳, 安斎尚之, 石川隆之, 伊藤 満, 今田和典, 竹岡友晴, 常峰紘子, 赤坂尚志, 直川匡晴, 平田大二, 森口寿徳, 渡邊光正, 上田恭典, 野吾和弘, 米澤昭仁, 高折晃史: 京都造血幹細胞移植グループでの DLBCL に対する同種造血幹細胞移植成績の検討. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.12
18. 加藤まどか, 下村良充, 森田真梨, 森 拓人, 石川隆之: 同種造血幹細胞移植後の一時生着不全に対する再移植の成績. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.13
19. 田中 淳, 下村良充, 加藤まどか, 森 拓人, 森田真梨, 中村桃子, 小野祐一郎, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之: 低悪性度非ホジキンリンパ腫またはマントル細胞リンパ腫の初発例に対する BR 療法. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.13
20. 長藤浩二, 石川隆之, 高松浩之, 鈴木憲史, Jianping Wan, Robin Carson, Wendy Crist, Ming Qi, 藤崎智明: Daratumumab plus VMP (D-VMP) in non-transplant NDMM: Japanese and elderly subanalysis (ALCYONE). 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.14
21. 小杉浩史, 竹迫直樹, 松本守生, 飯田真介, 石川隆之, 近藤恭夫, 安藤 潔, 張 高明, 三木浩和, 松村 到, 角南一貴, 豊嶋崇徳, 岩崎浩己, 大西 康, 木崎昌弘, 伊豆津宏二, 丸山 大, 飛内賢正, 鈴木憲史: KEYNOTE185: 未治療多発性骨髄腫を対象とした Len/Dex+-penbrolizumab 第 3 相試験. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.14
22. 松尾英将, 吉田健一, 福村知隆, 長澤裕介, 南谷泰仁, 竹田淳恵, 上野浩生, 柴 徳生, 大和玄季, 半田 寛, 小野祐一郎, 平本展大, 石川隆之, 臼杵憲佑, 石山 謙, 宮脇修一, 糸永英弘, 宮崎泰司, 田村真智子, 山口博樹, 清河信敬, 富澤大輔, 多賀 崇, 多和昭雄, 林 泰秀, 間野博行, 宮野 悟, 上久保靖彦, 小川誠司, 足立 壮: MLL 転座急性骨髄性白血病における CCND3 遺伝子変異の同定. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.14
23. 森 拓人, 小野祐一郎, 丸岡隼人, 加藤まどか, 田中 淳, 森田真梨, 中村桃子, 下村良充, 平本展大, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 橋本尚子, 石川隆之: 造血器腫瘍における TP53 変異の臨床的特徴と予後に対する影響. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.14
24. 中村桃子, 平本展大, 丸岡隼人, 田中 淳, 森田真梨, 下村良充, 小野祐一郎, 吉岡 聡, 米谷 昇, 松下章子, 石川隆之: 再発時に FLT-3ITD を獲得した患者の検討. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.14
25. 川端 浩, 臼杵憲佑, 新堂真紀, 遠山 薫, 松田 晃, 荒関かやの, 波田智子, 鈴木隆浩, 茅野秀一, 新保 敬, 千葉 滋, 石川隆之, 北野俊行, 能川匡晴, 宮崎泰司, 黒川峰夫, 荒井俊也, 三谷絹子, 高折晃史: 芽球の少ない MDS 患者の診断時の MCV と網状赤血球による予後予測. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.14
26. 小野祐一郎: 同種移植を施行した原発性骨髄線維症の一例. Novartis Hematology Forum in Kyoto, 京都, 2018.11.3

27. 加藤まどか, 下村良充, 平本展大, 石川隆之, 山下大祐: 骨髓生検が診断に有用だった POEMS 症候群の一例. 第 110 回近畿血液学地方会, 奈良, 2018.11.10
28. 井本寛東, 蓮池俊和, 土井朝子: 多発性骨髄腫の治療中に発症した緑膿菌による壊死性筋膜炎. 第 88 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 鹿児島, 2018.11.18
29. 石川隆之: 内科医による AYA 世代の白血病治療. 第 5 回兵庫県小児がん治療講演会, 神戸, 2018.11.22
30. Nannya Y, Yoshida K, Zhao L, Takeda J, Ueno H, Yoshizato T, Yoda A, Nakagawa M, Makishima H, Tanaka H, Hiramoto N, Muto H, Fuji S, Polprasert C, Damm F, Usuki K, Taguchi M, Chiba S, Miyawaki S, Shih LY, Tsurumi H, Kasahara S, Malcovati L, Ishikawa T, Jansen JH, Miyazaki Y, Miyano S, Cazzola M, Ogawa S: Genome-Wide Analysis of Non-Coding Alterations in Pan-Myeloid Cancers Using Whole Genome Sequencing. 60th American Society of Hematology annual meeting and exposition, San Diego, USA, 2018.12.1
31. Mori T, Ono Y, Maruoka H, Shimomura Y, Hiramoto N, Yoshioka S, Takeda J, Nannya Y, Ogawa S, Ishikawa T: High Resolution Melt Analysis for Rapid and Cost-Effective Screening of TP53 Mutations in Patients with Myeloid Malignancies. 60th American Society of Hematology annual meeting and exposition, San Diego, USA, 2018.12.1
32. Townsend W, Buske C, Cartron G, Cunningham D, Dyer MJS, Gribben JG, Hess G, Ishikawa T, Keller U, Kneba M, Malladi R, Neidhart JD, Rusconi C, Zhu J, Catalani O, Knapp A, Zeuner H, Herold M, Hiddemann W, Marcus R: Obinutuzumab-Based Immunochemotherapy Prolongs Progression-Free Survival and Time to Next Anti-Lymphoma Treatment in Patients with Previously Untreated Follicular Lymphoma: Four-Year Results from the Phase III GALLIUM Study. 60th American Society of Hematology annual meeting and exposition, San Diego, USA, 2018.12.1
33. Kanda J, Kobayashi M, Maeda T, Kitano T, Tsuji M, Ohno T, Ueda Y, Ishikawa T, Nohgawa M, Watanabe M, Imada K, Moriguchi T, Itoh M, Ohno H, Yonezawa A, Hirata H, Arima N, Asagoe K, Anzai N, Yasuno S, Kuwabara Y, Kitao H, Kim I, Kawagishi K, Ueshima K, Tominari S, Nakayama T, Yamashita K, Takaori-Kondo A: Phase II Trial of Bortezomib-Based Induction, Autologous Stem Cell Transplantation, Bortezomib-Based Consolidation, and Bortezomib Maintenance in Newly Diagnosed Multiple Myeloma in Japan. 60th American Society of Hematology annual meeting and exposition, San Diego, USA, 2018.12.2
34. Shimomura Y, Hara M, Konuma T, Itonaga H, Ohashi K, Ozawa Y, Eto T, Uchida N, Mori T, Tanaka J, Fukuda T, Atsuta Y, Ishikawa T, Ishiyama K: Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for the Treatment of Myelodysplastic Syndrome in Adolescent and Young Adult Patients. 60th American Society of Hematology annual meeting and exposition, San Diego, USA, 2018.12.2
35. Shimomura Y, Hara M, Tachibana T, Ohashi K, Ozawa Y, Eto T, Uchida N, Mori T, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Ishikawa T, Ishiyama K: Epidemiology of Second Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Patients with Relapsed Myelodysplastic Syndrome. 60th American Society of Hematology annual meeting and exposition, San Diego, USA, 2018.12.2
36. Tanaka A, Shimomura Y, Yabushita T, Ishikawa T.: High Pretreatment Plasma D-Dimer Levels Are Associated with Poor Prognosis in Patients with Newly Diagnosed Diffuse Large B-Cell Lymphomas Treated with Immunochemotherapy. 60th American Society of Hematology annual meeting and exposition, San Diego, USA, 2018.12.3
37. 小野祐一郎: 当院の自家末梢血幹細胞採取の採取戦略. 兵庫県輸血細胞治療セミナー, 神戸, 2018.12.20
38. 井本寛東, 下村良充: 症例検討ー TP53 変異を有する高リスク MDS の 1 例ー. 第 2 回関西血液レジデント勉強会, 大阪, 2019.1.12
39. 中村桃子, 石川隆之: 若年者多発性骨髄腫の 2 例. Hematology Conference in Okayama, 岡山, 2019.2.8
40. 石川隆之: 悪性リンパ腫における治療選択. Hematology Conference in Okayama, 岡山, 2019.2.8
41. 加藤まどか: dasatinib+PSL で寛解導入を行った Ph 陽性 ALL の当院における治療成績. 第 5 回椿の会, 神戸, 2019.3.1
42. 平本展大, 山崎宏人, 中邑幸伸, 内田直之, 村田 誠, 花本 仁, 衛藤徹也, 高梨美乃子, 一戸辰夫, 熱田由子, 鈴木律郎, 森 毅彦: 成人再生不良性貧血に対する臍帯血移植の予後と指摘前処置の検討. 第 41 回日本造血細胞移植学会総会, 大阪, 2019.3.9
43. 井本寛東, 吉岡 聡, 森田真梨, 平本展大, 今留謙一, 石川隆之: 初感染 EBV 関連 T/NK-LPD に対して早期の化学療法および PTCy を用いた HLA 半合致同種造血幹細胞移植をおこない救命できた 1 例. 第 62 回神戸血液病研究会, 神戸, 2019.3.16

- 井本寛東, 吉岡 聡, 森田真梨, 平本展大, 今留謙一, 石川隆之: 初感染 EBV 関連 T/NK-LPD に対して早期の化学療法および PTCy を用いた HLA 半合致同種造血幹細胞移植をおこない救命できた 1 例. 第 28 回 EB ウイルス感染症研究会, 東京, 2019.3.17

IX. 1.8 腫瘍内科

- 安井久晃: 大腸癌における化学療法の話題～手術への化学療法の工夫など～. 鳴尾大腸癌化学療法セミナー, 2018.4.12
- 松本光史, 野中頸子, 尾上琢磨, 西 明子, 境 秀樹, 緒方貴次, 三木万由子, 曾山みさを, 橋本一樹, 広利浩一, 高尾信太郎: アンスラサイクリン系抗癌剤投与後乳癌患者における心機能低下の頻度、経過、リスク因子— 690 名の検討—. 第 26 回日本乳癌学会学術総会, 京都, 2018.5.16-18
- 加藤大典, 武部沙也香, 常盤麻里子, 木川雄一郎, 山下大祐, 前田紘奈, 高橋祐一, 緒方貴次, 正井良和, 今井幸弘: 短期間乳腺外科ローテーションにおける New England Journal of Medicine (NEJM) を教材とした教育の工夫. 第 26 回日本乳癌学会学術総会, 京都, 2018.5.16-18
- 安井久晃: シンポジウム; 本邦の Hazardous Drug 取り扱いの適正化に向けて～明日からの対策をどうする? ～がん薬物療法における職業性曝露対策ガイドライン～改訂版に向けて～. 第 20 回日本医療マネジメント学会学術集会, 札幌, 2018.6.8-9
- Ogata T, Satake H, Ogata M, Hatachi Y, Yasui H: Neutrophil-to-lymphocyte ratio as a predictive or prognostic factor for gastric cancer treated with nivolumab: A retrospective study. ESMO GI 2018, Barcelona, 2018.6.20-23
- 安井久晃: 大腸癌における化学療法の話題～二次治療を中心に～. 但馬地区大腸がん講演会, 豊岡, 2018.6.22
- 緒方美里, 佐竹悠良, 緒方貴次, 簗智幸政, 安井久晃: 食道癌、頭頸部癌に対するインフューザーポンプを用いた 5FU+ シスプラチン併用療法の安全性及び有効性; 後方視的研究. 第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2018.7.19-21
- 緒方貴次: 胃癌のニボルマブ単剤療法における好中球リンパ球比の効果予測因子、予後予測因子としての有効性; 後方視的研究. 第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2018.7.19-21
- 安井久晃: がんゲノムの現在～遺伝子検査で何が分かるのか?～. 第 18 回がん市民フォーラム, 神戸, 2018.8.25
- 安井久晃: 進行再発大腸がんに対する化学療法の考え方. 第 10 回京都北部がん治療講演会, 福知山, 2018.9.21
- 安井久晃: 根治を目指した大腸癌化学療法. 兵庫大腸癌肝転移集学的治療研究会, 神戸, 2018.9.22
- 安井久晃: 進行・再発胃癌の治療戦略. Meet the Expert in AWAJI, 洲本, 2018.9.27
- 緒方美里: 転移性大腸癌におけるトリフルリジン・チピラシルとレゴラフェニブの後方視的研究. 第 56 回日本癌治療学会学術, 横浜, 2018.10.18-20
- Ogata T, Satake H, Ogata M, Hatachi Y, Yasui H: The safety and efficacy of FOLFOXIRI plus molecular target therapy as a first-line treatment for metastatic colorectal cancer: A multicentre retrospective study. ESMO 2018, 2018.10.19-23
- 安井久晃: 症例例示. Chugai Colorectal Cancer Symposium in HYOGO, 神戸, 2018.10.26
- 安井久晃: 当院で行うがんゲノム医療～理想と現実～. 地域連携懇話会, 神戸, 2018.11.8
- 安井久晃: がん化学療法総論. がん専門薬剤師研修講義, 神戸, 2018.11.16
- Ogata M, Satake H, Ogata T, Hatachi Y, Yasui H: Reduced and re-escalated dose of sunitinib was effective against GIST. ESMO Asia 2018, Singapore, 2018.11.23-25
- 緒方美里, 武部沙也香, 常盤麻里子, 木川雄一郎, 加藤大典: 乳癌の転移性肺癌腫瘍との鑑別を要したびまん性肺原発髄膜様細胞の一例. 第 16 回日本乳癌学会近畿地方会, 大阪, 2018.12.15
- 安井久晃: がんゲノム医療の現在. がん診療オープンカンファレンス, 神戸, 2018.12.20
- Ogata T, Satake H, Ogata M, Inoue K, Hamada M, Yasui H, Hatachi Y: The combination of the changes and the value of neutrophil-to-lymphocyte ratio is useful for prediction of response for advanced gastric cancer treated with nivolumab: A multicenter retrospective study. ASCO-GI 2019, San Francisco, 2019.1.17-19
- 安井久晃: 市民病院が担うこれからのがんゲノム医療. 神戸医療産業都市 20 周年記念市民講演会, 神戸, 2019.1.27
- 安井久晃: 患者と医療者を守るがんサポーターブケア. 地域で高めるがんサポーターブケアセミナー, 神戸, 2019.1.30

24. 尾上琢磨, 竹田元美, 渡辺小百合, 中村伸子, 湯浅幸代子, 緒方美里, 境 秀樹, 西村明子, 松本光史: 兵庫県立がんセンター腫瘍内科における AYA 世代がん診療の実態調査と今後の展望. AYA がんの医療と支援のあり方研究会 第一回学術集会, 名古屋, 2019.2.11
25. 尾上琢磨, 緒方美里, 境 秀樹, 西村明子, 松本光史: 当科におけるパゾパニブの使用経験と長期継続例の検討. 第 2 回日本サルコーマ治療研究学会学術集会, 東京, 2019.2.22-23
26. 安井久晃: がん化学療法総論. がん専門薬剤師研修講義, 神戸, 2019.3.15

IX. 1.9 感染症科

1. 相原健志, 吉崎亜衣沙, 金森真紀, 西岡弘晶: TAFRO 症候群の治療中に胆道系酵素上昇を示した 1 例. 第 92 回日本感染症学会総会, 京都, 2018.4.14
2. 吉田壮志, 西久保雅司, 井本寛東, 金森真紀, 西岡弘晶: 蛋白漏出性胃腸症を初発として著明な脂質異常症を併発した全身性エリテマトーデスの 1 例. 第 92 回日本感染症学会総会, 京都, 2018.4.14
3. 志水隼人, 水野泰志, 西岡弘晶: 急性発症の首下がり呈した特発性好酸球増多症を伴う抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎の 1 例. 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2018.4.26
4. 進藤達哉, 西岡弘晶: 在宅中心静脈栄養をうけている患者に生じたセレン欠乏性貧血の 1 例. 日本在宅医学会第 20 回記念大会, 東京, 2018.4.30
5. 西岡弘晶: オープニングリマークス. 学術講演会～肢から心疾患をつかまえる～, 神戸, 2018.5.17
6. 土井朝子: 透析患者の感染症と AMR 時代の抗菌薬の使い方. 第 40 回神戸腎疾患カンファレンス, 神戸, 2018.5.27
7. 進藤達哉, 金森真紀, 西岡弘晶: Aeromonas hydrophila 腸炎を発症した糖尿病患者の 1 例. 第 92 回日本感染症学会総会, 岡山, 2018.5.31
8. 土井朝子, 蓮池俊和, 西久保雅司, 登佳寿子, 矢倉裕輝, 西岡弘晶: 極低出生体重児に対しネビラピリンを効果的で安全に使用できた 1 例. 第 92 回日本感染症学会総会, 岡山, 2018.5.31
9. 西久保雅司, 志水隼人, 西岡弘晶, 蓮池俊和, 土井朝子, 竹川啓史: 急速な意識障害の進展を認めた結核性脳膿瘍の 1 例. 第 92 回日本感染症学会総会, 岡山, 2018.6.2
10. 土井朝子: 抗菌薬適正使用について. 救急オープンセミナー, 神戸, 2018.6.6
11. 土井朝子: 講義. 感染症ベーシックセミナー in 関西, 奈良, 2018.7.8-9
12. 土井朝子: 講義. 第 6 回神戸感染症セミナー, 神戸, 2018.10.13
13. 蓮池俊和: 講義. 第 6 回神戸感染症セミナー, 神戸, 2018.10.13
14. 西久保雅司, 井本寛東, 金森 真紀, 西岡弘晶: Levofloxacin 血中濃度と髄液濃度を確認できたキノロン関連脳症の 1 例. 第 67 回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 東京, 2018.10.26
15. 林 克磨, 西久保雅司, 吉崎亜衣沙, 志水隼人, 西岡弘晶: 脾梗塞症状が先行した EBvirus による伝染性単核球症の 1 例. 第 222 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.12.15
16. 藤田将平, 進藤達哉, 金森真紀, 西岡弘晶: Methicillin-Resistant Staphyrococcus schleiferi subspecies coagulans による両室パーシング機能付き植え込み型除細動器 (CRT-D) のリード感染を発症した 1 例. 第 222 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.12.15
17. 秦 千尋, 友塚晶子, 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶: 開心術および胸部大血管手術後の食事摂取量に影響する因子の検討. 第 22 回日本病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2019.1.13
18. 友塚晶子, 秦 千尋, 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶: 心臓血管手術後の開始食の食形態による喫食率の検討. 第 22 回日本病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2019.1.13
19. 土肥麻貴子, 茨木まどか, 楠田かおり, 油屋 恵, 伊藤次郎, 東別直紀, 池末裕明, 室井延之, 西岡弘晶, 橋田 亨: NST による TPN 処方支援の必要性. 第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 東京, 2019.2.15
20. 常峰かな, 東別府直紀, 末廣 篤, 竹林慎治, 西岡弘晶: 急性期病院における嚥下障害評価法による肺炎発症率の差. 第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 東京, 2019.2.15
21. 西岡弘晶: Clostridioides (Clostridium) difficile 感染症への臨床的アプローチ. 姫路感染対策フォーラム, 姫路, 2019.3.1
22. 西久保雅司, 林 克磨, 吉崎亜衣沙, 志水隼人, 西岡弘晶: 肺癌再発に先行した筋膜炎脂肪織炎症候群 (fasciitis-panniculitis syndrome: FPS) の 1 例. 第 223 回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2019.3.2

IX. 1. 10 精神・神経科

1. 河内 崇, 清水敬二, 俵 崇記, 大谷恭平, 福島春子, 高橋年道, 桑田美子, 日野 恵, 北村 登, 伊藤 亨, 松石邦隆: アルツハイマー病における脳血流と教育年数の相関解析. 第 114 回日本精神神経学会学術総会, 神戸, 2018.6.21
2. 松山賢一, 山本泰司, 阪井一雄: 非健忘型アルツハイマー病が疑われる症例に対するアミロイド PET の診断的有用性の検討. 第 33 回日本老年精神医学会, 福島, 2018.6.29
3. 毛利健太郎, 山本泰司, 馬場久光: UPI を用い呼び出し面接を行った学生の経過とその検討. 第 56 回全国保健管理研究集会, 東京, 2018.10.3
4. 阪井一雄, 松山賢一, 山本泰司: Preclinical な MRI 画像、IMP-SPECT 画像、神経心理検査結果を得ることができた Dementia with Lewy Bodies の一例. 第 23 回日本神経精神医学会, 松江, 2018.10.6
5. 松石邦隆: 研修の場としての総合病院精神科. 第 5 回大阪総合病院精神医学会, 大阪, 2019.1.26
6. 福島春子, 中元康雄, 幸地芳朗: インターネット・ゲーム依存とひきこもりの現状と問題点. 第 38 回日本社会精神医学会, 東京, 2019.2.28
7. 中元康雄, 福島春子, 幸地芳朗: ネット・ゲーム依存の家族に対する心理教育プログラムの実践報告. 第 38 回日本社会精神医学会, 東京, 2019.2.28

IX. 1. 11 小児科・新生児科

1. 田中裕也: 小児の湿疹への積極的な対応、西宮小児科医会講演会, 西宮, 2018.4.18
2. 久米英太郎, 宮越千智, 菅原勝美, 山川 勝, 鶴田 悟, 堀越裕歩: 未治療 HIV 感染・AIDS 発症母体から出生した HIV 感染早産極低出生体重児の一例. HIV infection in a very low birth weight infant born from an untreated mother. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
3. 潮見祐樹, 小林由典, 二宮 涼, 岸奈津美, 久米英太郎, 山下裕加, 根津麻里, 伊藤 環, 青田千恵, 田中裕也, 宮越千智, 山川 勝, 鶴田 悟: 「MRI 検査時の鎮静に関する共同提言」に基づく当院での鎮静下 MRI 検査の現状. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
4. 山下裕加, 北村創矢, 小森咲子, 鈴木亮子, 砂田美希, 當間圭一郎, 安岡和昭, 佐藤雅彦, 根元 篤, 岩田欧介, 川瀬昭彦: 新生児科医が定年まで NICU 勤務を続けられるためには～アンケート調査より～ How to retire from clinical practice as a neonatologist: A survey study. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
5. 加藤宏樹, 宮越千智, 根津麻里, 鶴田 悟: 生後 90 日未満の発熱患者における重症細菌感染症の割合 Incidence of severe bacterial infection in febrile early infants. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
6. 根津麻里, 宮越千智, 青田千恵, 岡藤郁夫, 鶴田 悟, 山川 勝: 3 年の寛解期の後に再発した急性心筋炎の一例. A case of acute myocarditis relapsing after three years of remission. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
7. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 特異的 IgE 高値は環境アレルゲン免疫療法の効果予測に有用である. Specific IgE is useful to predict the efficacy of aeroallergen immunotherapy. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
8. 久米英太郎, 岸奈津美, 二宮 涼, 山下裕加, 根津麻里, 青田千恵, 田中裕也, 宮越千智, 小林由典, 竹田洋樹, 岡藤郁夫, 菅原勝美, 鶴田 悟, 山川 勝: 皮膚症状のみで診断に苦慮した新生児ループスの一例. 第 274 回小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2018.5.17
9. 二宮 涼, 岸奈津美, 久米英太郎, 山下裕加, 根津麻里, 青田千恵, 田中裕也, 宮越千智, 小林由典, 岡藤郁夫, 山川 勝, 鶴田 悟: 嘔吐のみを主訴に来院した乳幼児消化管アレルギーの 3 ヶ月女児例. 第 274 回小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2018.5.17
10. 田中裕也: オマリズマブによりもたらされる QOL 改善～当院経験症例での検討～. 小児重症喘息ネットワーク講演会, 神戸, 2018.6.13
11. 平瀬敏志, 岡藤郁夫, 笠井和子, 田中裕也, 田中由紀子, 松本和徳, 鶴田 悟: 食物アレルギー患児を持つ両親の大規模災害に対する意識調査－阪神淡路大震災から 20 年経過した神戸市から. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2018.6.22
12. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟: 皮下免疫療法のアレルゲンをハウスダスト抽出液から標準化ダニ抗原に切り替えた小児例. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2018.6.23

13. 山本千尋, 岡藤隆夫, 鶴田 悟, 田中尚子, 中西恭一, 三木和典, 桃田哲也, 八若博司, 吉田元嗣, 藤田 位, 熊谷直樹: ワクチンの温度管理について~停電時の対策についての検討~. 第 29 回日本小児科医会総会フォーラム, 横浜, 2018.6.23
14. 田中 悠, 山本雅紀: 紫斑病性腎炎 46 例の治療成績および扁桃摘出術に関する検討. 第 53 回小児腎臓学会, 福島, 2018.6.30
15. 宮越千智: LQT8 異型 Phenotype の 2 例. 第 54 回日本小児循環器学会, 横浜, 2018.7.7
16. 岡藤郁夫: アレルギー疾患医療拠点病院が牽引する地域での食物アレルギー栄養食事指導の未来予想図. 第 35 回日本小児臨床アレルギー学会, 福岡, 2018.7.27
17. 田中裕也: 小児における舌下免疫療法の実際と工夫. 第 35 回日本小児臨床アレルギー学会, 福岡, 2018.7.28
18. 渡木綾子, 赤沢尚美, 本田まり, 田中由起子, 田中裕也, 岡藤郁夫: 食物アレルギークッキング講習会を試みて. 日本小児臨床アレルギー学会, 福岡, 2018.7.28
19. 田中裕也: 小児における舌下免疫療法の実際と工夫. 舌下免疫療法小児適応拡大記念講演会, 京都, 2018.8.25
20. 久米英太郎, 高端裕人, 瀧川萌子, 福田明子, 岸奈津美, 二宮 涼, 山下裕加, 根津麻里, 伊藤 環, 青田千恵, 田中裕也, 宮越千智, 小林由典, 岡藤郁夫, 菅原勝美, 山川 勝, 鶴田 悟: 胃腸炎契機に十二指腸潰瘍出血を来した 1 歳男児例. 第 275 回小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2018.9.29
21. 福田明子, 瀧川萌子, 高端裕人, 二宮 涼, 久米英太郎, 山下裕加, 根津麻里, 青田千恵, 田中裕也, 宮越千智, 菅原勝美, 小林由典, 岡藤郁夫, 山川 勝, 鶴田 悟: 球状赤血球症に対しエリスロポエチンが有効であった一例. 第 275 回小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2018.9.29
22. 田中裕也, 岡藤郁夫, 伊藤 環, 鶴田 悟: 12 歳未満の児へのダニ舌下免疫療法導入についての検討. 第 55 回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.20
23. 岡藤郁夫: 家庭で起こるアナフィラキシーとその対応. 第 55 回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.21
24. 吉田元嗣, 岡藤隆夫, 鶴田 悟, 八若博司, 熊谷直樹, 藤田 位, 高井伝仕, 荻 美貴: 兵庫県で実施したムンプスワクチンの安全性調査. 第 50 回日本小児感染症学会総会・学術集会, 福岡, 2018.11.10
25. 田中裕也: こどもへの皮下免疫療法を成功させるためのチーム医療. 第 7 回日本小児診療多職種研究会, 小倉, 2018.11.25
26. 田中 悠, 山本雅紀: C3 腎症? 感染関連腎炎? 第 2 回東海小児腎臓病理談話会, 名古屋, 2018.11.25
27. 田中裕也: 当院 CAPS の活動について. 第 24 回日本子ども虐待防止学会おかやま大会, 岡山, 2018.12.1
28. 田中 悠, 山本雅紀: 尿所見から IgA 腎症の重症度を予測することは困難である. 第 53 回小児腎疾患談話会, 名古屋, 2018.12.9
29. 岡藤郁夫: 当院小児病棟での気管支喘息発作入院時の患者教育. 第 60 回気管支喘息勉強会, 大阪, 2019.1.27
30. 久米英太郎, 高端裕人, 田中友理佳, 福田明子, 中邨奈津美, 二宮 涼, 山下裕加, 根津麻里, 伊藤 環, 青田千恵, 田中裕也, 宮越千智, 小林由典, 岡藤郁夫, 菅原勝美, 山川 勝, 鶴田 悟: コクサッキーウイルス A16 による急性弛緩性脊髄炎の一例. 第 276 回小児科学会兵庫県地方会, 尼崎, 2019.2.2
31. 中邨奈津美, 高端裕人, 田中友理佳, 福田明子, 二宮 涼, 山下裕加, 久米英太郎, 根津麻里, 伊藤 環, 青田千恵, 田中裕也, 宮越千智, 小林由典, 岡藤郁夫, 菅原勝美, 山川 勝, 鶴田 悟: 骨関節痛で発症したサルモネラ恥坐骨化膿性骨髄炎の 1 例. 第 276 回小児科学会兵庫県地方会, 尼崎, 2019.2.2
32. 田中友理佳, 高端裕人, 福田明子, 中邨奈津美, 二宮 涼, 山下裕加, 久米英太郎, 根津麻里, 伊藤 環, 青田千恵, 田中裕也, 宮越千智, 小林由典, 岡藤郁夫, 菅原勝美, 山川 勝, 鶴田 悟: 就学前に耐性獲得目的でゴマ経口負荷試験を行った男児例. 第 276 回小児科学会兵庫県地方会, 尼崎, 2019.2.2
33. 根津麻里, 岡藤郁夫, 伊藤 環, 田中裕也, 鶴田 悟: 教育現場で運動を契機にアレルギー症状が出現し、運動誘発試験を行った 10 症例の検討. 第 19 回食物アレルギー研究会, 東京, 2019.2.17
34. 久米英太郎, 宮越千智, 青田千恵, 鶴田 悟, 山川 勝, 大野聖子: 川崎病発熱時心電図を契機に診断された Brugada 症候群 genotype (Brs1) の 1 例. 第 43 回近畿川崎病研究会, 大阪, 2019.3.2
35. 宮越千智: IVIG 不応予測スコアの使用は有用か? Con の立場から: IVIG 不応予測スコアの使用は有用ではない. 第 43 回近畿川崎病研究会, 大阪, 2019.3.2

36. 根津麻里, 岡藤郁夫, 伊藤 環, 田中裕也, 鶴田 悟: 環境アレルゲンがアレルギー症状誘発に関与したと考えられる小麦アレルギーの8歳男児例. 第1回日本アレルギー学会地方会近畿支部学術講演会, 大阪, 2019.3.9
37. 伊藤 環, 岡藤郁夫, 根津麻里, 田中裕也, 鶴田 悟: アーモンド食物負荷試験でアナフィラキシーをきたした一例. 第32回近畿小児科学会, 京都, 2019.3.17
38. 久米英太郎, 青田千恵, 宮越千智, 菅原勝美, 鶴田 悟, 山川 勝, 斯波真理子: LDLR 遺伝子変異が同定された家族性高コレステロール血症の父娘例. 第32回近畿小児科学会, 京都, 2019.3.17
39. 山下裕加, 菅原勝美, 青田千恵, 宮越千智, 小林由典, 鶴田 悟, 山川 勝: 母体 CMV-IgG 抗体陽性にもかかわらず、症候性先天性サイトメガロウイルス感染症を発症した新生児例. 第32回近畿小児科学会, 京都, 2019.3.17

IX. 1. 12 皮膚科

1. 長野 徹: 新規乾癬治療薬による治療戦略と病診連携. 神戸乾癬連携フォーラム, 神戸, 2018.4.14
2. 鷺見真由子, 増田泰之, 中村文香, 小坂博志, 長野 徹, 今井幸弘: 血管内B細胞リンパ腫を疑いランダム皮膚生検を施行した69例の検討. 第117回日本皮膚科学会総会, 広島, 2018.5.31-6.3
3. 増田泰之, 中村文香, 鷺見真由子, 小坂博志, 長野 徹: Stewart-Treves 症候群様症状を呈し Epithelioid Angiosarcoma が疑われた undifferentiated sarcoma の1例. 第34回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 浜松, 2018.7.6-7
4. 長野 徹, 増田泰之, 大川亜弥, 山田佳枝, 澤井智恵, 若田恭介, 内田絢子: 胃切除後に生じた術後臀部皮膚障害の1例. 第20回日本褥瘡学会総会, 横浜, 2018.9.28-29
5. 古岡慶子, 増田泰之, 谷川絢乃, 小坂博志, 長野 徹: 悪性萎縮性丘疹症 (Degos 病) の1例. 第469回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2018.9.29
6. 谷川絢乃: ペラグラの1例. 神戸中央皮膚科懇話会, 神戸, 2018.10.4
7. 長野 徹: 若年男性の側頭部に生じた結節性筋膜炎の1例. 神戸中央皮膚科懇話会, 神戸, 2018.10.4
8. 谷川絢乃, 古岡慶子, 増田泰之, 中村文香, 鷺見真由子, 小坂博志, 長野 徹: 若年男性に生じた多発性ケラトアカントーマの1例. 第69回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪, 2018.10.27-28
9. 増田泰之, 古岡慶子, 谷川絢乃, 小坂博志, 長野 徹: 若年者に生じ、電撃性瘡瘡が疑われた重症瘡瘡の1例. 第69回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪, 2018.10.27-28
10. 長野 徹: 気をつけたい顔のシミと皮膚がん. 2018年度「皮膚の日」市民公開講座, 神戸, 2018.11.10
11. 古岡慶子, 増田泰之, 谷川絢乃, 小坂博志, 長野 徹: 慢性腭炎患者に生じた腭性脂肪織炎の1例. 第470回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2018.12.8
12. 谷川絢乃, 古岡慶子, 増田泰之, 小坂博志, 長野 徹: 亜鉛欠乏を合併したペラグラの1例. 第471回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2019.2.9
13. 増田泰之, 古岡慶子, 谷川絢乃, 小坂博志, 長野 徹: ジューリング疱疹状皮膚炎の1例. 第472回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2019.3.9

IX. 1. 13 外科・移植外科

1. 小林裕之, 喜多亮介, 増井秀行, 北野翔一, 熊田有希子, 松原孝明, 塩川桂一, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 近藤正人, 北村好史, 水本素子, 貝原 聡, 細谷 亮: 胸腔鏡下食道癌手術における安全な上縦隔郭清手技の工夫. 第118回日本外科学会総会, 東京, 2018.4.5-7
2. 橋田裕毅, 塩川桂一, 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 増井秀行, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 細谷 亮, 貝原 聡: クロウン病に対する抗 TNF- α 抗体の有用性と手術加療. 第118回日本外科学会総会, 東京, 2018.4.5-7
3. 近藤正人, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 北村好史, 水本素子, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 高度進行胃癌に対する審査腹腔鏡と術前化学療法の成績. 第118回日本外科学会総会, 東京, 2018.4.5-7
4. 水本素子, 塩川桂一, 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 増井秀行, 喜多亮介, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における腹腔鏡下胃切除術の再建法による術後障害の検討. 第118回日本外科学会総会, 東京, 2018.4.5-7

5. 喜多亮介, 塩川桂一, 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 腹腔鏡下系統的肝切除の導入～開腹手術と遜色ない質を保つために～. 第 118 回日本外科学会総会, 東京, 2018.4.5-7
6. 北野翔一, 塩川桂一, 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 増井秀行, 喜多亮介, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における TaTME による下部直腸癌手術の短期治療成績. 第 118 回日本外科学会総会, 東京, 2018.4.5-7
7. 熊田有希子, 近藤正人, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 貝原 聡, 細谷 亮: 胃切除患者における Oral nutrition supplementation の取り組み. 第 118 回日本外科学会総会, 東京, 2018.4.5-7
8. 塩川桂一, 瓜生原健嗣, 松原孝明, 北野翔一, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: Comparative analysis of surgical strategy for acute cholecystitis. 第 118 回日本外科学会総会, 東京, 2018.4.5-7
9. 水野良祐, 橋田裕毅, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 塩川桂一, 松原孝明, 増井秀行, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 局所進行直腸癌に対する術前化学療法の有効性. 第 118 回日本外科学会総会, 東京, 2018.4.5-7
10. 鷺見季彦, 北野翔一, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 小林裕之, 橋田裕毅, 近藤正人, 北村好史, 水本素子, 喜多亮介, 増井秀行: 当院における閉鎖孔ヘルニア嵌頓症例の検討. 第 118 回日本外科学会総会, 東京, 2018.4.5-7
11. 高橋駿太, 小林裕之, 喜多亮介, 増井秀行, 北野翔一, 熊田有希子, 松原孝明, 塩川桂一, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 近藤正人, 北村好史, 水本素子, 貝原 聡, 細谷 亮: 術前診断に難渋した小腸粘膜下動脈瘤の一例. 第 118 回日本外科学会総会, 東京, 2018.4.5-7
12. Kobayashi H, Kondo M, Mizumoto M, Kita R, Masui H, Kitano S, Kumata Y, Matsubara T, Shiokawa K, Uryuhara K, Hashida H, Kitamura K, Hosotani R, Kaihara S: Mesenterization and Intra-Operative Neural Monitoring to Reduce the Recurrent Laryngela Nerve Paralysis after Thoracoscopic esophagectomy in Prone Position. SAGES, Seattle, 2018.4.11-14
13. 岩城謙太郎, 八木真太郎, 森田智視, 山本 玄, 政野裕紀, 福光 剣, 長井和之, 伊藤孝司, 吉澤 淳, 加茂直子, 秦浩一郎, 田浦康二郎, 岡島英明, 海道利実, 上本伸二: 生体肝移植術後の多量腹水に関する危険因子解析. 第 36 回日本肝移植研究会, 東京, 2018.5.25-26
14. Kaihara S, Kitamura K, Uryuhara K: Tape Guided Parenchymal Dissection Applying Hanging Method for Safe and Secure Anatomical Hepatectomy. JGSSLS2018, Graz, 2018.5.26-27
15. Kitamura K, Kaihara S, Uryuhara K: 3D-CT simulation and laparoscopic procedure for safe anatomical liver resection. JGSSLS2018, Graz, 2018.5.26-27
16. Kaihara S, Kitamura K, Uryuhara K, Kita R, Masui H, Hashida H, Hosotani R: Strategies on the treatment of colorectal liver metastasis. The 30th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Yokohama, 2018.6.7-9
17. Kitamura K, Kaihara S, Kita R, Masui H, Uryuhara K, Hashida H, Hosotani R: Our procedure and results for anatomical liver resection less than segmentectomy based on the Glissonean branches. The 30th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Yokohama, 2018.6.7-9
18. Kita R, Kaihara S, Masui H, Kitamura K, Uryuhara K, Hosotani R: Evaluation of the safety and validity of hepatectomy for elderly people. The 30th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Yokohama, 2018.6.7-9
19. Masui H, Kaihara S, Shiokawa K, Matsubara H, Kita R, Mizumoto M, Kitamura K, Kondo M, Hashida H, Kobayashi H, Uryuhara K, Hosotani R: Evaluation of the new guidelines of IPMN- from the viewpoint of surgical validity-. The 30th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Yokohama, 2018.6.7-9
20. Iwaki K, Yagi S, Iida T, Masano Y, Tajima T, Okumura S, Yamamoto G, Kamo N, Kaido T, Uemoto S: Case report of extensive isolated spontaneous celiac trunk dissection after liver transplantation. The 30th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Yokohama, 2018.6.7-9
21. 小林裕之, 近藤正人, 水本素子, 瓜生原健嗣, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 北村好史, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 特発性食道破裂に対して胸腔鏡下穿孔部縫合・縦隔ドレナージ術を施行した 1 例. 第 72 回日本食道学会, 宇都宮, 2018.6.28-29
22. 貝原 聡, 細谷 亮: 脾全摘後中長期成績の検討. 第 49 回日本脾臓学会, 和歌山, 2018.6.29-30
23. 塩川桂一, 瓜生原健嗣: 当院における閉鎖孔ヘルニア嵌頓症例の検討. 第 16 回日本ヘルニア学会, 札幌, 2018.6.29-30

24. 瓜生原健嗣：当院における鼠径ヘルニア手術指導の現状. 第 16 回日本ヘルニア学会, 札幌, 2018.6.29-30
25. 貝原 聡, 北村好史, 瓜生原健嗣, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 細谷 亮：アジアロシンチと CT を Fusion させた 3D 画像解析による機能的残肝予備能評価の有効性の検討. 第 73 回日本消化器外科学会, 鹿児島, 2018.7.11-13
26. 小林裕之, 喜多亮介, 増井秀行, 北野翔一, 熊田有希子, 松原孝明, 塩川桂一, 近藤正人, 貝原 聡, 細谷 亮：合併症ゼロを目指した食道癌の胸腔鏡下縦隔アプローチ. 第 73 回日本消化器外科学会, 鹿児島, 2018.7.11-13
27. 橋田裕毅, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 近藤正人, 小林裕之, 細谷 亮, 貝原 聡：TaTME による下部直腸手術の短期成績と有用性. 第 73 回日本消化器外科学会, 鹿児島, 2018.7.11-13
28. 近藤正人, 塩川桂一, 松原孝明, 熊田有希子, 北野翔一, 増井秀行, 喜多亮介, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮：完全内側アプローチを主体とした進行横行結腸癌に対する CME を意識した腹腔鏡手術. 第 73 回日本消化器外科学会, 鹿児島, 2018.7.11-13
29. 北村好史, 貝原 聡, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 瓜生原健嗣：Our procedure of superior mesenteric artery surrounding dissection for pancreatic head cancer. 第 73 回日本消化器外科学会, 鹿児島, 2018.7.11-13
30. 水本素子, 占野尚人, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮：Transformed laparoscopic endoscopic cooperative surgery for gastric submucosal tumor. 第 73 回日本消化器外科学会, 鹿児島, 2018.7.11-13
31. 北野翔一, 近藤正人, 塩川桂一, 松原孝明, 熊田有希子, 水本素子, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮：ESD 後追加切除症例の対する臨床病理学的特徴に関する検討. 第 73 回日本消化器外科学会, 鹿児島, 2018.7.11-13
32. 熊田有希子, 貝原 聡, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 増井秀行, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 細谷 亮：80 歳以上の高齢者における肝切除術の手術成績、長期予後の検討. 第 73 回日本消化器外科学会, 鹿児島, 2018.7.11-13
33. Kita R, Kaihara S, Masui H, Kitamura K, Uryuuhara K, Hosotani R：Strategy for pancreaticojejunostomy ~ reducing the pancreatic fistula ~ . The 73rd General Meeting of the Japanese Society of Gastroenterological Surgery, Kagoshima, 2018.7.11-13
34. Masui H, Uryuuhara K, Shiokawa K, Matsubara T, Kumata Y, Kitano S, Kita R, Mizumoto M, Kaihara S, Hosotani R: Standization of distal pancreatectomy for prevention of pancreatic fistula. The 73rd General Meeting of the Japanese Society of Gastroenterological Surgery, Kagoshima, 2018.7.11-13
35. 塩川桂一, 小林裕之, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 松原孝明, 増井秀行, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮：当院における大腸癌イレウスに対する治療戦略. 第 73 回日本消化器外科学会, 鹿児島, 2018.7.11-13
36. 水野良祐, 橋田裕毅, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 塩川桂一, 松原孝明, 増井秀行, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮：Standardization of laparoscopic abdominal incisional hernia repair. 第 73 回日本消化器外科学会, 鹿児島, 2018.7.11-13
37. Kobayashi H, Kondo M, Mizumoto M, Kita R, Masui H, Kitano S, Kumata Y, Matsubara T, Shiokawa K, Kaihara S, Hosotani R: Mesentery-oriented Lymph Nodes Dissection and Intra-operative Neural Monitoring to Reduce the Postoperative Recurrent Laryngeal Nerve Paralysis in Esophagectomy. ISDE, Viena, 2018.9.16-19
38. Masui H, Kobayashi H, Kondo M, Kaihara S, Hosotani R: laparoscopic trans-hiatal repair for Boerhaave's syndrome: A case report. ISDE, Viena, 2018.9.16-19
39. 水本素子, 加藤紀子, 土井諒也, 佐野亜紀子, 長谷川美和, 貝原 聡：術前減圧処置を要する奨励へのパス適応の安全性についての検討. クリニカルパス学会, 函館, 2018.10.12-13
40. Kondo M: Introduction and results as a safe operative procedure for robotic gastrectomy. Asian summit on robotic surgery, Singapore, 2018.10.18-21
41. 橋田裕毅, 塩川桂一, 松原孝明, 北野翔一, 熊田有希子, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 細谷 亮, 貝原 聡：超高齢者大腸癌に対する腹腔鏡手術の検討. 第 16 回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2018.11.1-11.4
42. 橋田裕毅, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡：超高齢者大腸癌に対する腹腔鏡手術の有用性. 第 73 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2018.11.9-11.10

43. Hashida H: Laparoscopic Repair with Sandwich Technique for Parastomal Hernia. ELSA, Kuala Lumpur, 2018.11.15-17
44. Mizumoto M, Shimeno N, Hashida H, Kaihara S: Evaluation of laparoscopic and endoscopic cooperative surgery for gastric submucosal tumor of cardia. ELSA, Kuala Lumpur, 2018.11.15-17
45. 水野良祐, 北村好史, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 塩川桂一, 松原孝明, 増井秀行, 喜多亮介, 水本素子, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における NOMI (非閉塞性腸間膜虚血) 症例の検討. 第 46 回救急医学会, 横浜, 2018.11.19-20
46. 岩城謙太郎, 貝原 聡, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣: 肝細胞癌との鑑別が困難であった巨大肝細胞腺腫の 2 切除例. 第 80 回日本臨床外科学会, 東京, 2018.11.22-24
47. 神部宏幸, 貝原 聡, 岩城謙太郎, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 増井秀行, 喜多亮介, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅: 膵腺扁平上皮癌と膀胱癌の同時性重複癌の 1 例. 第 80 回日本臨床外科学会, 東京, 2018.11.22-24
48. 小林裕之, 近藤正人, 水本素子, 喜多亮介, 増井秀行, 松原孝明, 塩川桂一, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 北村好史, 貝原 聡: 胸腔鏡下食道癌における Mesentery-oriented lymph nodes dissection. 第 31 回内視鏡外科学会, 福岡, 2018.12.6-8
49. 橋田裕毅, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡: 脾彎曲部結腸に対する 4 方向アプローチによる腹腔鏡下左側結腸切除術. 第 31 回内視鏡外科学会, 福岡, 2018.12.6-8
50. 近藤正人, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 増井秀行, 喜多亮介, 貝原 聡: 脾良性、境界悪性疾患に対する腹腔鏡での機能温存を重視した尾側脾切除術. 第 31 回内視鏡外科学会, 福岡, 2018.12.6-8
51. 北村好史, 貝原 聡, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 細谷 亮: 当院における腹腔鏡下肝部分切除術の治療成績. 第 31 回内視鏡外科学会, 福岡, 2018.12.6-8
52. 水本素子, 水野良祐, 神部宏幸, 岩城謙太郎, 塩川桂一, 松原孝明, 増井秀行, 喜多亮介, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における胃粘膜下腫瘍に対する手術法の選択. 第 31 回内視鏡外科学会, 福岡, 2018.12.6-8
53. 喜多亮介, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 下部直腸癌に対する TaTME 導入後の短期成績. 第 31 回内視鏡外科学会, 福岡, 2018.12.6-8
54. 増井秀行, 橋田裕毅, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 下行結腸進行癌に対する内視鏡手術. 第 31 回内視鏡外科学会, 福岡, 2018.12.6-8
55. 塩川桂一, 近藤正人, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 松原孝明, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 橋田裕毅, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における大腸癌イレウス減圧方法の検討. 第 31 回内視鏡外科学会, 福岡, 2018.12.6-8
56. 岩城謙太郎, 近藤正人, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡: Complicated appendicitis に対する内視鏡手術. 第 31 回内視鏡外科学会, 福岡, 2018.12.6-8
57. 神部宏幸, 橋田裕毅, 岩城謙太郎, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 貝原 聡: 腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術の新しい流れ. 第 31 回内視鏡外科学会, 福岡, 2018.12.6-8
58. 水野良祐, 瓜生原健嗣, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 塩川桂一, 松原孝明, 増井秀行, 喜多亮介, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡, 細谷 亮: 鼠径部解剖を重要視した TAPP/TEPP の術式選択と成績. 第 31 回内視鏡外科学会, 福岡, 2018.12.6-8
59. 橋田裕毅, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡: 大腸神経内分泌腫瘍の治療成績. 第 15 回日本消化管学会, 佐賀, 2019.2.1-03
60. 橋田裕毅: 傍ストーマヘルニア治療における腹腔鏡手術. 第 36 回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会, 大阪, 2019.2.22-23

IX. 1. 14 乳腺外科

1. 加藤大典, 武部沙也香, 常盤麻里子, 木川雄一郎: 短期間乳腺外科ローテーションにおける NEJM を教材とした教育の工夫. 第 26 回日本乳癌学会学術総会, 京都, 2018.5.18
2. 武部沙也香, 加藤大典, 常盤麻里子, 木川雄一郎, 山下大祐, 吉田 誠, 毛利太郎, 原 重雄: 乳管癌と小葉癌との鑑別に苦慮した非浸潤性乳癌の 1 例. 第 74 回京滋乳癌研究会, 京都, 2018.9.1
3. 加藤大典, 平昌正樹, 武部沙也香, 常盤麻里子, 木川雄一郎, 橋田 亨: 再発乳癌患者におけるエベロリムス薬物動態に基づく投与量増加の試み. 第 74 回京滋乳癌研究会, 京都, 2018.9.1
4. 木川雄一郎: 医療者とがん患者のコミュニケーションを評価する質問紙 (EORTC QLQ-COMU26) の日本語版作成の経験. 第 6 回 QOL/PRO 研究会学術集会, 東京, 2018.12.1
5. 武部沙也香, 木川雄一郎, 常盤麻里子, 山下大祐, 吉田 誠, 毛利太郎, 原 重雄: 乳癌の転移再発との鑑別に苦慮した結腸癌肝転移・リンパ節転移の一例. 第 16 回日本乳癌学会近畿地方会, 大阪, 2018.12.15

IX. 1. 15 心臓血管外科

1. 中村 健, 高崎 直, 吉田一史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 当院における破裂性腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術連続 49 例の手術成績の検討. 第 46 回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018.4.19
2. 長澤 淳, 高崎 直, 吉田一史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 坂田隆造, 小山忠明: 主要血管への浸潤が疑われる悪性腫瘍切除術における血管外科医としての関わり. 第 46 回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018.4.20
3. 吉田一史, 高崎 直, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: SVG を用いた SMA バイパス術の検討. 第 46 回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018.4.20
4. 吉田一史, 高崎 直, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 若年者 (50 歳以下) の大動脈解離の治療成績. 第 46 回日本血管外科学会学術総会, 山形, 2018.4.20
5. 松田靖弘, 高崎 直, 吉田一史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 坂田隆造, 小山忠明: 蜂窩織炎を繰り返す Klippel-Trenaunay-Weber 症候群に伴う下肢静脈瘤に対して血管内焼灼術が著効した 1 例. 第 38 回日本静脈学会, 横須賀, 2018.6.15
6. 吉田一史, 高崎 直, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: カテーテル治療困難であった僧帽弁位 PVL の一手術例. 第 60 回関西胸部外科学会, 名古屋, 2018.6.21
7. 松田靖弘, 高崎 直, 吉田一史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 坂田隆造, 小山忠明: 大動脈弁置換術と三尖弁形成術後 2 年で弁下パンヌスと仮性内膜による大動脈弁狭窄症と三尖弁狭窄症をきたして二弁置換術を要した 1 例. 第 60 回関西胸部外科学会, 名古屋, 2018.6.21
8. 吉田一史, 藤井浩史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: 経大動脈カテーテル大動脈弁植え込み術の治療成績. 第 9 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会, 大阪, 2018.7.8
9. 吉田一史, 高崎 直, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 坂田隆造, 小山忠明: 冠動脈バイパス術における内視鏡的大伏在静脈採取法の有効性. 第 23 回日本冠動脈外科学会, 和歌山, 2018.7.12
10. 松田靖弘, 高崎 直, 吉田一史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 坂田隆造, 小山忠明: ヘパリン起因性血小板減少症で人工心肺非使用下冠動脈バイパス術にアルガトロバンを使用するも術中グラフト血栓塞栓を繰り返した 1 例. 第 23 回日本冠動脈外科学会, 和歌山, 2018.7.12
11. 小泉滋樹, 吉田一史, 藤井浩史, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: 孤立性三尖弁閉鎖不全症に対し三尖弁形成術を施行した一例. OPCAB 研究会, 和歌山, 2018.7.14
12. 吉田一史, 藤井浩史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: 高度機能性三尖弁閉鎖不全症に対する Tailor Flexible Band での弁輪縫縮術の遠隔成績. 第 71 回日本胸部外科学会定期学術集会, 東京, 2018.10.5
13. 藤井浩史, 吉田一史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: 多発性骨髄腫を合併した僧帽弁閉鎖不全症に対して右肋間小開胸で手術を行った一例. 第 126 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2018.11.24
14. 小泉滋樹, 吉田一史, 藤井浩史, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: ACTA2 遺伝子異常に起因する右鎖骨下動脈瘤を合併した胸部大動脈瘤に対する一手術症例. 第 80 回兵庫県血管外科学研究会, 兵庫, 2019.1.19

15. 吉田一史, 藤井浩史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: 心臓原発悪性腫瘍の手術および遠隔成績. 第 49 回日本心臓血管外科学会学術総会, 岡山, 2019.2.13
16. 小泉滋樹, 吉田一史, 藤井浩史, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: 破裂性腹部大動脈瘤に対する EVAR および Open abdominal management 施行後の高度癒着性イレウスに難渋した一例. 第 33 回日本血管外科学会近畿地方会, 奈良, 2019.3.2

IX. 1. 16 呼吸器外科

1. 伊達直希, 浜川博司, 坂之上朗, 齋藤伴樹, 高橋 豊: 外傷性気胸と腕神経叢引き抜き損傷を合併したことにより気脳症を来した一例. 第 35 回日本呼吸器外科学会総会, 千葉, 2018.5.18
2. 印藤貴士, 浜川博司, 青山晃博, 伊達直希, 宍戸 裕, 高橋 豊: 低肺機能患者に対し喚起方法を工夫した肺部分切除例. 京都大学呼吸器外科教室平成 30 年夏期研究会, 大津, 2018.7.21
3. Date N, Hamakawa H, Akiyama A, Sakanoue I, Saito T, Takahashi Y: Lavage cytology of retrieval bags after video-assisted thoracic surgery in primary lung cancer patients. European Association for Cardio-Thoracic Surgery, Milan, Italy, 2018.10.18
4. 青山晃博, 浜川博司, 印藤貴士, 宍戸 裕, 伊達直希, 高橋 豊: 肺神経内分泌腫瘍手術例の検討. 第 59 回日本肺癌学会, 東京, 2018.11.28
5. 藤本大智, 細谷和貴, 河内勇人, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 浜川博司, 伊達直希, 高橋 豊, 山下大裕, 今井幸弘, 北村由香, 福岡順也, 富井啓介: 22C3 抗体と SP263 抗体を用いた PD-L1 発現の比較. 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.29
6. 宍戸 裕, 青山晃博, 原 重雄, 印藤貴士, 伊達直希, 浜川博司, 高橋 豊: 同一肺葉内の孤立性線維性腫瘍内に転移を来した定型カルチノイドの 1 例. 第 47 回京都大学呼吸器外科教室冬期研究会, 京都, 2019.2.16
7. 宍戸 裕, 青山晃博, 印藤貴士, 伊達直希, 浜川博司, 高橋 豊, 原 重雄: 同一肺葉内の孤立性線維性腫瘍内に転移を来した定型カルチノイドの 1 例. 第 109 回日本肺癌学会関西支部, 大阪, 2019.2.23

IX. 1. 17 脳神経外科

1. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire de Night in Hiroshima. Solitaire de Night in Hiroshima, 広島, 2018.4.6
2. 佐々木夏一, 船津堯之, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 坂井信幸: 意識障害で発症した脳実質内嚢胞性病変の 1 例. Neurosurgery Kinki 2018 Spring Meeting, 大阪, 2018.4.7
3. 秋山 亮, 船津堯之, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 徳永 聡, 鈴木啓太, 足立拓優, 川端修平, 佐々木夏一, 松井雄一, 堀内一史, 坂井信幸: 破裂遠位部後下小脳動脈瘤に対して母血管閉塞にて治療した 1 例. 第 75 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2018.4.7
4. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire de Night In Sendai. Solitaire de Night In Sendai, 仙台, 2018.4.13
5. 舟越勇介, 波多野武人, 坂 真人, 安藤充重, 千原英夫, 瀧田 亘, 徳永敬介, 橋川拓郎, 鎌田貴彦, 東 英司, 永田 泉: 血管障害の直達手術における経動脈的 ICG 撮影の有用性. 第 27 回脳神経外科手術と機器学会, 奈良, 2018.4.13
6. Sakai N, Minematsu K, Hasegawa Y, Hyodo A, Iihara K, Ogasawara K, Imamura H, Sakai C, Ohara N, Kono T, Adachi H, WICAD/AICAD investigators: Current status of endovascular therapy for ICAD, Japanese post-market surveillance of Wingspan stenting (WICAD) and angioplasty (AICAD) . 15th CFCVD (symposium) , Beijing, China, 2018.4.13
7. Sakai N, Imamura H, Yamagami H, Matsumoto Y, Imai K, Ota S, Horie N, Kondo R, Enomoto Y, Yoshimura S, Masuo O, Hirohata M, Shibata M, Matsumaru Y, Tsumoto T, Ito Y, Kuwayama N, TRON1 Investigators: New stent retriever Tron FX approving study. University Medical Center Hamburg-Eppendorf (Invited Lecture), Hamberg, Germany, 2018.4.16
8. Imamura H, Sakai N: Solitaire de Night in Osaka. Solitaire de Night in Osaka, Osaka, 2018.4.20
9. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K, Ohara N, Kono T: Current management of acute ischemic stroke in Japan. WLNC2018, Kobe, 2018.4.25
10. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 春原 匡, 鈴木啓太, 松井雄一, 佐々木夏一, 大村佳大, 舟越勇介, 秋山 亮, 堀内一史, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 尾原信行, 河野智之, 藤原 悟: CAS の歩みと今後. 第 11 回静岡 CAS フォーラム, 静岡, 2018.5.15

11. 坂井信幸, 今村博敏, 坂井千秋: 脳血管内治療の現状と今後. 第 38 回日本脳神経外科コンgres (特別企画 みらいを救う脳神経外科 リーダー達の挑戦), 大阪, 2018.5.18
12. 坂井信幸: 脳血管内治療の現状と今後. 第 38 回日本脳神経外科学会コンgres総会, 大阪, 2018.5.19
13. 今村博敏, 坂井信幸: 頸動脈狭窄症に対する治療手技 CAS を安全に行うために. 第 38 回日本脳神経外科学会コンgres総会, 大阪, 2018.5.20
14. 坂井信幸: 手術困難例にタイする血管内外科の挑戦. The 6th Aesculap Neurosurgery Special Conference, 大阪, 2018.5.20
15. 坂井信幸: 新時代を迎えた急性再開通療法、Time base から Image base へ. 第 300 回神戸頭部研究会, 神戸, 2018.6.2
16. 今村博敏, 尾原信行, 谷 正一, 足立秀光, 河野智之, 徳永 聡, 船津堯之, 鈴木啓太, 足立拓優, 坂井信幸: CAS 施行症例における流速と狭窄率の比較. 第 37 回日本脳神経超音波学会総会, 神戸, 2018.6.9
17. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 春原 匡, 鈴木啓太, 松井雄一, 佐々木夏一, 大村佳大, 舟越勇介, 秋山 亮, 堀内一史, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 尾原信行, 河野智之, 藤原 悟: 日本の carotid stenting のエビデンスと今後. 第 5 回日本心血管脳卒中学会, 東京, 2018.6.15
18. Sakai N, Tateshima S: First-in-man experience of Versi system for AIS. 3C meeting, Jackson Hole, WY, USA, 2018.6.26
19. 堀内一史, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 春原 匡, 大村佳大, 鈴木啓太, 舟越勇介, 松井雄一, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山 亮, 重安将志, 梶浦晋司, 坂井信幸: 無症候性頸動脈狭窄症に対する頸動脈ステント留置術の中長期成績. 第 27 回日本脳ドック学会総会, 岩手, 2018.6.30
20. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 坂東鋭明, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: アテローム血栓症の急性期血管内治療. 第 24 回日本血管内治療学会学術総会, 神戸, 2018.7.5
21. 舟越勇介, 波多野武人, 安藤充重, 千原英夫, 瀧田 亘, 徳永敬介, 橋川拓郎, 鎌田貴彦, 東 英司, 永田泉: 大動脈弓近傍の動脈狭窄病変に対する stent 留置術の approach 法. 第 24 回日本血管内治療学会学術総会, 神戸, 2018.7.6
22. 坂井信幸: 脳血管内治療の歴史、現状、今後. 第 100 回茨城県脳神経外科集談会, 筑波, 2018.7.7
23. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: Trial 結果から見た HydroGel の効果と更なる期待. 2018 MV (マイクロベンション) 特別講演会, 小倉, 2018.7.11
24. 舟越勇介, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 春原 匡, 鈴木啓太, 大村佳大, 松井雄一, 佐々木夏一, 坂東鋭明, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 切迫破裂から破裂に至り不良な経過をたどった血栓化巨大動脈瘤の 1 例. 第 56 回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 和歌山, 2018.7.14
25. 福田竜丸, 今村博敏, 梶浦晋司, 重安将志, 堀内一史, 秋山 亮, 坂東鋭明, 佐々木夏一, 松井雄一, 舟越勇介, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 足立秀光, 谷 正一, 坂井信幸: 血管内治療と開頭クリッピング術を要する多発脳動脈瘤における治療戦略. 第 48 回兵庫県脳神経外科医懇話会, 神戸, 2018.7.21
26. 福田竜丸, 今村博敏, 梶浦晋司, 重安将志, 堀内一史, 秋山 亮, 坂東鋭明, 佐々木夏一, 松井雄一, 舟越勇介, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 足立秀光, 谷 正一, 坂井信幸: 血管内治療と開頭クリッピング術を要する多発脳動脈瘤における治療戦略. 第 48 回兵庫県脳神経外科医懇話会, 神戸, 2018.7.21
27. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 春原 匡, 鈴木啓太, 松井雄一, 佐々木夏一, 大村佳大, 舟越勇介, 秋山 亮, 堀内一史, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志: 脳動脈瘤の血管内治療最前線 - Flow Diverter の功罪と今後. 帝京大学招待講演, 東京, 2018.8.6
28. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 春原 匡, 鈴木啓太, 松井雄一, 佐々木夏一, 大村佳大, 舟越勇介, 秋山 亮, 堀内一史, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 尾原信行, 河野智之, 藤原 悟: 急性再開通療法のエビデンスの変遷、今後の脳卒中診療はどうあるべきか. 熊本脳卒中超急性期の地域医療を考える会 (K-EARTH), 熊本, 2018.8.10
29. 大村佳大, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: Transarterial embolization of intracranial dural arteriovenous fistulas in the Onyx embolic era: A Kobe experience. East Asian Conference of neurointervention 2018 with 16th Summer Intensive Course of KSIN, Busan, 2018.8.25

30. 秋山 亮, 春原 匡, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 福光 龍, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 左前大脳動脈近位部巨大動脈瘤により閉塞性水頭症を呈した1例. 4病院合同カンファレンス, 神戸, 2018.9.3
31. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 1pass が通らないときに次の一手をどうするか? Neurosurgery Kinki 2018 Autumn Meeting, 大阪, 2018.9.8
32. 重安将志, 舟越勇介, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 坂井信幸: 数日で再発を繰り返し中硬膜動脈塞栓術が奏効した慢性硬膜下血腫の1例. Neurosurgery Kinki 2018 Autumn Meeting, 大阪, 2018.9.8
33. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: Solitaire Platinum. 脳血管内治療ブラッシュアップセミナー 2018, 神戸, 2018.9.15
34. 今村博敏, 佐藤 徹, 飯原弘二, 坂井信幸, JR-NET investigators: 血管内治療の標準化はできないのか? JR-NET3 から. 脳血管内治療ブラッシュアップセミナー 2018, 神戸, 2018.9.15
35. 坂井信幸, 今村博敏, 高木俊範, 坂井千秋, 吉村紳一: 脳血管内治療に携わる内科医へのメッセージ 2018. NET-I, 福岡, 2018.9.29
36. 今村博敏, 坂井信幸: 血栓回収療法 Up to Date. 第2回 Stroke リアルワールドミーティング, 鹿児島, 2018.10.3
37. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 春原 匡, 鈴木啓太, 松井雄一, 佐々木夏一, 大村佳大, 舟越勇介, 秋山 亮, 堀内一史, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 尾原信行, 河野智之, 藤原 悟, 村上泰隆: 急性虚血性脳卒中に対する血栓回収療法の進歩. 第21回日本栓子検出と治療学会, 千葉, 2018.10.6
38. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 新たな選択肢「PRIME Frame」の可能性～使用経験から～. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018.10.10
39. 舟越勇介, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 春原 匡, 鈴木啓太, 大村佳大, 松井雄一, 佐々木夏一, 坂東鋭明, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 内頸動脈より遠位の可動性のある血管に発生した未破裂動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018.10.10
40. 大村佳大, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: Transarterial embolization of intracranial dural arteriovenous fistulas in the Onyx embolic era: A Kobe experience. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018.10.10
41. 秋山 亮: 左 A1 巨大紡錘状動脈瘤により閉塞性水頭症を呈した1例. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018.10.10
42. 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 松井雄一, 秋山亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 発症から6時間以上経過した主幹動脈閉塞症例への急性血行再建術の治療成績とその相関因子の検討. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018.10.10
43. 足立秀光: 動脈硬化性頭蓋内動脈狭窄症に対する非急性期ステント留置術の成績. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018.10.10
44. 谷 正一, 今村博敏, 足立秀光, 春原 匡, 大村佳大, 鈴木啓太, 舟越勇介, 佐々木夏一, 秋山 亮, 堀内一史, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 内頸動脈バルーン閉塞試験時の脳血流の左右差は脳皮質静脈を複数箇所計測することでより正確に予測できる. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018.10.11
45. 福田竜丸, 今村博敏, 梶浦晋司, 重安将志, 堀内一史, 秋山 亮, 佐々木夏一, 松井雄一, 舟越勇介, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 足立秀光, 谷正一, 坂井信幸: 同時に発見された2か所以上の未破裂動脈瘤に対する治療方針. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018.10.11
46. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 破裂脳動脈瘤に対するコイル塞栓術後の再出血の検討. 第77回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018.10.12

47. 重安将志, 大村佳大, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 舟越勇介, 松井雄一, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 坂井信幸: 椎骨動脈仮性動脈瘤の治療に vascular plug が有用であった一例. 第 77 回日本脳神経外科学会学術総会, 仙台, 2018.10.12
48. 今村博敏, 春原 匡, 大村佳大, 松井雄一, 福田竜丸, 坂井信幸: 私が考える Trevo の使いどころ. Trevo X meeting in Tokyo, 東京, 2018.10.26
49. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Adachi H, Tani S, Sunohara T, Matsui Y, Sasaki N, Omura Y, Funakoshi Y, Akiyama R, Horiuchi K, Fukuda T, Kajiura S, Shigeyasu M: Difficultie in stent assisted coiling—reasons and management. OCIN2018, Shanghai, China, 2018.10.26
50. 佐々木夏一, 谷 正一, 舟越勇介, 今村博敏, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 松井雄一, 秋山亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 鞍上部クモ膜嚢胞に対して内視鏡的経脳室開窓術を施行した 1 例. 第 25 回日本内視鏡学会, 新潟, 2018.10.27
51. 今村博敏, 坂井信幸: 脳卒中診療～再開通療法から高血圧治療まで～. 小田原内科医会学術講演会, 神奈川, 2018.10.30
52. Sakai N, Imamura H, Ohara N, Kono T, Fujiwara S, Murakami Y, Sakai C, Adachi H, Tani S, Sunohara T, Matsui Y, Sasaki N, Omura Y, Funakoshi Y, Akiyama R, Horiuchi K, Fukuda T, Kajiura S, Shigeyasu M: Endovascular treatment for AIS in Japan, update, Collaterals2018, Los Angeles, USA, 2018.11.8
53. 今村博敏, 春原 匡, 大村佳大, 松井雄一, 福田竜丸, 坂井信幸: 私が考える Trevo の使いどころ. Trevo X meeting in Chiba, 千葉, 2018.11.9
54. Sakai N, Minematsu K, Hasegawa Y, Hyodo A, Iihara K, Ogasawara K, Imamura H, Sakai C, Ohara N, Kono T, Adachi H, WICAD/AICAD investigators: Current status of endovascular therapy for ICAD, Japanese post-market surveillance of Wingspan stenting (WICAD) and angioplasty (AICAD) –compared with 2 key clinical trial WEAVE and CASSISS. 151h SVIN, San Diego, USA, 2018.11.15
55. 今村博敏, 坂井信幸: 今週の Solitaire. Solitaire de Night in Osaka, 大阪, 2018.11.16
56. 福田竜丸: 当院におけるケイセントラ® 使用後の緊急手術症例経験. KOBE 脳出血治療セミナー, 神戸, 2018.11.17
57. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 脳動脈瘤 (破裂). 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.22
58. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 脳卒中ホットラインを使用した搬送から血管内治療までの時間短縮. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.22
59. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 私が考える Trevo XP ProVue Retriever の真の実力. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.22
60. 大村佳大, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: Transarterial embolization of intracranial dural arteriovenous fistulas in the Onyx embolic era: A Kobe experience. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.22
61. 秋山 亮, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 脳神経症状を呈する内頸動脈瘤に対する Pipeline Embolization Device の治療成績. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.22
62. 足立秀光, 坂井信幸, 谷 正一, 今村博敏, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 尾原信行, 河野智之, 村上泰隆, 藤原 悟, 坂井千秋: 慢性期動脈硬化性頭蓋内動脈狭窄に対するステント留置術の成績 – Balloon expandable stent と Self expandable stent –. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.22
63. 坂井信幸: 脳卒中センター認定の開始と日本脳神経血管内治療学会. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.22

64. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 神戸家の組織作りと魅力. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.23
65. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: デバイスの進化により「血管内治療の適応」増える? 増えてない? 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.23
66. 重安将志, 大村佳大, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 舟越勇介, 松井雄一, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 坂井信幸: 椎骨動脈仮性動脈瘤の治療に vascular plug が有用であった一例. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.23
67. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 1 pass が通らないときに次の一手をどうするか? 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.24
68. 舟越勇介, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 松井雄一, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 内頸動脈より遠位の可動性のある血管に発生した未破裂動脈瘤に対するステント併用コイル塞栓術. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.24
69. 福田竜丸, 今村博敏, 梶浦晋司, 重安将志, 堀内一史, 秋山 亮, 佐々木夏一, 松井雄一, 舟越勇介, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 足立秀光, 谷 正一, 坂井信幸: 血管内治療と開頭クリッピング術を要する多発脳動脈瘤における治療戦略. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.24
70. 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 松井雄一, 秋山亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 発症から 6 時間以上経過した主幹動脈閉塞症例への急性血行再建術の治療成績とその相関因子の検討. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.24
71. 坂井信幸: 急性再開通療法—エビデンス確立の次の課題. 第 5 回明石海峡脳血管内治療セミナー, 明石, 2018.11.30
72. 今村博敏, 大村佳大, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: dAVF に対する TAE. 鹿島脳血管内治療ワークショップ, 茨城, 2018.12.1
73. 坂井信幸: AIS 最良の結果をどう提供するか、脳血管内治療の専門医制度改革について. 第 53 階西関東 Neuro IVR セミナー, 埼玉, 2018.12.1
74. 今村博敏, 谷 正一, 福光 龍, 春原 匡, 佐々木夏一, 秋山 亮, 坂井信幸: 神戸市立医療センター中央市民病院. 第 9 回京都大学脳神経外科 Neuro IVR 研修セミナー IVR 道場 2018, 京都, 2018.12.8
75. 坂井信幸, 今村博敏, 坂井千秋, 尾原信行, 河野智之: 脳血管内治療を活用する脳卒中診療、最新情報. 筑紫脳卒中・地域医療支援フォーラム, 福岡, 2018.12.17
76. 今村博敏, 坂井信幸: AXIUM PRIME FRAME. PRIME De Night @小倉, 小倉, 2018.12.21
77. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 春原 匡, 鈴木啓太, 松井雄一, 佐々木夏一, 大村佳大, 舟越勇介, 秋山 亮, 堀内一史, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志: 脳卒中の血管内治療—フローダイバーター治療の功罪と今後の展望. 第 17 回北海道ブレインアタックフォーラム, 札幌, 2019.1.12
78. 今村博敏, 坂井信幸: AXIUM PRIME FRAME. PRIME De Night @新潟, 新潟, 2019.1.18
79. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire de Night in 松山. Solitaire de Night in 松山, 松山, 2019.1.25
80. 松井雄一, 大村佳大, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 福光 龍, 春原 匡, 舟越勇介, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 脳出血に併発した内頸動脈解離による脳梗塞でステント留置を行った 1 例. 第 19 回神戸中央脳神経外科研究会, 神戸, 2019.1.30
81. 今村博敏, 坂井信幸: AXIUM PRIME FRAME. PRIME De Night @大阪, 大阪, 2019.2.1
82. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 春原 匡, 鈴木啓太, 松井雄一, 佐々木夏一, 大村佳大, 舟越勇介, 秋山 亮, 堀内一史, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 尾原信行, 河野智之, 藤原 悟, 村上泰隆: 脳神経救急における血管内治療の未来. 第 24 回日本脳神経外科救急学会, 大阪, 2019.2.1

83. 大村佳大, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 脳底動脈脳底動脈閉塞に対脳底動脈閉塞に対する血栓回収療法にて穿孔、解離をきたし母血管閉塞を要した1例. 第57回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ, 奈良, 2019.2.2
84. Sakai N: How we manage and advance endovascular treatment in Japan. AANS/CNS joint CV Section, Honolulu, USA, 2019.2.4
85. Sakai N, Imamura H, Ohara N, Kono T, Fujiwara S, Murakami Y, Sakai C, Adachi H, Tani S, Sunohara T, Matsui Y, Sasaki N, Omura Y, Funakoshi Y, Akiyama R, Horiuchi K, Fukuda T, Kajiura S, Shigeyasu M: Initial experience with Nautilus intrasaccular bridging device for intracranial aneurysms. AANS/CNS joint CV Section, Honolulu, USA, 2019.2.4
86. Imamura H, Tani S, Adachi H, Fukumitsu R, Sunohara T, Omura Y, Funakoshi Y, Sasaki N, Matsui Y, Akiyama R, Horiuchi K, Kajiura S, Shigeyasu M, Sakai N: Cerebrovascular Surgery in Japan. AANS/CNS Joint Cerebrovascular Section ANNUAL MEETING 2019, Honolulu, Hawaii, 2019.2.4
87. Sakai N, Imamura H, Yamagami H, Matsumoto Y, Imai K, Ota S, Horie N, Kondo R, Enomoto Y, Yoshimura S, Masuo O, Hirohata M, Shibata M, Matsumaru Y, Tsumoto T, Ito Y, Kuwayama N, TRON1 Investigators: New stent retriever Tron FX approving study. ISC2019, Honolulu, USA, 2019.2.6
88. 今村博敏, 坂井信幸: 脳卒中診療における救急隊との連携～プレホスピタルの重要性～. Stroke 救急疾患勉強会, 西宮, 2019.2.14
89. 舟越勇介, 谷 正一, 佐々木夏一, 足立秀光, 今村博敏, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 両耳側半盲障害で発症した嚢胞性病変について. 第307回荒木千里記念脳外科症例検討研究会, 大阪, 2019.2.19
90. 今村博敏, 坂井信幸: AXIUM PRIME FRAME. PRIME De Night @仙台, 仙台, 2019.2.22
91. 今村博敏, 坂井信幸: AXIUM PRIME FRAME. PRIME De Night @名古屋, 名古屋, 2019.3.8
92. 今村博敏, 坂井信幸: Time in Brain. 東灘救急講義, 神戸, 2019.3.13
93. 松井雄一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 福田竜丸, 堀内一史, 梶浦晋司, 坂井信幸: 90歳以上の超高齢者に対する急性期血行再建術の治療成績. 第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.21
94. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: Tron FXによる血栓回収療法の新たな可能性. 第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.21
95. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 開頭手術後と血管内治療後の脳血管攣縮の比較. 第35回スパズム・シンポジウム, 横浜, 2019.3.21
96. 福光 龍, 梶浦晋司, 重安将志, 堀内一史, 秋山 亮, 福田竜丸, 佐々木夏一, 松井雄一, 舟越勇介, 大村佳大, 春原 匡, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井信幸: 大型椎骨脳底動脈瘤に対する血管内治療の治療成績. 第48回日本脳卒中の外科学会学術集会, 横浜, 2019.3.22
97. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 最終健常確認から4.5時間以上経過した witnessed stroke と unwitnessed stroke の比較. 第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.22
98. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: Trevo XP ProVue Retriever を使った新しい治療戦略. 第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.22
99. 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 発症後6時間以上経過した主幹動脈閉塞症例への急性期血行再建術の治療成績とPMAを使用した相関因子の検討. 第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.22
100. 重安将志, 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 坂井信幸: 血管内治療を施行した後大脳動脈瘤19例の成績と手法. 第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.22

101. 秋山 亮, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 脳神経症状を呈する内頸動脈瘤に対する Pipeline Embolization Device の治療成績. 第 44 回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.23
102. 大村佳大, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 頭蓋内硬膜動静脈瘻に対する ONYX を用いた頸動脈的塞栓術の治療成績. 第 48 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 横浜, 2019.3.23
103. 堀内一史, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 松井雄一, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山 亮, 重安将志, 梶浦晋司, 坂井信幸: 出血発症した脳動静脈奇形の feeder に、unfused, aplastic or twig-like middle cerebral artery を合併した 1 例. 第 44 回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.23
104. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 河野智之, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 藤原 悟, 松井雄一, 村上泰隆, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀 晋也, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 全てお見せします、私が辿り着いた治療戦略. 第 44 回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.23
105. 福田竜丸, 今村博敏, 梶浦晋司, 重安将志, 堀内一史, 秋山 亮, 佐々木夏一, 松井雄一, 舟越勇介, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 足立秀光, 谷 正一, 坂井信幸: 多発未破裂脳動脈瘤に対して開頭クリッピング術と血管内治療を施行した症例の検討. 第 48 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 横浜, 2019.3.23
106. 坂井信幸, 今村博敏, 山上 宏, 松本康史, 今井啓輔, 大田真三, 堀江信貴, 近藤 礼, 榎本由貴子, 吉村紳一, 増尾 修, 廣畑 優, 柴田益成, 松丸祐司, 津本智幸, 伊藤 靖, 桑山直也: Tron FX 血栓除去デバイス臨床試験成績速報. STROKE2019, 横浜, 2019.3.23
107. 坂井信幸: 急性再開通療法の普及戦略. STROKE2019, 横浜, 2019.3.23
108. 今村博敏, 坂井信幸: Solitaire de Night in 東京. Solitaire de Night in 東京, 東京, 2019.3.29

IX. 1. 18 整形外科

1. 高岡祐輔, 安田 義: 足関節に生じた色素性絨毛結節性滑膜炎. 第 130 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 松山, 2018.4.20,
2. 小西宏樹, 安田 義, 岩城公一, 大西英次郎, 藤田俊史, 太田悟司: セメント型人工股関節の術後 17 年目にステム折損をきたした 1 例. 第 130 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 松山, 2018.4.20
3. 山本博史, 藤田俊史, 林 信実, 森田悠吾, 安田 義: 幼児小児骨折に対する整復固定の工夫. 第 130 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 松山, 2018.4.20
4. Yasuda T: Greater trochanteric fracture is a complication in the early phase after total hip arthroplasty for rapidly destructive coxopathy. The 62nd Annual General Assembly and Scientific Meeting of the Japan College of Rheumatology, Tokyo, Japan, 2018.4.27
5. 藤田俊史, 橋村卓実, 小西宏樹, 安田 義: 前腕骨骨折におけるプレート抜釘後再骨折症例の検討. 第 61 回日本手外科学会学術集会, 東京, 2018.4.27
6. 橋村卓実, 安田 義, 山本博史, 藤田俊史, 藤尾圭司, 露口和陽: AO Type C 橈骨遠位端骨折に対する術中牽引の有無における術後 X 線パラメーターの比較検討. 第 61 回日本手外科学会学術集会, 東京, 2018.4.27
7. 藤田 暁, 藤田俊史, 安田 義: 35 年間観察できたキーンバック病にシリコン人工月状骨置換術を施行した 1 例. 第 2 回オープンボーンカンファレンス特別講演会, 神戸, 2018.5.12
8. Yasuda T, Oyanagi K, Nakagaki M, Harada J, Aoyama N, Yoshiya S: Hip Rotation as a Crucial Risk Factor for Anterior Cruciate Ligament Injury in Female Athletes. APKASS2018, Sydney, Australia, 2018.5.30-6.1
9. 末吉達也, 安田 義: 人工膝関節周術期のトラネキサム酸による出血軽減効果. 第 10 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 福岡, 2018.6.14
10. Yasuda T, Sueyoshi T: Alterations in deep tissue temperature around the knee after total knee arthroplasty: Its association with knee functional recovery. The 10th Annual Meeting of Japanese Orthopaedic Society of Knee, Arthroscopy and Sports Medicine, Fukuoka, 2018.6.15
11. 高岡祐輔, 太田悟司, 安田 義: リスフラン関節脱臼骨折に対する関節固定術の治療成績について. 第 44 回日本骨折治療学会, 岡山, 2018.7.6
12. 榎田崇一郎, 末吉達也, 太田悟司, 安田 義: Vancouver 分類 Type B 大腿骨ステム首位骨折に対する術後 ADL と生命予後に関する検討. 第 44 回日本骨折治療学会, 岡山, 2018.7.7
13. 末吉達也, 太田悟司, 安田 義: 脛骨骨幹部骨折に対する髓内釘後の感染症例. 第 44 回日本骨折治療学会, 岡山, 2018.7.7

14. 山本博史, 太田悟司, 末吉達也, 安田 義: 持続洗浄と NPWT を組み合わせてコントロールした難治性下腿感染の 3 例. 第 44 回日本骨折治療学会, 岡山, 2018.7.7
15. 太田悟司, 藤原正利, 安田 義, 榊田崇一郎, 末吉達也, 高岡祐輔: 骨盤輪損傷に対する当科における後方部固定. 第 44 回日本骨折治療学会, 岡山, 2018.7.7
16. 安田 義, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英二郎: 白蓋病的骨折に対する modified Harrington 法による骨盤支持機能再建. 第 31 回日本臨床整形外科学会, 鹿児島, 2018.7.16
17. 安田 義: 骨粗鬆症の病態と治療. ファイザー製薬社内講演会, 神戸, 2018.7.23
18. 大西英二郎: 神経障害性疼痛の診断と治療. 平成 30 年度第 3 回兵庫県病院薬剤師会尼崎支部学術講演会, 尼崎, 2018.8.9
19. Yasuda T, Iwaki K, Ueyama M, Takamura D, Nakajima R, Harada J, Iwata K: Alterations in Deep Tissue Temperature around the Knee after Total Knee Arthroplasty: its Association with Knee Motion Recovery in the Early Phase. Global Conference on Physiotherapy, Kuala Lumpur, Malasia, 2018.8.21
20. 橋村卓実, 藤田 暁, 小西宏樹, 高岡祐輔, 平塚将太郎, 森田悠吾, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: TKA 術後の Lateral Pateller Facet Syndrome に対し、Arthrex SwiveLock® を併用した一例. 第 3 回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2018.8.31
21. 安田 義, 小柳圭一, 中垣美優, 原田惇平, 吉矢晋一, 市橋則明, 伊藤浩充: 女性アスリートにおける股関節回旋と膝前十字靭帯損傷との関連性に関する研究. 第 73 回日本体力医学会大会, 福井, 2018.9.8
22. 末吉達也, 本田新太郎, 藤田 暁, 小西宏樹, 高岡祐輔, 平塚将太郎, 森田悠吾, 橋村卓実, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 人工膝関節全置換術のターニケット駆血とトラネキサム酸使用について. 第 55 回兵庫県膝関節研究会, 神戸, 2018.9.15
23. 藤田 暁, 藤田俊史, 橋村卓実, 安田 義: キーンバック病に対してシリコン人工月状骨置換術施行後 35 年を追跡できた 1 例. 第 131 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 倉敷, 2018.10.5
24. 平塚将太郎, 太田悟司, 安田 義: 尺骨遠位骨幹端骨折に対し腓骨遠位用プレートを使用して治療した 3 例. 第 131 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 倉敷, 2018.10.5
25. 高岡祐輔, 安田 義: 距骨下関節脱臼を伴った距骨頸部骨折 (Hawkins 分類 2 型) の治療成績. 第 131 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 倉敷, 2018.10.6
26. Onishi E, Yasuda T, Fujita S, Hashimura T, Sueyoshi T, Ota S: Outcomes of Surgical Treatment for Thoracic Myelopathy. The 39th SICOT Orthopaedic World Congress, Montreal, Canada, 2018.10.10-13
27. 小豆澤勝幸, 伊藤 宣, 濱本洋輔, 森田佑吾, 岡島章寛, 富澤琢也, 布留守敏, 吉富啓之, 坪山直生, 松田秀一, 安田 義: 運動療法が関節軟骨代謝に及ぼす効果におけるバイオマーカーを用いた検討. 第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018.10.11
28. 高岡祐輔, 本田新太郎, 藤田 暁, 小西宏樹, 平塚将太郎, 松永一宏, 森田悠吾, 橋村卓実, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 外傷性軟部組織欠損の再建についての 1 例. 第 29 回兵庫県骨折治療研究会, 神戸, 2018.10.13
29. 安田 義: 変形性関節症の病態と治療. 帝人ファーマ社内研修会, 神戸, 2018.10.17
30. 高岡祐輔, 本田新太郎, 藤田 暁, 小西宏樹, 平塚将太郎, 松永一宏, 森田悠吾, 橋村卓実, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 母指 CM 関節症に対する suture-button を用いた鏡視下関節形成術の実際. 第 40 回摩耶整形外科病診連携懇話会, 神戸, 2018.11.8
31. 安田 義: リウマチ性疾患に対する人工肘関節置換術～疼痛管理を含めて～. 第 40 回摩耶整形外科病診連携懇話会, 神戸, 2018.11.8
32. 藤田 暁, 本田新太郎, 小西宏樹, 高岡祐輔, 平塚将太郎, 松永一宏, 森田悠吾, 橋村卓実, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 鏡視下 Bankart 術後、再脱臼に対し苦労している一例. 第 7 回京整会轍会症例検討会, 豊岡, 2018.11.17
33. 藤田俊史, 橋村卓実, 末吉達也, 太田悟司, 大西英次郎, 安田 義: ヒトロンビン含有ゼラチン使用吸収性局所止血材を用いるマイクロ手術における出血コントロール. 第 45 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 大阪, 2018.12.7
34. 小西宏樹, 本田新太郎, 藤田 暁, 高岡祐輔, 平塚将太郎, 松永一宏, 森田悠吾, 橋村卓実, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: Paralabral cyst に対して鏡視下除圧・関節唇縫合を行った症例 (2 例). 第 4 回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2018.12.8

IX. 1. 19 形成外科

1. 池田実香, 片岡和哉, 松添晴加, 七 也: 帝王切開後に腹壁に生じた子宮内膜症の2例. 第45回兵庫県形成外科医会研究会, 神戸, 2018.5.25
2. 七 也, 片岡和哉, 池田実香: 軟口蓋腺様嚢胞癌切除後の前腕皮弁による軟口蓋再建の一例. 第119回関西形成外科学会学術集会, 大阪, 2018.7.8

IX. 1. 20 産婦人科

1. 柳川真澄, 池田裕美枝, 中北 麦, 崎山明香, 松林 彩, 小林昌史, 林 信孝, 小山瑠梨子, 富田裕之, 上松和彦, 青木拓哉, 吉岡信也: 脳炎を発症していない卵巣成熟嚢胞性奇形腫保有女性の抗 NMDA 受容体抗体について. 第70回日本産婦人科学会, 仙台, 2018.5.12
2. 増田望穂, 吉岡信也, 山添紗恵子, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉: 卵巣癌による Pulmonary tumor thrombotic mimcroangiopathy の一例. 第70回日本産婦人科学会, 仙台, 2018.5.12
3. 中北 麦, 吉岡信也, 岡本葉留子, 門元辰樹, 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉: 重篤なトキシプラズマ脳症を発症し, 集学的治療により母児を救命し得た HIV 感染妊娠の一例. 第70回日本産婦人科学会, 仙台, 2018.5.12
4. 松岡秀樹, 村上隆介, 馬場 長, 宮本泰斗, 安彦 郁, 堀江昭史, 濱西潤三, 万代昌紀: 子宮頸部扁平上皮癌 1B-2B 期に対する UGT1A1 遺伝子多型と CPT-11/NDP を用いた化学療法の個別化治療の可能性. 第70回日本産婦人科学会, 仙台, 2018.5.12
5. 星野達二, 森 龍雄, 衣田隆俊, 吉岡信也: 胎児心拍陽性 (FHB-positive) の帝王切開癒痕部妊娠 (CSP) の画像所見について. 第70回日本産婦人科学会, 仙台, 2018.5.12
6. 星野達二, 衣田隆俊, 森 龍雄, 小野吉行, 吉岡信也: トキシプラズマ抗体検査 IgG と IgM についての検討. 第70回日本産婦人科学会, 仙台, 2018.5.12
7. 松林 彩, 高石 侑, 岡本葉留子, 奥立みなみ, 松岡秀樹, 門元辰樹, 増田望穂, 小池彩美, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院で施行した良性疾患に対する腹腔鏡下子宮全摘術の後方視的検討. 第17回兵庫産婦人科内視鏡手術懇話会, 神戸, 2018.5.26
8. 林 信孝, 吉田晶子, 平見泰彦, 安井久晃, 吉岡信也: 当院における家族性腫瘍相談外来の立ち上げについて. 第24回日本家族性腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018.6.8-9
9. 門元辰樹, 岡本葉留子, 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院で経験された卵巣妊娠 18 例の検討. 第138回近畿産婦人科学会学術集会, 大阪, 2018.6.9
10. 岡本葉留子, 門元辰樹, 増田望穂, 柳川真澄, 前田裕斗, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 中北 麦, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 妊娠肝機能異常をきたし診断に苦慮した1例. 第138回近畿産婦人科学会学術集会, 大阪, 2018.6.9
11. 松岡秀樹, 村上隆介, 馬場 長, 宮本泰斗, 安彦 郁, 堀江昭史, 濱西潤三, 万代昌紀: 子宮頸部扁平上皮癌 I B- II B 期に対する UGT1A1 遺伝子多型と CPT-11/NDP を用いた化学療法の個別化治療の可能性. 第138回近畿産婦人科学会学術集会, 大阪, 2018.6.9
12. 門元辰樹, 松林 彩, 高石 侑, 岡本葉留子, 奥立みなみ, 松岡秀樹, 柳川真澄, 増田望穂, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院で周産期管理を施行し分娩に至ったてんかん合併妊娠の後方視的検討. 第92回兵庫県産婦人科学会学術講演会, 神戸, 2018.7.1
13. 小山瑠梨子, 前田裕斗, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 松林 彩, 林 信孝, 大竹紀子, 上松和彦, 吉岡信也: 当院における妊娠 34 週以降の late preterm PROM 症例の検討. 第54回日本周産期・新生児医学会学術集会, 東京, 2018.7.8-10
14. 吉岡信也: 子宮全摘再考; 腹式、腔式、鏡視下手術の適応と今後. 4; 開腹、腹腔鏡の適応 (討論), 4-1; 臍上に至る巨大子宮の症例、GnRHa の使用について: 開腹で行う立場から. 第34回温知会サマーフォーラム, 京都, 2018.7.16

15. 吉岡信也：卵巣チョコレート嚢胞・子宮腺筋症による諸問題。関西 Woman's Health 懇話会，神戸，2018.7.19
16. 林 信孝，門元辰樹，小池彩美，増田望穂，山添紗恵子，崎山明香，松林 彩，小山瑠梨子，大竹紀子，富田裕之，川崎 薫，上松和彦，青木卓哉，吉岡信也：砕石位での腹腔鏡手術中に下腿筋肉の挫滅損傷を来した二例。第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会，松江，2018.8.2-4
17. 中北 麦，吉岡信也，岡本葉留子，門元辰樹，前田裕斗，増田望穂，柳川真澄，山添紗恵子，崎山明香，松林 彩，小林史昌，林 信孝，小山瑠梨子，大竹紀子，富田裕之，上松和彦，青木卓哉：当院における再発婦人科がんに対する腹腔鏡手術。第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会，松江，2018.8.2-4
18. 大竹紀子，増田望穂，小池彩美，山添紗恵子，崎山明香，松林 彩，林 信孝，小山瑠梨子，富田裕之，川崎 薫，上松和彦，青木卓哉，吉岡信也：当院で行った子宮頸部上皮内腺癌に対する腹腔鏡下子宮全摘術の検討。第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会，松江，2018.8.2-4
19. 松林 彩，高石 侑，岡本葉留子，奥立みなみ，松岡秀樹，門元辰樹，増田望穂，小池彩美，柳川真澄，山添紗恵子，崎山明香，林 信孝，小山瑠梨子，大竹紀子，富田裕之，川崎 薫，上松和彦，青木卓哉，吉岡信也：当院における良性疾患に対する腹腔鏡下子宮全摘の後方視的検討。第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会，松江，2018.8.2-4
20. 門元辰樹，小山瑠梨子，山添紗恵子，崎山明香，松林 彩，林 信孝，大竹紀子，富田裕之，上松和彦，青木卓哉，吉岡信也：当院で手術加療を行った卵巣妊娠 11 例の検討。第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会，松江，2018.8.2-4
21. 富田裕之，門元辰樹，増田望穂，小池彩美，山添紗恵子，崎山明香，松林 彩，林 信孝，小山瑠梨子，大竹紀子，川崎 薫，上松和彦，青木卓哉，吉岡信也：膀胱子宮窩に存在し卵巣との連続性をみとめなかった成熟嚢胞奇形腫の 2 例。第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会，松江，2018.8.2-4
22. 岡本葉留子，川崎 薫，高石 侑，奥立みなみ，松岡秀樹，門元辰樹，増田望穂，柳川真澄，小池彩美，山添紗恵子，崎山明香，松林 彩，林 信孝，小山瑠梨子，大竹紀子，富田裕之，上松和彦，青木卓哉，吉岡信也：当院に搬送された産褥出血に対する IVR 施行例についての検討。研修医、修練医のための産婦人科サマーセミナー 2018，京都，2018.8.11
23. 吉岡信也：私のキャリアパス。研修医、修練医のための産婦人科サマーセミナー 2018，京都，2018.8.11
24. 増田望穂，岡本葉留子，門元辰樹，柳川真澄，山添紗恵子，崎山明香，松林 彩，林 信孝，小山瑠梨子，大竹紀子，富田裕之，上松和彦，青木卓哉，吉岡信也：妊娠中に卵巣子宮内膜症性嚢胞破裂をきたすも保存的加療が可能であった 3 症例。近畿エンドメトリーオーシス研究会，大阪，2018.8.25
25. 林 信孝，吉岡信也：当院におけるリムパーザの使用経験。兵庫産婦人科卵巣がんセミナー，神戸，2018.9.1
26. Matsuoka H, Murakami R, Baba T, Kawahara S, Miyamoto T, Abiko K, Horie A, Hamanishi J, Kondo E, Mandai M: CPT-11/NDP chemotherapy regimen may be effective for cervical cancer patients with heterozygous or homozygous UGT1A1 polymorphism. IGCS, Kyoto, 2018.9.16
27. 林 信孝，門元辰樹，小池彩美，増田望穂，柳川真澄，山添紗恵子，崎山明香，松林 彩，小山瑠梨子，田邊更衣子，大竹紀子，富田裕之，上松和彦，川崎 薫，青木卓哉，吉岡信也：当院における HBOC に対する取り組み。第 139 回近畿産科婦人科学会学術集会 腫瘍研究部会，大阪，2018.10.7
28. 川崎 薫：胎児発育不全のスクリーニング法。第 45 回日本超音波医学会 関西地方会学術集会，神戸，2018.10.20
29. 吉岡信也：最近の子宮がんの治療～体に優しい治療を目指して～。第 19 回がん市民フォーラム in Kobe，2018.11.7
30. 川崎 薫：遺伝子発現データの統合的解析に基づく妊娠高血圧腎症に対する新規治療法の開発。キッセイ薬品工業株式会社 社内研修会講演，松本，2018.11.9
31. 吉岡信也，高石 侑，松岡秀樹，奥立みなみ，岡本葉留子，門元辰樹，柳川真澄，小池彩美，山添紗恵子，崎山明香，松林 彩，林 信孝，田邊更衣子，小山瑠梨子，大竹紀子，川崎 薫，上松和彦，青木卓哉：第 1 回産婦人科骨盤内手術手技研究会，京都，2018.11.16
32. 山添紗恵子，高石 侑，岡本葉留子，奥立みなみ，松岡秀樹，門元辰樹，小池彩美，柳川真澄，崎山明香，松林 彩，林 信孝，小山瑠梨子，田邊更衣子，大竹紀子，川崎 薫，上松和彦，青木卓哉，吉岡信也，山下大祐 原 重雄：巨大卵巣腫瘍の診断で開腹手術を施行した子宮肉腫の一例。関西婦人科腫瘍病理懇話会，京都，2018.12.1

33. 松岡秀樹, 吉岡信也, 高石 侑, 岡本葉留子, 奥立みなみ, 門元辰樹, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉: 妊娠 31 週で意識障害を来たし、集学的治療により母児を救命し得た HIV 感染妊婦の一例. 2018 年度兵庫県産婦人科臨床懇話会, 神戸, 2019.1.12
34. 吉岡信也, 高石 侑, 松岡秀樹, 奥立みなみ, 岡本葉留子, 門元辰樹, 小池彩美, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉: 当院での子宮体がんに対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清の導入とその施行症例の検討. 第 41 回日本産婦人科手術学会, 東京, 2019.2.3
35. 吉岡信也, 高石 侑, 松岡秀樹, 奥立みなみ, 岡本葉留子, 門元辰樹, 小池彩美, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉: 当院での早期子宮体癌に対するロボット支援下手術導入の経験. 第 7 回日本婦人科ロボット手術学会, 倉敷, 2019.2.8
36. 岡本葉留子, 川崎 薫, 高石 侑, 奥立みなみ, 松岡秀樹, 門元辰樹, 増田望穂, 柳川真澄, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院に搬送された産褥出血に対する IVR 施行例についての検討. 総合産科オープンカンファレンス, 神戸, 2019.2.16
37. 岡本葉留子, 大竹紀子, 高石 侑, 奥立みなみ, 松岡秀樹, 門元辰樹, 柳川真澄, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 左卵巣静脈から右房流入直前まで連続した静脈内血管内筋腫症を一期的に摘出し得た 1 例. 第 19 回産婦人科手術療法・周術期研究会, 京都, 2019.3.16

IX. 1. 21 泌尿器科

1. 鈴木一生, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 当院におけるジェブタナの治療経験. 第 10 回 HOKS, 神戸, 2018.4.7
2. Tohi Y, Makita N, Suzuki I, Akahane M, Suzuki R, Fukunaga A, Kubota M, Matsuoka T, yano T, Sugino Y, Inoue K, Okada T, Kawakita M: Do we need ureteral catheter and renorrhaphy during partial nephrectomy. The 16th Urologic Association of Asia congress 2018, Kyoto, 2018.4.18
3. 杉野善雄, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 井上幸治, 川喜田睦司: ロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術後の膀胱尿道機能、肛門機能の経時的変化と尿禁制に対する Total Anatomical Reconstruction の効果. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.19
4. 鈴木一生, 牧田哲幸, 赤羽瑞穂, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 河野有香, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術 (LRP) とロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術 (RARP) における外科的切除断端陽性率 (PSM rate) における成長曲線 (learning curve) の比較. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.19
5. 川喜田睦司, 鈴木一生, 福永有伸, 土肥洋一郎, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 久保田聖史, 杉野善雄, 井上幸治: 完全埋没型腎腫瘍に対するロボット支援腎実質無縫合腎部分切除術. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.20
6. 井上幸治, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 赤羽瑞穂, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 矢野敏史, 杉野善雄, 岡田卓也, 川喜田睦司: ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術 (RARP) における鼠径ヘルニア予防. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.20
7. 岡田能幸, 鈴木一生, 清水浩介, 中野翔平, 長濱寛二, 伊藤 仁, 坂本隆史, 小倉健吾, 小久保雅樹, 井上幸治, 川喜田睦司, 大久保和俊: 京都桂病院及び神戸市立医療センター中央市民病院におけるラジウム 223 の使用経験. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.20
8. 鈴木良輔, 牧田哲幸, 鈴木一生, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 当院での TAR (Total Anatomical Reconstruction) 法によるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術後の短期尿禁制の成績. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.20
9. 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: ロボット支援腎部分切除術におけるドレーン留置の必要性に関する検討. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.20

10. 今尾哲也, 松本侑樹, 岸蔭貴裕, 天野俊康, 川喜田睦司: 当科におけるロボット支援腎部分切除術の初期経験. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.20
11. Kawakita M: New frontiers in robot-assisted urological surgery: Evolution of robotic techniques expands the boundary of application on urologic surgeries. The 16th Urologic Association of Asia congress 2018, Kyoto, 2018.4.21
12. 久保田聖史, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 当院における完全体腔内腹腔鏡ならびにロボット支援膀胱全摘術の治療成績. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.21
13. 川喜田睦司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術を振り返って. Up-date Prostate Cancer Seminar, 鴨川, 2018.5.25
14. 川喜田睦司: 腎尿管癌のリンパ節郭清ー腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清術ー. 第 38 回 U-TEC (Takeda Expert TV Conference in Urology) 司会: 賀本敏行、ナビゲーター: 穎川 晋, 東京, 2018.5.30
15. 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 腎動脈瘤の 1 例. HOWN-RCC 講演会, 神戸, 2018.6.2
16. 川喜田睦司: 完全埋没型腎腫瘍に対するロボット支援腎実質無縫合腎部分切除術. 第 9 回 Urology Network Operation Seminar 泌尿器科手術手技塾, 大阪, 2018.6.8
17. 森 俊幸 (コーディネーター), 川喜田睦司 (講師): 第 179 回日本内視鏡外科学会腹腔鏡下結紮・縫合手技講習会, 神戸, 2018.6.17
18. 松田公志 (演者) 泌尿器科医のためのヤングミーティング, 川喜田睦司, 中川 健 (パネラー) 腹腔鏡下ドナー腎採取術. Skill improvement of urologic laparoscopic surgery 2018 in Osaka, 大阪, 2018.6.22
19. 石川英二, 川喜田睦司: 神戸市立医療センター中央市民病院泌尿器科男性外来における診療統計. 第 6 回 Kobe Men's Health 研究会, 神戸, 2018.7.5
20. 川喜田睦司: 泌尿器腹腔鏡手術. 第 3 回日本泌尿器科学会サマーセミナースクール 2018, 東京, 2018.7.7
21. 川喜田睦司: ゴーフィゴって効くの?ー症例から学ぶゴーフィゴの使い方ー. 阪神ゴーフィゴ講演会, 尼崎, 2018.7.2
22. 川喜田睦司, 川端 岳, 田中一志 (講師): 泌尿器腹腔鏡手術手技の向上を目指して. Ethicon kobe Urologic Laparoscopy Seminar Vol.1 - EKULS -, 神戸, 2018.8.12
23. 川喜田睦司 (コーディネーター), 河内明宏 (講師): 第 18 回泌尿器腹腔鏡下縫合・結紮手技講習会, 神戸, 2018.8.26
24. 川喜田睦司, 中川 健 (総合司会): 腹腔鏡下右腎摘除術 (後腹膜到達)、腹腔鏡下左腎摘除術 (経腹膜到達). 第 37 回日本泌尿器内視鏡学会ビデオ講習会, 川崎, 2018.9.15
25. Kubota M, Murata S, Makita N, Suzuki I, Tohi Y, Sugino Y, Inoue K, Kawakita M: Outcomes and learning-curve of totally intracorporeal ileal conduit urinary diversion following laparoscopic radical cystectomy at single-institution. 36th World Congress of Endourology, Paris, France, 2018.9.23
26. Kubota M, Makita N, Suzuki I, Suzuki R, Tohi Y, Sugino Y, Inoue K, Kawakita M: Peritoneal carcinomatosis and port site recurrence after laparoscopic and robot-assisted radical cystectomy at single-institution. The 38th Congress of the Societe Internationale d'Urologie, Seoul, Korea, 2018.10.4
27. Tohi Y, Murata S, Makita N, Suzuki I, Suzuki R, Kubota M, Sugino Y, Inoue K, Ueda H, Kawakita M: Absence of asymptomatic unruptured renal artery pseudoaneurysm on contrast-enhanced computed tomography after robot-assisted partial nephrectomy without parenchymal renorrhaphy. The 38th Congress of the Societe Internationale d'Urologie, Seoul, Korea 2018.10.4
28. 川喜田睦司: 腹腔鏡手術手技の極意. 第 68 回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋, 2018.10.5
29. 鈴木一生, 村田詩織, 牧田哲幸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 旗智幸政, 杉野善雄, 井上幸治, 辻 晃仁, 川喜田睦司: 当院におけるカバジタキセル投与例の検討. 第 68 回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋, 2018.10.5
30. 川喜田睦司: 腎移植はこんな風に行われています. 豊岡腎臓勉強会, 豊岡, 2018.10.13
31. 川喜田睦司: 下部尿路症状に対する治療ー特に OAB の薬物療法についてー. 大倉山合志会泌尿器疾患セミナー, 神戸, 2018.10.20
32. 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 尿路上皮癌に対する術前補助化学療法 dose-dense GC の初期治療経験. 日本泌尿器腫瘍学会第 4 回学術集会, 東京, 2018.10.20

33. 鈴木一生, 村田詩織, 牧田哲幸, 久保田聖史, 小倉健吾, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 小久保雅樹, 川喜田睦司: 当院におけるラジウム 223 の投与回数による検討. 日本泌尿器腫瘍学会第 4 回学術集会, 東京, 2018.10.21
34. 川喜田睦司, 井上幸治, 杉野善雄, 土肥洋一郎, 久保田聖史, 鈴木一生, 牧田哲幸, 村田詩織, 石川英二: 当病院での診療成績について. 第 17 回港島泌尿器科病院診療所交流会, 明石, 2018.11.8
35. Kawakita M: Laparoscopic radical cystectomy. The 1st JICET (Japn-Indonesia Collaboration for Endourology Training) , Jakarta, Indonesia, 2018.11.17-18
36. 川喜田睦司: CRPC の治療・RAPN・出血の対応について. 平成 30 年度第 7 回二四木会, 高松, 2018.11.22
37. 川喜田睦司, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治: 径 4 cm を超える嚢胞状腎腫瘍に対するロボット支援腎実質無縫合腎部分切除術 (ビデオ). 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.27
38. 川喜田睦司: イブニングセミナー 経尿道的前立腺核出術の新知見 その視座・視野・視点 HOLEP/TUEB の経験から見た BipoleP. 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.27
39. 久保田聖史, 松岡崇志, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 抗血栓薬継続下のロボット支援前立腺全摘術は出血を増やすのか? 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.27
40. 久保田聖史, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 右腎癌の異時性再発に対する腹腔鏡下左副腎摘除術, RAPN, 後腹膜鏡下リンパ節摘除術 (ビデオ). 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.28
41. 土肥洋一郎, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 久保田聖史, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 高リスク前立腺癌に対する術前補助化学内分泌療法の初期経験. 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.28
42. 今尾哲也, 下島雄治, 松本侑樹, 天野俊康, 川喜田睦司: ロボット支援前立腺全摘除術後に発症した鼠径ヘルニアに対する検討. 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.28
43. 鈴木一生, 久保田聖史, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 福永有伸, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: RARP+ 拡大リンパ節郭清 (ELND) 症例の病理学的リンパ節転移 (pN+) 予測因子の検討. 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.28
44. 土肥洋一郎, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 久保田聖史, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: cT1a vs cT1b 腎腫瘍に対する腎実質無縫合ロボット支援腎部分切除術の比較検討. 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.28
45. 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 嚢胞性腎腫瘍に対するロボット支援腎部分切除術の治療成績. 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.28
46. 牧田哲幸, 村田詩織, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術における生化学的再発に関連した因子の検討. 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.29
47. 井上幸治, 福永有伸, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 川喜田睦司: 腹腔鏡下腎尿管全摘術におけるテンプレートを用いたリンパ節郭清. 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.29
48. 川喜田睦司: ロボット・ラパロ手術の Tips と骨転移の治療. 第 14 回北陸泌尿器科疾患 Year End Symposium (YES), 金沢, 2018.12.2
49. 土肥洋一郎, 川喜田睦司: cT1a vs cT1b 腎腫瘍に対する腎実質無縫合ロボット支援腎部分切除術の比較検討. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.6
50. 川喜田睦司: 泌尿器腹腔鏡技術認定医への道. 第 2 回呉泌尿器科手術手技勉強会, 広島, 2019.1.12
51. 土肥洋一郎, 川喜田睦司: ロボット支援腎部分切除術における腫瘍の解剖学的特性の温阻血時間延長 (> 25 分) に影響する因子の検討. 第 11 回日本ロボット外科学会学術集会, 名古屋, 2019.1.26
52. 牧田哲幸, 村田詩織, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 分岐部腎動脈瘤に対する冷阻血, 顕微鏡下での動脈瘤切除, 血行再建術. 第 37 回泌尿器科手術研究会, 神戸, 2019.1.26
53. 久保田聖史, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 機能再建・温存手術の現在 LRC, RARC での体腔内尿路変向術. 第 37 回泌尿器科手術研究会, 神戸, 2019.1.26

54. 川喜田睦司：泌尿器腹腔鏡手術．第3回日本泌尿器科学会ウインターセミナースクール2019，神戸，2019.1.27
55. 川喜田睦司：前立腺がんってなに？ 第16回がん市民フォーラム in KOBE，神戸，2018.2.24
56. 久保田聖史，村田詩織，牧田哲幸，鈴木一生，土肥洋一郎，杉野善雄，井上幸治，川喜田睦司：腹腔鏡下尿管坐骨ヘルニア修復術．第33回Clinical Urology研究会，神戸，2019.3.2
57. 杉野善雄，村田詩織，牧田哲幸，鈴木一生，久保田聖史，土肥洋一郎，井上幸治，川喜田睦司：当院におけるTVM手術の治療成績．第13回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会，宜野湾，2019.3.23

IX. 1. 22 耳鼻咽喉科

1. 白井裕美子，前川圭子，末廣 篤，土師知行，雲井一夫：当科における声帯結節症例の臨床的特徴と音声治療経過—小児例と成人例の比較—．第188回日耳鼻兵庫県地方部会，尼崎，2018.4.1
2. 道田哲彦：同胞間で異なる原因遺伝子を有した先天性難聴例．第32回京都耳鼻咽喉科研究会，京都，2018.4.14
3. 内藤 泰：めまいと難聴の画像診断と手術（特別講演）．愛知県耳鼻咽喉科医会三河地区研修会，岡崎，2018.4.21
4. 前川圭子，山本一郎，西田友紀，澤田正樹：スタッフとしての口蓋裂医療キャンプへの参加が成人口蓋裂患者に与える心理的影響．第42回日本口蓋裂学会学術総会，大阪，2018.5.25
5. 内藤 泰：高度・重度難聴治療における人工内耳の役割と将来像．第119回日本耳鼻咽喉科学会総会，横浜，2018.5.30-6.2
6. 諸頭三郎：人工内耳装用学童のインテグレーション—留意点と対策．兵庫県新温泉町立夢が丘中学校教員研修会，兵庫県新温泉町，2018.6.26
7. 諸頭三郎：人工内耳医療のup-to-date-両耳人工内耳の利点—．兵庫県立こばと聴覚支援学校教員研修会，西宮，2018.6.27
8. 内藤 泰：治療手術耳鳴検査表示法の改訂(シンポジウム)．日本聴覚医学会 第4回耳鳴・難聴研究会，東京，2018.7.14
9. 川村直子，北村達也，前川圭子：音声治療に用いられる発声方法による顔面皮膚振動パターンの変化—言語聴覚士を対象にした計測．日本音響学会2018年秋季研究発表会，大分，2018.9.12
10. 前川圭子：音声治療（演習）．日本言語聴覚士協会 平成30年度認定言語聴覚士講習会（成人発声発語障害領域），東京，2018.9.16
11. 前川圭子：音声治療．日本言語聴覚士協会 平成30年度認定言語聴覚士講習会（成人発声発語障害領域），東京，2018.9.16
12. 内藤 泰：Saint Petersburg experience: Cochlear Implantation under Local Anesthesia（海外招待講演・司会）．第28回日本耳科学会，大阪，2018.10.6
13. Naito Y: Local experience 2 - Bilateral CI in children. Auditory implant workshop in Osaka 2018. Osaka, 2018.10.7
14. 前川圭子，末廣 篤：音声振戦症に対する音声治療の効果—改善例の特徴—．第63回日本音声言語医学会，久留米，2018.10.11-12
15. 山崎朋子，諸頭三郎，玉谷輪子，藤井直子，藤原敬三，内藤 泰：両側人工内耳装用児の方向感機能について．第63回日本聴覚医学会，神戸，2018.10.17-19
16. 藤井直子，諸頭三郎，山崎朋子，玉谷輪子，藤原敬三，内藤 泰：良聴耳聴力レベルが70dB以上90dB未満の成人人工内耳症例の検討．第63回日本聴覚医学会，神戸，2018.10.17-19
17. 大政遥香，神崎 晶，高橋真理子，佐藤宏昭，和田哲郎，川瀬哲明，内藤 泰，村上信五，原 晃，小川 郁：耳鳴苦痛度質問票 Tinnitus handicap inventory 改訂版の信頼性と妥当性に関する検討．第63回日本聴覚医学会，神戸，2018.10.17-19
18. 高橋真理子，神崎 晶，佐藤宏昭，和田哲郎，川瀬哲明，内藤 泰，村上信五，原 晃，小川 郁：耳鳴診療ガイドライン2019の発刊に向けて（治療のエビデンスレベルと推奨度）．第63回日本聴覚医学会，神戸，2018.10.17-19
19. 和田哲郎，神崎 晶，高橋真理子，佐藤宏昭，川瀬哲明，内藤 泰，村上信五，原 晃，小川 郁：耳鳴診療ガイドライン2019の発刊に向けて（薬物療法について）．第63回日本聴覚医学会，神戸，2018.10.17-19
20. 佐藤宏昭，神崎 晶，高橋真理子，和田哲郎，川瀬哲明，内藤 泰，村上信五，原 晃，小川 郁：耳鳴診療ガイドライン2019の発刊に向けて（診断について）．第63回日本聴覚医学会，神戸，2018.10.17-19

21. 神崎 晶, 高橋真理子, 佐藤宏昭, 和田哲郎, 川瀬哲明, 内藤 泰, 村上信五, 原 晃, 小川 郁: 耳鳴診療ガイドライン 2019 の発行に向けて. 第 63 回日本聴覚医学会, 神戸, 2018.10.17-19
22. 諸頭三郎: 人工内耳マッピングの基礎と実際 (モーニングセミナー). 第 63 回日本聴覚医学会, 神戸, 2018.10.17-19
23. 内藤 泰: Supra-threshold changes in auditory perception associated with sensorineural hearing loss (感音難聴に伴う閾値上聴覚知覚の変化) (特別講演・司会). 第 63 回日本聴覚医学会, 神戸, 2018.10.17-19
24. 道田哲彦, 内藤 泰, 藤原敬三, 宇佐美真一: 先天性難聴を有する同胞間で原因遺伝子が異なる症例. 第 63 回日本聴覚医学会, 神戸, 2018.10.17-19
25. 宮嶋宏樹, 茂木英明, 北尻真一郎, 西尾信哉, 村田考啓, 池園哲郎, 武田英彦, 阿部聡子, 岩崎 聡, 高橋優宏, 内藤 泰, 山崎博司, 神田幸彦, 宇佐美真一: ACTG1 遺伝子変異による難聴症例の検討. 第 63 回日本聴覚医学会, 神戸, 2018.10.17-19
26. 玉谷輪子, 山崎朋子, 藤井直子, 諸頭三郎, 藤原敬三, 内藤 泰: 両側小耳症と外耳道閉鎖症を合併した伝音難聴 2 例に対する人工中耳の留意点と術後成績. 第 63 回日本聴覚医学会, 神戸, 2018.10.17-19
27. 諸頭三郎: 人工内耳医療の最新情報 (講演). 兵庫県立こばと聴覚支援学校職員研修会, 西宮, 2018.11.13
28. 前川圭子, 山本一郎, 西田友紀, 澤田正樹: 口蓋裂医療キャンプへの参加が口蓋裂患者と保護者に与える心理的影響. 第 7 回日本小児診療多職種研究会, 北九州, 2018.11.24
29. 前川圭子: 鼻咽腔構音に対する構音指導. 神戸市通級指導教室, 神戸, 2018.11.27
30. 水野敬介, 重安将志, 大村佳大, 池永 直, 齊田浩二, 道田哲彦, 濱口清海, 竹林慎治, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰: 頸部ガラス異物により椎骨動脈損傷をきたした一症例. 第 190 回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2018.11.24
31. 諸頭三郎: 人工内耳装用児における思春期の課題と対応 (講演). 兵庫県立姫路聴覚支援学校, 西播地区小・中学校難聴学級担当者合同研修会, 姫路, 2018.11.30
32. 濱口清海, 池永 直, 水野敬介, 齊田浩二, 道田哲彦, 竹林慎治, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰: 扁桃術後出血で発覚した血友病症例. 第 190 回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2018.12.2
33. 内藤 泰: 第 63 回日本聴覚医学会終了報告. 第 15 回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2018.12.13
34. 前川圭子: 音声治療について. 第 15 回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2018.12.13
35. 玉谷輪子: 人工中耳 (VSB) の症例紹介. 第 15 回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2018.12.13
36. 諸頭三郎: 小児人工内耳の長期成績. 第 15 回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2018.12.13
37. 内藤 泰: 人工内耳・前庭水管拡大症・難聴に伴うめまい (講演). 神戸市聴こえとことばの教室専門研修, 神戸, 2019.1.31
38. 道田哲彦, 内藤 泰, 篠原尚吾, 藤原敬三, 竹林慎治, 濱口清海, 齊田浩二, 水野敬介: 急性中耳炎と髄膜炎により人工内耳の摘出と再手術を行った common cavity 奇形例. 第 191 回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2019.3.24
39. 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 竹林慎治, 濱口清海, 道田哲彦, 齊田浩二, 水野敬介: 第 191 回日耳鼻兵庫県地方部会; 鼓室形成術の既往のない鼓膜真珠腫 9 症例. 第 191 回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2019.3.24

IX. 1. 23 頭頸部外科

1. 水野敬介, 菊地正弘, 前田紘奈, 今井幸弘, 齊田浩二, 山本亮介, 林 一樹, 道田哲彦, 竹林慎治, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰: Basaloid squamous cell carcinoma (BSCC) の一症例. 第 188 回日耳鼻兵庫県地方部会, 尼崎, 2018.4.1
2. Saida K, Shinohara S, Michida T, Takabayashi S, Fujiwara K, Naito Y: The Indication of a Concomitant Use of Venovenous Extracorporeal Membrane Oxygenation (V-V ECMO) in Tracheostomy. 2018 COSM, National Harbor, Maryland, USA, 2018.4.18-22

3. 竹林慎治, 篠原尚吾, 菊地正弘, 水野敬介, 齊田浩二, 林 一樹, 山本亮介, 道田哲彦, 藤原敬三, 内藤泰:放射線治療歴の有無による経口的咽頭悪性腫瘍切除術の比較. 第119回日本耳鼻咽喉科学会総会, 横浜, 2018.5.30-6.2
4. 菊地正弘, 篠原尚吾, 竹林慎治, 林 一樹: 頭頸部癌術後の頸部リンパ節再発を疑ったサイトメガロウイルス感染症による頸部リンパ節炎の3症例. 第42回日本頭頸部癌学会, 東京, 2018.6.14-15
5. 篠原尚吾, 竹林慎治, 菊地正弘, 道田哲彦, 林 一樹, 山本亮介, 水野敬介: 頸部リンパ節転移に対する開放生検-固形癌のリンパ節転移に対する切開生検は予後を悪化させるか?- 第42回日本頭頸部癌学会, 東京, 2018.6.14-15
6. 竹林慎治, 菊地正弘, 篠原尚吾, 内藤 泰: 頭頸部手術における術後出血症例の検討. 第42回日本頭頸部癌学会, 東京, 2018.6.14-15
7. 水野敬介, 菊地正弘, 齊田浩二, 山本亮介, 林 一樹, 道田哲彦, 竹林慎治, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰: 下咽頭 basaloid squamous cell carcinoma に対し, 下咽頭部分切除術を行った一症例, 2018.6.14-15
8. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 菊地正弘, 竹林慎治, 道田哲彦: 甲状腺分化癌に対する外照射の治療効果の検討. 第42回日本頭頸部癌学会, 東京, 2018.6.14-15
9. 篠原尚吾, 竹林慎治, 瀧口清海, 道田哲彦, 齊田浩二, 水野敬介, 池永 直, 藤原敬三, 内藤 泰: 甲状腺分化癌に対する FDG/PET-CT の適応と有用性について-甲状腺+アブレーション/全身シンチを基本治療方針とした場合-. 第189回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2018.7.14
10. 水野敬介, 篠原尚吾, 池永 直, 齊田浩二, 道田哲彦, 瀧口清海, 竹林慎治, 藤原敬三, 内藤 泰: 水痘・帯状疱疹ウイルスにより咽喉頭症状のみ呈した一症例. 第189回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2018.7.14
11. Kosaka Y, Kokubo M, Imagumbai T, Ogura K, Hattori T, Hiraoka S, Shinohara S, Takebayashi S: Definitive radiation therapy for patients aged \geq 80 years with head and neck squamous cell carcinoma. 6th World Congress of International Federation of Head and Neck Oncologic Societies, Buenos Aires, Argentina, 2018.9.1-4
12. Shinohara S, Takebayashi S, Kikuchi M, Michida T, Hayashi K, Yamamoto R, Saida K, Mizuno K, Shimeno N, Morita S, Imai Y: Secondary superficial oropharyngeal carcinomas - How do we find and treat them? -. 6th World Congress of International Federation of Head and Neck Oncologic Societies, Buenos Aires, Argentina, 2018.9.1-4
13. Shinohara S, Takebayashi S, Kikuchi M, Michida T, Hayashi K, Yamamoto R, Saida K, Mizuno K, Sakamoto M, Fujiwara K, Naito Y: Head and neck surgery to the patients aged 85 or older. 6th World Congress of International Federation of Head and Neck Oncologic Societies, Buenos Aires, Argentina, 2018.9.1-4
14. Takebayashi S, Shinohara S: Adenoid cystic carcinoma of the head and neck: a retrospective multicenter study. 6th World Congress of International Federation of Head and Neck Oncologic Societies, Buenos Aires, Argentina, 2018.9.1-4
15. 篠原尚吾, 竹林慎治, 瀧口清海, 道田哲彦, 日野 恵, 籾谷雄二, 藤本寛太: 甲状腺分化癌に対する FDG/PET-CT の適応と有用性について-甲状腺全摘+アブレーション/全身シンチを基本治療方針とした場合-. 第51回日本甲状腺外科学会, 横浜, 2018.10.25-26
16. 竹林慎治, 篠原尚吾: 甲状腺・副甲状腺手術後出血の検討. 第51回日本甲状腺外科学会, 横浜, 2018.10.25-26
17. 山田光一郎, 竹林慎治, 本多啓吾, 中平真衣, 谷上由城, 木村俊哉, 暁久美子, 池田浩己, 三浦 誠: 穿刺吸引細胞診にて鑑別困難であった甲状腺腫瘍の検討. 第70回日本気管食道科学会, 東京, 2018.11.9
18. 篠原尚吾: 当科の現況. 第15回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2018.12.13
19. 水野敬介, 篠原尚吾, 竹林慎治, 瀧口清海: 頸部ガラス異物により椎骨動脈損傷をきたした一症例. 第29回日本頭頸部外科学会, 仙台, 2019.1.24-25
20. 瀧口清海: 頭蓋底手術で再建に吸収性骨接合剤を用いた2症例. 第33回近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会, 大阪, 2019.2.2
21. 篠原尚吾: 外照射を施行した甲状腺分化癌症例の検討-適応と治療効果について. 第6回上方内分分泌外科学会, 大阪, 2019.3.1
22. 竹林慎治, 池永 直, 水野敬介, 齊田浩二, 道田哲彦, 瀧口清海, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰: 誤嚥防止手術としての喉頭全摘出術の検討. 第42回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 久留米, 2019.3.9
23. Shinohara S: Prognostic impact of incisional or excisional biopsy of cervical lymph nodes metastases of solid tumors. SHNO 2019 (6th conference of Asian Society of Head and Neck Oncology) , Seoul, Korea, 2019.3.27-30

IX. 1. 24 麻酔科

1. 山下 博, 山崎和夫, 美馬裕之: 全身麻酔からの覚醒・抜管の過程において気道反射を抑制する因子についての検討. 日本麻酔科学会第 65 回学術集会, 横浜, 2018.5.17
2. 大森彩加, 東別府直紀, 美馬裕之: 腹腔鏡下肝切除術における出血制御を目的とした術中気道内圧制限の安全性の検討. 日本麻酔科学会第 65 回学術集会, 横浜, 2018.5.17
3. 中森裕毅, 上野喬平, 田口聡久, 吉藤正泰, 下藺崇宏, 美馬裕之: ICU 専従医によるラインサービスフォローアップ回診が PICC 挿入後の合併症発生頻度に与える効果. 日本麻酔科学会第 65 回学術集会, 横浜, 2018.5.17
4. 宮脇郁子, 美馬裕之: 手術患者の術前の健康食品やサプリメントの摂取状況をいかに把握し注意していくか. 日本麻酔科学会第 65 回学術集会, 横浜, 2018.5.18
5. 田口聡久, 東別府直紀, 美馬裕之: 全身麻酔 TAVI 中の体温低下に影響を与える因子についての検討. 日本麻酔科学会第 65 回学術集会, 横浜, 2018.5.18
6. 東別府直紀: Critical care Nutrition Therapy セミナー (CCNT) の経緯と今後の課題. 日本静脈経腸栄養学会近畿支部集会, 神戸, 2018.7.7
7. 伊藤次郎, 瀬尾龍太郎, 蓮池俊和, 浅香葉子, 柳井真知, 土井朝子, 有吉孝一: 外傷性腸管膜損傷・腸管穿孔後に *Trichosporon asahii* による後腹膜膿瘍を合併した重症多発外傷の 1 例. 日本集中治療医学会第 2 回関西支部学術集会, 滋賀, 2018.7.7
8. 須賀将文, 伊藤次郎, 大内謙二郎, 田口慧久, 美馬裕之, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一, 永田一真, 高尾佳美: RRS から見た ICU・病棟の連携. 日本集中治療医学会第 2 回関西支部学術集会, 滋賀, 2018.7.7
9. 大内謙二郎, 三好健太郎, 須賀将文, 川上大裕, 植田浩司, 下藺崇宏, 美馬裕之: 膀胱全摘・回腸導管作成術後回腸ストマから出血をきたした 2 例. 日本集中治療医学会第 2 回関西支部学術集会, 滋賀, 2018.7.7
10. 田口聡久, 須賀将文, 川上大裕, 植田浩司, 下藺崇宏, 美馬裕之: 繰り返す憩室出血の精査により判明した後天性血友病の一例. 日本集中治療医学会第 2 回関西支部学術集会, 滋賀, 2018.7.7
11. 吉藤正泰, 宮脇郁子, 美馬裕之: MECP2 重複症候群の人工内耳手術に対し、全身管理を行った一例. 日本麻酔科学会第 64 回関西支部学術集会, 大阪, 2018.9.1
12. 占部大地, 東別府直紀, 大森彩加, 美馬裕之: 帝王切開術においてオキシトシンを緩徐に投与しても ST 低下を認めた一例. 日本麻酔科学会第 64 回関西支部学術集会, 大阪, 2018.9.1
13. 梶野超生, 浅越佑太郎, 三好健太郎, 藤原浩平, 美馬裕之: 膿胸術後、胸腔内洗浄中に咳嗽を契機に生じた空気塞栓症の一例. 日本麻酔科学会第 64 回関西支部学術集会, 大阪, 2018.9.1
14. 林 大貴: 右肺上葉切除後に低酸素血症を来し、慢性肺血栓性肺高血圧症および Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy が疑われた一例. 日本麻酔科学会第 64 回関西支部学術集会, 大阪, 2018.9.1
15. 山田あゆ: 左肺機能の廃絶した患者の右下葉部分切除に対しダブルルーメンチューブと気管支ブロッカーを併用した右中下葉の選択的肺葉換気にて管理しえた一例. 日本麻酔科学会第 64 回関西支部学術集会, 大阪, 2018.9.1
16. 岡村章平: 当初、硬膜穿刺後頭痛と診断された可逆性脳血管攣縮症候群の一例. 日本麻酔科学会第 64 回関西支部学術集会, 大阪, 2018.9.1
17. 蓮下雄大: 未診断の褐色細胞腫により術中異常高血圧を来した症例. 日本麻酔科学会第 64 回関西支部学術集会, 大阪, 2018.9.1
18. 浅越佑太郎, 宮脇郁子, 上野喬平, 河本 怜, 美馬裕之: 体外循環開始後に人工肺凝固を来した一例. 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術大会, 東京, 2018.9.14
19. 片山英里, 宮脇郁子, 上野喬平, 美馬裕之: TEVAR 中に心停止となった症例. 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術大会, 東京, 2018.9.14
20. 南 遼平, 宮脇郁子, 大森彩加, 美馬裕之: Fontan 術後症例での低侵襲非心臓手術における術中管理について. 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術大会, 東京, 2018.9.14
21. 河本 怜, 宮脇郁子, 浅越佑太郎, 美馬裕之: 区域麻酔と自発呼吸下の鎮静で下肢手術を行った重症肺高血圧症の 1 例. 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術大会, 東京, 2018.9.14
22. 上野喬平, 浅越佑太郎, 宮脇郁子, 美馬裕之: 大腿静脈アプローチ経カテーテル的大動脈弁置換術 (TF-TAVI) における麻酔法に対する周術期比較. 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術大会, 東京, 2018.9.15
23. 喜多沙奈, 宮脇郁子, 柚木一馬, 美馬裕之: 重複下大静脈奇形を認めた急性肺血栓塞栓症の一例. 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術大会, 東京, 2018.9.15

24. 蝦名仁美, 宮脇郁子, 佐々木怜, 美馬裕之: ステント内血栓による循環破綻時の術式決定に経食道心エコーが有用だった症例. 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術大会, 東京, 2018.9.15
25. 大森彩加, 宮脇郁子, 浅越佑太郎, 上野喬平, 美馬裕之: 輸血を契機に Kounis 症候群を発症し CPA に至った一例. 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術大会, 東京, 2018.9.15
26. Yunoki K, Izumi Y, Shimizu A, Miyawaki I, Mima H: Swan-Ganz Catheter-Induced Left Pulmonary Artery Perforation. ASA Annual Meeting 2018, 2018.10.13
27. Omori A, Miyawaki I, Mima H: Perioperative management of Cushing syndrome with severe respiratory failure. ASA Annual Meeting 2018, 2018.10.13
28. Taguchi A, Miyawaki I, Mima H: A case of Mitochondrial Myopathy Suffering Various Complications after Surgery. ASA Annual Meeting 2018, 2018.10.14
29. 東別府直紀: 日本版重症患者の栄養療法ガイドライン作成の経緯; EN 投与量のメタ解析, EN プロトコル, 第 34 回日本静脈経腸栄養学会, 東京, 2019.2.13
30. 東別府直紀: 術後回復力促進プログラムにおける術前炭水化物負荷の重要性重症患者への低カロリー高タンパク質投与を実現するには? 第 34 回日本静脈経腸栄養学会, 東京, 2019.2.14
31. Kawakami D, Fujii T, Uchino S, Doi K, Korenaga A, Nakamori Y, Suga M: Impact of urine output as a criterion for acute kidney injury after cardiopulmonary bypass surgery. Society of critical care, medicine 48th Critical Care Congress, San Diego, 2019.2.19
32. Hirai S, Kawakami D, Ito J, Shimozone T, Ueta H, Suga M, Ouchi K, Miyoshi K, Mima H: Diagnosis of Fat Embolism Syndrome Associated with G-CSF using Susceptibility-Weighted Imaging MRI. Society of critical care, medicine 48th Critical Care Congress, San Diego, 2019.2.20
33. 東別府直紀: シンポジウム 2 ICU における栄養療法で機能予後を改善出来るのか? 第 46 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.1
34. 大内謙二郎, 伊藤次郎, 川上大裕, 永田一真, 植田浩司, 下菌崇宏, 富井啓介, 美馬裕之: 院内心肺停止症例から RRS 起動を見直す. 第 46 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.2
35. 須賀将文, 川上大裕, 伊藤次郎, 大内謙二郎, 田口聡久, 浅香葉子, 植田浩司, 下菌崇宏, 美馬裕之, 瀬尾龍太郎: ICU 研修における初期研修医のニーズの検討. 第 46 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.2
36. 大内謙二郎, 伊藤次郎, 川上大裕, 植田浩司, 大内謙二郎, 下菌崇宏, 美馬裕之: フロートトラックによる一回心拍出量測定に圧トランスデューサーの位置変化が与える影響. 第 46 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.2

IX. 1. 25 歯科・口腔外科

1. 竹信俊彦: 顎矯正手術における審美性—特に輪郭形成の有用性—. 香川県臨床アカデミー研究会, 高松, 2018.5.8
2. 竹信俊彦: Dental Licence の矜持を拓げる. 第 72 回日本口腔科学会総会; シンポジウム 6 「超高齢社会における医療の中核を担う歯科医師の養成」, 名古屋, 2018.5.13
3. 山本信祐, 向仲佑美香, 前田圭吾, 高地いづみ, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦: 質量分析により診断しえた放線菌性下顎骨髄炎; 症例報告. 第 72 回日本口腔科学会総会, 名古屋, 2018.5.13
4. 竹信俊彦: 口の中もがんになる—歯, 無しにならないための話—. 第 17 回がん市民フォーラム, 神戸, 2018.5.19
5. 竹信俊彦: 新しい手術時の手指消毒法. JACID 口腔インプラント学会認定医のための 100 時間コース, 大阪, 2018.5.19.
6. 竹信俊彦: 外科の基本手技・基本事項. JACID 口腔インプラント学会認定医のための 100 時間コース, 大阪, 2018.5.19
7. 竹信俊彦: 歯・口腔顎顔面外傷. 岡山大学歯学部特別講義, 岡山, 2018.5.22
8. Takenobu T: History of Orthognathic Surgery. -Mourns the loss of great leading Professor Dr. Dr. Hugo Owegerer: AOCMF Seminar-Advances in Orthognathic Surgery, Taoyuan, Taiwan, 2018.6.9-10
9. Takenobu T: Class III Deformities. -Selection of Surgical Procedures according to the Case-: AOCMF Seminar-Advances in Orthognathic Surgery, Taoyuan, Taiwan, 2018.6.9-10

10. Takenobu T: Usefulness of Simultaneous Facial Contouring Design and Technique with Orthognathic Surgery. AOCMF Seminar-Advances in Orthognathic Surgery, Taoyuan, Taiwan, 2018.6.9-10
11. Takenobu T: Comprehensive Treatment Planning in Patients with Significant Facial Asymmetry. AOCMF Seminar-Advances in Orthognathic Surgery, Taoyuan, Taiwan, 2018.6.9-10
12. 竹信俊彦：下顎枝垂直骨切り術－ Step by step －. 第 28 回日本顎変形症学会総会；シンポジウム 3「技術と知識の伝承」次世代を担う口腔外科医のためのビデオセミナー，大阪，2018.6.15
13. 竹信俊彦：顔面非対称および下顎骨過大症例における輪郭形成の有用性. 第 28 回日本顎変形症学会総会，大阪，2018.6.15
14. 竹信俊彦：下顎枝矢状分割術における下顎前方移動時の骨接合のポイント：Matrix Consensus Meeting on Orthognathic Surgery 2018，大阪，2018.6.16
15. 向仲佑美香，竹信俊彦，前田圭吾，平井雄三，山本信祐，谷池直樹：両側性唇顎口蓋裂患者に対して上顎骨延長術と逆 L 字型骨切り術を施行した 1 例. 日本口腔外科学会第 49 回近畿支部学術集会，東大阪，2018.6.23
16. 竹信俊彦：解剖学と口腔外科－機能と形態を求めて－. 大阪歯科大学解剖学講座会，神戸，2018.6.24
17. 竹信俊彦：下顎骨単純骨折の治療. 第 20 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会，第 1 回日本口腔顎顔面外傷学会教育研修会，福岡，2018.7.13
18. 竹信俊彦：知って欲しい Mandible Fracture の原理原則－下顎正中骨折及び下顎角部骨折の整復及び内固定術（吸収性骨接合材料「スーパーフィクソープ MX」による固定）. 第 20 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会ハンズオンセミナー，福岡，2018.7.14
19. 前田圭吾，谷池直樹，芝辻豪士，平井雄三，山本信祐，竹信俊彦：関節突起骨折に対して high perimandibular approach で整復固定した 2 例. 第 20 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会，福岡，2018.7.14
20. 谷池直樹，竹信俊彦，向仲佑美香，前田圭吾，平井雄三，山本信祐：顎関節突起骨折変形治癒後の咬合不全に対して下顎枝矢状分割術で対応した一例. 第 20 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会，福岡，2018.7.14
21. Takenobu T, Okumoto T; Small group discussion A: NOE, Nasal, Frontal sinus. AOCMF Course- Management of Facial Trauma, Nagoya, 2018.7.20-22
22. Takenobu T, Okumoto T; Small group discussion B: Zygomatic case, Orbit case, Zygoma+orbit case, Le Fort. AOCMF Course- Management of Facial Trauma, Nagoya, 2018.7.20-22
23. Takenobu T, Okumoto T; Small group discussion C: Load-sharing, Tooth in line of fracture/sequencing, Condyle. AOCMF Course- Management of Facial Trauma, Nagoya, 2018.7.20-22
24. Takenobu T; Practical exercise 3; Complex fractures of the mandible. AOCMF Course- Management of Facial Trauma, Nagoya, 2018.7.20-22
25. Takenobu T, Okumoto T; Small group discussion D: Load-bearing. AOCMF Course-Management of Facial Trauma, Nagoya, 2018.7.20-22
26. 前田圭吾，山本信祐，向仲佑美香，平井雄三，谷池直樹，竹信俊彦：T 細胞リンパ腫に伴って生じた腫瘍随伴性天疱瘡の 1 例. 第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会，千葉，2018.11.2-4
27. 山本信祐，向仲佑美香，前田圭吾，平井雄三，谷池直樹，竹信俊彦：パンピングによる洗浄が有効であった顎関節偽痛風の 2 例. 第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会，千葉，2018.11.2-4
28. 平井雄三，竹信俊彦，向仲佑美香，前田圭吾，山本信祐，谷池直樹：顎関節強直症の高齢者に対して顎関節授動術を施行した 2 例. 第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会，千葉，2018.11.2-4
29. 山本信祐，平井雄三，谷池直樹，竹信俊彦：インプラント除去症例における骨吸収抑制薬に関する臨床的検討. 第 22 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会，東京，2018.12.1-2
30. 竹信俊彦：歯・口腔顎顔面外傷 / 顎変形症. 宮崎大学医学部特別講義，宮崎，2018.12.6
31. 高橋一広，平井雄三，向仲佑美香，前田圭吾，山本信祐，谷池直樹，竹信俊彦，山下大祐：小児の頬部に発生した静脈奇形の 1 例. 第 30 回日本口腔科学会近畿地方部会，大阪，2018.12.8
32. 甲斐彩華，前田圭吾，向仲佑美香，平井雄三，山本信祐，谷池直樹，竹信俊彦：下顎智歯抜歯時に生じた歯根迷入および広範な気腫の 1 例. 第 30 回日本口腔科学会近畿地方部会，大阪，2018.12.8

33. 向仲佑美香, 谷池直樹, 前田圭吾, 平井雄三, 山本信祐, 竹信俊彦: 下顎に生じた歯原性線維腫の1例. 第30回日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2018.12.8
34. 山本信祐: 私が考える顎変形症治療の未来. 第7回関西顎変形症懇話会, 大阪, 2019.2.16
35. 竹信俊彦: 明日から出来る口腔がん検診. 平成30年度(公社)神戸市歯科医師会医療介護確保総合基金事業「口腔がんに係る研修会」, 神戸, 2019.2.23
36. 山本信祐, 向仲佑美香, 前田圭吾, 平井雄三, 谷池直樹, 山下大祐, 宇佐美悠, 篠原尚吾, 竹信俊彦: ナビゲーション手術が有用であった上顎歯原性粘液線維腫; 症例報告. 第4回関西顎口腔腫瘍研究会, 大阪, 2019.3.9

IX. 1. 26 病理診断科

1. Ishimori S, Nozu K, Hara S, Morikawa S, Kaito H, Morisawa T, Yoshikawa N, Iijima K, Yonetani M: A case of pathological mesangiolytic on renal biopsy in a 1-year-old child: Investigation of relationship between pathological findings and clinical course in infant age. The 16th Korea-China-Japan Pediatric Nephrology Seminar, Busan, 2018.4.14
2. 伯田琢郎, 籾谷雄二, 大久保万理江, 新村里美, 能登理央, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 竹林慎治, 篠原尚吾, 今井幸弘, 松岡直樹: 131I の集積を認め甲状腺癌縦隔リンパ節転移と鑑別を要した胸腺嚢胞の1例. 第91回日本内分泌学会学術総会, 宮崎, 2018.4.26
3. 加藤大典, 武部沙也香, 常盤麻里子, 木川雄一郎, 山下大祐, 前田紘奈, 高橋祐一, 緒方貴次, 正井良和, 今井幸弘: 短期間乳腺外科ローテーションにおける New England Journal of Medicine (NEJM) を教材とした教育の工夫. 第26回日本乳癌学会総会, 京都, 2018.5.16
4. 鷺見真由子, 増田泰之, 中村文香, 小坂博志, 長野 徹, 今井幸弘: 血管内B細胞リンパ腫を疑いランダム皮膚生検を施行した69例の検討. 第117回日本皮膚科学会総会, 広島, 2018.5.31
5. Hara S, Tsuji T, Fukasawa Y, Hisano S, Yoshimoto A, Nishi S: Clinicopathological characteristics of thrombospondin type 1 domain-containing 7A-positive membranous nephropathy. The 61st Annual Meeting of the Japanese Society of Nephrology, Niigata, 2018.6.8
6. 原 重雄, 長澤 将, 三浦健一郎, 石川英二, 川口武彦, 丸井祐二, 森川 貴, 勝野敬之, 鶴屋和彦, 乳原善文: 病理検体処理について. 第61回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018.6.8
7. 武呂幸治, 横井秀基, 佐藤有紀, 石井 輝, 遠藤修一郎, 原 重雄, 桜井孝規, 南口早智子, 松原 雄, 柳田素子: ゲムシタピン誘発性血栓性微小血管障害症におけるC4d沈着局在の検討. 第61回日本腎臓学会学術総会, 新潟, 2018.6.8
8. 森 拓人, 小野祐一郎, 石川隆之, 山下大祐, 今井幸弘: マクログロブリン血症の治療後に成熟NK/T細胞性リンパ腫を発症した剖検の1例. 第109回近畿血液学地方会, 神戸, 2018.6.9
9. 田中 淳, 藪下知宏, 加藤まどか, 平本展大, 米谷 昇, 石川隆之, 山下大祐, 今井幸弘: T細胞とB細胞のcomposite lymphomaの1例. 第109回近畿血液学地方会, 神戸, 2018.6.9
10. 前田紘奈, 高橋祐一, 山下大祐, 今井幸弘: 胞状奇胎と絨毛癌に対するSTR-PCR法による検討. 第107回日本病理学会総会, 札幌, 2018.6.21
11. 原 重雄: 「特発性膜性腎症」とは何か: PLA2R1 と THSD7A からみるパラダイムシフト. 第107回日本病理学会総会, 札幌, 2018.6.21
12. 伊丹弘恵, 原 重雄, 鮫島謙一, 對馬英雄, 斎藤能彦, 畠山金太, 大林千穂: gA腎症の補体沈着と半月体形成の有無は関連するか? 第107回日本病理学会総会, 札幌, 2018.6.21
13. 兵頭俊紀, 原 重雄, 山本侑毅, 藤田直志, 北村 謙: 結晶様構造物を伴う近位尿管障害像をきたした多発性骨髄腫の一例. 第107回日本病理学会総会, 札幌, 2018.6.22
14. 北村 悟, 原 重雄, 廣瀬隆則, 伊藤智雄: 病的骨折を来たした頸部原発滑膜肉腫の1例. 第107回日本病理学会総会, 札幌, 2018.6.22
15. 中村和史, 澤村直彦, 能登理央, 塩田文彦, 田路佳範, 原 重雄, 吉本明弘: 腫瘍性形質細胞の腎間質浸潤を認め、化学療法が奏功したMGRSの一例. 第63回日本透析医学会学術集会, 神戸, 2018.6.29
16. 石井淳子, 水野泰志, 園 諭美, 今井幸弘, 幸原伸夫: 眼窩下神経腫大・大腿神経肥厚を認め経過中に側頭動脈閉塞をきたしたIgG4関連疾患の1例. 第30回日本神経免疫学会, 郡山, 2018.9.20
17. 神澤真紀, 福岡秀規, 重村克己, 青山弥生, 中村保宏, 原 重雄, 高橋 裕, 伊藤智雄: 妊娠中に高血圧と精神異常を呈した副腎皮質・髓質混合腫瘍の1例. 第22回日本臨床内分泌病理学会総会, 徳島, 2018.9.21

18. 藤井秀毅, 河野圭志, 後藤俊介, 渡邊周平, 原 重雄, 小川悟史, 石村武志, 藤澤正人, 西 慎一: 非ファブリー病レシピエントにおけるファブリー病移植腎の経時的な病理学的変化. 第 48 回日本腎臓学会西部学術大会, 徳島, 2018.9.28
19. 森 梓, 河野圭志, 清水真央, 藤井秀毅, 原 重雄, 全 陽, 西 慎一: 自己免疫性膵炎治療中より腎機能低下を来し治療終了後に多臓器病変へと進展した IGG4 関連疾患の 1 例. 第 48 回日本腎臓学会西部学術大会, 徳島, 2018.9.28
20. 堂崎良太, 後藤俊介, 斎藤 慶, 藤井秀毅, 倉田啓史, 松岡 広, 原 重雄, 西 慎一: 糖尿病性腎症に単クローン性ガンマグロブリン血症に関連した C3 腎症を合併した 1 例. 第 48 回日本腎臓学会西部学術大会, 徳島, 2018.9.28
21. 大久保佑樹, 福島政司, 池田結香, 上野由香里, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 山下大祐: 小腸癌術後に腹膜転移により小腸穿孔を来した一例. 日本消化器病学会近畿支部第 109 回例会, 大阪, 2018.9.29
22. 青山直樹, 谷口洋平, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 豊永啓翔, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 原 茂雄: 肺腺癌治療中に EUS-FNA で診断しえた転移性膵腫瘍の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 109 回例会, 大阪, 2018.9.29
23. 原 重雄: i-IFTA と慢性 T 細胞性拒絶反応. 第 54 回日本移植学会総会, 東京, 2018.10.3
24. Kubo Y, Fukushima M, Inokuma T, Imai Y: Usefulness of double-balloon enteroscopy for diagnosis of Meckel's diverticulum. UEG2018, Vienna, Austria, 2018.10.20
25. 青山直樹, 谷口洋平, 大久保佑樹, 文原大貴, 豊永啓翔, 井上貴裕, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 今井幸弘: 当院における膵神経内分泌腫瘍 (PNET) 50 例の画像所見についての検討. JDDW2018, 神戸, 2018.11.3
26. 青山直樹, 福島政司, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 原 重雄: 繰り返す腸閉塞をきっかけに診断された非特異性多発性小腸潰瘍の 1 例. 第 101 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
27. 文原大貴, 福島政司, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 原 重雄: 小腸 NET の 2 例. 第 101 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
28. 上野由香里, 森田周子, 池田結香, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 貝原 聡, 今井幸弘: 胃粘膜に炭酸ランタンの沈着を認めた透析患者の一例. 第 101 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
29. 上田智也, 井上聡子, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 福島政司, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 木川雄一郎, 原重雄: 乳癌術後 21 年経過して、胃・十二指腸・大腸に多発転移をきたした 1 例. 第 101 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
30. 大久保佑樹, 福島政司, 池田結香, 上野由香里, 文原大貴, 青山直樹, 豊永啓翔, 井上貴裕, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 猪熊哲朗, 山下大祐, 原 重雄: 小腸癌診断におけるダブルバルーン内視鏡の有用性. 第 101 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2018.11.10
31. 加藤まどか, 下村良充, 平本展大, 石川隆之, 山下大祐: 骨髓生検が診断に有用だった POEMS 症候群の 1 例. 第 110 回近畿血液学地方会, 奈良, 2018.11.10
32. 吉田 誠, 原 重雄, 山下大祐, 毛利太郎, 大林千穂: 肺原発筋上皮癌の一例 (A case of pulmonary myoepithelial carcinoma). 第 64 回日本病理学会秋期特別総会, 呉, 2018.11.22
33. 佐藤悠城, 藤本大智, 原 重雄, 高橋 豊, 細谷和貴, 河内勇人, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: PD-L1 による Nivolumab の治療効果予測として根治的手術検体は使用できるのか? 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.29
34. 古郷摩利子, 細谷和貴, 藤本大智, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 山下大祐, 簗智幸政, 今井幸弘, 富井啓介: cobas での EGFR 変異検出における dissection の有効性について. 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.29

35. 藤本大智, 細谷和貴, 河内勇人, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 浜川博司, 伊達直希, 高橋 豊, 山下大裕, 今井幸弘, 北村由香, 福岡順也, 富井啓介: 22C3 抗体と SP263 抗体を用いた PD-L1 発現の比較. 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.29
36. 穴戸 裕, 青山晃博, 原 重雄, 印藤貴士, 伊達直希, 浜川博司, 高橋 豊: 同一肺葉内の孤立性線維性腫瘍内に転移を来たした定型カルチノイドの 1 例. 第 47 回京都大学呼吸器外科教室冬期研究会, 京都, 2019.2.16
37. 穴戸 裕, 青山晃博, 印藤貴士, 伊達直希, 浜川博司, 高橋 豊, 原 重雄: 同一肺葉内の孤立性線維性腫瘍内に転移を来たした定型カルチノイドの 1 例. 第 109 回日本肺癌学会関西支部, 大阪, 2019.2.23
38. 松梨敦史, 立川 良, 中川 淳, 大崎 恵, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 原 重雄, 岡田秀明, 富井啓介: Durvalumab 投与後に全身性の免疫関連有害事象を発症し, 急性呼吸不全で死亡した一例. 第 109 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2019.2.23
39. 木村正夢嶺, 藤原 悟, 田中 淳, 大村佳大, 山下大祐, 日野田卓也, 石川隆之, 坂井信幸, 原 重雄, 川本未知, 幸原伸夫: 多発脳出血を契機に診断に至った血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例. 第 113 回日本神経学会近畿地方会, 千里, 2019.3.17

IX. 1. 27 放射線診断科

1. 上田浩之, 稲垣真裕: 肺動脈損傷に対して塞栓術を行った 2 例. 第 6 回救急・外傷 IVR 症例検討会, 東京, 2018.5.13
2. 稲垣真裕, 上田浩之: 腹腔動脈から大動脈を介し上腸間膜動脈 (SMA) に至る巨大な塞栓にたいして複数科で治療を行った 1 例. 第 6 回救急・外傷 IVR 症例検討会, 東京, 2018.5.13
3. 金尾昌太郎: 乳癌の基礎知識 (画像診断と効果判定). 日本乳癌学会主催 臨床試験に携わる専門職のための乳癌セミナー, 京都, 2018.5.19
4. 稲垣真裕: New retrieval technique of the fractured central venous catheter. 第 48 回日本 IVR 学会総会, 東京, 2018.5.31
5. 日野田卓也: G-CSF 製剤によると考えられる内因性脂肪塞栓症の一例. 第 38 回神経放射線ワークショップ, 大阪, 2018.6.28-30
6. 革島定幸, 稲垣真裕, 上田浩之: 交通外傷による腸間膜損傷に対し緊急塞栓術を行った一例. 第 65 回関西 IVR 研究会, 大阪, 2018.6.30
7. 上田浩之, 稲垣真裕: SMA 塞栓症と結腸動脈瘤破裂が同時発症した 1 例. 第 28 回日本救急放射線研究会, 福岡, 2018.10.7
8. 稲垣真裕, 革島定幸, 上田浩之: AVP- I とコイルにより動脈塞栓をした 1 例. 兵庫 IVR 研究会, 神戸, 2018.11.7
9. 山田浩史: 延髄最後野に限局した病変を認めた視神経脊髄炎関連疾患の一例. 第 48 回神経放射線学会, 福岡, 2019.2.14
10. 革島定幸, 稲垣真裕, 上田浩之: 選択困難な右下横隔動脈に対し腓アーケード経路で TACE を施行した 2 例. 第 66 回関西 IVR 研究会, 大阪, 2019.2.16
11. 稲垣真裕, 上田浩之: AVP とコイルにより動脈塞栓をした 2 例. 第 66 回関西 IVR 研究会, 大阪, 2019.2.16

IX. 1. 28 放射線治療科

1. 谷内 翔, 澤田 晃, 中西真奈美, 辻村奈々珠, 松浦礼佳, 山本ゆき音, 小久保雅樹: Cone Beam CT によるステントアシスト用頭蓋内ステント描出のための基礎的検討. 第 74 回日本放射線技術学会, 横浜, 2018.4.14
2. Nagata Y, Hiraoka M, Shibata T, Onishi H, Kokubo M, Karasawa K, Shioyama Y, Onimaru R, Kunieda E, Ishikura S: A phase II Trial of Stereotactic Body Radiation Therapy for Operable T1N0M0 Non-Small Cell Lung Cancer. Japan Clinical Oncology Group (JCOG0403) : Long term follow-up results. 54th American Society of Clinical Oncology, Chicago, USA, 2018.6.3
3. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 菊池正弘, 竹林慎治, 道田哲彦: 甲状腺分化癌に対する外照射の治療効果の検討. 第 42 回頭頸部癌学会, 東京, 2018.6.14
4. Kosaka Y, Kokubo M, Imagumbai T, Ogura K, Hattori T, Hiraoka S, Shinohara S, Takebayashi S: Definitive radiation therapy for patients aged ≥ 80 years with head and neck squamous cell carcinoma. 6th World Congress of International Federation of Head and Neck Oncologic Societies, Buenos Aires, Argentina, Buenos Aires, Argentina, 2018.9.1

5. Kosaka Y, Kokubo M, Imagumbai T, Ogura K, Hattori T, Hiraoka S, Shinohara S, Takebayashi S: Definitive radiation therapy for patients aged? 80 years with head and neck squamous cell carcinoma. 6th World Congress of the International Federation of Head and Neck Oncologic Societies, Buenos Aires, Argentina, 2018.9.1
6. 服部貴之, 植木一仁, 高山賢二, 今葦倍敏行, 小坂恭弘, 小倉健吾, 平岡伸也, 緒方隆司, 小久保雅樹: Vero4DRT を用いた前立腺癌に対する IMRT の中期治療成績の検討. 第 46 回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2018.9.1
7. 今葦倍敏行, 原田英幸, 大森翔太, 村上晴泰, 福田晴行, 中松清志, 木村智樹, 盛 啓太, 金野正裕, 高橋利明, 小久保雅樹, 藤田秀樹, 建部仁志, 藤高一慶, 西村恭昌: 局所進行非小細胞肺癌に対する IMRT を用いた化学放射線療法の実施可能性試験. 第 31 回日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018.10.11
8. 服部貴之, 植木一仁, 高山賢二, 今葦倍敏行, 小坂恭弘, 小倉健吾, 平岡伸也, 緒方隆司, 小久保雅樹: Vero4DRT を用いた前立腺癌に対する IMRT の中期治療成績の検討. 第 31 回日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018.10.11
9. 緒方隆司, 小坂恭弘, 平岡伸也, 服部貴之, 小倉健吾, 今葦倍敏行, 小久保雅樹: Fanconi 貧血に合併した小児舌癌に対し化学療法併用 IMRT を施行した一例. 第 31 回日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018.10.11
10. 平岡伸也, 小倉健吾, 小坂恭弘, 今葦倍敏行, 服部貴之, 緒方隆司, 小久保雅樹: 出血を来した胃癌に対する放射線治療の有用性. 第 31 回日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018.10.11
11. 小倉健吾, 小坂恭弘, 今葦倍敏行, 服部貴之, 平岡伸也, 緒方隆司, 小久保雅樹: 頭蓋外に活動性病変がない転移性脳腫瘍患者に対する放射線治療の成績. 第 31 回日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018.10.11
12. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 今葦倍敏行, 小倉健吾, 服部貴之, 平岡伸也, 緒方隆司: 頭頸部扁平上皮癌に対して姑息的放射線治療は行うべきか? 第 31 回日本放射線腫瘍学会, 京都, 2018.10.11
13. Nagata Y, Hiraoka M, Shibata T, Onishi H, Kokubo M, Karasawa K, Shioyama Y, Onimaru R, Kunieda E, Ishikura S: A phase II Trial of Stereotactic Body Radiation Therapy for Operable T1N0M0 Non-Small Cell Lung Cancer. Japan Clinical Oncology Group (JCOG0403) : Long term follow-up results. 60th American Society for Radiation Oncology, San Antonio, USA, 2018.10.21
14. Onishi H, Imai T, Ito M, Matsumoto Y, Onimaru R, Shioyama Y, Yoshitake T, Kokubo M, Takayama K, Yamashita H, Matuo Y, Matsushita H, Karasawa K, Kuriyama K, Komiyama T, Shirato H: Single nucleotide polymorphisms of inflammation-related genes as predictive risk factors of radiation pneumonitis after stereotactic body radiation therapy for stage I non-small cell lung cancer. 60th American Society for Radiation Oncology, San Antonio, USA, 2018.10.21
15. 末岡正輝, 岡田雄基, 山下幹子, 田邊裕朗, 岡村佳明, 村上智裕, 泊 祐加, 合田靖司, 石井政男, 奥内昇, 小久保雅樹: 放射線治療装置の kV と MV imaging のアイソセンタ確認用ソフトウェア作成と精度検証. 神戸市技師会, 神戸, 2018.11.7
16. Hiraoka S, Ogura K, Kosaka Y, Imagumbai T, Hattori T, Ogata T, Kokubo M: The usefulness of radiotherapy for intubated patients on ventilation with lung cancer. 2nd ESMO Asia, Singapore, Singapore, 2018.11.23
17. 大森翔太, 村上晴泰, 原田英幸, 今葦倍敏行, 福田晴行, 中松清志, 木村智樹, 盛 啓太, 金野正裕, 高橋利明, 小久保雅樹, 長谷川吉則, 武田真幸, 藤高一慶, 西村恭昌: 局所進行非小細胞肺癌に対する IMRT を用いた同時化学放射線療法の実施可能性試験. 第 59 回日本肺癌学会, 東京, 2018.11.29
18. 細谷和貴, 藤本大智, 河内勇人, 佐藤悠城, 大崎 恵, 松梨敦史, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介, 小久保雅樹: III期非小細胞肺癌における、PACIFIC 試験適格患者と非適格患者の検討. 第 59 回日本肺癌学会, 東京, 2018.11.29
19. 服部貴之, 植木一仁, 高山賢二, 今葦倍敏行, 小坂恭弘, 小倉健吾, 平岡伸也, 緒方隆司, 小久保雅樹: Vero4DRT を用いた前立腺癌に対する IMRT の中期治療成績の検討. 第 34 回前立腺シンポジウム, 東京, 2018.12.9
20. 篠原尚吾, 竹林慎治, 濱口清海, 道田哲彦, 斎田浩二, 水野敬介, 池永 直, 小坂恭弘: 外照射を施行した甲状腺分化癌症例の検討ー適応と治療効果についてー. 第 6 回上方内分泌外科研究会, 大阪, 2019.3.1
21. 田邊裕朗, 金野正裕, 藤田秀樹, 門前 一, 松本賢治, 奥村拓朗, 今葦倍敏行, 小久保雅樹, 原田英幸, 福田晴行, 木村智樹, 西村恭昌: 局所進行非小細胞肺癌に対する Adaptive IMRT-WJOG 多施設臨床試験からわかったこと. 第 32 回日本高精度外部照射研究部会, 東京, 2019.3.2
22. 平岡伸也, 今葦倍敏行, 小坂恭弘, 小倉健吾, 服部貴之, 緒方隆司, 小久保雅樹: 前立腺癌小線源治療後に尿閉、血尿を契機に発見された Spindle Cell Sarcoma の一例. 第 47 回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2019.3.9

IX. 1. 29 救急科

1. 石田 光, 有吉孝一: TIA 症状を反復した外傷性中大脳動脈解離の一例. 第 21 回臨床救急医学会, 名古屋, 2018.6.1
2. 水 大介, 有吉孝一, 森田晃司, 西山 隆, 中山伸一: 血糖測定の必要性をバイタルサインから考える. 第 21 回臨床救急医学会, 名古屋, 2018.6.2
3. 井上 彰, 有吉孝一: 心肺蘇生講習会受講中に心肺停止に陥った 1 例. 第 21 回臨床救急医学会, 名古屋, 2018.6.2
4. 畑 菜摘, 有吉孝一, 林 卓郎, 竹井寛和, 森 崇晃: ハプニング ER. 第 32 回小児救急医学会, つくば, 2018.6.2
5. 宇津木忠仁, 村田祐二, 有吉孝一, 井上信明, 伊原崇晃: 病院ば出なっせ (災害時のトリアージ). 第 32 回小児救急医学会, つくば, 2018.6.2
6. 佐々木朗, 水 大介, 畑 菜摘, 有吉孝一, 林 卓郎, 上谷良行: ER 型救命救急センターと小児医療専門病院の連携. 第 32 回小児救急医学会, つくば, 2018.6.3
7. 園 真廉, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 職場実践共同体の心理的安全を高める: ある新参加者による, 協議のあり方を通じた, 改善の試み. 第 9 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 三重, 2018.6.16
8. 有吉孝一: (座長) 小児. 第 118 回近畿救急医学研究会 (日本救急医学会近畿地方会), 大阪, 2018.6.16
9. 水 大介, 有吉孝一: CT 異常を認める軽症小児頭部単独外傷の disposition を考える. 第 32 回日本外傷学会総会・学術集会, 京都, 2018.6.21
10. 井上 彰, 有吉孝一: 小児重症外傷に対するリハビリ体制への警鐘. 第 32 回日本外傷学会総会・学術集会, 京都, 2018.6.21
11. 有吉孝一: 小児救急看護の原点を成人 ER 症例を通して考えてみよう! 小児救急医療ワークショップ in 北九州, 北九州, 2018.7.14
12. 井上 彰, 有吉孝一: 保冷剤の誤食によって生じたプロピレングリコール中毒の一例. 第 40 回日本中毒学会学術集会・総会, 大阪, 2018.7.20-21
13. 有吉孝一, 澤口聡子: ポスター 4 (座長) 第 40 回日本中毒学会学術集会, 大阪, 2018.7.21
14. 有吉孝一: 正々の旗堂々の陣 救急医療 25 年. 第 30 回 Single topic seminar in 鳴尾浜, 西宮, 2018.10.4
15. 有吉孝一: (座長) 基調講演: 米村滋人「救急現場における DNAR の現状と運用と課題」. 平成 30 年度神戸市医師会救急医療フォーラム, 神戸, 2018.10.6
16. 有吉孝一: 三次救急の立場から: シンポジウム「現場における DNAR の現状」. 平成 30 年度神戸市医師会救急医療フォーラム, 神戸, 2018.10.6
17. 有吉孝一: (座長) Mental Care/Traumatic Stress Management The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (アジア太平洋災害医学会), 神戸, 2018.10.17
18. 建部将夫, 松岡由典, 園 真廉, 有吉孝一: Mass casualty incident from hydrofluoric acid poisoning and the importance of cooperation among hospital and fire department Panel Discussion 2 Burns The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (アジア太平洋災害医学会), 神戸, 2018.10.17
19. 柳井真知: 寄り道のすすめ 救急医米国留学体験記. 研究カンファレンス, 神戸, 2018.10.25
20. 佐々木朗, 水 大介, 有吉孝一: 神戸市における救命救急センターと消防防災ヘリとの連携. 第 25 回日本航空医療学会総会, 川崎, 2018.11.4
21. 柳井真知: ROSC、その先へ. 救急症例検討会, 神戸, 2018.11.14
22. 畑 菜摘, 松岡由典, 有吉孝一: 救急医と循環器内科医の連携～難治性心室細動患者を治療するために. 第 46 回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.19
23. 浅香葉子, 有吉孝一: 救急安心センターこうべ始動. 第 46 回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.19
24. なら本悠嗣, 佐々木朗, 水 大介, 有吉孝一: 股関節脱臼を救急医だけで整復できるか. 第 46 回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.19
25. 有吉孝一: ER 診療 2 (座長). 第 46 回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.19
26. 有吉孝一: 小児救急 どこからきて、どこへいくのか. 第 46 回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.19
27. 水 大介, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 高齢者感染症に対する qSOFA の有用性. 第 46 回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.20

28. 井上 彰, 有吉孝一: MPU in the Emergency Department -救命救急センターの精神科身体合併症病棟. 第46回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.20
29. 佐々木朗, 水 大介, 有吉孝一: 当院における浴槽内発症 CPA 患者の検討. 第46回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.21
30. 石田 光, 神谷侑画, 有吉孝一: ERにおけるアクシデント症例の検討. 第46回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.21
31. 建部将夫, 井上 彰, 有吉孝一: 産科的危機的出血に対する MTP による輸血戦略の現状と今後の課題. 第46回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.21
32. 神谷侑画: 中枢神経7(座長). 第46回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.21
33. 野浪 豪, 神谷侑画, 有吉孝一: 特発性食道破裂により緊張性気胸を発症した一例. 第46回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.21
34. 神谷侑画, 水 大介, 有吉孝一: 救急専門医必須項目である「中毒に対する消化器洗浄」が難しい. 第46回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.21
35. 浅香葉子: 脳死、終末期医療2(座長). 第46回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.21
36. 朱 祐珍, 水 大介, 浅香葉子, 有吉孝一: A case of tension pneumoperitoneum caused by colon cancer in which needle decompression was effective. 第46回日本救急医学会総会, 横浜, 2018.11.21
37. 有吉孝一: 神戸の災害と救急 神戸市医師会学術講演会. 神戸, 2019.1.12
38. 有吉孝一: #7119 入り口の救急. 臨床救急医学会・救急看護学会合同企画 救急電話相談の現況と展望〜救急看護・救急医療の新たなフィールド〜, 東京, 2019.1.19
39. 有吉孝一, 田村 亮, 杉村朋子: 高齢者における急性中毒の現状と課題. 第39回日本中毒学会西日本地方会, 京都, 2019.2.2
40. 柳井真知: 心肺蘇生 uptodate. 心肺蘇生にまつわる5つの誤解, 神戸, 2019.2.19
41. 水 大介, 瀬尾龍太郎, 柳井真知, 有吉孝一: ERで集中治療医を育てる. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.1
42. 畑 菜摘, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: Extracorporeal membrane oxygenation (ECMO) の早期導入により救命できた褐色細胞腫クラーゼの一例. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.1
43. 大久保祐希, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 窒素窒素酸化物吸入により急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) に至った一例. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.1
44. 水 大介: リハビリテーション08(座長). 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.1
45. 瀬尾龍太郎: 教育セミナー10(座長). 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.1
46. 瀬尾龍太郎: Pros & Cons PC3 感染症治療最前線2: VAP 予防目的でカフ上吸引付き挿管チューブを使用するか否か? 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.2
47. 建部将夫, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: Mobile ICU を使用した病院間搬送システムの活用. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.3
48. 柳井真知, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: In Culture: 救急ICUの尿路感染症の感染管理文化. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.3
49. 栗林真悠, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一: 壊死性軟部組織感染症の検討. 第46回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.3
50. 有吉孝一, 井上 彰, 中山伸一: 六甲山予防的救護所. 第24回日本災害医学会, 米子, 2019.3.20
51. 井上 彰, 有吉孝一: 台風21号で被災した消防署の「消防署避難」を病院で受け入れた経験.
52. 西田晴香, 佐々木朗, 柳井真知, 有吉孝一: 救命救急センターにおける敗血症1時間バンドルの取り組み. 第16回阪神・紀和救急医療「ここが知りたいセミナー」, 大阪, 2019.3.22
53. なら本悠嗣, 柳井真知, 有吉孝一: 蜂刺傷後に明らかなアレルギー兆候なく発症したKounis症候群疑いの一例. 第119回近畿救急医学研究会 日本救急医学会近畿地方会, 京都, 2019.3.23

IX. 1. 30 総合内科

1. 相原健志, 吉崎亜衣沙, 金森真紀, 西岡弘晶: TAFRO 症候群の治療中に胆道系酵素上昇を示した1例. 第92回日本感染症学会総会, 京都, 2018.4.14

2. 吉田壮志, 西久保雅司, 井本寛東, 金森真紀, 西岡弘晶: 蛋白漏出性胃腸症を初発として著明な脂質異常症を合併した全身性エリテマトーデスの1例. 第92回日本感染症学会総会, 京都, 2018.4.14
3. 水野泰志: 関節リウマチ診療について. あゆみ製薬 プロモーションアドバイザー会議, 神戸, 2018.4.17
4. 西久保雅司: 意識障害で搬送された70歳男性. 第11回Kobe GM Conference, 神戸, 2018.4.24
5. 志水隼人, 水野泰志, 西岡弘晶: 急性発症の首下がりを呈した特発性好酸球増多症を伴う抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎の1例. 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2018.4.26
6. 進藤達哉, 西岡弘晶: 在宅中心静脈栄養をうけている患者に生じたセレン欠乏性貧血の1例. 日本在宅医学会第20回記念大会, 東京, 2018.4.30
7. 進藤達哉: 紹介状の書き方. 救急オープンセミナー, 神戸, 2017.5.16
8. 西岡弘晶: オープニングリマークス. 学術講演会～肢から心疾患をつかまえる～, 神戸, 2018.5.17
9. 水野泰志: 関節リウマチと鑑別を要した関節炎の症例. 東神戸リウマチ性疾患連携の会, 神戸, 2018.5.19
10. 土井朝子: 透析患者の感染症とAMR時代の抗菌薬の使い方. 第40回神戸腎疾患カンファレンス, 神戸, 2018.5.27
11. 進藤達哉, 金森真紀, 西岡弘晶: *Aeromonas hydrophila* 腸炎を発症した糖尿病患者の1例. 第92回日本感染症学会総会, 岡山, 2018.5.31
12. 土井朝子, 蓮池俊和, 西久保雅司, 登佳寿子, 矢倉裕輝, 西岡弘晶: 極低出産体重児に対しネビラピリンを効果的で安全に使用できた1例. 第92回日本感染症学会総会, 岡山, 2018.5.31
13. 西久保雅司, 志水隼人, 西岡弘晶, 蓮池俊和, 土井朝子, 竹川啓史: 急速な意識障害の進展を認めた結核性脳膿瘍の1例. 第92回日本感染症学会総会, 岡山, 2018.6.2
14. 土井朝子: 抗菌薬適正使用について. 救急オープンセミナー, 神戸, 2018.6.6
15. 金森真紀: リウマチ性多発筋痛症～プライマリケア医の視点より～. 神戸リウマチ膠原病地域連携セミナー, 神戸, 2018.6.21
16. 西久保雅司: 講義. 感染症ベーシックセミナー in 関西, 奈良, 2018.7.8
17. 土井朝子: 講義. 感染症ベーシックセミナー in 関西, 奈良, 2018.7.8-9
18. 進藤達哉: 抗菌薬 基本の「ホ」. 救急オープンセミナー, 神戸, 2018.7.18
19. 西久保雅司: ERでのグラム染色. 救急オープンセミナー, 神戸, 2018.7.25
20. 志水隼人: MINATOJIMA RAPID RESPONSE SYSTEMS. RRS ブラッシュアップ, 神戸, 2018.7.31
21. 進藤達哉: 抗菌薬 基本の「ン」. 救急オープンセミナー, 神戸, 2018.8.8
22. 志水隼人: 一般講演. リウマチの診かたを極める会, 神戸, 2018.8.25
23. 志水隼人: 関節リウマチ治療のパラダイムシフトー当科の現状も含めてー. 部長会, 神戸, 2018.8.31
24. 金森真紀: I'm trapped. 京都 GIM カンファレンス, 京都, 2018.9.7
25. 土井朝子: 講義. 第6回神戸感染症セミナー, 神戸, 2018.10.13
26. 蓮池俊和: 講義. 第6回神戸感染症セミナー, 神戸, 2018.10.13
27. 西久保雅司, 井本寛東, 金森真紀, 西岡弘晶: Levofloxacin 血中濃度と髄液濃度を確認できたキノロン関連脳症の1例. 第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 東京, 2018.10.26
28. 志水隼人: 関節リウマチ診療について. BMSKK 社内研修会, 神戸, 2018.11.28
29. 林 克磨, 西久保雅司, 吉崎亜衣沙, 志水隼人, 西岡弘晶: 脾梗塞症状が先行したEBvirusによる伝染性単核球症の1例. 第222回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.12.15
30. 藤田将平, 進藤達哉, 金森真紀, 西岡弘晶: Methicillin-Resistant *Staphyrococcus schleiferi* subspecies *coagulans* による両室ペースング機能付き植え込み型除細動器 (CRT-D) のリード感染を発症した1例. 第222回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.12.15
31. 秦 千尋, 友塚晶子, 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶: 開心術および胸部大血管手術後の食事摂取量に影響する因子の検討. 第22回日本病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2019.1.13
32. 友塚晶子, 秦 千尋, 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶: 心臓血管手術後の開始食の食形態による喫食率の検討. 第22回日本病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2019.1.13
33. 西久保雅司: 抗真菌薬の基本. 救急オープンセミナー, 神戸, 2019.1.23
34. 土肥麻貴子, 茨木まどか, 楠田かおり, 油屋 恵, 伊藤次郎, 東別府直紀, 池末裕明, 室井延之, 西岡弘晶, 橋田 亨: NSTによるTPN処方支援の必要性. 第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 東京, 2019.2.15

35. 常峰かな, 東別府直紀, 末廣 篤, 竹林慎治, 西岡弘晶: 急性期病院における嚥下障害評価法による肺炎発症率の差. 第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 東京, 2019.2.15
36. 西岡弘晶: Clostridioides (Clostridium) difficile 感染症への臨床的アプローチ. 姫路感染対策フォーラム, 姫路, 2019.3.1
37. 西久保雅司, 林 克磨, 吉崎亜衣沙, 志水隼人, 西岡弘晶: 肺癌再発に先行した筋膜炎脂肪織炎症候群 (fasciitis-panniculitis syndrome: FPS) の 1 例. 第 223 回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2019.3.2
38. 志水隼人: 専攻医のための関節炎の診かた. 内科カンファレンス, 神戸, 2019.3.18
39. 進藤達哉: ASP が功を奏した症例 1. 第 21 回医師・臨床検査技師・薬剤師・看護師のための感染症学セミナー, 大阪, 2019.3.23

IX. 1. 31 看護部

1. 梅田節子: 基礎教育から中堅、主任看護師の院内看護倫理研修の取り組み. 第 11 回日本看護倫理学会年次大会, 東京, 2018.5.26-27
2. 永友 舞: 看護師の倫理的感受性を向上する取り組み. 第 11 回日本看護倫理学会年次大会, 東京, 2018. 5.26-27
3. 関野泰地, 尾川華子: 急性期意識障害患者の家族ニーズを満たす看護—若年の重症脳炎患者とその家族への関わりを通して—. 第 21 回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 名古屋, 2018.5.31-6.2
4. 梅田節子, 花房由美子, 岩田奈美: 院内から院外へ参加者を拡大した ELNEC-J コア研修 5 年間の取り組みと参加者に与えた影響. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, 2018.6.15-17
5. 山本達也, 森田幸子, 濱田 愛: 定期開心術後の ICU 入室患者に鏡を使う事で伝わる情報と患者に与える影響. 第 14 回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 東京, 2018.6.30-7.1
6. 岡本 聖, 池田理沙, 後藤朝光, 二場祐樹, 烏谷美希, 三近淑美, 安保真美, 伊藤聡子: 多職種チーム活動で挑んだ ARDS 患者への腹臥位管理導入への道のり. 日本集中治療医学会 第 2 回関西支部学術集会, 滋賀, 2018.7.7
7. 杉村千秋, 佐藤千賀, 長尾幸恵: 中年期にある患者がセルフケアを獲得するための支援～術後合併症を併発した患者の事例を通して～. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.14-15
8. 佐藤杏子: 外来化学療法センターにおける CV ポートの血液逆流および管理の実態調査. 第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018.7.19-21
9. 大田育美: CPA に関わった一般病棟看護師が BLS 訓練を受けた事による心理的影響. 第 49 回日本看護学会—看護管理—学術集会, 仙台, 2018.8.9-10
10. 佐藤千賀, 仲村直子: 重症心不全患者のアドバンスケアプランニングの一例～心不全の軌跡・病状を理解した上での選択を支える～. 第 22 回日本心不全学会学術集会, 東京, 2018.10.11-13
11. 仲村直子, 佐藤千賀: 3 次救急を担う総合病院における心不全緩和ケアの実態調査—終末期のモルヒネ剤使用に焦点を当てて—. 第 22 回日本心不全学会学術集会, 東京, 2018.10.11-13
12. 尾川華子, 荻田将之, 上山瑠美子, 小迫 瞳: Disaster prevention activity report by DMAT (Disaster Medical Assistance Team) member nurses at Kobe City Medical Center General Hospital. The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine, 神戸, 2018.10.16-18
13. 濱田麻美子: 抜針時の抗がん薬曝露対策 Safe handling of anticancer drugs when pulling the needle. 第 56 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018.10.18-19
14. 寺坂恵美: 救命救急センターにおける教育体制の構築および人材育成についての取り組み. 第 57 回全国自治体病院学会 in 福島, 福島, 2018.10.18-19
15. 高橋真弓子, 仲村直子, 逢坂佐代子, 小椋由美子, 夢田るりこ, 三村寛子, 高野けい子: 外来における鎮静下経食道心エコー実施のための安全な体制づくり. 第 57 回全国自治体病院学会 in 福島, 福島, 2018.10.18-19
16. 堤 典江, 桜井美紀, 田狭加代子: 救命救急センターから繋げる退院支援の実践. 第 57 回全国自治体病院学会 in 福島, 福島, 2018.10.18-19
17. 堤 典江, 永福由香里, 小倉久充子, 金中宏江: 入院時支援加算算定のための取り組みと実践報告. 第 57 回全国自治体病院学会 in 福島, 福島, 2018.10.18-19
18. 坂井陽子, 佐々木千歳, 中西雅美, 高尾佳美: 看護補助者の役割認識とモチベーション向上にむけての取り組み. 第 57 回全国自治体病院学会 in 福島, 福島, 2018.10.18-19

19. 田村景子, 中西雅美, 手島明美, 長谷川育子, 泉田千尋, 高尾佳美: 結核疑いで隔離が必要な患者へのオリエンテーションの課題. 第 57 回全国自治体病院学会 in 福島, 福島, 2018.10.18-19
20. 西嶋亮佑, 永友 舞: 集中治療室での入院が長期化した重症外傷患者の一例 PICS の精神障害に重点を置いた看護介入について. 第 20 回日本救急看護学会学術集会, 和歌山, 2018.10.19-20
21. 中村祐美子: A 病院の救急病棟看護師の急変対応の現状とチームビルディングに関する学習ニーズ調査. 第 20 回日本救急看護学会学術集会, 和歌山, 2018.10.19-20
22. 橋本涼加, 丸山浩枝, 沖吉みどり: 1 週間の短期介入における医療者の連携・協働がもたらす効果—起立性調節障害をもつ思春期男児とその家族への支援を通して—. 第 3 回神戸看護学会, 神戸, 2018.10.27
23. 金子奈央: 患者の思いを汲み取る看護—突然両下肢麻痺となった A 氏の排泄セルフケア援助を通して—. 第 3 回神戸看護学会, 神戸, 2018.10.27
24. 丞々弥生, 堀川万由美, 國賀加奈, 進藤真理那, 田中年恵: 当院における呼吸器看護専門外来の現状と課題. 第 3 回神戸看護学会, 神戸, 2018.10.27
25. 竹内志津枝, 田中優子: 脳神経外科ハイブリッド手術室導入への取り組み. 第 3 回神戸看護学会, 神戸, 2018.10.27
26. 藤村弓子: がん看護相談外来の現状～外来通院中の乳がん患者に焦点をあてて～. 第 3 回神戸看護学会, 神戸, 2018.10.27
27. 加古真女: 小児看護学実習における学生の困難感とその対処へのレディネス. 第 3 回神戸看護学会, 神戸, 2018.10.27
28. 河合 萌, 騰 由香, 柴田美由紀: 深鎮静におけるモニタリングナース育成の取り組み～心筋焼灼術 (ABL) を受ける患者の安全性の向上を目指して～. 第 3 回神戸看護学会, 神戸, 2018.10.27
29. 佐藤千賀: 循環器病の経過に合わせた栄養管理. 第 15 回日本循環器看護学会学術集会, 大阪, 2018.10.27-28
30. 牧原尚範, 浅山侑香子, 古瀬和久, 騰 由香, 柴田美由紀: 急性血行再建への取り組みと結果. 第 34 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.22-24
31. 田原夏紀, 西中理恵, 瀬戸口雅子, 佐藤恵美: 外国籍の母親に対する退院支援～母子垂直感染した児の家族への投薬指導を行って～. 第 28 回日本新生児看護学会学術集会, 東京, 2018.11.23-24
32. 伊藤明美: システムレベルアップを契機とした診療録の一部としての看護記録の標準化への挑戦. 第 38 回医療情報学連合大会, 福岡, 2018.11.24
33. 森ふみ代, 前田愛希, 毛谷淳子, 稲岡佳子: RRS を活用した院内発症脳梗塞への取り組み. 第 13 回医療の質・安全学会学術集会, 名古屋, 2018.11.24-25
34. 松井洋幸, 清水愛香, 黒田 茜, 空野ちえ, 杉山明子, 藤原恵美子, 池添絵理, 森田幸子, 毛谷淳子: 5R モニタリングシートを用いた内服薬与薬準備手順の標準化への取り組み. 第 13 回医療の質・安全学会学術集会, 名古屋, 2018.11.24-25
35. 花本昌子, 佐藤杏子, 佐藤亜紀子, 山下奈津子, 徳田未有, 池添絵理, 浅香孝彦: 2 人連携型ダブルチェックの推進活動. 第 13 回医療の質・安全学会学術集会, 名古屋, 2018.11.24-25
36. 飯田悦子, 花房由美子, 渡部幸代, 水田好香: 急性期病院における転倒・転落予防ケアの取り組み～転倒・転落リスクアセスメントシート、ケアフローの改訂～. 第 13 回医療の質・安全学会学術集会, 名古屋, 2018.11.24-25
37. 新改法子: 開心術後の手術部位感染発生に関するリスク因子の検討. The 11th Healthcare Infection Society International Conference, イギリス, 2018.11.26-28
38. 高峰里佳, 松本梨加, 中西雅美, 手島明美, 中川千枝, 東 暁子, 高尾佳美: 当院肺癌化学療法チームにおける取り組み—混合病棟での患者指導の現状をふりかえって—. 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.29-12.1
39. 谷 愛実, 六代都加沙, 田中年恵: 看護師のための肺がんポケットマニュアルの活用実態. 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.29-12.1
40. 箱崎 萌: 在宅で療養する慢性心不全患者の不安・抑うつへの居住形態への影響. 第 38 回日本看護科学学会学術集会, 愛媛, 2018.12.15-16
41. 牟田ひとみ, 丸山浩枝, 沖吉みどり: 病院外発症アナフィラキシー症例におけるアドレナリン自己注射非使用例. 日本小児アレルギー学会・第 19 回食物アレルギー研究会, 東京, 2019.2.17

42. 新改法子, 小倉明子: 接触予防策の強化による耐性菌新規検状況の調査. 第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会, 神戸, 2019.2.22-23
43. 松井洋幸, 清水愛香, 黒田 茜, 空野ちえ, 杉山明子, 藤原恵美子, 池添絵理, 森田幸子, 毛谷淳子: 5R モニタリングシートを用いた内服薬確認マニュアル遵守に向けての取り組み. 第 2 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2019.2.23
44. 山本正也, 河合 萌, 騰 由香, 柴田美由紀: 深鎮静におけるモニタリングナース育成への取り組み～心筋焼灼術 (ABL) を受ける患者の安全性の向上を目指して. 第 2 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2019.2.23
45. 濱田麻美子, 稲岡佳子, 田中年恵: 抗がん薬投与における抜針時の曝露対策. 第 33 回日本がん看護学会学術集会, 福岡, 2019.2.23-24
46. Ueda K: Establishing protocol and simulation-based learning to initiate ECPR in our institution. ACC, 19 Abstract Disposition-19021, New Orleans, 2019.3.16-18
47. 上山留美子, 荻田将之, 尾川華子, 小迫 瞳: 災害拠点病院である当院の大阪府北部地震時の対応と課題. 第 24 回日本災害医学会総会・学術集会, 米子, 2019.3.18-20
48. 荻田将之, 金澤翔子: 非常時における非電源による喀痰吸引についての考察. 第 24 回日本災害医学会総会・学術集会, 米子, 2019.3.18-20
49. 前田愛希, 橋本明美, 成島佳代, 剣持美由紀, 桑田萌恵, 東田毬江, 岡崎美晴: 急性期病棟で行う集団リハビリテーションにおける影響－脳神経外科・神経内科病棟の 3 症例を通して－. 第 44 回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.21-24
50. 上山瑠美子, 利川亜弥: 救命技術指導者に対する研修の効果と課題. 第 119 回近畿救急医学研究会, 京都, 2019.3.23

IX. 1. 32 薬剤部

1. 奥貞 智: 医薬品安全の立場から. 医療安全対策地域連携のための研修会 2018, 東京, 2018.5.12
2. 三浦理恵子, 平島正樹, 長野 徹, 橋田 亨: ニボルマブ, イピリムマブを順次使用中にネフローゼ症候群増悪を来した悪性黒色腫患者の 1 症例. 第 10 回日本がん薬剤学会学術大会, 東京, 2018.5.13
3. 登佳寿子: アドヒアランス向上を目指した服薬指導. 第 3 回尼崎市適塩化フォーラム, 第 15 回ヘルスアップ尼崎戦略プログラム, 尼崎, 2018.5.13
4. Hirabatake M, Mizuno T, Miura R, Takebe S, Tokiwa M, Kikawa Y, Kato H, Hashida T: Everolimus pharmacokinetics and efficacy in Japanese patients with advanced breast cancer. Kyoto Breast Cancer Consensus Conference 2018 International Convention, Kyoto, 2018.5.19
5. 池末裕明: がん薬物療法における薬剤師の取り組み－緩和領域を含めて－. 全国済生会病院薬剤師会研修会, 東京, 2018.5.19
6. 辻本貴江, 木田尊洋, 奥貞 智, 池末裕明, 松岡直樹, 橋田 亨: 2 型糖尿病患者における教育入院後の体重変化に基づく HbA1c の追跡調査. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2018.5.26
7. 平野達也, 薩摩由香里, 大音三枝子, 梅田節子, 李 美於, 橋田 亨: 院内緩和ケアチームから在宅緩和ケアに繋ぐ薬剤情報提供書を用いた薬薬連携. 第 12 回日本緩和医療薬学会年会, 東京, 2018.5.26
8. 土肥麻貴子, 安藤基純, 平島正樹, 川上大裕, 橋田 亨: 小児の末梢血幹細胞移植後腸管 GVHD 患者においてバンコマイシン経口投与により血中バンコマイシン濃度の上昇を認めた一症例. 第 35 回日本 TDM 学会・学術大会, 福岡, 2018.5.26-27
9. 安藤基純, 平島正樹, 簗智幸政, 安井久晃, 福島昭二, 杉岡信幸, 橋田 亨: 副腎腫瘍患者のミトタン療法における TDM を活用した薬学的支援の 2 症例. 第 35 回日本 TDM 学会・学術大会, 福岡, 2018.5.26-27
10. 堀田 薫, 岡田 章, 福島恵造, 安藤基純, 倉本恵理子, 平島正樹, 池末裕明, 橋田 亨, 杉岡信幸: 低腎機能患者におけるバンコマイシン負荷投与の至適投与設計. 第 35 回日本 TDM 学会・学術大会, 福岡, 2018.5.26-27
11. 吉田早希, 藤本亜弓, 岡田 章, 福島恵造, 安藤基純, 平野達也, 宮坂萌菜, 石川隆之, 池末裕明, 橋田 亨, 杉岡信幸: 臍帯血移植患者におけるタクロリムスの血中濃度コントロール改善を目的とした母集団薬物動態解析. 第 35 回日本 TDM 学会・学術大会, 福岡, 2018.5.26-27
12. 橋田 亨: (シンポジウム) 求められる病院機能の変化とそれに応え得る薬剤師. 第 11 回神戸薬科大学エクステンションセンター開設 10 周年記念シンポジウム, 神戸, 2018.6.10

13. 池末裕明：(シンポジウム)入院前から周術期、退院後をつなぐ薬物療法マネジメント。医療薬学フォーラム 2018 / 第 26 回 CP シンポジウム, 東京, 2018.6.23
14. Irie K, Nanjo S, Masago K, Hata A, Kokan C, Kaji R, Shiro F, Okada Y, Nobuyuki K, Fukushima S: Development and validation of a method for epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitors quantification in dried blood spots: practices of pharmacist assisted self-blood sampling. 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology, Kyoto, 2018.7.1-6
15. 建部将夫, 瀬尾龍太郎, 田村 亮, 有吉孝一: カフェイン中毒による頻回の嘔吐から Boerhaave 症候群と診断した一例。日本集中治療医学会第 2 回関西支部学術集会, 滋賀, 2018.7.7
16. 仲川春菜, 高瀬友貴, 池末裕明, 橋田 亨: 低用量ダビガトラン服用患者における減量因子数と出血性合併症の関連。日本医療薬学会 第 2 回フレッシュャーズ・カンファランス, 京都, 2018.7.8
17. 藤田拓俊, 倉本恵里子, 平山晴奈, 平島正樹, 安藤基純, 奈須聖子, 小倉明子, 土井朝子, 橋田 亨: 院内抗菌薬適正使用に向けた Antimicrobial Stewardship Team の活動と評価。日本医療薬学会 第 2 回フレッシュャーズ・カンファランス, 京都, 2018.7.8
18. 堀田 董, 福島恵造, 岡田 章, 安藤基純, 倉本恵理子, 平島正樹, 池末裕明, 橋田 亨, 杉岡信幸: 経験的バンコマイシン初回負荷投与の安全性及び有効性評価。日本医療薬学会 第 2 回フレッシュャーズ・カンファランス。京都, 2018.7.8
19. 高瀬友貴, 片岡美咲, 池末裕明, 奥貞 智, 橋田 亨: 保険薬局からの疑義照会対応における院内プロトコールの活用とその効果。第 11 回日本在宅薬学会学術大会, 大阪, 2018.7.15
20. 池末裕明: (シンポジウム) 薬剤師が支えるがん薬物療法。第 11 回日本在宅薬学会学術大会, 大阪, 2018.7.16
21. 大音三枝子: (シンポジウム) 院内緩和ケアチームから在宅緩和ケアに繋ぐ薬剤情報提供書を用いた薬薬連携。第 11 回日本在宅薬学会学術大会, 大阪, 2018.7.16
22. 平島正樹, 水野知行, 三浦理恵子, 武部沙也加, 常盤麻里子, 木川雄一郎, 加藤大典, 橋田 亨: 日本人進行再発乳がん患者におけるエベロリムスの体内動態と効果、副作用の関係。第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018.7.19
23. 池末裕明, 長野 徹, 橋田 亨: ダブラフェニブ・トラメチニブ併用療法により急性腎障害を認めた悪性黒色腫の一症例。第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018.7.21
24. 橋田 亨: 特別講演・機能分化していく病院から地域へ薬物療法をつなぐ～急性期感染管理からがん患者支援まで～。第 26 回臨床薬剤師のための講習会, 金沢, 2018.7.22
25. 六車龍介, 奥貞 智, 富田里佳, 増本憲生, 西濱輝美, 窪岡由佑子, 布谷容子, 恒吉慶子, 多和田尚子, 根来絢子, 岡本貴子, 春藤欣也, 中筋幸司, 柳 星伊, 松田幸子, 永嶋道浩, 小野くみ子, 北村和也, 和田真明, 高野敬子, 辻本 勉, 松田友和, 坂口一彦, 横野浩一: 糖尿病療養指導士兵庫県連合会活動報告。第 6 回日本糖尿病療養指導学術集会, 京都, 2018.7.28-29
26. 橋田 亨: (シンポジウム) 薬の効果と安全をチームで支える最新医療。第 19 回ひと・健康・未来シンポジウム 2018 京都, 京都, 2018.7.29
27. 橋田 亨: (特別講演) 日本高齢化社会所需要的医療与薬剤師的作用 (日本の高齢化社会に求められる医療と薬剤師の役割)。2018 年海河药学论坛 (2018 年天津市薬学会「海河薬学論壇」), 天津, 2018.8.4
28. 奥貞 智: 薬剤師が行う療養指導とは。平成 30 年度薬薬連携を考える会: 尼崎, 2018.8.28
29. 大音三枝子: 地域とつながる緩和ケアチームと薬剤師の役割。第 3 回 Hyogo Pharmacy Director Conference, 神戸, 2018.8.29
30. 橋田 亨: (特別講演) がん薬物治療のトータルマネジメント～安全管理から曝露防止まで～。第 24 回福岡外来化学療法研究会, 福岡, 2018.9.5
31. 奥貞 智: 薬物療法におけるポジショニング。第 49 回近畿・糖尿病の自己管理を考える会, 大阪, 2018.9.6
32. 橋田 亨: これからの医療を担う薬剤師への期待。若手薬剤師のための薬物療法研究会, 岡山, 2018.9.7
33. 橋田 亨: (特別講演) 大学-医療連携を通して想う 薬学・薬剤師教育の未来。神戸学院大学薬学部臨床薬学教育研究センター設立記念キックオフシンポジウム, 神戸, 2018.9.12
34. 室井延之: 薬剤師がつなぐ栄養療法～病院 NST から地域連携 NST へ～。兵庫県薬剤師会摂丹支部・兵庫県病院薬剤師会摂丹支部共催研修会, 丹波, 2018.9.20

35. Tamura R, Ikesue H, Ogawa H, Karita M, Ueyama R, Kosako H, Sugigami Y, Muroi N, Ariyoshi K, Hashida T. Establishing an interprofessional collaboration in the disaster medical assistance team for forthcoming disasters. 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine, Kobe, 2018.10.16-18
36. 橋田 亨：(特別講演) 機能分化していく医療を支える薬剤師の未来. YAMANASHI Pharmacy Director Seminar, 甲府, 2018.10.21
37. 橋田 亨：(特別講演)機能分化していく医療を支える薬剤師の未来. Muroran Pharmacy Director Seminar, 室蘭, 2018.10.23
38. 池末裕明：(シンポジウム) 入院から外来、地域でつながるがん薬物療法. 患者・家族メンタル支援学会第4回学術総会, 神戸, 2018.10.27-28
39. 登佳寿子, 土肥麻貴子, 木下 恵, 片岡美咲, 仲村直子, 田川早苗, 松村佳苗, 亀井こずえ, 下雅意崇亨, 下出 優, 加良浩二, 池末裕明, 室井延之, 北井 豪, 古川 裕, 橋田 亨：末期心不全患者に対する多職種心不全チームの取り組み. 患者・家族メンタル支援学会第4回学術総会, 神戸, 2018.10.27-28
40. 吉田千恵美：(シンポジウム) 外来患者への薬剤師業務の進め方「周術期領域」. 入院前準備センターでの薬剤師業務の展開. 第1回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum, 東京, 2018.10.28
41. 池末裕明：(特別講演) がん薬物療法における薬剤師の役割ーこれまでと、これからー. 第72回医療薬学公開シンポジウム, 小倉, 2018.10.28
42. 橋田 亨：(特別講演) 激動の医療現場で活躍する薬剤師～連携のなかで醸成されるその実力～. 京都府薬剤師会第35回特別講演会, 京都, 2018.11.9
43. 奥貞 智：(シンポジウム) 入院前からの薬剤師による早期介入の有用性～入院前準備センターでの薬剤師の取り組み～. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
44. 田村 亮：(シンポジウム) 現場で学ぶ薬物中毒～何を見せる? どう魅せる?～. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
45. 田村 亮：(シンポジウム) 集中治療を基盤とした薬剤師レジデントの臨床教育. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
46. 池末裕明：(シンポジウム) がん薬物療法に伴う有害事象のマネジメント. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
47. 平山晴奈, 倉本恵里子, 藤田拓俊, 平島正樹, 安藤基純, 小倉明子, 奈須聖子, 土井朝子, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨：プロセス指標とアウトカム指標に基づいた Antimicrobial Stewardship Team の介入効果. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
48. 宗村雅男, 土肥麻貴子, 久保理美, 中川素子, 藤原智美, 鶴谷 茂, 伊藤次郎, 水本素子, 室井延之, 橋田 亨：短腸症候群症例においてNSTと協働し在宅医療へつないだ薬薬連携の取り組み. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
49. 薩摩由香里, 楠田かおり, 池末裕明, 室井延之, 森 令法, 古郷摩利子, 富井啓介, 橋田 亨：特発性肺線維症治療薬における薬剤師外来の取り組みと有用性の評価. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
50. 山下花南恵, 鎌田里紗, 松岡勇作, 池末裕明, 奥貞 智, 室井延之, 橋田 亨：薬学実務実習における改訂モデル・コアカリキュラム導入に向けた当院の課題. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
51. 鳥井栄貴, 富田秀明, 安藤基純, 田中茉歩子, 藤本一秀, 小原智子, 清水るみ子, 池末裕明, 奥貞 智, 橋田 亨：ケース・クロスオーバー研究による非手術高齢患者における睡眠薬服用と転倒の関連評価. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
52. 小原智子, 鳥井栄貴, 安藤基純, 富田秀明, 田中茉歩子, 藤本一秀, 清水るみ子, 池末裕明, 奥貞 智, 橋田 亨：ケース・クロスオーバー研究による急性期病院での高齢者における睡眠薬服用と転倒の関連評価. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
53. 柴谷直樹, 藤田和美, 田中郁人, 別府あかね, 室井延之, 栗本康夫, 橋田 亨：ロービジョン患者に対するアドヒアランス向上のための服薬支援. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
54. 楠田かおり, 薩摩由香里, 西脇布貴, 平島正樹, 池末裕明, 藤本大智, 富井啓介, 橋田 亨：免疫チェックポイント阻害薬投与肺癌患者における protocol-based pharmacotherapy management の有用性. 第59回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.29-12.1

55. 池末裕明:安全ながん薬物療法の実践. 日本病院薬剤師会・日本医療薬学会がん専門薬剤師集中教育講座(福岡会場), 福岡, 2018.12.2
56. 登佳寿子, 土肥麻貴子, 土井朝子, 室井延之, 橋田 亨:HIV 感染超低体重児に対して ART を行った 1 症例. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, 2018.12.2-4
57. 宗村雅男:入院から外来・在宅医療へつなぐ入退院支援業務の展開. 第 18 回神戸学院大学 大学一医療連携講演会, 神戸, 2018.12.7
58. 池松裕明:がん薬物療法における薬剤師の役割～アドヒアランスと副作用マネジメント～. Special Lecture for Cancer Expert Pharmacist, 神戸, 2018.12.14
59. 山本晴菜:C 型肝炎 DAA 治療に対する薬剤師外来について. 肝疾患メディカルスタッフコミュニケーション学術集会, 大阪, 2018.12.15
60. 藤田拓俊, 倉本恵里子, 平山晴奈, 平昌正樹, 安藤基純, 奈須聖子, 小倉明子, 土井朝子, 室井延之, 橋田 亨:AST 活動が AUD や DOT、緑膿菌の感受性率に及ぼす影響. 第 40 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 奈良, 2019.1.19-20
61. 佐久間美佐緒, 河本由紀子, 奥貞 智, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨:神戸市立医療センター中央市民病院におけるトレーシングレポート運用の現状と課題. 第 40 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 奈良, 2019.1.19-20
62. 田中郁壮, 柴谷直樹, 藤田和美, 吉水 聡, 室井延之, 栗本康夫, 橋田 亨:原発閉塞隅角病 (PACD) 患者における緑内障禁忌薬の処方状況と代替薬の推考. 第 40 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 奈良, 2019.1.19-20
63. 鶴谷 茂:向精神薬の分類と特徴～当院でのせん妄対応も含めて～. 第 13 回兵庫県薬剤師会摂丹支部・兵庫県病院薬剤師会摂丹支部共催セミナー, 三田, 2019.1.24
64. 池末裕明:Oncology Pharmacist ～これまでと、これから～. 中国四国ブロック Oncology Pharmacist Community Forum 2019, 岡山, 2019.1.26
65. 有吉孝一, 田村 亮, 杉村朋子:(教育講演) 高齢者における急性中毒の現状と課題. 第 39 回日本中毒学会西日本地方会, 京都, 2019.2.2
66. 橋田 亨:(特別講演) 機能分化する病院と高まる薬剤師へのニーズ. 大阪府市立病院薬剤師部長会, 大阪, 2019.2.8
67. 橋田 亨:(特別講演) 機能分化していく医療を支える薬剤師の未来. 第 2 回愛仁会学術集会, 高槻, 2018.2.9
68. 橋田 亨:(特別講演) 医薬品副作用マネジメント～院内で上手に協働するポイント～. 第 5 回日本医療安全学会学術総会, 東京, 2019.2.9-10
69. 橋田 亨:(シンポジウム) 薬剤師の立場から一地域で繋がる服薬支援と安全管理. 第 5 回日本医療安全学会学術総会, 東京, 2019.2.9-10
70. 室井延之:(シンポジウム) 患者の暮らしにつなぐオール薬剤師による入退院支援業務の展開. 第 5 回日本医療安全学会学術総会, 東京, 2019.2.9-10
71. 土肥麻貴子, 茨木まどか, 楠田かおり, 油屋 恵, 伊藤次郎, 東別府直紀, 池末裕明, 室井延之, 西岡弘晶, 橋田 亨:NST による TPN 処方支援の必要性. 第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 東京, 2019.2.14-15
72. 橋田 亨:患者、医療従事者から求められるスマートな製剤. インターフェック大阪セミナー, 大阪, 2019.2.20
73. 池末裕明:がん薬物療法の有害事象をマネジメントする. 兵病薬西播支部学術研修会, 姫路, 2019.2.21
74. 池末裕明:薬剤師が支えるがん薬物療法～安全性確保と薬剤師の成長の舞台裏～. 第 21 回鹿児島薬剤師フォーラム, 鹿児島, 2019.3.1
75. 土肥麻貴子, 茨木まどか, 楠田かおり, 油屋 恵, 伊藤次郎, 東別府直紀, 池末裕明, 室井延之, 西岡弘晶, 橋田 亨:NST による TPN 処方支援の必要性. 西神戸医療センターオープンカンファレンス, 神戸, 2019.3.14
76. 田中敏博, 山本晴菜, 平昌正樹, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨:免疫抑制薬および経口抗がん薬投与患者における B 型肝炎再活性化対策への薬剤師介入の効果. 第 8 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 福岡, 2019.3.17

77. 前田真美, 薩摩由香里, 楠田かおり, 池末裕明, 室井延之, 森 令法, 古郷摩利子, 立川 良, 富井啓介, 橋田 亨:特発性肺線維症患者を対象とした薬剤師外来の有用性の評価. 第8回日本薬剤師レジデントフォーラム, 福岡, 2019.3.17
78. 山岡健太, 平島正樹, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨:進行腎がんにおける分子標的薬治療による蛋白尿と腎機能障害の関連. 第8回日本薬剤師レジデントフォーラム, 福岡, 2019.3.17
79. 米谷佳恵, 木下 恵, 平野達也, 登佳寿子, 大音美枝子, 室井延之, 橋田 亨:末期心不全患者のモルヒネ使用における薬剤師の関わり. 第8回日本薬剤師レジデントフォーラム, 福岡, 2019.3.17
80. 細見周平, 池末裕明, 山口裕規, 内田まやこ, 細畑圭子, 中村 任, 室井延之, 橋田 亨:非小細胞肺癌に対するドセタキセル療法に伴う発熱性好中球減少症のリスク因子の検討. 第8回日本薬剤師レジデントフォーラム, 福岡, 2019.3.17
81. 藤田拓俊, 池末裕明, 奥吉博之, 平島正樹, 室井延之, 橋田 亨:非小細胞肺癌患者に対するニボルマブによる免疫関連有害事象の発現状況. 第8回日本薬剤師レジデントフォーラム, 福岡, 2019.3.17
82. 仲川春菜, 高瀬友貴, 木下 恵, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨:エドキサバン服用患者における用量調節因子数と出血リスクの関連. 第8回日本薬剤師レジデントフォーラム, 福岡, 2019.3.17
83. 勝浦千都世, 平島正樹, 池村 舞, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨:糖尿病患者と非糖尿病患者における膵癌術後補助化学療法(S-1療法)による白血球減少について. 第8回日本薬剤師レジデントフォーラム, 福岡, 2019.3.17
84. 田村直暉, 安藤基純, 西岡弘晶, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨:抗MRSA薬ダプトマイシンの安全性評価および臨床効果に対する影響因子の解析. 第8回日本薬剤師レジデントフォーラム, 福岡, 2019.3.17
85. 上山瑠美子, 苅田将之, 尾川華子, 小迫 瞳, 田村 亮, 杉上 裕, 井上 彰:大阪府北部地震時の災害拠点病院である当院の対応と課題. 第24回日本災害医学会総会・学術集会, 鳥取, 2019.3.19
86. 池末裕明:(シンポジウム)免疫チェックポイント阻害薬に伴う有害事象のモニタリング. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2019, 札幌, 2019.3.23-24
87. 池末裕明:(シンポジウム)認定取得に続くステップ~研究成果を論文化するには~. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2019, 札幌, 2019.3.23-24
88. 柴原由佳, 入江 慶, 池末 裕明, 室井延之, 福島昭二, 片上信之, 橋田 亨:既治療の進行・再発非小細胞肺癌におけるニボルマブとドセタキセルの費用対効果分析. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2019, 札幌, 2019.3.23-24

IX. 1. 33 臨床検査技術部

1. 吉田昌弘, 矢野由紀子, 末岡 馨, 丸岡隼人:ステロイド抵抗性急性GVHDにおける間葉細胞治療と制御性T細胞の体内動態について. 第66回日本細胞治療学会総会, 栃木, 2018.5.24
2. 楠本寿子, 浜田充生, 山本容子, 張 允禧, 簗輪和士:混合式AIHAの一症例. 第66回日本細胞治療学会総会, 栃木, 2018.5.25
3. Iwasaki N: A study on Hemodynamics of Gastrointestinal Neoplastic lesions using Contrast-enhanced Ultrasonography. The 13 congress of AFSUMB. KOREA, 2018.5.24
4. Sueoka K: The high expression of CD38 is associated with poor prognosis in de novo diffuse large B-cell lymphoma. European Hematology Association. Stockholm, 2018.6.5
5. 岩崎信広:(シンポジウム)「消化管 腸閉塞の超音波診断」腸閉塞における超音波検査の役割. 第91回日本超音波医学学術集会, 神戸, 2018.6.8
6. 紺田利子:「特別プログラム・技を究める 心エコー1:誤診を招かない計測を究める」左心系の計測を究める. 日本超音波医学会 第91回学術集会, 神戸, 2018.6.8
7. 馬場理江, 佐々木一郎, 枳尾人司, 簗輪和士, 川本篤彦:複数の検査モダリティを活用した虚血肢に対する精密血流評価. 第10回日本下肢救済・足病学会学術集会, 札幌, 2018.7.13
8. 菅沼直生子, 太田光彦, 北井 豪, 紺田利子, 上野菜美子, 長澤 淳, 加地修一郎, 谷 知子, 小山忠明, 古川 裕:開心術後に心尖部に限局する echo free space を認めた一例. 日本超音波医学会 第45回関西地方学術集会, 神戸, 2018.10.20
9. 菅原雅史, 岩崎信広, 佐々木一郎, 枳尾人司, 山下大祐, 原 重雄, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹:ソナゾイド造影超音波検査を施行した未分化胆管細胞癌の一例. 日本超音波医学会 第45回関西地方学術集会, 神戸, 2018.10.20

10. 松下隆史, 菅原雅史, 佐々木一郎, 村上泰隆, 川本未知, 幸原伸夫: 尺骨神経障害を契機に超音波検査で発見し得た悪性リンパ腫末梢神経浸潤の一例. (Invasion of malignant lymphoma in ulnar nerve- Findings of NCS and neuro-sonography) 日本超音波医学会 第 45 回関西地方会学術集会, 神戸, 2018.10.20
11. 矢野由希子, 岩崎信広, 菅原雅史, 松下隆史, 朽尾人司, 青山直樹, 杉之下与志樹, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: カラー Doppler 法が有用であった小腸 AVM の一例. 日本超音波医学会第 45 回関西地方会学術集会, 神戸, 2018.10.20
12. 田中佑果, 菅原雅史, 岩崎信広, 佐々木一郎, 朽尾人司, 鄭 浩柄, 杉之下与志樹, 山下大祐, 原 重雄, 今井幸弘: 急性虫垂炎における重症度評価の問題点についてー US grade と病理組織診断との対比ー. 日本超音波医学会 第 45 回関西地方会学術集会, 神戸, 2018.10.20
13. 佐々木一郎: 神経・筋超音波検査を Neurolab で行う意味. 日本超音波医学会 第 45 回関西地方会学術集会, 神戸, 2018.10.20
14. 馬場理江, 佐々木一郎, 朽尾人司, 簗輪和士, 木下 慎, 川本篤彦: オシロメトリック法による足趾血圧測定不能例の特徴ーパルスオキシメータ法による測定値との関連ー. 第 59 回脈管学会総会, 広島, 2018.10.25
15. 佐々木一郎: 術中神経モニタリングの技術. 日本臨床神経生理学会 第 48 回学術大会(ベーシックレクチャー), 東京, 2018.11.8
16. 末岡 馨: 造血管腫瘍における遺伝子検査の運用～運内実施のメリット～. 第 58 回日臨技近畿支部医学検査学会 遺伝子シンポジウム, 奈良, 2018.12.1
17. 丸岡隼人: Plasma cell myeloma の診断と治療～フローサイトメトリーの将来展望～. 第 58 回日臨技近畿支部医学検査学会 血液シンポジウム, 奈良, 2018.12.2
18. 山本 剛: 日常的に遭遇している集中治療管理下での感染症ー診断・治療. 第 46 回日本集中治療医学会総会, ICD 講習会, 2019.3.3

IX. 1. 34 放射線技術部

1. 増田祥子: 当院の施設紹介と Hybrid-OR の運用について. 第 122 回関西 IVR 撮影技術研究会, 大阪, 2018.5.27
2. 宇草賢二, 浅田泰弘, 上田浩之: 骨盤領域の血管塞栓術における 3D road map の有用性に関する検討. 第 47 回日本 IVR 学会総会, 東京, 2018.5.31-6.2
3. 泊 祐加: 治療配属 5 ヶ月を振り返って. 兵庫県放射線治療研究会, 神戸, 2018.6.29
4. 馬場健二: 線条体 SPECT 解析における AC-PC Assist 機能の有用性について. R175RI 技術懇話会, 神戸, 2018.7.18
5. 小川敦久: PET 検査におけるファントム実験の有用性. 神戸画像勉強会, 神戸, 2018.8.1
6. 宇草健二: 骨盤領域の血管塞栓術における 3D road map の有用性に関する検討. 第 123 回関西 IVR 撮影技術研究会, 大阪, 2018.9.8
7. 小川敦久: ファントム画像による画像再構成条件の検討. 第 25 回兵庫 PET 技術研究会, 明石, 2018.9.14
8. 吉田拓也: 当院における ECPR の取り組み. 中央市民病院救急撮影オープンカンファレンス, 神戸, 2018.11.9
9. 小山寛之: 緊急ステントグラフトにおける放射線技師の関わり. 中央市民病院救急撮影オープンカンファレンス, 神戸, 2018.11.9
10. 泊 祐加, 田邊裕朗, 山下幹子, 岡村佳明, 末岡正輝, 村上智裕, 石井政男, 岡田雄基, 合田靖司, 奥内 昇: 濡れガーゼによるボラス効果の検証. 平成 30 年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2018.11.10
11. 末岡正輝, 岡田雄基, 山下幹子, 田邊裕朗, 岡村佳明, 村上智裕, 泊 祐加, 合田靖司, 石井政男, 奥内昇, 小久保雅樹: 放射線治療装置の kV と MV imaging のアイソセンター確認用ソフトウェア作成と精度検証. 平成 30 年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2018.11.10
12. 田中志緒莉, 山下智之, 名定良祐, 茨木丈晴: 小児撮影における画像再構成関数についての基礎検討. 平成 30 年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2018.11.10
13. 大塚 聖, 小川敦久, 山下智之: ODM (Organ Dose Modulation) の臨床利用への基礎的検討. 平成 30 年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2018.11.10
14. 小林彩友美, 谷内 翔, 宇草賢二, 宇都宮隆, 浅田泰弘, 浜田 誠: CBCT におけるメタルアーチファクト低減処理の比較. 平成 30 年度神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2018.11.10

15. 小川敦久, 赤松 剛, 清水敬二:5リング検出器PET/CT装置の性能評価(従来の3リング検出器装置との比較), 第38回日本核医学技術学会総会学術大会, 沖縄, 2018.11.15
16. 清水敬二, 小久保雅樹, 川喜田睦司, 日野 恵, 奥内 昇, 馬場健司, 大塚 聖, 山下智之:骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌の患者に対する Ra-223 内服療法における治療効果・手術予測の検討. 第58回日本核医学学会, 沖縄, 2018.11.19
17. 岡村佳明, 木元 唯, 岡田雄基, 山下幹子, 末岡正輝, 田邊裕朗, 村上智裕, 吉田一貴, 合田靖司, 奥内 昇, 小久保雅樹:当院における IGRT の6軸補正精度の基礎的検討. 第2回4病院合同研究学術フォーラム, 神戸, 2019.2.23
18. 小川敦久, 赤松 剛, 清水敬二:5リング検出器PET-CT装置の性能評価. 第2回4病院合同研究学術フォーラム, 神戸, 2019.2.23
19. 宇草賢二, 増田祥子, 浅田泰弘, 宇都宮隆, 上田浩之:骨盤領域の血管塞栓術における3D road mapの有用性. 第2回4病院合同研究学術フォーラム, 神戸, 2019.2.23
20. 山下幹子, 田邊裕朗, 岡田雄基, 岡村佳明, 末岡正輝, 泊 祐加, 村上智裕, 石井政男, 合田靖司, 奥内 昇, 小久保雅樹:ExacTracを用いた脳定位照射線治療用Shellの精度検証. 日本放射線腫瘍学会第32回高精度放射線外部照射部会学術大会, 東京, 2019.3.2
21. 田邊裕朗, 金野正裕, 藤田秀樹, 門前 一, 松本賢治, 奥村拓朗, 今葦倍敏行, 小久保雅樹, 原田英幸, 福田晴行, 木村智樹, 西村恭昌:局所進行非小細胞肺癌に対する Adaptive IMRT ー多施設臨床試験からわかったこと. 日本放射線腫瘍学会第32回高精度放射線外部照射部会学術大会, 東京, 2019.3.2

IX. 1.35 リハビリテーション技術部

1. 下雅意崇亨, 岩田健太郎:地域在住の内部障害合併患者に対する在宅リハビリについての人材育成の取組. 第53回日本理学療法学術研修大会 in 茨城2018, 筑波, 2018.5.25-26
2. 秋武浩太, 西尾裕也:乳がん術後の上肢機能障害、改善に向けた取り組み. 神戸, 2018.6.24
3. 下雅意崇亨:シンポジウム5「いつまで安静?いつから離床?」安静とすべきか、離床可能か〜評価、所見とその解釈〜. 第30回兵庫県理学療法学術大会, 神戸, 2018.6.30
4. 稲垣優太, 内山誉士, 佐藤礼於, 森下慎一郎, 秦 偉翔, 椿 淳裕:強度変化を伴う運動様式が前頭前野の酸化動態に及ぼす影響. 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.15
5. 中嶋璃奈, 下雅意崇亨, 岩田健太郎, 古川 裕, 北井 豪, 山根崇史:心拍応答機能付きデバイス植え込み患者の運動様式について検討した1症例. 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.15
6. 横山公子, 下雅意崇亨, 古川 裕, 北井 豪, 岩田健太郎:心臓外科手術後にARDSを発症し長期人工呼吸器管理となったが歩行再獲得に至った症例. 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.15
7. 岩田健太郎:心不全患者における運動誘発性高血圧の発現頻度および心不全再入院に与える影響. 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018.7.15
8. 大塚脩斗, 下雅意崇亨, 岩田健太郎:心臓血管外科術後長期間にわたり人工呼吸器管理を要した一症例に対する理学療法介入の考察. 第53回日本理学療法学術大会(第3回日本心血管理学療法学会), 横浜, 2018.7.16
9. 西原浩真:救命救急センターICUにおける呼吸リハビリテーション〜多職種連携における理学療法士の役割〜. 第4回呼吸ケアリハビリテーション学会 近畿支部学術集会, 大阪, 2018.7.28
10. 下雅意崇亨:ケースに学ぶ44 地域特性を活かした心不全チーム医療 在宅との連携により心臓リハビリテーションを実施した心不全の一症例. 第66回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2018.9.9
11. 柴田久美子, 藤田俊史, 安田 義:人工骨頭置換術後肩峰骨頭間距離と可動域の関係性. 第15回肩の運動機能研究会, 大阪, 2018.10.20
12. 下雅意崇亨:CPX実技講習. CPX座談会, 神戸, 2018.11.10
13. 西原浩真:当院ICUの専従制度について. 日本集中治療医学会第二回関西支部学術集会サテライトセミナー, 大阪, 2018.11.25
14. 岩田健太郎:急性期病院に必要なデータ管理. 協会指定管理者中央研修伝達研修会, 神戸, 2018.12.1
15. 岩田健太郎:急性期病院と地域・在宅での心臓リハビリ連携. CPN講習会, 神戸, 2018.12.16

16. 岩田健太郎:再入院予防のための在宅リハビリの新たな取組について. 第20回兵庫県総合リハビリテーション・ケア研究大会, 神戸, 2018.12.22
17. 稲垣優太:くも膜下出血に右椎骨動脈解離を合併し保存治療となった一症例. 平成30年度神戸東支部新人発表会, 神戸, 2019.2.3
18. 大箭周平:延髄外側梗塞により Lateropulsion を呈し、早期独歩自立に至った症例. 平成30年度神戸東支部新人発表会, 神戸, 2019.2.3
19. 阿部貴文:胸椎圧迫骨折による遅発性神経麻痺術後に離床に伴い随意性向上が認められた症例. 平成30年度神戸東支部新人発表会, 神戸, 2019.2.3
20. 井上裕美子:重傷大動脈弁狭窄症患者に対し運動負荷量に着目した介入で手術施行が可能になった一例. 平成30年度神戸東支部新人発表会, 神戸, 2019.2.3
21. 栢 春佳:全盲により介入に難渋したが基本動作介助量軽減に至った左被殻出血の症例. 平成30年度神戸東支部新人発表会, 神戸, 2019.2.3
22. 佐々木慎:開胸術後にCAVBとうつ傾向を呈した患者への運動処方と外来フォローアップを行った経験. 平成30年度神戸東支部新人発表会, 神戸, 2019.2.3
23. 金島侑司:ラクナ梗塞発症後、BAD併発により症状が増悪した1症例. 平成30年度神戸東支部新人発表会, 神戸, 2019.2.3
24. 太田浩章:胃穿孔性腹膜炎による敗血症性ショックでICUAWを呈し運動処方に難渋した一症例. 平成30年度神戸東支部新人発表会, 神戸, 2019.2.3
25. 岩田健太郎:なぜ、理学療法と哲学・倫理学なのか～臨床の立場から. 日本PT哲学倫理研究大会第1回研究会, 神戸, 2019.2.9
26. 西原浩真, 岩田健太郎:臨床研究をチーム医療に落とし込む. 第2回4病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2019.2.23
27. 岩田健太郎:海外留学体験記. 第2回4病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2019.2.23
28. 佐々木慎, 下雅意崇亨, 荒川皓輔, 若田恭介, 岩田健太郎, 北井 豪, 古川 裕:不安・うつ傾向を呈した開心術後患者への外来心臓リハビリテーションを導入することで身体機能とうつ傾向が改善した1症例. 第4回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会, 京都, 2019.2.24
29. 井上裕美子, 中田歩美香, 下雅意崇亨, 岩田健太郎, 北井 豪, 古川 裕:症候性の重症大動脈弁狭窄症患者に対し、厳格な運動負荷管理での運動療法により身体機能が改善できた症例. 第4回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会, 京都, 2019.2.24
30. 下雅意崇亨:シンポジウムI心不全のリハビリテーションを考えるー理学療法士の役割ー心不全に対する急性期病院での運動療法介入と再入院予防を目指した在宅リハとの連携理学療法プログラムについて. 第4回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会, 京都, 2019.2.24
31. 渡邊千春, 山崎祥真, 小松 寛:症例検討 急性期の立場から. 兵庫県言語聴覚士会, 兵庫, 2019.2.24

IX. 1. 36 臨床工学技術部

1. 釜江直也:当院における維持透析患者の開心術周術期管理. 第40回神戸腎疾患カンファレンス, 神戸, 2018.5.27
2. 石橋一馬:ファイルメーカーを用いた外部機器管理ソフトとの連携. 第28回日本臨床工学技士会, 横浜, 2019.5.27
3. 釜江直也, 植田浩司, 中村 聡, 原園 裕, 井上和久, 坂地一朗, 吉本明弘, 美馬裕之:維持透析患者の開心術後CRRTにおいて膜材質が回路寿命に及ぼす影響の検討. 第63回日本透析医学会学術集会, 神戸, 2018.6.30
4. 中村 聡, 畑 秀治, 中農陽介, 新田 輝, 釜江直也, 原園 裕, 中園絃子, 森本純平, 岸原瑠花, 井上和久, 坂地一朗:新人教育のためのチェックシート作成. 第63回日本透析医学会学術集会, 神戸, 2018.6.30
5. 田中雄己, 小堀敦志, 佐々木康, 小原幹也, 高岡循子, 中村悟士, 中農陽介, 山城悠葵, 杉澤朋弥, 坂地一朗, 松本 譲, 古川 裕:心房細動へのカテーテルアブレーション治療後に再発した心房頻拍の興奮回路同定にRipple mappingが有効であった1例. 第65回日本不整脈心電学会学術大会, 東京, 2018.7.12
6. 中村悟士, 小堀敦志, 佐々木康, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 高岡循子, 小原幹也, 坂地一朗, 古川 裕:カテーテル検査室における心内心電図への電気ノイズの影響と対策. 第65回日本不整脈心電学会学術大会, 東京, 2018.7.12

7. 畑 秀治, 中農陽介, 山田恭二, 中村 聡, 原園 裕, 中園絃子, 井上和久, 坂地一朗: 新人教育のためのチェックシートを作成して. 第8回中四国臨床工学技士会, 徳島, 2018.9.30
8. 吉田哲也: 医工連携企画 企業 Seeds プレゼン趣旨説明と司会. 第25回近畿臨床工学会, 奈良, 2018.11.10
9. 田中雄己: gapmapの限界と効果についての検討. カテーテルアブレーション関連秋季大会, 沖縄, 2018.11.10
10. 大畑達哉: シンポジウムV 当院の人工心肺回路の現状と人工心肺用エマージェンシー回路の運用. 第44回日本体外循環技術医学会大会, 石川, 2018.11.11
11. 吉田哲也: 医工連携を考える 医工連携による開発事例. 第19回中部臨床工学会, 岐阜, 2018.11.24
12. 大畑達哉: ヒス束ペーシングの考え方と当院の現状. 第9回近畿駄馬イスクンファレンス, 大阪, 2019.1.20
13. 釜江直也, 植田浩司, 塩田 文, 中村 聡, 原園 裕, 中園絃子, 井上和久, 坂地一朗, 美馬裕之, 吉本明弘: Cellulose triacetate membranes have a longer circuit life than polysulfone membranes in CRRT after cardiac surgery. 39th Annual Dialysis Conference, ダラス, 2019.3.16

IX. 1. 37 栄養管理部

1. 岩本昌子, 山本伊都香, 梅田節子, 大音三枝子, 関本 剛, 新城拓也, 李 美於: 教えて!がん患者の栄養マネジメントとリハビリテーション. 第1回日本緩和医療学会関西支部学術大会, 大阪, 2018.11.11
2. 秦 千尋, 友塚晶子, 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶: 開心術および胸部大血管手術後の食事摂取量に影響する因子の検討. 第22回日本病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2019.1.12
3. 友塚晶子, 秦 千尋, 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶: 心臓血管手術後の開始食の食形態による喫食率の検討. 第22回日本病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2019.1.12

IX. 1. 38 臨床研究推進センター

1. 玉木理衣: 女性キャリアパス設計論. 第2回セミナー: 女性の実体験に基づいたキャリアパスに関する講演(1)患者と医師をつなぐCRC(臨床研究コーディネーター), 大阪, 2018.5.26
2. 玉木理衣: CRC業務の実際. 日本病院薬剤師会第21回初級者CRC養成研修会, 東京, 2018.8.30
3. 江見美和子, 山田留美, 義平祥菜, 岩崎 誠, 入倉 潔, 土井規子, 水野雅之, 室井延之, 坂井信幸: 被験者募集業務へのCRCの関わり方~KOBEもの忘れネットワーク創立3周年を目前にした検討~. 第18回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2018, 富山, 2018.9.16
4. 上武千晶, 戸崎美恵, 城野歌子, 江見美和子, 松浦裕美子, 小田稔彦, 室井延之, 楓 穰, 橋田 亨, 坂井信幸: 神戸医療産業都市における臨床研究実施体制の強化~病院統合による支援体制強化の取り組み~. 第18回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2018, 富山, 2018.9.16
5. 小田稔彦: 医療機器治験の特徴と実際. 日本病院薬剤師会第21回CRC養成フォローアップ研修会, 東京, 2019.3.2

IX. 2 西市民病院

IX. 2.1 糖尿病・内分泌内科

1. 中村武寛:地域連携推進こそが糖尿病診療の問題を解決する～Kobe DM netから見てきたメディカルスタッフの重要性～. 平成28年度神戸市医師会学術講演会, 神戸, 2018.6.9
2. 中村武寛:糖尿病地域連携の中心となるべき職種は? 第3回DM Network Seminar, 神戸, 2018.6.14
3. 穂積かおり:肺腺癌の治療中抗PD-1抗体薬関連下垂体炎による副腎不全が疑われた1例. 第220回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.6.16
4. 中村武寛:教科書には書いていない糖尿病の病態とは～疾患を理解し日常診療に活かす～. 第4回明日から役立つ糖尿病勉強会, 神戸, 2018.6.20
5. 中村武寛:地域でビジョンを共有して糖尿病問題を解決する～メディカルスタッフ交流の重要性～. 第68回日本病院学会, 石川, 2018.6.28
6. 中村武寛:Kobe DM netの現状報告について～事務局よりの報告～. 第4回神戸市の糖尿病地域連携(Kobe DM net)を考える会, 神戸, 2018.7.12
7. 中村武寛:糖尿病を少し視野を広げて考える～メディカルスタッフ交流の重要性～. 第1回糖尿病Web Seminar, 神戸, 2018.7.24
8. 中村武寛:地域で糖尿病を診ていくのに必要なことは何か? Kobe DM netから見てきたこと. 大東・四条 糖尿病と腎臓セミナー, 大阪, 2018.9.8
9. 中村武寛:糖尿病「こんな時どうしたら・・・」ありませんか? 糖尿病ケア“楽習会”～交流を力に変えて～. 病院メディカルスタッフ合同勉強会, 神戸, 2018.9.22
10. 中村武寛:地域で糖尿病による失明をなくすのに必要なことは何か? Kobe DM netのもつ可能性. 第二回糖尿病網膜症を考える～内科と眼科のボーダレス～, 神戸, 2018.9.27
11. 中村武寛:口演「Kobe DM netによる糖代謝および体重管理の試み」. 第39回日本肥満学会総会, 神戸, 2018.10.8
12. 中村武寛, 糖尿病チーム:「知っ得! 納得!! 糖尿病!!!」体験型糖尿病教室. 長田公民館 リフレッシュセミナー(市民対象糖尿病啓発活動), 神戸, 2018.10.19
13. 中村武寛:「DPP-4阻害薬+SGLT-2阻害薬」合剤について. 第8回神戸糖尿病Expert Meeting, 神戸, 2018.10.25
14. 高橋 陸:口演「初発の小児2型糖尿病患者に対して療養指導に苦慮した1例」. 第55回日本糖尿病学会近畿地方会, 神戸, 2018.10.27
15. 中村武寛:地域で糖尿病眼合併症を減らすのに必要なことは何か?～Kobe DM netから見てきたこと～. 第3回広島市南区 内科・眼科 糖尿病診療連携会, 広島, 2018.11.1
16. 中村武寛:栄養士さん! 一歩前へ!!～Kobe DM netから見てきた多職種連携の重要性～. 第86回兵庫県糖尿病協会栄養部会研修会, 神戸, 2018.11.17
17. 中村武寛:「多職種で共有すべき情報とは?」～「地域」X「多職種」で輪をつなぐ～. 第2回糖尿病Webセミナー, 神戸, 2018.11.21
18. 中村武寛:これで安心! 最適な糖尿病薬物療法の選び方とは. 第5回明日から役立つ糖尿病勉強会, 神戸, 2018.11.21
19. 中村武寛:日常診療が楽しくなる糖尿病薬物療法のコツとは? 平成30年度長田区医師会学術講演会, 神戸, 2018.11.22
20. 中村武寛:「糖尿病って、どんな病気?」～元気で機嫌よく長生きする方法～. 全国健康保険協会兵庫県支部被保険者および神戸市国民健康保険加入者 健診異常者向けセミナー「こうすれば怖くない糖尿病セミナー」健康ライフプラザ, 神戸, 2018.12.22
21. 中村武寛:「薬剤師さんの“ホンネ”教えて下さい!～情報共有から実践へ～」. Pharmacy Seminar in 兵庫・長田・須磨(調剤薬局薬剤師・病院薬剤師・病院医師交流会), 神戸, 2019.2.7
22. 中村武寛:糖尿病「チーム医療」って??～Kobe DM netから見てきたこと～. 第2回西神戸糖尿病チーム医療講演会 Special Lecture, 神戸, 2019.3.16
23. 高橋 陸:“間違えない”内服薬の選び方・使い方. 第1回Kobe Medical Club, 神戸, 2019.3.23

IX. 2.2 腎臓内科

1. 金井大輔：挙児希望のある神経精神ループスに対してミコフェノール酸モフェチルで奏功した1例. 第62回リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2018.4.26
2. 森野 隆, 粟田梨愛, 服部英明：大網巻絡に加えて卵管采迷入によるPDカテーテルの閉塞を認めた1例. 第63回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2018.6.29
3. 金井大輔：炭酸リチウム中毒に対してHDとCHDF併用が奏功した1例. 第63回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2018.6.29
4. 粟田梨愛, 森野隆広, 服部英明：ナファモスタットメシル酸塩のよる好酸球増多を認めた透析患者の一例. 第63回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2018.6.30

IX. 2.3 脳神経内科

1. 西垣智子, 菅生教文, 木原武士, 城洋志彦：アルツハイマー型認知症の高齢者に発症し診断に苦慮した延髄外側症候群の1例. 第223回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2019.3.2
2. 田中慈雨, 菅生教文, 木原武士, 城洋志彦：抗GD1a/GD1b複合抗体陽性で球麻痺症状と上肢優位の脱力を呈したギラン・バレー症候群の1例. 第113回日本神経学会 近畿地方会, 大阪, 2019.3.17

IX. 2.4 消化器内科

1. 横出正隆, 森永友紀子, 全 陽：膵上皮内癌の臨床病理学のおよび分子生物学的研究. 第104回日本消化器病学会総会, 東京, 2018.4.19
2. 横出正隆, 平佐貴弘, 平川旭人, 星 充, 丸尾正幸, 板井良輔, 安村聡樹, 池田英司, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政：当院における腓性腹水5例についての検討. 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2018.5.10
3. 横出正隆, 全 陽：膵上皮内癌の臨床病理学的特徴と遺伝子解析. 第49回日本膵臓学会大会, 和歌山, 2018.6.29
4. 平川旭人, 池田英司, 平佐貴弘, 横出正隆, 星 充, 丸尾正幸, 板井良輔, 安村聡樹, 高田真理子, 三上 栄, 住友靖彦, 山下幸政：特異な画像所見を呈した腓仮性嚢胞、嚢胞内巨大仮性動脈瘤による脾破裂の一例. 第109回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2018.9.29

IX. 2.5 呼吸器内科

1. 富岡洋海：変わる特発性間質性肺炎治療：抗線維化薬がもたらしたもの. 日本呼吸器学会第39回生涯教育講演会, 大阪, 2018.4.26
2. 金子正博, 和田学政, 山添正敏, 鎌田貴裕, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田光紀, 山下修司, 古田健二郎, 富岡洋海：医療・介護関連肺炎の予後に関わる因子の検討：A-DROP, qSOFA, 嚥下機能・摂食状況・栄養状態の関与. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018.4.26
3. 山添正敏, 富岡洋海, 橋本梨花, 和田学政, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 藤井 宏：当院における特発性肺線維症の急性増悪症例 過去10年間の検討. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018.4.26
4. 和田学政, 山添正敏, 高田寛仁, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 富岡洋海：肺炎として入院となったIPF症例の検討. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018.4.26
5. Nishio C, Oh H, Konishi H, Tomioka H: Lung microbiome in patients with pulmonary mycobacterial diseases. ATS 2018 International Conference, SanDiego, 2018.5.20
6. Yamazoe M, Tomioka H, Wada T, Yoshizumi Y, Morita M, Yamashita S, Furuta K, Kaneko M: Acute exacerbation of Idiopathic Pulmonary Fibrosis over a 10-year period in a community teaching hospital in Japan. ATS 2018 International Conference, SanDiego, 2018.5.20
7. Tomioka H, Yamazoe M, Wada T: A 10-year single-center experience of smoking cessation clinic in Japan. ATS 2018 International Conference, SanDiego, 2018.5.20
8. 森田充紀：当院におけるEGFR遺伝子変異陽性肺癌の再々生検の現状. KOBE Lung Cancer Seminar, 神戸, 2018.5.30

9. 森田充紀, 橋本梨花, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海: Community-onset pneumonia におけるインフルエンザ桿菌検出例の検討. 第 92 回日本感染症学会学術講演会, 岡山, 2018.6.1
10. 吉積悠子, 富岡洋海, 橋本梨花, 和田学政, 山添正敏, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 藤井 宏, 金子正博, 勝山栄治, 石田和寛: 下葉優位の間質性陰影を呈し、亜急性に悪化したサルコイドーシスの 1 例. 第 15 回近畿サルコイドーシス/肉芽腫性疾患研究会, 大阪, 2018.6.2
11. 金子正博: COPD 診療における吸入指導. 第 19 回神戸 COPD 研究会, 神戸, 2018.6.16
12. 富岡洋海: 関節リウマチに伴う肺病変－薬剤性肺炎も含めて－. Rheumatoid Arthritis Forum, 神戸, 2018.6.20
13. 西尾智尋, 富岡洋海: 肺抗酸菌症患者における下気道の細菌叢の検討. 第 93 回日本結核病学会総会, 大阪, 2018.6.23
14. 荒木雄穂, 富岡洋海, 山添正敏, 古田健二郎, 金子正博, 西尾智尋: 結核病床を持たない市中病院での外来 DOTS カンファレンスの開催. 第 93 回日本結核病学会総会, 大阪, 2018.6.24
15. 金子正博, 鎌田貴裕, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 富岡洋海: 喘息症例における FEV1 と呼吸インピーダンスの経年変化: 増悪の有無による検討を含めて. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉, 2018.6.24
16. 山添正敏, 橋本梨花, 和田学政, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 藤井 宏, 金子正博, 富岡洋海, 勝山栄治: 悪性胸膜中皮腫と肺腺癌を同時診断した一例. 第 129 回兵庫県肺癌懇話会, 神戸, 2018.6.27
17. 川崎 創, 森田充紀, 橋本梨花, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海: 当院における侵襲性インフルエンザ菌肺炎の検討. 第 121 回日本結核病学会・第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
18. 山添正敏, 和田学政, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 富岡洋海: 帝王切開術後に *Mycoplasma hominis* による膿胸をきたした一例. 第 121 回日本結核病学会・第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
19. 多山 葵, 森田充紀, 金子正博, 橋本梨花, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子, 山下修司, 古田健二郎, 藤井 宏, 富岡洋海: *Pasteurella multocida* による膿胸の一例. 第 121 回日本結核病学会・第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
20. 山下修司, 橋本梨花, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子, 森田充紀, 古田健二郎, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海: 当院での過去 3 年間の外国出生者における結核の検討. 第 121 回日本結核病学会・第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
21. 高田寛仁, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修二, 古田健二郎, 西尾智尋, 金子正博, 富岡洋海: Pembrolizumab 投与中に ACTH 単独欠損症及び肝障害が出現した一例. 第 121 回日本結核病学会・第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
22. 富岡洋海: IPF とその周辺疾患の診断と治療～抗線維化薬時代を迎えて～. 第 19 回名古屋肺フォーラム, 名古屋, 2018.7.28
23. 山下修司: 外国生まれの結核患者診療の現状(結核病棟のない病院). 平成 30 年度神戸市結核対策研修会, 神戸, 2018.9.1
24. 松本泰右, 富岡洋海, 橋本梨花, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 藤井 宏, 金子正博, 安部武生, 有吉綾香, 小倉香奈: 右眼瞼腫脹で発症した抗 MDA5 抗体陽性皮膚筋炎の 1 例. 第 29 回膠原病肺疾患研究会, 大阪, 2018.9.8
25. 富岡洋海: 一市中病院での禁煙活動～iQOS による急性好酸球性肺炎を経験した病院から. 日本タバコフリー学会第 7 回学術大会ランチョンセミナー, 西宮, 2018.9.23
26. 森田充紀: PD-L1 50% 以上で一次治療 Pembrolizumab を投与したが奏功しなかった症例の検討. Lung Cancer Expert Meeting For Rising Stars, 神戸, 2018.10.5
27. 富岡洋海: 変わる特発性間質性肺炎治療: 抗線維化薬がもたらしたもの. 日本呼吸器学会第 39 回生涯教育講演会, 札幌, 2018.10.13
28. 富岡洋海: “原因不明” の間質性肺炎 / 肺線維症: 特発性間質性肺炎. 第 7 回間質性肺炎 / 肺線維症勉強会－患者さんとご家族の支援のために－, 大阪, 2018.10.14

29. 和田学政, 富岡洋海, 橋本梨花, 山添正敏, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 藤井 宏, 金子正博, 勝山栄治, 河端美則: 検診で発見され、黄色ブドウ球菌感染との関連も示唆された限局型多発血管炎性肉芽腫症の1例. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会, 東京, 2018.11.2
30. 山添正敏, 富岡洋海, 橋本梨花, 和田学政, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 藤井 宏, 金子正博: 鳥関連過敏性肺炎の発症後に夏型過敏性肺炎の併発が疑われた1例. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会, 東京, 2018.11.2
31. 富岡洋海: 膠原病とサルコイドーシス. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 教育講演, 東京, 2018.11.2
32. 山口哲生, 富岡洋海, 四十坊典晴, 今野 哲: サルコイドーシスにおける臓器非特異的全身症状への対応. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会, 東京, 2018.11.2
33. 古田健二郎: 西市民病院での COPD 非薬物療法の取り組み. ULTIMATE FORUM, 神戸, 2018.11.8
34. 山下修司, 橋本梨花, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子, 森田充紀, 古田健二郎, 金子正博, 富岡洋海: 胸腔鏡検査を施行した細菌学的に確定診断された結核性胸膜炎の4例. 第61回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 鹿児島, 2018.11.16
35. 和田学政, 富岡洋海, 橋本梨花, 山添正敏, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 藤井宏, 西尾智尋, 江上和紗: 胸腔ドレーンを長期留置中に発症した迅速発育抗酸菌による胸腔内感染の一例. 第61回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 鹿児島, 2018.11.16
36. 森田充紀, 田宮基裕, 藤本大智, 田宮朗裕, 鈴木秀和, 平野勝也, 横山俊秀, 小南亮太, 金津正樹, 内田純二, 牧尾健史: PD-L1 50%以上で一次治療 Pembrolizumab を投与したが奏功しなかった症例の検討. 日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.30
37. 和田学政, 富岡洋海, 山添正敏, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 藤井 宏, 安部武生, 勝山栄治, 河端美則, 中嶋 蘭: ELISA 法で抗 ARS 抗体陽性であったが、免疫沈降法では陰性であった間質性肺炎4症例の検討. 第92回日本呼吸器学会近畿地方会, 奈良, 2018.12.8
38. 山下修司, 橋本梨花, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子, 森田充紀, 古田健二郎, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海, 小倉香奈子, 勝山栄治: 水疱性類天疱瘡に好酸球性肺炎を合併した1例. 第92回日本呼吸器学会近畿地方会, 奈良, 2018.12.8
39. 森田充紀, 橋本梨花, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子, 山下修司, 古田健二郎, 藤井 宏, 金子正博, 富岡洋海: *Neisseria sicca* による肺膿瘍の一例. 第92回日本呼吸器学会近畿地方会, 奈良, 2018.12.8
40. 富岡洋海: IPF の治療戦略: 過去、現在、そして未来へ. 第69回日本結核病学会中国四国支部会ランチョセミナー, 高松, 2018.12.15
41. 金子正博, 橋本梨花, 穂積かおり, 越智達哉, 尾鼻俊弥, 築地麻耶, 赤澤尚美, 辻恵理佳, 太田好美, 光武瑞穂, 巽 弥生, 福島浩一, 田村昌三, 廣石絢子, 岡本知子: 嚥下評価およびNST 介入症例の予後に関わる因子の検討. 第22回日本病態栄養学会, 横浜, 2019.1.11
42. 佐藤亮太, 富岡洋海, 渡邊周平, 瀧口梨愛, 金井大輔, 石田和寛: ぶどう膜炎の既往を有し、ACE、可溶性 IL-2R の上昇を認めた TINU 症候群の一例. 第16回近畿サルコイドーシス/肉芽腫性疾患研究会, 大阪, 2019.1.19
43. 橋本梨花, 富岡洋海, 金子正博, 勝山栄治, 広瀬雅樹, 河端美則: 胃癌術後に出現したびまん性肺疾患の1例. 第152回びまん性肺疾患研究会, 大阪, 2019.1.19
44. 金子正博, 橋本梨花, 穂積かおり, 越智達哉, 尾鼻俊弥, 築地麻耶, 赤澤尚美, 辻 里佳, 太田好美, 光武瑞穂, 巽 弥生, 福島浩一, 田村昌三, 廣石絢子, 岡本知子: 医療・介護関連肺炎の転帰に関わる因子の検討. 第34回日本静脈経腸栄養学会, 東京, 2019.2.14
45. 光武瑞穂, 金子正博, 福島浩一, 巽 弥生, 田村昌三, 尾鼻俊弥, 岡本知子, 廣石絢子, 太田好美, 船曳晃代, 穂積かおり, 後藤昭一, 河合峰雄, 西田哲也, 菅生教文, 田中詳二: 嚥下機能低下患者における薬剤の薬効分類別使用状況. 第34回日本静脈経腸栄養学会, 東京, 2019.2.14
46. 西尾智尋, 安部武生, 富岡洋海, 河端美則: レイノー症状を伴った間質性肺炎の一例. 第21回膠原病肺疾患研究会, 大阪, 2019.3.16

IX. 2.6 リウマチ・膠原病内科

1. 安部武生：当科の高齢リウマチ患者における JAK 阻害薬の使用経験. 第 62 回日本リウマチ学会, 東京, 2018.4.26

IX. 2.7 小児科

1. 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治, 小倉香奈子：神戸市内 3 区における食物アレルギー児童に対する地域連携 2017. 第 274 回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2018.5.19
2. 平瀬敏志, 岡藤郁夫, 笠井和子, 田中裕也, 田中由起子, 松本和徳, 鶴田 悟：食物アレルギー患児を持つ両親の大規模災害に対する意識調査－阪神淡路大震災から 20 年経過した神戸市から. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉, 2018.6.22
3. 田中由起子, 松本和徳, 光田好寛, 安島英裕, 江口純治, 山口陽恵, 渡木綾子, 竹崎裕子：当院で出産した母親のスキンケア指導と 1 ヶ月健診時の保湿剤使用状況. 第 35 回日本小児臨床アレルギー学会, 福岡, 2018.7.28
4. 松本泰右, 安島英裕, 百々菜月, 光田好寛, 田中由起子, 江口純治：腹部腫瘤を先進とした腸重積の 1 例. 第 115 回神戸小児臨床研究会, 神戸, 2018.9.5
5. 田中由起子, 百々菜月, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治：当院での出産後のスキンケア指導と 1 ヶ月健診時の保湿剤使用状況. 第 275 回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2018.9.29
6. 田中由起子, 光田好寛, 小倉香奈子, 松本和徳, 渡木綾子, 赤沢尚美：神戸市内 3 区における食物アレルギー児童に対する地域連携 2017. 第 55 回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.21
7. 長濱通子, 田中由起子, 野村 正, 神人正寿, 大原國章：Diffuse Capillary Malformation with Overgrowth (DCMO) の 1 例. 第 69 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪, 2018.10.27
8. 田中由起子, 百々菜月, 光田好寛, 安島英裕, 江口純治, 小倉香奈子, 松本和徳：神戸市内 3 区における食物アレルギー児童に対する地域連携. 第 7 回日本小児多職種研究会, 北九州, 2018.11.24
9. 田中由起子, 渡木綾子, 後藤たみ, 荒木雄穂, 米田聡子, 岡田梨亜, 大橋千晶, 赤沢尚美, 山口陽恵, 金城奈美：当院における小児アレルギーチーム会の役割. 第 7 回日本小児多職種研究会, 北九州, 2018.11.24
10. 百々菜月, 田中由起子, 光田好寛, 安島英裕, 江口純治：当院における食物経口負荷試験 (OFC) のまとめ. 第 276 回日本小児科学会兵庫県地方会, 尼崎, 2019.2.2
11. 田中由起子, 百々菜月, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治：神戸市内 3 区における食物アレルギー児童に対する地域連携 2018. 第 32 回近畿小児科学会, 京都, 2019.3.17

IX. 2.8 皮膚科

1. 小倉香奈子：蕁麻疹について. 兵庫区医師会学術講演会, 2018.4.20
2. 小倉香奈子：アトピー性皮膚炎の初診患者が来たら. 第 1 回 AD Innovation Conference 2018 in KOBE, 神戸, 2018.4.26
3. 木村恭子, 有吉綾香, 小倉香奈子, 高田真由子：潰瘍性大腸炎に Sweet syndrome を合併した 1 例. 第 467 回日本皮膚科学会大阪地方会, 2018.5.12
4. 小倉香奈子, 山田はるひ, 有吉綾香：糖尿病患者に生じた臈、皮下膿瘍の 5 例. 第 2 回神戸皮膚炎症疾患研究会, 2018.7.12
5. 有吉綾香, 木村恭子, 小倉香奈子：DPP-4 阻害薬による水疱性類天疱瘡の 2 例. 第 111 回日本皮膚科学会近畿皮膚科集談会, 京都, 2018.7.22
6. 小倉香奈子：薬疹について－軽症例から重症薬疹まで－. 神戸市医師会学術講演会, 2018.9.8
7. 小倉香奈子：デュピクセントを使用した 2 例の経過報告. 第 2 回 AD Innovation Conference 2018 in KOBE, 神戸, 2018.11.8
8. 山田はるひ, 有吉綾香, 小倉香奈子, 渡邊周平：横紋筋融解症の 1 例. 第 470 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2018.12.8
9. 山田はるひ, 有吉綾香, 小倉香奈子, 富岡洋海, 松本泰右, 谷口幸司：片側性のヘリオトロープ疹を契機に発症した皮膚筋炎の 1 例. 第 471 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2019.2.9
10. 小倉香奈子：アトピー性皮膚炎の診断と治療について. 第 25 回「アレルギー週間」市民公開講座, 神戸, 2019.2.17

IX. 2.9 外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科

1. 田中英治, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 新田隆士, 原田武尚: 下部食道癌接合部癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道胃管吻合 オーバーラップ法による胸腔内吻合. 第 118 回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018.4.5
2. 堀田健太, 田中英治: 超高齢者の進行胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除. 京都臨床外科セミナー, 京都, 2018.4.21
3. 三瀬昌宏, 松井優悟, 堀田健太, 原田武尚, 田村周二, 長嶋千尋, 吉田澄子, 勝山栄治: 乳腺 solid-papillary carcinoma 3 例の経験 (臨床・画像・病理学的特徴について). 第 26 回日本乳癌学会総会, 京都, 2018.5.16
4. 堀田健太: 閉鎖孔ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術. 若手外科ヘルニアの会, 京都, 2018.6.16
5. 田中英治, 堀田健太, 松井優悟, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 新田隆士, 原田武尚: 下部食道癌接合部癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道胃管吻合 overlap 法による胸腔内吻合. 第 72 回日本食道学会学術集会, 宇都宮, 2018.6.29
6. 田中英治, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 新田隆士, 原田武尚: ランドマークを意識した腹腔鏡下経裂孔の下縦隔郭清. 第 73 回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018.7.13
7. 村上哲平, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 田中英治, 新田隆士, 三瀬昌宏, 原田武尚: 脾彎曲大腸癌に対する腹腔鏡下結腸切除術. 第 73 回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018.7.13
8. 三上隆一, 田中英治, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 村上哲平, 新田隆士, 原田武尚: 80 歳以上の胃癌患者に対する腹腔鏡下手術の妥当性の検証. 第 73 回日本消化器外科学会総会, 鹿児島, 2018.7.13
9. 田中英治, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 新田隆士, 原田武尚: 当院における腹腔鏡下胃全摘術での再建法の工夫 補強材付きリニアステープラーを用いた食道切離の有用性. 第 80 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018.11.22
10. 新田隆士, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 田中英治, 原田武尚: 診断に苦慮する腸閉塞における Monomorphic epitheliotropic intestinal T-cell lymphoma の意義. 第 80 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018.11.22
11. 村上哲平, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 田中英治, 新田隆士, 三瀬昌宏, 原田武尚, 竹尾正彦, 有井滋樹: 脾癌再発による消化管悪性狭窄に対して腹腔鏡下十二指腸空腸吻合術を施行した 1 例. 第 80 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018.11.24
12. 村上哲平, 堀田健太, 松井優悟, 山田真規, 三上隆一, 田中英治: 腹腔鏡下十二指腸空腸吻合術が有用であった脾癌再発による消化管悪性狭窄の 1 例. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.6
13. 三上隆一, 田中英治, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 村上哲平, 新田隆士: 高齢者胃癌患者に対する腹腔鏡下手術の検討. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.6
14. 山田真規, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 三上隆一, 村上哲平, 田中英治, 新田隆士: S 状結腸膀胱瘻に対する腹腔鏡下手術の 2 例. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.6
15. 田中英治, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平: 市中病院における腹腔鏡下胃全摘術での再建法の工夫 補強材付きステープラーを用いた食道切離の有用性. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.7
16. 堀田健太, 石田 叡, 松井優悟, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 田中英治, 新田隆士: 閉鎖孔ヘルニアに対する腹腔鏡下アプローチの有用性と修復法について. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.7
17. 松井優悟, 田中英治, 石田 叡, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 新田隆士: 急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術において C-reactive protein (CRP) を指標とした開腹移行率の比較. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.7
18. 田中英治, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平: 当院における左反回神経周囲リンパ節郭清の工夫 臓器鞘の理解と多方向食道牽引法を用いた反回神経の遊離. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.8
19. 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 田中英治: 腹腔鏡下低位前方切除術後に発生した小腸間膜デスマイド腫瘍の 1 例. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.8

IX. 2. 10 整形外科

1. 小林雅典, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 山根逸郎, 高岡佑輔: 大腿骨近位部ステム周囲骨折に対してプレート固定を行った 11 例の検討. 中部日本整形外科災害外科学会, 松山, 2018.4.18
2. 小林雅典, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 山根逸郎, 笠井隆一: 広範囲な皮膚壊死を合併した下腿骨折で遷延癒合の一例. 第 2 回オープンボーンカンファレンス特別講演会 症例検討, 神戸, 2018.5.12
3. 西口 滋: ナビゲーションTKAの現実—人工関節手術の主流になるのか?—. 第 2 回オープンボーンカンファレンス特別講演会 特別講演 II, 神戸, 2018.5.12
4. 藤原弘之: 整形外科診療における漢方治療について—私の現状と今後—, 若整会, 姫路, 2018.6.14
5. 山根逸郎: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する後方固定術の治療成績. 第 27 回日本脊椎インスツルメント学会, 東京, 2018.7.10
6. 藤原弘之: 当院整形外科における疼痛治療—特に漢方療法の併用について—. 長田区医師会学術講演会, 神戸, 2018.7.26
7. 本田新太郎, 小林雅典, 山根逸郎, 藤原弘之, 布施謙三, 西口 滋: 先天性頸椎癒合症により脊髄症を呈した 1 例. 第 36 回兵庫区・長田区整形外科症例検討会, 神戸, 2018.8.2
8. 本田新太郎, 小林雅典, 山根逸郎, 藤原弘之, 布施謙三, 西口 滋: 経皮的椎弓根スクリュー (PPS) 挿入時に椎体穿破を伴った 1 例. 第 3 回オープンボーンカンファレンス 症例検討, 神戸, 2018.8.31
9. 本田新太郎, 安田 義, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 山根逸郎, 小林雅典: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する最小侵襲脊椎安定術 (MISi) による後方固定術の治療成績. 第 131 回中部日本整形外科災害外科学会, 倉敷, 2018.10.5-6
10. 西口 滋: 見逃されやすい高齢者の仙骨骨折. 第 4 回オープンボーンカンファレンスミニレクチャー, 神戸, 2018.12.8
11. 西口 滋: 両下肢痛の一例. 第 4 回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2018.12.8
12. 西口 滋: 見逃しているかもしれない骨折—高齢者の仙骨骨折—. 第 37 回兵庫区・長田区整形外科症例検討会ミニレクチャー, 神戸, 2019.2.14

IX. 2. 11 泌尿器科

1. 大西篤史, 安野恭平, 江夏徳寿, 岡本雅之, 中村一郎: 播種性血管内凝固症候群 (DIC) に対する遺伝子組み換えトロンボモジュリンの有用性に関する検討. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.20
2. 安野恭平, 大西篤史, 江夏徳寿, 岡本雅之, 中村一郎: 当科における去勢抵抗性前立腺癌 (CRPC) に対する新規ホルモン治療薬の使用経験. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.20
3. 平田淳一郎, 藤本卓也, 小泉文人, 八尾昭久, 岡本雅之, 中村一郎: 神戸市立医療センター西市民病院における膀胱全摘術の臨床的検討. 第 68 回日本泌尿器科学会中部総会, 名古屋, 2018.10.5
4. 平田淳一郎, 藤本卓也, 小泉文人, 八尾昭久, 中村一郎: 女子尿道憩室の 1 例. 第 239 回日本泌尿器科学会関西地方会, 滋賀, 2018.10.13
5. Yao A, Miura T, Inou T: Experience with pazopanib in the treatment of metastatic renal cell carcinoma in Hyogo cancer center. The 56th Annual Meeting of the Japan Society of Clinical Oncology, Yokohama, 2018.10.18
6. 藤本卓也, 平田淳一郎, 小泉文人, 八尾昭久, 中村一郎: 前立腺癌 high risk 症例に対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術の検討. 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会, 仙台, 2018.11.28

IX. 2. 12 歯科口腔外科

1. 西田哲也: 2018 年 4 月歯科新点数をめぐって初再診料・外来環、周術期と連携、医管、算定例等の解説と交流. 第 4 回病院歯科懇談会, 神戸, 2018.6.20
2. 日野祥子, 西田哲也, 安東大器, 河合峰雄: 日帰り全身麻酔下歯科治療におけるレミフェンタニル単回投与を用いた気管挿管について. 第 53 回関西歯科麻酔研究会, 大阪, 2018.6.23
3. 船曳晃代, 西田哲也, 河合峰雄: 当院 NST における摂食嚥下障害患者にたいする口腔ケアについて. 西神戸 NST オープンカンファレンス, 神戸, 2018.7.19
4. 河合峰雄: 歯周病と妊婦さんの健康—健康は健口から—. 西市民病院市民公開講座, 神戸, 2018.9.5

5. 日野祥子, 西田哲也, 安東大器, 河合峰雄: 日帰り全身麻酔下歯科治療におけるレミフェンタニル単回投与を用いた気管挿管について. 第46回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 奈良, 2018.10.6
6. 河合峰雄: 歯科外来診療の院内感染防止対策、偶発症に対する緊急時の対応、医療事故対策. 兵庫県口腔保険協会, 神戸, 2018.12.9
7. 遠藤嵩大, 西田哲也, 小原祥子, 河合峰雄: 当院周術期口腔機能管理患者の口腔内環境と合併症発症の関係について. 第28回有病者歯科医療学会総会・学術大会, 2019.3.2

IX. 2. 13 病理診断科

1. 下田智晴, 吉田澄子, 中 彩乃, 宮川祥治, 山下展弘, 勝山栄治: 耳下腺癌肉腫の1例. 第35回兵庫県臨床細胞学会総会, 神戸, 2019.3.2
2. 中 彩乃, 吉田澄子, 下田智晴, 宮川祥治, 山下展弘, 勝山栄治: 良性多嚢胞性腹膜中皮腫の1例. 第35回兵庫県臨床細胞学会総会, 神戸, 2019.3.2

IX. 2. 14 総合内科

1. Nishio C, Oh K, Konishi H, Tomioka H: Lung microbiome in patients with pulmonary mycobacterial diseases, San Diego, CA, 2018.5.20
2. 西尾智尋, 王 康治, 小西弘起, 富岡洋海, 佐藤敦夫: 肺非結核性抗酸菌症と肺結核を合併した症例の検討. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2018.4.27
3. 西尾智尋, 富岡洋海: 肺抗酸菌症患者における下気道の細菌叢の検討. 第93回日本結核病学会総会, 大阪, 2018.6.23
4. 越智達哉, 王 康治, 西尾智尋, 小西弘起: 肺炎に横隔膜を跨ぐ広範な膿瘍を合併した MSSA 感染症の1例. 日本内科学会第221回近畿地方会, 大阪, 2018.9.22
5. 越智達哉, 江上和紗, 王 康治, 西尾智尋, 小西弘起: 胃蜂窩織炎と鑑別を要した急性胃潰瘍の一例. 第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 鹿児島, 2018.11.16
6. 王 康治, 西尾智尋, 越智達哉, 小西弘起, 江上和紗: 救急外来でのグラム陰性桿菌による皮膚 蜂窩織炎4例の検討. 第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 鹿児島, 2018.11.17

IX. 2. 15 看護部

1. 梅田節子, 花房由美子, 岩田奈美, 御園和美, 斎藤美智子, 中村真理: 院内から院外へ参加者を拡大した ELNEC-J コア研修5年間の取り組みと参加者に与えた影響. 第23回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, 2018.6.15
2. 荒木雄穂, 古田健二郎, 富岡洋海: 結核病床を持たない市中病院での外来 DOTS カンファレンスの開催. 第93回日本結核病学会総会, 大阪, 2018.6.24
3. 荒木敬雄, 平野倫子, 船木 淳, 瀧澤紘輝, 崎山 愛, 板東由美, 平尾明美: 二次救急病棟で勤務する看護師のキャプテンシー教育プログラムの検証[第二報]. 第20回日本救急看護学会学術集会, 和歌山, 2018.10.20
4. 竹中 眸: 呼吸困難感の強い終末期患者への看護. 第4回神戸看護学会, 神戸, 2018.10.27
5. 左山朋美, 嶋村倫子: 地域包括ケア病棟導入における病棟マネジメントの実際. 第4回神戸看護学会, 神戸, 2018.10.27
6. 荒木敬雄, 黒田普美子, 杉原陽子, 川口麻衣, 吉田直子, 新田和子, 別府清香, 濱本カナコ: フィジカルアセスメント研修の受講生の変化. 第4回神戸看護学会, 神戸, 2018.10.27
7. 斎藤美智子, 田中圭子, 河本美恵, 高橋千香, 藤田裕輔: 当院の地域包括ケアシステムに資するオープンカンファレンスの現状報告. 第29回日本在宅医療学会学術集会, 横浜, 2018.11.5
8. 山尾美希, 大路貴子, 平野倫子, 春名寛香, 江川幸二, 池田清子, 石原逸子: 看護管理職が考える退院支援を困難にさせている要因とその改善策. 第38回日本看護科学学会学術集会, 松山, 2018.12.16
9. 金子正博, 橋本梨花, 穂積かおり, 越智達哉, 尾鼻俊弥, 築地摩耶, 赤澤尚美, 辻 里佳, 太田好美, 岡本知子, 廣石絢子, 光武瑞穂, 巽 弥生, 福嶋浩一, 田村昌三, 笠井秀輔: 医療・介護関連肺炎の転機に関わる因子の検討 退院症例と転院症例の比較. 第34回日本静脈栄養学会学術集会, 東京, 2019.2.15

IX. 2. 16 薬剤部

1. 石本学司：医師・病薬・調剤薬局をつなぐ連携ツール～トレーニングレポートを活用するために。第10回兵庫県薬剤師会摂丹支部・兵庫県病院薬剤師会摂丹支部共済セミナー，三田，2018.7.12
2. 福嶋浩一：新薬 Review. APACC アップデートセミナー，大阪，2018.9.16
3. 奥野昌宏，田中詳二，森本茂文：緩和医療に関わりのないまま突然に終末期後期・死亡直前期を向かえた症例に対する薬剤師の役割～薬剤指導と処方提案を通して～。患者・家族メンタル支援学会第4回学術総会，神戸，2018.10.27-28
4. 奥野昌宏，田中詳二，森本茂文：緩和医療に関わりのないまま突然に終末期後期・死亡直前期を向かえた症例に対する薬剤師の役割～薬剤指導と処方提案を通して～。第18回大学－医療連携講演会，神戸，2018.12.7
5. 平野美優：皮膚治療薬のポイント。市民公開講座，神戸，2019.1.17
6. 川島佳恵，吉川里香，石本学司，奥野昌宏，田中詳二：「おくすり確認外来」における一包化調剤された周術期休薬対象薬管理への薬剤師の介入と役割。第40回日本病院薬剤師会近畿学術大会，奈良，2019.1.19-20
7. 吉川里香，川島佳恵，石本学司，奥野昌宏，田中詳二：「おくすり確認外来」での周術期の薬学的管理における遵守状況と問題点。第40回日本病院薬剤師会近畿学術大会，奈良，2019.1.19-20
8. 奥野昌宏：吸入支援のポイント。吸入指導アドバンス研修会，神戸，2019.1.27
9. 奥貞佳奈子：糖尿病治療は退院後からが本番！～病院と薬局の情報共有により、治療に貢献するためには～。Pharmacy Seminar in 兵庫・長田・須磨，神戸，2019.2.7
10. 光武瑞穂，金子正博，福嶋浩一，巽 弥生，田村昌三，尾鼻俊弥，岡本知子，廣石絢子，太田好美，船曳晃代，穂積かおり，後藤昭一，河合峰雄，西田哲也，菅生教文，田中詳二：嚥下機能低下患者における薬剤の薬効分類別使用状況。第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会，東京，2019.2.14-15
11. 川島佳恵，吉川里香，石本学司，奥野昌宏，田中詳二：「おくすり確認外来」における一包化調剤された周術期休薬対象薬管理への薬剤師の介入と役割。4病院合同学術研究フォーラム，神戸，2019.2.23
12. 吉川里香，川島佳恵，石本学司，奥野昌宏，田中詳二：「おくすり確認外来」での周術期の薬学的管理における遵守状況と問題点。4病院合同学術研究フォーラム，神戸，2019.2.23
13. 光武瑞穂：嚥下機能低下患者における薬剤の薬効分類別使用状況。第29回西神戸 NST オープンカンファレンス，神戸，2019.3.14
14. 川島佳恵，吉川里香，石本学司，奥野昌宏，田中詳二：「おくすり確認外来」における一包化調剤された周術期休薬対象薬管理への薬剤師の介入と役割。日本薬剤師レジデントフォーラム，福岡，2019.3.17
15. 吉川里香，川島佳恵，石本学司，奥野昌宏，田中詳二：「おくすり確認外来」での周術期の薬学的管理における遵守状況と問題点。日本薬剤師レジデントフォーラム，福岡，2019.3.17
16. 渡邊 瞭，奥野昌宏，田中詳二：既存の便秘治療薬が無効のオピオイド誘発性便秘症に対してナルデメジン錠を使用した2症例。日本薬剤師レジデントフォーラム，福岡，2019.3.17
17. 渡邊 瞭，奥野昌宏，野村洋道，福嶋浩一，田中詳二：血液透析施行中の無尿の悪性軟部腫瘍患者に対してAI（ドキシソルピシンとイホスファミドの併用）療法を行った一例。日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2019，札幌，2019.3.23-24

IX. 2. 17 臨床検査技術部

1. 松之舎教子，高田真理子，五島恵里，大政麻衣，北川宏樹，高橋明広，山下幸政：C型肝硬変、門脈圧亢進症に伴う門脈性肺高血圧（PoPH）の1例。日本超音波医学会 45回関西地方会学術集会，神戸，2018.10.20
2. 足立安奈，高田真理子，田村周二，光末亜莉寿，松之舎教子，宮川祥治，大政麻衣，北川宏樹，奥野晃章，山下幸政：腹部超音波検査が診断に有用であった遺伝性出血性毛細血管拡張症の1例。日本超音波医学会第45回関西地方会学術集会，神戸，2018.10.20
3. 佐田國真生，劔物英子，山下修司，大政麻衣，松之舎教子，奥野晃章，富岡洋海，高橋明広：壁肥厚を呈した心サルコイドーシスの経過を追った1例。日本超音波医学会 第45回関西地方会学術集会，神戸，2018.10.20
4. 宮川祥治，弘田大智，山下展弘：神戸アーバン乳腺クリニックカンファレンス。神戸，2018.11.21
5. 松之舎教子：シリーズ！心エコーを学ぶ大動脈弁狭窄症編。兵庫県臨床検査技師会 生理検査講習会，神戸，2018.11.24

6. 山下展弘, 小林 真, 松木慎一郎, 長岡克也, 太田寛子, 佐藤 元, 松林謙治, 今川奈央子: 細胞検査士養成に向けた兵庫県臨床検査技師会の取り組み 細胞検査士の育成と問題点. 第 58 回日臨技近畿支部医学検査学会, 奈良, 2018.12.2
7. 足立安奈, 高田真理子, 田村周二, 光末亜莉寿, 松之舎教子, 宮川祥治, 大政麻衣, 北川宏樹, 奥野晃章, 山下幸政: 腹部超音波検査が診断に有用であった遺伝性出血性毛細血管拡張症の 1 例. 第 2 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2019.2.23
8. 中 彩乃, 吉田澄子, 下田智晴, 宮川祥治, 山下展弘, 勝山栄治: 良性多嚢胞性腹膜中皮腫の 1 例. 兵庫県臨床細胞学会第 35 回総会, 神戸, 2019.3.2
9. 下田智晴, 吉田澄子, 中 彩乃, 宮川祥治, 山下展弘, 勝山栄治: 耳下腺癌肉腫の 1 例. 兵庫県臨床細胞学会第 35 回総会, 神戸, 2019.3.2
10. 大政麻衣: 「胆嚢を堪能しよう!」～基本的知識と、よく遭遇する症例を中心に～. 第 59 回生理検査オープンカンファレンス, 神戸, 2019.3.7
11. 宮川祥治, 北川宏樹, 江上和紗: 超音波検査室の感染対策. 平成 30 年度 改善活動発表会, 神戸, 2019.3.14

IX. 2. 18 放射線技術部

1. 酒井慎治, 伊田雄貴, 稲垣 諒, 中野 大, 耕田隆志, 中村 大: 神戸市立病院における、人事評価制度の問題点と課題. 第 34 回日本診療放射線技師学会学術大会 第 6 回アジア放射線治療シンポジウム, 下関, 2018.9.22
2. 伊田雄貴, 藤本孝弘, 酒井慎治, 東 雅章: 地域中核病院における防災、災害対策への取り組み. 第 34 回日本診療放射線技師学会学術大会 第 6 回アジア放射線治療シンポジウム, 下関, 2018.9.23
3. 稲垣 諒, 原 章剛, 伊田雄貴, 耕田隆志, 酒井慎治: 歯科用 CBCT の使用経験. 近畿地域診療放射線技師学会学術大会, 大阪, 2019.2.17
4. 伊田雄貴, 稲垣 諒, 藤本孝弘, 酒井慎治, 東 雅章: 地域中核病院における防災意識向上の取り組み. 近畿地域診療放射線技師学会学術大会, 大阪, 2019.2.17

IX. 2. 19 リハビリテーション技術部

1. 山口卓巳, 花家 薫, 沖侑太郎, 藤本由香里, 石川 朗: 呼吸器疾患に対するケアマネジャーの認識調査. 日本ケアマネジメント学会 第 17 回研究大会 in 北海道, 札幌, 2018.5.19-20
2. 沖侑太郎, 玉木 彰, 藤本由香里, 山田莞爾, 三谷有司, 山口卓巳, 山本暁生, 金子弘美, 太平峰子, 石川 朗: COPD 患者における教育入院後の疲労感改善が長期予後に与える影響. 第 28 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 千葉, 2019.11.9-10
3. 藤田万利子, 藤本由香里, 山田莞爾, 大橋啓太, 沖侑太郎, 三谷有司, 山田洋二, 山口卓巳, 山本暁生, 石川 朗: 健常若年成人における低頻度吸気筋力トレーニングに関する検討 吸気筋力と咳嗽力に着目して. 第 28 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 千葉, 2019.11.9-10
4. 山口卓巳, 井上慎一, 酒井英樹, 沖侑太郎, 藤本由香里, 山田莞爾, 三谷有司, 山本暁生, 野崎忠幸, 石川 朗: 呼吸器患者に対する作業療法士の意識調査. 第 28 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 千葉, 2019.11.9-10

IX. 2. 20 臨床工学室

1. 林 博英, 沖中徳子, 豊岡大征, 梅津未来, 志賀智史, 平川絵李香, 石井利英: RO 装置における残留塩素検出への対策. 第 63 回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2018.6.29
2. 林 博英, 沖中徳子, 豊岡大征, 梅津未来, 志賀智史, 平川絵李香, 石井利英: エーエヌテック社製人工透析機器用強力タンパク・油脂溶解洗浄剤プレミアムマックスの使用経験. 第 63 回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2018.6.29
3. 志賀智史, 林 博英, 沖中徳子, 豊岡大征, 梅津未来, 平川絵李香, 石井利英: 穿刺技術の見える化. 第 63 回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2018.7.1
4. 豊岡大征, 沖中徳子, 石井利英, 林 博英, 梅津未来, 志賀智史, 平川絵李香, 村上哲平, 田中英治: ロボット支援下内視鏡手術の円滑な進行と手術中断時間短縮へ向けたメディカルスタッフの取り組み. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.7

IX. 2. 21 栄養管理室

1. 赤沢尚美:地域連携における管理栄養士の取り組みと栄養指導の実際. 糖尿病 Web セミナー～「地域」×「多職種」で輪をつなぐ～, 神戸, 2018.7.24
2. 榊原美津枝, 塚本紀代美, 中村武寛:体重管理が重要な統合失調症を伴う2型糖尿病患者との関わり. 第5回日本糖尿病医療学学会, 京都, 2018.10.8
3. 赤沢尚美:乳幼児のスキンケアと食物アレルギー～離乳食の進め方～. 第15回兵庫小児アレルギーケア講習会, 神戸, 2018.11.18
4. 高原衣里子:糖尿病チーム医療および糖尿病地域連携での管理栄養士の取り組み. 第2回4病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2019.2.23

IX. 3 西神戸医療センター

IX. 3.1 循環器内科

1. 山根啓一郎, 吉開友羽子, 中川雅之, 木下美菜子, 川戸充徳, 江尻純哉, 永澤浩志: LAD 近位部の ACS に対して複雑 stenting となった一例. 第 125 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2018.6.30
2. 山根啓一郎, 吉開友羽子, 中川雅之, 木下美菜子, 川戸充徳, 江尻純哉, 永澤浩志: 左橈骨動脈閉塞による上肢重症虚血に対して血管内治療を施行した一例. 第 125 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2018.6.30
3. 三浦敦美, 吉開友羽子, 山根啓一郎, 中川雅之, 木下美菜子, 川戸充徳, 江尻純哉, 永澤浩志: コルヒチンが有効であった心膜切開後症候群の 1 例. 第 221 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.9.22
4. 白川千種, 江尻純哉, 吉開友羽子, 山根啓一郎, 中川雅之, 木下美菜子, 川戸充徳, 永澤浩志, 的場 俊, 高野 真: 静脈血栓塞栓症との鑑別に苦慮した脂肪塞栓症候群の 1 例. 第 222 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.12.15

IX. 3.2 内分泌・糖尿病内科

1. 徳原里佳: 偽性副甲状腺機能亢進症の 1 例. 第 9 回西神戸内分泌・糖尿病オープンカンファレンス, 神戸, 2018.5.31
2. 矢野千晶: 糖尿病教育入院患者におけるチーム医療の実践～管理栄養士の視点より～. 糖尿病チーム医療を考える会 in 西神戸, 神戸, 2018.7.21
3. 佐藤雄一: 週 1 回 GLP-1 受容体作動薬の外来での活用法. Diabetes Incretin Seminar in 神戸, 神戸, 2018.9.20
4. 山本健太, 田川涼葉, 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻 和雄: 認知症により拒食症を呈した 1 型糖尿病患者の 1 例. 第 55 回日本糖尿病学会近畿地方会, 神戸, 2018.10.27
5. 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻 和雄: 著明な低 Na 血症を呈した中枢神経原発リンパ腫合併 SIADH の 1 例. 第 28 回臨床内分泌代謝 Update, 福岡, 2018.11.2
6. 山本健太, 田川涼葉, 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻 和雄: 認知症により拒食症を呈した 1 型糖尿病患者の 1 例. 第 13 回糖尿病臨床フォーラム, 大阪, 2019.1.26
7. 佐藤雄一: 2 型糖尿病は”ゴミ箱”診断. 第 1 回 Kobe Medical Club, 神戸, 2019.3.23

IX. 3.3 腎臓内科

1. 中田庸介, 中井雅史, 鳥越和雄: 血液透析を必要とした感染関連腎炎の 1 例. 第 48 回日本腎臓学会西部学術大会, 徳島, 2018.9.28
2. 中田庸介, 中井雅史, 原田樹幸, 塩田哲也, 京極高久, 鳥越和雄: マムシ咬傷による菌血症にて長期間血液透析を必要とした 1 例. 第 41 回神戸腎疾患カンファレンス, 神戸, 2018.10.21
3. 中田庸介: 透析合併症対策 (心血管疾患と腎性貧血). 兵庫県腎不全看護研究会, 神戸, 2018.11.4
4. 橘 奎伍, 中田庸介, 中井雅史, 鳥越和雄: IgA 腎症発症 10 年後に ANCA 関連血管炎を発症した 1 例. 第 222 回内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.12.15
5. 中田庸介, 中井雅史, 三河章子, 山村雄太, 古市賢吾, 和田隆志, 鳥越和雄: 慢性腎臓病の経過中に発症した腎コロボーマ症候群の 1 例. 京都腎疾患フォーラム, 京都, 2019.1.28

IX. 3.4 脳神経内科

1. 一角朋子, 井元万紀子, 上野正夫, 奥田志保, 白川雅之, 梶田美奈子, 渡邊幸子, 大串智恵, 高野 真: 右中大脳動脈領域の脳梗塞による注意障害に対する音楽療法. 第 55 回リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2018.6.28-7.1
2. 上野正夫, 井元万紀子, 一角朋子, 奥田志保, 高野 真, 水野敏樹: 高次脳機能障害を呈した CADASIL に対しリハビリテーションを施行した一例. 第 55 回リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2018.6.28-7.1
3. 高原佳央里, 西原賢在, 石尾ゆきこ, 柳原千枝, 高野 真: 右上下肢のけいれんで発症した、左頭頂部腫瘍性病変の 76 歳女性. 第 77 回兵庫神経内科研究会, 神戸, 2019.2.1
4. 山本 剛, 高原佳央里: 一過性の意識障害と右半身麻痺を呈した 70 代男性. 第 30 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 東京, 2019.2.1-3

5. 高原佳央里, 石尾ゆきこ, 柳原千枝, 高野 真: 抗 Musk 抗体陽性の高齢発症重症筋無力症の一例. 第 19 回兵庫県神経免疫研究会, 神戸, 2019.3.1

IX. 3.5 消化器内科

1. 猪股典子, 太田匠悟, 原 和也, 瀧本郁久, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: Gemcitabin (GEM)・nab-paclitaxel (nab-PTX) 併用術前化学療法により down staging を得られた borderline resectable 膵頭部癌の 1 切除例. 第 104 回日本消化器病学会総会, 東京, 2018.4.19-21
2. 丹家元祥:C 型慢性肝炎 DAA 治療するにあたって. 西区肝炎フォーラム～最新の C 型肝炎治療戦略～, 神戸, 2018.5.10
3. 原 和也, 太田匠悟, 猪股典子, 丹家元祥, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 当院における PTEG の現況. 第 24 回関西 PEG・栄養とりハビリ研究会, 大阪, 2018.6.16
4. 井谷智尚: 一般演題 3. 第 10 回日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会, 神戸, 2018.7.7
5. 井谷智尚, 太田匠悟, 猪股典子, 原 和也, 丹家元祥, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 鷲尾麻紀子: PTEG カテーテル抜去後も瘻孔が閉鎖しなかった 1 例. 第 17 回日本 PTEG 研究会学術集会, 福岡, 2018.9.15
6. 井谷智尚: 現況と今後. 第 17 回日本 PTEG 研究会学術集会, 福岡, 2018.9.15
7. 井谷智尚: 胃瘻困難 (不能) 例に対する経管栄養ルート PTEG (経皮経食道胃管挿入術) の実際. 第 35 回なにわ NST 倶楽部 (NNC), 大阪, 2018.9.20
8. 高田 裕: 当院における潰瘍性大腸炎診療について. 神戸西 IBD 医療連携講演会, 神戸, 2018.9.27
9. 太田匠悟, 猪股典子, 原 和也, 丹家元祥, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 経カテーテル的動脈塞栓術 NI より止血し得た十二指腸憩室出血の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 109 回例会, 大阪, 2018.9.29
10. 金田優也, 太田匠悟, 猪股典子, 原 和也, 丹家元祥, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 敗血症性ショック、DIC を伴った侵襲性髄膜炎菌感染症の 1 例. 第 12 回神戸内科学セミナー, 神戸, 2018.10.20
11. 原 和也, 太田匠悟, 猪股典子, 丹家元祥, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 癌性腹膜炎患者に対する PTEG の有用性および安全性の検討. 第 26 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2018 KOBE), 神戸, 2018.11.1-4
12. 井谷智尚: 第 12 回 PTEG ハンズオンセミナー. 第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 東京, 2019.2.14

IX. 3.6 呼吸器内科

1. 木田陽子, 乾 祐輔, 佐藤宏紀, 額額力也, 桜井稔泰, 多田公英, 池田顕彦: マルチパーパスマスク®を使用した気管支鏡検査について. 第 41 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2018.5.24
2. 多田公英, 桜井稔泰, 額額力也, 佐藤宏紀, 乾 祐輔, 益田隆広, 木田陽子, 池田顕彦: 当院の結核診療における地域連携の現状と課題. 第 121 回日本結核病学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
3. 乾 祐輔, 益田隆広, 佐藤宏紀, 木田陽子, 額額力也, 桜井 稔, 多田公英, 池田顕彦, 石原美佐, 橋本公夫: 好酸球増多症と肺非結核性抗酸菌症の加療中に発症した AIDS の一例. 第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
4. 木田陽子, 乾 祐輔, 佐藤宏紀, 額額力也, 桜井稔泰, 多田公英, 益田隆広, 長田駿一, 中西宗雄, 大政 貢, 石原美佐, 橋本公夫, 池田顕彦: 特徴的な画像所見を認めた肺原発の癌肉腫の 1 例. 第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
5. 益田隆広, 池田顕彦, 多田公英, 桜井稔泰, 額額力也, 木田陽子, 佐藤宏紀, 乾 祐輔, 大政 貢, 中西崇雄: CT ガイド下肺生検で診断された肺原発悪性黒色腫の一例. 第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
6. 木田陽子, 乾 祐輔, 佐藤宏紀, 額額力也, 桜井稔泰, 多田公英, 池田顕彦: 心嚢ドレナージ術を行なった癌性心膜炎症例の臨床的特徴の検討. 第 16 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2018.7.21
7. Kida Y, Inui Y, Sato H, Koketsu R, Sakurai T, Tada K, Ikeda A, Hashimoto K, Katakami N: Clinical features and treatment outcome of carcinomatous pericarditis due to lung cancer. ERS International Congress 2018, Paris France, 2018.9.15-19

8. 益田隆広, 池田顕彦, 多田公英, 桜井稔泰, 瀬瀬力也, 木田陽子, 佐藤宏紀, 乾 佑輔: 基礎疾患を有さない高齢者に発生した慢性壊死性肺アスペルギルス症の一例. 第 92 回日本呼吸器学会近畿地方会, 奈良, 2018.12.8
9. 佐藤宏紀, 池田顕彦, 多田公英, 桜井稔泰, 瀬瀬力也, 木田陽子, 乾 佑輔, 益田 隆: 肺非結核性抗酸菌症に顕微鏡的多発血管炎を併発した 1 例. 第 92 回日本呼吸器学会近畿地方会, 奈良, 2018.12.8

IX. 3.7 免疫血液内科

1. 白川千種, 橋本朗子, 田中康博, 新里偉咲, 林 幹人, 橋本公夫: 肝障害を契機に診断した全身性アミロイドーシスの 1 例. 第 220 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.6.16
2. 伊藤宗桂, 新里偉咲, 田中康博, 橋本朗子, 高原佳央里: クリプトコッカス髄膜炎を併発した多発性骨髄腫の 1 例. 第 221 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2018.9.22
3. 田中康博, 橋本朗子, 新里偉咲: チロシンキナーゼ阻害薬使用中の慢性骨髄性白血病患者の死因解析. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.13
4. 橋本朗子, 田中康博, 新里偉咲: 当院で経験した皮膚原発 NK/T リンパ腫. 第 80 回日本血液学会総会, 大阪, 2018.10.13

IX. 3.8 緩和ケア内科

1. 安藤俊弘, 中村真理, 御園和美, 多田公英: 緩和ケア担当者による苦痛のスクリーニング実施が緩和ケアチーム介入率に与える影響. 第 23 回日本緩和医療学会, 神戸, 2018.6.15-17
2. 安藤俊弘: 小児腹痛に対して診断的に腹横筋膜面ブロックを施行した一症例. 第 38 回日本臨床麻酔学会, 小倉, 2018.11.1-3

IX. 3.9 精神・神経科

1. 川添文子: 摂食障害治療における学校との連携～入院治療を要した小児期 ANR の連携例を通じて～. 第 59 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会, 名古屋, 2018.6.8
2. 高宮静男: 摂食障害に関する学校と医療のより良い連携のための対応指針とその活用について. 第 114 回日本精神神経学会シンポジウム, 神戸, 2018.6.23
3. 高宮静男: 小児期発症の摂食障害への支援と早期介入. 第 114 回日本精神神経学会シンポジウム, 神戸, 2018.6.23
4. 中山明子, 相澤直樹, 古屋有華, 山根麻千子, 川添文子: 虐待を受けた子どものロールシャッハ反応, 日本心理臨床学会第 37 回大会, 神戸, 2018.8.31
5. 岩蔭かをり, 岡田紫甫, 川添文子, 厚坊浩史, 酒見淳子: 一般・身体科医療における臨床心理士の困難と工夫. 日本心理臨床学会第 37 回大会, 神戸, 2018.8.31
6. 高宮静男, 川添文子, 松原康策: 小児期発症神経性やせ制限型患者 (ANR) の 10 年超の長期予後に関する検討 2 - 入院から 10 年経過後の生活面でのアウトカム -. 第 22 回日本摂食障害学会, 沖縄, 2018.11.8
7. 内田杏子, 川添文子, 山田顕子, 奥小路明子, 福武将映: 肺結核を合併した神経症性やせ症の一例. 第 31 回日本総合病院精神医学会総会, 東京, 2018.12.1

IX. 3.10 小児科

1. 竹本崇之, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策, 蘆田典明, 西原賢在, 細田弘吉, 武田直也: 舞踏アテトーゼ運動を契機にもやもや病と診断された 14 歳女児例. 第 274 回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2018.5.19
2. 松原康策, 仁紙宏之, 岩田あや, 磯目賢一, 山本 剛, 森田昌知, 大西 真, 大楠清文: キノロン耐性、血清群 C 群、遺伝子型 ST-4821 髄膜炎菌による侵襲性感染症 - 国内初遺伝子型原因菌 -. 第 92 回日本感染症学会学術講演会, 岡山, 2018.5.31-6.1
3. 松原康策: 侵襲性 B 群溶血性レンサ球菌感染症. 第 92 回日本感染症学会学術講演会, シンポジウム侵襲性細菌感染症の現状と課題, 岡山, 2018.5.31-6.1
4. 鷲尾 健, 藤井翔太郎, 正木太朗, 堀 雅之, 松原康策, 小倉香奈子, 織田好子, 福永 淳: 入浴剤による contact anaphylaxis の 1 例. 第 117 回皮膚科学会, 広島, 2018.5.31-6.3

5. 林佳菜恵, 植村 優, 石河慎也, 高藤 哲, 森 健, 西村範行, 松原康策: 予防接種時に顔面蒼白を指摘され、Hb. 2.3g/dl であった女兒. 第 34 回兵庫県小児血液腫瘍研究会, 神戸, 2018.6.1
6. 内藤昭嘉, 岡崎沙也香, 山田早紀, 竹本崇之, 金 伽耶, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策: 無症候性ピロリ感染症と鉄欠乏性貧血 - 4 症例の経験 -. 神戸市小児科医会学術講演会, 神戸, 2018.6.9
7. 松原康策, 保科 清: 小児期侵襲性 GBS 感染症 - 早発型・遅発型・超遅発型の全国調査 2011-2015 -. 第 50 回レンサ球菌研究会, 神戸, 2018.6.15-16
8. 山田早紀: 妊娠中に悪性腫瘍と診断された母体から出生した児の短期的予後. 第 11 回京都 NICU 懇話会, 京都, 2018.6.23
9. 岡崎沙也香, 山田早紀, 竹本崇之, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策: 軽症胃腸炎関連しえいれん: 2001-2018 年の 44 症例の検討. 第 5 回神戸西地域小児疾患研究会, 神戸, 2018.9.8
10. 松原康策: 侵襲性髄膜炎感染症 up to date - 幼児例の経験から診断・治療・予防を考える -. 尼崎小児科医会学術講演会, 尼崎, 2018.9.16
11. 山田早紀, 堀 雅之, 岡崎沙也香, 竹本崇之, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 岩田あや, 仁紙宏之, 正木太朗, 千貫祐子, 松原康策: 6 歳発症の Pork-cat syndrome. 第 275 回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2018.9.29
12. 堀 雅之, 岡崎沙也香, 山田早紀, 竹本崇之, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 鷺尾 健, 松原康策: 柚子入り入浴剤によりアナフィラキシーを起こしたペクチンアレルギーの 7 歳男児例. 第 55 回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.20-21
13. 登尾 薫, 川崎 悠, 松原康策, 岸田あおい, 廣瀬圭子, 戸田進也, 真鍋美香, 登尾里紀, 東 貞之, 角田敏明, 川井順一: 胎児期より経過観察できた先天性胆道拡張症の 1 例. 日本超音波医学会 第 45 回関西西地方会学術集会, 大阪, 2018.10.20
14. 兼本洋介, 中村文香, 小川 聡, 藤井翔太郎, 鷺尾 健, 正木太朗, 堀 雅之, 立石千晴, 鶴田大輔, 酒井大輔: 小児水疱性類天疱瘡の 1 例. 第 69 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪, 2018.10.27-28
15. 堀 雅之: アレルギーを防ぐために〜スキンケアと離乳食〜. 第 15 回兵庫小児アレルギーケア講習会, 神戸, 2018.11.18
16. 堀 雅之: 6 歳発症の Pork-cat syndrome の 1 例. 第 69 回兵庫小児アレルギー・呼吸器懇話会, 神戸, 2018.11.22
17. 内藤昭嘉, 山口善道, 岡崎沙也香, 山田早紀, 竹本崇之, 金 伽耶, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 松原康策, 石原美佐: 突然に顔色不良を呈し救急外来に駆け込んだ 1 ヶ月例. 第 9 回神戸市小児救急ケースカンファレンス. 神戸, 2018.12.13
18. 川崎 悠, 松原康策, 合田由香利, 竹本崇之, 山田早紀, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 山口善道, 川北かおり, 森田圭一: 胎児期より経過観察できた先天性胆道拡張症の 1 例. 第 276 回日本小児科学会兵庫県地方会, 尼崎, 2019.2.2
19. 内藤昭嘉, 松原康策, 田村彰広, 二野菜々子, 山本暢之, 長谷川大一郎, 小阪嘉之, 重松陽介: Vit B12 欠乏性貧血を呈した、回腸切除既往のある母体から出生した完全母乳の乳児例. 第 32 回近畿小児科学会, 京都, 2019.3.17

IX. 3. 11 皮膚科

1. 兼本洋介, 藤井翔太郎, 小川 聡, 鷺尾 健, 堀川達弥, 正木太朗, 小熊 孝, 田中康博, 新里偉咲: 顔面に生じた MALT リンパ腫の 2 例. 第 111 回近畿皮膚科集談会, 京都, 2018.7.22
2. 兼本洋介, 中村文香, 小川 聡, 藤井翔太郎, 鷺尾 健, 正木太朗, 堀 雅之, 立石千晴, 鶴田大輔: 小児水疱性類天疱瘡の 1 例. 第 69 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪, 2018.10.27

IX. 3. 12 外科・消化器外科

1. 塩田哲也: 腹腔鏡補助下 S 状結腸切除 脾弯曲脱点を中心に. 第 24 回京都臨床外科セミナー, 京都, 2018.4.21

2. 原田崇史, 高橋有和, 伊丹 淳, 長田圭司, 牧野健太, 堀江和正, 吉村弥緒, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 京極高久:術前診断がつかず術後も治療方針に苦慮した原発性腹膜癌の一例. 第 201 回近畿外科学会, 大阪, 2018.5.19
3. Iwasaki J, Kyogoku T, Itami A, Shiota T, Mtsuura M, Yoshimura M, Takahashi Y, Nagata K: Surgical outcome of the liver resection after portal vein embolization (PVE) : 8 cases in single center experience. The 30th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Yokohama, 2018.6.7
4. 伊丹 淳, 長田圭司, 堀江和正, 牧野健太, 高橋有和, 吉村弥緒, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 京極高久:高齢者食道癌患者に対する治療方針について. 第 72 回日本食道学会, 宇都宮, 2018.6.28
5. 長田圭司, 松浦正徒, 堀江和正, 牧野健太, 高橋有和, 吉村弥緒, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久: Spigel ヘルニアに対して腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した 1 例. 第 16 回日本ヘルニア学会, 札幌, 2018.6.29
6. 松浦正徒, 長田圭司, 堀江和正, 牧野健太, 高橋有和, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久:治療に難渋した腹壁瘢痕ヘルニア修復後の遅発性メッシュ感染. 第 16 回日本ヘルニア学会, 札幌, 2018.6.30
7. 岩崎純治, 飯田 拓, 京極高久:当院における incidental gallbladder cancer. 第 22 回京都肝胆膵外科セミナー, 京都, 2018.9.1
8. 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久:当院における進行胃癌に対するニボルマブの使用経験. 第 56 回日本癌治療学会, 東京, 2018.10.18
9. 伊丹 淳, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 京極高久:虫垂癌の腹膜播種再発に対する TAS-102 長期投与の経験. 第 16 回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2018.11.2
10. 塩田哲也, 京極高久, 伊丹 淳, 岩崎純治, 松浦正徒, 高橋有和, 長田圭司, 原田樹幸, 森 彩:腹腔鏡下側方リンパ節郭清術後、中枢側リンパ管から骨盤リンパ瘻を認め、肺梗塞をきたした 1 例. 第 16 回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2018.11.3
11. 岩崎純治:当院における腹腔鏡下肝切除術の導入と適応拡大への取り組み. 第 12 回肝臓内視鏡外科研究会, 東京, 2018.11.21
12. 飯田 拓:主肝静脈に近接した肝腫瘍に対する腹腔鏡下肝切除術の経験. 第 12 回肝臓内視鏡外科研究会, 東京, 2018.11.21
13. 伊丹 淳, 長田圭司, 原田樹幸, 森 彩, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 京極高久:治療戦略に苦慮した異時性下咽頭重複癌を有する食道多発癌の一例. 第 80 回日本臨牀外科学会総会, 東京, 2018.11.22
14. 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 伊丹 淳, 京極高久:胃癌術後再発に対して Nivolumab を使用中に薬剤性肝障害を併発し劇症化した 1 例. 第 80 回日本臨牀外科学会総会, 東京, 2018.11.23
15. 森 彩, 伊丹 淳, 京極高久, 飯田 拓, 岩崎純治, 塩田哲也, 松浦正徒, 高橋有和, 長田圭司, 原田樹幸:小児虫垂神経内分泌腫瘍の 1 例. 第 80 回日本臨牀外科学会総会, 東京, 2018.11.23
16. 飯田 拓, 岩崎純治, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久:腹腔鏡下肝切除術を施行した原発不明神経内分泌腫瘍肝転移の 1 例. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.6
17. 牧野健太, 京極高久, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 長井和之, 伊丹 淳:術前診断し腹腔鏡下手術を施行した子宮広間膜裂孔ヘルニアによる小腸 絞扼性イレウスの一例. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.6
18. 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 伊丹 淳, 京極高久:当院における再発鼠径ヘルニアに対する TAPP の検討. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.7
19. 伊丹 淳, 森 彩, 原田樹幸, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 京極高久:リンパ節郭清における動脈処理のためのハンズオントレーニング. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.7
20. 岩崎純治, 京極高久, 伊丹 淳, 飯田 拓, 塩田哲也, 松浦正徒, 高橋有和:当院における腹腔鏡下腓体尾部切除術症例の検討. 第 31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.8
21. 飯田 拓:肝臓のビデオ. ステープラーを語ろう Vol.8, 神戸, 2019.2.15
22. 飯田 拓:当院での肝・胆・膵外科手術の現状:腹腔鏡下手術の積極的導入について. 第 7 回西区外科懇話会, 神戸, 2019.2.16

23. 岩崎純治, 飯田 拓, 原田樹幸, 森 彩, 高橋有和, 長田圭司, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: 肝両葉に発生した巨大肝腫瘍の一例. 第 47 回近畿肝臓外科研究会, 大阪, 2019.2.16

IX. 3. 13 乳腺外科

1. 奥野敏隆, 堀江和正, 京極高久, 今中一文: 超音波検査と穿刺吸引細胞診による intraductal papillary lesions の術前診断. 第 26 回日本乳癌学会学術集会, 京都, 2018.5.18
2. 奥野敏隆: B モード超音波にエラストグラフィとバスキュラリティ評価を追加した乳腺病理推定. 第 91 回日本超音波医学会学術集会 シンポジウム乳腺 1, 神戸, 2018.6.9
3. 奥野敏隆, 久下加奈栄, 廣瀬圭子, 登尾 薫, 内田浩也: 日常診療における B モード+カラードプラ+エラストグラフィの検討. 第 91 回日本超音波医学会学術集会, 神戸, 2018.6.9
4. 奥野敏隆, 久下加奈栄, 廣瀬圭子, 登尾 薫, 内田浩也: バスキュラリティとエラストグラフィを加味した乳腺非腫瘍性病変の評価法. 第 91 回日本超音波医学会学術集会 パネルディスカッション乳腺 3, 神戸, 2018.6.10
5. 奥野敏隆: 効率的な乳癌検診を目指して—精密検査の現場からの報告—. 兵庫県予防医学協会 乳癌検診症例検討会, 神戸, 2018.8.25
6. 奥野敏隆: 乳癌のひろがり診断—切除範囲設定にどのように生かすか?—. 第 41 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 大阪, 2018.10.7
7. 奥野敏隆, 登尾 薫: 超音波カラードプラ法が有用であった pseudo-cystic tumor の 4 例. 第 41 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 大阪, 2018.10.8
8. 久下加奈栄, 奥野敏隆, 登尾 薫, 眞鍋美香, 廣瀬圭子: チームで取り組む乳房超音波. 日本超音波医学会第 45 回関西地方学術集会, 大阪, 2018.10.20
9. 廣瀬圭子, 奥野敏隆, 登尾 薫, 眞鍋美香, 久下加奈栄: 超音波で悪性が疑われた良性乳腺線維上皮性腫瘍の 3 切除例. 日本超音波医学会第 45 回関西地方学術集会, 大阪, 2018.10.20
10. 奥野敏隆: エssenシャル乳房超音波. 日本超音波医学会第 45 回関西地方学術集会併催第 22 回関西地方学術集会, 大阪, 2018.10.20
11. 奥野敏隆, 森 彩, 長田圭司, 京極高久: 高度肝機能障害をきたした多発性肝転移にペルツズマブ+トラストズマブ+パクリタキセル療法が奏効した HER2 陽性乳癌の 1 例. 第 16 回日本乳癌学会近畿地方会, 大阪, 2018.12.15
12. 奥野敏隆: 超音波診断講習会—乳房超音波診断におけるカラードプラ法—. 日本超音波医学会主催超音波診断講習会, 大阪, 2019.3.2
13. 奥野敏隆: US スクリーニングの重要所見「乳腺」. 超音波スクリーニング研修講演会 2019 大阪, 大阪, 2019.3.23

IX. 3. 14 呼吸器外科

1. 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: 70 歳以上高齢者に対する気胸手術の有効性と安全性因子の検討. 第 35 回呼日本吸器外科学会学術集会, 千葉, 2018.5.17
2. 中西崇雄, 長田駿一, 大政 貢: 局所陰圧閉鎖療法 (NPWT) を用いた 2 期的胸郭形成術で治癒し得た耐性菌による膿胸の 2 手術例. 第 35 回呼日本吸器外科学会学術集会, 千葉, 2018.5.17
3. Nagata S, Omasa M, Nakanishi T: 26th European Conference on General Thoracic Surgery Annual meeting, Slovenia, 2018.5.24
4. 長田駿一, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: コレステリン肉芽種を伴う多発単房性胸腺嚢胞の 1 切除例. 第 61 回関西胸部外科学会学術集会, 名古屋, 2018.6.21
5. 徳重康介, 長田駿一, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 肺分画症に合併した肺原発悪性黒色腫の 1 手術例. 第 61 回関西胸部外科学会学術集会, 名古屋, 2018.6.21
6. 三浦敦美, 中西崇雄, 長田駿一, 本山秀樹, 大政 貢: 骨肉腫成分を含む肺癌肉腫の 1 手術例. 第 108 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2018.6.30
7. 長田駿一, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 慢性肥厚性胸膜炎に対し、胸腔鏡下肺剥皮術にて肺拡張不全が改善された一例. 第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7

8. 本山秀樹, 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: 悪性胸水および胸膜播種症例の術後予後の検討. 第 59 回日本肺癌学会学術集会, 東京, 2018.11.30
9. 中西崇雄, 長田駿一, 本山秀樹, 大政 貢: 胸腔鏡下肺剥皮術にて良好な肺拡張が得られた関節リウマチ合併繊維維素性胸膜炎の 1 例. 第 31 回日本内視鏡外科学会学術集会, 福岡, 2018.12.7
10. 本山秀樹: 肺がんの外科治療～体にやさしい手術～. がん市民フォーラム (市民公開講座), 神戸, 2019.2.16
11. 白川千種, 本山秀樹, 長田駿一, 中西崇雄, 石原美佐, 橋本公夫, 大政 貢: 部分的に縮小と増大を認めた multiple primary pulmonary myxoid sarcoma の一例. 第 109 回肺癌学会関西支部会, 大阪, 2019.2.23

IX. 3. 15 脳神経外科

1. 蘆田典明, 東野真志, 西原賢在, 細田弘吉, 武田直也, 甲村英二: 緊急で血管内治療を行った脊髄硬膜動脈瘻の一例. 第 75 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 豊中, 2018.4.7
2. 松尾和哉, 細田弘吉, 田中 潤, 山本祐輔, 今堀太一郎, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 篠山隆司, 甲村英二: 虚血後再灌流による脳皮質でのペントースリン酸経路の賦活化ーオミクス解析による分析と Heat shock protein 27 の関与ー. 第 19 回日本分子脳神経外科学会, 大阪, 2018.8.24
3. 東野真志, 蘆田典明, 西原賢在, 細田弘吉, 甲村英二: 破裂した部分血栓化大型中大脳動脈紡錘形動脈瘤を STA-MCA バイパス +トラッピング術により治療した一例. 第 76 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 豊中, 2018.9.8
4. 松尾和哉, 細田弘吉, 田中 潤, 山本祐輔, 今堀太一郎, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 篠山隆司, 甲村英二: 虚血再灌流による脳皮質でのペントースリン酸経路の賦活化 オミクス解析による分析と Heat shock protein 27 の役割. 日本脳神経外科学会第 77 回学術総会, 仙台, 2018.10.11
5. 甲田将章, 藤田敦史, 細田弘吉, 甲村英二: 神経ネットワークを用いた頸動脈狭窄症手術前後における認知機能の評価. 日本脳神経外科学会第 77 回学術総会, 仙台, 2018.10.11
6. 西原賢在, 武田直也, 東野真志, 蘆田典明, 篠山隆司, 細田弘吉, 甲村英二: 脳実質内腫瘍に対する脳溝開放を併用した摘出術の手術成績. 日本脳神経外科学会第 77 回学術総会, 仙台, 2018.10.11
7. 今堀太一郎, 岡村有祐, 坂田純一, 細田弘吉, 田中一寛, 藤田敦史, 甲村英二: ステント型血栓回収機器を用いた血栓回収術におけるステント展開時の血管撮影所見による再開通および閉塞機序の予測. 日本脳神経外科学会第 77 回学術総会, 仙台, 2018.10.11
8. 蘆田典明, 武田直也, 東野真志, 西原賢在, 甲村英二, 細田弘吉: 出血源不明のくも膜下出血の特徴と長期予後の検討. 日本脳神経外科学会第 77 回学術総会, 仙台, 2018.10.11
9. 細田弘吉, 藤田敦史, 甲田将章, 木村英仁, 松尾和哉, 今堀太一郎, 魚住洋一, 甲村英二: 内科治療抵抗性頸動脈狭窄症に対する CEA/CAS の成績. 日本脳神経外科学会第 77 回学術総会, 仙台, 2018.10.12
10. 松尾和哉, 細田弘吉, 田中 潤, 山本祐輔, 今堀太一郎, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 篠山隆司, 甲村英二: 虚血再灌流による脳皮質ペントースリン酸経路の亢進:オミクス研究を基に探る Heat shock protein 27 の役割. 第 61 回日本脳循環代謝学会, 森岡, 2018.10.20
11. Hosoda K, Tanaka J, Matsuo K, Kyotani K, Takemoto Y, Yamamoto Y, Fujita A, Kohta M, Kimura H, Sasayama T, Kohmura E: BeamSAT MRA helps to identify patients at risk for intolerance to temporary internal carotid artery occlusion during carotid endarterectomy (CEA) and carotid artery stenting (CAS) . European Association of Neurosurgical Societies (EANS) 2019, Brussels, Belgium, 2018.10.21-25
12. 蘆田典明, 木戸口慶二, 東野真志, 西原賢在, 甲村英二, 細田弘吉: 上矢状静脈洞へのステント留置術が有効であった傍矢状洞髄膜腫の 2 症例. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 仙台, 2018.11.22
13. Hosoda K, Fujita A, Kohta M, Kimura H, Matsuo K, Imahori T, Nakai T, Uozumi Y, Kohmura E: Characteristics and Surgical Outcome of Patients with Carotid Stenosis Resistant to Medical Therapy. International Stroke Conference 2019, Honolulu, USA, 2019.2.6
14. Matsuo K, Hosoda K, Tanaka J, Yamamoto Y, Imahori T, Nakai T, Irino Y, Shinohara M, Sasayama T, Kohmura E: Activate the Pentose Phosphate Pathway to Reduce the Cerebral Ischemia/Reperfusion Injury: The Impact of Heat Shock Protein 27 Phosphorylation. International Stroke Conference 2019, Honolulu, USA, 2019.2.7

15. Kohta M, Fujita A, Hosoda K, Kohmura E: The Evaluation of Cognitive Function Using Neural Network Analysis Before & After Revascularization Surgery for Internal Carotid Artery Stenosis. International Stroke Conference 2019, Honolulu, USA, 2019.2.7
16. 血栓療法再開が、慢性硬膜下血腫の再発に及ぼす影響についての検討。第42回日本脳神経外傷学会, 淡路, 2019.3.8
17. 細田弘吉, 藤田敦史, 甲田将章, 木村英仁, 松尾和哉, 今堀太一郎, 魚住洋一, 甲村英二: Crescendo TIA/stroke in evolution で発症した頸動脈狭窄症頸動脈狭窄症に対する CEA/CAS の治療成績。第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.21
18. 山本大輔, 細田弘吉, 内橋義人, 藤田敦史, 篠山隆史, 甲田将章, 甲村英二: ASL-MRI 法による頸動脈狭窄症患者における脳灌流領域の周術期変化の評価。第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.21
19. 松尾和哉, 細田弘吉, 田中 潤, 山本祐輔, 今堀太一郎, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 甲村英二: 虚血再灌流時の Heat shock protein 27 リン酸化によるペントースリン酸経路亢進: オミクス研究から治療応用へ。第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.22
20. 蘆田典明, 伊藤宗桂, 東野真志, 西原賢在, 甲村英二, 細田弘吉: 経静脈的塞栓術が著効した三叉神経痛を伴う海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻の2症例。第44回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2019.3.23

IX. 3. 16 整形外科

1. 柴田弘太郎 ロバーツ: エリートアスリートでの股関節鏡手術: エリート男性と女性アスリートの比較。第10回 JASKAS, 福岡, 2018.6.14
2. 吉田圭二: 手根管内腫瘍により弾発指を生じた1例。第3回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2018.8.31
3. 吉田圭二: 創傷被覆材の使い方。第3回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2018.8.31
4. 吉田圭二: 骨粗鬆症の診断と治療。第177回神戸西ブロック薬学研修会, 神戸, 2018.12.15

IX. 3. 17 形成外科

1. 岡本貴子, 小熊 孝: Dancing Girl Flap による指間形成術の検討。第61回日本形成外科学会学術集会, 福岡, 2018.4.12
2. 村井信幸, 小熊 孝, 吉武 優, 西尾祐美: 第4趾短縮症に対する創内固定型延長器の使用とその問題点。第61回日本形成外科学会学術集会, 福岡, 2018.4.12
3. 松葉啓文, 小熊 孝, 岡本貴子: 術後に CRPS が疑われた手掌皮膚欠損創の症例。第45回兵庫県形成外科医会研究会, 神戸, 2018.5.26
4. 徳原里佳, 小熊 孝, 松葉啓文, 岡本貴子: 後頸部に発生した乳児線維性過誤腫の摘出例。第119回関西形成外科学会学術集会, 大阪, 2018.7.8
5. 小熊 孝, 松葉啓文, 岡本貴子, 村井信幸: 頭皮双茎皮弁を用いた頭部難治性潰瘍の治療。第36回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 札幌, 2018.10.11
6. 岡本貴子, 小熊 孝: クリオネ型 VY 皮弁による顔面・頭皮組織欠損に対する再建例の検討。第36回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 札幌, 2018.10.11
7. 小熊 孝: 末梢動脈疾患を伴う糖尿病足病変について。第78回神戸西地域合同カンファレンス, 神戸, 2018.10.25
8. 松葉啓文, 小熊 孝, 岡本貴子: 口唇と両下肢に壊死をきたした電撃性紫斑病の1例。第120回関西形成外科学会学術集会, 西宮, 2018.11.17
9. 松葉啓文, 小熊 孝: 小児の眼窩底骨折の3症例。第32回神戸形成外科集談会, 神戸, 2018.11.18
10. 岡本貴子, 小熊 孝: 頬部皮膚欠損を cervicofacial flap で再建した1例。第32回神戸形成外科集談会, 神戸, 2018.11.18
11. 徳原里佳, 小熊 孝: 腺様嚢胞癌が疑われ神経再建を要した耳下腺腫瘍の1例。西神戸耳鼻いんこう科カンファレンス, 神戸, 2019.2.28

IX. 3. 18 産婦人科

1. 勝部美咲, 川北かおり, 三村裕美, 村上暢子, 森上聡子, 登村信之, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人: 子宮内避妊具 (IUD) 装着中に発症した骨盤内放線菌症の3例. 第70回日本産科婦人科学会学術講演会, 仙台, 2018.5.10-13
2. 三村裕美, 川北かおり, 勝部美咲, 村上暢子, 森上聡子, 登村信之, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人: 前置胎盤が疑われたが, MRIにて妊娠子宮嵌頓と診断し、皮膚切開の延長と術中エコーの使用により安全に帝王切開を遂行した一例. 第70回日本産科婦人科学会学術講演会, 仙台, 2018.5.10-13
3. 登村信之, 近田恵里, 三村裕美, 勝部美咲, 村上暢子, 森上聡子, 佐原裕美子, 川北かおり, 竹内康人: 術前検査で診断し得なかった顆粒膜細胞腫の一例. 第70回日本産科婦人科学会学術講演会, 仙台, 2018.5.10-13
4. 三村裕美, 川北かおり, 村上暢子, 森上聡子, 登村信之, 近田恵里, 竹内康人: 過去20年間に当院で経験した子宮内反症12例の検討. 第54回日本周産期・新生児医学会学集會, 東京, 2018.7.8-10
5. 登村信之, 小菊 愛, 森上聡子, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 竹内康人: 子宮卵管造影後の保存的加療抵抗性骨盤腹膜炎・付属器炎膿瘍に対して腹腔鏡手術で治癒し得た一例. 第58回日本産婦人科内視鏡学会学術講演会, 島根, 2018.8.2-4
6. 池澤勇二, 近田恵里, 前田振一郎, 三村裕美, 小菊 愛, 登村信之, 森上聡子, 佐原裕美子, 川北かおり, 佐本 崇, 竹内康人, 北村ゆり, 桑田陽一郎, 橋本公夫: S状結腸への浸潤を伴った卵巣癌との鑑別に苦慮した黄色肉芽腫性卵巣卵管炎の一例. 第19回JSAWI, 淡路島, 2018.8.31-9.1
7. 前田振一郎, 小菊 愛, 池澤勇二, 三村裕美, 登村信之, 森上聡子, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 佐本 崇, 竹内康人, 北村ゆり, 桑田陽一郎, 橋本公夫: 産科危機的出血に対しUAEを施行し母児を救命し得たが, UAE後子宮筋の阻血的壊死及び子宮内感染を来し子宮全摘を要した一例. 第19回JSAWI, 淡路島, 2018.8.31-9.1
8. 池澤勇二, 佐原裕美子, 前田振一郎, 三村裕美, 小菊 愛, 登村信之, 森上聡子, 近田恵里, 川北かおり, 佐本 崇, 竹内康人: 母児ともに救命できた子宮型羊水塞栓症の一例～搬送を受け入れた立場から～. 第139回近畿産科婦人科学会学術集會周産期研究部会, 大阪, 2018.10.7
9. 前田振一郎, 森上聡子, 池澤勇二, 三村裕美, 小菊 愛, 登村信之, 近田恵里, 佐原裕美子, 川北かおり, 佐本 崇, 竹内康人: 当院で経験した子宮全摘術を要した産後危機的出血13例の検討. 第139回近畿産科婦人科学会学術集會周産期研究部会, 大阪, 2018.10.7
10. 三村裕美, 川北かおり, 池澤勇二, 前田振一郎, 勝部美咲, 小菊 愛, 登村信之, 森上聡子, 近田恵里, 川北かおり, 佐本 崇, 竹内康人: 当院への産後出血搬送例の分析; 搬送元とのより良い連携を目指して. 第139回近畿産科婦人科学会学術集會周産期研究部会, 大阪, 2018.10.7
11. 登村信之, 竹内康人: 妊娠中腹腔鏡下卵巣腫瘍核出後に流産となった一例. 第3回明石&西神 Gynecology Conference, 神戸, 2018.11.9
12. Morikami S, Maeda S, Mimura Y, Kogiku A, Tomura N, Konda E, Sahara Y, Kawakita K, Samoto T, Takeuchi Y: Two successful cases of Preterm Premature Rupture of Membrane (pPROM) in 1st trimester. Birth Clinical Challenges in Labor and Delivery, Venice, 2018.11.14-17
13. 小菊 愛, 竹内康人: 子宮癌の診断～早期発見・早期治療を目指して～. 第19回がん市民フォーラム, 神戸, 2018.11.17

IX. 3. 19 泌尿器科

1. 小河孝輔, 清水洋祐, 請田翔子, 宇都宮紀明, 金丸聰淳: 当院におけるカバジダキセルの使用経験. 第10回HOKS, 神戸, 2018.4.7
2. 金丸聰淳, 小河孝輔, 木田和貴, 清水洋祐, 伊藤哲之: cT3N2M0にて術前化学療法後に腎尿管全摘を施行し、病理学的に転移が否定されypTaNOm0であった腎盂癌の1例. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.19
3. 清水洋祐, 小河孝輔, 木田和貴, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 去勢抵抗性前立腺癌患者の骨転移に対するBONENAVIを用いたラジウム223の短期治療成績の検討. 第106回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.20

4. 伊藤哲之, 小河孝輔, 土橋一成, 木田和貴, 清水洋祐, 金丸聰淳: エコーにて同定不能な完全埋没型腎がんに対する robot-assisted laparoscopic partial nephrectomy (RAPN) の経験. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.20
5. 木田和貴, 小河孝輔, 清水洋祐, 金丸聰淳, 伊藤哲之: 根治的膀胱全摘除術を施行した膀胱癌 cT1- 4N0M0 の術後予後に関する後方視的検討. 第 106 回日本泌尿器科学会総会, 京都, 2018.4.21
6. 請田翔子, 清水洋祐, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 金丸聰淳: 前立腺神経内分泌癌の 1 例. HOWN-RCC 講演会, 神戸, 2018.6.2
7. 金丸聰淳: 回腸導管 体外. 第 75 回兵庫県泌尿器科医会学術講演会, 神戸, 2018.6.9
8. 宇都宮紀明, 請田翔子, 小河孝輔, 清水洋祐, 金丸聰淳: 西神戸医療センターにおける薬剤師外来の取り組み. 第 4 回泌尿器科腫瘍 Up To Date, 神戸, 2018.6.16
9. 金丸聰淳: 西神戸医療センター泌尿器科の現況. 地域連携合同カンファレンス, 神戸, 2018.6.28
10. 請田翔子: 前立腺神経内分泌癌について. 第 21 回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2018.7.5
11. 小河孝輔: 当院におけるカバジタキセルの使用経験. 第 21 回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2018.7.5
12. 宇都宮紀明: 私の研究テーマ: 大学院で研究したこと. 第 21 回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2018.7.5
13. 清水洋祐: キイトルーダの使用経験. 第 21 回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2018.7.5
14. 金丸聰淳: 近況報告・泌尿器科最近の話題. 第 21 回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2018.7.5
15. 小河孝輔, 清水洋祐, 請田翔子, 宇都宮紀明, 金丸聰淳: 当院における M0CRPC に対する Enzaltamide の使用経験. 第 6 回 KULP セミナー, 神戸, 2018.10.11
16. 清水洋祐, 小河孝輔, 請田翔子, 宇都宮紀明, 金丸聰淳: 前立腺全摘除術における前立腺前脂肪組織内リンパ節転移に関する検討. 第 56 回癌治療学会, 横浜, 2018.10.19
17. 金丸聰淳: 泌尿器科疾患に対する当院での取り組み～内服治療からロボット手術まで～. 神戸西ブロック研修会, 神戸, 2018.10.20
18. 請田翔子, 清水洋祐, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 金丸聰淳: 前立腺神経内分泌癌の 1 例. 明石・西神戸泌尿器科懇話会, 神戸, 2018.10.24
19. 金丸聰淳, 請田翔子, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 清水洋祐: 術前分子標的薬投与で静脈内腫瘍塞栓が縮小し腹腔鏡下腎摘除術が可能であった左腎癌 cT3a の 1 例. Prostate Cancer Seminar in Hyogo, 神戸, 2018.11.10
20. 金丸聰淳, 請田翔子, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 清水洋祐: 軟性膀胱鏡による腎結石抽石を同時に行った腹腔鏡下右腎盂形成術の経験. 第 32 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 仙台, 2018.11.28
21. 請田翔子: 腹膜のみに転移を認めた CRPC の 1 例. 第 22 回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2019.2.7
22. 小河孝輔: 当院におけるキイトルーダの使用経験. 第 22 回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2019.2.7
23. 宇都宮紀明: ロボット支援腎部分切除術. 第 22 回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2019.2.7
24. 清水洋祐: 陰茎壊死の 1 例. 第 22 回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2019.2.7
25. 請田翔子, 清水洋祐, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 勝島浩紀, 石原美佐, 橋本公夫, 金丸聰淳: 腹膜のみに転移を認めた去勢抵抗性前立腺癌の 1 例. 第 240 回日本泌尿器科学会関西地方会, 奈良, 2019.2.16
26. 請田翔子, 清水洋祐, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 金丸聰淳: 腹膜のみに転移を認めた CRPC の 1 例. 兵庫・岡山 RCC 講演会, 神戸, 2019.2.23

IX. 3. 20 眼科

1. 吉田章子, 黒田能匡, 黒田佳陽, 三河章子: 瘢痕期末熟児網膜症に発症した急性閉塞隅角緑内障の前眼部 OCT 所見. 第 69 回京大眼科同窓会学会, 京都, 2018.10.21
2. 黒田能匡, 吉田章子, 黒田佳陽, 三河章子: 視神経乳頭ピットの無い網膜分離症. 第 69 回京大眼科同窓会学会, 京都, 2018.10.21
3. 吉田章子: 瘢痕期末熟児網膜症に発症した急性閉塞隅角緑内障の前眼部 OCT 所見. 第 21 回西神戸眼科合同カンファレンス第 21 回西神戸眼科合同カンファレンス, 神戸, 2019.2.14
4. 三河章子: 手術イメージガイドシステム ベリオン導入とプレミア眼内レンズ時代. 第 21 回西神戸眼科合同カンファレンス第 21 回西神戸眼科合同カンファレンス, 神戸, 2019.2.14

5. 黒田佳陽, 黒田佳陽, 吉田章子, 三河章子: 明らかな視神経乳頭ピットを認めない網膜分離症. 第 38 回神戸市立医療センター中央市民病院・神戸アイセンター病院眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2019.3.2

IX. 3. 21 耳鼻いんこう科

1. 四宮 瞳, 山村悠大, 小嶋康隆, 雲井一夫: 咽喉頭サルコイドーシスの 1 例. 第 188 回日耳鼻兵庫県地方部会, 尼崎, 2018.4.1
2. 白井裕美子, 前川圭子, 末廣 篤, 土師知行, 雲井一夫: 当科における声帯結節症例の臨床的特徴と音声治療経過. 第 188 回日耳鼻兵庫県地方部会, 尼崎, 2018.4.1
3. 横井 純, 小嶋康隆, 長谷川信吾, 雲井一夫: 当院で経験した先天性外耳道狭窄症の術後再狭窄の 1 例. 第 189 回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2018.7.14
4. 堀地祐人, 雲井一夫, 横井 純, 四宮 瞳, 小嶋康隆: 入院が必要であった鼻出血症 51 例の臨床的検討. 第 189 回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2018.7.14
5. 小嶋康隆: Scutumplasty 後の再形成症例. 第 15 回神戸耳鼻手術手技研究会, 神戸, 2018.8.22
6. 横井 純, 小嶋康隆, 長谷川信吾, 雲井一夫: 当院で経験した先天性外耳道狭窄症の術後再狭窄の 1 例. 第 28 回日本耳科学会, 大阪, 2018.10.5
7. 小嶋康隆, 大月直樹, 久保美恵, 北本淳子, 高田恵理, 斉藤大樹, 小坂恭子, 森下直矢, 上原奈津美, 白川利朗, 丹生健一: アデノウイルスを介した HPV16 E6/E7 アンチセンス RNA 導入とシスプラチン併用療法は HPV16 陽性頭頸部癌細胞の腫瘍増殖を抑制しアポトーシスを誘導する. 第 6 回神緑会 Young Investigator Award 発表会, 神戸, 2018.10.27
8. 山下俊彦, 梶本康幸, 四宮 瞳, 大月直樹, 丹生健一: 悪性腫瘍を疑った耳下腺放線菌症の 1 例. 第 190 回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2018.12.2
9. 堀地祐人, 雲井一夫, 小嶋康隆: 当科における入院を要した鼻出血症例の臨床的検討. 第 29 回日本頭頸部外科学会総会, 仙台, 2019.1.24
10. 雲井一夫: 耳鼻科領域における感染症. 神戸市西区医師会講演会, 神戸, 2019.2.14
11. 雲井一夫: 喉頭結核 10 症例の臨床的特徴と問題点(第 2 報). 第 19 回西神戸耳鼻いんこう科オープンカンファレンス, 神戸, 2019.2.28
12. 横井 純: 咽後膿瘍が疑われた石灰沈着性頸長筋腱炎の 1 例. 第 19 回西神戸耳鼻いんこう科オープンカンファレンス, 神戸, 2019.2.28
13. 堀地祐人: めまいを前駆症状とした小脳梗塞の 2 例. 第 19 回西神戸耳鼻いんこう科オープンカンファレンス, 神戸, 2019.2.28
14. 四宮 瞳: 診断に苦慮した咽頭痛の 1 例. 第 19 回西神戸耳鼻いんこう科オープンカンファレンス, 神戸, 2019.2.28
15. 小嶋康隆: 耳科内視鏡手術が有効であった先天性真珠腫遺残再発の 1 例. 第 19 回西神戸耳鼻いんこう科オープンカンファレンス, 神戸, 2019.2.28
16. 横井 純, 四宮 瞳, 堀地祐人, 小嶋康隆, 雲井一夫: 頸部リンパ節結核 18 症例の臨床的検討. 第 191 回日耳鼻兵庫県地方部会, 姫路, 2019.3.24

IX. 3. 22 歯科口腔外科

1. 犬伏正和, 天野 均, 大庭伸介, 岩城 太: ヘリオキサンチン誘導体は NO 産生と PDE 阻害により破骨細胞分化を抑制する. 第 38 回骨形態計測学会, 大阪, 2018.6.23
2. 天野 均, 犬伏正和, 大庭伸介, 岩城 太: ヘリオキサンチン誘導体による破骨細胞分化抑制は NO 産生と PDE 阻害を介する. 第 36 回日本骨代謝学会学術集会, 長崎, 2018.7.28
3. 天野 均, 大庭伸介, 岩城 太: ヘリオキサンチン誘導体による破骨細胞分化抑制は NO 産生と PDE 阻害を介する. 第 60 回歯科基礎医学会学術大会, 福岡, 2018.9.7
4. 平井雄三, 竹信俊彦, 向仲佑美香, 前田圭吾, 山本信祐, 谷池直樹: 顎関節強直症の高齢患者に対して顎関節授動術を施行した 2 例. 第 63 回日本口腔外科学会学術大会, 千葉, 2018.11.2
5. 岩城 太, 片山麻梨子, 朴 成泰: 切除生検を行った舌白板症の臨床病理学的検討. 第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2018.11.2
6. 朴 成泰, 岩城 太, 片山麻梨子: 切除 14 年後に局所再発した上顎扁平歯原性腫瘍の 1 例. 第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2018.11.4

IX. 3. 23 放射線診断科

1. 小路田泰之, 平林沙織, 吉川俊紀, 北村ゆり, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 河邊哲也, 東野真志, 西原賢在, 細田弘吉, 石原美佐, 橋本公夫: dysplastic cerebellar gangliocytoma (Lhermitte-Duclos 病) の 1 例. 第 51 回兵庫県磁気共鳴医学研究会, 神戸, 2018.7.25
2. 小路田泰之, 平林沙織, 吉川俊紀, 北村ゆり, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 河邊哲也: 異食 (靴下) による食餌性イレウス. 第 49 回神戸放射線医学学術交流会, 神戸, 2018.11.7
3. 小路田泰之, 平林沙織, 吉川俊紀, 北村ゆり, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 河邊哲也, 東野真志, 西原賢在, 細田弘吉, 石原美佐, 橋本公夫: dysplastic cerebellar gangliocytoma (Lhermitte-Duclos 病) の 1 例. 第 321 回日本医学放射線学会 関西地方会, 大阪, 2019.2.9
4. 小路田泰之, 平林沙織, 吉川俊紀, 北村ゆり, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 河邊哲也: 片側性肺水腫の 1 例. 第 40 回播磨画像診断研究会, 明石, 2019.2.28

IX. 3. 24 看護部

1. 稲山友代, 友次佳代, 正井志穂, 御園和美, 伊藤哲之, 橋口周子: がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターで従事するがん専門相談員が抱える困難と対処—(第 2 報) 兵庫県下のがん相談支援相談員へのインタビュー結果の分析—. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, 2018.6.15-16
2. 大城戸結奈, 津川 紀, 多田公英, 川島亜季, 北川 恵: 認知症を発症した独居の結核患者への退院支援. 第 121 回日本結核病学会近畿地方会・第 91 回日本呼吸器学会近畿地方会, 神戸, 2018.7.7
3. 藤岡明子, 中澤みなみ, 金沢光代, 美濃幸代, 瀧澤紘輝, 中谷晃子, 前田千晶, 櫻井稔泰, 八木哉子: 看護師が使用する手動式カフ圧計と自動式カフ圧計の操作性と使用感の比較~看護援助場面に焦点をあてて~. 第 40 回呼吸療法医学会学術集会, 東京, 2018.8.4-5
4. 藤原和世, 中谷尚子, 田中亜希子, 習田祐子, 小林由香, 萩岡あかね, 岡永真由美, 二宮啓子, 春名寛香: 手術室看護師が行う手術室探検ツアーの導入とその効果 (第 1 報) ~手術室看護師の認識と行動の変化~. 第 49 回 (平成 30 年度) 日本看護学会 (急性期看護), 大分, 2018.9.7-8
5. 中谷尚子, 藤原和世, 田中亜希子, 習田祐子, 小林由香, 萩岡あかね, 岡永真由美, 二宮啓子, 春名寛香: 手術室看護師が行う手術室探検ツアーの導入とその効果 (第 2 報) ~手術室看護師が認識した子どもと家族の変化~. 第 49 回 (平成 30 年度) 日本看護学会 (急性期看護), 大分, 2018.9.7-8
6. 今田まさよ, 可知明日香, 田中珠美, 村上美千世, 王子めぐみ, 井上 薫, 板東由美: 退院調整看護師がおこなった病棟での勉強会の考察と課題, 第 57 回全国自治体病院学会, 福島, 2018.10.18-19
7. 瀧澤紘輝, 平野通子, 舟木 淳, 荒木敬雄, 崎山 愛, 板東由美, 平尾明美: 二次救急病棟で勤務する看護師のキャプテンシー教育プログラムによる参加者の変化. 第 20 回日本救急看護学会学術集会, 和歌山, 2018.10.19-20
8. 板東由美, 長田敏子, 波田弥生, 花井理沙, 西本里美, 池田律子: 診療所看護師による医療・介護の連携に必要な看護情報の検討. 第 19 回日本医療情報学会学術大会, 福岡, 2018.11.22-25

IX. 3. 25 薬剤部

1. 西村 亮, 佐藤雄一, 奥野昌宏, 中浴伸二, 中田 学: DPP-4 阻害薬の連日製剤から週 1 回製剤への変更に伴う服薬アドヒアランス、糖尿病治療満足度質問票の変化および治療成績への影響. 第 2 回日本老年薬学会学術大会, 東京, 2018.5.12-13
2. 山崎彬史, 奥野昌宏, 中浴伸二, 中田 学: 入院中に認知機能低下があり、他職種連携により内服薬を整理して自己管理可能にできた一症例. 第 2 回日本老年薬学会学術大会, 東京, 2018.5.12-13
3. 中西真也: 抗がん薬自動調製ロボット導入によるミキシング業務効率化とその後の業務展開. 第 6 回日本医療薬学会がん専門薬剤師全体会議, 東京, 2018.5.12
4. 山崎彬史, 高柳信子, 奥野昌宏, 中浴伸二, 中田 学: 結核病棟において、リファンピシン (RFP) 使用中の患者に対してオピオイドの選択に介入した 2 症例. 第 12 回日本緩和医療薬学会年会, 東京, 2018.5.25-27
5. 村上朋美, 山崎彬史, 高柳信子, 奥野昌宏, 中浴伸二, 中田 学: 肺癌患者の呼吸苦に対して、病棟配置薬剤師の提案によりロラゼパムを使用し、呼吸苦が緩和できた一症例. 第 12 回日本緩和医療薬学会年会, 東京, 2018.5.25-27

6. 西村 亮, 中西真也, 吉野新太郎, 原田卓弥, 中浴伸二, 濱 宏仁, 森本茂文: カルボプラチン-アルブミン結合パクリタキセル療法におけるアプレピタント投与の有無による制吐効果への影響. 第 28 回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
7. 山崎彬史, 濱 宏仁, 中浴伸二, 森本茂文: β_2 受容体刺激吸入薬に起因する低カリウム血症についての調査. 第 28 回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25
8. 森本めぐみ, 濱 宏仁, 中浴伸二, 森本茂文: 分娩後の予防的メチルエルゴメトリンおよび抗菌薬内服投与の廃止に伴う影響の有無に関する検討. 第 28 回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23-25

IX. 3. 26 臨床検査技術部

1. 川井順一: 心エコースタートアップライブ-断層法-. 第 43 回日本超音波検査学会学術集会, 大阪, 2018.6.2
2. 川井順一: 心臓超音波検査 基本断面の描出と基本計測を身につける. 兵庫県技師会主催生理検査研修会, 神戸, 2018.8.25
3. 川井順一: 腹部・心臓超音波検査の基本断面の描出と基本計測を身につけるハンズオンセミナー. 兵庫県技師会主催生理検査研修会, 神戸, 2018.8.26
4. 登尾 薫, 川崎 悠, 松原康策, 川北かおり: 胎児期より経過観察できた先天性胆道拡張症の 1 例. 日本超音波医学会 第 45 回関西地方会学術集会, 神戸, 2018.10.20
5. 竹川啓史: 真菌検査の基礎から臨床. 平成 30 年度福井県臨床検査技師会臨床微生物部門研修会, 福井, 2018.10.20
6. 久下加奈栄, 奥野敏隆, 登尾 薫, 真鍋美香, 廣瀬圭子: チームで取り組む乳房超音波検査. 日本超音波医学会 第 45 回関西地方会学術集会, 神戸, 2018.10.20
7. 安井佑季, 登尾 薫, 角田敏明, 川井順一: 虚血性心疾患との鑑別に苦慮した左脚ブロックによる心筋メモリーの一例. 第 58 回日臨技近畿支部医学検査学会, 奈良, 2018.12.1
8. 池町真実, 山本 剛, 国寶香織, 竹川啓史: 血清型 12F による侵襲性肺炎球菌感染症の 10 症例. 第 30 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 東京, 2019.2.2
9. 竹川啓史: 深在性真菌症対策 検査室の取り組み. 第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会, 神戸, 2019.2.22
10. 竹川啓史: Antifungal stewardship 他職種による取り組み. 第 6 回日本医真菌学会関西支部「深在性真菌症研究会」, 大阪, 2019.3.16
11. 安井佑季, 木下美菜子, 登尾 薫, 角田敏明, 川井順一, 吉開友羽子, 山根啓一郎, 中川雅之, 川戸充徳, 江尻純哉, 永澤浩志: 心電図検査における深い陰性 T 波と原因心疾患についての検討～心筋メモリーの一例を経験して～. 第 83 回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2019.3.30

IX. 3. 27 放射線技術部

1. 横尾宏之, 林 亮太, 橋本強志, 三浦雅夫: MRI 装置における呼吸停止下腎動脈 MRA 撮像の検討. 平成 30 年度神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2018.11.10
2. 竹村伊史, 浦田萌江, 中元勝利, 森 克人, 三浦雅夫: 新装置導入における患者照射基準点での線量測定と検討. 平成 30 年度神戸市放射線技師会研修会, 神戸, 2018.11.10
3. 横尾宏之, 林 亮太, 橋本強志, 三浦雅夫: MRI 装置における呼吸停止下腎動脈 MRA 撮像の検討. 第 2 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2019.2.23

IX. 3. 28 リハビリテーション技術部

1. 白井裕美子, 雲井一夫: 当科における声帯結節症例の臨床的特徴と音声治療経過-小児例と成人例の比較-. 第 188 回日耳鼻兵庫県地方部会 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会), 尼崎, 2018.4.1
2. 垣内優芳, 岸本和昌, 加藤博史, 田中利明, 桜井稔泰: 早期離床時における自動カフ圧計の使用有無によるカフ圧変動差: 症例報告. 第 5 回日本呼吸理学療法学会学術大会, 横浜, 2018.7.16
3. 井上達朗, 三栖翔吾, 田中利明, 垣内優芳, 笥 哲也, 岩田健太郎, 坂本裕規, 中馬優樹, 小野 玲: 大腿骨近位部骨折患者における不適切な食事摂取量は入院中の ADL 改善を低下させる. 第 5 回日本予防理学療法学会学術大会, 福岡, 2018.10.20

4. 笥 哲也, 垣内優芳, 海老名葵, 清水洋介, 桜井三希子, 竹内康人, 金丸聰淳: ロボット支援前立腺全摘除術を実施した前立腺癌患者に対する理学療法士による術前後骨盤底筋訓練指導の活動報告. 第 56 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018.10.21
5. 田中利明: 「人生 100 年時代を安心して迎えるために準備しておくこと」人生 100 年時代を健康な体で迎えるために! ~その答えは運動にあります! ~: 講演. 平成 30 年度身近な保健医療講座, 神戸, 2019.2.7
6. 井上達朗, 田中利明, 垣内優芳, 笥 哲也, 島村康弘, 井谷智尚, 京極高久: 消化管疾患術後にリハビリテーションを要した低 ADL 患者における退院時四肢骨格筋量指数の予測因子について. 第 34 回日本静脈経腸栄養学会, 東京, 2019.2.14
7. 田中利明, 井上達朗, 笥 哲也, 垣内優芳, 島村康弘, 櫻井稔泰: 高齢者市中肺炎患者におけるサルコペニア罹患が ADL 能力に及ぼす影響. 第 34 回日本静脈経腸栄養学会, 東京, 2019.2.14
8. 井上達朗, 島村康弘, 森田祐介: 低栄養大腿骨近位部骨折患者を対象とした急性期病院におけるリハビリ栄養カンファレンスが ADL に与える影響 (シンポジウム). 第 34 回日本静脈経腸栄養学会, 東京, 2019.2.15
9. 垣内優芳, 中田庸介, 吉田晃久, 西原賢在: ANCA 関連血管炎の寛解導入期における運動療法経験: 症例報告. 第 9 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 大分, 2019.3.9

IX. 3. 29 臨床工学室

1. 藤井清孝: 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び、保守点検の実際. 兵庫県臨床工学技士会 第 56 回定期学習会, 神戸, 2018.5.13
2. 中本皓太: オープンフェースマスク導入による適切な酸素療法の実現. 第 28 回日本臨床工学会 アトムメディカルホスピタリティールームセミナー, 横浜, 2018.5.26
3. 藤井清孝, 井上宗紀, 加藤博史, 大野ゆう子: ベッドサイドモニタの既存機能を利用した無線 LAN テレメータ点検方法. 第 93 回日本医療機器学会大会, 横浜, 2018.6.1
4. 藤井清孝, 井上宗紀, 加藤博史, 大野ゆう子: 臨床工学技士によるテレメータ電波管理の問題点. 第 93 回日本医療機器学会大会シンポジウム, 横浜, 2018.6.1
5. 井上宗紀: リスクマネジメントの実施. 平成 30 年度医療機器安全基礎講習会, 大阪, 2018.8.17
6. 中本皓太, 加藤博史: 地域包括ケアに向けた呼吸サポートチームの取り組み. 兵庫県呼吸ケアリハビリテーション懇話会, 神戸, 2018.9.9
7. 岸本和昌: 当院の内視鏡手術における手術室臨床工学技士の業務. 第 40 回日本手術医学会総会, 東京, 2018.10.12
8. 岸本和昌: 医療機器データを用いたプッシュ通知システムの検討. 第 38 回医療情報学連合大会, 福岡, 2018.11.2
9. 中本皓太: 在宅人工呼吸における災害対策. 兵庫県臨床工学技士会在宅人工呼吸セミナー, 篠山, 2018.12.1
10. 藤井清孝: 医療機関における電波の安全使用のための ICT 活用及び人材育成. 総務省 / 電波環境協議会主催医療機関における安心・安全な電波利用促進シンポジウム, 東京, 2019.2.28
11. 中本皓太, 岸本和昌, 藤井清孝: 自動カフ圧コントローラ Smart Cuff の性能評価. 第 46 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019.3.2
12. 岸本和昌: 麻酔器の基礎—構造と保守管理方法—. 兵庫県臨床工学技士会 第 17 回 ME セミナー 周術期管理と麻酔の基礎, 西宮, 2019.3.16

IX. 3. 30 栄養管理室

1. 島村康弘, 寺園沙矢香, 中林瑞保, 出口千尋, 矢野千晶, 有岡靖隆, 井谷智尚, 京極高久: 高齢者胃癌の術後栄養摂取および体重減少に関する検討. 第 10 回日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会, 神戸, 2018.7.7
2. 有岡靖隆, 島井隆志, 前野 愛, 高田有美, 米田知恵子, 風張純美, 赤沢尚美, 岩本昌子, 塩谷育子, 三村のぞみ, 高木磨子, 林田美香子, 中村恭葉: 兵庫臨床管理栄養士研究会の活動について. 第 10 回日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会, 神戸, 2018.7.7
3. 島村康弘, 寺園沙矢香, 中林瑞保, 出口千尋, 矢野千晶, 有岡靖隆, 井上達朗, 田中利明, 井谷智尚, 京極高久: 胃癌術後患者の入院期間における体組成変化について. 第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 東京, 2019.2.15

IX. 3. 31 感染防止対策室

1. 中島佳代，池町真実，竹川啓史，山崎貴之，中浴伸二，磯目賢一，新井まゆこ，山本 剛：侵襲性髄膜炎菌感染症 2 事例での二次感染予防. 第 34 回日本環境感染学会総会・学術集会，神戸，2019.2.22

IX. 4 神戸アイセンター病院

IX. 4.1 診療部

1. 西田明弘, 高木誠二, 平見恭彦, 宮本紀子, 万代道子, 栗本康夫: 網膜静脈分枝閉塞症に対する抗 VEGF 薬単回投与 1 ヶ月後視力と 12 ヶ月後視力の相関. 第 122 回日本眼科学会, 大阪, 2018.4.19
2. 藤井祥太, 杉田 直, 真壁健一, 鎌尾浩行, 坂口裕和, 平見恭彦, 栗本康夫, 高橋政代: ヒト iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞のカニクイザルへの網膜下移植術の免疫学的評価. 第 122 回日本眼科学会, 大阪, 2018.4.19
3. 高木誠二, 後町清子, 万代道子, 平見恭彦, 藤原雅史, 山本 翠, 宮越千智, 富田剛司, 高橋政代, 栗本康夫: 補償光学眼底カメラを用いた自家 iPS 細胞由来網膜色素上皮シートの観察. 第 122 回日本眼科学会, 大阪, 2018.4.19
4. 栗本康夫: 網膜再生治療の硝子体手術をめざして (ランチョンセミナー). 第 122 回日本眼科学会, 大阪, 2018.4.20
5. 山本庄吾, 宮本紀子, 吉水 聡, 吉武 信, 石田和寛, 栗本康夫: 糖尿病黄斑浮腫に対するアフリバルセプト導入後の SD-OCT での網膜形態学的特徴の検討. 第 122 回日本眼科学会, 大阪, 2018.4.22
6. Yamanari M, Matsuzaki M, Takagi S, Sugiyama S, Miyamoto N, Hirami Y, Koide N, Jaillon F, Suzuki D, Totani K, Horikoshi K, Oshima S, Mandai M, Takahashi M, Kurimoto Y: Polarization-sensitive swept-source OCT imaging of retinal pigment epithelium and subretinal fibrous tissues. The Association for Reserch in Vision and Ophthalmology (ARVO) Annual Meeting, Honolulu, Hawaii, 2018.4.29
7. Guangzhou An, Takagi S, Hirami Y, Mandai M, Takahashi M, Kurimoto Y, Yokota H, Akiba M: Automatic classification of Age-related Macular Degeneration and normal OCT images using deep learning based approach. The Association for Reserch in Vision and Ophthalmology (ARVO) Annual Meeting, Honolulu, Hawaii, 2018.4.30
8. Miyamoto N, Yamamoto S, Yoshimizu S, Yoshitake S, Ishida K, Kurimoto Y: Twelve-month outcomes of ellipsoid zone and external limiting membrane status after intravitreal aflibercept in diabetic macular edema. The Association for Reserch in Vision and Ophthalmology (ARVO) Annual Meeting, Honolulu, Hawaii, 2018.5.1
9. Matsuzaki M, Takagi S, Mandai M, Sugiyama S, Yamanari M, Totani K, Miyamoto N, Hirami Y, Ohshima S, Takahashi M, Kurimoto Y: Observation of the transplanted autologous induced pluripotent stem cell-derived retinal pigment epithelial cell sheet using polarization-sensitive optical coherence tomography. The Association for Reserch in Vision and Ophthalmology (ARVO) Annual Meeting, Honolulu, Hawaii, 2018.5.2
10. 宮本紀子: DME 治療のアプローチ. 第 3 回 H3 (エイチキューブ) DME 研究会, 神戸, 2018.5.25
11. 広瀬文隆: 前眼部 OCT で閉塞隅角を解き明かす! 第 8 回福島眼科セミナー, 郡山, 2018.5.26
12. 栗本康夫: 神戸市立神戸アイセンター病院の取り組み. 第 14 回 OG 眼科研究会, 神戸, 2018.5.26
13. 山本庄吾: 糖尿病性網膜症患者を内科、眼科の双方からの視点で診る. 糖尿病性網膜症の予防・治療を考える～内科・眼科連携の会～, 神戸, 2018.6.21
14. 宮本紀子: 眼科医による視点 (講演). 糖尿病性網膜症の予防・治療を考える～内科・眼科連携の会～, 神戸, 2018.6.21
15. 酒井大輝, 高木誠二, 平見恭彦, 藤原雅史, 栗本康夫: 黄斑前膜における網膜外層変化と変視の関係. 第 25 回兵庫県黄斑疾患研究会, 神戸, 2018.6.23
16. 中村隆宏, 外園千恵, 伊藤晋一郎, 平見恭彦, 藤原雅史, 高木誠二, 栗本康夫: 広範囲の虹彩欠損を伴う水疱性角膜症に対する DSAEK の臨床経過報告. 第 12 回京都眼科学会 (平成 30 年度), 京都, 2018.6.24
17. 栗本康夫, 広瀬文隆, 家木良彰, 黒田真一郎: 原発隅角閉塞 (PACD) に対する水晶体再建術 (インストラクションコース). 第 33 回 JSCRS 学術総会, 東京, 2018.6.30
18. 平見恭彦: 再生医療とロービジョンケア・神戸アイセンターの取り組み (講演). 京都難病連医療講演会, 京都, 2018.7.1
19. 伊藤晋一郎, 高木誠二, 高橋政代, 杉田 直, 平見恭彦, 藤原雅史, 宇津永遠, 安積 淳, 栗本康夫: インフルエンザ罹患後に生じた中心暗点を伴う網膜症の 1 例. フォーサム 2018 東京, 第 55 回日本眼感染症学会, 東京, 2018.7.14
20. 栗本康夫: 原発閉塞隅角病 (PACD) の治療戦略 (講演). 第 36 回道北眼科集談会, 旭川, 2018.8.25

21. Hirami Y: Transplantation of autologous induced pluripotent stem cell-derived retinal pigment epithelium cell sheets for exudative age related macular degeneration: A pilot clinical study (Symposium) . 5th Termis world congress 2018, Kyoto, 2018.9.7
22. 戸谷皇太, 松崎光博, 山成正宏, 杉山 聡, 高木誠二, 宮本紀子, 平見恭彦, 万代道子, 高橋政代, 栗本康夫: 偏光感受型 OCT による白内障術後正常眼における網膜色素上皮の偏光乱雑性の定量評価. 第 54 回日本眼光学学会, 新潟, 2018.9.9
23. 栗本康夫: シンポジウム「PACD NOW !」オーガナイザーズオープニングリマーク (シンポジウムオーガナイザー). 第 29 回日本緑内障学会, 新潟, 2018.9.14
24. 田中沙織, 藤原雅史, 広瀬文隆, 高木誠二, 吉水 聡, 山本庄吾, 許沢尚弘, 松崎光博, 栗本康夫: Long-term result of the Ex-PRESS in POAG 原発開放隅角緑内障に対する Ex-PRESS の中長期成績. 第 29 回日本緑内障学会, 新潟, 2018.9.14
25. 小林 航, 大西暁士, 西口康二, 藤原雅史, 平見恭彦, 栗本康夫, 布施昇男, 中澤 徹, 高橋政代: Purified RGCs derived from NTG patient-induced pluripotent stem cells. 第 29 回日本緑内障学会, 新潟, 2018.9.15
26. 吉水 聡: The risk assessment of acute primary angle closure 急性原発閉塞隅角症のリスク評価 (シンポジウム). 第 29 回日本緑内障学会, 新潟, 2018.9.15
27. 山本 翠, 別府あかね, 山田千佳子, 高木誠二, 平見恭彦, 仲泊 聡, 栗本康夫, 高橋政代: 神戸アイセンター病院とロービジョンケアフロア「ビジョンパーク」連携についての報告. 第 27 回視覚障害リハビリテーション研究発表大会, 神戸, 2018.9.16
28. 田中沙織: 緑内障関連 (ミニ教育セミナー). Kobe Ophthalmic Resident Salon 9, 神戸, 2018.9.22
29. 山本庄吾: 角膜ヘルペス後に涙小管閉塞を生じた一例 (パネルディスカッション). 第 16 回兵庫眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2018.10.6
30. 平見恭彦: 網膜色素変性の臨床研究 (宿題報告). 第 6 回 TRF 研究会, 東京, 2018.10.10
31. 高木誠二, 戸谷皇太, 万代道子, 前田亜希子, 松崎光博, 平見恭彦, 宮本紀子, 山成正宏, 杉山 聡, 石田政弘, 高橋政代, 栗本康夫: 偏光感受性光干渉断層計を用いた網膜色素変性症における網膜色素上皮の評価. 第 72 回日本臨床眼科学会, 東京, 2018.10.11
32. 羽藤 晋, 大家義則, 奥村直毅, 許斐健二, 平見恭彦: 事例を通じて学ぼう! トランスレーショナルリサーチとは (インストラクションコース). 第 72 回日本臨床眼科学会, 東京, 2018.10.12
33. 前田亜希子, 高木誠二, 山本 翠, 秋葉龍太郎, 吉田晶子, 河合加奈子, 稲葉 慧, 許沢尚弘, 平見恭彦, 栗本康夫, 高橋政代: EYS 網膜色素変性における臨床像の検討. 第 72 回日本臨床眼科学会, 東京, 2018.10.13
34. 吉水 聡: 原発閉塞隅角病の治療戦略—用語の基本から困った症例の対応まで— (インストラクションコース). 第 72 回日本臨床眼科学会, 東京, 2018.10.13
35. 栗本康夫: 原発閉塞隅角病の治療戦略—用語の基本から困った症例の対応まで— (インストラクションコース・オーガナイザー). 第 72 回日本臨床眼科学会, 東京, 2018.10.13
36. 秋葉龍太郎, 前田亜希子, 吉田晶子, 河合加奈子, 高木誠二, 平見恭彦, 栗本康夫, 山本修一: 若年性腎不全を合併した Senior-Loken Syndrome の 2 例. 第 72 回日本臨床眼科学会, 東京, 2018.10.13
37. 松崎光博, 高木誠二, 万代道子, 杉山 聡, 山成正宏, 戸谷皇太, 宮本紀子, 平見恭彦, 大島 進, 高橋政代, 栗本康夫: 偏光感受型光干渉断層計による自家 iPS 細胞由来網膜色素上皮シートの観察. 第 72 回日本臨床眼科学会, 東京, 2018.10.13
38. 宮本紀子, 戸谷皇太, 松崎光博, 高木誠二, 万代道子, 杉山 聡, 山成正宏, 平見恭彦, 大島 進, 高橋政代, 栗本康夫: 偏光感受型光干渉断層計にて観察した加齢黄斑変性の脈絡膜新生血管. 第 72 回日本臨床眼科学会, 東京, 2018.10.13
39. 宮本紀子, 山本庄吾, 田中沙織, 吉武 信, 栗本康夫: 糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体手術後 5 年間の追加治療についての検討. 第 24 回日本糖尿病眼学会, 東京, 2018.10.20
40. 栗本康夫: iPS 細胞を用いた網膜色素上皮移植 (特別講演). 第 33 回沖縄緑内障研究会プログラム, 沖縄, 2018.10.21
41. 田中沙織, 吉武 信, 山本 翠, 別府あかね, 山田千佳子, 松崎光博, 山本庄吾, 吉水 聡, 伊藤晋一郎, 藤原雅史, 平見恭彦, 前田忠郎, 宮本紀子, 西田明弘, 仲泊 聡, 高橋政代, 栗本康夫: 神戸アイセンター病院とロービジョンケアフロア「ビジョンパーク」連携について. 第 69 回京大眼科同窓会学会, 京都, 2018.10.21

42. 山本 翠：術後検査の注意点（講演）. Cataract Refractive Surgery Academy, 東京, 2018.10.27
43. 平見恭彦：術後の視機能（講演）. Cataract Refractive Surgery Academy, 東京, 2018.10.27
44. 平見恭彦：患者説明のポイント（講演）. Cataract Refractive Surgery Academy, 東京, 2018.10.27
45. 平見恭彦：多焦点眼内レンズの導入（講演）. Cataract Refractive Surgery Academy, 東京, 2018.10.27
46. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜色素上皮移植（特別講演）. Nagasaki Macula Meeting, 長崎, 2018.11.10
47. 藤原雅史：当院における谷戸式フックを用いた線維柱帯切開術眼内法（ミニ教育講演）. 第20回兵庫県眼科フォーラム, 神戸, 2018.11.10
48. 山本 翠：術後検査の注意点（講演）. Cataract Refractive Surgery Academy November, 東京, 2018.11.17
49. 平見恭彦：術後の視機能（講演）. Cataract Refractive Surgery Academy November, 東京, 2018.11.17
50. 平見恭彦：患者説明のポイント（講演）. Cataract Refractive Surgery Academy November, 東京, 2018.11.17
51. 平見恭彦：多焦点眼内レンズの導入（講演）. Cataract Refractive Surgery Academy November, 東京, 2018.11.17
52. 栗本康夫：網膜再生医療のしくみ作り（アドバイザー）. 第32回日本泌尿器内視鏡学会, 仙台, 2018.11.27
53. 栗本康夫：神戸アイセンター病院の一年（講演）. 神戸医療産業都市20周年記念事業 開設一周年記念講演会, 神戸, 2018.12.2
54. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜色素上皮移植（講演）. Alcon Pharma Web Symposium, 神戸, 2018.12.4
55. 高木誠二, 工藤重樹, 安光 州, 横田秀夫, 秋葉正博, 平見恭彦, 万代道子, 高橋政代, 石田政弘, 栗本康夫：黄斑上膜における網膜表面の皺襞と光屈折のシミュレーション. 第57回日本網膜硝子体学会, 京都, 2018.12.7
56. 栗本康夫, 平見恭彦, 藤原雅史, 高木誠二, 森永千佳子, 山本 翠, 杉田 直, 万代道子, 高橋政代：滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮シート移植：4年の臨床経過. 第57回日本網膜硝子体学会, 京都, 2018.12.7
57. 西田明弘, 松崎光博, 平見恭彦, 宮本紀子, 万代道子, 栗本康夫：網膜中心静脈閉塞症に対する抗VEGF薬単回投1ヶ月視力と12ヶ月後視力の相関. 第57回日本網膜硝子体学会, 京都, 2018.12.8
58. 西田明弘：網膜静脈閉塞症治療の変遷（講演）. 第137回倉敷眼科臨床懇話会, 倉敷, 2018.12.13
59. 宇山紘史, 松崎光博, 平見恭彦, 杉田 直, 仲泊 聡, 高橋政代, 栗本康夫：ぶどう膜炎に外転神経麻痺を合併し、涙液PCR検査で水痘帯状疱疹ウイルス感染と診断した帯状疱疹の1例. 第56回日本神経眼科学会, 神戸, 2018.12.14
60. 松崎光博, 瀬川翔太, 藤本寛太, 小倉健吾, 上田浩之, 宇山紘史, 石井淳子, 平見恭彦, 仲泊 聡, 栗本康夫：甲状腺眼症が疑われた自己免疫性甲状腺疾患患者における眼窩筋炎の1例. 第56回日本神経眼科学会, 神戸, 2018.12.15
61. 栗本康夫：iPS細胞を用いた網膜色素上皮移植（特別講演）. 眼科おたくの会, 神戸, 2018.12.16
62. 平見恭彦：網膜色素変性外来報告. 第2回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会, 神戸, 2018.12.21
63. 藤原雅史：当院における谷戸フックを用いた繊維柱帯切開術眼内法の短期成績. 第21回緑内障手術研究会, 大阪, 2019.1.18
64. 栗本康夫：iPS細胞による網膜再生医療と神戸アイセンター（特別講演）. 第206回宮城県眼科集談会, 仙台, 2019.1.19
65. 田中沙織, 吉水 聡, 栗本康夫：当院におけるORATM術中波面収差測定装置導入前後の術後屈折誤差. 第42回日本眼科手術学会, 横浜, 2019.2.2
66. 平見恭彦：網膜再生医療における手術手技（シンポジウム）. 第42回日本眼科手術学会, 横浜, 2019.2.2
67. 栗本康夫：再生医療と眼科手術（シンポジウム・オーガナイザー）. 第42回日本眼科手術学会, 横浜, 2019.2.2
68. 栗本康夫：人工多能性幹（iPS）細胞由来網膜色素上皮移植術（シンポジウム）. 第42回日本眼科手術学会, 横浜, 2019.2.3
69. 広瀬文隆：隅角癒着解離術（GSL）（シンポジウム）. 第42回日本眼科手術学会, 横浜, 2019.2.3
70. 栗本康夫：原発閉塞隅角病（PACD）の診断と治療. 第25回山梨緑内障研究会, 甲府, 2019.2.14
71. 許沢尚弘, 高木誠二, 安光 州, 北畑将平, 平見恭彦, 万代道子, 横田秀夫, 秋葉正博, 高橋政代, 栗本康夫：深層学習を用いた正常と加齢黄斑変性の分類と加齢黄斑変性の滲出性の分類. 第26回兵庫県黄斑疾患研究会, 神戸, 2019.2.23

72. 田中沙織, 吉水 聡, 栗本康夫: 当院における ORATM 術中波面収差測定装置導入前後の術後屈折誤差. 第 38 回神戸市立医療センター中央市民病院・神戸アイセンター病院眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2019.3.2
73. Hiram Y: Connecting low vision patients from hospital to organizations supporting disabilities (Symposium) . APAO2019, Bangkok, Thailand, 2019.3.8
74. 藤原雅史: 緑内障の病態とその治療. 兵庫県保険医協会薬科部研究会, 神戸, 2019.3.16
75. 許沢尚弘: 眼科領域の AI とロボット. 第 26 回兵庫県網膜硝子体研究会【電気羊の会】, 神戸, 2019.3.16
76. 前田忠郎: iPS 細胞由来網膜色素上皮の製剤最適化に向けた品質管理戦略(招待講演). Seahorse XF 再生医療・幹細胞研究フォーラム, 神戸, 2019.3.20
77. 前田忠郎, 北畑将平, 坂井徳子, 宮脇正義, 平見恭彦, 栗本康夫, 高橋政代: ヒト iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞の凍結解凍後における細胞代謝機能測定. 第 18 回日本再生医療学会, 神戸, 2019.3.21
78. 吉水 聡: 急性原発閉塞隅角症のリスク評価. 第 16 回兵庫県オフサルミックセミナー, 神戸, 2019.3.24

編集後記

令和元年の最も嬉しいニュースは、ラグビーワールドカップにおける日本の活躍です。4年前のイギリス大会以上に人々を熱狂させ、ラグビー人気を一気に上昇させた功績は大きく、国民にラグビーに対する親近感を持たせてくれました。大学時代にラグビーをやっていた小生としても誇らしく、頼もしく思います。

9月28日のアイルランド戦は世界に衝撃を与えました。開幕前は世界ランキング1位（対戦時2位）のアイルランドを、19対12で破ったのです。前半20分に2本目のトライをとられ、3対12とリードされるものの、素晴らしいタックルで追加点を許さず、日本のユニフォームを着た5万人の観客の後押しもあって、前半を9対12で折り返しました。

後半は徐々に日本のペースとなり、18分敵陣でのスクラムからバックスが仕掛けてウィングの福岡堅樹がトライを挙げ逆転に成功しました。彼は医者を目指しています。トライはこの1本でしたが、日本の優勢は続き19対12でノーサイドになりました。国籍、人種は異なってもワンチームという言葉が流行させた大会でもありました。

さて、今回の紀要は、総説、原著、症例、留学報告の4編が掲載されています。まず細谷亮中央市民病院院長の総説から始まります。平成30年に泌尿器科以外の術式にも保険適用されるとの予測のもと、その前年ロボット手術センターが開設されました。その立ち上げ、運営と

経営的側面について概説され、実績と課題、さらに将来展望まで言及されています。次に、中央市民の婦人科から今後増加が予測される家族性・遺伝性腫瘍の相談外来の立ち上げに関する原著、西市民病院の臨床検査技術部からの貴重な症例報告、そして西市民病院の呼吸器内科から長崎大学への国内留学の報告と続きます。どれも興味深い内容で、いわゆる医学雑誌ではなかなか掲載されない内容となっていますので、ふとこの紀要を手にとられたなら是非目を通して戴きたいです。

最後に、本誌の編集から発刊までご尽力いただいている、法人本部の企画財務課の皆様には感謝いたします。アイルランド戦で試合に最も貢献した選手に贈られるプレイヤー・オブ・ザ・マッチにはフッカー（スクラムの先頭の真ん中）の堀江翔太（ドレッドヘアの奇抜な髪形）でした。フロントロー（スクラムの先頭の3人）はラグビーでは縁の下の力持ち的な役割で、トライどころかボールにも触れないことの多いポジションです。法人本部の皆様にはプレイヤー・オブ・ザ・キョウを差し上げたいと思います。

神戸市立医療センター中央市民病院 泌尿器科

川喜田睦司

神戸市立病院紀要投稿規程

1. 神戸市立病院紀要は、地方独立行政法人神戸市民病院機構に勤務する医療従事者の研究論文を掲載し、学会報告、その他の学術活動（前年度における業績）を広く記録し、年1回の発刊とする。
2. 投稿者は、地方独立行政法人神戸市民病院機構に勤務する医療従事者に限る（共著はさしつかえない）。編集委員会で依頼した原稿は、この限りでない。
3. 投稿論文の内容は、他誌に未発表であり、現在投稿中ではないこと。
4. 原稿の採否は、編集委員会が決定する。また、原稿の体裁、長さ、文体などについて著者に変更を求められることがある。

- なお、掲載済の原稿は返却しない。
5. 原稿の種類および原稿枚数
 - (1) 論文（総説）……………字数制限なし
（原著）……………16000字以内
（症例報告）……………8000字以内
（医療研究報告）……………16000字以内
 - (2) 医学振興事業等研究費補助による業績報告……………16000字以内
 - (3) 学会報告・論文発表（業績リスト）……………診療科ごとに提出
 - (4) CPC報告……………1症例2600字以内
（所定の様式を使用）

6. 執筆要領は、次による。
 - A. 論文（総説、原著、症例報告、医療研究報告）
 - (1) 執筆様式は次の通りとする。
※総説・原著・症例報告は下記①から⑥の順での執筆とする。
医療研究報告は①②⑤⑥の順（③の英文表題、④の英文 Abstract は不要）での執筆とする。

| | |
|---|---|
| ① | 論文表題（和文） 執筆者所属・氏名（和文） |
| ② | 要 旨（400字以内）（和文） キーワード（5コ以内） |
| ③ | 論文表題（英文）文頭のみ大文字の表記とする。 執筆者所属・氏名（英文） ※英文氏名は、名を先、姓を後（フルネーム）とする。 |
| ④ | Abstract（200語以内）（英文） Key words（5コ以内）（小文字）（英文） |
| ⑤ | 本 論 はじめに（見出し番号は付けない） …………… 大見出し番号ⅠⅡⅢ～を用いる。 …………… } 中 “ 1 2 3～ ” …………… } 小 “ (1)(2)(3)～ ” おわりに（必ずしも必要ない。見出し番号は付けない） |
| ⑥ | 文 献 |

- (2) 原稿は、A4判用紙に34字×25行で、上下左右に約3cmの余白をとり、12ポイント以上で印字すること。数字は半角文字を用いること。
英文原稿も用紙はA4判を用い、上下左右に約3cmの余白をとること。字の大きさは12ポイントを原則として、ふさわしいピッチで、行間はダブルスペースとすること。
また、本文についてはプリントアウトしたものと同一原稿のデータを提出すること。データの形式は、本文はWordとする。
原稿中所定の用紙のほか、タイプ用紙、方眼紙、図表は、すべてA4判を使用し、写真は、手札型のものをA4判用紙に添付する。
- (3) 英文抄録は、表題、著者名、所属及び本文で構成する。本文の行間はダブルスペースとする。
- (4) 表現法については、下記の点に留意する。
 - 1) 本文の中で文献を引用する際には、引用番号は本文の引用順とし、「三輪ら^{1,3)}」のように右肩に番号をふる。
 - 2) 略語はできるだけ使わない。止むを得ず使う時は、初出時に正式名を記した後（ ）内に記入する。
- (5) 図、表については、下記の点に留意する。
 - 1) 図は説明文を別紙に書くこととする。
 - 2) 図、表は説明も含め、英語とするのが望ましい。ただし、図、表が日本語の場合は説明も日本語とする。
 - 3) 挿入箇所を本文の欄外に指定する。
 - 4) 写真は白黒を原則とする。カラー写真は、編集委員

会の承認したものに限る。提出方法は、Excel、Word等のデータも提出すること。

- (5) 電子顕微鏡写真にはスケールを入れる。
 - (6) 専門用語以外は、当用漢字、新かなづかいを用い、横書とする。
 - (7) 文献の記載方法は次の書式による。（Index Medicus、医学中央雑誌に従う）
 - 1) 雑誌の場合
著者名：表題、雑誌名 巻：初頁－終頁、発行年
 - 2) 単行本の場合
著者名：書名、版数、発行社名、発行地名、発行年
 - 3) 分担執筆による単行本の中の分担部分の引用の場合
著者名：分担執筆部分の表題、書名、編集者名、版数、発行社名、発行地名、初頁－終頁、発行年
 - 4) 雑誌名は、その雑誌指定の略名がある場合はそれを用い、ない場合はIndex Medicusあるいは「日本医学図書館協会編、日本医学雑誌名表」にあるものを用いること。
 - 5) 発行年は西暦を用いること。
 - 6) ページは通巻ページを用いること。
 - 7) 著者名は、3名までは全員を記載する。4名以上の場合は最初の3名を記載し、「他」あるいは外国語文献の場合は「et al」を付する。
 - 8) 実例
 - 1) Beltramin AU, Hertzig ME: Sleep and bed-time behavior in preschool-aged children. Pediatrics 71: 153-158, 1983
 - 2) 鈴木義之：細胞生物学からみた遺伝性酵素欠損症の病態. 日児誌 88: 405-408, 1984
 - 3) Cohen MM: The child with multiple birth defects. Raven press, New York, 1982
 - 4) 松永 英：日本における遺伝性疾患の頻度. 遺伝相談, 日暮 眞 編, 小児科Mook32, 金原出版, 東京, 1-11, 1984
 - 5) Dorken B, Moller P, Pezzuto A, et al: CDw75. Lymphocyte typing IV: white cell differentiation antigens. In: Knapp W, Dorken B, Gilks WR, et al, eds, Oxford University Press, New York, 109-110, 1989
 - (8) 執筆者は、原稿を各施設の庶務（総務）係へ提出すること。
- B. 医学振興事業等研究費補助による業績報告
 - (1) 執筆要領は、論文（6. A参照）の執筆要領に準ずる。
 - (2) 別冊は作成しない。
- C. 学会報告・論文発表（業績リスト）
 - (1) 以下の必要記入事項があれば提出様式は自由であるが、Word形式で提出すること。診療科ごとに提出する。
- ＜論文発表＞
- ①雑誌の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：表題、雑誌名、巻：初頁－終頁、発行年
 - ②単行本（分担執筆）の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：分担執筆部分の表題、書名、編集者名、版数、発行社名、発行地名、初頁－終頁、発行年
 - ③単行本（単独での執筆）の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：書名、版数、発行社名、発行地名、発行年
- ＜学会報告＞
- 発表者全員（筆頭演者から順番に記載）：表題、学会名、開催場所、発表年月日（※西暦で日にちまで記載）
- (2) 学会報告等で発表した学会での研究発表、症例報告、講演などは漏れなく投稿する。
- D. CPC報告
 - (1) 必ず所定の様式を使用する。
（所定の様式は各施設の総務係へ請求する）
 - (2) 図表を含めて2600字以内、原本とデータを提出する。
- E. その他
 - (1) 初校は、著者校正とする。
 - (2) 別冊は、20部まで無料とする。これを超える場合とカラー図版の実費は原則として著者が負担するものとする。
 - (3) 本誌に掲載された論文などの著作権は地方独立行政法人神戸市民病院機構に属する。

神戸市立病院紀要編集委員

中央市民病院 副 院 長 内 藤 泰 (委員長)

第 1 診 療 部 長 石 川 隆 之

第 2 診 療 部 長 川喜田 睦 司

循 環 器 内 科 部 長 古 川 裕

西 市 民 病 院 院 長 代 行 中 村 一 郎

副 院 長 富 岡 洋 海

西神戸医療センター 小 児 科 部 長 松 原 康 策

呼 吸 器 外 科 部 長 大 政 貢

神戸アイセンター病院 診 療 部 医 長 宮 本 紀 子

(令和元年 12 月現在)

神戸市立病院紀要 第58巻

令和2年3月26日発行

編 集 神戸市立病院紀要編集委員会

発 行 神戸市中央区港島南町2丁目2番地

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印 刷 地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印刷所 イワサキ出版印刷有限会社